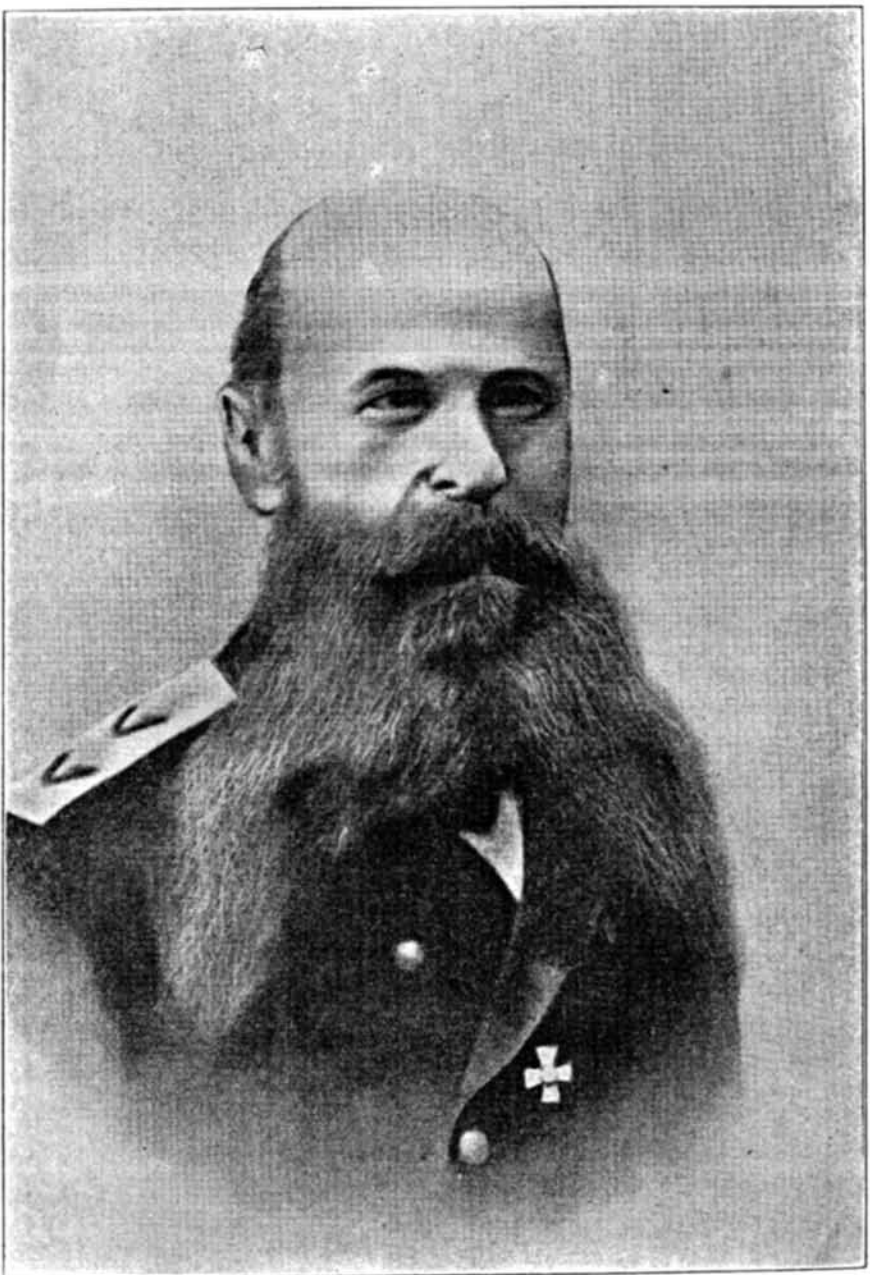


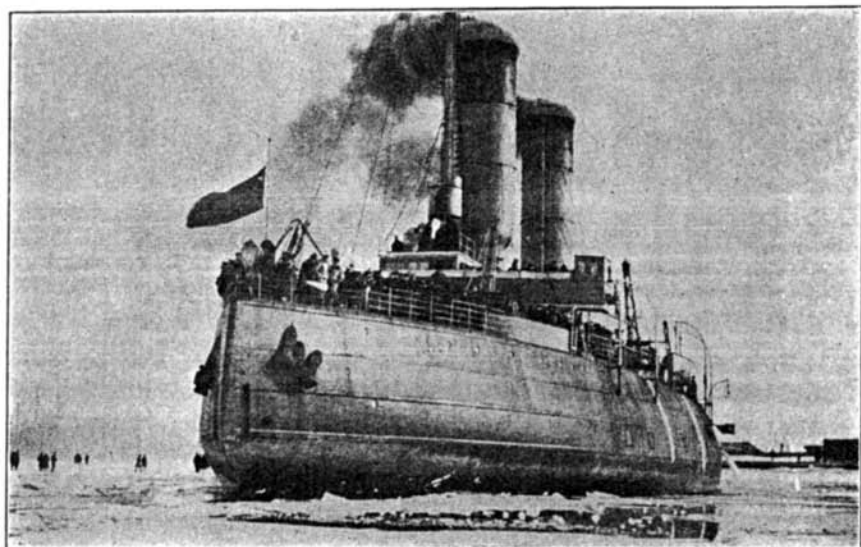
露國太平洋艦隊
司令長官マカロフ中將著

海軍戰術論

マカローフ中將略傳

マカローフは名をステパン、ヨシローフオウキチといふヘルツォンスカヤ縣の士族なり千八百四十八年十二月二十七日(我嘉永元年)か以てニコラーエフに生る長して黒龍江の海軍兵學校に入り卒業し千八百六十九年五月二十四日少尉に任せらる同年不列登艦ヲニチャーシ、バジャールスキイの主計を命せられ翌年ツンケース艦の主計に轉し千八百七十二年第八海軍團に編入せられ侍從將官海軍中將ポ、ーフの麾下に屬す千八百七十七年バツーム港に於て水雷を以て土耳其の軍艦を夜襲して功あり御名を著したる感狀を賜はる同年五月二十八日夜スフーム港に於て又土耳其の戰艦を攻撃して功あり聖ウラデーミル四等勳章を賜はる、ガクラに於て土耳其戰艦の砲撃ありし時汽船コンスタンチン號指揮官として敵の戰艦を誘ひ困て以てスフーム隊がガクラ附近の峻嶺に據れる敵を掃蕩するを授けたる功に依り欽賞勇武と銘打つたる金拵のサーベルを賜はり同年八月十一日夜スフームに於て水雷カッターに坐乗し土耳其の戰艦を襲撃したる功に依り聖ゲオルギイ四等勳章を賜はる又ホスフォル海峽の入口及びケレンハに於て商船九隻を焚きて之を沈没せしめ高加索湖海地方に糧食を給したる功に依り大尉に任せられ後中佐に陞任して千八百七十八年侍從武官を拜命す同年ムラーモル海沿岸の諸港より軍隊を輸送せる功勞に依り聖スタニスラフ二等勳章を賜はる千八百七十九年ヤキームフスカヤ艦と結船し次いで第三及第四海軍團所屬水雷艇隊司令官に補せらる千八百八十一年アハール、テキン遠征に與りて功あり聖アンナ二等勳章を賜はる同年タマン艦長を拜命す千八百八十三年芬蘭沿海練習艦隊司令官附副官を拜命す同年公用を以てウォルガ黒海及裏海諸港へ出張を命せらる千八百八十四年練習艦隊司令官海軍中將チハチョーフ附副官を命せらる同年水雷術練習科、水雷隊及水雷科乘員條例改正會議々員を命せらる、千八百八十五年不列登艦クニチャーシ、バジャールスキイ艦長に補せらる、但し侍從武官たること故の如し、同年哥爾威艦クニチャーシ艦長に補せらる、千八百九十年少將に任し二等司令官に補せらる、千八百九十一年海軍砲術總監心得を命せられ、速射砲及デ、イ、メンデレフ教授の無烟火薬を採用する事に盡力せり、千八百九十四年第一分艦隊一等司令官心得を命せらる、日清戰爭の時氏は其艦隊を率ゐ東洋に來りてツイルトーフ中將の統率せる艦隊に合せしか後中將に昇進し波羅的常備艦隊司令官に補せらる千八百九十九年クロンシュタット軍港司令官に轉す本年二月露の旅順艦隊我海軍の爲に敗るゝや露國皇帝強て兵を起して太平洋艦隊司令官に任す氏族頗に來りて敗殘の艦隊を督勵し奮勵刻苦大に防備に勵めたるも四月十三日其坐乗艦ベトローパロフスク我沈没水雷に掛りて爆裂し遂に溺死す享年實に五十五





碎氷船エルマツク

マカロフ中將は戰術家として世界の海軍に重きをなすのみならず技術家としても幾多の發明ありて世を益したるは人の知る處なり上に掲ぐる碎氷船エルマツクの如きは彼の發明中最も著名なるものなり本船は實に中將が刻苦慘憺の餘に成りたるものにて其製造地は英國なりとす中將は自ら此船に乗りて北氷洋に航し從來結氷の爲外界より遮斷せられつゝありたる港灣に交通の途を開き多大の利益を斯道の人士に與へたり爾來浦沙斯德に貝加爾に露國特有の碎氷船を泛ぶるに至りたるは皆エルマツクに摸して造られたるなり

正誤

二百六十二頁三行目「戰艦隊」ハ「戰艦隊」ノ誤
三百四十五頁一行目「速足」ハ「迅速」ノ誤

海軍要務

頁	行	誤	正	頁	行	誤	正	頁	行	誤	正
目次 五	一	解剖	拔萃	一七七	五	七十五	七十五	二六七	六	被リタリ	被リタル
七	二	最頂	最頂	一七八	八	單獨	單獨	二六七	四	索實	素實
一〇	三	將獨	將獨	一八三	八	第八回	第八圖	二八五	三	狹延	張延
一四	三	條例	情況	一九〇	一	モノ	後續艦	二八九	八	漁留	汽罐
一八	三	幕僚機關士	機關少監	一九一	一	持賞	特賞	二九五	九	浸入	侵入
一九	一	唯人	普通人	一九三	一	右舷	左舷	二九五	四	端艇ノ	端艇ヲ
九三	一	勤突	勤哭	一九七	一	ハ右舷	ハ左舷	二九八	一	斯ク	各
一〇七	九	患者	患者	一九七	一	ハ右舷	ハ左舷	三〇一	一	所以	所謂
一〇七	一	寡愁	寡愁	二〇〇	一	網	網	三〇二	七	正式	制式
一〇七	一	仁爲	仁爲	二〇〇	一	網	網	三〇二	八	幕僚機關士	幕僚機關士
一三三	八	所以	所謂	二〇一	六	艦力	艦力	三〇四	九	アフォメーション	アフォメーション
一三三	一	所以	所謂	二〇三	五	全網	金網	三〇四	八	アフォメーション	アフォメーション
一三三	三	所以	所謂	二〇九	二	行ク名ハ誰	行ク者ハ誰	三〇四	七	望ム	望ム
一三四	三	浴	浴	二一一	二	防カ	妨ケ	三〇六	一	上甲板	上甲板
一四二	四	所以	所謂	二二二	七	先列	戰列	三一一	一	戰闘力	戰闘力
一四二	五	二鎖鎖	二鎖鎖	二二五	一	先列	戰列	三二四	六	戰時	平時
一四九	九	無姻	無姻	二四六	六	裝素	裝素	三二九	三	新設	新設
一五〇	七	此間	此間	二四六	一	兩航	兩艦	三三二	二	新設	新設
一六六	三	影測	影測	二五四	一	精寄	精寄	三三八	二	新設	新設
一六八	二	射擊	射擊	二五八	八	アルシヤル	アルシヤル	三三八	九	決ス	決ス
一七一	九	排	挑	二六〇	二	薄志	薄志	三三八	九	決ス	決ス

七十三頁二行「敵艦」ノ艦首ヲ通過セントスルハ行
 九十三頁三行「吾人海軍教育學ノ任務」ノ下「海軍教育學ノ任務」ハ行
 百四十九頁六行「裝填」ノ下「ノ」ハ行
 百五十一頁第一表中砲睛ノ長ノ下「Calibre」ハ「Calibre」初速ヲ以テ
 ノ下「Calibre」ハ「Calibre」ノ誤
 百五十二頁第一表中仰角度ノ下「三六、九」ノ右肩ニ「ケ」アルヲ脱ス
 百五十二頁第二表中「五」ノ右肩ニ「ケ」アルヲ「一〇乃至「六〇」ノ
 右肩ニ各「ケ」テ「初速」ノ下「二〇〇」ノ右側ニ「フ」アルヲ脱シ
 「三〇」「三五」「四〇」ノ左肩ニアル「フ」ヲ「ケ」テハ行
 百五十五頁砲彈ノ口径及重量ノ表中「十二吋」ノ上ニ「口径」ハ「一〇

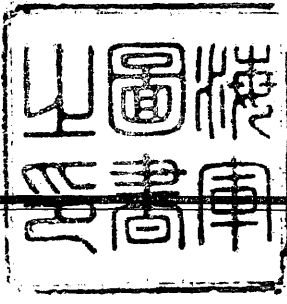
听ノ上ニ「重量」并次行「二七、六」ノ上ニ「穿貫シ得ヘキ」又其右側
 ニ「吋」ヲ脱ス
 百六十七頁八行「我艦ヨリ」ノ下「ハ寧ロ」ヲ脱ス
 百六十九頁二行「又」打方ノ短所ハ左ノ如シハ次行別項ニ舉ルノ誤
 百七十三頁一行「通常」ノ下「ノ」ハ行
 百七十四頁四行「外國」ノ下「人」ハ行
 百七十八頁八行「海里」ノ下「ニ」ヲ脱ス
 百八十八頁末行「汽機」タルカキモ「ノ」ノ下「ハ」ヲ脱ス
 二百二十頁九行「汽機」及「ノ」ノ下「汽機」ハ行
 二百八十四頁十四行「右方」ノ下「十」ハ行
 第八圖「同上」ハ「艦ノ位置」ノ誤

海軍戰術論

目次

- 第一 運用術ノ學理
- 第二 ホストノ海軍戰術
- 第三 高等海軍教育ノ必要ヲ認ム
- 第四 米國人ト科學的研究ノ關係如何
- 第五 ニコライ府ニ海軍大學校ヲ設ク
- 第六 海軍ノ發達ニ對スル見解ノ確定セサルコト
- 第七 装甲式ニ對スル見解ノ確定セサルコト
- 第八 艦式ニ對スル見解ノ確定セサルコト
- 第九 經驗ノ必要
- 第十 制海權ナル語ノ解釋ニ於ケル或ル意義ノ矛盾

一頁
二
三
五
五
七
七
八
九
十



海軍和漢一八〇八號ノ
(1)

第一章 爾他ノ海軍學科ニ對スル海軍戰術ノ位置

- 第十一 戰術ハ科學ナルヤ將タ技術ナリヤ 十一
- 第十二 海軍及陸軍兵學ノ對照 十三
- 第十三 海軍戰術ハ如何ナルモノナル歟 十八
- 第十四 爾他ノ海軍科學ニ對スル海軍戰術ノ位置 二十
- 第十五 戰術ノ限界 二十二
- 第十六 本著者ノ前著（艦ノ戰鬪力諸要素ト題スルモノ）ト此海軍戰術論トノ關係 二十四
- 第十七 各種ノ境遇ニ於ケル戰術上ノ關係 二十四
- 第十八 リヤー將軍ノ意見 二十五
- 第十九 ドラゴミーロフ將軍ノ意見 二十六
- 第二十 奈波翁ノ意見 二十九
- 第二十一 海軍戰術ノ解釋ニ關スル結論 二十九
- 第二章 精神的要素ノ戰鬪上ニ及ボス影響 三十
- 第二十二 精神的要素研究ノ必要 三十

- 第二十三 リヤー將軍ノ意見 三十二
- 第二十四 ドラゴミーロフ將軍ノ意見 三十三
- 第二十五 艦隊司令長官ノ責任ヲ嚴明ニスルコト 三十四
- 第二十六 艦隊司令長官ニ對スル信用ノ例證 三十五
- 第二十七 歷史上適例ノ撰擇 三十七
- 第二十八 露國史乘ノ實例 三十七
- 第二十九 スウオーロフ及其見解 三十八
- 第三十 スウオーロフ將軍ノ戰術ニ對スルドラゴミーロフ將軍ノ批評 三十九
- 第三十一 スウオーロフノ戰勝學ニ對スルデュボカージュノ意見 四十二
- 第三十二 奧國軍隊ニ下セルスウオーロフ命令中ノ一節 四十六
- 第三十三 戰勝術中ノ數節 四十八
- 第三十四 子ルソン 五十二
- 第三十五 真正ノ耐忍力ノ減シ難キコトハ子ルソンニ依テ識ルヲ得 五十三
- 第三十六 儉約ニ關スル子ルソンノ意見 五十八
- 第三十七 艦隊司令長官ノ權限ニ對スル子ルソン及ジュリエン、ド、ラ、

第三十八	命令執行者ニ關スルナポレオン及テルソンノ意見	五十九
第三十九	規律ニ關スルデエルウキス及テルソンノ意見	六十
第四十	乗組員ノ健康ニ關スルテルソンノ意見	六十一
第四十一	海軍士官ノ養成及教育ニ關スルネルソン及ジュリエン、 ドラ、グラウキエールノ意見	六十二
第四十二	海員トシテノテルソン	六十三
第四十三	テルソンハ如何ニ戰勝ヲ解釋シタル歟	六十四
第四十四	テルソンノ戰勝ノ原因	六十六
第四十五	テルソンカ海軍戰術ヲ蔑視シタリトハ果シテ眞ナル歟	七十
第四十六	トラフアルガルノ海戰ニ先ツテルソンノ訓令ノ解剖	七十一
第四十七	トラフアルガルノ海戰	七十四
第四十八	トラフアルガル海戰ニ先チウキルチーフニ授ケラレタル ナポレオンノ訓令	七十九
第四十九	トラフアルガル海戰ニ先チウキルネーフノ發シタル訓令	

ノ解剖

第五十	ナポレオン	八十一
第五十一	ナポレオンノ行動ハ勸誘ノ途ニ依ル	八十五
第五十二	ナポレオン能ク人ノ無禮ヲ忍耐ス	八十七
第五十三	ナポレオンノ群衆ヲ發感セシムルノ方法	八十八
第五十四	ナポレオンノ戰鬪開始ノ順序	八十九
第二章 海軍教育ニ就テ		
第五十五	精神的原素ノ戰争ノ成功ニ及ホス影響ニ關スル ベルシエルマンノ著述	九十二
第五十六	海軍教育學ノ任務	九十三
第五十七	司令長官ニ關スルナポレオンノ說	九十四
第五十八	著名ナル司令長官ニ關スル歴史上ノ調査	九十四
第五十九	司令長官ノ具有スベキ性質	九十八
第六十	艦隊司令長官タルモノニ希望スベキ特質	百一
第六十一	海員タルノ眼及判斷力	百二

第六十二	艦隊司令長官タルモノニ希望スベキ特質ニ關スル斷案	百三
第六十三	兵卒ノ具有スベキ特質	百三
第六十四	水兵ノ具有スベキ特質	百四
第六十五	軍人タル者ノ具有スベキ特質	百五
第六十六	家庭教育	百五
第六十七	全國民ニ於ケル軍人の剛毅ノ必要ニ關スル ジヨミニーノ意見	百六
第六十八	國民ノ軍人の元氣	百六
第六十九	國家的昔譚ノ影響	百八
第七十	學校教育若クハ實地教育	百八
第七十一	結論	百十一
第四章 自習及獨習		
第七十二	一般觀察	百十一
第七十三	名譽ノ死ヲ遂クルト云フ意志ヲ會得スルノ必要	百十一
第七十四	スコーベレフノ意見	百十五

第七十五	海軍々人ニハ特ニ名譽ノ死ヲ遂クルト云フ意思一層必要ナリ	百十八
第七十六	意力ノ養成ニ就キテ	百十九
第七十七	意力養成ニ關スル結論	百二十三
第七十八	讀本ノ撰擇	百二十四
第七十九	戰闘研究ノ方法ニ關スルクロートコフ將軍ノ意見	百二十六
第八十	實踐ニ依リ學ブベキ必要	百二十六
第五章 航海中乗組員ノ敎習		
第八十一	平時ニ於ケル航海ハ戰時ノ爲メノ學校ナリ	百二十九
第八十二	困難ヲ困難ト認メサルヲ要ス	百三十
第八十三	軍事敎練ニ關スル諸大家ノ意見	百三十一
第八十四	スウオーロフ學ハ如何ニ艦ニ應用スヘキカ	百三十三
第八十五	平時ノ情態ヲ以テ勤務上ノ最項タラシムヘカラス	百三十四
第八十六	艦運用ノ實地練習	百三十五
第八十七	雙螺旋艦ノ特質	百三十六
第八十八	航海中戰用的關係ニ於テ有益ナル練習ノ機會ヲ逸セサル	

ヲ要ス

- 第八十九 經濟的速力 百三十七
- 第九十 永ク海上ニ在ルノ必要 百三十九
- 第九十一 運用ニ關スル實地練習 百四十
- 第九十二 單獨艦ノ自由運轉 百四十一
- 第九十三 碇泊中ノ諸艦ニ對スル單獨艦ノ運轉 百四十一
- 第九十四 豫定ノ運動ニ從事スル補助艦ニ對スル單獨艦ノ運轉 百四十一
- 第九十五 二艦ノ自由運轉 百四十三
- 第九十六 二個艦隊ノ自由運轉 百四十三
- 第九十七 艦隊運用術ノ練習 百四十三
- 第九十八 艦ノ運轉ニ關スル結論 百四十四
- 第九十九 自艦ノ研究 百四十四
- 第一百 艦ノ特質研究ノ際其精密ノ程度 百四十六
- 第一百一 將校ハ自艦ノ航路ヲ紙上ニ描出スルヲ能クセサルヘカラス 百四十七

第六章 砲

- 第一百二 砲ノ發達 百四十八
- 第一百三 蒸氣力水壓力若クハ電氣力 百五十
- 第一百四 砲ノ効用限界 百五十
- 第一百五 遠距離中距離及近距離ノ區別 百五十一
- 第一百六 終速 百五十三
- 第一百七 甲鈹穿貫力 百五十四
- 第一百八 射擊命中ノ粗密 百五十六
- 第一百九 火力節制ニ就キテ 百五十七
- 第一百十 彈丸 百五十七
- 第一百一 戰鬥射擊ノ爲メ彈丸ノ撰擇 百五十九
- 第一百十二 小口徑砲 百六十
- 第一百十三 機關砲 百六十一
- 第一百十四 砲火ノ命中度ニ及ホス艦ノ靜鎮ノ影響 百六十二
- 第一百十五 舵手ニ艦ノ支持方ヲ授クヘキコト 百六十三
- 第一百十六 射擊ノ命中度ニ及ホス機關運轉ヨリ生スル艦ノ震動ノ影響 百六十四

第一百十七	日光ノ影響	百六十五
第一百十八	射撃ノ命中度ニ及ホス烟ノ影響	百六十六
第一百十九	一舷打方ヲ可トスルカ將獨タ立打方ヲ可トスルカ	百六十八
第一百二十	戰鬪距離ノ撰擇	百七十
第一百二十一	極端距離ニ於ケル射撃	百七十一
第一百二十二	射扇界ニ關スル針路ノ撰擇	百七十二
第一百二十三	裝用式ノ如何ニ依リテ針路ノ撰擇	百七十三
第一百二十四	波濤ノ如何ニ依リ航路ノ撰擇	百七十四
第一百二十五	優勢ノ敵ニ追撃セラル、トキ波濤上航路ノ撰擇	百七十五
第一百二十六	何レヲ射撃スヘキヤ	百七十六
第七章 水雷		
第一百二十七	水雷ニ關スル一般ノ觀察	百七十六
第一百二十八	旋回發射ヲ行ヒ能ハサルヨリ起ル不便	百七十八
第一百二十九	水雷ノ遠距離發射	百八十
第一百三十	水雷ノ効用限界	百八十二

第八章 衝角

第三百三十一	水雷射撃	百八十三
第三百三十二	有効的偏差角度ノ大サニ及ホス速力及方向ノ影響	百八十八
第三百三十三	水雷射撃ハ如何ナル角度ニ於テ有効ナルヤ	百八十九
第三百三十四	魚形水雷ハ回避シ得ヘキモノナルヤ	百九十
第三百三十五	淺所ニ於ケル水雷射撃	百九十一
第三百三十六	冷水中ニ於ケル水雷ノ行動	百九十二

第三百三十七	衝角ノミヲ以テスル戰鬪ノ條件	百九十三
第三百三十八	衝突用意	百九十四

第三百三十九	衝角打撃ヲ加ヘタル後如何ナル處置ヲ施スヘキ歟	百九十五
第三百四十	衝角打撃ヲ蒙リタル後如何ナル處置ヲ施スヘキ歟	百九十六
第三百四十一	兩艦首ノ迎合	百九十八
第三百四十二	衝角ノ改良ニ就キテ	二百一

第九章 戰鬪準備

第四百十三	戰爭ニ對スル艦ノ用意ニ就キテ	二百三
-------	----------------	-----

第四百四十四	火災消防資力	二百五
第四百四十五	戦闘ニ不必要ナル物件ヲ投棄スヘシ	二百五
第四百四十六	船ノ塗色	二百七
第四百四十七	隔壁ノ検査	二百八
第四百四十八	排水方法	二百九
第四百四十九	假掩護物ニ就キテ	二百十
第四百五十	衝角打撃ノ場合ニ備フル爲メ諸物件ノ緊固	二百十一
第四百五十一	機關室ノ扉	二百十一
第四百五十二	一般ノ準備	二百十二
第四百五十三	乗組員ノ勞力ヲ節スルコト	二百十二
第四百五十四	警報	二百十三
第四百五十五	戦闘ノ準備	二百十三
第四百五十六	戦闘開始前ニ汽艇及端艇ハ如何ニ處分スヘキ歟	二百十五
第十章 種々ノ行動		
第四百五十七	碇泊中艦隊ノ防禦	二百十六

第四百五十八	艦ノ探照燈ヲ以テ港内ヲ照スコト	二百十七
第四百五十九	港口ニ於テ防禦セラル、所ノ港内碇泊中ノ艦隊ハ燈ヲ 點スヘキ歟將タ點スヘカラサル歟	二百十八
第四百六十	諸艦碇泊所ノ撰定	二百十九
第四百六十一	防材ノ製造	二百十九
第四百六十二	戦時艦隊ニ近接スル艦艇ニ就キテ	二百二十
第四百六十三	問語應語及自由通行語	二百二十
第四百六十四	海上ニ於テ艦隊ノ護衛	二百二十二
第四百六十五	開放シタル碇泊所ニ於ケル艦隊ノ護衛	二百二十四
第四百六十六	艦ニハ防禦網ノ必要アリヤ	二百二十四
第四百六十七	襲撃隊	二百二十七
第四百六十八	蒸氣ハ用意シ置クヘキ歟	二百二十八
第四百六十九	偵察勤務	二百二十八
第四百七十	望樓	二百二十九
第四百七十一	艦及水雷艇ノ派遣ヲ以テスル偵察	二百二十九

第七十二	遠距離偵察	二百三十
第七十三	偵察艦ハ戦闘スヘキ歟	二百三十二
第七十四	偵察ニ關スルスウオーロフノ意見	二百三十四
第七十五	秘密ニ得ル報知	二百三十四
第七十六	敵ノ海底電線ノ破壊	二百三十五
第十一章 單艦戰法		
第七十七	術語	二百三十八
第七十八	何レノ點ニ於テモ我レハ有利ノ位置ニ立ツコトニ努メサルヘカラス	二百三十九
第七十九	戦闘ノ挑發	二百三十九
第八十	戦闘ヲ避クヘカラサル場合	二百四十
第八十一	艦ノ比較的勢力	二百四十
第八十二	戦闘ノ爲メ有利ナル若クハ不利ナル條例	二百四十三
第八十三	戦闘ノ種類ノ撰擇	二百四十四
第八十四	單獨戦闘ノ細別	二百四十四

第八十五	艦ノ近接	二百四十五
第八十七	戦闘中艦ハ運用シ得ヘキ歟	二百四十七
第八十八	二隻ノ同勢力戦闘艦ノ出會	二百四十九
第八十九	敵カ正艦首方位ヲ以テ我レニ向フノ場合	二百五十
九十	水雷艇若クハ爾他ノ小艦トノ出會	二百五十一
九十一	要職ニ在ル職員ニ訓令書ヲ交付スルノ必要	二百五十二
第十二章 艦隊戰鬥		
九十二	艦隊戰鬥ノ重要ナルコト	二百五十四
九十三	戰鬥方法ノ教訓ニ對スルナポレオン及ロイドノ意見	二百五十四
九十四	戰事諸問題ニ係ル決議ノ價值	二百五十六
九十五	海上ニ出航スルトキ若クハ戰鬥前ニ於テ旗將ハ各艦長ヲ召集スヘキコト	二百六十
九十六	勝利ヲ獲ンカ爲メ全力ノ集中	二百六十
九十七	艦隊ノ編制	二百六十二
九十八	陣形ノ撰擇	二百六十四

- 第一百九十九 單縱陣ニ於ケル艦隊司令長官ノ位置 二百六十七
- 第二百 緊急ナル信號ヲ爲ス爲メニハ信號機セマホルヲ用フヘシ 二百七十
- 第二百一 艦隊ノ戰鬪陣形 二百七十
- 第二百二 亂戰 二百七十一
- 第二百三 砲撃ノ目的物ノ撰定 二百七十二
- 第二百四 敵ノ挾撃ハ爲シ得ヘキ事ナルヤ 二百七十三
- 第二百五 艦ト艦トノ距離ニ就キテ 二百七十四
- 第二百六 單縱陣ハ嚴格ニ之ヲ守ルヘキ歟 二百七十四
- 第二百七 敵ノ單縱陣一端ノ攻撃 二百七十五
- 第二百八 敵ノ一翼ノ攻撃 二百七十八
- 第二百九 敵ノ艦隊一部ノ切斷 二百八十
- 第二百十 敵ノ環狀包圍 二百八十一
- 第二百十一 艦隊戰鬪ニ於ケル水雷艇ノ任務 二百八十二
- 第二百十二 豫備艦隊ヲ設クルノ必要アリヤ 二百八十五
- 第二百十三 艦隊戰鬪ニ關スル總結論 二百八十五

第二百十四 戰鬪ハ如何ニ終了スヘキヤ 二百八十五

第十三章 夜間ノ水雷攻撃

- 第二百十五 歴史的調査 二百八十六
- 第二百十六 水雷戰爭ハ露國人ノ氣風ニ協ヘリ 二百八十八
- 第二百十七 水雷艇ノ稱號 二百八十九
- 第二百十八 水雷艇ノ容積ノ増加 二百九十一
- 第二百十九 水雷艇ノ事前運動 二百九十二
- 第二百二十 艇隊ヲ作レル水雷艇若クハ一對ヲ作セルモノ 二百九十三
- 第二百二十一 夜間攻撃ノ際ノ隱密 二百九十四
- 第二百二十二 防材ノ破壊 二百九十五
- 第二百二十三 水雷攻撃ノ最後ノ瞬間 二百九十五
- 第二百二十四 夜間水雷攻撃ノ際ニ於ケル精神の原素 二百九十六

第十四章 各種海軍軍事學ニ對スル教導

- 第二百二十五 爾他海軍々事學ニ對スル海軍戰術ノ任務 三百
- 第二百二十六 運用術エボリシヨニ對スル教導 三百一

第二百二十七	陣形作爲	三百三
第二百二十八	水雷艇ノ運用	三百三
第二百二十九	速力及回轉質ノ二原素ニ關スル幕僚機關士 アフォナシエフノ新案	三百四
第二百三十	速力、實馬力、回轉數及費消石炭量ノ關係	三百六
第二百三十一	回旋圈ノ直徑	三百七
第二百三十二	回旋時間表	三百八
第二百三十三	速力ノ均整	三百九
第二百三十四	晝間及夜間ノ信號	三百十
第二百三十五	航海術ニ對スル教導	三百十
第二百三十六	霧中自艦ノ位置ノ識別	三百十一
第二百三十七	砲塞ノ圖取リ	三百十二
第二百三十八	造船術	三百十三
第二百三十九	艦ノ大サ及其製式	三百十三
第二百四十	鳴綠江海戰ノ解釋ハ正鵠ヲ失ス	三百十五

第二百四十一	技術的條件具備ノ必要	三百十六
第二百四十二	不沈沒質ニ就キテ	三百十七
第二百四十三	艦ノ製式一定	三百十七
第二百四十四	衝角ヲ堅牢ニスルコト	三百十八
第二百四十五	衝角打撃ノ震動ニ堪ユル爲メ汽罐及爾他物件ノ緊着	三百十九
第二百四十六	戰闘中艦ノ沈沒ノ際ニ於テ乗組員ノ救助方法ニ就キテ	三百二十
第二百四十七	機關學ニ對スル教導	三百二十一
第二百四十八	蒸氣ノ開發ヲ速ニスルコト	三百二十二
第二百四十九	海陸行政ノ任務	三百二十二
第二百五十	現在ノ參考書	三百二十三
第二百五十一	進級	三百二十三
第二百五十二	從前勤務ノ狀況	三百二十五
第二百五十三	現時勤務ノ狀況	三百二十七
第二百五十四	軍港	三百二十八
第二百五十五	軍艦	三百二十九

海軍戰術論目次終

海軍戰術論

露國海軍中將 マカロフ 著

緒論

第一 運用術ノ學理

今人アリ海軍々人ハ從來運用術ノ學理ヲ研究スルニ冷淡ナリシト云ハンモ吾人ハ之ヲ誣言ナリトシテ我カ同僚ノ爲メニ辯護スルコト能ハサルナリ勿論航海術、造船術其他專門ノ科學ニ於テハ各之カ研究ニ從事スルモノアリシト雖モ所謂運用術ノ專攻ニ至リテハ古來之ヲ學理以外ニ涉リ單ニ實踐ノ事業ト認定シ其細目ノ如キモ唯實踐ニ因ルノ外ナカリキ彼ノ帆ノ裝置ノ如キモ全然此方法ニ依リテ創始セラレ終始實驗ニ因リ恰モ暗中ニ物ヲ搜索スルカ如クニシテ開發セラレタルモノナリ此ノ如キ習慣ノ存在シタル爲ニ海上ノ生活愈々永キ者ハ其知得愈々博ク夫ノ僅ニ學校ヲ卒業シタルノミノ士官ハ海軍實地ノ知識ニ乏シキハ自然ノ趨勢ナルヲ以テ其乘艦ノ當初ニ於テハ瑣末ノ任務ヲ遂行シ得ルニ過キス而テ艦内ノ勤務永續スルニ從ヒ漸次自己ノ知識ヲ増進スルモノナリ故ニ大尉ハ少尉ヨリ博識ニ少佐ハ大尉ヨリ博學ナルカ如ク到底大將ニ優レル識者ナカリシナリ依テ憶フニ知識ヲ得ルニ

此ノ如ク實驗的順序ヲ要シタル一事ハ海軍部内ニ於テ規律ヲ維持スル最良ノ方便タリシコト復々疑ヲ容レサルナリ

曾テ上梓セル提要書極メテ稀少ナリシ時代ニ於テ老練ナル海軍將官ノ手ニ成レル種々ノ筆記ハ知識ヲ渴望スル少壯士官ノ手ヨリ手ニ移リ競テ謄寫セラレタルハ我海軍々人中ノ多クハ今尙之ヲ記憶スル所ナラン

グラスコック (Glasscock) 大佐ハ「海軍士官提要」ト題スル其著書中少尉候補生ニ諭スニ知識ヲ開發スルコト竝ニ准士官ニ接スルニ成ルヘク懇勸ナランコトヲ以テシ且云ラク果シテ如此ナランニハ其准士官ハ必ス云ハン此少年ハ職務ヲ修得スルニ熱心ナルヲ以テ我レ彼レヲ援助セサル可ラスト夫ヨリ少年カ了解シ能ハサルコトハ逐一教示スル所アルヘシト何事ニ限ラス實驗ニ依リ發達スル行爲ノ習慣ハ今尙海軍將校中ニ存在ス現ニ或將校カ或物ノ計畫ヲ命スルニ當リ豫メ其圖案ヲ作ルヲ肯セサルモノ尠ナカラス又海軍々人間ニハ頗ル老練ノ聞エアル人ニシテ尙運用術ノ問題ハ學理的研究ニ由ルヘキモノニアラス徹頭徹尾實地ノ經歷ヲ以テセル熟練ニ一任スヘキモノナリトノ見解ヲ有スル者鮮シトセス夫ノ運用術ハ學理ナク單ニ實踐ニ由リテ得ラルヘキ技術ナリト認定セル以上ハ我カ海軍將校カ海軍戰術ノ學理ヲ紙上ニ述ヘントスルノ傾向ヲ有セサル復何ソ怪ムニ足ランヤ

第二一 ホストノ海軍戰術

海軍戰術ノ著述ハ「ゼジュイト」教ノ僧官ホールホストヲ以テ嚆矢トスホストハツールヅ^井ル將軍ノ幕下ニ在テ始終海戰ニ隨行シタルモノニシテ一六九七年ニ於テ始メテ「艦隊操縱術」ト題スル著書ヲ出版セリ該書ニハ凡テ戰鬪隊形竝ニ戰術的運動法ヲ詳述シ其卷尾ニ記シテ曰ク夫レ艦隊ノ艤裝、糧食、軍需等ニ至リテハ予ハ一言ノ之ニ論及スルモノナシ蓋シ各特設ノ官職アリテ遺算ナカルヘキヲ以テナリ云々是等ノ數言ヲ咀嚼スレハホストタルモノ一個ノ學者トシテ凡ソ海軍ニ關スルコトハ細大漏スコトナク其著書中ニ網羅スルヲ以テ有益ト認メタルモ之カ爲メニ或有司ノ氣色ヲ害センコトヲ恐レ之カ決行ヲ躊躇シタルモノ、如シ此著書ハ各國語ニ翻譯セラレタリ斯術ノ古典トシテ閱讀スルノ價值アルモノナリ露語ニ譯シタルモノハ久シク絶版ト爲リ今ヤ僅カニ藏書家ノ貴重書トシテ藏スル所其再版ハ吾人ノ切望スル所ナリ英語ノ翻譯書ハ此頃第五版ヲ發行セリ因ニ曰ク我露國ニ於テ同書ノ翻譯ハ稀有ノ運命ヲ有セリ第一回ノ翻譯ハ伯德大帝ノ在位中ニ成リタルモ帝ハ譯文ヲ以テ正確ナラスト曰ヘリ夫レヨリ一七三七年ニハモルドブ^井ノフ一七四七年ニハウオルチコフ^井交々此翻譯ニ從事シタルモ世ニ行ハレタルハ一七六四年ゴリニ^井シユ、クツソフノ翻譯書ナリトス翻譯ノ進行斯ノ如ク遅緩ナリシ一事ニ就キテ之ヲ見ルモ當時如何ニ學理ニ重キヲ置カサリシヤ多言ヲ待タスシテ瞭然タルヘシ

第二二 高等海軍教育ノ必要ヲ認ム

ホール、ホスト時代ノ海軍々人カ海軍ノ學理ニ對シテ抱懷セル感情ハ連綿トシテ最近ノ時代マテ存在

セリ彼ノ科學ノ考究ニ重キヲ置ク者ハ却テ非海軍的士官ヲ以テ之ヲ日スルニ至レリロモノソフハ一七五九年中「航路ノ正確」ト題セル論文中海軍大學ノ設立ヲ勸告シタルカ爾來六十八年ノ星霜ヲ經テ始メテ其創設ヲ見タリ陸軍ニ在テハ久シキ以前ヨリ既ニ高等軍事教育ノ必要ヲ認識シ何レノ國ト雖モ陸軍大學ヲ設置シ一部ノ將校ヲシテ戰史若クハ高等兵學ヲ修メシメサルモノナキモ特リ海軍ニ至テハ今ニ至ル迄尙此種ノ大學ヲ缺クニ至レリ

我海軍大學ハ從來學識アル天文家、造船家及機械家ヲ出シタルモ近時ニ至ル迄未タ曾テ海軍戰史若クハ其他海軍専門ノ學科ヲ授クルコトナカリキ此軍事教育ニ於テ先鞭ヲ付ケタルハ北米合衆國ニシテ同國ニ於テハ既ニ一八八四年中高等海軍學校ヲ開設スルノ議起リ海軍少將リユース實ニ該論ノ主唱者タリキ同少將カ海軍々人ノ爲メ軍事教育ノ必要ヲ説クニ方リ其例證トシテ舉クルニ曾テ英國ノ艦隊ヲ指揮シタル英國陸軍將官モンテীগ及ブレーキノ例ヲ以テシ且ツ謂ヘラク軍事教育ヲ有スルモノハ海軍軍人ニ非サルモ之ヲ軍事教育ノ素養ナキ海軍々人ニ比スレハ艦隊ノ戰時行動ノ指揮ニ於テ遙ニ優ル所アリト尙ホ之ニ附言シテ曰ク若シ夫レ年來教練セル海軍實際ノ技術ニ加フルニ高等ノ科學及兵學ノ素養ヲ以テセハ異日海軍ノ偉功ヲ奏スルニ於テ效アル火ヲ觀ルヨリ明カナルヘシ既ニシテリユース少將ノ建言ハ當局者ノ採用スル所トナリ海軍戰術學校ハニユーボートニ設置セラレタリ而シテ其科業ノ如何ハ陸軍少將ミヨルトウ^カーゴ著述ニ就キテ之ヲ見ルヘシ(一八九五年露國海軍雜誌第七號參看)

第四 米國人ト科學的研究ノ關係如何

凡ソ不可思議ナル者ハ米國人ナリ凡ソ世界ノ國民中北米合衆國民ヨリ實際的ナルハナシ而シテ斯ノ如キ實際家ノ國ニ於テ學理及科學ニ對シテハ概シテ嫌惡ノ感情起ルハ自然ノ勢ナルヘキニ而モ米國人カ却テ科學ヲ以テ自己ノ生命ト爲スコソ奇觀ナレ同國政府ハ個人的技藝ノ發達獎勵ニハ極メテ吝嗇ニシテ何事モ各自ノ爲ス所ニ放任スルノ傾アルニ拘ラス苟モ事ノ或ハ殖産工業ニ關スルトキハ之カ學術的研究ノ爲メニハ如何ナル出費モ敢テ辭セサルナリ見ヨ同國ハ如何ナル未開墾地ニ屬スル部分ト雖モ測量ノ至ラサル處ナク爲メニ土地境界ノ不明不確ヨリ生スル不便ハ其跡ヲ絶テリ氣象學及天氣豫報ノ爲メニ政府ノ費ス所ノ金額ハ實ニ莫大ナリ水産研究會ニ對スル政府ノ負擔又容易ナラスト雖モ而モ幾多ノ場所ニ於テ有益ナル水産ノ繁殖ヲ見ルハ同會ノ賜ニ外ナラサルナリミシシッビー河ノ研究ハ既ニ數十年間繼續スルハ事實ニシテ此研究ノ結果トシテ實地有益ナル材料ヲ收得シタルノミナラス科學モ亦之カ爲メニ頗ル貴重ナル收穫ヲ得タリ北米合衆國ノ爲ス所ハ各國カ宜シク倣フヘキノ好例ナリト謂ハサルヘカラス

蓋シ米國人ハ殖産興業ニ對シテ爲ス如ク海軍ニ於テモ亦同一ノ方針ヲ採ルモノト云フヘシ即チ彼等ハ戰術學校設置ノ爲メニハ其資金ヲ投スルニ躊躇セサリシナリ

第五 ニュライ府ニ海軍大學校ヲ設ク

我露國海軍部内ニ於テモ亦久シク海軍高等教育ノ必要ヲ説クヲ聞キシカ前海軍大臣侍中海軍大將エヌ、エム、チハチヨーフノ時一八九五年中「ニコライ」海軍大學ニ於テ佐官及先任大尉ノ爲メニ海軍兵學ノ課業ヲ開キ海軍戰史、海軍戰畧及海軍戰術ヲ講演スルコトニ定メタリ而シテ教官ノ選擇モ亦克ク其人ヲ得タリ即チ文學上ノ著述及兵學教官トシテ有名ナル參謀本部陸軍大佐オルローフ氏戰畧ノ教官トシテ之ニ當リ老練ナル海軍大尉クラドー氏ハ戰術ヲ講演セリ大尉ハ豫テ博ク戰術ニ關スル文學ヲ涉獵シ貴重ナル戰術書類ヲ海軍大學ニ蒐集シタル人ナリ大尉ノ講演中未タ確定セサル問題ニ接スルトキハ必ス先ツ各専門家ノ説ヲ講述シ而シテ自己ノ結論及總論ハ劃然之ヲ他人ノ特説ト區別セリ蓋シ此ノ如キ講義ノ方法ハ其當ヲ得タルモノト認定スヘキモノナリ

前述兩教官ノ負擔ハ甚タ容易ナラス何トナレハ戰畧戰術ノ問題ハ今尙確固不動ノ程度ニ達セサレハナリ吾人ハ切ニ兩教官ニ待望ス堅固ナル基礎上ニ該學科ヲ樹立センコトヲ吾人ハ又前記科目ノ外ニ「艦船戰闘力ノ研究」(Investigation of the fighting qualities of the ships)ナル一科ヲ設置スルノ有益ナルヲ認ムルモノナリ而シテ此科目ヲ設置スルモ勿論之ニ數理的立證ヲ須フルヲ要セス單ニ定式ヲ舉示スルヲ以テ充分ナリトス蓋シ艦船ノ性質ニシテ一タヒ適當ニ一定ノ學理的方法ニ依リテ研究セラル、ニ於テハ其操縦上ニ及ホス裨益ハ決シテ鮮少ナラサルヘシ

今ヤ講義ノ初期ニ當リ海軍戰畧及海軍戰術トハ抑モ如何ナルモノナルヤノ問題ヲ正確ニ決定スルハ緊

要ノコトタルヘシ而シテ本篇論スルノ所海軍戰術ニシテ多少裨益スル所アランカ吾人ノ歡喜何モノカ之ニ過キン吾人終局ノ目的ハ素ト戰術ニ就キテ論スルニアリ而シテ此問題ヲ正當ニ論セントスルニハ先艦船ノ運用ハ勿論造船術、統轄法及砲術、水雷術等ニ就キ論及スル所ナカル可ラサルハ吾人ノ確信スル所ナリ

第六 海軍ノ發達ニ對スル見解ノ確定セサル事

往事ヲ回顧スルニ砲術、機關術及水雷術ハ獨立ノ學科トシテ孰モ正路ニ依リテ進行シ殆ト正當ノ發達ヲ致セルモ獨リ海軍上ノ進歩ニ密接ノ干繋ヲ有スル造船術ニ至リテハ其發展ノ度不確定ナルヲ認ム

第七 裝甲式ニ對スル見解ノ確定セサル事

甲板ノ厚サ及其配置法ニ關シテハ異論百出最モ錯雜ヲ極ム始メハ兩端ヲ除クノ外ハ艦ノ全體ニ裝甲ヲ施セシカ(「ワーツォル」一八六一年竣工第一圖參看)夫ヨリ艦首艦尾ニモ亦裝甲ヲ施スニ至レリ(「ミノートル」一八六七年竣工)續テ艦首艦尾ニ於テ甲帶ノ幅ヲ減少シ中央部ニ於テ舷端ニ達セシメ以テ砲臺ノ掩蔽ヲ圖レリ(「ハーキユールス」一八六八年竣工)爾來艦首艦尾ニ於ケル甲帶ノ幅ヲ漸次ニ遞減シタル一戰艦ヲ建造セリ(「アレクサンドラ」一八七七年竣工)夫ヨリ甲板ノ厚サヲ増大セント欲シテ艦首艦尾ハ全然裝甲ヲ廢シ是等ノ箇所ハ喫水線下ニ防護甲板ヲ設ケタリ(「チルソン」一八八〇年竣工)然ルニ中央裝甲板ヲ尙ホ一層減縮スルノ必要起リ遂ニ(「インフレクシブル」一八八一年竣工)式

ヲ現出スルニ至リ其甲鉄ノ厚ハ増シテ之ヲ二十四吋トナスニ至レリ
艦ノ兩端ニ數個ノ彈孔ヲ生スルトキハ艦ノ或ハ沈没ヲ免レサルヘシトノ危懼心起ルニ當リ爾來建造ニ
係ル艦ニハ其中央部ヲ裝甲ヲ復再ヒ延長スルコト、爲シ（「ユーリングウッド」一八八六年竣工）甲鉄
ノ厚サヲ減シテ十八吋ト爲セリ又中口徑ノ砲ハ始メハ甲鉄ノ後方ニ配置セシニ後甲鉄ノ掩護ヲ廢シ夫
ヨリ復更ニ之カ爲メ特ニ薄キ甲鉄ヲ以テ作りタル陰砲甲壁ケースメット内ニ安置スルコト、ナリシカ終ニ現今ノ
（「マジエスチック」一八九五年竣工）式ノ諸艦ニ於テハ主ナル甲鉄ノ厚サヲ九吋迄ニ減セリ而シテ
「ハルヴェイ」式甲鉄ハ今ヤ或ル種ノ彈丸ヲ以テスルトキハ之ヲ穿貫スルノ容易ナルコト宛モ從前ノ軟
質甲鉄ニ於ケルニ異ナラス是ヲ以テ短距離ノ戰鬪ニ在リテハ斯ノ如キ薄弱ナル甲鉄ヲ以テ裝ヘル巨艦
ハ六吋砲ト雖モ尙且ツ其要部ヲ穿貫スルハ敢テ期シ難キニアラサルヘシ
斯テ裝甲式ノ變更ヲ見ル毎ニ前式ノ錯誤ナリシコトヲ立證スルニ足レリ而シテ現時ノ裝甲式ノ錯誤ハ
何レノ點ニアルヤ之ヲ知ラントセハ吾人ハ更ニ其新變更ノ來ルヲ待サルヘカラス

第八 艦式ニ對スル見解ノ確定セサル事

新艦ヲ建造スル毎ニ前艦ヨリハ一層完全ナラシメンコトヲ努メタルヨリ製式ノ種々ナル枚擧ニ違アラ
ス是レ畢竟海軍々人カ自己ノ艦ノ爲メニ如何ナル特質ヲ待望スルヤヲ確定セサルニ坐スルコトナキ歟
勿論何人ト雖モ海軍々人ヲ責ムルニ其考究ニ倦怠ナキカヲ以テスルモノナカルヘシ然リト雖モ彼等ノ

考究タルヤ其細目ニ偏執シ爲メニ艦ノ本來ノ目的即チ海戰○○○○ノ爲メニハ如何ノ艦カ必要ナルヤト云フ問
題ヲ逸シタリト謂ハサルヘカラス

巡洋艦ニ關スル意見竝ニ其ノ製式ニ關スル見解ノ如キモ極メテ區々ナリ或論者ハ曰ク巡洋艦ナルモノ
ハ敵國商船ノ捕拿ヲ以テ其任務トナスト果シテ然ラハ何故ニ強勢ナル兵器ヲ搭載スルノ要アルヤ之レ
殆ト解スヘカラサルナリ又他ノ論者ノ所說ニ據レハ首將ハ戰鬪中總テノ軍艦ヲシテ敵軍ト闘ハシムル
モノナレハ巡洋艦ヲシテ獨リ偵察通報ノ任務ノミニ當ラシムルコト能サルナリト

前ノ英國造船總監リード氏ハ海軍々人間ニ見解ノ不確定ナル一例ヲ示セリ或ル時議會ニ於テ述ヘテ曰
ク余ハ數名ノ海軍將校ノ要求ニ依リ司令塔ノ直徑ヲ増加シタルニ他ノ數名ノ艦長ハ之 以テ余ヲ詰責
シ從前ノ製式ヨリ退步セリトナセリト而テ當時海軍將校ニ取リテ此不名譽ナルリード氏ノ言ニ對シ何
人モ之ヲ反駁スル者ナカリキ

第九 經驗ノ必要

前述ノ不確定ハ本問題ノ根本的研究及實驗ニ依テ始メテ之ヲ排除スルヲ得ヘシツバ少將ハ其水
雷艇戰術（一八八五年海軍雜誌第五號二十三頁參看）中謂テ曰ク予ハ茲ニ平和ノ日ニ於テ該問題ノ研
究ヲ贊助スルコトヲ公言ス但シ予カ期望スル所ノ該研究ハ現今ノ方法ニ依ラスシテ別ニ予カ信スル所
ノ方法ニ依ラシコトヲ欲スル者ナリ予カ意思ヲ詳述セハ此種ノ研究ハ二様ナラサルヘカラス一ハ學理的

研究即チ嚴正ナル科學的研究ニシテ一ハ經驗的研究即チ純然タル實踐的研究是レナリ而テ兩者共互ニ密接ノ關係ヲ有セサルヘカラサルハ勿論尙ホ試驗ヲ行フ爲メニハ如何ナル失費ヲモ辭セサルノ覺悟ナカルヘカラス又試驗ハ成ルヘク實戰ニ類似セル狀況ニ於テ行ハンコトヲ要ス云々

大問題ノ解決ノ爲メニハ宏大ナル試驗ヲ必要トスル此尊敬スヘキ將官ノ意見ニハ吾人滿腔ノ同情ヲ表セサル可ラス陸軍將校ハ會テ這般ノ劇變ヲ歷タルコトナケン如何トナレハ彼等ノ樞要ナル武器即チ小銃ハ其命中、彈著、距離及發射速度ノ諸點ニ於テ漸次ニ改良ヲ加ヘタレハ新式ノ銃ハ總テノ點ニ於テ必ス前式ニ卓越スレハナリ

兵器ノ發達ハ漸進ノ歩武ヲ以テ進行シタルニ拘ラス陸軍戰術ハ大ニ變更セサルヲ得サリキ陸軍戰術既ニ然リ況ンヤ我カ海軍戰術ノ變更ハ夫レ那邊ニ達スヘキカ吾人ハ茲ニ先ツ戰術ナルモノ、總論ヲ確定シ然ル後之ニ據リテ以テ専門ニ涉ル學科即チ艦ノ製式ニ關スル問題ノ解釋ニ著手スルハ當然ノ順序ナルヲ知ル

第十 制海權ナル語ノ解釋ニ於ケル或ル意義ノ矛盾

戰畧ノ二大家マハン及コロムノ所說ニ據レハ戰時艦隊ノ目的ハ制海權ヲ獲ルニ在リ從來此說ヲ解釋スル者以爲ラク制海權ヲ獲タル艦隊トハ擊破セラレタル對手カ敢テ自己ノ港灣外ニ出航シ能ハサルノ時ニ於テ縱橫自在ニ公然ト其海面ヲ馳行スルノ謂ナリト然リト雖モ現今果シテ斯ノ如クナルヲ得ルヤ否

ヤ此戰勝ノ艦隊ト雖モ必ス夜間ハ敵ノ水雷艇ノ襲撃ヲ避クヘク隨テ自己ノ燈火ヲ陰蔽シツ、大速力ヲ以テ馳行スル等ノ警戒ヲ加ヘサルヲ得ス若シ此戰勝艦隊タルモノ万一夜間此注意ヲ怠ルトキハ艦隊ハ初回ノ夜襲ニ一艦ヲ失ヒ第二回ニ其二艦ヲ亡フコトナキヲ期スヘカラス蓋シ海軍々人ニ在テハ如斯異常ナル戰況ニ馴致スルヲ以テ敢テ怪マサルヘキモ若シ外部ノ人ヲシテ之ヲ聞カシメハ必ス驚愕セン或ハ此怖ルヘキ戰勝艦隊カ如何ナレハ此敗餘ノ小敵ノ爲メニ警戒セサルヲ得ストハ果シテ眞實ナルヤ否ヤヲ反問シ怪訝ニ堪エサルモノアルヘシ

矛盾ノ點ハ此他ニモ多々アリト雖モ後ニ至リ之ニ論及スルコト、爲シ茲ニハ根本的矛盾ヲ指摘スルコトニ止メン吾人ハ切ニ希望ス正確ニ樹立セラレタル海軍戰術ナル學科ハ海軍ヲシテ健全ナル發達ノ門ニ入ラシメンコトヲ

第一章

爾他ノ海軍學科ニ對スル海軍戰術ノ位置

第十一 戰術ハ科學ナリヤ將タ技術ナリヤ

兵學ノ二大家ジヨミニー及クラウゼウ非ツハ本科目ニ對シ殆ント同一ノ定義ヲ與ヘタリ即チジヨミニー曰ク戰術ハ戰鬥術ナリト

クラウゼウツ曰ク戰術ハ戰鬪ニ就キテノ科學ナリト此定義ハ兩カラ正確ナリ或ハ兩者ヲ併用セハ一層完全ナル定義ナラン抑モ科學ト技術トノ間ニハ歴然タル差異ノ存スルアリト雖モ而モ兩者間ニ密接ノ關係ノ存スルアルハ復タ疑ヲ容レサルナリ例ヘハ數學ハ計算ニ就キテ論スル科學ニシテ何人ト雖モ之ヲ技術ト看做ス者之ナカラン而モ尙ホ加算或ハ其他ノ方法ノ技術ヲ述ヘ星學ハ天體ニ就キテノ科學ニシテ是亦技術ト看做ス者ナク而モ之ニ依リテ天體並ニ地球上ノ經緯度ヲ測ルノ術ヲ授クルニ拘ラス孰モ皆之ヲ科學ト認ムルニ非スヤ又彫刻術ハ技術ナリ然レトモ此技術タル學理ニ基クコトハ何人モ之ヲ爭ハサルヘク繪畫音樂等ニ於ケルモ亦然ラサルハナシ但彫刻及音樂ニ於テハ技術重キヲ有シ數學及星學ニ於テノ技術ハ唯學理ノ應用ニ過キササルハ論ヲ俟タサルナリ

リヤール將軍ハ其戰畧本義 Positive Strategy (一八七一年出版第四頁)ニ説明シテ曰ク如何ナル科學(即チ學理)モ其應用(即チ技術)ヲ有シ又之ト同シク如何ナル技術モ自己ノ科學即チ或ル技術ノ基礎ト爲ル原理ノ擁護ヲ有スルモノナリト是ニ由リテ之ヲ觀レハ戰術ハ戰鬪ノ技術ニシテ戰畧ハ科學ナリ(埃國カル、大公爵)ト謂カ如キ普通ノ科學ト技術ノ對照ハ毫モ根據ナキモノナリ何トナレハ戰畧及戰術ハ各別ニ自己ノ科學(即チ學理)及自己ノ技術(即チ學理ノ實地應用)ヲ有スレハナリ、戰術ハ戰鬪ニ勝利ヲ得セシムルノ手段ヲ指摘スルヲ以テ其方法トス故ニ之ヲ科學ト稱スルヨリモ寧ロ技術ト云フノ穩當ナルカ如シト雖モ然レトモ戰鬪示導ノ教訓タルヤ戰勝ニ影響スヘキ一切ノ原素ヲ詳

細ニ研究シタル後ニアラサレハ之ヲ云フ能ハス而シテ此ノ如キ研究ハ學理即チ科學ノ範圍ニ屬スルヲ以テ吾人ハクラウゼウツノ說ヲ採リ則チ戰術ハ戰鬪ニ就キテノ科學ナリトノ解釋ヲ採ラント欲スルモノナリ、

第十二 海軍及陸軍兵學ノ對照

戰術ナルモノハ海陸軍共通ノ一學科ヲ組織スルヤ將タ陸軍戰術ハ海軍戰術トハ各別ニ存在スルヤ陸軍將校ハ吾人ニ先テテ早已ニ此業ヲ以テ一學科ト爲シテセリ是レ畢竟陸軍々人社會ニハ之ヲ實地家タル海軍々人ノ社會ニ比スレハ素ト科學的素要アル者多數ナルト古來陸戰ノ規模ハ海戰ニ比スレハ更ニ大ナルト及陸上ノ戰鬪ハ夫ノ變動極リナキ水上ノ戰鬪ニ比スレハ結論ニ利便ナルトニ職由セスンハアラ

ス
或兵學ノ大家ノ意見ニ據レハ戰争ニ就キテノ學問ハ海上ト陸上トニ別ナク之ヲ一學科ト爲シ尙ホ謂ヘラク若シ獨立ニ海軍戰畧ナルモノアルコトヲ是認スルニ於テハ勢ヒ森林戰畧原戰畧等ノ類モ亦之アルコトヲ是認セサルヘカラスト(一八九四年海軍雜誌第十一號第二頁)斯ノ如キ意見ハ一名ノ司令長官ヲ以テ海陸軍ヲ統裁シ全國ノ戰鬪力ヲ指揮セシムル場合ニ於テノミ正確ナリト云フヘシ最モ斯ノ如キ實例ハ史上ニ乏シカラス即チポンペイアグリッパヨリチエスマーノ戰勝者タルオルローフニ至ル迄其適例ナリ又海陸軍全然結合シ一國ノ進攻力及防禦力ノ共同管轄ヲ一省内ニ集合シタランニハ行動ノ

歸一ヨリ大ニ利スル所アルヘシ然レトモ今日ニ至ルマテ何レノ國民ト雖モ未タ斯ノ如キ制度ヲ布カサルハ海戰ト陸戰トノ間ニハ其方法ノ異ナルコト霄壤モ雷ナラサルアルノミナラス兩者ノ日常生活スラ尙ホ全ク其趣キヲ異ニスル所アルニ因ルナラン其他陸戰ニ在リテハ彈丸雨注ノ下ニ立チテ泰然タル猛將モ艦船少シク動搖セハ假令毫末ノ危險ナキニ拘ラス忽チ臆病者ト化シ去ルノ實例少カラス奈波翁ノ戰爭中彼レ殆ト全歐ヲ左右シタルノ時ニ於テスラ遂ニ英國ノ反抗ヲ抑壓スル能ハサリシニアラスヤ恐ラクハ彼レニシテ自ラ艦隊ヲ指揮スル伎倆アリト認メタランニハ須臾モ之カ實行ヲ躊躇セサリシナラン況ンヤ奈波翁ノ如キ不世出ノ將軍ニシテ若シ之ヲ希望シタランニハ海軍ノ本領ヲ了解スルハ幾何ノ日子ヲモ要セサルニ於テオヤ彼レニシテ之ヲ爲サンカ吾人ハ彼カ必ス我カ海軍界ニ健全ナル新空氣ヲ注入シタランコト疑ナシ彼ハ素ト島國ノ出生ニシテ海港内ニ於テ始メテ勤務ニ就キ且軍隊ト共ニ埃及ニ渡航シタルコトアリ故ニ彼レ全ク海軍ニ縁故ナキニアラス而モ彼ハ敢テ海軍ノ指揮ヲ司トラサリシハ何ソヤ

任務及目的ハ海陸軍共ニ同一ニシテ即チ敵ヲ敗リ之ヲシテ我ノ意ニ服從セシムルニ在リ然ルニ之ヲ達スル方法手段ハ全然相異ナレリ勿論海軍々人カ陸軍戰史ヲ研究シ陸軍々人カ海軍戰史ヲ研究スルハ極メテ有益ナルコト論ヲ俟タサルナリ是レ歴史ノ研究ナルモノハ人ノ見識ヲ擴メ時機ニ處スルノ途ヲ示スニ便ナルニ因ル又海軍々人ノ爲メニ陸軍戰畧及陸軍戰術ヲ研究シ其主義ヲ會得スルハ歴史ニ均シク

頗ル有益ナルモ陸戰ニ定メタル原則ヲ以テ海戰ニ應用セント欲セハ宜シク慎重ナラサルヘカラス吾人ハ陸軍ノ戰畧及戰術ヨリ唯海軍ニ適應スルモノニ限り之ヲ採用セサルヘカラス斯ク海陸軍ヲ通シテ同一ナル主義ノ存スルアルハ疑ヲ容レサル所ナリ例ヘハ一頭主義即チ一名ノ長官ヲ必要トスルノ主義ノ如キ是ナリ然レトモ此主義タル元來生活上ノ百事一トシテ之ヲ必要トセサルモノナキカ故ニ特ニ奇トスルニ足ラサルナリ又決戰ノ地點ニ勢力集中ノ主義ハ陸軍ニ均シク海軍ニモ亦正鵠ナリト雖モ陸軍ニ在リテ更ニ最要ト認ムル所ノ「互援」ノ主義ヲ海戰ニ應用セントスルニハ大ニ考慮スル所ナカルヘカラス陸軍ニ在リテハ此主義ハ恰モ嚮導星ノ如ク作戰方畧ノ調製ノ際ニ於ケル又戰場ニ於テ之カ實行ノ際ニ於ケル齊シク之ニ準據スヘキモノニシテ上ハ將官ヨリ下ハ一兵卒ニ至ル迄此主義ニ依リテ行動シ各戰鬥員ハ危急ノ場合ニハ必ス應援セラルヘキ手段ヲ確保シテ毫モ疑心ノ存スルナランコトヲ要ス蓋シ此信念アリテ始メテ戰鬥員ヲシテ堅忍不拔タルヲ得セシムヘシ然ルニ夫ノヴギルヌーヴトラファルガルノ海戰ニ先チ命令シテ曰ク部下ノ各艦ハ互ニ應援スルヲ以テ主ナル目的ト爲スヘシト而テ彼ハ全敗ヲ蒙レリ彼レノ戰勝者タルチルソシ海戰ニ於テ艦隊ノ一部ノ運命ハ天ニ委セサルヘカラストノ意見ヲ持セリ若シ實際艦隊ノ諸艦カ戰鬥中唯相互應援ニ機ヲ失ハサランコトヲ惟レ怖レタランニハ任意ニ行動スル敵軍ノ擊破スル所トナルハ理ノ當然ナリ故ニ海軍々人ハ此「互援」ノ主義ヲ解釋シテ以テ一齊ニ敵軍ヲ襲撃スルノ謂ナリトセサルヘカラス蓋シ他ヲ襲フコト一齊ナルハ是味方ニ對シテ最

良ノ應援タル所以ナレハナリ

軍隊ノ一部ヲ豫備トシテ戦闘ニ與ラシメサルノ主義ハ陸軍ニアリテハ一ノ原則タリ蓋シ一人ノ將官ト雖モ豫備ヲ設ケスシテ全軍ヲ配置スルモノ之レナカルヘシ而テ海軍ニ於テハ然ラス曾テ斯ノ如キ豫備ノ制ヲ設ケタルコトナシトラフアルカルノ戦闘前テルソノ命令中稍ヤ豫備ニ類スルモノアリ即チ快走艦ヲ以テ第三隊ヲ編制シ敵軍攻撃ノ時ニ於テ之ヲシテ本隊ノ一ニ加ハラシムルノ計畫ナリキ然レトモテルソノ部下ノ艦數ハ始メ豫定シタルヨリ少數ナリシニ依リ遂ニ以上ノ計畫ハ實行ニ至ラスシテ止ミタリ又快走艦ヲ以テ第三隊ヲ編制スルノ意見ハ那邊ニアリシヤト云フニテルソノハ決シテ永ク之ヲ豫備隊タラシムルヲ欲セスシテ成ルヘク迅速ニ之ヲ以テ二本隊中ノ一ニ合併セシメンコトヲ期シタルナリ若シ夫レ戦闘ニ先チ自己ノ艦隊ヲ二分シ始ハ其一半ヲ使用シ後チ又他ノ一半ヲ使用スル者アラソニハ是レ敵ヲシテ其全力ヲ盡シテ始メ味方ノ一半ニ當リ後チ他ノ一半ニ當ラシメ彼ヲシテ個々ニ味方ヲ撃破スルノ手段ヲ得セシムルニ外ナラサルベシ然レトモ海戰ニ豫備ヲ設ルノ必要アリヤ否ヤハ吾人カ茲ニ論定スルヲ要セサルナリ要ハ唯陸軍ノ原則ヲ悉ク海戰ニ應用センニハ須ラク慎重ナラサルヘカラサルコトヲ謂ハント欲スルノミ陸軍ニ於テ豫備ヲ設クル所以ハ他ナシ其ノ戦闘關ナル時ヲ待チテ之ヲ決戰ノ地點ニ向ハシメ敵ヲ打撃セシメテ之ヲ逃走セシムルニアリ凡ソ戰場ヨリ逃走スル敵ハ極メテ不利ノ地位ニアルモノニシテスウオーロフノ言ニ據レハ逃走スル敵ヲ殄滅スルニハ單ニ之ヲ追躡ス

ルヲ以テ足レリトスト而シテ今之ヲ海軍ニ見ルニ全ク然ラサルモノアリ即チ強風ニ逆向シテ敵ヨリ逃走スル艦ハ砲戰ノ關係ニ於テハ之ヲ追撃スル敵ヨリモ頗ル好良ノ位置ニアルモノトス現ニ水烟及風力ハ甲者ノ砲撃ヲ妨害セサルモ乙者ノタメニ一大困難ヲ呈シ波濤高キトキハ全然發射ヲ停止セシムルコトナキニアラス故ヲ以テ海軍ニ在リテハ往々追撃ヲ受ケテ利ナルコトアリ而カモ陸軍ニ在リテハ百計盡キテ後他ニ施スヘキノ手段ナキニ至リ始メテ退却ニ決スルモノトス陸軍ニ在リテハ退却ハ滅亡ノ因ナリト雖モ海軍ニ在リテハ然ラサルノ事實アリト云フヘシ又小隊若シ突然敵ノ聯隊ニ遭遇セハ宜シク巧ニ退却セサルヘカラサルモ水雷艇夜間若クハ濃霧中ニ敵ノ戰艦ニ遭遇スルアラハ必ス之ヲ攻撃セサルヘカラサルノ相違アルナリ之レ吾人カ陸軍諸學科ノ研究ハ極メテ必要ナリト謂フト雖モ同時ニ之ヲ海戰ニ應用センニハ頗ル慎重ナランコトヲ要シ且ツ之カ精査ヲ怠ルヘカラスト謂フ所以ナリ吾人ハ茲ニ前言ヲ再述センニ海陸軍ヲ合併シテ一體ト爲スハ妙ハ則チ妙ナルヘシト雖モ海軍ニハ特種ノ事項枚擧ニ遑アララス隨テ之ヲ陸軍參謀本部ニ於テ完全ニ研究セント欲セハ其將校ハ其ノ本務ノ一部ヲ缺クニアラサレハ之ヲ完了スルコト能ハサルヘシ是レ常ニ國家カ戰爭ニ要スル物件及人員ノ組織ヲ海陸軍各之ヲ別ニスル所以ナリ亦事ノ冗長ニ亘ルヲ避ケンカ爲メニ別ニ海軍戰畧及海軍戰術ナルモノヲ設ケテ之ヲ分割スルコト、爲レリト雖モ特リ國家政畧ナルモノハ海陸共終始一貫曾テ變更スルコトナシ

茲ニ注意スヘキハ海軍戰畧ト陸軍戰畧及海軍戰術ト陸軍戰術トノ差異ヲシテ徒ラニ望マシカラサル競争ノ媒介タラシムヘカラス海軍々人ハ欣テ陸軍ノ採用シタル武器ヲ使用スルノミナラス陸戰隊ノ行動ノ如キモ亦成ルヘク陸軍ニ模倣センコトヲ努ムヘシ爰ヲ以テ陸軍々人ハ我カ海軍ノ長所ヲ採用スルハ決シテ彼輩ノ瑕瑾タラサルヘシ

第十三 海軍戰術ハ如何ナルモノナル歟

陸軍々人ハ海軍ニ先タチ其戰術ヲ創設シタルヨリ戰術ナル名稱ハ自然陸軍戰術ノ意義ヲ有スルノ看アリ然シテ此戰術ニ於ケル素ヨリ一言ノ海戰ノ事ニ説及スモノナク隨テ吾人ノ戰術ハ之ヲ海軍戰術ト命名スルノ外之ナカルヘク其定義ハ前提ノ所論ニ基キ左ノ如クナルヘシ

海軍戰術ハ海戰ニ關スル科學ナリ

陸軍戰略ト海軍戰略竝ニ陸軍戰術ト海軍戰術トノ間ニ存スル差異ヲ認ムルト同時ニ兩者間ニ相通スルモノアルヲ以テ著名ナル陸軍兵學家ノ所説ニ據リ若クハ良將軍ノ意見ヲ舉示スルハ極メテ有益ナリト認ム即チ兵學ノ諸大家ハ戰術ニ關シ左ノ詳細ナル説明ヲ與ヘタリ

リヤー將軍ノ言ニ據レハ戰術ナル者ハ戰鬪諸原素(軍隊武器地勢)ニ關係スル問題ヲ研究シ戰鬪ノ種々ノ場合ニ於テ其ノ最モ有益ナル使用法ヲ示スモノナリ(陸軍大佐オルローフ著戰術一八九六年出版第三頁)

ドラゴミーロフ將軍ノ言ニ據レハ戰術ノ科目ハ左ノ三項ヨリ成ル(第一)軍隊ノ平時教練ノ要義及教育ノ研究(第二)軍隊ノ戰鬪的、行軍及偵察的性質ノ研究(第三)軍隊ノ志氣舉動及行動上ニ影響スル地勢ノ研究(ドラゴミーロフ著戰術教科書一八八一年出版第一頁及第二頁)

ドラゴミーロフ及リヤー兩將軍ノ前記ノ所見ハシヨミニ一及クラウゼウチクニ均シク戰術ナル語ヲ廣義ニ解釋セシコト明カナリ又海軍著者中ノ或ル者ハ均シク海軍戰術ヲ廣義ニ解釋スト雖モ中ニハ海軍戰術ト艦隊運動トヲ混同スルモノナキニアラス其ノ甚シキニ至リテハ海軍戰術ノ表題ヲ以テ艦隊ノ陣形及其變化ヲ説ケル書冊アリ又書籍ノ中ニハ歴然海軍戰術ノ名稱ヲ冒スト雖モ其説ク所ヲ見レハ種々ノ製式ニ屬スル諸艦ノ得失ヲ論スルニ外ナラサルモノアリ

アルトミエル教授ハ左ノ如ク戰術ノ定義ヲ下セリ

戰術ナル語ハ其廣義ニ於テ或形勢及狀況ノ下ニ於テ戰鬪ヲ開始シ且遂行スルニ當テ其採ルヘキ所ノ位置及之ニ關スル諸細則ヲ教フル所ノモノヲ云フ

斯ノ如キ定義ハ狹隘ニ失スルノ嫌アリ即チ海軍戰術ノ影響ノ波及スヘキ範圍ヲ狹少ニシ又爾餘海軍諸學科ヲシテ相互ノ聯絡以外ニ置カシメントスルニ至ルモノナリ

佛國海軍々人モ亦海軍戰術ニ對シ狹義ノ解釋ヲ取レリ其定義ニ曰ク

海軍戰術ハ海軍力ヲ團結シ迅速安全ニ整然之ヲ運用シ戰鬪ノ時機ニ臨ミテハ此海軍力ヨリ最大ノ利

益ヲ收得シ以テ戰勝者タラシムルノ技術ナリトス

ベインブリッチ、ホーフハ海軍戰術ヲ稍々廣義ニ解釋シテ左ノ如ク謂ヘリ

海軍戰術ハ海軍將校ノ爲メニハ最重最要ノ科學ナリ何トナレハ海軍將校ハ之ヲ修得シ以テ艦ノ戰闘カヲ組成スル所ノ各種兵器ノ戰闘上ノ利用法ヲ會得スレハナリ

第十四 爾他ノ海軍科學ニ對スル海軍戰術ノ位置

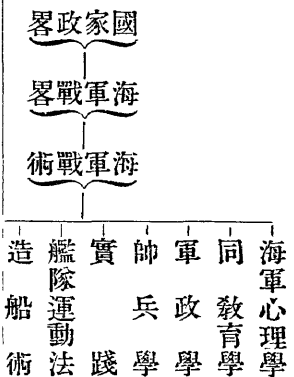
吾人ハ先ツ秩序的ニ海軍ノ諸學科ヲ併記スヘシ如斯クシテ始メテ海軍戰術ノ何物タル自ラ判明スル所アルヘシ而テ第一着手トシテ茲ニ豫定シ置クノ必要ヲ感スルモノハ他ニアラス抑艦隊ナルモノハ戰争ノ具ナルコト竝ニ艦隊ノ各單位(即チ艦)ハ其乘組員及諸兵器ト共ニ勝ヲ海戰ニ制スル爲メニ存在スルコト是ナリ海軍戰術ハ海戰ニ就キテノ科學ナルカ故ニ凡ソ艦上ニ存在スルモノハ悉皆其範圍ニ屬スヘキモノトス之ヲ要スルニ海軍戰術ハ勝利ヲ得ルノ途ヲ説クモノニシテ即チ之ニ詣ラシムルノ手段ヲ授クルヲ以テ其目的ト爲ス是ヲ以テ海軍戰術ハ先ツ其範圍ニ干繋スル所ノ爾他ノ海軍諸科學ニ對シ夫々指導スル所ナカルヘカラサルナリ

然リト雖モ海軍戰術ヨリ一層高尚ノ科學アリ之ヲ海軍戰術ト云フ而シテ海軍戰術ハ戰争ノ諸要素ヲ研究シ戰争ニ必要ナル資力ノ程度及敵ニ對スル行動ノ最良方法ヲ定メ又如何ナル種類ノ戰時行動カ最モ正確ニ目的ニ達セシムルヤヲ論定ス夫レ戰争ノ主眼タル敵ノ反抗力ニ凌駕スルニ在ルヲ以テ斯學ノ要

旨ハ戰時行動ノ如何ナル種類カ敵ヲ破ルニ最モ適切ニ且最モ迅速ニ其目的ヲ達スルヲ得ルヤヲ指示スルニアリ

或ル兵學ノ諸大家ハ戰畧ニ定義ヲ下シテ戰争ニ就キテノ科學ナリト云ヘリ又戰畧ハ戰争ノ哲學若クハ戰局ノ戰術ト云ヒ之ヲ實際ノ戰場ノ戰術ト區別セリ

戰畧ノ上位ニハ國家ノ政畧ヲ置カサルヘカラス蓋シ國家ノ政畧ハ其目的ヲ達スルニハ戰ノ避クヘカラスルヤ否ヤ或ハ示威運動ヲ以テ足レリトスルヤ將タ直ニ戰端ヲ開クヘキヤ否ヤヲ決斷スルモノナレハナリ而テ一旦開戰ノ場合ニ至ラハ戰畧ハ何レノ地點ニ於テ戰闘ヲ開始スルヤヲ指示シ戰術ハ最少ノ損失ヲ以テ敵ヲ擊破セントセハ如何ニ戰闘ヲ遂行スヘキヤヲ決斷ス爾他ノ細目即チ機關運轉ノ方法、彈藥裝填ノ方法、照準ノ如何等ハ機關術、砲術其他專門ノ科目ノ存スルアリテ各教フル所アルヘシ吾人ハ左ノ系圖ニ依テ海軍科學ノ一般ヲ示スヘシ



機關術	砲術	水雷術
-----	----	-----

此ノ如ク順序ニ排列スルトキハ海軍ノ事項ハ各相當ノ學術ノ分擔スル所トナリテ全體ノ基礎堅固ナルモノナリ吾人ハ戰畧及戰術ノ教程ニ於テ未タ曾テ斯ノ如キ系圖ヲ示シタルコトヲ聞カス而モ本件ニ關スル吾人ノ所論ハドラゴミーロフ及リヤー二將軍ノ如キ大家ノ意見ト毫モ抵觸スル所アルナシ兩將軍ノ如キハ既ニ前述スル如ク戰術ヲ廣義ニ解釋スルモノナリ現ニドラゴミーロフ將軍ハ詳細ニ精神の要素ニ論及シ將軍ノ教科書ハ教育學ニ關スル訓誡ヲ以テ充溢シ且將軍ハ雷ニ教授スヘキ事項ヲ示スノミナラス尙往々教授ノ方法ニ説及ホスコトアリリヤー將軍モ亦戰術ヲ見テ單ニ戰場ニ於テ終始スヘキ科學ト爲サス蓋シ戰勝ヲ得ルノ法ハ一ニ深謀遠慮蓄積ノ準備ニ由ルヘケレハナリ

第十五 戰術ノ限界

戰畧ト戰術トノ限界ハ前述此兩科學ニ下セル定義ニ合ハサル可ラス爰ニ於テ總テ戰爭行爲ニ關スルモノハ戰畧ニ屬シ又艦ト艦トノ戰鬪若クハ艦ト砲臺トノ戰鬪竝ニ偵察、搜索ノ術ハ全然戰術ニ屬ス加之戰術ハ艦隊ノ海洋ニアルト碇泊地ニアルトヲ問ハス齊シク之ヲ保持スルノ方法ヲ研究シ且ツ一般ニ相互ノ關係ニ於テ軍事上ノ諸要素ニ論及スヘキモノト爲ス

斯クテ戰術ト爾余ノ專門科學トノ限界ハ自ラ定マルモノナリ蓋シ機關術、砲術等ノ如キ各專門ノ科學

ハ各々個々獨立シテ發達スヘキモ而モ戰術ナルモノハ茲ニ戰術ト爾餘ノ專門科學ノ相互ノ干繋ヲ規定スルモノナリ茲ニ其一例ヲ舉ケンニ若シ或ル樞要ナル分科ニシテ未タ充分ノ研究ヲ經サルモノアルトキハ該分科ガ發達ヲ遂ケテ別ニ一ノ專門科ヲ爲サ、ル間ハ戰術自ラ之ヲ擔任セサルヘカラス譬フルニ艦船ノ不可沈質ノ問題ノ如キハ未タ實ニ此境遇ニアルモノニシテ機關術ハ之ヲ造船術ノ主管ト爲シ造船術ハ機關術ノ主管ナリト云フ斯ノ如クシテ此問題ノ何レノ科學ニモ入ラサルノ間ハ戰術自ラ之ヲ主管セサルヘカラサル如キ是ナリ

動モスレハ新事業ノ起ルアリテ海軍ノ何レノ專門科ニモ附屬セシムヘカラサルコトアリ現ニ砲術若クハ水雷術ニ責ムルニ輕氣球飛行ノ發達ヲ以テスルカ如キハ蓋シ酷ト云ハサルヘカラス凡ソ戰術ニ於テハ戰勝ヲ得ルニ有益ナル手段ハ一トシテ忽諸ニ附スルヲ得ス必ス之ヲ討究スヘキモノナリ輕氣球飛行ノ業ニシテ海戰ニ於テ果シテ有用ノモノタラハ之ヲ自己ノ主管ト爲シ一ノ專科タル程度ニ發達セサル間ハ自ラ之カ管理ヲ司ルハ海軍戰術ノ本領ナリ而シテ其專科ノ有ト爲リタル後ハ唯大體ノ指導ヲ司ルヲ以テ足レリトス信號術、艦隊運動法等ノ如キハ尙ホ專科ヲ爲サス如斯何レノ海軍專科ニモ屬セサル海軍分科カ海軍戰術ノ直轄ニ歸スルハ此事由ニ外ナラサルナリ

凡ソ海軍ノ成功ニ影響ヲ及ホスヘキ原素ヲ講究シ其綜合ヲ司ル所ノ海軍戰術ハ各專門科カ造詣ヲ圖ルヘキ目的ヲ示スモノナリ是レ海軍戰術ハ諸海戰ニ關スル專門科學ニ冠タル即チ海戰ノ哲學タル所以ナ

リ
以上海軍戰術ノ本領ニ關シ陳述シタル所ハ左ノ如ク之ヲ約言スルヲ得ヘシ即チ海軍戰術ハ海戰ニ關スル科學ニシテ艦ノ戰鬥力ヲ組織セル諸要素竝ニ之ヲ戰時種々ノ場合ニ於テ最モ有益ニ使用スルノ方法ヲ講究スルモノナリ

第十六 本著者ノ前著(艦ノ戰鬥力諸要素ト題スルモノ)ト 此海軍戰術論トノ關係

曩ニ艦ノ戰鬥力諸要素ト題スル(一八九四年海軍雜誌第六號)論文ヲ著ハスニ方リ吾人ハ當時既ニ今本編ニ於テ陳述スル所ノ意見ヲ懷抱セリト雖モ當時著者ハ未タ艦隊司令長官トシテ經歷ヲ有セス隨テ海軍戰術ニ關スル意見ノ總括ニ必要ナル材料ヲ蒐集シ得タルヤ否ヤ少シク疑念ナキ能ハサリシナリ而シテ今ヤ本編ヲ作ルニ方リ著者ハ其前著ノ既ニ本論ノ一部分ヲ成スアルコトヲ認ムルニ由リ其前著中ニ掲記セル煩砲ノ研究ノ如キハ重複ヲ避クル爲メ本編ニハ之ニ論及セス只該問題ニ關スル著者ノ意見ハ爾來毫モ變更セサルコトヲ表白スルニ止メントス

第十七 各種ノ境遇ニ於ケル戰術上ノ干繫

知識ト伎倆トノ間ニハ自ラ差別アリ博識ナレトモ事ニ當リテ極メテ拙劣ナル者アリ之ト同時ニ甚々淺學ニシテ實地ニ巧妙ナル人ニ乏カラス其成績ノ良否ハ主トシテ本人ノ伎倆如何ニアリテ存ス唯法則ヲ

知得スルヲ以テ充分ト爲スハ不可ナリ要ハ此法則ヲ利用スルノ伎倆如何ニ在リ本件ニ關シ諸大家カ如何ナル說ヲ爲ス歟乞フ之ヲ陳述セン

ジヨミニー曰ク(一八四〇年出版戰術要論第一編第二十一頁 Outlines of the Art of War)

顧フニ予ヲ責ムルニ戰術ヲ以テ一個ノ機械タラシムル者ト爲スモノ若クハ戰闘規則ノ一章ヲ通讀セハ忽チ全軍ニ長タルノ機能ヲ獲得スヘシトノ意見ヲ抱懷スルモノト爲スモノ莫ランコトヲ望ム人生百般ノ狀況ニ於ケルカ如ク各種ノ科學ニ於ケルモ知識ト實行ノ伎倆トハ全然其出所ヲ異ニスルモノニシテ往々實行ノ伎倆ノミヲ有スルモノ成功ヲ遂クルコトアリト雖モ而モ此兩者ヲ併有スル者ニシテ始メテ眞ノ俊傑タルヘク又完全ナル成功ノ擔保者タルヘキナリ尙予ヲシテ偏見論者タルノ詰責ヲ免レシメンカ爲メニ予ハ茲ニ一言セント欲スルモノアリ即チ予ノ用キタル知識ナル語ハ該博ナル學識ノ意義ニアラス要ハ博識ニアラスシテ熟知ニアリ就中自己擔任ノ事業ニ關スルコトヲ熟知スルニアリ

第十八 リヤー將軍ノ意見

本件ニ關スルリヤー將軍ノ意見ハ左ニ詳記スル所ノ如シ(一八七一年出版戰畧本義第二十二頁及第二十三頁 Positive Strategy)

伯德大帝ノ卓見ニ依ルニ法律ナル者ハ獨リ其秩序ヲ掲記スルノミニシテ時ト場合トヲ示スコトナ

シ換言スレハ各ノ場合ニ對スル法律(規則)ナシ何トナレハ場合ノ多キコト際限ナケレハナリ元來法律ナル者ハ或場合ニ適當ノ解釋ヲ得ンカ爲メニ或狀況(時及場合)ヲシテ之ニ擬適セシムヘキ所ノ普通ノ定式トシテ之ヲ解釋セサルヘカラス今簡短ニ之ヲ云ヘハ法律ヲ應用スルニハ宜シク其精神ヲ取ルヘク法文ニ拘泥スルハ不可ナリ

第十九 ドラゴミールフ將軍ノ意見

本件ニ對シドラゴミールフ將軍ハ左ノ如ク云ヘリ(一八八一年出版戰術教科書第十二頁及第十三頁 Text Book of Tactics 1881)

或狀況ニ於ケル或事項ニ對シテ下サレタル斷案ヲ徹頭徹尾完全ノモノトナシ其事項ト時ノ如何ヲ問ハス總テノ場合ニ對シテ正確ナルモノトテ往々之ヲ喧傳スルカ如キ偏見ハ須ラク慎マサルヘカラス況ヤ偏頗ナル煽動の斷案ハ毎ニ動モスレハ痛快的ノモノナルカ爲メ之ヲ歡迎スルノ傾アルニ於テヤヤ斯ノ如キ偏見盛ニ行ハレ爲メニ自ラ災害ヲ醸成シタル事績ハ其例ニ乏シカラサルナリ自己ノ事業ニ熱心ナル教官ハ宜シク自己ノ聽講生ヲシテ此種ノ絶對的斷案ニ對シテ須ラク慎重ニ且ツ警戒セシムル所アルヲ以テ其義務ト爲サ、ルヘカラス乃チ聽講生ヲシテ一般ノ學理の原則ニ對スルモ尙且自ラ問フニ本則ニ反對ナルモノニシテ却テ正實ナル場合ノモノアル莫ランヤヲ以テスルコトニ馴致セシメンコトヲ要ス

同著者又曰ク

軍隊ト地勢ノ干繋ニ於ケル戰術的ノ知識ハ戰捷ヲ制スルニ大ニ効力アルモノナリト雖モ未タ之ヲ以テ確ニ勝利ヲ獲ルニ必要ナル條件ヲ盡シタルモノト爲スヘカラス蓋シ知識ナルモノハ未タ其要件ヲ滿スニ足ラス要ハ之ヲ實地ニ應用スル伎倆如何ニ在リ是レ吾人カ最モ困難トスル所ナリ知識ハ記憶ト普通智覺アレハ之ヲ獲ルニ難カラス然ルニ應用ノ伎倆ニ至リテハ先ツ某ノ時ニ於テ敵ノ占タル陣地ヲ判定スルノ能力并ニ神機、妙算、勝敗ヲ一舉ニ賭スル底ノ明斷果決アルモノニシテ始メテ之ヲ能クスルモノナリ

尙ホ一層明晰ナラシメンカ爲メ吾人ハ左ニドラゴミールフ將軍ノ戰術教科書中ノ一節ヲ引用セント欲ス將軍ハ該書ノ終ニ於テ書中記スル所ノ訓誡及軍隊ノ能力ノ研究ニ對シ如何ナル觀察ヲ下スヘキヤニ就キ左ノ如ク謂ヘリ

軍隊ノ事タル之ヲ知ル愈深ケレハ其效用ヲ發揮スル亦愈大ナルモノアリ戰術的訓誡ハ之ヲ見ルコト猶他ノ訓誡ヲ見ルカ如クナルヘシ則チ之ニ聽クヘシト雖モ自己ノ行動ニ於テハ獨リ自己ノ常識ニ從ハンコトヲ要ス最モ賢明ナル訓誡ト雖モ或場合ニ於テハ最モ愚昧ナル訓誡タルヲ保シ難シ故ニ如何ナル書籍ト雖モ之ニ依頼スルハ不可ナリ唯自己ノ腦髓ノ判斷ニ據ルヘキナリ蓋シ書籍ニハ種々不變ノ法則ヲ掲載スト雖モ軍事ハ素ト斯ノ如キ法則ト兩立ヲ容ルサス各種ノ場合ニ對スル新法則ハ其現場ニ於テ立

ロニ自ら創造スルノ必要アレハナリ是レ則チ予カ書中ニ提供セル訓誡ニ對シ各自ノ覺悟セサルヘカラスル所ナリ今本章ヲ終ラントスルニ方リ予ハチユレンヌカ其部下ニ與ヘタル訓誡ノ終ニ於テ常ニ附記シタル數言ヲ茲ニ引用スルハ極メテ適切ナルヲ信ス即チ曰ク諸君ヨ諸君ハ此ヨリ以上ハ自己ノ常識ニ據ラサルヘカラスト是予カ諸君ニ勸告セント欲スル所ノモノナリト

吾人ハ尙左ニドラゴミーロフ將軍ノ戰術ヨリ一節ヲ引用セン

戰勝ノ訣ハ氣力、決心及機智ニ在テ存ス所謂氣力トハ進退維レ谷リ殆ト絶望ノ悲境ニ呻吟スルノ時ニ於テ尙且ツ戰勝ヲ必至ニ期スル意氣アルヲ謂ヒ決心トハ豫期ノ目的ヲ貫クニ當リ勇往邁進百難ヲ排スルノ氣力アルヲ謂ヒ機智トハ局面一變ノ時ニ當リ咄嗟ノ間ニ目的達貫ニ必要ナル手段ヲ斷決スルノ機能アルヲ謂フナリ

之ニ由リテ此ヲ觀レハ如何ナル學理ト雖モ某ノ場合ニ於テ應用スヘキ法則ヲ設クルコト能ハサルハ頗ル瞭然タルヘシ則チ事ノ大小トナク總テ指揮官ノ人物如何ニ依テ決スルモノナリ然ラハ則チ軍事ニ於テハ毫モ學理ナシトスルカ曰ク否ラス最モ重要ナル學理ノアルアリ蓋シ兵器ノ用法愈複雑ナルトキハ之カ使用ニ先タチ其特性ノ研究愈精密ナランコトヲ要スルニアラスヤ若シ然ラスシテ苟モ此研究ヲ忽ニセンカ幾多ノ失敗ノ辛酸ヲ經タル後ニアラサレハ此特性ヲ知悉スルコト能ハス然ルニ之ヲ知悉スル決シテ難キニアラス唯夫レ虛心學理的ニ之ヲ研究スルノ途アルノミ既ニ其特性ヲ知悉セ

ハ其時ニ臨テ決斷スヘキモノハ只其利用ニ在ル耳之ニ反シテ若シ特性ヲ知悉セサリセハ勢ヒ二様ノ問題ヲ解決セサルヲ得ス即チ先ツ流血の經驗ヲ以テ其特性ヲ研究シ然ル後始メテ之ヲ利用スルニ至ルノ外ナケン然ラハ則チ將帥タル者ノ戰鬪能力ハ其學理的知識ト聯立セサルヘカラス

第二十 奈波翁ノ意見

奈波翁曾テ謂ヘルコトアリ曰ク

凡ソ高等戰術ニ關スル問題ハ種々ノ解答ヲ容ルヌ所ノ物理數理的不定問題ノ觀ヲ呈スルモノナリ又曰ク

兵學ニ於ケル學理ハ智力ノ養成及普通理想ヲ培養スルニ有益ナリト雖モ偏ニ學理ニ盲從シ之ヲ濫用スルハ常ニ危險ナルモノナリ

一八一二年ニ於テ我大使バラシヨーフ氏トノ對話ノ際奈波翁ハ左ノ如ク言ヘリ

諸君ハ皆既ニジヨミニーヲ通讀セルヲ以テ戰爭ヲ知悉セル者ト爲セリ然レトモ該書ニシテ戰爭ノ術ヲ授ケ得ルモノナランニハ予豈之カ公刊ヲ許スモノナランヤ

第二十一 海軍戰術ノ解釋ニ關スル結論

諸先輩ノ軍事著作ヨリ引用セル前記ノ諸說ヲ對照シテ吾人ハ茲ニ左ノ斷案ヲ下スヲ得ヘシ即チ軍艦ノ戰鬪力利用法ニ關スル學理的講究即チ海軍戰術ハ必要缺クヘカラサルモノナリ此講究ト戰術ノ指導ス

ル實地ノ教練トハ吾人ヲシテ戰鬪ニ方テ其事態ノ實想ヲ明察スルノ機能ヲ得セシメ且ツ之カ籌謀ニ向テ各案ヲ建テシム是一點靈心ノ指ス所自己ノ概念ト相須テ人ヲシテ戰鬪ニ勇敢ニ且偉雄タラシムル所以ノ基礎ト爲ス

吾人カ戰術ヨリ得ル所ノ利益如何ト謂ハ、即チ居常之ヲ講究シ屢ハ之ヲ實際ニ試ムル時ハ夫ノ判斷力ヲ發揮シ得ルニ至ルモノナリ換言スレハ事ニ當リ明確ニ事態ヲ判定スルノ機能ヲ收得スルモノナリ苟モ實踐ニ一任シテ吾人カ此機能ヲ收得スルノ期ヲ待ツハ宛モ百歲黃河ノ澄ムヲ待ツカ如ク如斯クシテ一旦敵ト相見ユルニ於テハ忽チ大敗ヲ招カサルモノ能ク幾許ソ

第二十一章

精神的要素ノ戰鬪上ニ及ホス影響

第二十二 精神的要素研究ノ必要

吾人ハ今本章ニ著手セントスルニ方リ少シク躊躇スル所ナキ能ハサルモノハ此題目タルヤ從來幾多ノ軍學家カ不問ニ付シタル所ノモノニシテ之ヲ不問ニ付ス必スシモ之ヲ輕視シタルノ故ニアラス蓋シ軍事心理學ナルモノ未タ整然タル一科學トシテ研究セラレサルニ職由スルモノナリ而テ此學科ニ就キ論スル所ナキニアラスト雖モ皆短篇ニシテ一定說ヲ大成セルモノナシ本件ニ關シテハドラゴミーロフ將

軍ノ著書最モ多シ而モ將軍ト雖モ其美妙ニ涉ル點ニ於テハ未タ全ク説キ到ラサルモノアルニ似タリ抑モ本題ノ如キ之ヲ論スル至難ノ事タル言ヲ俟タスト雖モ默々ニ附スル能サルモノアリ何トナレハ徒ラニ之ヲ不問ニ措クトキハ發達ノ時期ナク當時ノ紛々タル狀態ヲ脫スルコト能ハサレハナリ

伯德大帝曾テ謂ヘラク勇膽ト信義トハ國家最良ノ防禦ナリト

奈波翁曰ク戰争ニ於テ成功ノ四分ノ三ハ精神的原素ニ依テ決シ物質的狀況如何ニ依テ決スルハ唯其四分ノ一ニ過キスト

吾人ハ奈波翁ノ如キ兵術ノ大家ノ説ニハ信ヲ置カサルヘカラス而シテ奈波翁カ其軍隊ノ志氣及膽力ヲ維持スル爲メニハ最モ慎重ナル注意ヲ以テセルハ吾人之ヲ知レリ抑モ海軍ニ於テ艦内ノ志氣ヲ維持スル素ヨリ至重至大ノ要件ニ屬シ上ハ將官ヨリ下ハ一兵卒ニ至ル迄能ク其職ヲ完フスルコトヲ得ルモノ眞ニ之レ有ルヲ以テナリ若シ夫レ外ニ對シテ折衝禦侮ノ事ニ至テハ或ハ之ヲ當局者ニ委スルモ亦可ナリト雖モ獨リ軍隊志氣ノ振作ハ兵ヲ養フ者宜シク日夕ノ用意ト慎重ノ考察ニ待ツアルコトヲ忘ルヘカラス

海軍大尉クラド―氏カ其講義(第二百十八頁)中ニ説ク所極メテ穩當ナリトス即チ曰ク

戰鬪ノ終局ニ於テ戰勝者ト戰敗者トノ間ニ存スル唯一ノ差違ハ其兵氣ノ狀態如何ニアリ即チ戰敗者ニ於テハ兵氣沮喪スルニ反シテ戰勝者ニ於テハ勃然トシテ兵氣斗牛ヲ衝ントスルノ概アリ若シ夫レ

物質的損失ノ如キハ兩者ノ間概テ大差アルコトナケント

是レ最モ吾人ノ意ヲ得タル適切ナル説ト云フヘシ苟モ戰勝者ニシテ戰勝ノ後大ニ知覺的精神的共ニ疲勞ヲ感シ復タ起テ闘フノ氣力ニ乏シト云ハ、彼レカ戰勝ノ結果タル誠ニ微々タルヘキノミ

第二十二 リヤー將軍ノ意見

吾人ハ戰闘ノ成功ニ及ホスヘキ精神の影響ニ關シ左ニ二三大家ノ意見ヲ掲記セン

リヤー將軍ハ左ノ如ク記セリ(戰畧正義第二十五頁)(Positive Strategy)

精神の要素ノ所領ハ戰闘中極メテ宏大ナリト云ヘシ此要素タルヤ度量衡ノ得テ測定スヘキモノニアラス又學理的ニ研究シ難キモノアリト雖モ早晚戰闘ノ状態ニ於ケル智力及感情ノ動作ヲ支配スル所ノ原理即チ軍事ノ心理學ナルモノ、發生スルヲ否認スルコト能ハサルヘシ蓋シ今日空想妄説ト認メラル、モノ明日必スシモ事實ト爲ラサルヲ期シ難シ況ヤ如此見解ノ誤ラサルハ往々歴史ノ證明スル所ナルニ於テヲヤ

リヤー將軍同一ノ書中(第十六頁)ニ於テ左ノ如ク謂ヘリ

兵法ノ他ノ技術ニ比シ複雑ニシテ至難ト爲ス所以ノモノハ他ノ技術(繪畫、彫刻等)ニ於テハ技術家ノ取扱フ要素ハ悉ク死物ナルヲ以テ其容積重量ヲ測ルハ誠ニ容易ノ業ニ屬セリ獨リ兵法ニ至テハ爾他ノ要素ノ外ニ戰闘ノ最要器タル人ト云ヘルモノヲ抱有スルヲ以テ隨テ之ヨリ生スル複雑ナル變

化ニ至テハ之ヲ端倪スル頗ル難キモノ之レ有リ

第二十四 ドラゴミローフ將軍ノ意見

戰爭中兵士ノ精神の影響ニ關シドラゴミローフ將軍ハ其著ノ戰術ノ緒言中(第十七頁)ニ曰ク

兵法ナルモノ、學理ハ軍事要素ノ性質ヲ研究スルヲ以テ其目的トスルモノトセンカ是等ノ性質中最要ノモノハ兵士ノ精神の勢力ト爲ス爰ヲ以テ此勢力ヲ萎靡セシメサラントスルハ勿論勉メテ之ヲシテ旺盛ナラシメンコトヲ慮ラサル可ラス

又他ノ場合ニ於テ同將軍ハ左ノ如ク云ヘリ

兵士ニ取リテ精神の感動ノ重要ナル果シテ前陳ノ如クンハ軍隊ハ平素ノ教育ニ於テ專心之カ涵養ヲ圖ラサルヘカラサルナリ

精神の涵養ハ軍事の意義ニ於テ下ノ如ク之ヲ解釋センコトヲ要ス即チ(第一)如何ナル難局ノ出來スルコトアルモ曾テ躊躇スル所ナキ機智ヲ以テ處斷スルコト(第二)剛毅果斷(第三)危急存亡ノ時ニ臨ンテ冷靜ナル判斷力ヲ有スル是ナリ

海戰ニ於テ精神の要素ハ陸戰ニ於ケルヨリモ一層重大ナル關係ヲ有スルモノトス如何トナレハ陸戰ニ在リテハ事概テ漸ヲ以テ起リ戰員ヲシテ事態ヲ觀察セシメ得ルノ暇アルモ海戰ニ在リテハ之ニ異リ現時ノ快走艦ヲ以テスル時ハ事倏忽ニ起リ其争フ所ハ時ニ非スシテ秒ナリ舵ヲ轉スル早キコト五秒我彼

ヲ衝クヘク遅キコト五秒我ハ彼ノ衝ク所トナルカ如キハ恠ムニ足ラサルナリ
 軍艦乗員ノ志氣ハ其統督スル所ノ艦長并ニ將校ノ誘掖如何ニ由テ甚シキ消長ヲ見ルナリ茲ニ甲乙艦長
 ノ下ニ乗員其他總テノ干繫ニ於テ同一ナル二隻ノ軍艦アリト假定センニ甲艦乗員ノ兵氣ハ適當ナル獎
 勵ニ由テ旺盛ナルニ反シテ乙艦ニ在テハ譴責干渉不平等萎靡不振ノ元氣ヲ以テ艦内ニ充滿セリトセン
 歟甲艦ニ在テハ事々成效セサルト云フコトナキニ反シテ乙艦ニ在テハ敢爲決行ノ意氣銷沈シテ舉動怯
 惰ニ流レ事ニ當リテ周章爲ス所ヲ知ラサルニ至ルヘシ斯ノ如キ兵氣ノ差異ハ戰時ニ於テモ發生スルコ
 トアルヘシ唯異ナル所ハ平時ニ於ケル盛衰ハ格別事ニ影響スル所ナキモ戰時ニ在テハ其繫ル所至大ナ
 ルモノアリ由來軍艦ノ乗員中ニ精神的勢力ヲ維持シ兵氣ヲ盛ナラシメントシテ與フヘキ訓諭ハ枚擧ニ
 遑アラス然レトモ人ノ性行ノ相齊シカラサル同一ノ箴言ハ之ヲ二人ニ適用シ難キモノ往々之レ有り即
 チ甲者ニ對シテハ之ヲ抑制シ乙者ニ向テハ之ヲ提醒スルヲ要スルカ如シ而シテ二者共ニ其銳氣ヲ沮喪
 セシムルカ如キハ慎マサルヘカラス

第二十五 艦隊司令長官ノ責任ヲ嚴明ニスルコト

ツローンノ海戰即チイェールノ海戰ハ(一七四四年)英佛兩艦隊ノ長官共ニ軍法會議ニ附セラレタルヲ
 以テ著明ナリトス該海戰ニ於テ殿軍ノ司令官タリシ英國海軍中將レトックハ其戰鬪ニ與ラサリシ廉ヲ
 以テ裁判ニ付セラレタルニ裁判官ハ中將ノ說明ヲ聽取シタル後中將カ作戰方畧ニ準據シ戰鬪開始ノ信

號ヲ受ケサル間其位置ヲ守リタルハ當然ノ處置ト認定セリ而シテ本隊ノ司令長官タル海軍大將マシユ
 ースカ線列ヲ脱出シテ敵ト接戰シタルハ即チ線列ヲ紊亂シタル者トシテ有罪ノ宣告ヲ受ケ指揮官ノ能
 カヲ有セサルモノトシテ官位ヲ褫奪セラレタリ抑モツローンノ海戰ニ於ケルレトック中將ノ舉動ハ無
 論有害ニシテ味方ノ滅亡ヲ來スヘキモノナリキ而モ彼レハ訓令ニ盲從シタル廉ヲ以テ無罪ト爲レリ
 佛國ノ旗將ド、クールモ亦司令長官ノ職ヲ奪ハレタリ今クラークノ云フ所ニ依レハ長官マシユースノ
 官職ヲ褫奪シタル裁判ノ宣告ハ爾來英國艦隊カ遭遇セル幾多ノ災厄ノ基因ヲ爲セリト又英國海戰史ト
 題スル書ノ著者エキンスノ所見ニ據レハ將官マシユースニ對スル處分ハ稍其當ヲ失シタルモノニシテ
 之カ爲メニ夫ノ不幸ナル將官ビンググラ誘惑セル極メテ深カリシト實ニビングハ一七五六年ノミノルカ
 ノ戰鬪ニ於テ須臾モマシユースニ對スル裁判ノ宣告ヲ忘ル、コト能ハス唯線列ヲ紊亂サンコトヲ恐レ遂
 ニ敵軍ニ向テ直進擊破ノ運動ヲ斷行スル能ハサリシカスノ如キハ士氣ヲ沮喪スルモノナルヲ以テビン
 グモ亦裁判ニ付セラレ遂ニ銃殺ノ宣告ヲ受クルニ至レリ

第二十六 艦隊司令長官ニ對スル信用ノ例證

英國ノ行政官カ艦隊ヲ活動スルニハ威嚇嚴命ニ依ルヘカラサルヲ認識シ之ヲ濟スハ只艦隊司令長官ニ
 公然十分ノ信任ヲ置キ彼ヲシテ職責ヲ全フセシムルノ捷路ナルヲ會得セシハ英國海軍ノ爲メ至大ノ幸
 福ナリシト云ハサルヘカラス

吾人ハ茲ニセントウ^キンセントノ海戦ニチャーヴ^キスノ率ヒタル艦隊ノ一例ヲ擧ケンニチャーヴ^キスハ一七九六年九月一日ヲ以テ十五艦ヲジブラタルニ集合セリ然ルニ右ノ内三艦ハ九月六日ノ颶風ニテ海上ニ漂流サレテ一艦ハ破壊シ一艦ハ悉ク其檣ヲ失ヘリ夫ヨリリスボンニ向ヒ航海中一艦ハタンジエール近海ニ於テ一艦ハテীগ^キス河口ニ於テ破船シタレハチャーヴ^キスハ更ニ二艦ヲ失ヒタルナリ尙テীগ^キス發航後更ニ一艦ヲ失ヘリ此時ニ當リ英國海軍省ハ二ヶ月以内ニ於テ全艦隊ノ三分ノ一ヲ失ヒタルチャーヴ^キスニ對シ毫モ詰責ヲ爲サルノミナラス英國ヨリ更ニ彼ニ六艦ヲ送遣セリ斯クテチャーヴ^キスハ翌年二月十四日セントウ^キンセントニ於テ西國艦隊ト戦ヒ全勝ヲ占メタリ是畢竟英國海軍省カ海難ハ戦時海上ニ於テ避ケ難シトノ見解ヲ抱懷シタル爲メニ得タル賞與ニ外ナラサルヘシ

戦闘中司令長官ノ沈着ニシテ膽勇ナルハ戦勝ノ繫ル所極メテ大ナリ現ニ幾多ノ戦闘ニ其辛酸ヲ經タル奈波翁麾下ノ諸名將スラ奈波翁カ親臨セル戦闘ニハ一層奮戦シ其勇氣愈熾ナリシ事實ハ人ノ能ク知ル所ナリ吾人ハ更ニ一例ヲ擧ケテシノーブノ海戦將ニ始ントスルニ當リ如何ニ長官ナヒーモフカ泰然トシテ毫モ平素ニ異ナラサル度量アリシカヲ示サン此時艦隊ハ徐々トシテ敵軍ニ接近シ衆皆正午前ニ必ス旗艦ノ檣上ニ「打ち方始メ」ノ信號タル赤旗ノ掲揚アルヘント思惟セリ暫ラクシテ果然一旗大橋上ニ掲ルヲ見ル然レトモ其開披スルヲ見レハ豈圖ランヤ是レ正午旗ニシテ麾下諸艦ニ正午時ヲ示シタルナラントハ斯ノ如キ能言ニシテ而カモ意義深厚ナル信號ノ全艦隊ニ及ホセル精神の影響夫レ幾許ゾ予

カ拙文ノ得テ描出スル所ニアラス

第二十七 歴史上適例ノ撰擇

戦闘ノ成功ニ及ホスヘキ精神の影響ニ關スル問題ヲシテ尙ホ明確ナラシメンカ爲メ軍隊ノ士氣ヲ振起スルノ機能ヲ有シタル三名將ヲ取ラントス而シテ吾人ノ撰擇ハ大戦争時代ニ屬スル同時代ノ三傑則チスウオーロフ^キテルソン及ナポレオンニ落チタリ其スウオーロフヲ取リタルハ彼レ能ク露人ノ特性ヲ知悉シ其純精豐富ナル天性ヨリ全歐ニ驍名ヲ轟カシタル剛勇ナル一軍ヲ創造シタルニ由ルナポレオン及テルソンヲ取リタルハ彼此各海陸軍ニ於テ當時匹儔ヲ見サル大兵家ナルニ由ル但スウオーロフ及ナポレオンハ共ニ陸軍ノ將帥ナルヲ以テ吾人ハテルソンノ研究ニ於テ最モ注意周到ナランコトヲ要ス

第二十八 露國史乘ノ實例

軍艦ノ士氣ヲ熾ナラシムルノ機能ハテルソンノ獨占ニアラス吾人ハ我カ露國海軍ノ創設者タル伯德大帝ニ於テ一層傑出セルヲ見ル大帝ハ始メ躬ラ造船術ヲ修得シ次テ之ヲ臣下ニ傳授シ當時尙ホ未タ沈睡セル海軍ヲ提醒シテ之ヲ以テ瑞典人ノ如キ老練ナル航海者ト戦ヒテ戦勝ヲ占メントセリ凡ソ歴史アリテヨリ以來如斯雄大ナル實例ハ復タ他ニ於テ覓ム可ラス

吾人ハ又茲ニ最近時即チクリミヤ戦争ノ當時ニ於テ露國艦隊ノ士氣旺盛ヲ極メタル例ヲ擧示スヘシ當時士氣ノ奮興ハシノーブノ海戦及セワストボルノ防禦ニ於テ最モ顯ハル彼ノ黑海艦隊員ノ元氣ハ賞揚

ノ語ナキニ苦ム程ナリシハ吾人能ク之ヲ知レリ而シテ當時夫ノ黑海艦隊ヲ創造シタル人物ノ如キハ業ニ已ニ史上ニ特筆アリト雖モ特リ士氣ノ奮興ヲ致セル主ナル原因ニ至リテハ史上未タ盡サ、ル所アリ是吾人カ從來我カ國ニ比シ多數ノ海戰ヲ經歷シタル外國ノ艦隊ニ由リテ例證ヲ求ムル所以ナリ

第二十九 スウオーロフ及其見解

スウオーロフノ爲人ハ世人ノ熟知スル所ニシテ茲ニ予カ紹介ヲ要セス又此名將ニ付キテハ幾多ノ大著述ヲ以テスルモ未タ足レリトセス況ンヤ僅々數言ノ能ク盡ス所ナランヤスウオーロフカ其原因ノ主要ノ一ト爲スモノハ神速ニアリ彼レ會テ謂ヘラク金錢貴カラサルニアラス況ンヤ人命ヲヤ然レトモ猶時ヨリ貴重ナルモノアラサルヘシト(フツシス第二卷第二百十八頁)

スウオーロフカ時間ヲ愛惜スル斯ノ如クナルハ是戰爭ノ實歴ノ彼ニ教ヘテ然ラシメタルナリ

陸軍大佐オルローフノ著書中(一八九二年出版スウオーロフ傳第三百四十六頁)ヨリ左ノ一節ヲ摘録セシ

スウオーロフハ野戰ニ於ケル運動ノ神速ハ能ク偉效ヲ奏スルモノト爲セリ蓋シ機ニ乘シテ敵ノ不意ヲ撃ツハ則チ古今攻撃ヲ行フノ最良策タラスンハアラスト下ノ數言ハ能ク將軍ノ意思ヲ表示スルモノナリ曰ク突貫、神速、奇襲是レ戰ノ秘訣ナリ敵ハ我軍未タ百里二百里以外ニ在リト思惟スルノ時ニ於テ長足疾驅倏忽トシテ彼ヲ襲フヘシ敵ハ悠々電酒高會或ハ我ヲ廣濶ノ地ニ俟ツノ時ニ於テ峻險ヲ攀テ巒

林ヲ貫キ電光一閃驟雨ノ來ルカ如ク江河ノ決スルカ如ク彼ヲ襲フヘシ打ツヘシ追ルヘシ追フヘシ彼ヲシテ思慮スルノ暇ナカラシムヘシ狼狽スル者ハ半ハ敗レタルナリ疑心ハ暗鬼ヲ生シ一人ヲ見テ十人ト爲スナリ用心ナレ機慧ナレ最終ノ目的ヲ失フ勿レ

トレビヤノ戰鬪ノ際バグラチランハスウオーロフノ許ニ來リ隊中ニ後レタル者アルカ爲メニ中隊ノ人員四十人ニ滿タサレハ今少シク來着スル迄攻撃ヲ延期スルノ許可ヲ乞ヘリスウオーロフ之二耳語シテ曰ク君知ラスヤマクドナルド勢ハ一中隊二十人ニ充タス宜シク直ニ攻撃スヘシ此機失フヘカラスト

スウオーロフノ戰勝ハ一ニ僥倖ニ因ルトノ風説一タヒ彼ノ聞ク所トナルヤ將軍笑テ曰ク今日モ僥倖ナレ明日モ又僥倖ナレ然レトモ時トシテ伎倆ニ因ルコト勿ンハ非スト

第三十 スウオーロフ將軍ノ戰術ニ對スルドラゴミーロフ

將軍ノ批評

ドラゴミーロフハ其戰術中本題ニ就テ論スル頗ル詳カナリ思フニスウオーロフノ法則ノ一部ハ素ト敎練ノ方法ニ屬スルヲ以テ或ハ本書ノ他ノ章ニ於テ之ヲ掲記スルコト穩當ナラン然レトモ元來スウオーロフノ眼中敎練ト實戰トノ區別ナキニ由リ吾人ハ敎練の法則モ實戰の法則モ相共ニ本章ニ載スルヲ利便トセリ況ヤスウオーロフカ兵卒ノ爲メニ作りタル敎練の法則ハ下士卒敎練ノ模範トシテ特ニ吾人ニ

有益ナルモノアルニ於テオヤ

ドラゴミールロフ將軍ハ(第四百八十九頁)左ノ如ク云ヘリ

夫ノ戰勝學ナル書ハ其非凡ナル著者生存中ニ發表セラレタルニアラス隨テスウオーロフ自身ノ監督ノ下ニ之ヲ教授シ或ハ之ヲ修得演義シタル者ナカリキ是ヲ以テ若シ幸ニシテ一七九九年ノ伊太利ノ役ニ際シスウオーロフ自ラ之ヲ澳國人ニ直授スルノ必要ヲ見サリセハ今日右ノ著アルヲ知ルモノナキモ未タ知ルヘカラススウオーロフハ其簡單ナル教訓中能ク自己ノ所謂科學ノ原則ヲ説明シタリ是等ノ教訓ハ其著書ノ解釋ニシテ自己ノ方針ニ則リテ必要ノ件ノミヲ示シ其細説ヲ擧ケタルハ極メテ稀ナリ是レ蓋シ事態ハ自ラ其執ルヘキ方針ヲ説明スヘシト認メタルニ由レハナリ

ドラゴミールロフ曰スウオーロフノ戰勝學ナルモノハ元來連續セサル片言隻語ノ字句ヨリ成レリ今吾人ノ見ル所ニ依レハ是レ特ニ其兵卒ノ嗜好ニ適セル所以ニシテ而シテ當代ノ教育アル將校若クハ自ラ教育アリト爲セル將校ヲシテ之ヲ冷視セシメタル所以モ亦茲ニ在ラン實ニ所謂スウオーロフノ戰勝學ナルモノハ一見奇觀ヲ呈セリ然モ其奇觀ナル故ニ兵卒ノ腦底ニ沁入スルコト深ク此科學遂ニ全ク放棄セラレタルニ拘ハラヌ該科學中ノ或格言ノ獨リ我カ國ニ於テノミナラス外國ニ於テモ軍人間ニ膾炙スル所ト爲リタルハ偶然ニアラサルナリ

當時人ハスウオーロフヲ目スルニ非凡ノ軍才ヲ以テスルヨリ寧ロ僥倖ナル一奇人ヲ以テシ其戰勝學

見ルモ亦同一ナリキ思フニスウオーロフノ戰勝タルヤ當時尋常一樣ノ範圍ヲ脱シテ悉ク單純ナル原理ニ基クモノナレハ事々物々謀計ノ所在ヲ索ムルニ汲々タル當時ノ學者輩カ目シテ之ヲ僥倖ニ歸シタルモ多ク恠ムニ足ラサルナリ

抑々此單純ナル原理トハ如何ナルモノナルヤ則チ軍氣ノ旺盛其頂點ニ在ルトキハ往々冒險ノ方畧ト雖モ之ヲ斷行シテ失敗セサルヘク又勝算疑ハシキ場合ト雖モ決行シテ功ヲ奏スルコトナキニアラススウオーロフ學ノ基礎ハ則チ此理ニ外ナラス敏活ナル決斷ハ衆人之ヲ能クスルヲ得只危機一髪ノ間ニ於テ最モ適切ニ最モ敏活ニ決斷スルハ天賦ノ軍才ニ富メル者ニ待タサルヲ得是レスウオーロフノ熟知スル所ナリ故ニスウオーロフハ普通ノ智力ヲ備フモノニ出來得ヘキ敏活果斷力ノ涵養ヲ急務ト爲セリ軍事ニ適切ナルモノハ常ニ之ヲ得ヘク而シテ戰爭ハ殆ト十年毎ニ起レリ故ニスウオーロフノ軍隊ヲ教育スルヤ熟達シタルニアラサルモ決斷力ヲ以テ之ニ蒞ミ能ク其目的ヲ達シ得ヘキ軍隊ヲ養成スルコトニ全力ヲ注入セリ

此靈妙ナル見解論理ハ實戰ノ結果ヨリ來リタルニ拘ハラヌ當代ノ人ハ遂ニ之カ眞價ヲ識認シ能ハサリキ何トナレハ當時滔々タル兵法家皆夫ノフレデリックの軍隊教育ニ戀々タリシニ由レリフレデリックノ教育法ニ依レハ足ノ上ケ方ヨリ頭髮ノ寸法ニ至ル迄一々寸尺ヲ以テ規定スルヲ以テ所謂精神的獨立ノ如キハ雷ニ之ヲ索メサルノミナラス却テ職務上有害ノモノト爲サレハ全ク無用ナリトシ

テ排斥セラレタリ此教育法ハ彼偉大ナル元帥ノ赫々タル戰勝ヲ收メル結果ヨリ生シタルモノニシテ如何ナル場合ニ於テモ必勝ヲ期シタル所ナリスウオーロフカ軍隊ヲ養成スルノ大伎倆ヲ有シ且ツ其戰勝學ノ有益ナルニ拘ラス當時世人カ彼ヲシテ普子ク世人ニ解シ易ク之ヲ記述セシメサリシハ吾人カ奇異ト爲ス所ナリ是レ蓋シ當時スウオーロフニ對スル信用寡ク彼レヲ解スル者少カリシニ由ルヘシ而シテ七十年ノ星霜ヲ經タル今日始メテ彼レノ教育法ノ軍事ノ要義ニ於テ如何ニ正確ニ且ツ多數ノ人心ヲ攬ルニ對シ如何ニ適切ナルヤ漸ク之ヲ解スルニ至ラントス

戰勝學ハ形體ニ於テハ陳腐ニ傾ケルモ其精神ハ常ニ壯健ニシテ人ノ徳性ノ變ラサルカ如ク萬代不易ナル著作ノ一ニ屬スルモノナリ

武器ハ變更スヘク隨テ其取扱ノ方法モ亦改正スヘシ然レトモ武器ヲ取扱フ所ノ手腕及此手腕ヲ行動セシムル所ノ人腦ハ終始變ラサルモノナリ

第三十一 スウオーロフノ戰勝學ニ對スルヂェボカージユノ意見

ドラゴミーロフ將軍ハスウオーロフノ教育學及其著名ナル短兵攻撃ヲ論セルヂェボカージユノ著書(スウオーロフ元帥史要)中ノ數節ヲ採録セリ吾人ハ左ニ最モ參考ニ資スヘキモノノミヲ掲記セン

スウオーロフノ意見ニ依レハ戰術ノ奧義ハ其兵卒ナルト士官ナルトニ係ラス神速ノ決斷勇敢及百折

不撓ノ膽力アリテ之ニ冠スルニ絶體的服從ノ美德ヲ以テスルニ在リ

同將軍ノ所信ニ依レハ神速ノ決斷及不撓ノ膽力ヲ開發スルニハ平素實戰ニ類似スル狀況ニ於テ演習ヲ舉行シ軍隊ヲシテ戰爭ノ顯象ニ馴レシメ終ニ實戰ヲ以テ演習ト同一視スルニ至ラシムルコト必要ナリ

又敵ノ攻撃ヲ待タス何レノ時ヲ問ハス自ラ先シテ敵ヲ攻撃スヘシト云フ得意ノ戰術ニ則リスウオーロフハ常ニ接戰突擊ヲ以テ演習ヲ終了セリ而シテ演習ニハ部隊ノ何レニ屬スルヲ顧ミス之ヲ二分シテ戰ハシメタリ

此兩部隊ハ始メ若干ノ距離ニ於テ開展シタル横隊若クハ縦隊ヲ作り同時ニ運動ヲ起シテ相對抗シ兩隊ノ間隔百歩ニ垂タトスルトキ各指揮官ハ必要ナル攻撃ノ命ヲ下スニ方リ步兵若クハ騎兵共ニ驅足ヲ以テ運動ス或ル時ハ一方ノ騎兵疾驅シテ來襲スルニ對シテ他方ノ步兵ハ射擊ヲ繼續シテ之ヲ迎ヘ撃テ或時ハ又步兵ハ停止シテ來襲ノ騎兵二十歩内外ニ近ツクマテ發火セス其位置ヲ守レリ

騎兵若クハ步兵ヲ襲フモノ騎兵ナルトキハ此演習ハ危險ナキヲ得ス斯ノ如キ演習ノ際ニ落馬シタル者膝ヲ挫傷シ數日若クハ數週ノ後纔ニ歩行スルヲ得ルノ類例ハ予カ屢實見シタル所ナリ

スウオーロフ流ノ演習ニ於テ鍛鍊シタル軍隊ハ實戰ノ演習ニ異ナルコトヲ感セサリシハ敢テ怪ムニ足ラス騎兵ハ常ニ勇敢無前ノ突擊ヲ慣行シ步兵ハ冷然斷乎トシテ之カ襲撃ヲ迎フルニ馴致セリ斯ノ

如キ兵ノ銃鎗ヲ振ヒテ敵ヲ襲フハ猶演習ノ時ニ異ナラス教育ノ方法前述ノ如クナレハ新兵ト雖モ老練ノ古兵ニ對シ敢テ遜色ナキヲ得ルナリ

スウオーロフハ時々暗夜ヲ撰テ教練ヲ行ヒ常ニ銃鎗突撃ヲ以テ之ヲ終了セリ夜間演習ヲ行ヒ以テ軍隊ヲ夜襲ノ場合ニ馴致セシムルノ有益ナルハスウオーロフガ初期ノ戰役ニ於テ確信シタル所ニ係リ爾來將軍ハ此教練方法ヲ確守セシカ將軍カ收メ得タル幾多ノ戰勝ハ實ニ此教練方法ノ賜ニ外ナラサルヘシ

又砲壘攻撃ニ慣レシムル爲メ將軍ハ構及他ノ障礙物ヲ以テ固メタル壘ヲ築キ之ヲ繞ラスニ深キ濠ヲ以テシ尙ホ其周圍ニハ鹿柴、陷穴ヲ設ケ此壘ニ砲兵步兵ヲ據ラシメテ將軍ハ晝夜トナク之カ攻撃ノ演習ヲ爲サシメ且各部隊ヲシテ交々攻守ノ任ニ當ラシメタリ

終ニ臨ミテ一言センニスウオーロフ元帥ハ軍隊ト對話スルノ慣例ヲ有セリ教練若クハ觀兵式ヲ行フ毎ニ其終末ニハ必ラス一場ノ演說ヲ爲シ兵士ノ心得方ヲ訓諭シ又某ノ場合ハ軍隊ノ過失ニ歸スヘク某ノ場合ハ其勤功ニ歸ス等逐一功過ノ例ヲ示シ兵法ノ原則ヲ説キテ之ヲ結了セリ

スウオーロフノ教練法及短兵攻撃ノ方法ハ大ニ海軍々人ニ裨益スル所アリスウオーロフハ夫ノ練兵場ニ於ケル教練ハ以テ戰事ヲ脩得セシムルニ足ラス之カ爲メニハ實戰ニ髣髴タル狀況ニ於テ平時演習ヲ行フニ如クハナシト云ヘリ此ヲ以テ將軍ハ或ハ壘ヲ築キ或ハ他ノ手段ヲ案出シタルナリ勿論司令官ニ

取リテハ百方意匠ヲ凝シ其腦ヲ痛メルヨリ寧ロ常習ノ方法ニ準據スルノ安泰ナルニ如カスト雖モ常習ノ教練ハ演習ノ美觀ニ馴レシムルノミニシテ戰時ニ頻繁ナル突如タル顯象ヲ忘却セシム凡ソ平時ノ演習ニ於テ是等偶發ノ顯象ニ接スルコト愈少ケレハ實戰ニ於テ愈困難ヲ感スルモノトスウオーロフ曾テ云ヘラク教練ニ刻苦スレハ行軍(即チ戰爭)ニ容易ニシテ教練ニ容易ナレハ行軍ニ刻苦セサルヘカラスト

吾人ハ尙ホ陸軍大佐オルローフ著「スウオーロフ」(第六十一頁)中ヨリ伊太利役ニ先タチスウオーロフカ授ケタル一般ノ法則ヲ左ニ掲記スル所アラントスウオーロフハ先ツ歐洲列國ノ位置及其形勢ニ關シテ意見ヲ述ヘ次ニ墺國及露國ハ十萬ノ兵ヲ以テ佛ニ對抗スル旨ヲ述ヘタリ而シテ其一般ノ法則ニ曰ク

- 一 進攻ノ外一物ヲ認メス
- 二 行軍ニ在リテ迅速攻撃疾風ノ如ク銃鎗ヲ用フル最佳
- 三 規則ニ拘泥スル勿レ善良ナル判斷ヲ要ス
- 四 總司令長官ニ對スル無制限ノ職權
- 五 敵ハ野ニ於テ襲撃打破スヘシ
- 六 マインツノ如キ兵站上ノ要地ヲ除クノ外ハ包圍ノ爲メニ日子ヲ費スヘカラス或ル時ハ偵察軍隊

ヲシテ長圍セシムル素ヨリ可ナリト雖モ多クハ突撃ヲ以テ砲壘ヲ取ルヘシ是レ比較的損失少ナキニ由ルナリ

七 數箇ノ地點ヲ防衛セントシテ決シテ兵ヲ分割スル勿レ敵若シ我背後ニ廻ラハ最モ好シ敵ハ斯クシテ敗北ヲ索ムルモノナリ

八 斯ノ如クシテストラスブルグノ方面ニ一個ノ偵察軍隊アリリユクサンブルグニ對シ一個ノ遊撃隊アラハ足レリトス其他取ルニ足ラサル示威運動ノ如キ乃至所謂戰時ノ譎計等ノ如キハ可憐ノ大學出身輩ニ一任スヘキモノニシテ會テ實戰ニ要ナキモノトス

九 緩漫ナル勿レ虚偽ノ注意及嫉妬ハ省局中ノ怪物タリ(フリークスノ第二卷第一頁及第九頁及一八九九年莫斯科出版ノグリッカー「スウオローロフ」自傳第二百二十頁乃至第二百二十二頁)

惟フニスウオローロフカ茲ニ大學出身輩ヲ冷評スル所以ハ維也納ノ軍事會議ナルモノ往々將軍ヲ掣肘シ爲メニ將軍ノ憤怒ヲ來シ且ツ大ニ伊太利役ノ效果ヲ薄カラシメタルニ由ルナリ

第三十二 奧國軍隊ニ下セルスウオローロフ命令中ノ一節

ドラゴミーロフ將軍ノ戰術中奧國軍隊ニ下セルスウオローロフノ命令及訓令ヲ載セタリ是等ノ訓令ハ吾人ノ爲メ良訓誡ナリト雖モ吾人ハ茲ニスウオローロフノ一般ノ見解ヲ示スニ足ルヘキ二三ノ短句ノミヲ掲載スルコト、セン

攻撃ニ就キテ説キツ、スウオローロフハ其終ニ於テ云ヘラク敵ノ葡萄彈ハ頭上ヲ飛行スルモノナリト此言以テ水雷艇ニ乘シテ攻撃ニ向フ者ノ宜シク記憶スヘキモノナリ何トナレハ敵ノ小口徑砲ノ彈丸ハ葡萄彈ニ齊シク頭上ヲ飛行スレハナリ又セバストボールノ砲壘ニ於ケルナヒーモフノ言モ亦記憶スルノ價値アルヘシ曰ク銃彈ハ必スシモ額上ニ命中スルモノニ非スト

銃劍及胡索兵ノ任務ニ關シ該訓令中左ノ如ク謂ヘリ

銃劍ハ一人ノ力ヲ以テシテ能ク三名若クハ四名ノ敵ヲ殲スヲ得ヘク百發ノ銃彈ハ空シク空中ニ飛散スヘシ胡索兵ハ常ニ騎兵ニ尾行スヘシ其迅速ナル能ク勝利ヲ全フス敵敗ル、トキハ一人ノ身ヲ全フスル者ナシ

迅速壓迫ハ是レ實戰ノ精神ナリ遁逃スル敵ヲ殲滅スルニハ追躡スルヲ以テ足レリトス敵走ルトキハ銃火ヲ以テ之ヲ送ル敵ハ發火セス狙ハス又裝填セス遁走以テ身ヲ全フスルニハ不便極メテ多シ

スウオローロフハ硝煙ノ下ニ在リテ歩武整然タランコトヲ主唱ス之ニ關シ訓令中謂テ曰ク敵ヲ距ルコト一時間ノ距離ニ於テ小隊列ヲ作り砲ノ着彈距離ニ至リテ銃ヲ下ケ歩ヲ揃ヘテ進行スヘシ何トナレハ是レ迅速ニ前進スルノ唯一ノ方法ナレハナリ

此法則ヨリ更ニ頗ル有益ナル一法則ヲ設定スルヲ得ヘシ即チ水雷艇ハ敵艦ヲ襲撃スルニ方リ宜シク其

列ヲ正スヘシ何トナレハ是攻撃ヲ迅速ナラシメ一齊ナラシメ隨テ有効ナラシムルノ唯一ノ方法ナレハナリ

第三十三 戰勝術中ノ數節

ドラゴミローフ將軍ノ書中奧國軍隊ニ下ス訓令ノ次ニ戰勝術其モノニ就キテ述フル所アリ吾人ハ茲ニ再ビスウオーロフノ法則手段ノ樞要ナルモノトミテ掲載セントス

左ニ掲クルモノハ士官カ下士卒ニ口頭訓誡スヘキ方法ノ一例ナリトス

兩陣ヲ密接セヨ直立セヨ第四番ヲ見ルヘク第五番ヲ見ルヘカラス

是レ列ヲ整頓スルニ方リ各兵ハ自分ヨリ第四番ニ在ル者ハ見ルヲ得ヘク第五番ニ立ツ者ハ見えナル様ニ爲スヘシトノ義ナリ

彈藥ハ三日ニ互ル様或ハ全役ニ互ル様ニ節儉セヨ發射ハ稀ニ爲シ命中ヲ期セヨ能ク銃劍ヲ以テ突ク

ヘシ銃彈ハ誤リ易ク銃劍ハ誤ナシ銃彈ハ愚鈍ナリ銃劍ハ銳敏ナリ

攻撃ニ關シテハ左ノ法則ヲ授ク

攻撃ニ於テハ他ヲ妨クル勿レ射撃演習ノ時ハ能ク標的ヲ射ヨ一名ニ付二十箇内外ノ銃彈ハ節約ヲ惜ム勿レ火繩ハ葡萄酒ニ接ス宜シク葡萄酒ニ飛附クヘシ彼ハ汝ノ頭上ヲ飛越セン而シテ砲モ人モ汝ニ屬セン殲スヘシ追フヘシ突クヘシ殘餘ノ者ニハ恩惠ヲ施スヘシ徒ニ殺戮ヲ行フハ斷シテ不可ナリ彼

モ人ナリ死セヨ聖母ノ爲メニ母ノ爲メニ皇室ノ爲メ教會ハ神ニ禱ルナリ餘榮ハ死者ヲ待ツナリ

火繩ハ葡萄酒ニ接ス葡萄酒ニ飛附クヘシトハ敵ノ將ニ發射セントシテ火繩ヲ附着スルノ時ニアリテモ葡萄酒ヲ以テ裝填シタル砲ニ飛附クヘシトノ義ナリ終リニ於テスウオーロフハ軍人タル者ノ決死ノ心得ヲ示セリ但シ語中母トハ當時ノ女帝カテリオン二世ヲ指スナリ

右ニ掲載シタルスウオーロフノ語ハ皆極メテ簡明ナリ他人ニ在テハ數句ヲ用フルモノスウオーロフハ能ク一言ニシテ之ヲ盡スノ伎倆ヲ有シタルヲ知ルニ足ルヘシ吾人ハ左ニ吶喊攻撃ニ關スル訓令ヲ掲ケン蓋シ簡短ナル語ヲ以テ事態ヲ描出スルノ明確ナルスウオーロフノ如キハ他ニ其類ヲ見サルナリ

鹿柴ヲ超ヘテ突進セヨ陷穴ヲ經テ牆垣ヲ投セヨ疾驅セヨ材牆ヲ跳越ヘヨ束柴ヲ投セヨ濠ニ降り階梯ヲ懸ケヨ狙撃兵ハ敵ヲ掃蕩セヨ頭部ヲ狙ヒ撃テ隊列障壁ヲ攀デテ壘上ニ登レ壘上ニ至レハ敵ヲ斬レ列ヲ作レ火藥庫ニ衛兵ヲ置ケ騎兵ノ爲メニ門ヲ開ケ敵市内ニ走ラハ敵砲ヲ彼レニ向ケヨ市街ニ向テ劇烈ニ發射セヨ活潑ニ砲撃セヨ彼レヲ追フノ違ナシ左ノ命ヲ守レ市内ニ入レ市街ニアル敵ヲ斬レ騎兵ハ斬リ廻セ家屋ニ入ル勿レ大道ニ在ル者ヲ殺セ敵ノ潜伏スル所ヲ砲撃セヨ大道ヲ占領セヨ檻ヲ作レ門火藥庫貯藏所ニハ衛兵ヲ配置セヨ敵降ラハ恩惠ヲ施セヨ

此ノ數句ハ吶喊攻撃ノ狀況ヲ描出シテ更ニ餘蘊ナシ

スウオーロフハ「三種ノ兵術」ヲ認ム一ニ曰ク目測二ニ曰ク迅速三ニ曰ク壓迫是ナリ此三種ノ兵術ハ

海軍々人ノ爲メニ極メテ貴重ナルモノニシテ之ヲ既往ニ比スレハ現今ニ於テ最モ然リトス海軍々人ノ解釋ニ依レハ目測ナル語ハ概シテ善良ナル海上眼即チ他ノ艦船及海岸ニ對スル自己ノ位置ヲ測知スルノ義ナリスウオーロフノ所謂目測ナルモノハ斷續極マリナク而カモ往々不正確ナル報告ニ基ツケル一切ノ事情ヲ明察シ若クハ所謂軍人的嗅覺ニ依リ事ヲ速斷スルノ義ヲ有スルモノナリ

スウオーロフハ兵卒ニ諭スニ病院ノ厭フヘキヲ以テシ且ツ謂ヘラク病院ニ在リテハ初日ハ軟キ床床第二日ハ佛蘭西汁第三日ニハ看護人ハ棺ヲ運ヒ來ルヘシト

スウオーロフハ露西亞ノ兵卒ト勤強ナル士官ヲ深ク寵愛スルト同時ニ「御意ノ通り」ナル謙遜的短句ノ下ニ自己ノ不決斷ト責任ヲ恐怖スルノ念ヲ掩蔽セントスル薄志弱行者ヲ擯斥スルコト大ナリキ即チ彼レハ病院ノ恐ルヘキモノタルコトヲ兵卒ニ諭告シタル後スウオーロフハ左ノ數言ヲ以テ其演說ヲ終レリ

勇者ヨ敵ハ汝ノ名ニ戰慄スヘシ世ニ病院ヨリ恐ルヘキ敵アリ憎ムヘキハ夫ノ「御意ノ通り連」「暗示連」「推察連」「食言連」「狡猾連」「能辯連」「耳言連」「二股連」「低言連」「愚味連」等ナリ噫吾人ハ此種ノ連中ノ爲メ軍ハ幾許ノ不幸ヲ蒙リタルヤヲ回顧セハ慚愧ニ耐ヘサルモノアリ

スウオーロフハ快活ニシテ機智ニ富ミ事々物々命ノ下ルヲ待タサル者ヲ愛シタリスウオーロフノ部下ヲシテ若シ前記ノ連中ノミナランニハ彼レノ遂ニ赫々ノ偉功ヲ收メ能ハサリシコト明瞭ナリトス

スウオーロフカ如何ニ熱心ニ部下ノ精神ノ常ニ爽快ナランコトヲ圖リ又休憩ノ時間ニ乏シカラサランコトヲ欲シタルヤハ其軍隊ノ行程及發程ニ關スル訓令ニ就キテ之ヲ察知スルヲ得ヘシ即チ其訓令ニ曰ク

止ル勿レ遊步セヨ遊戯セヨ歌ヲ唱ヘ太鼓ヲ打テ音樂ヲ奏セヨ十哩（露哩ヲ示スカ）ヲ行キタラハ第

一小隊ハ風（スウオーロフハ兵ノ背囊ヲ風ト呼ヘリ）ヲ取放チ横臥セヨ

即チ人ノ勞働ニ就カサルトキハ徒ニ之ヲ疲勞セシメス宜シク休憩セシムヘシトノ意ナリ又精神ノ爽快ニ關スル忠告モ亦意義深厚ナルモノナリ

教練ノ事ニ就キテスウオーロフハ例ノ辯才ヲ以テ兵卒ニ對シ教練ノ事ニ説及セリ即チ曰ク

學ハ光明ナリ無學ハ闇黒ナリ技藝ハ技師ニ勝タス農民ニシテ鋤ノ持チ方ヲ知ラサレハ穀物實ラサルヘシ一名ノ學者ハ三名ノ無學者ニ當ルト云フ否吾等ハ尙ホ六名十名ニ當ルト云ハハ悉ク打タン殪サン俘虜ニセン最後ノ戰役ニ敵ハ十萬足ラスヲ失ヘリ兄弟ヨ是レ軍事教練ノ致ス所將校諸君ヨ豈大悅ナラヌヤ

スウオーロフカ兵卒ニ對シテ爲シタル演說中ニハ往々過大ノ語アルヲ見ルモ吾人ハ故ラニ茲ニ之ヲ述ヘサルヘシ前記ノスウオーロフノ演說ニ對スルドラゴミーロフ將軍ノ所見ヲ掲記スルニ止メントス即チ將軍ノ曰ク

此過大ノ語ハ尋常ノ觀念ヲ以テ律スヘキニアラサルナリスウオーロフノ演説ノ聽衆ハ盡ク詩想ニ富メルコト即チ一人ノ剛勇者能ク數拾萬ノ敵ヲ殪シタリト謂フモ會テ奇異トセサル底ノ人物ナリシコトヲ忘ルヘカラス然ルヲ況ンヤ此場合ニハ一人ノ剛勇者ナラス全軍皆剛勇者ナリシニ於テオヤドラゴミーロフ將軍ノ言ハ頗ル參考ニ資スヘキモノタリ露西亞人ナルモノハスウオーロフ時代ヨリ毫モ其性行ヲ變セス其陸軍兵卒ノ服ヲ著スルト海軍ノ襖衣ヲ用フルトニ別ナク教導宜シキニ協ヘハ敢テスウオーロフニ讓ラサル赫々ノ偉勳ヲ樹ツルノ資アルコト是吾人ノ須臾モ念頭ヲ去ルヘカラサル所ナリ

第三十四 ネルソン

吾人ハ是ヨリネルソンノ爲人及其戰勝ノ理由ニ關シ觀察スル所アラントス抑々吾人カネルソンヲ撰擇シタル所以ノモノハ彼レカ耐忍力ト軍人ノ剛毅ト非凡ナル海員の膽力ヲ併有スルヲ認ムレハナリネルソンハ年齒甫メテ二十五才ニシテ既ニ艦長タリ即チ責任アル職務ヲ帶ヒ勤務上有爲ノ生涯ヲ皆海上ニ送りタリ當時戰亂絶ユル期ナク隨テネルソンノ見解及所信ハ海上戰爭ニ於テ發揮セラレタルモノトス是レネルソンヲ措キテ他ニ適合ノモノヲ索ムルモ決シテ得ヘカラサル所以ナリ

ネルソンヲ研究スルニ方リ吾人ハ如何ナル方法ヲ以テ彼レハ其艦隊ヲ教練シ且ツ其乘員ノ志氣ヲ振興

セル歟ヲ描出スルコトヲ努メント欲ス是ト同時ニ吾人ノ尙ホ努メント欲スルモノアリ他ニアラスネルソンハ雷ニ能ク其艦隊ヲ教練シ其志氣ヲ振興シタルノミナラス戰ニ臨ミテハ軍配其宜シキニ適ヒ勝利ヲ得ルニ便宜ナラシメタルコト即チ從來世人ノ往々其海戰術ニ背戾シタルヲ論スルモノアルニ拘ラス其行動ハ能ク戰術ノ原理ニ稱ヒタルノ證ヲ舉クルコト是ナリ

第三十五 眞正ノ耐忍力ノ滅シ難キコトハネルソンニ依

テ識ルヲ得

英國ノ海軍行政ハ常ニ海軍ノ勤務ニ經歷アリ且識見アル若干ノ將官アリテ之ヲ主宰シタルニ拘ラス行政官廳ニ在テ事務ヲ執ルトキハ恰モ布片ヲ以テ其眼ヲ掩蔽セル如キ觀アリテ彼等ノ聰明ハ遂ニ部内將校ノ人才ト凡人ヲ識別シ能ハサリキ

ネルソンハ艦長就職ノ當初西印度ニ於ケル數回ノ海戰ヲ以テ自己ノ伎倆ヲ表彰セリ和睦成ルノ後ネルソンノ耐忍力ト斷乎タル處置ハ該海上ニ於テ能ク英國ノ威望ヲ高カラシメ彼レノ威名亦一世ヲ聳動セリ此時ネルソンハ二十六歳ナリ而シテ其行動ハ將來ノ艦隊司令長官トシテ必要ナル性格ヲ悉ク具備セルノ證左ニアラサルハナシネルソンノ爲人ニ關シジョリアンド、ラ、グラウ、キ、エールハ左ノ如ク記セリ

當時行政官ハネルソンヲ認メテ行政廳ニ對シ猜疑心ヲ抱懷シ行政廳ノ靜謐ヲ擾亂スル好事者流亞ノ

一名ト爲セリ故ヲ以テ其有爲ノ志、火ノ如キ熱心ニ對シ些ノ援護ヲ與ヘサルコトニ決定セラレタリト
 既ニシテ一七八八年ニ於テ子ルソンカ無爲ニ困ムノ餘リ更ニ海上ニ派遣セラレンコトヲ請願シタル時
 ニ當リウキリアム親王ノ保護アルモ遂ニ其效ナク海軍大臣ヘルバート及チャタム伯ハ一七九〇年ヲ以
 テ此請願ヲ斥ケタリ斯ク絶望ノ域ニ陥リタル子ルソンハ職ヲ辭シ退隱ノ志ヲ起セリ當時子ルソン語テ
 曰ク余ハ確信ス予ハ始終忠節ナル且熱心ナル一將校タリシモ未タ會テ故意ニ職務上不正ノ行爲アリシ
 覺ナシト

艦隊ノ爲メニ活潑有爲ノ人才ヲ要シタルハ行政官モ亦是認スル所ナリキ而カモ子ルソンヲ以テ操急事
 ヲ好ム者ト爲セリ而シテ誰カ知ラン子ルソンノ所轄長官ハ常ニ彼カ非凡ノ才能ヲ尊重セルコトヲ現ニ
 子ルソンヲ見テ部下ノ一艦長トスルヨリ寧ロ自己ノ協力者ト爲セルチャーヴキスガ艦隊司令長官ト
 爲リタル後他ノ艦長子ルソンニ語テフード卿若クハホータム長官ノ時ニ於ケル卿ハ卿ノ欲スル如ク行
 動セリ今ヤチャーヴキス司令長官ト爲ルモ卿ノ舉動ハ尙ホ依然タリ卿ハ何人カ司令長官タルモ遂ニ淪
 ル所ナシト

ジュリアンド、ラ、グラウキエールハ反復當時行政官カ子ルソンノ眞價ヲ識認シ能ハサリシコトヲ唱ヘ
 アブキールノ戰闘後子ルソンニ授ケラレタル賞與ノコトニ説及ホシテ謂ヘラク嗚呼子ルソンハ生涯他
 ノ侮辱ヲ蒙ル天運ヲ有セリト

アブキールノ戰闘ニ於ケルネルソンノ勳功偉大ナリシニ拘ラス遂ニ獨立ノ指令權ヲ授ケラレスコベン
 ハーゲンノ役ニ於テハサーハイドパーカーノ指揮下ニ在テ勝利ヲ獲タルナリ當時ハイドパーカーハ退
 却ノ行フヘカラサル時機ニ於テ停戰ノ信號ヲ掲ケ以テ事ヲ過マラントセルモノナリネルソンハ此時
 カルビーノ海戰ニ失亡セル一眼ニ望遠鏡ヲ附シ己ノ旗艦ノ艦長ニ向ヒ謂テ曰ク予ニハ如何ニスルモ
 パーカー長官ノ信號見ヘスト而シテ更ニ傍ラニ在リシ信號士官ニ令ジテ「接戰」ノ信號ヲ降下スルコ
 トヲ嚴禁セシハ皆能ク人ノ知ル所ナリ是ニ由リテ之ヲ觀レハ長官ハイドパーカーハ子ルソンヲシテ軍
 人トシテノ至重ノ犯罪ヲ行ハシメタリ即チ戰闘中長官ノ信號ニ背戾セシメタルモノナリ顧フニコベン
 ハーゲンノ海戰ニ偉勳ノ赫々タルモノアリシニ拘ハラス英國人カ之ヲ賞揚セサルハ蓋シ前述ノ事實ヲ
 以テ之カ事由ノ一ナリト見テ可ナラン歟

今何故ニ中央行政官カネルソンヲ嫌惡シタルヤノ原因ヲ講究スルニ方リ當時彼レハ眞ニ行政官ヨリ所
 謂難物視サレサリシヤト云フ疑問ハ知ラス識ラス吾人ノ念頭ニ浮フ所ナルモ其實相ハ却テ然ラサリシ
 モノ、如シ吾人ハジュリアンド、ラ、グラウキエールノ著書中ニ之カ解答ヲ得タリ該書中處々ニ子ルソ
 ンノ書翰ヲ掲載セシカ是等ノ書翰中子ルソンハ總テ自己ノ長官ニ對シテモ満足ノ意ヲ表シ屢々之ヲ稱
 讚シタルノミナラス自己ノ配下ニモ亦満足ナルヲ述ヘタリ又當時行政官カ執リシ經濟上節約主義ニ關

シテモ亦ネルソンハ他ノ艦艦タルコトヲ得ヘキモノナリ
 テルソンガ櫛風沐雨砲烟彈雨ノ間ニ來往シ經營慘憺裏ニ收得シタル事業モ此間ニ蒙リタル傷痍モ尙ホ
 且ツ後出身者タルノ故ヲ以テ行政官ノ信用ヲ繫クニ足ラストセハ知ラス行政官タルモノ、眼中眞ニ功
 臣タランニハ夫レ如何ノ偉功ヲ樹ツレハ可ナリトスルヤ夫ノナポレオンカ如何ニ人才ヲ貴重シ戰爭ニ
 有益ナル人物ニ對シテハ屢々恕シ難キヲ恕シタルヤノ例ハ吾人後ニ至リ説ク所アルヘシ夫ノネルソ
 ン一度艦隊ニ現ルレハ各艦ノ志氣忽チ勃然ト振起シ一ノ共同目的ヲ達スルノ志即チ敵ヲ殄滅スルノ意
 氣ハ全軍ニ充滿シ戰場到ル處テルソンヲ長官ニ戴ケハ勝利疑ナシトハ各員ノ確信セル所ニシテ一員ノ
 躊躇スル者ナシ其勝敗ニ及ホス所ノ影響實ニ測ルヘカラサルモノアリ英國ノ行政官ハ事實ノ眼前ニ證
 明スルニ拘ハラズネルソンガ全勝ヲ占メタルコトニ容易ニ信ヲ措カサリシハ頗ル明瞭ナリトス爾他ノ
 將官ニ在テハ其目的ハ全勝ヲ得ルニ在ルニ拘ラス尙ホ且勝敗ヲ決スルニ足ラサル些少ノ勝利ヲ以テ滿
 足ヲ買フニ足ルモノアリシト將官カルダーハフキニステールノ海戰ニ於テウキルヌーヴノ率ユル佛西
 聯合艦隊ニ屬スル二艦ヲ捕獲シタルモ翌朝ニ至リ再ヒ艦隊ヲ攻撃スルノ勇氣ナカリキ然ルニ當時英國
 ノ爲メニ怖ルヘキ危險眼前ニ横ハレリ即チナポレオンハ英海峽ノ諸港ニ大軍ヲ集中シ同所ニ二千ノ艦
 船ヲ繫キテ之ヲ英岸ニ送ルノ準備整ヘリ又ウキルヌーヴハ大艦隊ヲ率ヒテカヂスニ在リ若シ彼レヲシ
 テ一度海峽ニ現出シ數日間ト雖モ之ヲ扣制スルヲ得ハ英國ヘノ上陸ハ成功ヲ遂ケンコト疑フヘカラス

ナポレオンハ此時テルソンノ如キ人物ヲ配下ニ有センカ爲ニハ如何ナル犠牲ヲモ辭セサリシナラン而
 シテ英國ノ行政官モ今ヤ初メテテルソンノ缺クヘカラサルヲ覺リタルモノ、如ク彼レニ對スル待遇亦
 前日ト異ナルニ至レリ此事ニ關シジュリアンド、ラ、グラウエール謂ラク（第二編第百五頁）英國海
 軍省ハ久シクテルソンヲ虐待セリ然レトモ遂ニ彼レヲ待ツニ其赫々タル勳功ニ相當スル禮ヲ以テセサ
 ルヘカラサルニ至レリト又バーハム卿ハネルソンニ對シカヂズヨリ地中海ノ全部ニ至ル區域ニ於テ無
 限ノ職權ヲ付與セリ

ジュリアンド、ラ、グラウエールハトラファルガルノ戰爭以前ニ於ケルテルソンノ威望及海軍々人間
 ノ心服ニ關スル例證ヲ擧示シ且ツ曰クネルソンハ斯ノ如キ心服ノ必要ヲ感シタルコト此時ヨリ甚シキ
 ハナカルヘシ何トナレハネルソンハ敵ヲ全敗セサレハ止マサルヲ心ニ誓ヒタレハナリト又當時ネルソ
 ン語テ曰ク余ハ余ノ生命ヲ賭シテ顧ミサルモノナリト又テルソンハ最モ冒險的畫策ノ最中ニ往々自ラ
 カノ足ラサルヲ慨嘆セルコトアリ然レトモテルソンノ或書翰中ニ記シテ曰ク余カ此所ニ來リタルハ困
 難ヲ發見スルカ爲メニアラス予ノ目的ハ困難ヲ排除スルニアリト

テルソンハ一八一五年九月ニ其職ニ補セラレ同年十月二十一日ニハトラファルガルニ於テ早クウキル
 ヌークノ艦隊ヲ滅却シ自ラ之ニ殪レタリ吾人ハ再ヒ茲ニ問ハント欲ス何故ニ行政官ハテルソンノ眞價
 ヲ識認シ能ハサリシ歟然レトモ斯ノ如キ疑問ハ設クルニ易ク決スルニ難キモノナリ如何ナル不公平ノ

處置モ遂ニ此俊傑ノ剛毅ヲ打破シ能ハス其體內ニ熱血ノ循環シタル間ハ剛毅ノ毫モ衰退セザリシハ是レ英國ノ僥倖ト云フヘキノミ而シテ彼ノ自尊心ノ受クル苦痛ハ果シテ幾許ソ而モ總テ之ヲ其心中ニ藏メテ他ニ語レルコトナシ是豈後世ノ龜鑑ニ非スヤ活潑ナル舉動ノ餘、名譽アル災難ヲ招キタル實驗ニ徴シテチルソンハ自身ノ模範的教訓ヲ以テ麾下ノ艦長等ヲシテ艦ノ保存ヲ主眼トセス其授受シタル命令ノ遂行ヲ以テ其主タル職務ト認ムル精神ヲ涵養セリチルソン曾テ海軍省ニ致セル書中ニ左ノ如ク謂ヘリ

予ハ實ニ艦ヲ攔岸セシムルコトヲ怖ル、者ニ非ス若シ艦長ヲシテ如此屑事ニ拘々タラシムルハ決シテ偉勳ヲ樹テシムルノ所以ニ非ス艦ヲ失フモ多ク嘆スルニ足ラス夫ノ「ラベン」ノ破亡ハ惜ムニ足ラスト雖モ艦長ライマンノ死亡ハ彼ノ志業ト共ニ國家ノ損失タラサルヘカラス諸卿ヨ若シ余カ余ノ艦隊ヲ危險ノ位置ニ置キタル場合毎ニ余ヲ裁判ニ下シタランニハ余ハ久シキ以前既ニ官職褫奪ノ耻辱ヲ受ケ議員トシテ上院ニ列スル榮譽ヲ受クルコトナカリシナラン

ジュリアン、ド、ラ、グラウ#エール謂ヘラクチルソンカ麾下ノ艦長ヲシテ己レノ大膽ナル畫策ノ實行ニ於テ能ク援助スルヲ得セシメタルモノハ前段ニ於テ陳述シタル養成法ニ依ルモノナリトナボレオンモ亦艦船ノ損失ヲ見ルコトチルソンニ異ナラザリシハ吾人後ニ之ニ説及ホサン

第二十六 儉約ニ關スルネルソンノ意見

凡ソ豪傑ハ其要求ノ程度ヲ知ラス而シテ自ラ消費スル物件ノ價值ヲ知ラストハ往々聞ク所ナレトモ是大ニ誤レルモノナリジュリアン、ド、ラ、グラウ#エールノ著書ヨリ引用セル左ノ一節ハ名將モ能ク節約ヲ守ルノ證左タルヲ得ヘシ

需品ノ保存及其適法ノ支出ハ特ニチルソンノ注意セル所タリ此ノ嚴格ナル節約ハ今日尙ホ英人ノ記憶ニ存スルモノニシテチルソンハ他ノ將官ノ如ク屢々需品ノ欠乏ニ對シテ苦情ヲ唱ヘタルコトナシ

第二十七 艦隊司令長官ノ權限ニ對スルチルソン及ジュ

リアン、ド、ラ、グラウ#エールノ意見

種々ノ艦ヲ以テ艦隊ヲ編成スルニ當リ同一ノ任務ヲ帶ヒタル是等ノ戰團單位ヲ同一體ニ結合スルハ則チ之レカ指揮ヲ司ル旗將ノ本分タルハネルソン能ク之ヲ了解セリ而シテ艦隊司令長官ノ事業成功スルト否トハ素ヨリ其伎倆ノ如何ニ依リテ岐ル、ト雖モ而カモ亦其職權ノ大小其部下ニ對スルノ精神的影響ノ多少モ大ニ亦與リテ力アルコト論ヲ俟タサルナリチルソン曾テセント、ウ#ンセント伯(即チジエルウキス氏)ニ送レル書中左ノ如ク謂ヘリ

凡ソ將校ハ其旗將ノ爲メニ拔擢セラル、ヲ期望セサルヘカラス若シ此期望ナカリセハ彼等ニ對シ長官ノ見テ以テ其實不肖ヲ區別スルノ效果何クニアルヤ

此事ニ關シジュリアン、ド、ラ、グラウ#エール謂テ曰ク如何ナル巧妙ナル行政官ト雖モ當時ノ狀況ヲ

變スル能ス夫ノ創設的實力ハ常ニ指揮官ニアリテ存スルモノトス佛國ニシテ其艦隊司令長官若クハ鎮守府司令長官ヲ信任シ彼等ヲシテ政府ノ名義ヲ以テ部下將校ニ賞典ヲ配與スルコトヲ得ルノ時來ラシメハ是則彼等ヲシテデヤーヴキス及ネルソンカ英國艦隊ノ爲メニ畫シタル如キ有力ナル艦隊ヲ建設スルニ難カラサルヘク此ヨリシテ始メテ佛國海軍々人ヲシテ其未タ曾テ感セサル長官ニ對スル愛慕心ヲ喚起スル期シテ待ツヘシ

此二大家ノ説ニハ勿論同意ヲ表セサル可カラス何トナレハ長官ニ附與スルニ懲罰ノ權ノミヲ以テシ效驗ノ著明ナル獎勵ノ職權ヲ授ケサランニハ長官カ其艦隊ヲ鼓舞スル手段全キヲ得テ其施設ノ根底亦自ラ鞏固ナル能サルヘシ斯ノ如キ境遇ニ在ル長官カ趨起遂巡敢テ改良ヲ圖ラサルハ一理ナキニアラサルナリ何トナレハ一物ノ創設ハ他ノ破壊ト相伴フモノナレハ他ニ新ニ建設スルノ方法ナキトキハ舊來ノモノハ破壊ヲ慎ムヘキハ素ヨリ其處ナルヘケレハナリ

第二十八 命令執行者ニ關スルナポレオン及子ルソンノ

意見

命令執行者及隸屬者ニ關シテハナポレオン及子ルソン各意見ヲ異ニセリ

凡ソ勳功ヲ識認シ功臣ヲ賞スルノ機能ニ於テハナポレオンノ右ニ出ツル者ナシナポレオンハ人物ヲ其現在ノ儘ニ見テ人ノ行爲ヲ判定シ良シ短所アルモ主ナル目的タル敵ノ殄滅ヲ妨ケサル以上ハ常ニ之ヲ

宥恕シタリ然カモナポレオンハ往々其畫策ノ施行者タルヘキ人才ノ欠乏ヲ訴ヘタリ

子ルソンモ又人物ヲ其現在ノ儘ニ見タルノ點ニ於テハナポレオンニ異ナラスト雖モ而モ子ルソンハ最も腹藏スル所ナキ信書ニ於テモ彼レカ部下ノ將校艦船及下士卒ヲ否難スルカ如キ痕跡タニナク執レモ善良ニシテ職務ニ熱心ナリトノ意見ヲ有シタルハ彼レノ通信ヲ通讀シタル者ノ信シテ疑ハサル所ナリ
(海戰第一編第四十一頁)

第二十九 規律ニ關スルデヤーヴキス及子ルソンノ意見

子ルソンハ規律ノ關係ニ於テハ曾テ英國ノ艦隊ノ地位ヲ非常ニ高メ得タルデヤーヴキスノ門弟タリ而シテデヤーヴキスハ無限ノ服從ハ秩序ノ維持上須臾モ缺クヘカラサルノ意見ヲ抱有シタルモノナリ彼レハ其艦隊所屬ノ將校間常ニ外面上敬意及服從ノ彰表セラレンコトヲ促シ且ツ謂ヘラク規律既ニ外形のニ現ハル、モノ既ニ其内ニ幾分ノ實在ヲ證スルニ足レリ又或時子ルソンニ送レル信書中彼レ記シテ曰ク予ハ水兵ノ不服從ヲ恐ル、モノニアラス予ヲシテ寒心セシムルモノハ將校間ノ不注意ナル會話ト其授受シタル命令ヲ批評スルノ習慣トニアリ真正ノ危險ハ此事ニ在リテ存シ百般ノ禍源之ニ胚胎セサルナシト當時正確ナリシデヤーヴキスノ此言ハ今日ニ至ルニ其正確ノ度ヲ減セス而シテ此關係ニ於テ己レノ不注意ヲ責メサル者ハ將校中恐ラクハ一名モ之ナカルヘシ

第四十 乘組員ノ健康ニ關スル子ルソンノ意見

又大ニ參考ニ資スヘキモノナリ木製ノ槽ニ盛リテ清水ヲ保存シタル困難ノ時代ニ在リテチルソンハ永時ノ巡航後能ク乗組員ノ健康ヲ維持スルヲ得タリ此事ニ關シジュリアン、ド、ラ、グラウ[#]エールハ左ノ如ク謂ヘリ(第二編第六十五頁)

十六ヶ月ノ間始終セン、セバスタアノ一及サルチニア間ノ巡航ニ從事シタル後チルソンノ率ユル艦隊ノ乗組員六千人中一人ノ患者ヲ出サ、リキ此俊傑カ部下水兵ノ健全ヲ維持スルニ於テ有益ナル事ト云ヘハ細事ニ至ルマテ如何ニ重視シタルカハ實ニ後世ノ龜鑑トスヘキモノナリ作戰方略ノ編成ニ著手スルニ先チチルソンハ單ニ自己ノ考案ノ梗概ヲ示シ且ツ語テ曰ク己レノ職責ヲ知ル者ノ間ニハ信號ハ不用ナリ我輩ノ努ムヘキハ相互ニ應援シ成ルヘク接近シテ敵ヲ壓迫シ且ツ敵ノ逃走ヲ妨遮スル爲メ彼レノ風下ニ配列スルニアリト、方略ノ斯ク簡單ナリシニ似ス食品若クハ被服ノモル列島ヨリ艦隊ニ到來シタルトキノ如キハ彼ノ綿密ニ處理スルヲ欲スルヤ容易ニ満足ヲ得ル能ハサリキチルソンノ生活ハ頗ル快活ナリキ前項ノ記者ノ云フ所ニ依レハ彼レハ朝四時五時ノ間ニ起キ曾テ六時後ニ朝食ヲ喫シタルコトナシ朝食ノ席ニハ必ス一二名ノ少尉候補生ヲ侍セシメタリチルソンハ是等ノ快活ナル未來ノ士官ヲ愛シ是等ノ童兒ト談笑スルヲ憚ラス彼等ニ劣ラス往々自ラ俱ニ戲レタルコトアリ

第四十一 海軍士官ノ養成及教育ニ關スルチルソン及

ジュリアン、ド、ラ、グラウ[#]エールノ意見

吾人ハ左ニ海軍々人タランコトヲ志願スル青年者ノ海軍的養成ノ初期ニ關スルジュリアン、ド、ラ、グラウ[#]エールノ意見(第一編第八頁)ヲ掲載セント欲ス

海軍ノ生活ハ感得ニ富メル天性ト百折不撓ノ忍耐力アルヲ要シ就任ノ初期ニ在リテハ學識往々其實際ノ必用ニ過クルモノアルヲ想ハシムルコトアリ何トナレハ此生活ニ在リテハ其得ル所ハ自己ノ實踐ト看得ニ依ルモノ多キニ居ルヲ以テナリ

又斯道ニ於テ最モ信憑ノ價值アルチルソン動モスレハ人ニ語テ曰ヘラク水兵ノ實踐的知識ト紳士ノ高尚ナル習慣ヲ併有スルモノニアラサレハ決シテ善良ナル海軍士官タルコトヲ得スト是ヲ以テ斯道ニ就キテ人ノ問フアレハ彼レハ海上ノ勤務ヲ志願スル青年者流ニ諭告スルニ航海學及佛語ヲ修了シタル後宜シク舞蹈ノ稽古ニ著手センコトヲ以テシタリ

壯年海軍々人ノ教育訓練ニ關スルジュリアン、ド、ラ、グラウ[#]エール及チルソンノ意見ハ今日ト雖モ多數人士ノ同意スル所タリ是レ其正鵠ヲ得タルモノ多キニ由ラスンハアラス

第四十二 海員トシテノチルソン

純然運用術ノ點ヨリ觀察シツ、ジュリアン、ド、ラ、グラウ[#]エール左ノ如ク論セリ

現今ノ技術ヲ以テスルモ尙ホ且不可能ト認ムヘキ艦ヨリ成レル艦隊ヲ率キチルソンガ殆ンド前例ナ

キ長日月ノ間之ヲ嚮導シタル其最後ノ巡航ハ之ヲ聞ク海軍將校ヲシテ驚嘆措ク能ハサラシムルモノナリト

如此艱困ヲ以テ教習トセル英國人カ夷然トシテ航海ノ難業ヲ凌駕スルモノ又宜ヘナラヌヤ曾テ五塞ヲ冒シテ佛國ノ諸港及沿岸ヲ封鎖シ之ヲ戰慄セシメタル頑固ナル巡航ノ効果ハ擧テ數フヘカラス曾テ佛軍ノ作戰方略ヲ無効ニ歸セシメタル迅速ノ運動ノ如キ英國ノ艦隊ハ海洋ノ全面ヲ掩フノ感ヲ起サシメタル突如タル集中ノ如キ皆海上ニ於テ得タル實驗ニ依ラスンハアラス是故ニ非常ナル精勵ト稀有ノ勇膽トヲ一身ニ具備シタルテルソンノ如キハ軍人ノ勇膽ノ點ヨリスルモ尙一層海員ノ精勵ノ點ヨリ之ヲ研究センコトヲ要ス

第四十三 子ルソンハ如何ニ戰勝ヲ解釋シタル歟

海員トシテノテルソンノ勳功ハ毫モ軍司令官トシテノ價值ヲ減殺セサレハテルソンハ如何ニ勝利ナル語ノ意義ヲ解シタルヤヲ講究スルハ極メテ緊要ナルヘシテルソンノ解釋ハ總テ知名ノ武將ノ解釋ト符節ヲ合スルカ如キモノアリテルソンノ意見ニ依レハ戰勝ハ敵ヲ全滅シ得テ始メテ豫期ノ效果ヲ呈スルモノニシテ否ラサルトキハ單ニ一時若干ノ成功ヲ與フルニ過キステルソンハ戰鬪ノ終期ニ於テ敗余ノ敵ヲ追撃シテ全敗セシムルニアラサレハ止マサルノ精神ヲ以テセリ地中海ニ於テ佛國艦隊ノ行爲ヲ憂慮スルヨリハ予ハ先ツ予ノ艦隊ノ一半ヲ燒失セン云々ノ語ハ部下各艦長ニ向ヒ能クテルソンノ期望ト

其半成功ヲ以テ満足スルモノニアラサルコトヲ表示セリテルソンハ「アガムーン」ニ艦長タリシ時ヨリ前述ノ意見ヲ抱懷シタレハ一七九五年三月十四日ゼノア灣頭ニ於ケル緩慢ナル海戰ノ後旗將ホーナムノ許ニ至リテ損害ヲ蒙リタル諸艦ハ弗列曼艦數艘ヲシテ之ヲ掩護セシメ殘餘ノ十一艦ヲ以テ速ニ敵ヲ追撃セラレンコトヲ請求セリ此事ニ關シテルソンカ夫人ニ送リタル書中ニ謂テ曰ク彼レハ平然トシテ予ニ告ケテ曰ク我輩ハ満足シテ可ナリ今日ノ結果甚タ良好ナリト（敵艦二隻ヲ得タリ）而シテ予ノ意見如何ト云フニ予ハ此意見ニハ同意シ能ハサルナリ假リニ十一隻ノ敵艦戰場ヲ遁逃セント試ムルニ當リ我其十一隻ヲ捕獲シ一隻ハ之ヲ拿捕スルノ機會アリシニ拘ラズ偶々之ヲ逸シタリトセン歟予ハ未タ以テ好果ヲ收メタルモノト認メサルヘシト茲ニ特ニ吾人ノ留意ヲ要スルハテルソンガ右ノ說ヲ呈出スルタメ旗將ノ許ニ到リタルハ連戰二日ニ亙リ大ニ盡ス所アリタルノ後ナル事ナリトス戰鬪ニ於テ倦厭ヲ知ラサル天性ハ決然タル戰勝ヲ得ル所以ナリ

既ニシテ吾人ハセントウキンセントニ於ケルテルソンノ行動ヲ見ルニ彼ハ「キャプテイン」艦ヲ以テ退却セントスル敵艦ヲ迎撃シ以テ風下ニアル本隊ニ合スルヲ妨遮シ併セテ決戦スル能ハサラシメタリ斯ノ如クニシテ始メテ西軍ニ全敗ヲ加フルノ機會ヲ得セシメタルナリ

既ニ旗將トナリタルテルソンハ艦隊ノ準備ヲ整ヘ敵軍ノ全敗ヲ目的トスル戰鬪訓令ヲ編成セシニ果シテアプキール、コペンハーゲン及トラファルガルノ海戰ハ巨大ナル戰略的政略的影響ヲ及ホシタル全

勝ノ適例タルヲ見ルニ至レリ

予或日軍學ノ大家某氏ト會見シタルトキ談偶々本問題ニ及ヒタルルニ氏ハチルソンノ如キ能ク決然タル戰勝ヲ得ルノ途ヲ知ルモノト云フヘシト謂ヘリ陸戰ニ在リテモ戰場ヲ保有シタル者ハ則チ戰勝者タリ敵若シ退却センカ之ヲ戰勝ト稱スル亦妨ケス然リト雖モ戰勝ヲ充分ニスルニアラサレハ(即チ追撃ヲ行ヒ以テ敵軍ノ滅亡ヲ來スノミナラズ尙ホ土地ノ占領ヲ遂クルニアラサレハ)戰勝ノ成果ハ極メテ微々タラサルヲ得ス然ルニ海戰ニ在リテハ敵軍戰場ヲ退却スルモ未タ以テ味方ノ戰勝ト爲スヘカラス敵ノ全部若クハ一部ヲ破壊シ始メテ戰勝ト認ムルヲ得ヘシト雖モ一部ノ破壊ヲ遂ケタル後殘餘ノ部分ヲ追撃セサレハ戰勝全カラス之ニ反シテ之ヲ追撃セハ敵ノ艦隊ノ全敗ヲ促スヲ得ヘケレハナリ又敵ノ艦隊運送船ヲ伴ヒタル場合ニ於テ之ヲ捕獲スルカ若クハ敵ノ據テ以テ根據トスル港灣ヲ占領シタランニハ戰勝ヲ完フシタルモノト認メテ可ナルヘシ

前述ノ定説ヨリスレハ海戰ニ關シテハ吾人ハ完全ナル戰勝ナル語ヲ用フルヲ以テ正鵠ヲ得タリト爲スモノナリトス

第四十四 子ルソンノ戰勝ノ原因

吾人ハ今茲ニ子ルソンガ戰勝者トナリシ原因ヲ講究シ又是等ノ戰勝ハ果シテ偶然ノ結果ナリシヤ將タ艦隊司令長官ノ智謀ニ依テ計畫セラレタルニ因ルモノナルヤヲ研究セントス之ニ關シジュリアン、ド、

ラ、グラウキエールハ左ノ如ク云ヘリ

英人ガ(一七九六年ヨリ一八一四年ニ至ル)成功ヲ遂ケタルハ其艦數ニ於テ卓越シタル故ニアラズ其海員ニ富ミタルノ故ニアラズ其海軍省ノ影響ニ由ルニアラズ亦其大航海者ノ學理的考案アルニモアラス只其艦隊ノ教練紀律ノ他ニ卓越シタルニ職由スルモノナリト

這般ノ卓越ハ乃チチャウキス及子ルソンノ功勞ナリ此積蓄シタル永年ノ勞功是レ乃チ吾人ノ研究ニ努ムヘキモノナリ吾人若シ子ルソンカスノ勇膽ヲ以テ鬪フタルコトヲ了解セント欲セハ宜シク其艦隊ノ準備ニ汲々トシテ倦ムナキノ舉動ニ留意セサルヘカラズ抑モ子ルソンハチャウキスノ指揮下ニ在リテ彼レヨリ巡航ヲ繼續シツ、能ク乗組員ノ健康ヲ維持スルコトヲ習得セリ又全年中港灣ニ派遣セスシテ諸艦ヲ能ク海上ニ在ルヲ得サシムルコトヲ習得シタリ就中特ニ重要ナルハ其艦隊ノ軍事的及海事的教練ニ注意シタルニ在リ而シテ彼レカ天稟ハ此教練ニ向テ特ニ幫助スル所アリシヤ知ルヘキナリ彼レハ其最モ紀律能キ艦隊ヲ擧テ同僚兄弟ノ一團結ト爲セリ彼ハ全艦隊ニ於テ一旗ノ下ニ戰鬪スルノ任務ヲ有スル各自間ニハ相互ノ愛情ト相互ノ信用盛ナランコトヲ切望セリ緊急ノ業務ヲ執ルノ時ニ於テモ危急存亡ノ秋ニ際シテモ彼レハ常ニ配下ニ生シタル爭論ニ立入り巧ニ部下ノ不和ヲ未然ニ防遏スルコトヲ得タリ此些々タル事項ニ關シ此微々タル談判ニ於テ斡旋ノ勞ヲ取りタル此偉人ノ言行ニ留意スル者ハ艦隊ヨリ父事セラル、長官カ之ニ及ホシ得ヘキ影響ノ如何ニ宏大ナルヤヲ容易ニ了解スル

ヲ得ヘシ然レトモ將校ガテルソンニ心服シ何事ニ依ラス彼レヲ援助センコムニ汲々タリシ主ナル原因ハ彼ノ命令及訓令ノ簡明ナルニ在リキ部下ノ各員ハ能ク旗將ノ意ノ有ル所ヲ知悉シタリ是誤解及躊躇ヲ避クルニ極メテ重要ノ事ナリトスジュリアン、ド、ラ、グラウ[#]エール曰クテルソンハ非運ナル將校ト雖モ曾テ之ヲ否難シタルコトナシ彼レノ意見ニ依レハ艦長ニハ決シテ過失アルコトナシ艦長若シ其艦ヲ失ハン歟之ニ他ノ艦ヲ授クルヲ以テ至當ト認メタリト

吾人今テルソンハ如何ニ戰術ノ原則ヲ遵奉ンタル歟即チ敵ニ對シ部下ノ諸艦ヲ有益ナル位置ニ排列シタルヤ否ヤヲ觀察セント欲ス

此事ニ關シ英國ノ歴史家ジエームス謂エラク出來得ル限り敵ニ近接シ以テ出來得ル限り迅速ニ敵ヲ敗ルナル數言ハロルドテルソンノ戰術ノ全斑ヲ盡シタルモノナリ複雑ナル艦隊ノ運用ハ往々錯誤ヲ免レヌ多クハ豫期セル所トハ反對ノ結果ヲ來スコトハ彼能ク之ヲ知レリ

是ニ由リテ之ヲ觀レハジエームスハテルソンヲ認メテ以テ堪能ナル戰術家即チ自己ノ諸艦ヲ敵ノ諸艦ヨリ一層利便ナル位置ニ排列スル艦隊司令長官トハ爲サ、ルナリ

ジュリアン、ド、ラ、グラウ[#]エールノ説ハ(第二編第五百五十八頁)ジエームスノ説ト符合セリ即チ左ノ如シ

一陸將アリテルソンノ戰術ヲ逆施シ即チ此名海將カ屢々己レノ艦隊ヲ置キタル位置ニ其敵ヲ排列セ

シメタランニハ彼ノ將官ハ當ニ敵軍ヲ敗ルニ適切ナル方策ヲ取リタルモノナルベシ斯ノ如キ異風ノ戰術ハテルソンノ作戰命令ニ於テヨリハ寧ロ實況ニ就イテ演シタル行爲トシテ之ヲ見ルヘク若シ齊シク老練ナル艦隊トノ戰鬪ニ於テ此戰術ヲ用ヒタランニハ是レ自ラ滅亡ヲ求ムルモノナリ然ルニ一七九八年乃至一八〇五年ノ戰役ノ際兩國艦隊ノ狀況ニ依レハ勇敢ナル攻撃ハ海戰史上前代未聞ノ大勝利ヲ得セシメタルナリ若シ成功ヲ以テ結局セルモノヲモ過誤ナリト云フヲ得ヘクンハ此場合ニ於テテルソンハ所謂過チノ功名ヲ博シタルモノナリ

同著者復タ謂テ曰ク(第一編第三頁)

テルソンハ豫メ作戰ノ方略ヲ作り部下ノ將校ヲシテ之ヲ領會セシメンコトヲ努メタリ然レトモ一タヒ敵前ニ出ツレハ速ニ之ニ近接シテ雌雄ヲ一戰ニ決セントスルノ狀ハ恰モ達運ノ寵兒カ勢ニ乗シタル如クシテ機ヲ見テ之ヲ利用スルモノニアラサルヤノ觀ヲ呈シタリ

則チジュリアン、ド、ラ、グラウ[#]エールハテルソンノ戰術的行動ヲ以テ過誤ト爲スモノナリ然モ其非凡ノ神算ヲ以テ成功結局シタル廉ヲ以テテルソンニ此過誤ヲ恕セリ彼レハテルソンヲ見ルニ好遇ノ寵兒ヲ以テシ而テ眞ニ己レノ欲スル所若クハ己レノ能力ヲ確知スルノ人ト爲サステルソンノ戰術ニ關スル意見果シテ斯ノ如クンハ海戰ノ諸條件ヲ研究スルノ必要ナク敵軍ニ出會セハ幕地直前之ヲ襲撃シ殲滅スレハ足レリトノ斷案ヲ下スモ可ナラン然レモ這般ノ斷案ハ素ヨリ當ヲ失スル者ナリ若シ一艦長アリ

何等ノ畫策モナク猛然敵ヲ襲撃セハ之ヲ詰問セサル者ナカルヘシ然リ斯ノ如キ舉行ハ司令長官タルノ特質即チ勇膽ト決斷力トヲ併有スルコトヲ證表スルモノナレトモ成效ヲ全フセンニハ尙更ニ巧妙ナル戰術的考慮ヲ以テセサルヘカラス吾人ハ是ヨリ努メテ子ルソンハ常ニ整然タル戰術的考慮ヲ具有シタルノ證左ヲ擧ケントス然レトモ子ルソンカ戰勝ヲ完フシタル秘訣ハ自己ニ無限ノ信任ヲ置カシメタルコト及ビ此自說ニ依リ其最モ緊要ナリトシテ重シタルモノハ戰術ニアラスシテ勇壯ナル言語ヲ以テ士氣ヲ鼓舞振作セシメタルニ在ルヲ知ラサルヘカラス

第四十五 子ルソンカ海軍戰術ヲ蔑視シタルハ果シテ眞

ナル歟

子ルソンハ戰鬪中戰術的計算ヲ蔑視シタリトハ多數大家ノ主唱スル所ナリト雖モ全然此意見ニ同意ヲ表スルコト能ハス現ニアフキールニ於テ彼ハ全力ヲ盡シテ風上ニ排列シタル敵艦ノ線列ニ迫リ風下ノ敵軍ヲシテ應援ノ機ヲ得サラシメタリ今戰術ノ定則ヨリ論スルニ此運動ハ全然其當ヲ得タルモノト云フヘシ

コペンハーゲンノ砲撃ハ勢力ノ不權衡ナルアリ且水淺ノ爲メ實行ノ至難ナリシヲ以テ頗ル冒險ノ事業ナリシハ論ヲ俟タスト雖モ諸般ノ運動能ク宜シキニ適ヒ戰術的の原則ノ蔑視ヲ以テ子ルソンヲ詰責スルノ事由ハ遂ニ之ヲ發見シ能サルナリ子ルソンカ旗將ニ迫ルニ速ニ砲撃ノ開始セラレンコトヲ以テシタ

ハ闘心制シ難キノ故ニアラスシテ一日ノ遲延ハ丁國ノ軍備ヲ増大セシメ成功益困難ヲ極ムルカ故ナリ這般ノ考慮ハ最モ戰術ノ原則ニ合シ而シテ敵ノ不意ニ乘スルハ成功ヲ必至ニ期スル所以ナレハナリパーカーハコペンハーゲン海戰ノ開始ヲ遷延シ以テ困難ヲ感セシメタリ而カモ吾人ハ此事ニ關シ毫モ子ルソンヲ批難スヘキ點ヲ認メサルナリ

顧フニトラフアルガルノ海戰ニ於テ子ルソンガ部下ノ艦隊ヲ導キタル方法ハ彼レヲ戰術ノ蔑視者トシテ批難スルノ主因タルヘシ此海戰ニ於テ子ルソンハ一直線ニ敵艦ノ線列ニ向ヒテ突進シタリ而シテクラルクノ說ニ依レハ他ノ艦隊ニ向ヒテ一直線ニ突進スル艦隊ハ必ス敗滅ヲ免カレサルモノナリ

第四十六 トラフアルガルノ海戰ニ先スル子ルソンノ訓令

ノ拔萃

吾人ハ茲ニ子ルソンガ眞ニ海軍戰術ノ原則ヲ總テ蔑視シタルヤ否ヤヲ觀察セント欲ス(第二圖參看)子ルソンハ四十隻ヨリ成レル自己ノ艦隊ヲ左ノ如ク排列シ且ツ曰ク

艦隊ハ各十六隻ヨリ組成セル二小隊ニ分割シ二層甲板ノ快走戰艦八隻ヲ以テ第二小隊ヲ編成セリ斯ノ如キ排列法ニ依ルトキハ二小隊中司令長官ノ撰擇ヲ以テ何レヲモ二十四隻ノ線列ニ變更スルヲ得ルモノナリ予カ次席ノ旗將ハ予ノ訓令ヲ接受シ予ノ志望ヲ知悉セハ敵ニ向ヒ突撃ヲ行ヒ聯合艦隊ノ諸艦ヲ破壊シ若クハ之ヲ捕獲セサル間戰鬪ヲ繼續スルニ於テ自己ノ線列ノ全指揮權ヲ有スヘシト

尙ホ該訓令中子ルソソハ左ノ如ク謂ヘリ

敵ノ中軍及後軍ヲ攻撃スルニ當リ英艦ノ數ハ切斷セラレタル敵艦ノ數ニ對シ始終四分ノ一程ノ優勢ヲ保有スルコトニ注意スヘシ勿論海戰ニ於テハ一事トシテ確乎不動ト謂ヒ得ヘキモノナケレハ不慮ノ事ナキヲ保セス就中砲彈ノ爲メニ檣及帆桁ノ切斷セラル、モノ敵ニモ味方ニモアルヘシ然リト雖モ予ハ敵ノ前軍カ其後軍ニ應援スルニ先チテ戰勝ヲ占ムルコトヲ確信ス其後尙英艦ノ多數ハ敵艦二十隻ヲ迎撃シ或ハ其遁走ヲ試ミントスル時ハ之ヲ追撃スルニ足ルヲ信ス

予カ次席ノ旗將ハ何レノ場合ニ在リテモ事情ノ許ス限り成ルヘク其部下戰艦ヲ散亂セシメス自己ノ線列ヲ操縦スヘシ各艦長ハ其所屬線列ヲ以テ集合點トスヘシ信號見エサルカ或ハ其解シ難キ場合ニ於テハ何レノ艦長ヲ問ハス自艦ヲ以テ敵艦ニ密接スレハ錯誤シタルモノニアラスト心得ヘシ

子ルソソカ示シタル作戰方略ハ頗ル明晰ナリ彼レハ四十隻ヲ三艦隊ニ分割シ此内二隊ヲ以テ本隊ト爲シ快走艦ヲ以テ編成セル一隊ヲ以テ本隊ノ一ニ合スヘキ補助隊ト爲セリ作戰方略ノ主眼ハ全力ヲ盡シテ敵ノ中軍及後軍ヲ突キ前軍應援ニ來ル以前ニ於テ之ヲ打破スルニ在リキ、子ルソソハ部下ノ諸艦カ盡ク敵ノ線列ヲ斷過シテ而シテ風下ニ排列センコトヲ希望セリ線列切斷ノ運動ハ至難ノ事業ナルハ論ヲ俟タスト雖モ子ルソソノ率ヒタル諸艦ノ艦長ハ所謂碇泊トハ何ノ意ナルヤ殆ト知ラサル程航海ヲ繼續シ大ニ運用術ニ熟達シタルヲ以テ彼大ニ期スル所アリタリ敵ノ線列ヲ中斷スル際英艦ハ何レモ最モ

有利ノ位置ニ於テ兩舷ヨリ一齊ニ敵ヲ縱擊スルヲ得タリ而シテ各艦敵ニ接スルニ從ヒ其艦尾ヲ航過セントスル敵艦ノ艦首ヲ通過セントスル針路ヲ取レリ(第三回參看)如斯狀勢ニテ敵我ニ砲撃ヲ續行セント欲セハ其砲ノ旋回角度大ナラサルヘカラス然レトモ當時代ノ砲ニ旋回角度ノ大ナルモノナカリシハ吾人能ク之ヲ知レリ既ニ線列ヲ切斷シタル後英艦ハ風下ニ出テ陣形ヲ整ヘタルヲ以テ砲烟ハ忽チ風ノ爲メニ飛散スルモ之ニ反シテ敵艦ノ高舷ノ風下ニ集叢セル黒烟ハ永ク同一ノ所ニ殘留シ大ニ砲ノ照準ヲ妨ケタリ

前段陳述スル所ニ就キテ之ヲ見ルニ子ルソソノ作戰ノ方略ハ當時ノ事情ニ於テ全然適切ナリ即チ當時存在シ得ヘキ戰術ノ原則ニ適ヘルモノト謂フヘシ

該訓令ノ精神の方面ヨリ觀察スルニ其實ニ他ニ比類ナキヲ見ル一字一句皆部下ノ旗將艦長及全乗組員ニ對スル信任ノ表示ニアラサルハナシ該訓令ノ初部ノ結言即チ何レノ艦長ヲ問ハス自艦ヲ敵艦ニ密接スレハ錯過シタルモノニアラストハ眞ニ無限ノ趣味ヲ含有セリジュリアン、ド、ラ、グラウ^キエールハ此言ニ就キ曰ク此大量ナル言即チ戰術ノ原則ヲ斯ク簡明ニ意味深厚ニ解釋スル此言ヲ聞キタル後炎情ト欣喜ノ叫聲ハ軍事會議ノ爲メニ各旗將各艦長ノ召集セラレタル「ウキクトリー」ノ將官室ヲ充シタリ此言ノ作用電氣ノ震動ニ比スルヲ得タリトハ子ルソソカ當時記シタル所ナリ將校中ニハ感餘リテ涕ヲ流シ異口同音ニ此作戰方略ニハ同情ノ意ヲ表スルト共ニ此方略ハ全ク新案ニ係リ解シ易ク行

ヒ易シト認めタリ臨席一同ハ上ハ旗將ヨリ下末席ノ艦長ニ至ル迄互ニ謂テ曰ク我輩敵ニ出會セハ彼ハ必ス滅亡セント

チルソンハ此數言ヲ以テ各艦長ノ心中ニ先ツ炎情ノ種子ヲ下シ將ニ開戦セントスルニ當リ一ノ信號ヲ發シテ之ヲ熾ナラシメタリ曰ク國家ハ各員カ其職責ヲ全フセンコトヲ希望スト斯クシテ各員ハ全國民ノ視線一身ニ集レルヲ感知セルカ如クニ聞ヘリ而シテ英國カ全勝ノ必要ヲ感シタルハ此時ニ優レルコトナシ

第四十七 トラファアルガルノ海戦

是レヨリ吾人チルソンノ作戰方略ハ何レノ程度マテ實行スルヲ得タルヤヲ講究センチルソン部下ノ艦船ハ四十隻ニアラス唯僅ニ二十七隻ナリキ故ニ第三艦隊ハ遂ニ編成ニ至ラスシテ止ミタリ一八〇五年十月二十一日ノ朝速力約三節ヲ與フルニ足ルヘキ西北西ノ微風吹キ波ハ西方ヨリ來レリ敵軍ハ單縱陣ニテ東方ニ現出セリ故ニ之ニ近カンニハ順風航行ヲ要セリ風力ハ漸次減少シ速力ハ減シテ一節半トナレリ故ニ兩艦隊ノ近接スルハ頗ル遲緩ナラサルヘカラス隨テ豫定方略ノ實行上進攻諸艦ハ久シク其舷側砲ヲ使用シ能ハサルノ不便アリ是ニ於テカ、チルソンハ先ツ開戦スヘキヤ否ヤヲ決斷セサルヘカラス風ハ微力ナリキ、敵ノ速力ハ波ノ爲メニ甚タ遲緩ナリシ故ニ敵ノ線列ニ近接センニハ之ニ對シ垂直ニ進行シ長ク敵ノ縱撃火ヲ受ケサルヘカラス而カモチルソンハ遂ニ攻撃スルコトニ決セリ如何ナル事

由カ此決斷ヲ促シタル歟歴史ハ之ヲ傳ヘス然レトモ當時ノ事情ヲ審査セハ此決斷ヲ促シタル戰術上ノ重大事由ヲ發見スルハ容易ナルヘシ現ニ波浪ノ状態ト無風ナルカ爲メ敵ノ諸艦ハ必ス著シキ側面動搖ヲ感シ其砲火ハ正鵠ナルヲ得サルニ反シチルソンノ率ユル諸艦ハ敵線ヲ横斷シツ、波ノ方向ニ進行セシニ依リ殆ト側面動搖ヲ見サリシナリ加之順風ニテ進行シ以テ敵線ヲ横斷セハ一齊射撃ヲ行フニ大利便アルモノトス即チ砲ノ射撃ハ艦首ヨリ開始シ砲烟ハ前方ニ進行スヘキヲ以テ艦愈々進行シテ敵艦ト一線ヲ爲スニ至ルモ各砲ハ砲烟ノ爲メニ掩遮セラル、ノ憂ナク乃チ戰術上ノ定則ヨリ見レハ善良ナル位置ニ在リテ射撃シ得ルノ利便是レナリ

今實際ノ狀況ヲ述ヘンジュリアン、ド、ラ、グラウ[#]エル謂ヘラク(第百二十七頁)「ヴキクトリー」カ敵線ニ接スル間靜肅ヲ極メタルニ佛艦「ビュセントール」ヨリ續々發砲シ「ヴキクトリー」ノ「メイントツブマスト」ヲ破壊シタリ此間僅々二分時間ニ過キス此時砲手ハ照準ヲ正シ宛モ瞬間ニ傳ヘタル命令ノ如ク「ビュセントール」ノ近傍ニアリタル六七隻ノ敵艦ハ同時ニ「ヴキクトリー」ニ向ヒテ射撃ヲ行ヘリ然ルニ側面ヨリ來ル波ハ艦ノ不規則ナル動搖ヲ來シ爲メニ佛軍ノ射撃ヲシテ一層不正鵠ニ歸セシメタリ則チ砲彈ノ一部ハ艦ニ達セス其殘餘ノ分ハ其上ヲ飛越スルニアラサレハ空シク其橋間ヲ通過セリ「ヴキクトリー」ハ毫モ損害ヲ蒙ラスシテ既ニ距離ニ鎗鎖半ノ所マテ「ビュセントール」ニ近キタルニ一彈其ノ「ミズントツブマスト」ニ命中シ他ノ一彈ハ舵輪ヲ破壊シ又一ノ鎗彈ハ艦尾樓ニ

於テ八名ノ水兵ヲ殲セリ「ヴキクトリー」ハ全艦隊ノ砲火ヲ受ケ佛軍ノ射撃今少シク正鵠ナリシナラ
ンニハ到底滅亡ヲ免レサルヘキモ死傷合セテ五十名ヲ越エス敵ノ二百門ノ砲火遂ニ之ヲ沮支スル能ハ
ス「ヴキクトリー」ハ泰然トシテ波ヲ蹴ツ、徐々トシテ佛將ウキルヌーフノ旗艦ニ向ヒテ肉薄セリ云
々

此言ニ依ルトキハ「ヴキクトリー」カ一節半ノ速力ヲ以テ進行シツ、砲二百門ノ縱撃火ヲ蒙リタルニ拘
ラス其失フ所僅ニ五十名ニ過キサリシコト明瞭ナリトス今假リニ當時ノ砲ヲ以テシテ命中距離ヲ千二
百碼トセハ「ヴキクトリー」カ此距離ヲ通過スルニハ少クモ二十五分ヲ要シタルヘク此間ニ「ビュセ
ントール」ノ名砲ハ少クモ十回ノ射撃ヲ行ヒ得タルナルヘシ而カモ「ヴキクトリー」ノ損害比較的ニ
斯ク寡少ナリシ所以ノモノ強チニ之ヲ佛軍ノ未熟ニ歸スヘカラス否茲ニ艦ノ動搖ニ歸因スル他ノ重大
ナル困難ノ存スルアリテ然ルナリ而シテ此困難ハテルソンガ能ク先見シタル所タルヤ更ニ疑ヲ容レヌ
裝藥ニ火ヲ傳フルノ方法不完全ナリシ當時ニ在リテハ火繩ヲ以テ導火ヲ點シタルヨリ彈丸ノ砲口ヲ出
ツル迄ニハ可ナリノ時間ヲ要シタルカ爲メ少ナカラサル不便ヲ來シタルナリ又此時間一定セサル爲メ
更ニ不便ヲ増セリ是レ艦ノ動搖ガ射撃ヲ不正鵠ナラシメタル所以ナリ

然ルニ佛軍ノ線列ヲ横斷シタル英艦ハ全ク狀況ヲ異ニセリ即チ英艦ハ側面ノ動搖ヲ感セズ「ヴキクト
リー」ヨリ放テル砲彈ハ忽チ「ビュセントール」ノ砲二十門ヲ破壊シ其砲臺ニハ死者及傷者充滿セリ

「ローヤルソヴエレン」ハ「サンタ、アンナ」ノ艦尾ヲ通過スル際之ニ向ヒテ續々發砲シ二個或ハ三個
ノ彈丸ヲ裝シタル各砲ハ其艦尾ヲ縱撃シ百五十箇ノ彈丸ハ艦尾ヨリ艦首ニ穿貫シ其通路ニ於テ四百名
ノ死傷者ヲ出サシメタリ斯ノ如キ損傷ハ乍ニシテ敵艦ノ效用ヲ失ハシムルニ足ルモノナリ而シテ此時
ニ於ケル「ローヤルソヴエレン」ノ受ケタル損害ニ就キテハ全ク云フニ足ラサル程ナリキ茲ニ吾人ハ
兩艦隊ノ響導艦ノ蒙リタル損害ヲ述フルニ止メタリ後續諸艦ニ至リテハ敵艦ニ近接スルニ方リ損害ヲ
蒙ルコト今一層寡少ナリシト雖モ敵艦ノ線列ヲ横斷スルニ當リ是等ノ諸艦カ敵ニ損害ヲ加ヘタルノ點
ニ於テハ響導艦ニ劣ラサル一舷打方ヲ以テ敵艦ヲ縱撃セリ

テルソンカ敵艦ニ比シテ一層有利ナル位置ニ部下ノ諸艦ヲ排列シタルコトヲ示スニハ前ニ陳述シタル
所ヲ以テ充分ナルヘシテルソンハ自己ノ運動法ヲ以テ敵艦ヨリ有利ナル位置ヲ部下ノ諸艦ニ得セシメ
タルコトヲ謂ハス然レトモ其運動法ハ此有利ノ位置ヲ占ムルヲ知ラサルニアラサルヘシ否寧ロトラフ
アルガルノ戰鬪ハ縱撃一舷打方ヲ行ハンカ爲メ敵ノ線列ヲ横斷シ且風下ニ在リテ鬪フヲ利トスル戰術
ノ新例ヲ開始シ最モ赫灼ニ之ヲ成功セシメタルモノト認メテ可ナランカ

テルソンハ部下ニ語テ曰ク敵ヲ逸セサル爲メニハ風下ニ在リテ鬪ハサルヘカラスト然レトモ彼レ未タ
眞ニ斯ク思考シタリトハ云フヘカラズ砲烟掩遮ノ點ニ於テ風下ノ位置ノ優レルハ彼能ク之ヲ解シタリ
ト雖モ之ヲ解セサルモノ多シ故ニテルソンヲ擬スルニ戰術ノ原則ノ蹂躪者ヲ以テスルハ誓テ不可ナリ

否彼レハ他人ノ認メテ以テ戰術ト爲セル或妄信ヲ排斥シタルニ過キサルナリ
 英ノ艦隊ハ風ニ從ヒ敵軍ノ線列ヲ橫斷シテ風下ニ排列シ得タラハ敵モ亦同一ノ舉ニ出テ一舷打方ヲ以
 テ敵ニ縱撃ヲ加ヘタル後ニ戰場ヲ退去センコト最容易ナリ故ニ風下ニ我陣位ヲ占ムルトキハ敵ノ風
 下ニ退去スルヲ防クコト能ハサルモノナリナルソノ訓令中此風下退却ノ件ニ關シ一言ノ豫告アルナ
 シ此事ニ就テナルソノ及スウオーロフハ互ニ大ニ相似タル所アリ兩將共ニ精神的問題ヲ以テ事ニ主腦
 ト爲セリナルソノハ豫メ其部下ノ乘組員ヲシテ如何ニ彼レカ其艦隊ヲ指揮スルモ戰ハ必ス其勝利ヲ以
 テ終局スルコトヲ確信セシメタルヲ以テ此方針ヲ取ルモ敢テ妨ナシ彼レハ戰術的考案ニ格別重キヲ置
 カサルカ如クニ自ラ裝ヒタルハ夫レ或ハ戰術ノ奧義ニ適ヒタルニアラサルナキカナルソノハ恐ラク這
 般ノ手段ヲ以テ部下ノ士氣ヲ振起シ以テ事ニ臨ミテ全勝ヲ確メタルナラン
 海軍戰術ハ敵ヲ亡ス爲メ最モ有効ニ自艦ヲ運用スルノ道ヲ講究スルノ學科ナリナルソノニシテ果シテ
 部下ノ諸艦ヲ不利益ナル位置ニ配置シタリトセハ彼ハ戰術ヲ蔑視シタリト云フヲ得ヘシト雖モ前ニ陳
 述シタル所ニ據レハ之カ痕跡タニアルナシ是ヲ以テ戰術ヲ蔑視シタルコトヲ以テナルソノヲ詰責スル
 ハ根據ナキ癡見ナルヘシ彼レハ吾人カ既ニ説ケルカ如ク戰術ノ蹂躪者タルヨリ寧ロ其創設者ト認ムヘ
 キ者ナリ
 若シ夫レ艦隊ノ士氣ヲ振起スルノ機能ニ至リテハ海軍著者中一名ノヲナルソノニ認メサル者ナシ

第四十八

トラフアルガルノ海戰ニ先ケウ井ルヌーフニ授ケタ
 ルナポレオンノ訓令

ナルソノトハ絶對的反對ノ性行ヲ有シタルウキルヌーフハ心中鬱々タリシヨリ精神ノ鬱閉ハ遂ニ全艦
 隊ノ感染スル所トナレリ抑々鬱閉ノ傾アルモノハ海軍ノ如キ活潑ナル事業ニ適セス況ヤ戰時ニ於テオ
 ヤ

ウキルヌーフハカヂクスニ於テ左ニ掲クル海軍大臣ノ訓令ニ接シタリ吾人カ該訓令ヲ茲ニ掲載スルコ
 ト、爲シタルハ海員ノ爲メ最モ有益ナル海事ニ關スルナポレオンノ見解ヲ能ク表示スルニ由ル

皇帝ノ主トシテ希望スル所ハ官職ノ高下ニ拘ラス最高指揮官ニ適スル能者ヲ士卒中ニ得ルニ在リ就
 中皇帝ノ最モ重キヲ置カセラル、ハ高尚ナル名譽心、功名心、決斷力及無限ノ膽力ニ在リ陛下ノ意
 ハ慎重ニ過キタル退嬰ノ思念若クハ機先ヲ制スルノ斷行ヲ怠リテ敵ヲシテ之ニ乘セシムルカ如キコ
 トナカラシメントスルニ在リ皇帝ハ各旗將、艦長、士官及水兵ニ至ル迄皆勇敢ナランコトヲ切望アラ
 セラル既ニ勇敢ナリ而シテ大ニ之ヲ表彰シタル者ハ其結果ノ如何ニ拘ラス皇帝ハ之ヲ寬恕シ之ニ恩
 賞ヲ與フ可シ敵若シ己レヨリ弱キカ若ハ同力ナランニハ敢テ之レト闘ヒ之ヲ瘞サ、レハ止ムヘカラ
 ズ是レ陛下ノ切望セラル、所ナリ假令艦ヲ失フモ其ノ滅亡ニ名譽ノ伴フアラハ皇帝ハ毫モ之ヲ介意
 セラレス陛下ノ艦隊カ弱敵ノ爲メ封鎖セラル、如キハ陛下ノ取ラサル所陛下ハ卿ニ命スルニ敵若シ

カチクスニ現ルレハ直ニ之ヲ攻撃センコトヲ以テセラル皇帝ハ卿ニ言行其他士氣ヲ振フニ足ルヘキ一切ノ手段ヲ盡シテ部下ニ此感情ヲ喚起センコトヲ命セラレ此ノ事ニ關シテハ如何ナル些事ト雖モ決シテ蔑視スヘカラス即チ勇敢ナル龜鑑、人心ヲ鼓舞スヘキ事業、冒險ノ事業、敵愾ヲ惹起スヘキ命令等ニ屬スルモノ是ナリ（陛下ハ卿カ屢々稱讚の令達ヲ發セラレ其都度之ヲ陛下ニ奏上セラレンコトヲ希望セラル）凡ソ海軍々人ノ勇氣ヲ鼓舞シ之ヲ喚起スルニ足ルヘキモノハ細大トナク之ヲ應用セサルヘカラズ勳功ハ大小ノ別ナク必ス恩賞ニ漏レサルヲ以テ陛下ハ卿カ衆ノ爲メ此榮譽ヲ得ル途ヲ指示セラレンコトヲ望マセラル本官ハ卿カ第一ニ此恩賞ニ當ラレンコトヲ切望ス又卿ニ對シ詰問ヲ致スヘキ勅令アリタルニ拘ラス陛下ハ卿ニ對シ特別ノ好意ヲ表シ厚ク卿ヲ賞センカ爲メ卿ノ勇氣ヲ表彰スヘキ第一着ノ勳功ヲ期望セラル、ヲ卿ニ内傳スルハ本官カ特ニ愉快トスル所ナリ此訓令ノ一語一句老練ノ手腕ヲ以テ艦隊ニ榮譽ノ途ヲ教示スル名將ノ聲ヲ聞クノ想アラシム幾度カ佛國軍隊ノ敵愾心ヲ熾ナラシメタル此名將ノ聲ヲ聞ク者精神鬱々タルウキルヌーフニアラサルヨリハ誰レカ奮起セサル者アラシヤ而シテ艦船ノ損失ニ關スルナポレオンノ意見ノチルソンノ意見ト暗合スルハ頗ル注意スルニ足ルヘシナポレオンモ亦船艦ノ保存ヲ重スヘキヲ命セスシテ却テ假令艦ヲ失フモ其滅亡ニ名譽ノ伴フアラハ意ニ介スルニ足ラスト云ヘリ又事ノ成否ハ多ク艦長ノ機能ニ由ルコトヲ看破シテナポレオンハウキルヌーフニ命シテ其地位ニ拘泥セス博ク艦隊中ニ人物ヲ索メ之ニ指揮ノ權ヲ授

ケヨト謂ヘリ

賞典ニ關スル皇帝ノ言ヲ以テ或事業ノ遂行ノ爲メ彼レカ報酬ヲ約スルカ如ク即チ艦隊ト代價ノ相談ヲ爲スカ如クニ解スルハ斷シテ不可ナリウキルヌーフヨリ賞典ヲ奏請スル場合ニハ皇帝ハ必ス容ルヘシトノ意ヲ傳ヘタルモノト解スヘキナリ否他ニ解釋スルヲ得サルナリ司令長官タルモノ若シ中央政府ノ應援ヲ得サレハ部下ニ對シ充分ノ勢力ヲ及ホシ能ハサルハナポレオンノ如キ軍人ノ飽クマテ知悉スル所ナリ皇帝ハウキルヌーフ自身ニモ亦賞典ヲ約シタリ然レトモ是レ司令長官ヲ獎勵スル上ニ於テ缺クヘカラサリシナリ何トナレハ前數回ノ訓令中往々間接ニウキルヌーフヲ詰責スルノ意含蓄シタレハナリ此獎勵ノ言ナカリセハウキルヌーフハ必ス落膽失意シタルナラン同將及ヒナポレオンノ見ル所ニ依レハ牽制スルヨリ寧ロ獎勵ヲ要シタル人物ナリシナリ斯ノ如キ性情ノ人ハ無論戰時ニ於ケル艦隊ノ司令長官タルニ適セス當時海軍大臣デクレーノ彼レヲ庇護セサリシナラハ皇帝ハ已ニ之ヲ退ケタルナラシ中將ロジリーハウキルヌーフニ代ル爲メ既ニ發程シ聯合艦隊カカチスヲ發シタル當日マドリッド府ニ到着セリ

第四十九

トラファルガル海戰ニ先ケウキルヌーフノ發シタル訓令ノ拔萃

前記ノ訓令ヲ授受シタル後ウキルヌーフハ勇ヲ鼓シ出航スルニ決セリ然レトモ聯合艦隊ノ諸艦ニ下

シタル命令ハ自ら其敗北ヲ準備シタルナリ即チ該訓令中ニ曰ク

我カ（即チ聯合艦隊）諸艦ハ専ラ最モ急迫ニ陥レル諸艦ニ應援スルコト并ニ成ル可ク旗艦ノ附近ニアルコトニ努メサル可カラス旗艦ハ自ら衆ニ先シテ此例ヲ示スヘシ各艦長ハ旗將ノ信號ヨリハ多ク各自ノ勇氣及名譽心ノ指示スル所ヲ行フヘシ旗將ハ敵軍ニ圍繞セラレ砲烟ノ中ニ在リテ信號ヲ發シ能ハサルノ機會ナキニアラサレハナリ戰線以外ニ出テタル各艦長ハ其位置ヲ守ラサルモノナリ之ヲ正當ノ位置ニ就カシメントシテ發シタル信號ハ該艦長ノ恥辱タルヘシ

此命令ノ首部ニ於テウキルヌーフハ敵軍ノ殄滅ヲ以テ戰ノ主眼トセス味方ノ中最モ急迫ニ陥レル諸艦ニ應援スルヲ以テ主眼ト爲スヲ示セリ故ニ此訓令ヲ確守スルトキハ今ヤ將ニ敵ヲ殄サントスル艦ト雖モ之ヲ其儘ニ抛擲シ敵ノ火力ニ困ム所ノ味方艦ノ應援ニ趣カサルヘカラス司令長官自ら此例ヲ示サントセリ又彼ハ旗艦カ信號タニ發シ能サル程ノ困難ニ陥レル状態ヲ描出セリ是レ明ニ如何ニ彼レカナボレオンノ訓諭ヲ誤解シタルヤヲ表示スルモノナリ皇帝ハ艦長ノ名譽心ヲ喚起セヨト諭セリ然ルニウキルヌーフノ訓令中ニハ不信用ノ意ヲ含蓄スルノミナラス未タ一回ノ過失タニナキ艦長ニ對シ既ニ恥辱ノ印號ヲ附セリテ爾ソソウモウキルヌーフモ共ニ同一ノ事ヲ命セリ即チ一般ノ戰鬪ニ在リテハ各艦必ス之ニ與ラサルヘカラサル旨ヲ以テセリ然レトモテ爾ソソウ之ヲ云フ時ハ各艦長ノ胸中ニ敵愾心ノ勃々タルヲ致シウキルヌーフ之ヲ謂フ時ハ戰未タ始ラサルニ早ク既ニ軍人ノ名譽心ヲ傷ク司令長官タル者ノ

機能ハ一般ノ敵意ヲ以テ自己ト各艦長ヲ結合スルニ在リ而カモウキルヌーフハ己レノ臆測ヲ吐露シ多數ノ艦長ヲシテ恐ラクハ下ノ如キ思ヲ懷カシメタラン即チ司令長官ハ故アリテ我輩中臆病者アルヲ疑ヒ我輩ノ行動整然タルヲ期セサルコト明カナリ然ラハ無謀ニ身ヲ火中ヘ投スルノ必要ナシト

ナポレオンカセントエレーン島ニ在ルノ日戰鬪ノ状態ヲ追懷シ或時記シテ曰懦夫ヲシテ勇者タラシメント欲セハ懦夫ニ向ヒテ彼等ハ勇者ナリト説カサルヘカラスト而シテウキルヌーフハ其反對ニ出テ勇者ニ向ヒテ彼等ノ中ニハ懦夫アリト謂ヘリ是ヲ以テ彼レハ各艦長間ニ於ケル相互ノ信用ト尊敬心ヲ滅却シ各自ノ間ニ存シ得ヘキ團結ヲ絶斷セルナリ何人ト雖モ己ノ勇氣ヲ以テ他人ヨリ詰責ヲ受タルノ餘地ナシト認め得ヘカラス故ニウキルヌーフノ語ハ各艦長ノ氣色ヲ害シ各艦長ハ内心幾許歎詰責ノ言ヲ以テ已レニ宛テタルモノト爲セリ當時佛國ノ海軍軍人中勇猛ノ士ニ乏シカラサリシハトラフアルガル海戰ノ證明スル所ナリ此海戰ニ於テ佛艦中ノ多數ハ力ノ及フ限リ奮戰セリ夫ノ旗艦「ビュセントール」ノ如キウキルヌーフノ捕獲セラレタル後ハ忽チ之ヲ敵ヨリ取返セリ又「ブルトン」ハ漏水一時間三呎ノ速度ヲ呈シ乗組員四百名ヲ失ヘルニ拘ラス其艦長ハ他ノ戰艦四隻弗列憂艦四隻及「ブリグ」二隻ト共ニ海戰ノ翌日カヂスヲ出港シ英艦カジブロールタルヘ引致セントスル「チプチューン」及ヒ「サンチシマ、トリニグット」ヲ奪回セリ弗列憂艦「テミー」ノ艦長ジユガン大佐ガ危急ニ陥リタル諸艦ニ應援シタルトキノ活潑ナル行動其他注意スヘキモノ少シトセス

斯ノ如キ人士ニ對シウキルヌーフハ宛モ臆病者ヲ遇スルカ如キ言行ヲ以テセリ知ラス彼等ハ眞ニ英傑ノ士ナリシナリトラフアルガル海戰ノ結果ヲ顛倒セシメント欲セハ是等ノ兩國艦隊ヲ結合シテ同一體ト爲シ其聯合艦隊ノ前軍カ今少シク快活ニ行動シ英軍ガ味方ノ中軍及後軍ニ攻撃ヲ加ヘントスルヲ目撃スルヤ否ヤ直チニ下手廻シヲ以テ回轉シタランニハ尙ホ戰機ヲ回復シ得タランニ運動極メテ遅々ニ涉リタルノミナラスデユマノアールハ五艦ヲ牽イテ「ビュセントール」ノ航跡ヲ通過スルニ當リ意ヲ決シテ曰ク此機ニ於テ敵ヲ襲撃スルハ極メテ無謀ナリ唯味方ノ滅亡ヲ招クノミナリト如斯快戰ニ加フルヲ避ケテ心ニ平然タリ得ヘキ人アリトシテ之ヲ想起スルタニ熱血爲メニ冷却スルヲ覺フデユマノアールノ接近シタルノミニテモ聯合艦隊ハ元氣ヲ回復シタルヘク又戰勝ハ何レニ傾キタルヤ未タ知ルヘカラサルナリ當時戰勝者ノ狀況ハ極メテ困難ナリキ、彼ノ五艦ハ實ニ大勢力ナリシナリ而シテ是等ノ諸艦ハ數日ノ後驚クヘキ勇氣ヲ以テ敵ト憤鬪シタルナリ此筆法ヲ以テ批評ヲ繼續スルハ今ヤ其要ナカルヘク又精神的原素ノ戰鬪ノ成功ニ及ホス影響ニ關シ他ニ證左ヲ舉示スルノ必要モナカラン是素ヨリ自ラ瞭然タレハナリ又司令長官ノ爲人ハ海戰ノ成功ニ幾許ノ勢力ヲ及スマ別ニ説明ヲ待タスシテ明瞭ナルヘシウキルヌーフヲシテ英國艦隊ニ司令長官タラシメ又子ルンヲシテ此戰鬪ニ先ツ一ヶ月以前ヨリ佛國艦隊ニ長タラシメタランニハ該海戰ノ結果ハ必ス大ニ相違シタルナラン故人謂ヘルアリ牡羊ノ牽ユル獅子軍ハ獅子ノ牽ユル牡羊ノ群ニ劣レリト

第五十

ナポレオン

吾人ハナポレオンヲ以テ彼ノ剛毅不拔ノ意力ハ能ク群衆ヲ服從セシムルニ足ル壓制者ヲ以テ之ヲ目セリ斯ノ如キ人物ニ對シテハ別ニ個人及群衆ニ對スル行動ノ方法ヲ講究スルノ必要モ之ナキニ似タリ彼レハ元帥及皇帝ノ權力ヲ一身ニ集中シ衆民ヲシテ意ノ如ク行動セシムルニ足ルヘキ勢力ヲ具有シタリト雖モ未タ之ノミヲ以テ充分ナリト謂ヒ難シ而シテナポレオンノ軍功赫々タルハ企畫シタル事業ヲ遂行スル爲メ巧ニ其軍隊ヲ用フルノ妙ヲ得タルノミナラズ士氣ヲ振起スルニ非常ナル特技アリタルニ職由セスンハアラズナポレオンハ其軍隊ニ向ヒテ敵ハ微弱ナリト云ハス敵ハ頑強ナレトモ未タ佛軍ニ對抗シ得ヘキニアラスト云ヘリ

オポレオンノ欲スル事一トシテ成ラサルハナシ是レ畢竟彼レカ精神ヲ凝シテ事ニ著手セルト凡ソ成功ニ有益ナル手段ハ一トシテ盡サ、ルコトナカリシハ之カ主因タルヘシ彼レ曾テ謂ヘラク戰鬪ノ前ニ於テ予ハ予ノ兵數ヲ充分ナリト思ヒタルコトナシ故ニ予ハ常ニ出來得ル丈ケノ兵ヲ予ノ許ニ召集セリト此語中ニハ各般ノ事業ニ應用スヘキ深奥ナル意義ノ含蓄スルアリ乃チアアル手段ヲ應用シタル後始メテ事ノ成功ヲ期スルコト是ナリ熱心欠乏スルトキハ手段ヲ應用スル充分ナラス乃チ不成功ヲ見ルナリ事ニ不決斷ナルハ則チ蹉跌ヲ招ク所以トナレリ然レトモ多クハ此差異ノ存在スルヲ知ラス實際ヲ穿テルチエールノ言ニ依ルニ群衆ノ眼識ニ依ルトキハ靈妙ナル考慮ト奸計トノ差異ハ唯事ノ成ルト否

トニ在リ事成功セハ之ヲ企畫シタル考慮ハ靈妙ナリトシ事成功セサルトキハ賤ムヘキ奸計ト謂フナリ
即チ「敬服スヘキモノト嗤笑スヘキモノ」間隔ハ只一步」ト謂フ諺ハ此邊ヨリ來ルモノナラン事成ラ
ハ敬服セラレ成ラサレハ笑ハルヘキナリ

艦隊ノ士氣ヲ振ハシムル爲メニナポレオンカ授ケタル勸告ニ就キテハ吾人既ニ陳述スル所アリタリ吾
人ハ是ヨリ少シクナポレオンカ自ラ此目的ヲ達スル爲メニ如何ナル手段ヲ用ヒタルカヲ述ヘント欲ス
左ニ掲クルモノハドラゴミーロフ將軍ノ軍事雜記(一八九四年陸軍雜誌第四號)中ノ一節ナリ

凡ソ人ヲ感動シ人心ヲ收攬シ又必要ノ場合ニ於テハ人ヲ威嚇スルノ術ニ於テハナポレオンノ右ニ出
ツルモノナシ始メ彼レニ對シテ敵意ヲ懷抱シタル人ニシテ初會見ノ後滿腔ノ友誼ヲ表シタルモノ
鮮シトセス(アレキサンドル第一世皇帝ハ其一人ナリ)又控所ニ於テハ虛威ヲ示シ他人ノ卑屈ヲ憤
慨シタル人ニシテ一度ヒ彼レト會見セハ直ニ自ラ卑屈ト爲リ彼レノ意ニ從ヒタル者モ亦少ナカラス
彼ハ自ラ之ヲ認メスシテ一種ノ催眠術家タリシナリ而シテ彼レカ之ヲ行ヘル方法ニ至リテハ世間傳
フル所極メテ少シ

ロナトノ戰鬪(一七九六年八月一日)ハ高低極リナキ地ニ於テ生シ佛軍ハ所々ニ散在セリポナバルト
ハ扈從員ト少數ノ護衛兵トヲ隨ヘタルトキ偶々四千ノ澳國騎兵ニ出會セシニ該騎兵中ヨリ一名ノ士官
來リテ彼レノ降服ヲ索メタリ此時彼レ謂テ曰ク汝ハ誰ト對話スルヤヲ知ル歟予ハ大總督タリ予ノ後方

ニハ大軍ノ控ユルアリ汝ノ言ハ不敬ナリ汝速ニ歸リテ汝ノ隊長ニ告ケヨ予ハ彼レカ直ニ無條件ニテ予
ニ降ランコトヲ命スト又今ヨリ五分間ニシテ武器ヲ收メサレハ一人モ殘サス悉ク銃殺スヘシト實ニ敵
ハ武器ヲ收メテ降參セリ巧妙ナル虛喝ハ澳國人ノ爲メニ大軍ト化シ想像中ニ在ルモノハ實在スルモノ
ト思ハレタリ嘗ミニ思ヘ斯ノ如キ狀況ニ陥リナカラ此ノ如キコトヲ爲サンニハ幾許ノ沈毅心ヲ要シ眼
光面相音調等ニ異狀ヲ呈セサルニハ如何ニ妙技ノ俳優タルヲ要シタルヤ想像スルニ餘リアリ之ニ依テ
之ヲ視レハ想像ハ群衆ヲ支配シテ意ノ如クナラシムル大勢力ナリト謂ハサルヲ得ストハドラゴミーロ
フ將軍ノ語ル所ナリ

第五十一 ナポレオンノ他ヲ感動セシメタル態度

ナポレオンハフリードランドニ於テ(一八〇七年)テイヲシテ我カ左翼ヲ突カシムルニ先チ兩手ヲ以
テ彼レノ腕ヲ握リ彼ノ眼中ヲ睇視シテ命ヲ下セリ(セキニール著歴史及記錄)今ドラゴミーロフ將軍
ノ謂フ所ニ依レハナポレオンハ當時今既ニ一ノ學說ト爲リタル催眠術ノ手段ヲ應用シタルナルヘシ
吾人ハドラゴミーロフ將軍ノ說ノ該ラサルヲ確信ス而シテ若シ催眠術ニシテ實地之ヲ利用シ得ル迄ニ
發達シタランニハ先ツ之ヲ會得シタル長官ノ率ユル艦隊ハ戰鬪ニ於テ必ス優勢ヲ占ムルナラン又戰術
ニシテ戰勝ヲ授クヘキ此新手段ヲ忽諸スルカ如キ事アラン歟豈之ヲ戰術ノ失體ト謂ハサルヲ得ンヤ要
ハ闘ヒテ勝利ヲ占ムルニ在リ故ニ苟モ成功ヲ遂ケシムルモノハ其何物タルヲ問ハス夫ノ究極スル所ナ

キ戰術ノ本領ニ屬セシメサルヘカラス

第五十二 ナポレオン能ク人ノ無禮ヲ忍耐ス

ナポレオンカ其所要ノ人物ニ對シ所謂催眠的行動ニ出ツルモ必シモ成功ヲ期ス可ラサルコトアリ斯ル場合ニ在リテハ彼レ又他ノ手段ヲ用ヒタリ例ヘハマレンゴーニ於テ佛軍將ニ澳軍ノ爲メニ敗レントシナポレオンヲ圍繞セル諸元帥ノ意退却ニ傾カントスルノ刹那デゼー己ノ師團ヲ離レ來リ彼レニ向テ罵テ曰ヘラク「サマヲ見口負ケヤカツタ」ボナバルトハ此時テゼーノ如キ人物ノ必要ヲ感スルコト最モ深キヲ以テ其ノ無禮ヲ憤ラス穩ニ答ヘテ勝敗ハ戰ノ常ナリト謂ヘリ續キテ戰鬪ノ現況ニ對スルデゼーノ意見ヲ叩キタルニデゼーハ時計ヲ出シ之ヲ見テ謂ヘラク然リ戰敗レタリ然レトモ未タ三時ヲ過キス尙ホ一戰シテ勝利ヲ占ムルノ時アリト、(チエール第二卷第三百四十四頁)是ニ於テテゼーハ直ニ己ノ師團ニ歸リ之ヲ率ヒテ澳軍ヲ突キ澳軍ノ手裏ヨリ戰勝ヲ奪取セリ此事アリテヨリ十五年ノ後ナポレオンハウエーターローニ於テ斯ノ如キ人物ヲ其幕下ニ得ルコトノ出來得ヘクンハ如何ナル高位高祿ヲモ授ケタランニデゼーハ既ニ久シク故人ト爲レリ彼レハ此コロンコーノ戰鬪ニ於テ佛軍カ澳軍ニ對シ將ニ戰況ヲ回復セントスルノ時ニ於テ戰死ヲ遂ケタルナリ

或時ナポレオンハ奪掠ヲ以テ著名ナル夫ノ大將マッセーナニ向ヒテ謂テ曰ク卿ハ世界無比ノ劫賊ナリトマッセーナ之ニ答ヘテ陛下ニ亞キテト謂ヘルモナポレオン尙ホ之ヲ忍ヘリ

之ヲ要スルニナポレオンハ常ニ能戰者ノ缺乏ヲ感スルト同時ニ亦之ヲ獲ルノ難キヲ知レリ吾人カ既ニ陳述セル如ク彼レハ佛ノ艦隊ヲ率ヒテ英ノ艦隊ヲ取り得ヘキ剛毅ノ旗將ヲ索メタリ而シテナポレオンノ掌中ニ在ル一切ノ手段ヲ盡シタルニ拘ラス途ニ所望ノ旗將ヲ獲ル能スウキルヌーフヲ以テ満足セサルヲ得サリキ凡ソ能ク行動シ能ク目的ヲ達スル首將ハ良好ナル部下人物ノ眞價ヲ知ルモノナリ夫ノ碌々爲ス所ナキ連中ハ到底事ヲ共ニスルニ足ラサルナリ

第五十三 ナポレオンノ群衆ヲ發感セシムル勢力

群衆ヲ統轄スルコトニ就キドラゴミーロフ將軍ハ左ノ如ク謂ヘリ

之ヲ爲スハ粗暴ナル外見、氣力及俳優的ノ特質ヲ要ス群衆ヲ發感セシムルニハ先ツ個人ヨリ着手セサルヘカラス數千人ヨリ成レル一群ノ中ヨリ姓ヲ呼ヒテ其者ヲ喚出シ豫メ知悉スルニ係ラス尙ホ其佩用スル所ノ勳章ハ何々ノ功ニ對シテ賜リタルニアラスヤト、ナト、問フカ如キ其一例ナリ道德家ハ或ハ謂ハン是レ士君子ノ恥ツヘキ手段ナリト然リ然レトモ人ニ向ヒテ善徳ヲ説キ實地ニ於テ自ラ行ハサル所ノモノヲ他人ニ強フルハ即チ彼等道德家ニ非ラスヤ夫レ人ノ活世界ニ立チ生活上ノ目的ヲ貫達スルノ必要ヲ感スル唯一ノ條件ハ此目的ヲ貫達セシムヘキ手段ノ撰定ニ在ルノミ決シテ無用ノ方法ヲ講スルニアラサルナリ加之彼輩嚴格ナル道德家ト雖モ一舉手一投足毎ニ自ラ虚偽ヲ演スルニアラスヤ

彼等カ來客ニ接シ其來訪ヲ欣ハサルモ尙ホ往々觀迎ノ意ヲ表スルニアラスヤ蠅ヲ捕フルニハ必ス蜜ヲ

以テシ會テ醉ヲ以テスル者ナシ社會ノ人若シ欺カレンコトヲ欲セハ之ニ從ハサルヘカラサルナリド
 ゴミローフ將軍ノ語ハ戰爭及政治ニ關スルモノニシテ決シテ個人的生活ニ應用スヘカラス夫ノ政治的
 社會ニ行ヒ得ヘキ事ヲ探テ之ヲ個人的生活上ニ應用シ且ハウニバル流ノ軍事上ノ狡智ニ倣ハントスル
 モノ能ク其失敗者タラサルモノアランヤドラゴミローフ將軍ハ謂フ道德家ハ政治ノ思想界ニ沈淪シ軍
 人ハ利益ト欲情ヲ是レ事トス兩者間ノ議論氷炭相容レサル亦偶然ニアラストエカテリーナ大女帝會テ
 チドローニ謂テ曰ク卿ハ紙上ニ勞働シ予ハ人皮上ニ勞働スト又カヴールノ曰ルアリ我輩カ伊國ノ爲メ
 ニ爲シタルコトヲ自己ノ爲メニ爲シタランニハ我輩ハ無比ノ兇漢タリシナラント

以上相記スル所ハ戰術上ノ實例ニ依リテ尙ホ之ヲ審ニスルヲ得ヘシ即チアブキールニ於テチルソング
 佛ノ艦隊ヲ襲ヒタルトキ佛艦乗組員ノ大部ハ端艇ニ乘リテ陸上ニ在レリ此戰闘ニシテ一ノ決闘タラン
 ニハ世人ハ好機ニ乘シタル者トシテチルソング否難シ彼レノ戰勝不正ナリト謂ヒシナラン然レトモ戰
 闘ハ素ヨリ決闘ニアラス況ヤ敵ノ不利ハ己ニ悉ク之ヲ利用シ全敗ヲ加ヘサル間ハ彼レニ猶豫ヲ與ヘサ
 ルヘシトハ戰術ノ教諭スル所ナルニ於テヲヤ

ナボレオンハ個人ヲ經テ群衆ヲ發感セシムルノ外尙ホ他ノ方法ヲモ忘却セスナボレオンノ軍則中(第
 六十五頁)吾人ハ左ノ數言ヲ發見セリ但シ此言ニ依レハ野營中士卒カ互ニ談話セル談柄ト雖モナボ
 レオンハ會テ等閑ニ附セサリシコトヲ知ルヲ得ヘシ

危機ニ際シ演說スルハ兵士ノ勇氣ヲ奮興スルノ効ナシ老練ナル士卒ハ殆ト之ヲ聽カス新募兵ハ第一
 ノ砲聲ト共ニ之ヲ忘却ス只演說ハ長期ノ戰役中有害ナル勸誘虛說ヲ撲滅シ軍隊ノ士氣ヲ維持シ又ハ
 野營中ノ談柄ヲ授クル爲メニ有益ナルモノヲ以テ印刷シタル日々ノ命令ハ此種々ナル目的ノ貫達ニ
 努メサルヘカラス

吾人ハ茲ニナボレオンカ通常戰闘ヲ開始スルノ順序ヲ陳述シテ彼レニ關スル此簡單ナル記事ヲ終ラン
 トス

第五十四 ナボレオン戰闘開始ノ順序

此事ニ關シドラゴミローフ將軍ハ左ノ如ク謂ヘリ

戰闘ハ通常午前五時ニ始レリナボレオンハ豫備隊ノ附近ニ於テ全戰場ヲ瞰下シ得ヘキ場所ヲ撰擇シ
 テ同所ヨリ戰況ヲ視察シツ、鞍ヲ下リ徐歩シ昵親ノ者ト對談シ報告ヲ受ケ命令ヲ與ヘ若クハ必要ノ
 場合ニハ譴責ヲ下セリ又援兵ヲ請求スルノ止ムヲ得サルモノト認定シタルモノニ限リテ之ヲ與ヘタ
 ルモ時ニ或ハ斯ル請求ヲ斥ケタルコトアリ斯ク雜然タル光景ノ中ニ在リテ午後四時トナレハ彼ハ馬
 ニ騎レリ群衆ハ皆其總攻撃ノ兆候ナルヲ知レリ豫備隊ニ於テ先ツ皇帝萬歲ノ歡聲轟キ次イテ全戰線
 ニ於テ萬歲ヲ唱フニ至リ宛モ百雷ノ一時ニ轟クカ如シ敵之ヲ聞ケハ其肝膽ヲ寒カラシム將ニ全線攻
 撃ノ開始セラレ、ヲ知レハナリ而シテ彼レハ如何ニシテ何レノ場所ヲ突カントスルヤ誰カ之ヲ豫知

スル者アランヤ

斯ノ如クナポレオンハ敵ニ最后ノ打撃ヲ加フルニ先チ十一時間乃至十二時間空シク敵ニ滅亡ノ恐レヲ懷カシメ敵ノ心身ヲ疲勞セシメタリ此疲勞ニ依リ敵ノ想像力ヲ熾ナラシメ後彼レハ單純ナル而カモ常ニ用フルカ故ニ其兵ノ知悉シタル方法即チ其軍馬ニ騎シ突撃ノ時機至レルヲ示シ其部下ヲシテ必勝ヲ感セシメ敵ニ於テハ必滅ノ厄運ノ至ル遠キニ非ルヲ思ハシメタリ

第三章

海陸軍教育學ニ就キテ

第五十五 精神的原素ノ戰爭ノ成功ニ及ホス影響ニ關ス

ルヘルシエルマンノ著述

吾人ハ前章ニ於テ既ニ戰鬪ノ成功ニ及ホス精神的原素ニ就キテ陳述スル所アリ併セテ亦諸名將舉テ此原素ノ勢力ノ宏大ナルヲ認識スルコトヲ示セリ然ルニ此問題ニ就キテハ前章中ニ引用セル著者ノ外ヘルシエルマン氏ノ功勞鮮シトセス氏ハ近年幾多ノ貴重ナル論文ヲ陸軍雜誌ニ掲載セリ精神的原素ハ眞ニ戰爭ニ於ケル一大勢力タリ故ヲ以テ此ノ關係ニ於テハ海陸軍共ニ孜々トシテ完全ノ發達ヲ圖ラサルヘカラサルナリ

精神的原素ナルモノハ養育及ヒ教育ニ依リテ發達スルモノナリ人ハ始メ家庭ニ於テ養育及ヒ教育ヲ受ケ後學校社交及勤務ニ於テ之ヲ受クルナリ而シテ家庭及ヒ學校ニ於テ受クル教育ハ即チ教育學ニ屬シ勤務ニ於テ受クルモノハ海軍行政ト稱スル一範圍ニ屬ス本章ニ於テハ吾人海軍教育學ノ任務海軍教育學ノ任務ニ就キテ觀察スル所アラントス

第五十六 海軍教育學ノ任務

海軍教育學ハ主トシテ軍事ノ目的ニ副ハサルヘカラス則チ戰爭ニ適應スル將校下士卒ノ養成ヲ以テ任務ト爲シ爾余ノ問題ハ第二流ニ位スル者ト見ル可シ固ヨリ普通ノ發達ヲ圖ルヘキハ論ヲ俟タスト雖モ而カモ主タル任務ノ妨害トナラサル程度ニ於テセサルヘカラサルナリ

吾人ハ斯ク謂フト雖モ強チニ將校ノ爲メニハ毫モ普通教育ヲ要セスト謂フニ非ス然レトモ普通教育ノ事ハ素ヨリ當然ノ事ナルヲ以テ唯人ト雖モ之ヲ忘却スルコトナケン獨リ恐ル海軍教育ニシテ普通教育上完全ノ青年ヲ得ンコトヲ熱中スルノ餘其本表ノ目的即チ戰爭ニ於テ缺クヘカラサル三大要素タル勇膽、判斷力及機智ノ開發ヲ忽ニスルカ如キコト之ナシトハ謂ヒ難シ教育學上平素戰術ノ本旨ヲ誤ルナクンハ此厭フヘキ結果ヲ生スルコトナカルヘク遂ニ海戰ニ適合スル年少卒業者ヲ出タスノ良果ヲ收ムルニ至ラン是レ則チ其主タル任務ナリトス

凡ソ軍人タラント欲スル者ハ先ツ如何ナル性質ヲ具備スヘキヤヲ審ニスルヲ要ス若シ之ヲ審ニセハ教

育學ノ期スヘキ其本然ノ目的モ亦自ラ判明スヘシ吾人ハ先ツ司令官ノ有スヘキ性質ヲ觀察シ後普通海軍々人ノ有スヘキ性質ニ説及サントス

第五十七 司令官ニ關スルナポレオンノ説

司令官ノ個人的性質ノ及ホス影響偉大ナルハ衆著者悉ク同意見ヲ懷抱スト雖モ何人モ之ヲナポレオンノ如ク明確ニ言顯シタルモノナシ而シテナポレオンハ此事ニ關シ左ノ如ク謂ヘリ

「ゴール」ヲ征服シタルモノハ羅馬ノ軍隊ニアラス即チシーザルナリ羅馬ヲ戰慄セシメタルハカルセージ軍ニアラスシテハンニバルナリ遠ク印度ニ達シタルハマセドニヤ軍ニアラス即チアレキサンドルナリ又七年間海國ヲ防禦シタルトキハ索軍ニアラスシテフリードリヒナリ（リユース著學科トシテ海戰ノ研究ニ就キテ第五百四十頁）

第五十八 著名ナル司令官ニ關スル歴史上ノ調査

司令官ノ模型ヲ一層劃然ニ描出セント欲セハ勢ヒ歴史ノ研究ニ藉ラサル可ラス抑モ歴史ノ吾人ニ傳フル所ハ想像上ノ理想ニアラスシテ實事ニ係レリ故ニ他日俊傑ト爲ルノ人ニシテ既ニ少壯ヨリ非凡ノ才智ヲ表示スルモノアリ又少壯ノ時ハ敏捷ナラス平凡ノ人ニ似タルモノアリ吾人ハ已ニチルソンノ爲人ニ就キ詳細ナル解釋ヲ試ミタリ是レヨリ爾他ノ著名ナル軍人ニ關シ簡單ニ陳述スル所アラントスナポレオンハ始メテ士官ト爲リシ時ヨリ有名ノ精勤家タリキ彼レハ自身ノ武器ト眠食シ須臾モ軍事ノ

研究ヲ怠タルコトナク往々繪圖面ヲ考察シテ終日ヲ消費セリ

アレキサンドル大王ハ幼少ヨリ俊傑タルノ資ヲ示セリ傳記ニ依レハ彼ハ神經鋭敏ノ童兒ニシテ其體温ハ通常ノ人ヨリモ高カリシト云フ彼レカ大ニ酒ヲ嗜ミタルハ其神經質ナリシニ基因セリブルタルクノ曰ク（第十三頁）アレキサンドルハ幼時如燃血性兒ナリシニ拘ラス常ニ克己心ニ富ミ又能ク喜怒色ニ顯ハシメサリシト或人ハ彼カ宴飲ニ慌ムルノ弊アリシヲ説ケリ又彼ハ仁惠ヲ施スニ方テ其財ヲ散スルニ吝ナラサリシト云ヘリ

アレキサンドル博ク仁惠ヲ施シ曾テ財寶ヲ吝マス波斯ノ役ニ先チアレキサンドルカ爲セル盛ナル贈物ニ就キテブルタルク附記シテ曰ク斯ノ如クニシテアレキサンドルカ悉皆ノ資産ヲ盡シタル時ベルヂッカ問フテ曰ク陛下ハ何物ヲ陛下ノ爲ニ遺シ賜フヤトアレキサンドル答ヘテ曰ク朕ハ希望ナル一物ヲ有スト云々

ジューリー、シーザルハ始め快樂ヲ嗜メル社交的ノ人物ニシテ意氣軒昂常ニ己レノ氣力アルヲ知レルモ其英才ヲ發露シタルハ彼カゴールヲ經畧スヘキ命ヲ聞キタルノ後ニ屬セリブルタルクノ書中吾人ハ左ノ一節ヲ見ル（第三十一頁）

又聞ク所ニ依レハシーザルハ西班牙駐在中公務ノ余暇ニハ往々アレキサンドルノ傳記ヲ閱讀セリ或時此閱讀ノ際強ク感動スル所アルカ如ク悵然タルコト稍々久シク遂ニ高聲ニ慟突シタリ友人等ノ之

ヲ聞キ來リテ其所以ヲ問ヒシニ彼レ答テ曰クアレキサンドルハ予ノ年齢ノ時ハ既ニ幾多ノ國土ヲ攻
畧シ之ニ君臨セリ予ヤ碌々一ノ勳功ノ以テ記スルニ足ルモノナシ豈悲マサルヲ得ンヤト

シーザルモ亦博ク仁惠ヲ施セリ之ニ關シブルタルク曰ク(第五十三頁)シーザルハ羅馬市民ノ武器ヲ
以テ敵ヲ滅シ敵ノ財貨ヲ用ヒテ羅馬市民ノ人心ヲ得タリト

我國ノ司令官中拔群ノモノヲスウオーロフト爲ススウオーロフハ十五歳ニシテ「セメオーノフスキイ」
聯隊ノ兵卒トナリ二十五歳ニシテ始メテ士官トナレリ曾テ學校ノ教育ヲ受ケス其修得セルモノハ孰レ
モ獨學ニ依レリ彼レ體軀矮小瘦瘠羸弱ニシテ體格不良容貌醜惡ナリシ然レトモ其初陣ノ時ヨリ特ニ長
官ヨリ偵察ニ於テ迅速ニ、戰鬪ニ臨ミテ勇猛ニ、危險ニ陥リテ自若タリ云々ノ稱讚ヲ得タリ生來體格
容貌形體上ニ缺クル所アルノ人ト雖モ之レガ爲メ其立身ヲ妨ケラル、ノ憂ナキハスウオーロフ之レカ
好例タリ又此スウオーロフカ少壯士官タリシ時、得タル稱讚ハ簡單ニシテ意義深廣ニ衆ノ求ムヘキノ
極意ヲ表示スルモノト云フヘシ軍事教育ヲ司トル者モ宜シク之ヲ模範トシ宜シク偵察ノ時ニ迅速ニ、
戰鬪ニ臨ミテ勇猛ニ、危險ニ陥リテ冷然タル士官ノ養成ニ努メサル可カラサルナリ

降テ現代ノ人物中スコーベレフハ聯隊ニ在リテ惡士官ノ評ヲ受ケタル人ナリ若シ戰爭ナカリセハ遂ニ
群中ニ埋没シ了リタルナラン彼カ短命ナル奉公時ハ戰鬪ヲ以テ始終シ戰爭止ミタルノ後彼レハ其無
爲ニ困ミ終ニ己レノ放姿淫佚ノ爲メニ其身ヲ亡ヒタリスコーベレフニ關シテハ歴史ハ未タ其斷案ヲ

下サスト雖モアカルチンスクノ役ニ於テ吾人ハ明カニ彼カ非凡ナル軍才アルコトヲ知レリスコーベレ
フハ能ク軍隊ノ士氣ヲ振興スルヲ得タリ彼一タヒ現ハルレハ各自ノ心中忽テ敵ト戰ヒ之ヲ敗ルノ意氣
勃然トシテ起ルニ至リ衆皆挺身敢テ火中ニ投スルヲ辭セススコーベレフヲ戴クモノ一人トシテ無限ノ
勇氣ヲ示サ、ルハナシ

名將ハ其英才ト共ニ孰モ大ナル缺點ヲ有セリ而カモ彼レ遂ニ擢擢セラレタルハ由來良將軍ノ需要アリ
テ然ルモノニシテ其將帥タルノ器ハ其固有ノ缺點ヲ忍恕スルニ足ルモノアルヲ以テナリレール將軍ノ
言ニ依レハ軍事ニ才能アル人物ハ頗ル得難キモノニシテ戰爭ノ爲メニ彼等ニ寛宥セサルヘカラサル所
極メテ多シナポレオンハ始終戰爭ヲ事トシ常ニ有爲ノ人物ノ缺乏ヲ感シタルモノナリセントエレーン
島ニ於ケル彼ノ懷舊ノ語中ニ曰ク人ハ其現在ノ儘ニ採用シ決シテ之ニ關スル他人ノ批評ヲ聽ク可カ
ラス要ハ戰勝ヲ占ムルニ在リ故ニ相當ノ人物ヲ要ス若シ一々他人ノ批評ニ聽キタランニハ幾多ノ有益
ナル人物ヲ失ハサルヲ得スト

ナポレオンハ吾人カ想像シテ以テ壓制ノ標本ト爲スニ拘ラス有爲ノ人物ノ缺乏ヲ感スルノ餘リ前ニ陳
述シタル如ク此等ノ人物ノ無禮ヲモ耐忍スルニ至レルナリ現ニナポレオンハゼイドリツツノ如キ騎兵
ノ指揮官ヲ有セサリシナリ何トナレハミユラーノ如キハ一個ノ勇敢ナル騎兵將校タルニ過キサリケレ
ハナポレオンハ遂ニ彼ニ騎兵ノ獨立指揮權ヲ授與セサリシナリ而シテ其結果ハ今レール將軍ノ謂フ如

ク(應用戰術第四附錄第二十頁)フリードリヒ大王ノ戰闘中騎兵ハナポレオンノ騎兵ヨリ良好ニ行動セリト云々

第五十九 司令官ノ具有スベキ性質

司令官トシテ希望スヘキ特性ニ就キテハ軍事著者中ノ多數ハ既ニ詳細ニ之ヲ論究シ孰モ智力ノ極メテ重要ナル特質タルヲ是認シ且ツ性質ハ氣力ノ上位ヲ占ムルコトニ於テモ亦皆同感ナリトス
ナポレオンノ見ル所ニ依レハ將軍トシテ最要ノ性質ハ冷靜タル腦髓ナリトス即チ彼レカ更ニ適切ニ言表ス如ク自ラ無稽ノ想像ヲ作ラサルノ機能ニシテ尙ホ之ヲ換言スレハ想像ニ耽ラス針ヲ以テ棒ト爲サ、ルノ機能ナリトススウオーロフハ此特性ヲ稱シテ判斷力ト云ヘリ而シテレール將軍ノ意見ニ依ルトキハ(應用戰術第十八頁)此特性ハ何時タリトモ或計畫ノ遂行ニ必要ナル事情、時機及距離ヲ正鵠ニ測定スルノ機能ナリト云ヘリ之ニ關シテジヨミニ左ノ如ク謂ヘリ

乾坤一擲ノ大企業ヲ誘導スルニ足ル豪膽ヲ以テ司令長官タル者ノ要素ノ第一ト爲シ之ニ次クモノハ夫ノ剛毅ト冷膽即チ危險ニ望ムモ泰然トシテ顧サルノ勇氣ナリ而テ智識ノ如キハ第三流ニ屬スヘシト雖モ是レ亦常ニ有効ナル補助力タラスンハアラス旨者ニアラサル以上ハ必ス其效力ヲ認ムヘシ然リト雖モ此智識ナル語ハ予カ前ニモ陳述シタル如ク博學ノ義ヲ有スルモノト解スヘカラス即チ博識ヲ要セス熟知ヲ要シ特ニ又樞要ナル戰術ノ規定ノ奧義ヲ極メンコトヲ要ス(ジヨミニ軍術要論第

一編第百十五頁)

ジヨミニ又曰ク(百十八頁)一部隊ニ長タル將官ニシテ自ラ能ク作戰ヲ計畫シタルモノハ齊シク司令官トシテ適任者タルヘシト

本問題ニ付キレール將軍ハ左ノ如ク謂ヘリ

吾人ハ解剖的ニ所謂ル軍事的頭腦カ具有スヘキ特質ヲ描出センコトヲ試ミタリ而シテ此等ノ特質即チ剛毅、智力及ヒ判斷力ナルモノハ個々別々ニ之ヲ索ムルモ戰爭ノ發達今日ノ如キ程度ニ於テハ頗ル得易カラサルナリ此三者ヲ兼備スル者即チ大軍才ナルモノ、如何ニ得難キハ明ニ歴史ノ證明スル所ナリトス二十世紀ノ間ニ大軍才ヲ出スコト僅ニ十人ニ過キサレニ非スヤ(即チアレクサンドル、ハインバル、シーザル、アーングスタス、アドルフ、チュレンス、プリンスユーゼン、ペートル、フリードリヒ、スウオーロフ、及ナポレオン)

知ルヘシ天ハ偉人ヲ降スニ吝ナルコトヲ特ニ軍事ニ於テ最モ然リトス(レール戰畧本義第十頁)
マルモンハ軍事教育ノ精神ト題スル著述中(第二百六十四頁及第二百六十五頁)司令官ノ特質ヲ左ノ如ク論定セリ

司令官ニ必要ナルモノニアリ曰ク智力及氣力はレナリ而シテ智力ノ必要ナル所以ハ之ナクテハ如何ナル考案ヲモ爲シ能ハサルニ基キ氣力ノ必要ナル所以ハ強堅ナル秩序的ノ意志ナケレハ既成ノ畫策

ヲ實行シテ成功ヲ期シ難キニ因ル然レトモ二者共ニ比較的ノ謂ニシテ決シテ絶對的ニハアラサルナリ今若シ是等ノ機能ヲ數字ヲ以テ言顯サンニ智力十五氣力八ヲ有スル將官ヨリ予ハ寧ロ智力五氣力十ヲ有スル者ヲ採擢スヘシ氣力ノ智力ニ優リ而テ其智力モ饒カナランニハ此二者ヲ具備スル人ハ必ス一定ノ目的ニ向ヒテ猛進シ多ク成功ヲ遂クルノ機會ヲ有ス之ニ反シテ智力ニシテ氣力ニ優ル時ハ期望豫定方針ハ時々變更シテ停止スル所ナカルヘシ何トナレハ智力ニ饒ナル者ハ事物ヲ見ルニ種々ノ方向ヨリ之ヲ觀察スルノ傾向アレハナリ故ニ意志ノ力ヲ以テ疑惑ヲ斷絶スルニ非ラサレハ種々疑團ノ中ニ彷徨シ遂ニ如何ナル決斷ヲモ爲シ得サルニ至ル(是レ最モ厭フヘキノ結果ナリ)ハ勢ヒ免レ難キ所ナリ斯ノ如キ不決斷ハ目的ノ終局ニ達セントスルニ從テ漸次之レヨリ遠サカラシメ終ニ之ヲ逸スルニ終ラシムルモノナリ

大將サクソンスキイモ亦前者ト殆ント同意義ノ説ヲ爲セリ即チ曰ク司令官タルモノニ希望スヘキ總テノ特質中第一ハ氣力(勇氣)ナリトス苟モ氣力缺乏センカ如何ニ他ノ特質ヲ具備スルモ予ハ之ヲ些ノ價值ナキモノト認ム何トナレハ其レノミニテハ毫モ効驗ナケレハナリ第二ハ智力第三ニハ健康ナリト(レール戰畧本義第十七頁)

智力及氣力ニ關シ以上陳述セル所ノ結論トシテナボレオンノ言ヲ以テ之ヲ約言スルヲ得ヘシナボレオンハ氣力ヲ以テ方形ノ基礎ニ譬ヘ智力ヲ其高サニ比シ且謂テ曰ク基礎タル所ノ氣力及高サタル所ノ智

力ニ關シ尙一層明瞭ニ言顯サンニ司令官ハ恰モ正方形ヲ爲サ、ルヘカラス若シ又右ノ兩特質中孰レカ優等ナラサル可カラストセハ氣力優等ニシテ智力劣等ナランコトヲ希望セサル可ラスト

司令官ハ氣力及智力ノ外ニ智識及ヒ健康ヲ有セサル可ラス、ジヨミニーハ其他ニ尙ホ公平ヲ要スト論シ且ツ記シテ曰ク

不幸ニシテ其部下ニ對シ公平ヲ守ル所ノ上長ハ極メテ稀レニ見ル所ナリ夫ノ凡才ノ輩ハ常ニ嫉妬深ク且凡才ヲ選擇シテ己レニ近クルノ傾向アリ是レ畢竟彼等ノ動モスレハ論難批評スル所ト爲ランコトヲ恐ル、ト凡ソ成功ノ名譽ハ假令最モ少ク事ニ與リタルニセヨ司令官タル者ニ歸スルコトヲ會得シ能ハサルトニ坐セスンハアラス(ジヨミニー戰術要論第一編百十六頁)

第六十 艦隊司令官タル者ニ希望ス可キ特質

本問題ニ關シテハ陸軍ノ司令官ニ關スル問題ノ如キ一定ノ評論ヲ得スト雖モ要スルニ海軍ノ司令官モ亦陸軍ノ司令官ト同一ノ特質ヲ具備セサル可ラサルハ論ヲ俟タサルナリ唯兩者ノ違フ所ハ海軍ニ於テハ諸事海軍ノ狀況ニ適應セサル可カラス例ヘハ海軍ノ司令官ノ智識ハ陸軍ノ司令官ノ智識トハ其類ヲ異ニシ又陸上ノ判斷力ノミニテハ海上ニ於テ出會スヘキ各種ノ事情ヲ判定スルニハ未タ以テ充分ト爲スヘカラス海軍ノ狀態ノ特種ナル一事ハ更ニ一種ノ特質ヲ要スルナリ之ニ關シテハ吾人茲ニ冗長ノ辯ヲ須ヒス唯一言セント欲スルモノアリ即チ艦隊司令官ナル者ハ善良ナル海員タルノ眼ヲ具有セサル

可カラス換言スレハ一見シテ能ク他艦及ヒ陸上ニ對スル自己ノ艦及ヒ艦隊ノ位置ヲ測知スルノ機能ヲ有セサル可ラサルナリ此機能ヲ有セサル者ハ能ク自己ノ艦ヲ運用シ能ハス隨テ又艦隊ヲ運用スルコト能ハサルナリ此機能ハ原ト天賦ノ特質ニ屬スト雖モ亦タ教育及ヒ實踐ノ途ニ依リ大ニ開發スルヲ得ヘキモノトス然レトモ往々或ル技術及ヒ行政ニ於テ非常ノ機能ヲ顯シタル人ニシテ尙ホ到底艦ヲ運用スルノ術ヲ會得シ能ハサリシ類例ハ吾人ノ親シク知ル所ナリトス

是レ併シ乍ラ海員タルノ眼ヲ得ント欲シテ努力スルヲ要セスト云フニハアラサルナリ蓋シ人々專心努力カスルトキハ其缺點ヲ制御シ善良ナル特質ヲ開發スルヲ得ルモノナリ生來近眼ニアラスシテ可ナリ鋭敏ナル視力ヲ有スルモノハ實踐ノ効ニ依リ大ニ此特質ヲ發達シ能フモノトス

第六十一 海員タルノ眼及判斷力

夫レ然リ然リト雖モ所謂海員眼ナル語ヲ以テ直ニスウオローフ判斷力ト同一視スルヲ得ヘキヤ吾人願フニ全然之ヲ同一視スルハ不可ナリ勿論兩者ノ間ニハ共通ノモノ多々ナルヘシト雖モ亦相異ナルモノナキニアラス此名稱ノ正確ヲ期センカ爲メ之ニ關シ茲ニ少シク細說スルノ必要アリ現ニ巧妙ニ自己ノ艦ヲ運用スル者ニシテ尙ホ能ク陸軍的判斷力則チ敵ニ對スル自己ノ位置ヲ判定スルノ機能ヲ有セサルモノアリスウオローフ的判斷力ヲ海軍ニ應用スルトキハ之ヲ海軍判斷力ト稱スルモ敢テ不可ナキカ如シト雖モ是レ徒ニ新術語ヲ作ルモノナリ故ニ吾人ハ判斷力ナル語ハ第五十九項ニ於テ陳述シタル意義

ヲ含有スルモノトシ海員眼ナル語ハ自己ノ艦ヲ運用スルノ機能ト艦ヲ一見シテ立トコロニ其外部ノ欠點ヲ觀破シ延テ又其内部ノ特質ヲ推測スルノ機能ヲ意味スルモノト爲サン

第六十二 艦隊司令長官タル者ニ希望スベキ特質ニ關スル斷案

海軍ニ關シ以上述ヘタル所ヲ概括スレハ艦隊司令長官カ具有スヘキ特質ハ左ノ如クナリト認定スルヲ得ヘシ

- 一、氣力但シ勇氣及ヒ冷膽モ亦其内ニ含有ス
- 二、智力
- 三、軍事的判斷力
- 四、海員タルノ眼
- 五、智識
- 六、健康
- 七、公平

第六十三 兵卒ノ具有ス可キ特質

吾人ハ已ニ司令官タル者ノ具有スヘキ特質ニ就キ夫々觀察ヲ下シタレハ今ヤ兵卒ハ如何ナル特質ヲ

具有スヘキヤヲ觀察セント欲ス本問題ニ關シテナボレオン謂テ曰ク凡ソ夷然トシテ戰爭ノ困苦ヲ忍耐スルヲ以テ兵卒第一ノ特質ト爲スヘシ而シテ勇氣ノ如キハ第二等ノ特質ニ過キサルヘシト（ナボレオン軍則聖伯德堡出版第六十三頁）

ドラゴミールヲ將軍ノ謂フ所（第三十三頁）ニ依レハ戰時兵卒ノ具有スヘキ特質ハ左ノ如シ

(イ) 無我ノ境域ニ達スル義務ノ感情若クハ同僚ノ危急ヲ救ハンカ爲メニハ己レヲ犠牲ニ供スルノ用意、剛毅、頓智、何事ニ拘ラス職務上無限ノ服從

(ロ) 身體ノ疲勞ヲ感セス又苦患ヲ訴ヘスシテ能ク戰時ノ困苦ヲ忍耐スルノ機能

(ハ) 武器ノ功妙ナル使用

(ニ) 自己ノ行動及運動ヲ同僚ノ行動及運動ニ調和スルノ伎倆

(ホ) 戰場ニ於テ出會スヘキ障碍物ヲ叩ニ排除スルノ伎倆及該障害物ヲ利用シテ敵ノ視察及射撃ヲ避

ケ又之ニ據リテ以テ敵ノ動靜ヲ窺ヒ之ヲ射撃スルノ機能

右ノ内最初ノ二項ハ兵卒ノ教育ノ方針ヲ定メ最後ノ三項ハ其教練ノ方針ヲ定ムルモノナリ

第六十四 水兵ノ具有スベキ特質

本問題ニ關シ十分ニ記述スルトキハ以テ大部ノ書ト爲ヌヲ得ヘシ然レトモ吾人ニ此ノ如キ意志ナキカ故ニ茲ニハ前ニ引用セル諸大家ノ說ニ基キ傍ラ吾人ノ考案ニ依リ簡單ナル斷案ヲ開陳セント欲ス而シ

テ水兵ノ具有スヘキ特質ハ左ノ如クナルヘシ

- 一 健康及忍耐
- 二 規律ノ習慣
- 三 海上ノ習慣
- 四 勇氣
- 五 智識

第六十五 海軍々人タルモノ、具有スヘキ特質

吾人ハ艦隊司令長官及ヒ水兵ノ具有スヘキ特質ヲ描出センコトヲ努メタリ爾餘ノ諸官職ハ或ハ自ラ長トナリ又或ハ他ニ服從ノ義務アルモノナレハ前記兩者ノ特質ノ内若干ヲ具備セサルヘカラス而シテ海軍教育ノ目的タル總テ職ヲ軍艦ニ奉スル者ニ對シテ前掲ノ特質ヲ養成スルニ外ナラサルナリ

第六十六 家庭教育

各人ノ受クル最初ノ教育ハ其母ヨリ受クル所トス而シテ幼年ノ際ニ於テ一タヒ精神ニ沁入シタル事柄ハ生涯忘却セサルモノトス例ヘハ亞細亞ノ諸國民ハ其兒童ヲ教育スルニ方リ父兄ノ讎ハ俱ニ天ヲ戴カストノ主義ヲ常ニ訓養シ兒童ハ始終此思想ニ依テ刺撃セラレツ、成長スルモノナレハ壯年ニ至リテモ之ヲ遂行セントシテ死地ニ入ルヲ辭セス是レ父母ノ復讎ハ彼レノ出生ノ本來ノ目的ト看做スニ依ルナ

今ヤ國民ハ久シク平和ノ德澤ニ浴シ武功ノ光輝ハ漸ク其度ヲ減セントス本世紀ノ終ノ七十五年間ノ戰爭ハ仁慈ヲ主トシタルヲ以テ嘗テ人口ニ膾炙セル慘狀ノ感覺モ年ヲ追フテ亡滅シ現今ニ至リテハ其子ニ向ヒ早ク成長シテ我家ヲ守レ我國ヲ護レト教訓スル母ヲ見ルコト昔日ノ如ク多カラス世間這般ノ事ヲ以テ政府ノ事業ニ歸ス然レトモ軍人ノ剛毅ナル者由來社會的國民的事業ニアラスシテ何ソ

第六十七 全國民ニ於ケル軍人の剛毅ノ必要ニ關スル

ジヨミニーノ意見

吾人ハ茲ニ軍人の剛毅ニ關シ有名ナル政治家ハ如何ナル意見ヲ抱懷スルヤヲ聞カン

ジヨミニー記シテ曰ク一國ノ政府ニシテ若シ國內ニ於テ軍人の精神ヲ惹起スルコトニ努メサリセハ其軍隊教育ノ爲メニ採用スル施設ハ如何ニ善良ナルモ悉ク徒勞ニ歸スヘシト(ジヨミニー軍術要論第一編第二百二十四頁)

ジヨミニーハ其著書ノ第二編ニ於テ(第二頁)更ニ本問題ヲ提起シテ謂ヘラク軍隊ノ組織及其品位砲兵及騎兵ノ卓越ナルコト并ニ其活用宜ニ適シ且殊ニ軍隊及國民ノ精神的状态ノ發揚ハ則チ戰捷ヲ制シ其成績ヲ決定スル要素タラスンバアラスト

第六十八 國民ノ軍人の元氣

古代行レタル國民ノ大移轉ハ再ヒ發起スルナラントノ說ヲ唱フルモノアルモ何人モ之ヲ以テ豫言者ノ亞流ナリトスルモノナカルヘシ而シテ黃色人種ノ運動東方ヨリ向フトセハ第一ニ此進入ヲ防遏スルノ局面ニ當ル者ハ吾人露國民ナリトス果シテ然ラハ豫シメ此等ノ事變ニ應スルノ準備ナカル可カラス況ンヤ此等ノ準備タル毫モ他ニ弊害ヲ及スノ憂ナキニ於テラヤ準備トハ他ナシ往昔羅馬人ガ其盛時ニ於テ豊ニ之ヲ有シ一朝其欠乏ヲ告クルヤ終ニ此世界的帝國ノ滅亡ヲ來シタル元氣ヲ國民ニ授クルニ外ナラサルナリ

斯ノ如キ大原理ヲ辯護スルニ敢テ予ガ微力ノ聲援ニ須ツヲ要セサルヘシ且ツ露國婦人ガ剛毅ノ人物ヲ養成スル能サル理ナシ毎年募集セラル、所ノ新兵ハ如何ニ露國ノ婦女ガ全然戰爭ニ適合スル好材料ヲ我ガ海陸軍ニ供給スルヤヲ證明シテ余リアリ此等ノ新兵ハ勞働忍耐及服從ニ馴致シ曾テ患者ヲ訴ヘス寡憩ニシテ能其分ヲ守レリ即チ兵トシテ一モ間然スル所ナキナリ

我平民ノ家族ニ於テハ規律アリ又親權ニ對スル尊敬アリ母ハ子ニ語リテ早く成人シテ兩親ノ老後ヲ養フベキコトヲ教フ斯ノ如クニシテ兒童ハ未ダ東西ヲ辨セサルノ頃ヨリ自ラ負擔スル所ノ義務ヲ識認セリ論者或ハ謂ハン新募集兵ノ多數ヲ供給スル平民ノ家族ニ於テハ曾テ教育方法ノ良否ニ思フ致スコトナク前記ノ現象ノ如キハ總テ自然的ニ行ハル、モノナリト良シ一步ヲ讓リテ平民ノ家族ニ於テハ婦女ガ國家ニ對シテ盡ス所果シテ自然的ニ出ツルモノトスルモ其功勞タル之ガ爲メ毫末モ減却スルコトナ

シ之ヲ夫ノ中等社會ノ婦女ニシテ事態ヲ辨別スルノ機能ヲ具有スルニ拘ラス社會ノ厄介物タリ又往々國家冗費ノ淵源タル身體的精神的病者ヲ國家ニ供給スル者ニ比スレバ遙ニ其上位ニ在ルコト論ヲ俟タサルナリ

第六十九 國家的昔譚ノ影響

惟フニ幼年ニ於ケル周圍ノ事物及譚類ハ人ノ心中ニ沁入シテ生涯其痕跡ヲ絶タサルノ事實ナルハ何人ト雖モ之ヲ爭ハサルヘシ

プシキンハ彼ノ心中最初ニ詩想ヲ喚起シタルハ裸母ノ譚ナリト云ヘリ近時ニ至リ孜々トシテ昔譚類及實事譚類ノ蒐集ニ著手シ聖伯德堡ノ市民ハ孰レモ實事譚ノ口演ヲ聽聞セリ我カ諸艦ニ在リテハ講譚師ノアラサルハ極メテ稀ナリ此等ノ者ハ三ヶ年ノ遠洋航海中ハ殆ント毎日ノ如ク日々新ナル譚ヲ其同僚ニ聽聞セシムルナリ是ニ由リテ之ヲ見レハ民間ニハ戰亂及豪傑ノ昔譚ヲ保存スル一種ノ力存スルヤ明ナリ而シテ何人ト雖モ是等ノ譚類ノ人ノ精神的方向ニ及ホス影響ヲ孰視スル者之ナカルヘシ故ニ凡ソ譚中軍事的英氣ヲ高ムルニ足ルヘキモノ、湮滅セサランコト是レ吾人ノ切望ニ堪ヘサル所ナリ

第七十 學校教育若クハ實地教育

凡ソ海軍々人タラント欲スル者ハ其家庭ヲ去テ先ツ兵學校ニ入ラサル可ラス而シテ彼カ學校ニ於テ經過スル歲月ハ彼レヲシテ軍事ニ適合セシムルニハ著大ナル勢力ヲ及ホスモノナリ

學校教育ニ關シテドラゴミローフ將軍カ提供セル問題ハ著目スルノ價值アルモノトス曰ク何ヲ教ヘテハ不可ナルヤト這般ノ問題ハドラゴミローフ將軍其人ニシテ始メテ提供スルモノニシテ凡ソ常識アル人ハ其問題ノ眞意ヲ解シ之ヲ實際ニスルハ決シテ難事ニ非ルヲ知ル

凡ソ教授ノ任ニ當ル者ハ間々其受持科目ノ擴張ヲ圖ルノ弊アルヲ以テ之カ監督ニ任スル者ハ己レノ職權ヲ以テ此傾向ヲ遮リ以テ教科書及圖式ニ依ルヨリモ實地即チ航海中容易ニ修得シ得ヘキ科目ヲ冗長ニ講演セサル様注意セサル可ラス即チ學科ニ於テハ將來勤務中學フニ不便ナルモノニ限り之ヲ教授セサル可ラス然リト雖モ教育ノ方法ニ二種アリ一ハ學校教育ニシテ一ハ實地教育ナリトス英人ハ常ニ第二ノ方法ヲ選擇ス此方法ハ吾人カ私ノ事業ニ於テ見ル所ニ類似スルモノニシテ例ヘバ英國ニ於テ機關官タラント欲スル壯年者ハ普通教育了リタル後十五歳ヨリ十七歳ノ年齢ヲ以テ直ニ製造所ニ入りテ四年間各技藝ヲ修メ夫レヨリ更ニ專門ノ學校ニ入學スル者ナキニアラズト雖モ多數ハ製造所ニ於ケル修業ヲ以テ專門教育ヲ修了スルモノトス

又合衆國ニ於テハ海軍士官若クハ海軍機關士タラント欲スル者ハ年齢十五歳ノ頃普通教育ヲ修得シタル後水兵若クハ機關兵トシテ艦船ニ乗込ムナリ(一八九六年露國海軍雜誌第六號參看)而シテ專門ニ涉ル智識ハ或ハ實踐的ニ或ハ自ラ海上ニ携帶セル教科書ニ就キテ之ヲ獲ルヲ通常トス彼ノ國ニ於テ我國ノ所謂航海學校ノ如キモノヲ設置セスト雖モ而カモ海軍士官アリ然ルニ學校教育ニ偏スルトキハ全然

反對ノ結果ヲ來シ則チ學校アルモ海軍士官ナシト云フ奇觀ヲ呈ス米國其他諸外國ニ於テハ事普通教育ニ涉ル時ハ學校ヲ以テ之ガ最良ノ方法ト爲ストモ或職業ヲ授クルニハ實業ヲ以テ最良ノ學校ト爲セリ我ガ露國ニ於テハ高等教育ニ對シ他國ニ比類ヲ見サル程ノ特權ヲ付與セラル、ニ拘ラス高等技藝教育ヲ受ケタルモノニシテ業務ヲ得サルモノ甚タ多シ是レ畢竟製造所ノ持主ガ智識ヲ有スルモ之ヲ實地ニ應用シ能ハサル學理家ヨリ寧ロ己レノ職業ニ馴致シタル實地家ヲ歡迎スルノ致ス所ナリトス

學校教育ノ欠點ハ生徒ガ始終目撃スルコトノ自然ナチュラニアラスシテ人爲アーティフィシャル的ナルト對手トスルモノハ自ラ修メントスル所ト同職業ノ人ニアラスシテ教育家ナルニ存スルモノトス故ニ教育家愈々善良即チ能ク少壯者ヲ訓練スルノ人物ナレバ愈々勇壯ナル海軍々人若クハ熟練ナル機關士ノ模範ニ類似セザルナリ而モ此模範タル此少年輩ノ以テ龜鑑ト爲スヘキ所ナリ

予ハ或時某練習艦ヲ檢閲シ其秩序の事業時間ノ分配等ヲ實見シテ圖ラスモ思惟セリ斯ノ如キ境涯ハ秩序的秩序的ニ此ノ秩序の教育ヲ以テ勇氣及決斷力ヲ撲滅スルニアラズヤト又此教育ノ方法ハ終ニハ知ラス識ラスノ間ニ臆心ヲ涵養スルト因襲ノ弊害ヲ除却スルノ奮起心ヲ遲疑セシムル基トナラサルヤト在校歲月ノ長キニ從ヒ益々壯年者ニ惡影響ヲ及ホスモノトス現ニ二十二歳ニ達シタル壯年者ヲ一生徒トシテ學校内ニ閉居セシムレハ彼レハ出校後モ永ク依然トシテ臆病ナル生徒タルヘク決シテ勇敢ナル實地家タルヲ得サルヘシ

第七十一 結論

以上陳述シタル所ニ依リ吾人ハ遂ニ確信ス學校ヲ卒業シテ將校トナルノ平均年齢ヲ下シテ十八歳ト改メ之カ爲ニ生スル學理的知識ノ不足ハ之ヲ將校タル勤務ノ日ニ於テ授ケラレタランニハ我海軍將校ノ獲ル所蓋シ鮮少ナラサルヘシ要ハ各自カ學校卒業ト共ニ修學ノ修了セサルコト并ニ苟モ退步セザランコトヲ希望スル士官ハ勤務中始終修學シ勉勵セサルヘカラサルコトヲ忘却セシメサルニ在リ

第四章

自修及獨習

第七十二 一般觀察

普通教育ヲ修了シタル輩ハ未タ社交上ノ事ハ何事ヲモ知ラス如何ナル軍事養育ヲモ受ケス僅ニ教育ノ科目ヲ了知シ自己ノ養育ヲ完成スル爲メニ自ラ研究セサルヘカラサル各科ヲ指定セラレタルニ足サルトノ觀念ヲ抱持シ他人ノ應援ニ待タス自己ノ勞力ヲ以テ之ヲ遂行スルノ決心ヲ以テ活社會ニ出テサル可ラス吾人ノ見ル所ヲ以テスレハ軍事的訓練ハ軍事教育ヨリ重要ナリ故ニ先ツ之ヨリ論セントス

第七十三 名譽ノ死ヲ遂クルト云フ意思ヲ會得スルノ必要

自ラ軍職ヲ選擇シタル年少士官カ其畢生ノ規箴トシテ造次モ忘ル可ラサル重要ナルモノハ何ニナルヤ

ハ是レ頗ル重大ナル問題ト云ハサル可ラス而シテ此問題ノ決解ハ他ニ幾多ノ高尙ナル解義ヲ下シタル夫ノクラウゼウキツニ就キ之ヲ得タリ即チ成功ノ期スヘキモノナキニ拘ラス之ヲ斷行セサル可ラサルノ場合乃至單ニ他ニ施スヘキノ良策ヲ得サルカ爲メ決行セサル可ラサルノ場合ニ就テクロゼウキツハ曰斯ノ如キ場合ニ望ミテ靜思及堅忍(戰時ニ於テハ最大用要ナルモノ)ヲ失ハサルハ頗ル困難ナリト雖モ之ナキトキハ如何ナル英智モ亦無効ニ歸スヘキナリ而シテ之ヲ失ナハサラント欲セハ豫メ名譽ノ死ヲ遂クルト云フ意志ヲ堅固ニスルノ外ナシ此意志ハ日夕ノ鼓吹ヲ以テ軍人ノ腦裡ニ浸潤セシメサル可ラス諸君ハ信憑スヘシ此堅固ナル決心ナキトキハ最モ好運ノ戰爭ニ於テモ尙且ツ一ノ偉功ヲ奏スル能ハス況ンヤ悲運ノ時ニ於テオヤト(クラウゼウキツ戰爭學第七頁)

前掲クラウゼウキツノ語中名譽ノ死ヲ遂クルト云フ意思ヲ慣染センカ爲メニハ之ヲ浸潤セサルヘカラス云々ノ一節ハ深キ意義ヲ含蓄スルモノナリ凡ソ生活物ハ自然ノ情性トシテ死ヲ恐怖スルモノナリ然レトモ人ニハ此自然ノ情性ヲ抑制スルノ具トシテ意力カハルバウナルモノヲ賦與セラル、ナリ夫ノ獸類ハ雷ニ己レノ死ヲ怖ル、ノミナラス併セテ同類ノ死ヲモ怖ル、ハ吾人ノ親シク目撃スル所ニシテ或ル獸類ノ死ニ瀕スル時ハ其附近ニ在ル獸群ハ直ニ散亂スルヲ恒例トス然ルニ人タルモノハ能ク此感情ヲ抑制シテ親シク將ニ死セントスル者ヲ看護シ或ハ其臨終ノ患苦ヲ輕減シ或ハ回生セシムルコトヲ努ム加之人ハ古代ヨリ死ヲ怖ル、ノ情ヲ抑制センコトヲ汲々トシテ死ヲ輕ニスルヲ以テ根本ト爲ス夫ノ軍人氣質

ノ如キハ久シク既ニ世人ノ尊敬ヲ博シ來レル所ナリ

名將タル者ハ皆個人的勇猛ナリキ則チアレキサンドル及シーザルハ往々劍ヲ振ヒテ鬪ヒ危急ニ臨ミテハ親シク其軍隊ノ先頭ニ立テリ

火器ノ時代ニ移テヨリ以來戰線著シク増大シ總司令官ハ戰線ヨリ遠サカルコト、爲レリ今ノ時ニ於テハ總司令官自ラ軍頭ニ立チ劍ヲ振テ敵軍ヲ突撃スルカ如キハ殆ント想像シ能ハサル事態ナルモ各部隊ノ指揮官ハ素ヨリ總司令官ニアラス各其率ユル所ノ部隊ノ先頭ニ在リテ敵ヲ突キ自ラ模範ヲ示シテ整然タル攻撃ヲ行ヒ敵ヲ破ルヲ以テ己レノ宿望ト爲サルヘカラス

ドラゴミローフ將軍謂ヘラク死ヲ怖レサルモノニシテ始メテ戰勝者タルヲ得ヘシト故ニ戰勝ヲ占メント欲スル者ハ必ス戰勝ヲ得ルニ非レハ戰死スル決心ナカラサルヘカラス此決心アルモノニシテ始メテ戰勝ヲ豫期スヘシ人ノ感情激甚ナルトキハ雷ニ欣然トシテ死ニ就クノミナラス死シテ止ムノ心ヲ以テ戰フモ亦愉快ナラスヤ衆ニ抽テ、工ミニ軍隊ヲ誘引シ挺身劇戰ニ當ラシムルノ機能ヲ具備セルスコトベレフハゲフクテペーノ戰ノ際前ニ軍旗ヲ失ヒタルアブシエロンスク大隊ヲ以テ突撃攻撃ノ先鋒隊ト爲シ左ノ數言ヲ以テ該隊ヲ鼓舞シ大ニ其士氣ヲ提起セリ曰ク軍旗ヲ奪還セントスル諸氏ノ名譽アル戰死ヲ祝スト當時現場ニ在リテ親シク目撃シタル者ノ語ル所ニ依レハ此數言ヲ聞キタル士卒ハ激烈ナル熱心ヲ以テ猛火ヲ冒シ突進セリト

素養アルモノハ雷ニ上官ノ誘導感應ニ依リ鋭敏ト爲ルノミナラス自ラ他人ヲ誘引シ己レ模範トナリ以テ他人ヲ感動シ得ルニ至ルモノナリ凡ソ軍人タルモノハ眞ニ一身ヲ犠牲ニ供スルノ認識ヲ養成セサル可ラス彼レ始メテ之ヲ思ハ、恐ラクハ顔色蒼然トシテ身體ノ戰慄ヲ覺フヘシ然レトモ之ヲ再ヒスル時ハ苦痛ノ感觸ハ前回程ニ甚シカラス終ニハ此觀念ニ感染シテ生來抱有スルモノ、如ク思惟セラレ或ハ又愉快ヲ感スルニ至ルヘシ

我國ノ豪傑スコーベレフノ命ニ依リ前哨ニ派遣セラレ同所ニ於テ戰死ヲ遂ケタル士官ノ母或ル時スコーベレフノ許ニ來リテ詰責ル所アリキ此時將軍答ヘテ曰ク夫人ヨ卿ノ息ハ軍人タル者ノ希望シ得ヘキ最高ノ賞典ヲ得タリ即チ彼ハ戰死ヲ遂ケタリ予モ曾テ自ラ之ニ越シタル賞典ヲ希望シタルコトナシト而シテスコーベレフカ危険ニ陥リタルハ其幾回ナルヲ知ラスト雖モ遂ニ此最高賞典ニ浴スルノ榮ヲ得サリシハ吾人ノ知ル所ナリ

吾人カ前ニ引用シタル如クスオーロフモ亦曾テ兵卒ニ向テ戰死ノ虞ナシト謂ハスシテ却テ必死ヲ期ス可キヲ諭シ且ツ謂ヘラク死セヨ汝ノ國ノ爲メニ汝ノ母ノ爲メニ(女帝ノコト)汝ノ聖教ノ爲メニ聖教會ハ汝ノ爲メニ天帝ニ祈ル生還スル者ノ爲メニハ名譽光榮アルヘシ云々

獨リ個人ノミナラス幾多ノ團體ノ平然死ニ就キタルハ其實例ニ乏シカラス例ハ佛國革命ノ時代ニ於テ獄内ノ囚人ハ孰レモ斷頭機ノ待ツアルヲ知悉セルニ拘ハラズ從容トシテ快活ノ談話中ニ其日ヲ送レ

リ當時夕刻ニ至レハ屢其翌朝斷頭ニ處セララルヘキ者ノ氏名ヲ記シタル書面ヲ受領セシトキ之ヲ朗讀スル者ノ内ニハ僅カニ尙ホ數時間ノ餘生ヲ貪リ得ヘキ者タルニ係ラス往々戲言諧謔ヲ吐ク者少カラサリキ

第七十四 スコーベレフノ意見

スコーベレフ曾テ吾人ニ語テ謂ヘラク彼ハ傷ヲ受ケ擔架ヲ以テ運搬セララル、ノ途中竊カニ其語ラントスル所ヲ思考セリ若シ輕傷ナレハ斯ク々々若シ又致死ノ重傷ナルトキハ云々ト決セリト是ニ由リテ之ヲ觀レハスコーベレフハ負傷シタル後ニ於テ尙ホ且ツ毫モ死ヲ怖レサリシナリ

夫レ然リ然リト雖モ如何ナル教育ヲ以テスルモ自然ノ性情ヲ全然撲滅シ能ハサルコトヲ記憶セサル可カラス吾人ハ茲ニ其一例トシテ何人ト雖モ怯懦ヲ以テ詰責シ得サルスコーベレフ其人ヲ探ラン予ハ屢々ブレウナ其他ノ戰場ニ於ケル負傷者ノ海上運搬ヲ負擔シスコーベレフノ毀譽ニ就テ些ノ利益ノ關係ヲ有セサルモノ、直談ニ基キ將軍ノ勇膽ニ付キ判斷ヲ下スノ機會ヲ得タリ此等ノ負傷者ハ皆一聲ニスコーベレフヲ賞揚シ且ツ謂ヘラク危險愈々多クシテスコーベレフハ益々快活ト爲レリト又アカルイケ一遠征ニ先タチスコーベレフトノ談話ハ今尙ホ吾人ノ記憶ニ存セリ當時スコーベレフ詳細水雷攻撃ノ事ヲ予ニ質問セシニ依リ予ハ答フルニ總テ個人的勇氣ニ依テ決スル旨ヲ以テセリ且ツ予ハスコーベレフニ對シ左ノ如ク言ヘリ

曾テ恐怖ノ何物タルヲ知ラサル君ノ如キ人ナランニハ成功ノ程度那邊ニ達スヘキヤ殆ント想像シ能ハサルナリ

スコーベレフ予ニ答テ曰ク

君若シ全然恐怖ヲ知ラサルノ人アリ得ヘシト思ハ、君ハ大ニ誤レルナリ余ハ斯ノ如キ人物ノアリ得ヘキヲ信セス予ヲシテ謂ハシメハ人ハ或ル場合ニ在リテハ無限ニ勇猛ニシテ或ル場合ニ在リテハ全く臆病者ト爲ル者ナリ勿論堅固ナル意志アル人ハ自ラ制シテ恐怖ノ感情ヲ抑壓シ得ヘシト雖モ予カ曾テ塹壕内ニ横臥シタル時予カ上ニハ宛モ彈丸ノ密雲通過スルノ思アリテ如何ニシテモ敢テ起立シ能ハサリシ椿事ハ予カ自ラ記憶スル所ナリ數分時ヲ經過シタル後余ハ遂ニ此感情ヲ抑制シ自ラ已レノ臆病ヲ罰セント欲シテ故ラニ一層火力ノ激烈ナル所へ突進セリ然レトモ溝渠内ニ横臥スレハ復タ余ハ最モ憐ムヘキ臆病者トナレリト

前掲スコーベレフノ實歴談ニ依リテ訓戒ヲ創作シ得ヘシ即チ彈丸ノ下ニ在リテ恐怖ノ感情起ルアラハ決シテ之ニ驚ク可カラス宜シク心ヲ鼓シ之ヲ抑制セント努ムヘシ斯クスルトキハ必スヤ倏然自若タルヲ得ヘシ而シテ愈々發達シタル人ナレハ其自若タルヲ得ルノ程度益増大スルモノナリ

凡ソ將校タル者ハ須臾モ其部下ヲ獎勵スルノ義務アルコトヲ忘却スヘカラス例ヘハ砲兵ノ教練中砲隊長ハ距離ノ修正及射撃ニ關スル爾他ノ教訓ヲ爲スト雖モ戰場ニ臨ミテハ砲撃開始ノ初期ニ於テノミ之

ヲ爲スコトヲ得ヘシト一タヒ死傷ヲ生スルニ方リテハ彼レハ專心一意部下ノ鼓舞ニ努メ泰然トシテ冷膽ノ模範ヲ示スヘキナリ否ラサルトキハ照準ノ誤謬ヨリ來ル損失ノ倍蓰スルハ論ヲ俟タサルナリ軍隊ヲ鼓舞シ之ニ相當ノ冷膽ヲ復セシムルニハ種々ノ方法アリスコーベレフノ勸告スル所ニ依レハ或ル場合ニ於テハ小銃操練ヲ開始シ即チ兵卒カ平時最モ慣用セル事ヲ爲サシムルヲ可トスト云フスコーベレフ將軍ノ軍事經歷ニ係ル直談ヲ多ク書取リ置カサリシハ深ク吾人ノ遺憾トスル所ナリト雖モ尙本問題ニ適應スヘキ一ノ實歴譚ノ吾人ノ記憶ニ在ルモノアリ事ハ一八七七八年露土ノ戰爭ノ時ニ係レリ或ル中隊ハ土兵ノ占有セル某壘ヲ奪取セントシテ攻撃ヲ開始セリ然レトモ火力ノ劇烈ナリシ爲メ中隊ハ未タ敵線ニ達セスシテ横臥シ中隊長亦之ニ倣ヘリ斯クスルト未タ幾許ナラス中隊長兵ニ語テ曰ク斯ク横臥スルハ不可ナリ宜シク前進スヘシト兵ハ之ニ答ヘテ曰ク少シク臆病風ニ襲ハレタルモ今ヨリ突進スヘシト此談話ハ順次全中隊ニ傳達シ暫クシテ中隊長ニ上申スル者アリ曰ク衆皆必ス突進スヘク壘ヲ取ラサレハ停止スルコトナカルヘク唯中隊長宜シク令ヲ下シ一人ノ後ル、者アラシメサルヘカラスト斯ノ如クシテ隊員カ其最初ノ感情ヲ抑制シ得タルヲ確メタル後中隊長ハ隊員ニ命スルニ自ラ突進スルトキハ衆皆之ニ續クヘキ旨ヲ以テシタリ此決行アルヤ壘ハ直チニ奪取セラレタリスコーベレフカ現場ニ到達シタル時ハ壘上ニハ既ニ全大隊ノ屯集シタル頃ナリキスコーベレフハ敵ノ反抗頑固ナリシヲ知り直ニ各將校ヲ召集シテ神聖ゲオルキイ武功章奏請ノ爲メ拔群ノ武功ヲ樹テタル者ハ何人ナルヤ

ヲ詰問セシニ各將校ハ勿論壘ヲ奪取シタル中隊長ヲ指名セリ此時ニ當リスコーベレフハ壘ヲ占領シタルヲ歡フト共ニ拔群ノ武功者カ相當ノ賞ヲ受ク可キニ満足シテ現場ヲ去レリ其日午後大隊長スコーベレフノ許ニ來リテ上申シテ曰ク前ニ召集セラレタル各將校ハ武功拔群者ニ關スル問題ノ突然ニ起リタル爲メ誤テ其人ニアラサル將校ヲ指名セリト而シテ之ヲ證スルニ當時ノ状態ヲ細陳シテ中隊長カ如斯行爲ハ決シテ部下ヲ督勵スルノ法ニ稱ハサル所以ヲ以テセリ然レトモスコーベレフハ前議ヲ翻サス蓋シ彼ノ見ル所ニ依レハ本件ノ事情ニ在リテ該將校ノ行爲ハ毫モ間然スル所ナシトセリ若シ之ニ反シテ該將校獨リ自ラ突進シテ隊員ノ續テ應援ヲ得サリシナランニハ其結果ノ不良ナルハ頗ル了然タルヘシ

(以上ハ直接予カスコーベレフヨリ聽キタル談話ノ一節ナリトス)

第七十五 海軍々人ニハ特ニ名譽ノ死ヲ遂クルト云フ意志

一層必要ナリ

吾人ハ更ニ復茲ニ名譽ノ死ニ關スル意志ヲ神聖視シテ保存シ之ヲ培養スルノ必要ニ關スルクラウゼウキツノ解義ニ付キテ述ヘンニ此意志ノ必要ハ海軍ニ於テハ陸軍ニ於ケルヨリ一層著大ナルヲ見ル何トナレハ陸軍ニ在リテ戦闘ハ漸ヲ逐フテ開始セラルレハナリ現ニ全軍同時ニ開戦スルコトナシ始メハ前方ニ於テ小戦闘起リ戰場ニ於ケル死傷者ノ狀況并ニ死傷者ニ關スル間斷ナキ報告ハ幾許カ死ヲ恐ル、感情ヲ滅殺シ全軍戦闘ヲ開クノ頃ニハ兵士ハ既ニ大ニ經驗ヲ積ミ居ルナリトルストイ伯ハ和戰ト題ス

ル小説中巧ニ榴彈若クハ榴霰彈ノ爲メ隊中若干ノ死傷者ヲ出シタル後列間ヲ閉メヨノ號令下ル時ノ状態ヲ描出セリ又數月間堡壘内ニ止マリタル夫ノセワストボリノ防禦者等ハ死ニ對スル意志ニ慣染シ終ニハ殺傷セラル、ヲ恒例トシ生存スルヲ却テ偶然ノ僥倖ト看做スニ至レリ又シエマン大佐カ未タ若年ニシテゲオクテペー包圍ノ際海軍陸戰隊ノ指揮官タリシ時ノ狀ヲ語テ曰ク曾テ其ノ重傷ヲ負ヒタル後始メテ生還シ得ヘキヲ確認シタリト

然ルニ海上ニ於ケル戦闘ハ之トハ大ニ其狀勢ヲ異ニスルモノナリ大戦闘ハ些ノ準備ヲ爲スノ違ナク突如トシテ起リ豫テ平時ニ於テ名譽ノ死ヲ遂クルノ意志ヲ涵養シタル艦隊ハ敵手ニ對シ精神上ノ卓越ヲ有スヘキハ吾人茲ニ反復主唱スルヲ憚ラサルナリ

第七十六 意力ノ養成ニ就キテ

總司令官タル者ノ具有スヘキ種々ノ特質ヲ列舉スルニ當リ軍事諸大家及ヒ諸著者ハ一言ノ神經ノ堅忍質ニ説及ホシタルモノナシトハクロンシュタット海軍俱樂部講演ノ後吾人カ屢々耳ニセル所ナリトス想フニ諸大家等ノ所見ニ依レハ總司令官其他凡ソ職ニ在ル者ハ必ス堅忍ナル神經ヲ具有スヘキモノニシテ苟モ之ヲ具有セサレハ其負擔ノ業務ニ適セサルナリ而シテ吾人カ前ニ引用シタル諸大家ノ爲メ茲ニ辨解ノ勞ヲ取ラントスルモノアリ即チ氣力ナル語ノ下ニ諸大家ハ恐ラク事ニ臨テ自若タルノ機能換言スレハ己レノ神經系ヲシテ事ニ妨害ヲ及ホサシメサルノ機能ヲ含蓄セシメタルト謂ハサル可カラス

又左記ノ問題ハ實地研究スルノ價值アルモノトス

第一 人ハ外形ニ現ハル、神經ノ作用以上ニ超然タル迄ニ已レノ意力ヲ支配シ得ヘキヤ否ヤ換言ス

レハ恐怖ノ感情ナルモノハ隨意ニ撲滅シ得ヘキモノナルヤ否ヤ

第二 或ル方面ニ限り已レノ知覺ヲ銳敏ニ爲シ得ヘキヤ否ヤ例ヘハ砲聲其他強力ナル感覺ニ脅カサ

レスシテ單ニ専ラ自艦及ヒ他艦ノ運動ノミニ限り銳敏ナラシムルヲ得ヘキヤ否ヤ

本件ニ關シ吾人ハ最モ信憑スヘキシドローフスキイ博士ノ意見ヲ叩キタルニ博士ハ左ノ如ク評論セリ
人ノ神經ハ其天性及ヒ修養ニ依リ外部ノ刺衝ニ對スル感動ノ増減シ得ルモノナリ神經ノ感動ノ薄弱ナルハ概シテ發達ノ程度低キ人ニ於テ之ヲ見ルナリ

才能アル人ハ多クハ銳敏ナル神經ヲ有シ彼等ニシテ意力充分ニ發達セサルトキハ多數ノ神經的刺衝ハ戰慄皮膚ノ蒼然溼變涕泣等ノ如キ種々ナル筋ノ短縮ヲ起スモノニシテ即チ所謂神經質ノ人ト爲ルナリ然レトモ意力發達シタルトキハ神經刺衝ノ感應ハ最高智力的作用ノ精密ナル分析ヲ經タル後始メテ筋ノ短縮ヲ起スモノニシテ此場合ニ於テハ神經刺衝ハ或一ノ方面ニノミ必要ナル筋ノ收縮ヲ起スモノナリ又銳敏ナル神經ヲ有シ尙ホ堅固ナル大氣力ヲ具備スルモノアリ此種ノ人物ハ孰レノ事業ニ於テモ頗ル有益の働作ヲ爲シ得ルモノトス

外部ノ刺衝ヲ或ル一ノ方面ニ於テ神經系ニ感應セシメントスルコトハ秩序的練習ニ依テ開發スルヲ得

ヘシ是レ即チ各種専門事業ヲ研究スル教養ノ基礎トナルモノナリ且ツ前段陳述セル如ク神經力旺盛ノ人物モ亦有用ナルヲ以テ之カ意力ヲ發展セシムルコト亦肝要ナリ又意力ヲシテ終始適當ニ衆筋ノ短縮ヲ指導セシムルニハ必ず善良ナル最高智力ノ監督即チ世俗ノ所謂智慧ノ下ニアラシメサル可ラス智慧ハ天ノ最モ高尚ナル賜物ニシテ教養ハ之ヲシテ何レノ方面ニテモ發展セシムルニ難カラス是レ所謂學問即チ五官ノ援助ニ依リテ周圍ノ事物ヨリ感受スル神經ノ刺衝ヲ精選類別シテ之ヲ腦裡ニ開發シ能フモノナリ獨リ意力ノミ發達シテ善良ナル智慧ノ之ニ參與セサルトキハ即チ頑強ノ性情トナルハ此理ニ外ナラス智慧ト意力相伴フテ始メテ有益ナル堅忍不拔ノ性質ヲ得ルナリ

智慧及ヒ意力ノ在所ハ腦髓ニシテ是ヨリ脊髓ヲ經テ始メテ諸筋ノ短縮作用ヲ及ホスナリ凡ソ五官ニ於テ感受シタル外部ノ神經刺衝ハ腦髓ニ達シ茲ニテ智慧及ヒ意力ノ援助ヲ以テ某ノ事情ニ於テハ如何ナル筋ノ短縮ヲ行フヲ利ト爲スカ即チ俗言ヲ以テ之ヲ謂ヘハ如何ナル行動ヲ爲スヘキカヲ決スルナリ此場合ニ於テハ腦髓ニ於テ感受シタル刺衝ト筋ノ短縮ヲ行フ爲メ腦髓ヨリ傳フル命令トノ間ニ存スル相互ノ關係ハ千變万化究極スル所ナク總テ意力ノ發達ノ程度ニ應スルモノトス乃チ極點ニマテ已ノ意力ヲ開發シタル人ハ身體精神ノ苦痛耐ヘ難キニ拘ラス些細ノ振動タニ起サス所謂一眼ノ拘攣ナク從容トシテ死ニ就クカ如ク之ニ反シテ已ノ意力ヲ鍛鍊セサル者ハ悶躁シ或ハ涕泣シ或ハ單ニ其身ニ刃物ヲ接セラレ若クハ流血ヲ一見シタルノミニシテ卒倒(神經系ノ極度ノ震動)スルニ至ル然シナカラ事情ニ依

リ差異ヲ生スルコト多シ現ニ親シク戰爭ノ慘狀ヲ經過シ能ク之ヲ忍耐セル人ニシテ已ノ咯痰中ニ血痕ヲ認メテ狼狽ヲ極メ殆ント卒倒セントスルモノアルナリ

周圍ヨリ身心ニ至ル神經ノ傳導質ノ程度ヲ變更スルハ到底人カノ企テ及ハサル所ナリ例ヘハ疼痛ヲ感セサラントスルモ能ハサルヘシ然レトモ意力ト智心ノ力ヲ以テスルトキハ彼能ク此場合ニ於テ無益ナル筋ノ短縮ヲ避ケ得ヘク即チ涕ヲ流シ呻聲ヲ發スル等ノ事ヲ爲サ、ルヲ得ルナリ

凡ソ身體ニ於ケル適宜ニシテ整然タル筋ノ短縮ハ腦髓中ニ在ル中央部ノ監督ノ下ニ發生スルモノナリ人カ複雑ナル筋ノ短縮例ヘハ步行舞踏音樂修業等ノ如キノ研究ニ從事スルノ間ハ總テ是等ノ筋ノ短縮ハ識認力ノ監督ヲ受クヘシト雖モ一朝其研究ヲ修了スルヤ即チ腦髓内ニ於テ既ニ神經元素ノ必要ナル結合成ルニ於テハ是等ノ發動ハ識認力ノ監督ヲ離レ却テ己レノ一舉一動ヲ熟考シテ之ヲ爲シタル時ニ比スレハ無論一層迅速ニ一層善良ニ之ヲ遂行スルナリ多數人ノ視線自身ニ注射スルコトヲ知り通常ヨリ一層態度ヲ整ヘ歩行セントスルトキハ其姿勢ハ益醜ニ陷ルモノナリ吾人カ茲ニ此例ヲ舉示セル所以ハ吾人ノ腦髓中ニハ意力及ヒ識認力ニ由テ惹起サレタル原素ノ存在スルアリテ此等ノ原素ハ吾人カ既ニ此事ヲ念頭ニ有セサルノ時ニ於テモ亦筋ノ短縮ヲ動作スル事實ヲ示サント欲スレハナリ

母ハ隣室ノ器具ヲ移動スル響ノ爲メニ目覺サルモ其幼兒ノ搖籃ノ少シク動搖スレハ直ニ目覺メ又吾人ニ必要アレハ夜間何時ニモ目覺ムルヲ得ルカ如キ類例ハ尙ホ他ニ多ク舉示スルニ難カラス又人ノ神經

ノ敏活ナル動作ハ各種ノ方面ニ於テ著シク之ヲ開發シ能フモノトス人ハ一事ヲ思考スルト同時ニ知ラス識ラス他ノ複雑ナル事件ヲ完了スルコトアリ人ノ神經的動作ノ方向夥多ニシテ停止スル所ナシ然レトモ此神經的動作ノ或方向ヲ開發スルニハ如何ニシテ可ナルヤ今尙殆ント解釋ヲ得サル所ナリトス人カ其意力ヲ開發シ得ルノ事實ハ更ニ疑點ノ存スルモノナシ而シテ個人的生活ニ於テモ社會ニ於テモ其及ホス所ノ勢力極メテ廣大ナルヨリ意力養成ノ問題ニハ今ヨリ一層注目スル所ナカル可ラス勿論此關係ニ於テハ學理的基礎未タ堅牢ナラサルヨリ往々暗夜のノ舉動ヲ免レサルハ又如何トモ爲シ能ハサルナリ

第七十七 意力養成ニ關スル結論

前掲シドローフスキイ博士ノ評論ヨリ吾人ハ左ノ斷案ヲ下スヲ得ヘシ

- (イ) 學校ニ於テスル仁爲的智力ノ開發ハ意力ト神經感應力トノ均衡ヲ破ルモノナリ是レ學者社會ノ多數人士ノ神經過敏ナル所以ナリトス斯ノ如キ不均衡ヲ除却セント欲セハ須ラク幼少ノ時ヨリ意力ヲ開放シ以テ百般ノ事件ニ際會シテ始終自若タルノ機能ヲ求メサル可ラス智力ノ發達愈完全ナルトキハ意力ノ養成ニ注目スルコト愈々厚カラサル可カラサルナリ
- (ロ) 人ハ疼痛ヲ感覺セサラント欲スルモ能ハサル者ナリ然レモ良シ疼痛ヲ感スルモ之ヲ外形ニ表示セサル迄ニ自若タルヲ得ルノ人ハ彈丸ノ飛行スル音響ヲ聽カサルヲ得スト雖モ此音響ノ爲メ

ニ自己ノ任務ヲ遂行スルニ支障ナキ程度ニ慣染スルヲ得ヘシ或ハ大ニ奮勵セサルヘカラサル場合アルヘシ人ハ負傷者ヲ見テ不快ノ感情ヲ惹起セサルヲ得スト雖モ而カモ其意カハ恰カモ何事モ出來セサリシ如ク正確ニ平然諸事ヲ處理スルコトヲ得ルナリ或ル事ニ從フモノ他ヨリ種々ノ質問ヲ受クルトキハ大ニ其煩ヲ厭フノ感生スヘシト雖モ斯ノ如キ妨害ノ爲メニ激動セサル迄已ヲ鍛鍊スルヲ要ス蓋シ戰爭中指揮官タル者ハ常ニ這般ノ境遇ニ在リテ行動スヘキ者ナレハナリ

(ハ) 何事ヲ修得スルモ其初期ニ在リテハ一切ノ動作皆意思のニ生スルモ漸次習慣ノ効ヲ積ミ後ニハ思考ノ參與ヲ經スシテ之ヲ遂行スルニ至ルナリ故ニ一物ヲ處理スルト同時ニ他ノ事ヲ思考スルコトヲ得ヘシ是ヲ以テ戰時必要ノ動作屢々之ヲ修習シ全然一ノ習慣ト爲リ一切知ラス識ラスノ間ニ遂行スルニ至ランコト吾人ノ切望ニ堪エサル所ナリ

(ニ) 學問ハ各個人ニ對シ意力養成ノ方法ニ關シ正確ナル教訓ヲ授ケ能ハスト雖モ然レトモ人ノ意カハ極點マテ即チ自衛ノ感情ヲ全然強壓スル迄ニ發展シ得ヘキハ學術の事實ノ確然明證スル所ナリ激動シ易キ人ハ其罪其人ニ存シ自ラ其意力ノ養成ニ努メサリシニ座セスンハアラス此事ニ於テハ凡テ百般ノ事件ニ於ケルカ如ク何時ト雖モ決シテ晚カラスト云フ希臘賢人ノ格言ヲ以テ原則ト爲サ、ルヘカラス

第七十八 讀本ノ撰擇

士官ノ發達ハ多クハ其愛讀スル書籍ノ撰擇如何ニ依リテ消長スルモノナリ學校教科書編纂者ノ最大誤謬ノ一トモ謂フヘキハ彼等ハ十分諸大家ノ文ヲ引用スルヲ爲サス學問ニヨリテ設定セラレタル種々ノ定義ヲ恰モ自家ノ定義ノ如クニ講述スルニ在リ是レ學生ノ智力ヲシテ異端ニ開發スルノ虞アルモノトス

モンテスキュー曾テ謂テ曰ク予ハ充分養成セラレタル腦ヨリ寧ロ完全ナル腦ヲ撰擇スト教師ニシテ若シ諸大家ノ說ヲ多ク引用シテ生徒ニ授ケタランニハ生徒ハ學問ノ基礎ト爲リタル創作ニ對シ彼ニ相當ノ尊敬心ヲ捧ケヘク之ニ反シテ教師若シ總テ自家ノ言ヲ以テ傳授シタランニハ生徒ハ僅ニ表面的ノ智識ヲ得ルニ過キスシテ先人ノ說ヲ誤評シテ總テ不完全ナリトスルノ感ヲ抱懷スルニ至ルヘク遂ニ該生徒ハ先人ノ創作ニ對シテ相當ノ尊敬ヲ涵養シ得ス却テ始終拔萃文ヲ以テ満足スルニ至ルヘシ

少壯者ニ對スル吾人ノ忠告ハ成ルヘク多クノ原著ヲ閱讀スヘシト云フニ在リ又閱讀スヘキ書籍ノ選擇ニ至リテハ書中ノ事柄ヨリモ寧ロ著者ノ價值ニ依テ處スヘキナリ

要スルニ吾人ノ謂ハント欲スル所ハ則チ大家ノ著作ハ其著極メテ無事ノ時代ニ成リタリト雖モ之ヲ重要ナル時代ニ生存シタル平凡ノ著者ノ作ニ比スレハ大ニ教訓ト爲ルコト是レナリ昔時ヨリ豪傑ハ皆歴史ノ研究ニ重キヲ置キタリナボレオン、曾テ曰ク、アレキサンドル、ハンニバル、シーザル、グスターウ、アドルフ、チュレンヌ、ユーゼン及、フリードリヒ、ノ戰爭ハ再三之ヲ閱讀シテ之ニ倣フヘシ是レ他日名

將ト爲リ軍術ノ秘訣ヲ極ムル唯一ノ手段ナリトス又如何ナル原則ハ偉人ノ要素ニ戻リテ之ニ倣フヘカラサルカハ教育ヲ以テ開發シタル汝ノ智慧カ能ク汝ニ示教スル所アルヘシ云々(ナポレオン軍則第七十九頁)ナポレオンハ又同精神ニテ説テ曰ク如何ニシテ戦闘ヲ開始シ如何ニシテ之ヲ指導スルカヲ知ラント欲セハ宜シク名將軍ノ與リタル百五十ノ戦闘ヲ研究スヘシト

第七十九 戦闘研究ノ方法ニ關スルクロートコフ將軍ノ意見

以上陳述セル所ニ加ヘテ曾テクロートコフ將軍カ其學生ニ與ヘタル忠告ヲ擧示スルハ敢テ無益ニアラサルヘシ將軍ノ見ル所ニ依レハ凡テ戦闘ヲ研究スルニ當リ其梗概ヲ知ルヲ以テ足レリトスヘカラス戦争ノ狀況ヲ詳細ニ研究シ以テ兩軍ノ指揮官ヲ勸導サレタル原因ヲ追究セサルヘカラス如ニシテ始メテ戦争ノ研究其效驗ヲ顯ハスモノトス若シ夫レ數多ノ戦争ヲ斯ク詳細ニ研究スルハ到底爲シ難シトセン歟然ラハ二三ノ戦争ナリトモ精密ニ研究スヘキナリ表面的ノ研究ハ豫期ノ利益ヲ與ヘサルヘシ

第八十 實踐ニ依リ學ブベキ必要

讀書ノ外活社會ニ就キテ總テ必要ノ事ヲ研究セサル可カラス一事件アリテ之ヨリ學得スル所アラントスルニハ其事件ヲ傍觀スルヲ以テ足レリト爲スヘカラス總テ實見シタル事ニ就キ己レニ有益ナル示教ヲ得ンコトニ努メサルヘカラサルナリ

或人或不能ノ士官ニ付キ曾テ海軍大將ラーザレフニ語テ曰ク彼ハ久シク航海ニ從事セリト其時將官自

己ノ提革ヲ指シテ謂ヘラク此提革モ既ニ三回程世界周航ヲ爲セリ然レトモ依然提革ニ過キスト

ドラゴミールロフ將軍ハ或ル論文中左記スホムリーノフ氏ノ痛快ナル意見ニ同意ヲ表セリ即チ曰ク辻馬車屋聖伯德堡中一百露里ヲ乘廻ルモ之カ爲メ功妙ナル馭者トハ爲ラスト

フリードリヒ大王ハ其著書中同一問題ニ關シ左ノ如ク謂ヘリ

人ノ生活ニシテ草木ノ生活ニ髣髴タラハ何ノ益スル所アラン只見ルコトヲ以テ最終ノ目的ト爲サハ物ヲ見ルモ何ノ益スル所アラン却テ之カ爲メ空シク己ノ記憶ヲ複雑ニスルニ過キサルナリ一言以テ之ヲ謂ハ、熟考ノ之ニ伴フナクンハ假令經歷ヲ積ムモ何ノ益スル所アランヤ

ウエーデーラー謂ヘルアリ戦争ハ研究ヲ要スルモノニシテ連綿タル練習タラサル可カラスト而シテ彼ノ見解ハ其當ヲ得タルモノナリ

實見ハ精密ニ執行セサレハ益ナシ美術家ハ根本的分析ヲ經タル後原理ノ認識ニ達スルモノニシテ休憩時ニハ經驗ノ新材料ヲ作爲スルナリ斯ノ如キ研究ハ探考の智慧ノ特有物ナリトス然レトモ實際スルノ如キ人物ハ稀ニ見ル所ニシテ多クハ完全ナル自己ノ五官ヲ有スルニ係ラス遂ニ一回モ智慧ヲ利用スルコトヲ爲サ、ルヲ恠マサルヲ得ス夫レ人ノ獸類ニ異ナル所ハ唯熟考或ハ一層正確ニ之ヲ謂ヘハ己レノ思想ヲ秩序的ニ致スノ機能(即チ論理的ニ思惟スルノ機能)ニ在ルナリプリンズゴーズンノ十回ノ戦争ヲ遂ケタル驟馬ハ之カ爲メ善良ナル戦術家ト爲ラス此語以テ彼ノ幾多ノ愚鈍ナル老將校

ノ批評ヲ適用スルニ足ルヘシ如斯人物ハ多クハ日常碌々タル普通ノ勤務ニ齷齪シ若シクハ個人的需用ニ汲々トシテ又愉快安是レ努メ只他ノ行動ニ倣フノ外一物ノ存スルモノナク衆皆野營ヲ張ルトキハ彼レ亦野營ヲ張り衆ノ鬪フトキハ己モ亦鬪フ而シテ彼輩以爲ラク是即軍ニ從ヒ戰ヲ爲ス所以ナリト夫レ此ノ如クシテ多數ノ將校輩ハ半錢ノ價值ナキ些事ニ齷齪トシ始終軍事上無學ニ沈淪シ決然雄飛スルノ思氣ナク無氣力ニシテ塵芥ノ裡ニ彷徨シ自己ノ成功若クハ不成功ナル所以ノ原因ノ甚タ重大ナルニ拘ラス之ヲ探究スルノ勇氣ナキハ擧テ慨セサル可ケンヤト

フリードリヒ大王ノ爲セル峭酷ナル詰責ハ少クモ我年少將校ニ對シテハ適用スヘカラサルナリ何トナレハ彼等ノ内ニハ細事ノ研究ニ從事シテ勞スル所少カラス又實際數多ノ細事ヲシテ完全ノ程度ニ及ホサシメタレハナリ夫レ然リ然リト雖トモ吾人ニシテ若シ細事ノ點ノミヲ研究セス併セテ又全體ニ及ホシタランニハ爲メニ得ル所一層顯著ナルヲ得ン些細ノ件ニ從事スル時ト雖モ時ニ廣ク他ニ注目スルコト緊要ナリ繪畫ヲ描ク美術家ハ繪畫全體ノ及ボス感覺ヲ見ンカ爲メ時々或ル距離ニ去リテ之ヲ熟視スルナリ斯クセサル時ハ假令細目ハ完全ナルモ繪畫其ノ者ハ成功ヲ遂ケサルヘシ爾他百般ノ事モ亦然ラサルハナシ戰術ハ海軍ノ繪畫ノ細目ノミニアラスシテ其全體ヲ明視セシムルヲ以テ是レ其利益ノ巨大ナル所以ナリトス

第五章

航海中乗組員ノ教習

第八十一 平時ニ於ケル航海ハ戰時ノ爲メノ教練ナリ

茲ニ劈頭第一ニ想起スヘキハ艦隊ナリ艦隊ナルモノハ詮スル所戰争ノ爲メニ存在スル事並ニ平時艦船ノ航海ハ莫大ノ費用ヲ要スルニ拘ラス曾テ之ヲ辭セサルハ單ニ其乗組員ヲシテ戰争ニ熟達セシメンカ爲メナル事ヲ忘ル可カラス左ニ開陳スル所ノ議論ハ皆此基本の定義ヨリ發生スルモノナリ即チ平時航海中前掲ノ條件ヲ守ラサレハ航海ハ豫期ノ利益ヲ與ヘサルノミナラス動モスレハ或ハ弊害ヲ來サ、ルヲ保セス何トナレハ乗組員ハ好マシカラサル習慣々例ヲ作り一旦緩急ニ際會スレハ百事改造ヲ要シ其改造ハ往々創設ヨリモ一層困難ナルコトヲ來スアレハナリ航海中特ニ外國航海中ハ往々軍艦ニ外交的性質ヲ帶ヒタル任務ヲ遂行セシムルコトアリ其他時々軍事的業務ヲ執ルコトヲ休止シ公務ノ間ニハ休憩セシムルノ必要アリ然リト雖モ其本來ノ目的則チ戰争ノ準備ハ始終其動靜ノ主腦タルヘク須臾モ各自ノ念頭ヲ離ルヘカラサルナリ蓋シ一度之ヲ逸スルトキハ吾人ハ迷淵ニ呻吟スルヲ免カレサル可シ艦ノ戰闘的効力ハ特ニ多ク理想的清潔ヲ保タントスル希望ノ爲ニ妨ケラル、モノナリ艦内ニ清潔ヲ保ツハ甚タ必要ナルコト今更論ヲ俟タスト雖モ然レトモ戰闘的効力ヲ目的トスル練習ニ著手スルヤ清潔

及概シテ裝飾ニ屬スル者ハ多少損害ヲ蒙ラサルヲ得サルナリ夫ノ射擊練習及水雷練習ノ如キハ今ヤ嚴然タル規程アリテ之ヲ支配スルハ吾人ノ歡喜ニ堪ヘサル所ナリト雖モ尙ホ望ムラクハ爾他幾多ノ練習モ亦一層頻繁ニ施行セラレムコトヲ欲ス而シテ吾人カ特ニ戰術的練習ノ必要ヲ感スル者ヲ列舉セハ偵察通報ニ關スルモノ、海岸封鎖ニ關スルモノ、自艦ノ研究ニ關スルモノ、水雷艇攻撃ニ關スルモノ、戰時運動中要塞圖面ノ製作ニ關スルモノ等ナリトス

戰術ノ學說ニ協ヘル精神ニ於テ各艦員ヲ養成スルニハ艦内ニ於ケル勤務ヲ如何ニ規程シテ可ナルヤ之ニ對シテ一般ノ教訓ヲ授クルハ吾人カ頗ル難スル所ナリトス概シテ吾人カ斷言スルヲ憚ラサルモノハ公平、機慧、及忍耐是レ艦長及將校ノ必然具有セサルヘカラサル特質ナリ苟モ此條件ヲ具ヘ加フルニ始終戰術ノ指定スル目的ニ著目スルトキハ極メテ良好ナル成績ヲ收ムルコト難カラサルヘシ

第八十二 困難ヲ困難ト認メザルヲ要ス

艦長ノ善例カ少壯士官ノ上ニ有スル勢力ノ偉大ナルハ衆皆之ヲ是認ス例ヘハ某士官ヲ評シ彼レハ某々艦長ノ下ニ奉職セリトハ吾人カ能ク聽ク所ナリ少壯士官タルモノハ數多ノ美例ニ鑑ミ如何ナル事件ニ於テモ困難ヲ認メサルコトヲ修得セサル可カラス少壯士官ニシテ或命令ニ接シ之ヲ困難ナリト認ムル者アルトキハ是レ其曾テ良艦長ノ下ニ奉職シタルコトナキカ或ハ假令良艦長ノ下ニ奉職セルモ何事モ修得スルノ志ナカリシニ基因セスンハアラス畢竟命令ニ接シテ之ヲ困難ナリト認ムルモノハ迷淵ニ陷

リタルモノナレハ彼レヲ正路ニ就カシムルノ早キ程獲ル所益多カルヘシ

本著者ハ始終士官タル者ハ敏捷ニ上官ノ命令ヲ遂行シ決シテ其責任ヲ恐ルヘカラストスル規則ヲ遵奉セシメタリ而シテ士官カ局難ニ當リ不屈ノ心ヲ以テ豪膽ナル所業ヲ完フシタル類例ノ吾人ノ記憶ニ存スルモノ少シトセス今茲ニ其一例ヲ舉ケンニ曾テオコーツク海ニ於テ海軍大尉バロメンスキイハ夜半風力大ニ加ハリ怒濤ノ激スルニ拘ラス八隻ノ帆船及端艇ヲ河口ヨリ曳出シタルコトアリ當時怒濤ヲ冒シテ此船艇ヲ曳クハ素ヨリ容易ナラサル事業ナリシト雖モ無事ニ其目的ヲ達シタリ然ルニ本艦ハ夫レヨリ二時間ノ後暴風襲來ヲ慮リ速ニ此危險ナル海岸ヲ離レント欲シテ汽力及帆力ヲ併用シタルモ遂ニ二個ノ暗礁ニ乗上ケタリ

第八十三 軍事教練ニ關スル諸大家ノ意見

軍事教練ニ關スルスウオローフノ見解ニ付キテハ吾人既ニ第二章中ニ之ヲ陳述セリ而シテ部下乗組員ノ戰鬪的整備ノ完カラシムコトヲ期スルモノハ其一舉一動ヲスウオローフニ倣ハサルヘカラス即チ種々ノ問題ヲ案出シ百方意ヲ凝シテ乗組員ヲ開發スルニ足ルヘキ畫策ニ努ムヘキナリ

スウオローフの教練ハ勿論困難ナリ然レトモスウオローフハ謂ヘリ教練ノ時ニ困難ナレハ行軍ノ時(即チ戰爭ノ時)ニ容易ニシテ教練ノ時ニ容易ナレハ行軍ノ時ニ困難ナリト(ドラゴミーロフ戰術第四十頁)

索遜國ノモーツツニ曰ク一ノ格言アリ曰ク人ハ平時ニ馴致シタル事ノミ戰時ニ行フナリト

ドラゴミーロフ將軍ノ謂フ所ニ依レハ教練法ノ撰擇ハ戰術問題ナリト軍事要記中(一八九四年陸軍雜誌第四號)將軍ハ左ノ如ク謂ヘリ

從前長期間軍籍ニ在リテ長日月ノ戰爭ニ從事シ獲得シタルモノハ今ヤ修身ノ教育及訓練ニ依リテ之ヲ達セサル可カラス而シテ該教練ノ方法如何ハ今論及スルノ要ナシ茲ニハ唯該教練ノ基本的理想ハ平時ニ在リテ人ヲ危險ノ感情ニ馴致セシメ此感情ヲ抑制スル習慣ヲ得セシムルニ在リト謂ハ、充分ナラン唯夫レ此條件ノ存スルアルハ演習其他ノ教練モ戰時ニ效驗ヲ及ホスヘク苟モ之ヲ缺失セン歟有ラユル教練モ所以兵隊戲ニ化シ去ランノミ美麗ナリ從テ愉快ナリト雖モ一ノ遊戲ニ過キササルナリ

ドラゴミーロフ將軍ハ前述ノ記事ニ於テ恰モスウオーロフの教練方法ヲ勸誘スルモノ、如シ而シテ同將軍ハ教練ニ關スル章ヲ左ノ如ク格論セリ

軍隊ノ合理的教練條件ハ左ノ如シ

第一 戰時ニ所用ノ事ニ限り之ヲ平時ニ教授スヘキコト

第二 教練ノ際ニハ劃然タル秩序ヲ守リ以テ教練ノ種類ニ就キ自ラ教練ノ目的ヲ明瞭ナラシムル

コト

第三 成ルヘク言語ヲ以テセス模範ヲ示シテ教授スルコト

兵事教練及教育ノ程度左ノ如シ

教育ハ即チ義務ノ感情及忍耐ヲ素養スルニ在リ

教練ハ即チ武器ノ使用法、己レノ運動及舉動ヲ同僚ト齊一ニスルコト、切ニ障礙物ヲ排除シ武器ノ使用ヲ妨ケスシテ之ヲ己レノ掩蔽物タラシムルコト(ドラゴミーロフ戰術教科書第三十五頁)ヲ教フルニ在リ

ドラゴミーロフ將軍ハ第三十一頁ニ於テ更ニ謂テ曰ク凡ソ戰時ニ於テ無益ナル者ハ之ヲ平時ノ教練科目ニ加フルハ有害ナリト同將軍ニ一ノ格言アリ曰規、律、愈、々、密、ナ、レ、ハ、兵、益、々、粗、ナ、リ、ト又同將軍ハ時々何事ヲ兵ニ教ヘスシテ可ナル歟ト云フ疑問ヲ起シテ自ラ反省スヘキヲ勸告セリ

第八十四 スウオーロフノ教育法ハ如何ニ軍艦ニ應用ス

ヘキ歟

艦内ニ於テ教育ノ普及ヲ計ルニ最モ尋常ナル方法ハ日課ノ練習時間ヲ増加スルヨリ容易ナルハナシ然レトモ斯ノ如クスルトキハ(事業ノ熟練ハ期スヘシト雖モ)本來ノ目的ヨリ見ルトキハ其失フ所少シトセス何トナレハ機智其他戰術中軍人ニ必要ナル特質ハ營ニ開發ノ途ヲ失フノミナラス尙ホ自然萎靡スルモノナレハナリ日常ノ教練ハ航海ノ最初二三ヶ月ヲ以テ終了シ爾后ハ教練ノ方法ヲ百方變化スル

コトニ努メサル可カラス平時ノ教練ハ變化多カラサルニアラスト雖モ之ヲ戰時發生スル所ニ比スレハ
 霄壤モ管ナラサルナリ吾人ハ平時ニ在リテ孔穴ノ填塞、防材ノ組立、隔壁汽管ノ修理等ノ練習ヲ行ハ
 サレハ是等ノ事業ハ能ク吾人ノ遂行シ得ヘキモノトシテ安スルヲ得ヘキ歟普通ノ所以日課教練ニ於テ
 ハ粗漏ニ流レ右ノ如キ事業ハ未タ熟練セサルノ觀ナキヲ必セス例ヘハ水雷艇教練中水雷艇攻撃ヲ行ハ
 ントスルノ際艇ハ未タ發射ニ必要ナル回轉ヲ了セサルニ早ク既ニ發射ノ汽笛ヲ鳴スカ如キ失策ハ幾回
 歟吾人ノ目撃スル所ナリ又從前演習ノ際照準ヲ正サス發砲シタルコトアリタレトモ今ヤ漸ク此弊ヲ見
 ス然レトモ火災及防水扉閉鎖操練ニハ往々其ノ當ヲ得サルモノアリ

或時吾人ハ下ノ如キ椿事ヲ目撃シタルコトアリ某戰團艦ハフィンラント沖ニテ暗礁ニ乗リ上ケ艦底ヲ
 破レリ予ハ艦隊司令長官ノ命ヲ奉シ同艦ニ到リ先ツ防漏簾ヲ使用シタルヤ否ヲ問ヘリ此時艦員予ニ答
 フルニ事後三分間ナラスシテ業ニ已ニ之ヲ裝置セリ然ルニ浸水ノ量ハ未タ毫モ減少セスト然リ此時ニ
 於テ若シ防漏簾効驗ヲ顯ハシタランニハ夫コソ不可思議トヤ謂ハン何トナレハ艦員カ之ヲ裝置シタル
 場所ハ右舷側ニテ第八號區劃ニ沿ヒ喫水線附近ナリシニ孔穴ノ生シタル場所ハ左舷側ニテ第九號區劃
 ニ浴ヒ龍骨ノ傍ナリシナリ慣用ノ教練ト雖モ注意ヲ怠ルトキハ這般ノ不都合ヲ來スモノナリ

第八十五 平時ノ情態ヲ以テ勤務上ノ最頂タラシムベカラズ

平時ニ於ケル航海ノ情態ハ絶對的戰時トハ其趣ヲ異ニスルモノナレハ平時ヨリシテ有事ノ日ニ有益ナ

ル成績ヲ收メンカ爲メ部下ニ過度ノ勞働ヲ強ヒ之ニ馴レシムルコトアリフリードリヒ大王ノ某伍長ニ
 關スル譚ハ此事ニ就テ最モ味フヘキモノアリ或ル困難ナル戰役ヲ了ヘ兵營ニ歸リタル時該伍長ハ其ノ
 部下ノ兵ニ向ヒ大要左ノ意味ヲ含メル演說ヲ爲セリ曰ク諸氏ハ今ヨリ一層嚴格ナラサル可カラス今ヤ
 諸氏ハ既ニ戰役中ニ在ラス種々ノ特典ハ今ヨリ其跡ヲ絶ツヘク嚴肅ナル勤務ハ今ヨリ開始セララルモ
 ノナリ云々平時ノ職務ヲ重視スルコト前述フリードリヒ大王ノ伍長ノ見解ノ如キハ軍事的定則ヨリ見
 レハ如何ニ有益ナルヤ其ノ極マル所ヲ知ラサル可シ

第八十六 軍艦運用ノ實地練習

夫レ軍艦運用ノ巧拙ハ戰鬪ノ成效上著大ナル影響ヲ及ホスモノナレハ乗組員ヲシテ艦ノ運用ニ熟達セ
 シムル爲メニハ百方其方法ヲ講究セサル可ラス而シテ其ノ第一ニ會得スヘキ原則ハ舵器ノ爲メニ移動
 スルハ艦首ニアラスシテ艦尾ナルコト竝ニ艦ノ回轉ノ中心ハ艦ノ中央ヨリ稍前方ニアルコト是ナリ艦
 ノ運用ニ未熟ナル輩ハ充分ニ此單純ナル原則ヲ識認セサルヨリ港灣ニ入ルノ際又ハ狹隘ノ場所ニ運用
 スルニ當リ甚タ拙劣ヲ極ムルノ結果ヲ見ルナリ其他艦ヲ運用スルニ當リ一旦針路ヲ變更シタル後ハ或
 方向ヲ維持シ艦ヲシテ其ノ方向ヨリ以上ニ回轉セシメサルコトヲ修得セサル可ラス回轉ヲ過度ニ行ヒ
 更ニ復反轉セシムルカ如ク拙劣無益ナル醜態ハ恐ラク他ニ其類ヲ見サル可シ尙本問題ニ付キテハ百十
 五項中ニ細説スル所アルヘシ又龍骨ノ下ニ幾許ノ水量モ存セサル淺瀬ニ於テハ舵機ノ效驗其ノ度ヲ減

スルコト乃チ水深キ所ニ於テ充分ノ效驗ヲ顯スヘキ方法モ淺瀬ニ於テハ無效ニ歸スルノ場合アルコトハ飽ク迄會得セサルヘカラス又後退ヲ行フ場合ニ於テ單螺旋艦ノ艦首ハ何レノ方向ニ回轉スルヤハ能ク研究ヲ盡スヘキ問題ニ屬セリ而シテ無風ノ時ハ該回轉ノ方向ニ螺旋ノ回轉ニ順スルモノナレトモ風アル時ハ艦首ノ風下ニ向フヲ恒例トス然レトモ前後喫水ノ差甚タシキ艦ニ在リテハ艦尾ヲ風上ニ致スモノナリ此場合ニハ艦ヲシテ同一ノ位置ヲ守ラシムルコト容易ナレハ若シ唯艦ヲシテ同一ノ方向ニ在ラシムルノ必要アルトキハ其艦尾ヲ風上ニ向ケ時々後退ヲ行フヲ以テ最モ簡便ノ手段トス本論ノ著者カ曾テ哥爾威艦「ウキチャジ」ニ於テ比量檢定ノ爲メ海底水ノ標本ヲ汲收シタルトキハ始終此手段ヲ行フタリ

第八十七 雙螺旋艦ノ特質

雙螺旋艦ハ概シテ不定質^{カブリシヨス}ニシテ迅速ニハ舵ノ作用ニ應セズ舵ヲ操轉スルモ其十度以内ニ在ルトキハ其效驗ヲ感セサルハ往々實見スル所ナリ又舵ノミヲ以テ艦ノ回轉ヲ行フニ方リ艦カ偶然自ラ其ノ要望ノ方向ニ回轉ヲ始メタルトキ舵機ヲ操ル時ハ容易ニ回轉ヲ遂ケ得ヘク且ツ其初期ハ尖銳ナル曲線ヲ畫スルモノナリ而テ之ニ反對ノ場合ナルトキハ回轉遅ク且緩慢ナリトス是等及爾他ノ原因ノ存スルアリテ雙螺旋艦ニ在リテハ艦隊半徑ニ對合スル舵機ノ位置ヲ確定スルコト難シ何トナレハ先舵器ヲ取り既ニシテ艦ノ回轉四點ニ達シタル時舵ノ位置ヲ改メテ回轉圈ノ固有半徑^{フツナル}ヲシテ艦隊ノ規定半徑ニ相當セシ

ムルヲ要スレハナリ之ヲ要スルニ雙螺旋艦ノ舵ハ針路ノ維持上極メテ不利益ナル位置ニ在ルモノニシテ雙螺旋艦ハ針路維持ノ點ヨリ見テハ不良ナルモノナリ或論者ハ此ノ欠點ヲ機關ノ不均衡ナル作用ニ基因スト謂フト雖モ機關ハ之レ些ノ關係タニ有セサルナリ艦ハ格別機關ノ運轉變更ノ影響ヲ蒙ラサルモノニシテ所詮此ノ缺點ノ源ハ雙螺旋艦ノ建造上合理セサル所アルニ歸因スト謂ハサルヘカラス三個ノ推進器採用ハ一大進歩ニ外ナラサルナリ

第八十八 平時航海中戰鬪上有益ナル練習ノ機會ヲ逸セ

サルヲ要ス

航海中ハ艦ノ運用ヲ熟達スルノ機會少ナカラスト雖モ往々是等ノ機會ヲ利用セスシテ空シク經過スルコトアリ例ヘハ水路嚮導者ノ雇入ヲ要スルカ爲メニ艦ヲ停止スルトセンカ此場合ニ於テハ先ツ艦ノ速力ヲ減少シ夫ヨリ機關ノ運轉ヲ停止シ後後進ヲ行フヲ以テ恒例トス然レトモ何カ故ニ機關ヲ直ニ後進ニ轉スルヲ爲サ、ルカスノ如クスルトキハ吾人カ戰鬪中ニ爲スヘキノ状態ニ近ツキタランニ然レトモ或論者ハ謂フ斯ノ如クスルトキハ機關ヲ破壊スルノ虞アルヲ如何セント若シ果シテ然リトセハ寧ロ平時ニ於テ破壊セシムヘキナリ戰鬪中前進後進ノ變更ヲ行フニ當リ機關ノ破壊スルアラハ其結果タルヤ一層不幸ナルコト論ヲ俟タス今吾人ノ實驗ニ依リテ之ヲ見ルトキハ前進後進ノ變更ハ艦ニ劇烈ナル震動ヲ惹起スルコトナケレハ有害ナルモノニアラサルナリ只「ピストン、クランク」及其他ノ部分ハ

此際ニ於ケル蒸氣壓力ニ相當スル壓力ヲ受クルニ過キス是レ素ヨリ其耐ヘ得ヘキ所ニシテ急劇ニ反轉スルモ汽機室ニ於テハ該變更ノ生シタル事實スラ感覺シ得サル程ナリ又汽機反轉ノ際艦尾ニ於テ起ル劇烈ナル震動ハ特ニ淺水ニ於テ甚シキコトアリ此際ニ於テハ全速力前進ヨリ半速力後進ニ轉シ若シクハ更ニ微速力後進ニ轉スルヲ可トスル場合ノ如何ヲ問ハス常ニ爲シ能フヘクンハ汽機ノ回轉變更ハ之ヲ漸次ニスルヲ避ケ直ニ指示器ヲ以テ其最終ニ所要ノ回轉數ヲ汽機室ニ傳達スルコト、爲サ、ルヘカラス

俄然汽機ノ運轉停止ニ對シテ尙ホ一ノ攻撃アリ則チ過度ニ蒸氣ヲ醸生セシムルコト是レナリ此攻撃ハ不當ナリト謂フヘカラス然レトモ汽機反轉ノ五分時前ニ機關官ニ命シテ灰局戸ヲ閉鎖セシムルヲ以テ足レリトス然ル時ハ水路嚮導者ノ乗航等ノ爲メニ要スル少時ノ停止ノ爲メ放出ヲ要スル迄蒸氣ハ昂騰セサルヘク良シ又冷氣器ニ向ケテ少シク之ヲ放出スルノ場合アリトスルモ是レ憂フルニ足ラサルナリ這般ノ行動ハ戰闘中必ス生スルコトアルヘク從テ之カ練習ヲ圖ルハ正ニ有益ノ事業ナリトス

艦長中ニハ説ヲ爲スモノアリ曰ク平時ハ諸器具ノ保全ニ努メ而シテ凡ソ冒險ニ涉ルコトハ平時航海ノ情態ニ於テ之ヲ許スヘカラスト雖モ戰時ニ於テハ各自危険ヲ冒ス覺悟ナカラサルヘカラスト然リト雖モ平時ニ於テ練習セサルコトヲ戰時ニ實行スルハ其當ヲ得タルモノニアラス加之何人ト雖モ平時安然ノ狀況ニ在テスラ敢テ決行シ能ハサリシ試驗ヲ敵前ニ在リテ能ク遂行スルコト之ナカルヘシ甚シキニ

至リテハ吾人ハ突然舵ヲ操リ急劇ニ錨ヲ揚クルコトスラ部下ニ禁止スル迄注意深キ艦長ニ接シタルコトアリ這般ノ小心ハ之ヲ戰術ノ上ヨリ見ルトキハ有害ト認ムヘシ凡ソ戰時ニ必要ナル行動ハ成ルヘク博ク之ヲ平時ニ練習シ平時ニ練習スヘカラサルモノハ戰時ニ又之ヲ應用スカラサルナリ

第八十九 經濟的速力

航海費用ヲ減少セントスル希望ヨリ軍艦ニ始終經濟的速力ヲ維持セシムト雖モ素ト是レ軍艦ノ當初計畫ノ速力ニ違フモノナリ今吾人ノ説ニ依ルトキハ經濟的速力ノ爲ニハ別ニ軍艦ニ補助機關ヲ増設セハ更ニ大ニ費用ヲ節減スルヲ得ヘク斯クシテ主機關ハ最大速力ヲ要スルトキニ限り之ヲ運轉スルコト即當初軍艦製造ノ際其機關ニ向テ計畫スル所ノ速力ヲ以テスルヲ可トスルナリ

第九十 永ク航海ヲ繼續スルノ必要

善良ナル海員ヲ得ントスルニハ永ク海上ニ在リテ天ト水トノ間ニ生活シ海ヲ以テ己レノ住宅ト看做スノ習慣ヲ養成スルヲ要ス從前帆船ノ時代ニ在リテハ殊ニ此關係ニ於テ好都合ナリキ現ニチルソノ如キハ二ケ年ノ間一回モ陸地ニ上ラサリシコトアリ(ジュリアンド、ラ、グラ、ヴウキエール第二卷第八十七頁)然ルニ今ヤ石炭ノ消費額ニ制限ヲ設ケタルヨリ勢ヒ海上ニ在ル時間ヲ短縮セサルヘカラス是ニ於テ歟補助機關ニ依レハ大ニ此ノ缺點ヲ補ヒ得ヘシト雖モ其實施ヲ見ルマテハ長ク海上ニ在ラントスルニハ機關ノ運轉ヲ停止スルノ外他ニ策アラサルナリ

海上ニ於テハ必ス行航セサルヘカラストノ説ヲ抱懷スル者少カラスト雖モ吾人ハ之ニ同意シ能ハサルナリ吾人カ會テ艦隊ニ司令長官タリシトキ汽機ノ運轉ヲ停止シテ漂泊ヲ試ミタリ此場合ニ於テハ汽機ノ運轉ヲ停止スルニ先チ全艦隊ノ艦首ヲシテ風ヲ正横ニ受クル様ニ立タシムヘシ斯クシテ各艦ハ其從前ノ位置ヲ支持スルモノトス艦ノ型式異ナルモノハ風下ニ漂流スル速度同シカラスト雖モ四時間ヲ經過スル毎ニ少シク隊列ヲ整フニ於テハ甚タシキ散亂ヲ來スコトナク諸艦ハ皆一所ニ集合ヲ保持シ得ヘシ此場合ニ於テ劇烈ナル動搖ノ爲メ最モ困難ヲ感スヘキハ水雷艇ナリトス此時水雷艇ハ風向ヲ眞艦ニ受ケ艦首ヲ風下ニ立タシメ汽機ヲ停止スヘシ通常ノ天候ニハ二時間毎ニ風上ニ航行シ全艦隊ニ離隔セサランコトヲ圖ルヘキナリ夜間汽機ノ運轉ヲ停止シテ漂泊スルトキハ艦ノ乘員ハ充分休憩ノ時間ヲ有スヘシ是レ終日各種ノ練習ニ從事シタル艦長ニハ特ニ有益ナリトス

第九十一 運用ニ關スル實地練習

我カ艦隊ノ運用術教官ブタコフ將官ハ練習諸艦ヲシテ港内ニ在リテ碇泊セル艦ノ周圍ニ於テ種々ノ回轉線ヲ描カシメタリ此練習方法ハ今尙ホ有效ト認メラレ或ル艦隊ニ於テ成ルヘク頻繁ニ之ヲ施行セシコトヲ努ム此外ブタコフ將官ハ屢々海員眼及海ノ習慣ヲ發達セシムルニ足ルヘキ練習ヲ舉行シ又ハ衝角用ノ規則ヲ會得セシメン爲メ衝角艇ナルモノヲ案出シ之ヲ採用シタリ但衝角艇トハ甲艇ノ衝角ヲ以テ乙艇ヲ打撃スルモ毫モ之ヲ損傷スルノ憂ナキモノナリ又運用ノ實地練習ハ之ヲ左ノ如ク區別ス

ルヲ得ヘシ

第九十二 單獨艦ノ自由運轉

單獨艦ノ自由運轉ハ種々ノ速力ニ於テ舵ヲ十度二十度及ヒ一杯ニ取り以テ艦ノ回轉質ノ良否ヲ研究スルコト及ヒ一汽機ノ運轉ヲ停止シ若クハ一汽機ニ後進運轉ヲ行ハシメ舵ヲ利用シテ運用スルコト此ノ運轉ニ於テハ艦ノ方向變化ノ速度並ニ進行ノ速度ハ始終同時ニ矯正サレタル時計ニ依リテ精密ニ之ヲ記註シ以テ艦ノ航程ヲ圖上ニ描出シ舵ノ位置ト機關使用ノ關繋及ヒ航路ノ曲線ヲ明示スルノ資ニ供スヘキモノトス

第九十三 碇泊中ノ諸艦ニ對スル單獨艦ノ運轉

淺水ナル停繫所ハ大艦ノ此種ノ演習ニハ適合セサルヘシ何トナレハ龍骨下ノ水量寡キトキハ艦ハ概シテ能ク舵及汽機ノ作用ニ應セザレハナリ而シテ碇泊中ノ諸艦ニ對スル演習ハ各艦ノ間ヲ航過シ各艦ヲ回航シ其豫定ノ曲線ヲ作爲スルニ在リ諸艦ノ排列如何ヲ知り自艦ノ回轉圈ヲ知悉スル者ハ艦首幾度ノ偏轉ニ對シ舵幾度ヲ操轉シ又何時機關ヲ用フルカヲ決スルコト容易ナルモノナリ

碇泊中ノ諸艦ニ對スル演習中并ニ概シテ二十尋以內ノ深サニ於テ演習スル際ニハ兩舷錨投下ノ準備ヲ爲シ又測鉛線ハ絶ヘス投下セシムルヲ可トス

第九十四 豫定ノ運動ニ從事スル補助艦ニ對スル單獨艦

ノ運轉

曩一八七七年中常備艦隊ニ於テ軍艦「ウエリーキイ、クニヤージ、コンスタンチン」、「アルゴナウト」ヲ以テ施行シタル練習ノ方法ハ吾人カ稱讚スル所ナリ

前記二軍艦中ノ一隻ハ豫定ノ運動法ニ遵フテ運轉ヲ爲シツ、(衝突ノ責ニ任セスシテ)所以補助艦ノ任務ヲ負擔スルコトニ定メ同艦ハ唯主動艦ノ信號ニ基キ舵ヲ操リ速力ヲ變更スルモノトス他ノ主動艦ハ搭載諸砲ヲ適宜ノ方位ニ照準スル等種々ノ條件ヲ守リテ補助艦ノ傍ラニ運轉セリ這般ノ練習ハ簡易ナルヲ先ニシ漸次困難ナルモノニ至ルノ順序ヲ以テ施行スルコトヲ得ヘシ

(イ) 補助艦ハ速力十海里ト爲シ舵ヲ右舷十度ニ取ル主動艦ハ補助艦ノ外圍ニ在テ補助艦ト同様ノ方向ニ廻轉シテ之ヲ同方位(譬へハ右舷三點ニ見)ニ保持スルカ或ハ始終水雷ノ達セサル距離ニ在リテ追撃ヲ行フ

(ロ) 前項ト同一ノ事ヲ爲シ補助艦ノ舵ヲ二十度ニ取ル

(ハ) 補助艦ハ十海里ノ速力ヲ保チ舵ヲ十度ニ取ル主動艦ハ水雷ノ達シ得ヘキ距離外ニ在テ補助艦ノ圍ヨリモ外側ニ圍ヲ描キツ、補助艦ヲ發砲スルニ不利ノ位置ニ在ラシムル様保持スルニ在リ

(ニ) 前項ト同一ノ事ヲ爲スト雖モ運轉艦ハ水雷發射ヲ爲ス爲メニ錨鎖以內ニ接近スルコトヲ努ム

第九十五 二艦ノ自由運轉

二艦ノ自由運轉ハ僅ニ或制限ノ下ニ舉行シ能フモノトス此目的ノ爲メニハ海上ニ其境域ヲ表示スル浮標ヲ置キ若クハ陸上ニ在ル物件ノ方位ニ依テ先ツ其區劃ヲ定メ然ル後兩運動艦ハ此區域線ノ一方ヲ自己ノ所領ト爲シ其域内ニ在リテハ自由ノ運動ヲ爲シ得ヘシト雖モ他艦ニ屬スル區域内ニ侵入スルヲ許サ、ルモノトス

第九十六 二個艦隊ノ自由運轉

二艦ノ運動ニ均シク艦隊モ亦此ノ運動練習法ヲ行フヲ得ヘシ此ノ場合ニ於テハ一個艦隊ハ唯運轉艦隊ノ指揮ニ基ケル運動ヲ爲ス所ノ補助艦隊ト爲ルヘク兩艦隊衝突ノ責任ハ以前ト同シク主動艦隊ニ於テ任スルモノトス而シテ研究スヘキ問題ハ千類萬種ナルヘク且一問題ノ研究ハ他ノ問題考究ノ資料タルヲ得ヘシ艦隊練習ノ際ニハ各艦ニ長キ挽綱ヲ以テ移動標的ヲ挽カシメ此狀況ニ於テ小口徑砲ヲ以テ射撃演習ヲ行ハシムルハ特ニ有益ナルモノトス著者ハ去夏射撃演習中此方法ヲ試ミタルニ全然目的ニ適合スルコトヲ發見セリ

第九十七 艦隊運動術ノ練習

此種ノ練習ハ移動艦船ニ對シ眼ヲ馴致スルニ於テ甚タ有效ナルモノトス然レトモ之ニ關シテハ尙ホ運動術ト題スル章ニ至リ特ニ論及スル所アルヘシ敵ノ殿隊ヲ包圍シ之ヲ殲滅スルノ演習モ亦艦隊運動術

ノ練習中ニ加フヘキモノナリ(以下艦隊戦闘ノ項參看)

第九十八 艦ノ運轉ニ關スル結論

吾人ハ艦ノ操縱術ヲ必修科目中ニ加フルヲ以テ目下ノ急務ト認ム其手段トシテ或順序ニ於テ浮標ヲ樹立シ各將校ヲシテ種々ノ問題ヲ講究セシムヘシ其順序ハ始メ水雷艇ヲ以テシ夫レヨリ順次輕艦或ル小排水量ノ巡洋艦ヲ以テシ最後ニ戰艦ヲ以テスヘシ此練習ニ於テ各將校ノ成績ヲ評定スヘキ長官ハ戰鬥員タル各將校學生ノ海事的伎倆ニ對シ正確ナル批評ヲ下スノ資料ヲ得由テ以テ戰術上ノ器量ノ點ヨリ正當ノ進級順序ヲ一定スルヲ得ヘシ

第九十九 自艦ノ研究

本問題ハ最モ重大ナルカ故ニ艦ノ特質ヲ研究シ其成績ヲ表及圖面ヲ以テ紙上ニ表出スル爲メ有ラユル方法手段ヲ盡スヘキモノトス

左記ノ表及圖ハ缺クヘカラサルモノトス

- 第一 汽機ノ回轉ト速力ノ關係
- 第二 汽機ノ回轉ト實馬力ノ關係
- 第三 回轉速度ト回轉圈ノ直徑トノ關係
- 第四 全速力ニ於ケル舵角ト同上ノ關係

第五 速力十海里ノ時ノ同上

第六 或速力ヲ以テ進行中舵ヲ一杯ニ轉シ且ツ一汽機ノ運轉ヲ停止シタルトキノ回轉圈

第七 一汽機ニ後進運轉ヲ爲サシメタル時ノ同上

第八 第六項ト同一ノ事、但艦ノ速力十海節ノトキ

第九 第七項ト同一ノ事、但艦ノ速力十海里ノトキ

第十 全速力ヲ以テ進行シツ、機關通信器ニ全速力後進ヲ傳ヘタル後幾秒ニシテ艦ハ全然其進行ヲ停止スルヤ、是ト同時ニ其汽機ヲ反轉スルニ幾秒ヲ費シタルカ、又之ニ依テ如何ナル程度ヲ以テ艦ハ其進行ヲ遞減シタルカヲ記載シ置クヘシ、之ヲ爲スニハ機關通信器ニ後進ノ命令ヲ傳フルト同時ニ於テ測程器ノ如ク製シタル大ナル三角形ノ圓分ヲ艦外ニ投シ之ニ附シタル重測鉛線ヲ操リツ、全線ヲ十尋毎ニ區劃シタル記號艦尾ヲ通過スル時ヲ記シ置クヘシ

第十一 艦ノ進行全ク停止シタル後全速力前進ヲ始メ(前項ニ示シタル如ク)三角形半圓器ノ線ヲ操リ出シ十尋記號ノ通過時ヲ認メ以テ之ニ依リテ漸次速力ノ増加ヲ計出スヘシ

第十二 艦ノ停止シタル後一汽機ニ或ル回轉ヲ(例ヘハ六十回轉)ヲ爲サシメタル後舵ヲ操リ艦力如何ナル曲線ヲ描クヤヲ測定スヘシ

第十三 前項ト同一ノ事、但全速力ノトキ

第十四 舵ヲ一杯ニ操リツ、回轉ヲ行フニ方リ「宜候」(一八九〇年號令集第四百四十六條參看)ノ

號令下リタルトキ艦カ其指定ノ航路ヲ直指スル前幾度航路ヨリ離ル、ヤ

第十五 同一ノ事、但舵ヲ二十度ニ取リタルトキ

第十六 同一ノ事、但一推進器ヲ逆轉シタルトキ

第十七 同一ノ事、但機關ヲ應援セシメタルトキ

以上列擧シタル試験ハ石炭ヲ滿載シタルトキ石炭ノ量半額ナルトキ並ニ少額ナルトキニ逐一之ヲ行
フヲ可トス

第百 艦ノ特質研究ノ際其精密ノ程度

前ニ掲クル諸試験ハ其區域極メテ廣大ナレハ之ヲシテ逐一速力試験標柱間若クハ精密ニ測定セラレタル浮標間ノ距離ニ於ケル時ノ如ク正確ナラシメント欲セハ勢ヒ多クノ日子ヲ要スヘシ而シテ試験ヲ行フモ極メテ正確ナラシムルヲ得サルノ故ヲ以テ全然之ヲ拋擲スルコトアルハ吾人ノ知ル所ナリ若シ夫レ直航ノ際ニハ艦尾ヨリ垂下シタル測程器ノ示ス所又回轉ノ際ニハ舷側ヨリ突出シタル圓材ノ極端ヨリ垂下シタル測程器ノ示ス所ニ信憑シ得ヘクンハ之カ爲メ事業ハ大ニ省略且ツ進捗スルヲ得ヘシ回轉圈ノ直徑ヲ概測セント欲セハ研究ノ爲メニハ回轉時ノ速力若クハ距離測定器ヲ以テスルヲ得ヘシ但シ之ヲ爲ス法故ラニ端艇ヲ下シ回轉スル本艦ノ航跡ヲ追隨シテ端艇ヨリ本艦ノ橋ノ高サヲ標準トシテ計

ルモノトス

以上回轉ノ圈ノ直徑測定ノ諸法ヲ補足セント欲セハ橋樓若クハ他ノ高所ニ登リ航路ノ見取り圖ヲ調製シ得ヘシ若シ事情ノ許スアラハ大尉シム氏ノ地圖撮寫臺ヲ應用スルモ亦可ナリ該撮寫臺ハ自艦ノ總テノ運動ヲ研究スルニ當リ頗ル貴重ノ材料ヲ供給シ能フモノトス

第百一 將校ハ自艦ノ航路ヲ紙上ニ描出スルヲ能クセザ

ルベカラズ

艦ノ操縦法ニ關シテ凡テノ諸科目ノ研究ヲ修了セハ次ニ各將校ヲシテ或尺度ニ依リ艦ノ航路ヲ紙上ニ描出スルコトヲ練習セシメサル可カラス例ヘハ下ノ如キ問題ヲ與フヘシ無風ノ時某ノ吃水ノ艦ハ七時二十八分ニ六十回轉ヲ爲シツ、或針路ヲ直行ス同艦ハ七時二十九分ニハ何レノ場所ニ在ルヤ之ヲ海圖上ニ於テ示スヘシ又此時ヲ以テ舵ヲ面楫二十度ニ取レリ此艦ハ七時三十分ニハ何レノ場所ニ在ルヤ又其艦首ハ何レノ方ヘ向フヤ此時「宜候」ノ號令下レリ然ル時ハ七時三十一分ニハ艦首ハ何レヲ指シ又何レノ場所ニ在ルヤ此時舵ヲ取揖ニ取り左舷機ヲ後進ニ變セリ七時三十二分ニ於テ艦ハ何レノ場所ニ在ルヤ又其艦首ハ何レノ方ヘ向フヤ等ノ如シ

斯ノ如クシテ詳細ニ艦ノ特質ヲ研究シ舵ト汽機ノ回轉數トノ有リ得ヘキ結合ヲ調査シテ各結合ノ時ニ生スル航路ヲ描出シ得テ始メテ戰闘中舵及ヒ汽機ノ最モ便宜ナル使用方法ヲ會得シ得ヘキナリ陸軍ニ

在リテハ下級ノ士官ト雖モ必ス地圖ノ讀方ニ精通セサルヘカラス然ルニ艦ノ通過スル航路ヲ正確ニ描出スルハ陸軍士官ノ地圖ノ讀方ヲ精知スルニ異ナルコトナシ既ニ檣及帆ノ廢サレタル今日ニ於テ運用術ノ知識ナルモノハ自艦ノ一切ノ運動ヲ知悉スルノ謂ニアラスシテ何ソヤ而シテ這般ノ知識ハ多クハ前上列舉シタル練習ニ依リテ始メテ會得セラル、モノトス

第六章

砲

第二百一 砲ノ發達

砲ノ發達ハ近年著シキモノニシテ現今尙ホ進行中ニ在リ即チ初速、射撃ノ速度及其裝填法ノ便ハ漸次改善シツ、アルナリ

無烟火藥ノ採用ハ バリステツク 彈道ノ關係ニ於テモ亦戰術上ニ於テモ一大進歩ナリトス而シテ無烟火藥ヲ採用セル海軍ハ敵ニ對シテ著大ナル利ヲ有スヘキハ論ヲ俟タサル所ニシテ業ニ己ニ各種口徑ノ砲ニ全然無烟火藥ヲ採用セシ國アリ是レ素ヨリ最モ緊急ノ事件ナリトス速射砲ハ發射準備簡便迅速ニシテ幾ト其極度ニ達セリ蓋シ六吋砲ハ發射ヨリ發射ニ至ル時間僅々若干秒ヲ要スルニ過キス是ニ超ユル良成績ハ又々希望シ難シ尙ホ爾後ノ進歩トシテ望ヲ屬スヘキハ半自動的裝填ニ在リテ开ハ發射後ニ生スル砲ノ退

却力ヲ利用シテ藥室自然開放シ藥莢ヲ脱出セシムルニ在リ今現ニ三吋砲ニハ此ノ如キ裝置ヲ有スルモノアリテ其構造極メテ簡便ナリ

金屬藥莢ノ採用ニ續テ照準器ヲ砲身外ニ装着スルコト行ハル、ニ至レリ構造斯ノ如クナル時ハ照準ニ從事スル砲手ハ己レノ位置ヲ離レシテ之レカ照準ヲ繼續スルヲ得ルナリ而シテ砲ノ裝填ニハ該砲手ハ更ニ關係セス裝填了ルトキハ照準ハ既ニ正整シアルヘシ吾人ノ見ル所ニ依レハ這般ノ改良ハ頗ル重要ニシテ毫モ裝填ノ迅速ノ利ト輕重ナシ故ニ通常砲ヲ速射砲ニ改造スルモ照準器ヲ砲身外ニ附着スルニ非レハ更ニ效驗ナカルヘク兩者相共ニ改良セサルヘカラス

通常砲ハ例令之ヲ速射砲ニ改造セサルモ又大ニ改良ヲ加ヘ得ヘキナリ先ツ第一著手トシテ洗掃杖ノ使用ヲ廢止スルノ必要アリ是レ無烟火藥ヲ採用セハ爲シ能ハサルコトニアラス要ハ發砲後膛中ニ残り火氣ヲ存在スル材料ヲ裝藥ヨリ全然脱却セシムル法ヲ探ルニ在リ此目的ヲ達セント欲セハ宜シク裝藥中ニハ無烟火藥ノ外ハ他ニ一物モ混用セサルヲ要ス導火藥ニ通常火藥ヲ使用シ紐狀無烟火藥ノ結合ノ爲メ絹糸ヲ使用スル間ハ洗掃杖ヲ使用スルノ必要アルヘシ

洗掃杖廢止ノ外尙希望スヘキモノハ尾栓開放ノ改良則チ砲ノ退却ノ際ニ自動ヲ以テ開放スルニ至ラシムルニ在リ其他改良ヲ要スル些細ノ事項ハ吾人茲ニ論及セサルヘシ此種ノ細事ハ目下印刷中ノ砲ニ關スル吾人ノ報告書中詳細陳述セシ所ナリ

第二百二 蒸氣力水壓力若クハ電氣力

巨砲採用ノ當初ハ蒸氣ヲ以テ之レカ使用ノ原動力ト爲セシカ後一般ニ水壓力ヲ應用スルコト、爲リ又今ヲ距ルコト四年以前ヨリ電氣力ハ水壓力ヲ壓倒スルニ至レリ而シテ電氣力ノ長所ハ主トシテ其導體ノ損所修繕ノ容易ナルニ在リ是ヲ以テ戰術ノ點ヨリ見ルトキハ電氣力ノ應用ハ成ルヘク普及センコトヲ希望セサルヘカラス

第四百 砲ノ效用限界トハ何ソヤ

此間ニ對シテ明確ノ答ヲ爲スハ頗ル困難トスル所ナリ陸軍砲兵ハ其彈丸ノ達シ得ヘキ最遠距離ヲ以テ砲ノ效用限界ト爲セリ陸軍ニ在リテハ今ヤ或ル砲（勿論砲身ノ短キモノ）ノ砲架ヲ改良シテ仰角ヲ四十五度タラシム即チ該砲ノ彈丸カ最遠距離ニ達シ得ヘキ角度ニシテ其到達スル距離ヲ以テ其砲ノ效用限界トセリ

我國ニ於テ使用スル砲ノ多數ニ於テ實行シ得ヘキ仰角十五度ヲ以テスレハ各砲ノ効用限界ハ以下述フル所ノ如クナルヘシ即チ四十口徑十二吋砲ハ無烟火藥ヲ使用シテ七十鎊鎖（一万四千ヤード）四十五口徑六吋砲ハ同五十二鎊鎖（一万四百ヤード）四十七密單身砲ハ同三十鎊鎖（六千ヤード）三十七密五身砲ハ同十七鎊鎖（三千四百ヤード）ナリトス

仰角五度、十度及十五度ニ對スル左ノ射擲距離ハ種々戰術的考案ノ材料ト爲ルヘシ該表ハ或砲ニ對シ

テハ僅ニ概數ヲ示スニ過キス又卷末ニ附スル第四圖ハ同一ノ事ヲ圖式ヲ以テ示セルモノナリ

第二百五 遠距離、中距離及近距離ノ區別

何ヲ以テ近距離ト爲シ何ヲ以テ遠距離ト爲ス歟ニ付キテハ原則トシテ據ルヘキモノ一モアルナシ故ニ這般ノ區別ハ孰レモ隨意ニ出ツルモノナリ茲ニ照準角度ニ依ルコト、爲シ左ノ區別ヲ定ムヘシ

- 仰角一度ナルトキハ 近距離
- 同 二度半ナルトキハ 中距離
- 同 五度ナルトキハ 遠距離
- 同 十度ナルトキハ 大遠距離

第一表 彈丸ノ射擲距離（「ケイブル」ヲ單位トス）

口徑	砲膛ノ長	彈丸ノ重量	初速	ft.	ses.	panick	cabibre	inch
二吋	四〇	八〇	二五〇〇	一八七〇	二二四二	二九五〇	二六〇〇	二二一七
二吋	三〇	八一〇	二五〇〇	一八七〇	二二四二	二九五〇	二六〇〇	二二一七
九吋	三五	三〇八	二二四二	二九五〇	二六〇〇	二二一七	一八三〇	二二三〇
八吋	四五	四〇	二二四二	二九五〇	二六〇〇	二二一七	一八三〇	二二三〇
六吋	四五	一〇二五	二二四二	二九五〇	二六〇〇	二二一七	一八三〇	二二三〇
六吋	三五	一〇二五	二二四二	二九五〇	二六〇〇	二二一七	一八三〇	二二三〇
六吋	二八	九一	二二四二	二九五〇	二六〇〇	二二一七	一八三〇	二二三〇
四吋		三六七	二二四二	二九五〇	二六〇〇	二二一七	一八三〇	二二三〇
五身		二七四	二二四二	二九五〇	二六〇〇	二二一七	一八三〇	二二三〇
五身		一三三	二二四二	二九五〇	二六〇〇	二二一七	一八三〇	二二三〇

仰角		
五度	〇度	五度
三六、九	五六、八	六九、九
二三、九	三九、六	五一、一
二六、三	四〇、四	五〇、五
三八、三	五三、三	六四
三〇、三	四三、二	五二、四
二二、九	三五	四四
一九、八	二九、五	三七、二
一六、七	二五	三〇
一〇、五	一五、六	一八、七
九、四	一四、四	一七

第二表 終速

口徑	彈丸	初速	五	一〇	一五	二〇	二五	三〇	三五
イ口徑 二、四〇〇 二、三三三 二、二六六 二、二〇〇 二、一三三 二、〇六六 二、〇〇〇 一九三三 一八六六 一八〇〇 一七三三 一六六六 一六〇〇 一五三三 一四六六 一四〇〇 一三三三 一二六六 一二〇〇 一一三三 一〇六六 一〇〇〇 九三三 八六六 八〇〇 七三三 六六六 六〇〇 五三三 四六六 四〇〇 三三三 二六六 二〇〇 一三三 六六 〇	イイ 一、八七五 一、八〇〇 一、七二五 一、六五〇 一、五七五 一、五〇〇 一、四二五 一、三五〇 一、二七五 一、二〇〇 一、一二五 一、〇五〇 九七五 九〇〇 八二五 七五〇 六七五 六〇〇 五二五 四五〇 三七五 三〇〇 二二五 一五〇 七五 〇	イイ 一、〇四五 九三三 八六〇 七八七 七一四 六四一 五六八 四九六 四二四 三五二 二八〇 二〇八 一三六 六四 〇	イイ 一、〇四五 九三三 八六〇 七八七 七一四 六四一 五六八 四九六 四二四 三五二 二八〇 二〇八 一三六 六四 〇	イイ 一、〇四五 九三三 八六〇 七八七 七一四 六四一 五六八 四九六 四二四 三五二 二八〇 二〇八 一三六 六四 〇	イイ 一、〇四五 九三三 八六〇 七八七 七一四 六四一 五六八 四九六 四二四 三五二 二八〇 二〇八 一三六 六四 〇	イイ 一、〇四五 九三三 八六〇 七八七 七一四 六四一 五六八 四九六 四二四 三五二 二八〇 二〇八 一三六 六四 〇	イイ 一、〇四五 九三三 八六〇 七八七 七一四 六四一 五六八 四九六 四二四 三五二 二八〇 二〇八 一三六 六四 〇	イイ 一、〇四五 九三三 八六〇 七八七 七一四 六四一 五六八 四九六 四二四 三五二 二八〇 二〇八 一三六 六四 〇	イイ 一、〇四五 九三三 八六〇 七八七 七一四 六四一 五六八 四九六 四二四 三五二 二八〇 二〇八 一三六 六四 〇

同 十五度ナルトキ 極端距離

四〇	四五	五〇	五五	六〇
一、五四〇 一、六三三 一、〇八九 九四六 一、四六七 一、〇〇八 九七八 一、一三七 九四〇 九〇三 九六四 九二九 八九六 八三〇 八八〇	一、一一一 一、〇五六 九三三 九七六 九五八 一、〇五二 九〇八 九四〇 九〇三 九六四 九二九 八九六 八三〇 八八〇	一、四〇六 一、〇七六 一、〇三三 一、一三三 九五二 一、〇〇八 一、〇〇八 九四〇 九〇三 九六四 九二九 八九六 八三〇 八八〇	一、〇五一 九七四 九七四 八七〇 八七〇 八七〇 八七〇 八七〇 八七〇 八七〇 八七〇 八七〇 八七〇 八七〇 八七〇	一、二九九 一一、二七 九五〇 八四五 八四五 八四五 八四五 八四五 八四五 八四五 八四五 八四五 八四五 八四五 八四五

右ノ條件ヲ附スルトキハ次ノ如キ結果ヲ見ルヘシ即チ四十口徑十二吋砲ハ近距離十鎗鎖、中距離二十
 二鎗鎖、遠距離三十七鎗鎖ナルヘシ又同規則ニ準據シ四十五口徑六吋砲ヲ以テセハ近距離八鎗鎖、中
 距離十七鎗鎖、遠距離二十八鎗鎖ナルヘシ
 惟フニ最新式ノ大口中徑砲ノ爲メニハ右ノ計算法ヲ採用スルヲ得ヘシ
 又同規則ニ依レハ三十七密砲ノ近距離ハ二鎗鎖ト四分ノ一、中距離ハ五鎗鎖半、遠距離ハ九鎗鎖ナル
 ヘシ此等ノ計數ハ眞實ニ近ク且ツ普通ノ了解ニ協ヘルモノナリ

第百六 終速

甲級ノ穿貫力ハ彈丸ノ命中時ノ終速ト共ニ増減スルモノナリ第二表ハ各砲彈ノ終速ヲ示スモノニシテ

戰術上頗ル有益ナルヘシ今該表ニ就キテ之ヲ見ルニ一秒時ニ二千五百呎ノ速力ヲ以テ發シタル十二吋砲ノ彈丸ハ一箇鎖ヲ飛行スル毎ニ初會ニ在リテハ一分三厘ツ、後ニ至リ一分ツ、ヲ減却シ又六吋砲彈ハ一分六厘ヨリ一分二厘マテヲ減却ス二千六百呎ノ初速ヲ有シタル六吋砲彈ハ六十箇鎖ノ距離ニ於テ唯僅ニ八百四十五呎ヲ持續シ十二吋砲彈ハ千二百九十呎ヲ持續ス速力減少ノ著大ナル夫レ斯ノ如シ即チ十二吋砲ハ此距離ニ於テハ砲口ニ於ケルヨリ半分程薄キ甲鐵ヲ穿貫スルニ過キサレナリ

第七百七 甲鐵穿貫力

穿貫スヘキ甲鐵ノ厚サハ之ヲ簡單ニ謂ハ、打擊ノ瞬間ニ於ケル速力ニ比例スルモノナリ左記ノ表ハ一般考案ノ材料タルヲ得ヘク該表ノ計數ハ $\frac{1}{2} \sqrt{\frac{W}{S}}$ ナル式ニ依リテ算定シタルモノナリ又第三表ハ鐵鐵ノ厚サヲ示スモノナレハ他種ノ甲鐵ナルトキハ該表中ノ厚サニ左記ノ係數ヲ乘センコトヲ要ス

鋼鐵鐵 八割七分 鋼尼結爾鐵 六 割

通常鋼鐵 八割五分 ハルウエイ式、鋼尼結爾鐵アドミラル
マカルフ式磁鐵冠ヲ以テスル穿甲彈 六 割

上等鋼鐵 七割三分 右同磁鐵冠ヲ用フ又穿甲彈ノ時 四割五分

吾人ハ砲術家ニ向ヒテ各口径砲ニ對シ一層精密ナル此種ノ表ヲ調製センコトノ希望ヲ述ヘントス是レ此種ノ表ハ戰術的考案ノ爲メニ頗ル有益ナレハナリ

第三表 左ノ各口径砲ノ鐵鐵穿貫力(吋ニテ示ス)及砲彈ノ重量并ニ打擊當時ニ於ケル彈丸ノ速力

砲彈ノ口径及重量	十二吋 八〇所	九吋 三〇八所	八吋 二一四五所	六吋 一〇一所
二、三〇〇	二七、六	一九、七	一七、四	一三、八
二、二五〇	二七、〇	一九、三	一七、〇	一三、五
二、二〇〇	二六、四	一八、八	一六、七	一三、二
二、一五〇	二五、八	一八、四	一六、三	一二、九
二、一〇〇	二五、二	一八、〇	一五、九	一二、六
二、〇五〇	二四、六	一七、五	一五、五	一二、三
二、〇〇〇	二四、〇	一七、一	一五、一	一二、〇
一、九五〇	二三、四	一六、七	一四、八	一一、七
一、九〇〇	二三、八	一六、三	一四、四	一一、四
一、八五〇	二三、二	一五、八	一四、〇	一一、一
一、八〇〇	二二、六	一五、四	一三、六	一〇、八

一、七五〇	二二、〇	一五、〇	一三、三	一〇、五
一、七〇〇	二〇、四	一四、五	一二、九	一〇、二
一、六五〇	一九、八	一四、一	一二、五	九、九
一、六〇〇	一九、二	一三、七	一一、一	九、五
一、五五〇	一八、六	一三、三	一一、七	九、一
一、五〇〇	一八、〇	一二、八	一一、四	八、八
一、四五〇	一七、四	一二、四	一一、〇	八、四
一、四〇〇	一六、八	一一、〇	一〇、六	八、〇

第百八 射擊命中ノ粗密

現時ノ砲ハ發火ノ裝置孰レモ極メテ精密ナルヲ以テ照準ヲ誤ルトキハ其彈丸ハ必ス標的ニ命中セサルヘシ故ニ能ク照準ヲ正シ命中ヲ誤ラサルノ能ハ砲術教練ノ最要ノ眼目ナリトス是ヲ以テ此術ノ可及的開發ヲ圖ル爲メニハ如何ナル失費ヲモ厭ハサルノ決心ナカルヘカラス若シ夫レ此教練ノ方法ノ如キハ砲術教科ノ具ハルモノナレハ吾人ハ茲ニハ唯其重要ナルコトヲ述フルヲ以テ足レリトス砲彈ニシテ敵ニ命中セサルニ於テハ砲ナルモノ何ノ益スル所アラシヤ

第百九 發火力節制ニ就キテ

現今發射ノ速度大ニ増進シテ彈丸ノ消費高夥多ニ失スルヲ憂フルニ至レリ拳銃彈着距離ニ接近スルトキハ無論此長所ヲ利用シテ眞ニ充分火力ヲ開發セサルヘカラスト雖モ遠距離ニ在リテハ速射砲ノ火力ヲ節制スルヲ利トス否ラサレハ勝敗ヲ決スヘキ瞬間ニ於テ早ク既ニ彈丸缺乏シ乗組員亦非常ニ疲勞ヲ感スルノ場合ナキヲ保セス

茲ニ火力節制ニ就テ一ノ疑團アリ曰ク全速射砲ノ火力ヲ節制シツ、全砲臺ノ火力ヲ減スルヲ可トスル歟若クハ一門ノ砲ヲシテ充分火力ヲ逞フセシメ該砲員ノ疲勞スルヲ待チテ他砲ヲシテ砲火ヲ繼續セシムルヲ可トスル歟

吾人ハ寧ロ第二方法ヲ採ラントスル者ナリ蓋シ斯ノ如クスルトキハ射擊ヲ監督スルニ易ク前彈ノ試撃ヲ以テ後彈ノ誤ヲ正スニ容易ニシテ乗組員ハ速射ニ馴致シ且ツ戰鬥中ハ無關係ノ乗組員ハ此時休憩セシメ敵彈ヨリ遮蔽セシムルヲ得ルニ依リ大ニ其勢力ヲ蓄ヘ得ルノミナラス砲手モ亦妙技ノ者ヲ撰拔シテ專ラ之ニ當ラシムルコトヲ得ヘシ試驗ヲ行ヒテ以テ此問題ノ明解ヲ索ムルハ頗ル趣味アル事ナルヘシ斯ノ如キ試驗ヲ行フ爲メニハ數百箇ノ彈丸何ソ吝ムニ足ランヤ況ヤ通常ノ射擊練習ト之ヲ聯結スルヲ得ルニ於テヲヤ

第百十 彈丸

彈丸製造ノ技藝ハ長速ノ進歩ヲ爲セリ現ニ二千秒呎以上ノ速力ヲ以テ甲板ヲ打撃シ反跳シテ更ニ毀損ノ痕跡ヲ止メサル彈丸アリ其堅牢實ニ驚クヘシ彈丸ノ信管モ亦大ニ改良ヲ加ヘラレタリ而シテ尙ホ切望スヘキハ口徑ノ大小ニ拘ラス凡ソ彈丸ハ薄弱ナル舷側或ハ厚キ甲板ノ別ナク或障碍物ヲ穿貫(該彈丸ノ力之ヲ能クスルトキハ)シタル後始メテ炸裂センコト是ナリ現今用フル所ノ信管ハ通常彈丸發砲ノ際砲膛内ニ於テ激動ヲ受ケ之レカ爲メ發火準備ヲ爲シ一度目的ニ觸ルレハ忽チ彈丸ヲ炸裂スルモノト稍、暫クシテ炸裂スルモノトアリ巨砲ノ彈丸ノ如キハ薄板ヲ穿貫スルモ些少ノ反抗ヲ受クルニ過キサレハ障碍物ニ接觸後久シキニ亘リ乃チ兩舷ヲ通過シタル後漸ク炸裂スルコト之レナキヲ保セス十二吋砲彈ノ烟筒若クハ水雷艇ニ命中シタルトキハ恐ラク這般ノ光景ヲ實見スルナルヘシ

彈丸ヲシテ尙ホ一層適時ニ炸裂セシメント欲セハ須ク信管ヲ改正シ始メ砲膛内ニ於テ働作シ障碍物ニ觸ル、中再ヒ激動ヲ受ケ更ニ復タ其障碍物ノ爲メ其速力大ニ減少スルヲ待チテ炸裂ヲ來ス如クニ設計セサル可ラス以上ノ條件ヲ守ルニ於テハ彈丸ハ舷側並ニ其間ニ存在スル石炭ヲ通過シタル後始メテ炸裂スルコトト爲ルヘシ又斯ノ如キ彈丸ヲ以テ土壘ヲ打撃スルトキハ其土中ニ停止スルノ際ニ炸裂スヘク又水面ヲ打ツ場合ニハ其跳撃ノ際ニ炸裂シ水面下ニ於テ舷側ニ命中スルトキハ水及舷ヲ通過シタル後炸裂スヘシ

戰術ノ點ヨリ頗ル重視スヘキ前掲ノ要件ハ如何ニシテ之ヲ圓滿ニ結局スヘキカ技術家タル者宜シク考

案ヲ擬スヘキナリ

第一百十一 戰術射撃ノ爲メ彈丸ノ撰擇

我海軍ニ五種ノ彈丸アリ即チ穿甲榴彈、鋼鐵榴彈、通常榴彈(鑄鐵製)、榴霰彈及霰彈是ナリ右ノ諸彈丸中霰彈ヲ除クノ外ハ皆炸藥ヲ有スルモノナリト雖モ鋼鐵榴彈ノ爆裂力ハ之ヲ穿甲榴彈ニ比スレハ一層強大ナルハ論ヲ俟タサルナリ而シテ土壘ヲ撃ツトキハ鋼鐵榴彈ヲ用フヘク非裝甲艦ヲ撃ツトキハ通常榴彈若クハ榴霰彈ヲ用フヘシ又非裝甲建設物ヲ有セサル裝甲艦「モニター」形ニ向ヒテ射撃ヲ行フトキハ穿甲榴彈ノミヲ使用スヘシト雖モ多大ノ非裝甲面積ヲ有スル新式戰艦ニ向ヒテハ兩種ノ彈丸ヲ併用スヘキナリ此場合ニ於テ或砲ハ穿甲榴彈ヲ裝填シ他ハ鋼鐵榴彈ヲ裝填スヘシ而シテ穿甲榴彈ハ何レノ部分ニ命中スルモ多少效驗ヲ致スヘク鋼鐵榴彈ハ甲板ニ命中スルモ之ヲ穿貫シ能ハスト雖モ一度非裝甲部ニ命中セハ其加フル所ノ損害ハ穿甲榴彈ノ比ニアラス若シ又敵艦ニ薄板ヲ裝フタル所ナク何レモ厚板ノミヲ以テ裝フトキハ厚板穿貫スルノ力ナキ中口徑砲ハ就レモ鋼鐵榴彈ノミヲ裝填スヘキナリ

イエユーシユ大佐ハ縱撃ノ際ニハ爆發藥ヲ裝填セサル彈丸ヲ用フルコトヲ勸告セリ同氏ノ所見ニ依レハ彈丸カ其形態ヲ變セス艦ノ全延長ヲ通過スルトキハ炸裂ノ場合ニ比シ一層劇甚ナル損害ヲ醸スノミナラス落角著シキ場合ニハ尙ホ且ツ漸次下降シツ、瀛機若クハ瀛罐ニ達シ之ヲ穿貫スル場合アルヘシ

ト此論ハ大ニ熟慮スルノ價値アルモノニシテ吾人モ亦縱撃ノ際ニハ爆發藥ヲ裝填セサル彈丸ノ使用ヲ贊成スルモノナリ唯夫レ何レノ時ニ於テ縱撃ノ機會ニ際會スルヤヲ前知スルノ困難ヲ見ルノミ然リト雖モ敵ノ戰術ニシテ始終我レニ艦首ヲ以テ對スルニ在ルトキハ斯ノ如キ困難ハ自然消滅ニ歸シ去ルヘシ榴彈ハ水面ヲ觸撃シテ炸裂スルコトアリ此特質ハ嘉スヘキモノナルヤ將タ厭フヘキモノナルヤ今吾人ノ見ル所ヲ以テセハ是レ寧ロ嘉スヘキノ特質ナリトス蓋シ彈丸敵艦ヨリ少シク手前ニ落下スルノ際ニ於テ炸裂シタル彈片ノ敵艦ニ達スルハ寧ロ全彈ノ之ニ達スルヨリ多クノ機會存スレハナリ中口徑砲ヲ以テ水雷艇ヲ撃ツ場合ニ於テハ彈丸ハ敵艇ヨリ少シク手前ノ水面ニ落下スルハ寧ロ利アリト謂フヘシ

第一百十二 小口徑砲

最初小口徑砲ヲ撰擇スルニ方リ三十七密砲ヲ採用シタルハ此砲ヲ以テ炸裂彈ヲ發射シ得ヘキ砲中最小口徑ナリト認メタルニ由ルナリ現ニ汽艇及水雷艇(外裝水雷裝置ノ)ヲ撃ツニハ該口徑ノ砲ハ充分效驗ヲ致セシト雖モ厚キ外被ヲ有スル大水雷艇建造セラレ且ツ之ニ魚形水雷ヲ使用スルニ至リ三十七密砲ハ不充分ト看做サル、ニ依リ列國ハ四十七密單身砲ニ引換フルノ傾向ヲ示セリ然リ而シテ吾人カ此引換ヲ適宜ナリトスルノ議ニ全然同意ヲ表セサル所以ノモノハ今ヤ「マキシム」式三十七密自働砲ノ有ルアリト雖モ未タ此式ノ四十七密アラサレハナリ若シ夫レ諸輕砲ニ自働的裝置ヲ施スノ議ニ至リテ

ハ吾人ハ尤モ希望スヘキモノト認ム凡ソ尋常ノ砲ト自働砲トノ比較的射撃ニ臨ミタル者ハ自働砲ノ利便ヲ感セサルモノナカルヘシ其砲手ノ一番ハ照準ヲ正整スルノ外他ニ注意スルヲ要セス隨テ命中ノ點ニ於テ得ル所莫大ナルノミナラス砲ノ側面ニ立テル士官ハ聯出スル彈丸ノ着點ヲ監視シツ、照準修正ノ指導ヲ爲シ以テ命中ノ度ヲ進ムルヲ得ヘシ又其發射速度ニ至リテハ砲身ヨリ一分時ニ二百四十個ノ炸裂彈ヲ發シ得ルヲ以テ自働砲ハ殆ト其ノ極點ニ達セルモノナリ此點ニ於テ尙ホ一層良成績ヲ得ントスルモ決シテ得ヘカラルナリ

自働砲ニハ尙ホ一ノ大ナル卓質ノ存スルアリ他ニアラス即チ每發射ノ間隙ハ一定不變ニシテ該射撃ハ神經ヲ傷メルヨリ寧ロ之ヲ鎮定スルノ效アルコト是レナリ然ルニ尋常ノ小砲ヲ以テ射撃ヲ行フトキハ之ト全然反對ノ現象ヲ見ル即チ四五門ノ小砲ヨリ發射スルトキ其中間ニ立テル者ニシテ毫モ感觸ヲ損セサラントスルニハ非常ニ自若タル人ニアラサレハ能ハサルナリ

三十七密自働砲カ多クノ海軍ニ於テ採用セラレサルハ何人モ該口徑ヲ以テ満足スルモノナク四十七密及五十七密砲ヲ採用セントスルニ至リタルヲ以テナリ口徑愈々大ニシテ砲ノ力愈々強大ナレハ論ヲ俟タスト雖モ三十七密砲ノ勢力ニテ充分ナル所ニ四十七密砲ヲ用フルハ斷シテ不可ナリ而シテ其不可ナル主要ノ點ハ重量ニ在リ同一ノ重量ニシテ三十七密砲ノ實包數ハ四十七密砲ノ實包ノ數ニ比スレハ約三倍ナリ吾人ハ希望ス砲ノ口徑ヲ増大スルヲ止メ三十七密砲ノ初速ヲ増加シテ二千五百呎乃至三千呎

ニ至ラシメンコトヲ斯ノ如クナルトキハ此口徑ハ充分有效ナリト謂フヘシ

第一百十三 機砲

自働砲ノ意匠ハ小銃口徑彈丸ヲ射出スル砲身ニ其應用ヲ見ルニ至リ現ニ幾多ノ海軍ニ於テハ檣樓ニ機砲ヲ据付クルヲ恒例トス機砲一門ハ十名ノ狙撃兵ニ優ルコト今更疑ヲ存セスト雖モ陸軍ニ於テ之カ使用ヲ辭シタルハ彈着點ヲ實見セサレハ射撃ヲ正確ニスルニ由ナキコト之カ主因タラスンハアラス此缺點ハ海軍ニ於テモ亦免カレサル所ナリ

機砲ノ利用ニ關スル問題ハ實戰若クハ演習ノ經驗ニ依リ決スヘキモノトス然リト雖モ吾人ハ之ヲ否認スルヨリモ寧ロ是認スル者ニシテ其主ナル理由ハ射手タル者照準正整ノ外毫モ他ニ顧慮スル所ナク所謂自働的意匠ノ應用ヲ見ルニ由ル此意匠ハ即チ砲ノ改良ノ極點タルヘキモノナリ回顧スレハ我海軍ニ於テ自働式砲ノ發達ノ爲メニ消費シタル金額實ニ鮮シトセス而シテ今ヤ該砲既ニ發明セラレ乃チ我宿望ヲ達シタレハ是ヨリ須叟モ逡巡スルコトナク駸々トシテ前進スルノ途アルノミ

第一百十四 砲火ノ命中度ニ及ホス艦ノ靜鎮ノ影響

艦ノ運轉力射撃ノ命中及其速度ニ及ホス影響ハ實ニ大ナリトス射撃ヲ行フ艦ニシテ敵艦ニ對シテ始終或ハ右方或ハ左方ニ回轉スルニ於テハ砲ヲ正シク照準スルコト頗ル困難トナリ其命中ノ度甚ダシク減少スルヲ免レス艦ノ回轉ハ獨リ地平照準ノ正整ヲ困難ニスルノミナラズ尙ホ直垂照準ノ正整ヲモ妨ク

ルモノナリ蓋シ舵ノ位置變更スル毎ニ艦ハ其傾斜ヲ更フルモノナルモ砲手ハ素ヨリ舵ヲ如何ニ取リタルヤヲ知悉セサレハ如何ナル變更ヲ來スカ豫知スル能ハス即チ頻々其直垂照準ヲ妨害シテ止マサルナリ而シテ敵艦ヲ一定ノ方向ニ望ム如ク針路ヲ維持スルヲ以テ射撃上尤モ利便トス斯クスル時ハ各砲ニ於テ照準ヲ新ニスルノ必要ナク發射ニ先チ少シク仰角ヲ正整スルヲ以テ足レリトス又斯ノ如クスルトキハ艦隊戰鬪ノ際ニ最モ憂フヘキ味方ノ艦ヲ打撃スルノ虞ナク且ツ射撃ヲ頻繁ニスルヲ得ヘシ何トナレハ狹隘ナル砲門ヨリ敵艦ヲ搜索シ又該艦ノ果シテ敵艦ナルヤ否ヤヲ熟視スル爲メ時間ヲ徒費スルノ要ナケレハナリ

一定ノ方向ニ敵艦ヲ支持スル爲メニハ有ラユル手段ヲ施シ且ツ成ルヘク頻繁ニ之カ練習ヲ爲スハ極メテ有益ノ事ナルヘシ按針手ニシテ針路ヲ支持スルニ拙ナレハ射撃ノ命中ハ得テ期ス可カラス斯ル場合ニ於テ敵艦ニ命中スル彈丸ノ數ハ恐ラク半數ニ過キササルヘシ

第一百十五 按針手ニ操舵術ヲ授クヘキ事

此教練ハ實戰而カモ亂戰ノ時即チ艦ヲ頻リニ左右ニ回轉スルトキニ擬スヘキナリ此時ニ當リ恐ラク「取リ舵」「面モ舵」及「宜候」ナル重ナル號令ノミ用ヒラル可シ從前「宜候」ノ號令ハ艦ノ自ラ支持スル針路ヲ保チ前進スルノ義ヲ含有セシモ新號令語ニ依レハ「宜候」ナル語ハ該號令ノ下リタル時艦首ノ向ビタル羅盤ノ度ヲ保持スルノ義ナリ今兩者ノ相違スル所ヲ摘示セハ甲ノ場合ニ於テ艦ハ回轉ヲ終

リテ後直線ニ進行シ乙ノ場合ニ於テハ反對ノ方向ニ二三點回轉シタル後舵ヲ以テ所要ノ方位ニ向ハシムルヲ以テ艦ノ針路ハ曲線ヲ描キ終ニ一定スルモノナリ(第五圖參看)夫レ然リ然ルト雖モ之ヲ避クルノ途ナキニアラス即チ「宜候」ノ號令ヲ下ス代リニ「戻セヨ」ト號令スヘシ此號令ノ下ルトキハ(號令集第四百四十六條ニ基キ)按針手ハ船首ヲ定點ニ向ケ針路ヲ守リ操舵セサルヘカラサルナリ艦長ハ按針手カ所要ノ方向ニ艦首ヲ定ムルノ違ヲ有シ得ヘキ様前以テ「戻セ」ノ號令ヲ下シ按針手ハ又艦ヲ或ル方向ニ定メタル後ハ必ス此針路ヲ確守シ決シテ他ノ方向ニ向ハシメサルコトヲ練習スヘキナリ

以上陳述シタル事ヲ確守セサルニ於テハ射擊命中上大ニ失フ所アルハ疑ヲ容レサルナリ

第一百十六 射擊ノ命中度ニ及ホス機關運轉ヨリ生スル艦

ノ震動ノ影響

艦體ノ動搖及概シテ震動カ砲ノ照準ヲ妨ケ以テ射擊ノ命中度ヲ減却スヘキ機關回轉ノ數ヲ知ラントセハ須ラク此關係ニ於テ艦ヲ研究セサルヘカラス艦ノ最大震動ト機關回轉數ノ關係ハ吃水ノ如何ニ依リテ變動スルモノニシテ始終同一ナラス是ヲ以テ此現象ハ石炭ノ搭載量ヲ種々ニシテ研究センコトヲ要ス

抑モ命中度ニ及ホス艦體震動ノ影響ヲ明確ニセンカ爲メニハ直接ノ觀察ノ外尙ホ艦ノ各部ニ備ヘタル

器械ニ注意スルヲ有益トス該器械ナキトキハ水吞「コツブ」ニ水ヲ盛り之ヲ砲臺若クハ其附近ニ配置スルコトアリ斯クシテ機關ノ回轉數ヲ種々ニ變更シテ何レノ「コツブ」ニハ幾許ノ水溢出セシヤヲ觀測ス此單純ナル方法ハ大ニ古風ナルニ拘ラス肉眼ヲ以テ震動ヲ測ルニ比スレハ頗ル貴重ナル結果ヲ與フルモノトス

艦體ノ振動カ射擊ノ命中度ニ不良ノ結果ヲ及ホスヘキ速力ハ射擊上不適當ト認定セサル可カラス乃チ戰闘狀況ノ許ス限リハ該速力ヲ回避セサルヘカラス或ル機關製造家ノ說ニ依レハ巧ニ機關各部ノ酌合ヲ行フトキハ艦體ノ震動ヲ惹起サル、ヲ得ヘシト云フ這般ノ改良ハ大小ノ別ナク凡テ戰術上頗ル有益ト認めサル可カラス又二基ノ機關ヲ同時ニ運轉スルトキハ艦體ノ震動ヲ惹起スヘキ原因ノ合同スル場合アルヘク此時ニ當リ震動ハ最モ劇甚トナルヘシ而シテ一機關ノ彎軸クランクカ他ノ機關「クランク」ニ對シ或位置ヲ占ムルトキ艦體ノ震動最モ微弱ナルコトアリ是故ニ機關ノ計畫者ハ宜シク此ニ注意シ右ノ如キ相互ノ位置ニ始終兩機關ヲ維持スヘキ裝置ヲ案出スヘキナリ夫ノ電氣力ハ砲術家ノ博ク其各種ノ裝置ニ利用スルニ拘ラス推進用機關ニ於テハ未タ其門戸ニ近クヲ得ヌ即チ機關士ハ未タ之ヲ利用スルヲ得ス而モ電氣力ナルモノハ軍事上必要缺クヘカラサル機關裝置ノ爲メニ好材料タラスンハアラス現ニ大速力進行ノ際ニ生スル艦體ノ震動ハ或種ノ小艦ノ爲メニハ砲ノ照準ニ大妨害ヲ加フルモノナリ

第一百十七 日光ノ影響

大陽ノ位置地平線上ヨリ餘リ高カラサルトキハ日光ハ著大ナル影響ヲ及ホスモノナリ自艦ノ影ヲ敵ノ方面ニ投スル様ニ己レノ位置ヲ占メタル艦ハ距離ノ測定及照準正確ノ度ニ於テ戰術的利益ヲ有スルモノナリ何トナレハ此場合ニ於テ敵艦ヲ見ルコト比較の明瞭ナルヘク自艦ハ影測ヲ以テ敵ニ面シ己レハ大陽ヲ負フニ依リ敵ヲシテ距離ヲ測定シ照準ヲ正確ニスルニ苦マシムレハナリ這般ノ日光ノ影響ハ高緯度地方ニ於テ通常アル如ク大陽ノ位置高カラサルコト久シキニ互ルノ時ニ於テ殊ニ著大ナルヘシ陸上砲臺トノ戰鬪ニ際シ時間ノ撰擇艦隊ノ隨意ナルトキハ日光ノ戰術的便益著大ナリトス艦ト艦ト單獨ノ砲戰ニ於テモ亦速力及回轉自在ノ點ニ於テ優リタル艦ハ此點ニ就キ便益ナル位置ヲ占メ敵艦若シ其不利ナル位置ヲ脱センコトヲ圖ルモ尙ホ此位置ヲ持續スルニ難カラサルヘシ

第一百十八 射撃ノ命中度ニ及ホス烟ノ影響

有烟火藥ノ烟ト無烟火藥ノ烟或ハ正確ニ謂ヘハ無烟火藥ノ瓦斯トヲ區別セサル可カラス烟ハ敵艦ヨリハ寧ロ自艦ノ射撃ヲ妨クルモノナリ何ントナレハ烟ノ一度自艦ヲ掩フトキハ之ヲ除却スルノ手段ナケレハナリ然ルニ自艦幾分ハ尙ホ且ツ敵ノ爲メニ認メラレ敵ハ自艦ニ向ヒテ射撃ヲ行ヒ且ツ能ク照準ヲ爲シ得ルナリ

射撃ヲ行フ艦ノ一所不動ナルトキハ烟ノ關係上無風時ヲ以テ最モ不利ナル條件トス又進行中ニ在リテハ微力ノ順風吹來ル時ヲ以テ最モ不利ナル條件トス是レ烟ノ艦ニ隨伴スルニ由ルナリ演習中小量火藥

ノ空砲ヲ發スルトキニ於テ尙ホ且一舷打方一回ヲ行フノ後雷ニ標的ヲ見ル能ハサルノミナラス尙ホ進行スヘキ方向ヲスラ認識シ能ハサルノ例ナキニアラス

側面ノ風則チ射撃ヲ行フ舷ノ方ヨリ來ル風ハ反對ノ方面ヨリ來ル風ニ比スレハ寧ロ烟ヲ除却スルモノナリ何トナレハ甲ノ場合ニ於テ烟ハ直ニ艦上ニ上リ該舷ニ痕跡ヲ止メサルモ乙ノ場合ニ於テハ烟ハ風下ヨリ集合シ同所ニ停止スルコト久シキニ亘ルコトアレハナリ或論者ハ謂フ風下ノ位置ハ自艦カ敵ノ砲烟ノ掩フ所ト爲ルヲ以テ不利ナリト然リト雖モ各艦ノ距離如何ニ短小ナリトスルモ艦ノ長ヨリ大ナルヲ疑ハス故ニ敵ノ砲烟ハ多クハ此距離ヲ通過スヘシ良シ又敵ノ砲烟一直線ニ我艦ニ襲來スト假定スルモ此時該砲烟ハ漸ク稀薄ト爲ルノ故ヲ以テ我艦ヨリ反テ敵艦ヲ妨害スヘシ以上ノ事由ニ依リ有烟火藥ノ砲烟ニ對シ風下ノ位地ハ風上ノ位地ニ優ルモノトス曾テナルソンモ亦風下ノ位置ヲ撰擇シタルコトアリ然レトモ此意ハ敵ヲ逸脱セシムルニアラサルヲ主張セリ

敵ヲ見ルコトヲ著シク妨ケサル所ノ夫ノ無烟火藥ノ瓦斯ハ乗組員ニ炭酸瓦斯ノ惡作用ヲ及ホスノ點ニ於テ有害ナリトス是ヲ以テ無烟火藥ニテ射撃ヲ行フトキハ發射ヨリ生スル瓦斯ヲシテ艦ノ内部ニ侵入セサラシメンカ爲メ敵ノ風上ニ在ルヲ可トス無烟火藥ヨリ生スル此ノ炭酸瓦斯ノ作用ニ就キテハ當初喧囂ヲ極メタルモ今ヤ一人ノ之ヲ論スル者ナシ是レ畢竟戰鬪ノ時ニ於ケルカ如ク多數ノ射撃ヲ行フノ勞ヲ取ラサルニ基因スルニアラサルナキ歟

探照燈ノ光ハ通常火藥ノ烟ヲ貫通スルノ力極メテ微弱ニシテ隨テ夜間射撃ノ際就中砲烟ノ標的ニ懸ルトキハ數發ニシテ射撃ノ中止スルノ必要アリ之カ爲メ其發射速度極メテ緩慢ナルコトニ留意スルヲ要ス此現象ニ就キ水雷艇ノ爲メ一ノ戰術的利益ヲ生ス即チ敵若シ無烟火藥ヲ有セサレハ烟ノ關係ニ於テ風下ヨリ之ニ近接スルヲ利便トス

第一百十九 一舷打方ヲ可トスル歟將タ獨立打方ヲ可トスル

歟

戰鬪中一舷打方ヲ可トスル歟將タ獨立打方ヲ行フヲ可トスルカ此問題ハ尙ホ明解ヲ得タルモノト爲シ難シ或一派ノ海軍著者ハ戰鬪中一舷打方斷シテ行フヘキモノニアラストシ他ノ派ニ屬スル著者ハ一舷打方及獨立打方ヲ共ニ是認シテ艦隊戰鬪ノ際ニハ一舷打方ヲ以テスヘク單獨ノ戰鬪ナルトキハ獨立打方ニ依ルヘシト謂ヘリ然リ而シテ老練ナル將校ノ多數ハ一舷打方ヲ以テ頗ル冒險ニ亘ルモノト爲セリ蓋シ一彈ノ不命中ハ未タ以テ大ナル損失ニアラスト雖モ一舷打方全體ノ誤射ハ全艦ノ砲火ヲ無効ニ歸セシムルノ嫌アレハナリ

一舷打方ノ長所ハ左ノ如シ

- (イ) 砲火ノ全力ヲ所望標的ニ向ケ正確ニ其作用ヲ指導スルコトヲ得ヘシ
- (ロ) 一舷打方ノ際ニ生スル砲煙ハ之ヲ獨立打方ノ時ニ比スレハ其妨害極メテ寡キ事

(ハ) 從テ味方ノ艦及水雷艇ヲ射撃スルノ虞寡ナキコト又一舷打方ノ短所ハ左ノ如シ

(イ) 方位盤ヲ司ル士官狼狽シ誤謬ヲ爲ストキハ全艦ノ火力ハ無効トナル事

(ロ) 發砲電路ヲ破損スルトキハ一舷打方ヲ行フヲ得サルヘシ而シテ之ヲ修理シ得ル前既ニ多少貴重ナル時間ヲ徒費スルコトアルヘシ

獨立打方ニ在リテハ砲手ノ工妙ハ全然其效用ヲ爲スノ點ニ於テ其長所ト看做サ、ルヘカラスト雖モ又他ノ方面ヨリ之ヲ論スレハ砲手ノ行フ射撃ハ分隊長ノ精密ナル監督ヲ要スルナリ是レ下士等カ照準ヲ正シ且ツ決シテ味方ノ艦ヲ撃タサル様監視スルノ必要アルニ由ル

一舷打方ヲ行フ艦ハ何故歟整々タル無限ノ感覺ヲ惹起スルモノニシテ此事態ハ延テ敵軍ノ士氣ニ多少影響ヲ及ホサ、ルヘカラスト現ニ陸軍ニ在リテハ一齊打方ノ音響聞ユル間ハ戰況ニ異常ナキヲ認ムルヲ得ヘク又不規律ナル急速發火ノ音響耳朵ニ達スルトキハ一部ノ軍隊ニ異變ナキヤノ疑惑ヲ起サシムルモノナリ海戰ニ於テモ一舷打方ハ陸戰ト同一ノ感情ヲ惹起スルモノニシテ自艦ニ夥多ノ死傷者ヲ生シタルノ時ニ於テ敵一舷打方ヲ行フニ於テハ是レ敵ニ死傷ナキヲ想像セシムルニ足ルヘク此感情ハ延テ我レノ士氣ニ影響スル所ナカルヘカラスト

吾人ハ寧ロ一舷打方ニ贊成ヲ表スル者ナリト雖モ此打方ヲ監理スル將校ニシテ神經質ノモノナランカ射撃ハ斷然砲手ニ任セ獨立打方ヲ行ハシムルニ如ス何トナレハ斯ノ如クスルトキハ砲手ノ内或ハ命中

ヲ誤ルコトアルモ他ハ能ク巧ニ照準シ平均シテ中等ノ結果ヲ得ヘキモ前記ノ形勢ニ於テ一舷打方ヲ行フトキハ其結果全然不良ナルハ明カナリ然レトモ方位盤ニ在テ發射ヲ監督スル將校自若タルトキハ一舷打方ハ必ス無類ノ良成績ヲ收メ得ヘシ

第二百二十 戰鬪距離ノ撰擇

兩對手ノ舉動自由ニシテ戰場廣濶且ツ陸岸及淺瀬ノ爲メ諸艦ノ運動ヲ妨害スルコトナキトキハ戰鬪距離ノ撰擇ハ無論優等ノ速力ヲ有スルモノ、專有タルヘシ優等ノ速力ヲ有スル敵艦ノ距離ヲ撰擇セハ戰鬪ノ種類則チ砲戰ト爲ス歟或ハ砲水雷混合戰ト爲ス歟モ亦自ラ決定スヘシ彼レ若シ挑戰ニ應スルヲ不利ト爲サハ全ク之ニ應セサルヲ得ヘク或ハ適當ナル時間ノ到來若クハ天候ノ變更シテ適宜ト認ムル迄之ヲ延期スルヲ得ヘク或ハ又直ニ之ヲ攻撃スルヲ得ヘシ以上陳述スル所ニ就キ一ノ斷案ヲ下サハ速力ノ卓越シ特ニ海上ノ狀況如何ニ拘ラス之ヲ維持シ得ルニ於テハ其戰術上ニ及ホス影響ハ極メテ宏大ナリトス

優等速力ヲ有スル艦ト雖モ必スシモ隨意ニ戰鬪距離ヲ撰擇シ得ルモノニアラス例ヘハ敵若シ他ニ出口ヲ有セサル狹所ニ於テ之ニ出會セハ該所ヲ離去スルノ間暫時距離ヲ撰定スルノ特權ヲ失フヘシ又優等速力ヲ有スル艦ニシテ他ニ任務ヲ帶ヒタルトキ(例ヘハ運送船護送ノ類)ハ其速力ハ之ニ著大ナル利便ヲ與フヘキハ論ヲ俟タスト雖モ距離ノ撰擇ハ全然之ニ屬スルニアラサルナリ之ヲ歴史ニ徵スルニ單獨

戰鬪ニ於テ距離ノ撰擇適宜ナルトキハ大ニ其成功ヲ助タルモノトス例ヘハ英國弗列曼艦「シーホール」ト米國弗列曼艦「コンステラーシヨン」及「ユーナイテッドステーツ」トノ戰鬪并ニベムジーン氏カ其著海軍戰術中(第七十一頁)ニ述フル如ク當時英米巡洋艦ノ間ニ生シタル戰鬪ハ孰レモ細心ヲ以テ敵ニ近接シ且其射距離ヲ撰擇スルハ巨砲ヲ有スル軍艦ニ屬セルコトヲ示セリ

裝甲艦ト非裝甲艦トノ間ニ戰ノ生スルトキ切ニ戰鬪距離ヲ撰擇スルニ於テハ裝甲艦ノ甲板ハ敵彈ノ爲メニ穿貫セラル、コトナカルヘシト雖モ非裝甲艦ニ取リテハ距離愈々増大スレハ之ニ命中スル彈丸ハ益々危險トナルヘシ蓋シ彈丸ノ落角増大スルニ從ヒ甲板ノ防禦ナキ生命ヲ侵サル、ノ恐益々増加スレハナリ要スルニ近距離ハ非裝甲艦若クハ防護甲板ヲ有シ比較的小口徑砲ヲ搭載セル諸艦ニ利アルモノナリ即チ艦ノ小ナル程敵ニ近接スルノ理由アリ其他小艦ハ大概著大ナル速力ヲ有スレハ單獨戰鬪ノ排撥ハ大艦ヨリハ寧ロ小艦ニ屬スルモノナリ故ニ二艦相會スルノ場合ニ於テ小艦ハ戰鬪ヲ辭スルモ又攻勢ヲ取ルモ其撰フ所ニ任ス水雷ノ關係ニ於テモ亦小艦ハ敵艦ニ近接スルヲ利トス是ヲ以テ小艦若シ開戰ニ決セハ其敵ニ近接スル愈々迅速ニシテ結果愈善良ナルハ茲ニ斷言スルヲ憚カラサルナリ

第二百二十一 極端距離ニ於ケル射擊

我カ砲ハ敵ニ比シ射程遠大ニシテ且ツ戰鬪距離ヲ制スル我ニ於テ隨意ナルモノト假定セハ更ニ爰ニ一ノ疑問アリ則チ我カ彈丸ハ敵ニ達シ敵ノ彈丸ハ我ニ達セサル距離ヲ撰擇スヘキニアラサルヤ該距離ハ

五十乃至六十錨鎖ナルヘク則チ巨大ノ距離ナルカ故ニ敵ニ命中スルハ極メテ困難ナルヘシト雖モ我ハ敵ノ彈着距離外ニ在リテ毫モ損失ヲ蒙ラザレハ艦ノ動搖ヲ感セサル以上ハ一物ノ正確ニ射撃ヲ行フヲ妨クルモノナカルヘシ且ツ彈丸落下ノ位置ニ依リテ距離ヲ測定シ射撃ヲ修正シ得ルノ利便アルコトヲ思ハサルヘカラス此時ニ方リ防戦者ノ戰術ハ成ルヘク頻繁ニ敵ヨリノ距離ヲ變更シ敵ノ射撃ヲ困難ナラシムルニ在リ且ツ此際ニ記憶スヘキ一事アリ即チ遠距離ヨリ見ルトキハ敵ハ我ニ向ヒテ直航スルヤ將タ我ヨリ遠サカルヤヲ識別スルハ極メテ困難ナルコト是レナリ是ヲ以テ敵ハ屢々其針路ヲ變シ舵ヲ取リ一方ニ向ヒテ八點回轉シ後更ニ他方ニ向ヒ八點回轉スルヲ利アリトス斯ノ如クスルトキハ防戦艦ハ十六點回轉セル如ク敵ニ見ユルヲ以テ敵モ又十六點回轉ヲ行フヘク而シテ彼レカ其誤ヲ發見スルトキハ彼レ既ニ大ニ防戦艦ニ近接シテ防戦艦ノ彈着距離内ニ在ルヘシ是レ即チ防戦艦ノ希望スル所ナリ

第二百二十一 發射角度ニ對スル方位ノ撰擇

凡ソ敵艦ニ對シ適宜ナル方位撰擇ハ我カ砲及甲板ノ配置如何ニ由リテ決スヘキモノトス今砲ニ就キテ謂ヘハ最多ノ砲ヲ使用シ得ヘキ方位ヲ以テ最モ利便ナルモノト爲スヘシ例ヘハ龍骨線上前後ニ二基ノ砲塔ヲ備フル艦ノ爲メニハ艦首砲塔ノ艦尾ノ方ニ及ホス角度ト艦尾砲塔ノ艦首ノ方ニ及ホスト角度ニ由リテ限ラレタル弧ヲ以テ敵ニ對スルヲ最モ利便ナル角度ト認ムヘク又舷側砲ヲ備フル艦ノ爲メニハ艦尾ノ方ニ及ホス艦首砲ノ旋回角度ト艦首ノ及ホス艦尾砲ノ旋回角度トヲ以テ限ルモノニシテ此弧ハ

通常ノ艦首ヨリ起算シテ四十五度ヨリ百三十五度ニ至ルモノトス

一基若クハ二基ノ砲塔ヲ備フル艦式ハ最モ通常ナルヲ以テ射角ハ大概右ニ述ヘタル角度ヲ有スルモノ多カルヘシ

第二百二十三 装甲板ニ對スル方位ノ撰擇

敵彈ノ命中ヲ減少シテ自艦ニ及ホス損害ヲ最モ輕減スル如ク敵ニ對スルヲ要ス正縦ノ位置ヲ以テ敵ニ對スルトキハ我標的面ハ最モ些少ナルヘシト雖モ發射ノ誤謬ハ俯仰ニ於テ多ク左右ニ於テ寡キモノトス此現象ハ敵トノ距離不明ナルニ基因スルモノニシテ距離ノ長大ナルニ從テ特ニ顯著ナリトス現時軍艦ノ長サハ一錨鎖ノ四分ノ三ニ達スルモノ少カラス今照尺ノ高サヨリ論シ縱令距離一錨鎖ヲ誤ルモ敵艦ノ位置正縦ナルトキ尙且之ニ命中スルヲ得ヘシ然ルニ其位置我砲火ノ方向ニ正横ナルトキハ四分ノ一錨鎖、半錨鎖ノ誤謬ト雖モ不命中ヲ來ス可シ則チ此點ヨリ見ルトキハ敵ニ對シ自艦ヲ正横ニ置クヲ利トス

彈丸ノ加フル損害ノ點ヨリ論スルモ亦射線ニ對シ正縦ノ位置ニ比スレハ正横ノ位置ヲ以テ利アリトス何トナレハ艦ノ長サニ沿ヒテ縱飛スル彈丸若クハ其碎片ハ横飛スルモノニ比スレハ多大ノ損害ヲ來シ得レハナリ縱射ヲ受クルハ古來最モ危險ナリト認定セラレタルカ今日ト雖モ尙其特質ヲ失ハサルモノトス

正横ニ受クル射撃ハ比較的損害ヲ加フルコト寡キモノナリ然レトモ甲板ノ大部分ハ敵ノ射線ニ對シ垂直ノ位置ニ在レハ從テ其效力ノ點ニ於テ不利ナルヲ免レス又此關係ニ於テハ正縦射撃モ亦同一ノ不利ナリ何トナレハ横置甲板ハ敵彈ノ方向ニ對シテ垂直ニ設ケタレハナリ

以上陳述セル事情ノ存スルニ拘ラス或外國人ノ海軍ニ於テハ艦首ヲ以テ敵ニ面スル正縦ノ位置ヲ以テ最モ利便ナル戰鬥位置ト爲シ敵ヲ認ムルヤ直ニ艦首ヲ以テ之ニ對シ始終此位置ヲ變更セサルコトヲ勸告ス是レ敵ヲ我艦ヨリ零度則チ眞直ニ艦首ニ見ルノ謂ニシテ此時ニ方リ艦ノ運轉極メテ單純ト爲リ此位置ハ莫大ノ利益ヲ與フヘシ但シ之ヲ艦隊戰鬥陣形ニ應用スルハ頗ル不便ヲ來スヘク且ツ之ヲ縱陣ニ應用スルヲ得サルヘシ

予曾テ千八百八十六年中新式改良ヲ施セル舊式甲鐵艦ノ辯護ト題スル文章(千八百八十六年海軍雜誌第二號及第三號)ヲ草シタルトキ吾人ハ既ニ敵ニ艦首ヲ向ケテ闘フヘキノ意見ヲ抱有セリ今尙ホ予ハ艦首ヲ以テ敵ニ面スルノ利便著大ナルヲ認ムルト雖モ正縦射撃ヲ受クルノ憂アリテ四十五度及百三十五度ノ方位ニ敵艦ヲ望ムコトノ重大ナル戰術的利益アルニ如カスト決セシムルニ至レリ(第六圖)此位置ニ於テハ甲板ハ鈍角ヲ以テ敵ニ面シ且ツ砲塔及舷側ニ備フル砲ヲ悉ク應用スルヲ得ヘシ

第二百二十四 波濤ノ如何ニ依リ針路ノ撰擇

射撃ニ及ボス波濤ノ惡影響ハ二種ノ原因ニ依リテ來ル即チ其一ハ艦體ノ動搖ヲ來スニ由リ他ハ砲門ヨ

リ海水ノ浸入スルニ由ル而シテ浸水及泡沫ノ點ヨリ論スレハ敵ノ風上ニ在ルヲ可トシ艦體動搖ノ點ヨリ論スレハ其最モ寡キ位置ヲ撰定スルヲ利トス又敵ニ追撃セラル、場合ニ於テ針路ノ撰定全ク我レニ屬スルトキハ敵艦ノ動搖ニ注目スル所アリテ波濤ノ關係上自艦ノ動搖最モ寡ク敵ノ動搖最モ劇甚ナル方向ヲ撰擇セサル可カラス其他注意スヘキハ動搖ノ寡キ諸艦ハ正横ノ風ニ於テ多ク動搖スルコト、動搖シ易キ諸艦ハ「クオーター」ヨリ來ル風及順風ニ於テ最モ動搖スルコト是レナリ是ヲ以テ自艦ヲ知悉シ敵艦ノ諸種ヲ識別スルトキハ如何ナル針路カ我レニ利アリテ敵ニ不利ナルヤハ立ロニ之ヲ決スルヲ得ヘシ

第二百二十五 優勢ノ敵ニ追撃セラル、トキ海上ニ於ル針路

ノ撰擇

敵ニ出會シタルトキ自艦ノ砲力敵ニ及ハサルカ或ハ又他ニ特別ノ任務ヲ帶フルカ爲メ戰鬥ヲ回避スルノ必要アルトキ自艦ノ砲ヲ最モ利便ナル位置ニ置クニハ敵ニ對シ如何ナル方向ヲ撰擇シテ可ナルヤ此方向ヲ撰擇スルノ事由多々ナルヘク就中小艦カ速ニ港灣若クハ所屬艦隊ニ接近セントスルノ念慮熾ナルコトモアルヘシ然レトモ他ニ特別ノ理由ナキニ於テハ風ニ逆行スルヲ利トス何トナレハ此時ニ方リ自艦ノ艦尾砲ハ風及泡沫ノ爲メニ妨害セラル、コトナク全然便宜ニ行動シ能フヘキモ敵ノ艦首砲ハ獨リ泡沫ノ爲メニ妨害セラル、ノミナラス動モスレハ全ク行動ノ機能ヲ失フニ至ルヘシ我カ彈丸ノ爲メ

ニ生スル各彈孔ハ風ニ逆行スル敵ノ進行ヲ碍クヘクは大ナル利益ニシテ從テ成功ノ機モ亦大ナルヘシ
此時ニ於テ進撃スル艦ハ其位置ノ不利ヲ覺リ其優等速力ヲ利用シ逃走セントスル敵ノ針路ヲ横過セン
トスヘシ斯クスルトキハ此逃走スル敵ハ其針路ヲ變更シ前ニ風及波濤ノ爲メニ得タル優勢ヲ失フノ外
ナカルヘシ然リト雖モ彼既ニ大ニ時間ヲ利用セハ其効少シトセス蓋シ此間ニ動モスレハ夜間トナリ又
ハ他ノ事情ノ發生スルアリテ趨勢ヲ一變スルヤ未タ知ル可カラサレハナリ

第二百一十六 何レノ點ヲ射撃スベキヤ

遠距離ニ在リテハ艦ノ見得ヘキ形體ノ中央ヲ狙フヘシ其正縱射撃ナルトキハ見得ヘキ形體ノ中心ヨリ
少シク上ヲ狙フヘシ何トナレハ彈丸ノ落角ノ爲メニ艦ハ第七圖ニ示ス如ク顯ルレハナリ而シテ最近距
離ニ在リテハ艦ノ全形體ニ在ラス或物體ヲ狙フヘシ即チ穿甲彈ヲ裝填シタル砲ハ砲塔若クハ甲板ノ掩
護アル遮蔽砲座ヲ狙ヒ鋼鐵榴彈ヲ裝填シタル砲ハ喫水線附近ヲ穿貫スルヲ力メ艦ノ兩端ノ非裝甲板ヲ
狙フヘシ小砲ハ艦橋トツフ其他甲板上ノ建造物等ヲ狙フヘシ

第七章

水 雷

第二百二十七 水雷ニ關スル一般ノ觀察

「ホワイトヘッド」水雷ノ發明以來爾餘ノ水雷ハ攻撃的兵器トシテ漸次世人ニ忘却セラレタルモノ、如
ク今ヤ魚形水雷ハ唯一ノ攻撃的兵器トハ爲レリ而シテ該水雷ノ改良ハ漸次確固タル歩武ヲ以テ進ム今
其要點ヲ舉クレハ速力ノ増加、空氣貯量ノ増加及裝藥量ノ増加是ナリ

魚形水雷最初ノ式(一千八百七十六年)氣室ノ容積六立方呎四、近距離(千二百呎)ニ於ケル速力二十二
海里、裝藥七十五呎ナリシニ其最后ノ式(千八百九十四年)ハ氣室ノ容積九立方呎半、近距離(千八百呎)
ニ於ケル速力二十六海里七五、裝藥二百呎有セリ斯ノ如キ裝藥ノ増加ハ水雷ノ頭部ヲ膨大ニシ次テ
之ヲ遂ケ得タリト雖モ之カ爲メ鈍角ニテ目的物ニ命中スルトキハ水雷爆發セサル憂アリ此事ニ關シテ
ハ尙ホ後ニ陳述スル所アルヘシ

水雷ノ發射器ニ左ノ如キ變更アリタリ即チ最初ニ採用セラレタルハ水中發射管ニシテ此裝置ニ於テハ
空氣先ツ水ヲ排出シ此ノ勢ニテ水雷ヲ推出セリ然ルニ該發射管ハ頗ル濶大ナルカ爲メ大ニ不便ヲ感シ
タルヨリ一度水上發射管ノ現ル、ヤ忽チ普ク之ヲ使用スルニ至レリ是等ノ發射管ハ漸次改正ヲ加ヘタ
ルニ依リ其艦船進行中ニ發射スルモ水雷ノ偏倚スル憂ナキヲ以テ一層此發射管ヲ尊重スルコト、爲レ
リ然ルニ今ヤ復ヒ水中發射ニ屬望スルノ傾向アリ之レ吃水線以上ニ在ル水雷ハ敵彈ノ爲ニ裝藥室及氣
室ノ爆發ヲ來スノ虞アルニ由レハナリ
水中發射管ニ在リテハ氣力排出法ヨリ水力排出法ニ移リ尙ホ内筒ナルモノヲ發明シ以テ舷側ヨリ有角

ニ發射スルヲ得セシメタリ水上發射管ノ舷側ニ備アルモノハ旋回スル事ヲ得ルモ艦尾特ニ艦首ニ備フルモノハ旋回スルコト能ハス而シテ水中發射管ニ至リテハ皆旋回スルコト能ハサルナリ是レヲ以テ各艦ニハ如何ニスルモ水雷ヲ發射シ能ハサル位置所謂死角ナルモノアルハ免カレサル所ナリ現今攻撃水雷ノ概況ハ大要右ニ述フル所ノ如シ

第二百二十八 各方位ニ旋回シ發射ヲ行フ能ハサルヨリ起ル不便

水雷發射管ノ一周旋回シ能ハサルハ戰術上一大欠點ナリトス是レ主トシテ水雷ヲ發射スルニ當リ所要ノ位置ニ艦ヲ運轉セサルヘカラサルヲ以テナリ然ルニ艦隊戰鬪ノ際ニ於テハ艦長ハ艦隊ニ於ケル自艦ノ位置ヲ守ルコトニ留意セサルヘカラス又單獨ニ戰鬪ニ在リテモ亦艦ノ運用ハ獨リ水雷ノ爲ニ偏スルヲ許サス悉皆ノ攻撃力ノ爲メニ之ヲ圖ラサルヘカラス是ヲ以テ仮令敵艦ハ水雷ノ行動範圍内ニ在ルモ我艦ハ實際水雷ヲ發射シ能ハサル時機ニ際會スルコトナキニアラス

右ノ外尙ホ一周旋回發射ヲ行フヲ得サルヨリ生スル不利アリ今敵艦ハ其機關ヲ破損シ味方ハ之ニ衝角打撃ヲ加ヘンコトヲ企圖スルト假定セン敵ノ艦尾及艦首發射管ハ固定裝置ナルコト并ニ舷側發射管ハ些少ノ旋回角度ヲ有シ特ニ艦首ニ向ヒテ少ナキコトヲ知ルヲ以テ艦首ヨリ三十度乃至四十度ノ角度ヲ以テ敵ニ接近スルトキハ水雷發射ヲ蒙ルノ虞ナクシテ衝角打撃ヲ加フルコトヲ得ヘシ若シ夫レ發射管ニシテ一周旋回ヲ行フノ機能アラシメン歟艦ハ假令其機關ヲ破損スルモ各方面ニ向ヒテ衝角打撃ヲ

防止スルヲ得ヘシ

水中發射管ニシテ一周旋回スルノ構造發明セラレンニハ吾人ハ素ヨリ水中發射管ノ主唱者タルニ躊躇セサルヘシト雖モ斯ノ如キ裝置ノ今尙ホ發明セラレサル以上ハ旋回發射ハ水上發射管ニ於テ之ヲ索ムルノ外ナカルヘシ

且夫レ裝藥室及氣室ノ爆裂ハ水上發射管ヲ不認スルヲ要スル程實際自艦ノ爲メニ危險ナルヤ否ヤ是レ一ノ疑問ナリトス我カ國ニハ巡洋艦「バーミヤチ、アゾーワ」ニ於ケル氣室ニ爆裂及「ポーファカ」(圓艦)ニ於ケル裝藥爆裂ノ實驗アリ而シテ兩者共ニ僅少ナル局部ノ破壊ニ過キスシテ兩艦共全キヲ得タリシナリ若シ吾人ニシテ大ニ氣室及裝藥室ノ爆裂ヲ怖ル、モノナラシメハ兩者共ニ艦ノ防禦壁外ニ位スル様ニ發射管ヲ据付クヘキナリ斯クスル時ハ爆裂ノ場合ニ蒙ルヘキ被害ハ尙ホ一層僅少ナルヲ得ヘシ又水雷ノ發射裝置ハ第一ノ彈丸ヲ以テ破壊セラルヘシト主張スル論者ニ對シテハ日清戰争後予カ親シク實見シタル清國戰艦鎮遠ノ實例ヲ示スコトヲ得ヘシ即チ該艦ニハ四百六十四個ノ彈痕ノ存セルニ拘ハラズ甲板ノ防禦ヲ有セサリシ唧筒「ケッブスタン」、錨鎖「ホースパイプ」舵輪「六」インチ「砲二門及小口徑砲六門」ハ毫モ損害ヲ蒙ラサリキ一言ヲ以テ之ヲ謂ヘハ孤立シタル物件ハ悉ク無事ナルヲ得タルナリ是ニ由リテ之ヲ觀レハ斯ノ如キ物件ハ外部ヨリ窺ヒ得ヘク面積甚タ僅少ニシテ爲メニ命中シタル彈丸中一モ之ニ觸レサリシナリ

第二百二十九 水雷ノ遠距離發射

水雷ノ奏效シ得ヘキ距離ニ就テハ今尙ホ確定シタルモノナシ現今一般ノ認ムル所ニ依ルニ「ホワイトヘッド」水雷ハ六百六十碼ノ距離ニシテ全然正確ニ進行シ且ツ該距離ハ二十五海里ノ速力ヲ以テ之ヲ通過スルヲ得ヘシト云フ乃チ演習等ニハ一般ニ此距離以內ニ於テ水雷ノ射撃ヲ行ヒ又各種ノ研究ヲ遂ケツ、アルナリ今假リニ二百碼ヲ増シ有效距離ヲ八百六十碼トセンニ味方若シ敵ヲ距ルコト八百六十碼ノ所ニ在リトスレハ果シテ敵ヨリ水雷射撃ヲ蒙ル虞ナシト認メテ可ナル歟此疑問ニ對シテ専門家ハ通常曖昧ノ答辨ヲ爲シ且ツ謂ラク水雷ハ遠距離ニ於テ研究セスト然リト雖モ適當ナル整理彈器ヲ用キ若クハ水雷ノ速力ヲ十一海里減少スルニ於テハ水雷ハ二千六百碼迄ハ進行スルヲ得ヘシ是ニ由リテ之ヲ觀レハ水雷ハ頗ル遠距離ニ達スルヲ得ヘシト雖モ命中ノ程度ハ低キヲ免カレス是レ畢竟偏差ノ角度増大スルト大速力ニ於テ發射シタル水雷ハ小速力ニ於テハ必ラス左方ニ偏倚スヘキモノナルニ由ルナリ又說ヲ爲ス者アリ曰ク若シ遠距離ニ於テ水雷ノ發射ヲ研究シ且ツ此種ノ射撃ヲ實際應用スルニ於テハ我水雷ハ遠距離ニ於テ敵ノ爲メニ悉ク擊破セラレ近距離ニ於テ之ヲ發射セントスルモ此時ハ業ニ已ニ發射スヘキ水雷ナキニ至ルヘシト夫レ然リト雖モ敵若シ味方ニ對シ距離ヲ制スルトキハ敵味方ノ接近ハ遂ニ期スヘカラス且ツ又敵ハ水雷ヲ多量ニ蓄フルノ故ヲ以テ毫モ之ヲ惜ムノ念慮ナク續々發射スルニ於テハ是レ味方ノ利ナルヤ否ヤ

抑々遠距離ニ於ケル水雷ノ發射ハ戰闘中莫大ノ利益ヲ與フルモノナレハ水雷ノ働作ハ其到達シ得ヘキ有ラユル距離ニ於テ之ヲ研究セサルヘカラス吾人ノ發意ニ依リテ此夏海軍大尉ムラウキヨーフノ行ヘル假試驗ハ普通水雷ニ對シ左ノ成績ヲ與ヘタリ

水雷速力

通過距離

二三 <small>海里</small>	三三〇 <small>碼</small>	六六〇 <small>碼</small>
一八	六〇〇	一、二六〇
一四	一、〇〇〇	二、〇〇〇
一一	一、三〇〇	二、六〇〇

若シ夫レ水雷ノ速力ヲ減シテ一層遠距離ニ達セシムルヲ以テ水雷研究ノ一條件ト爲シタランニハ水雷ノ功能ハ大ニ増加シタルモノナルヘシ
又種々ノ考案ノ爲メ左ノ簡短ナル表ヲ有スルハ蓋シ無用ニアラサルヘシ

速力

一秒間ノ通過距離

五海里	八呎
一〇	一七
一五	二五

二〇
二五三四
四二

第二百二十 水雷ノ有効限界

敵ニ向ヒテ水雷ヲ發射シ奏功ノ見込アル距離ヲ以テ其有効限界ト認ムヘキモノトス而シテ不動標的ニ向ヒテ發射ヲ行フトキハ該區域ハ別項ニ掲ケタル表ニ依リテ之ヲ算定スルヲ得ヘシ即チ速力二十三海里ナルトキハ六百六十碼ナルヘク速力十一海里ナルトキハ二千六百碼ナルヘシ然レトモ標的移動スルトキハ有効限界モ亦變更セサルヲ得ス今假リニ敵ハ我カ艦ト併行ノ針路ニ依リ我カ艦ノ前方六百六十碼ノ所ニ進行ストシテ觀察ヲ下サンニ我艦及敵艦共ニ進行ストセハ距離六百六十碼ヲ以テ我レヨリ放チタル水雷ハ敵艦ニ達スルヲ得ス敵艦ヨリ我カ艦ニ向ヒテ放チタル水雷ハ我カ艦ニ達スルヲ得ヘシ何トナレハ彼レハ我カ水雷ヨリ離去シ我レハ彼レノ水雷ニ接近スレハナリ是ヲ以テ敵ハ尙ホ我カ水雷ノ有効限界内ニ在ラスシテ我レハ既ニ敵ノ水雷有効限界内ニ在ルナリ

敵ノ進行ノ際ニ於ケル水雷有効限界ヲ劃定スル曲線ハ艦ノ有ラユル速力ノ際ニ於テ一定不變ト假定シタルモノナリ此際變更ヲ來スモノハ敵ノ速力ニ應シ射擊ヲ行フ艦ノ位置ノミナリトス第八圖ハ敵味方俱ニ同一ノ速力ヲ以テ併行ノ針路ヲ取ル時ニ於テ水雷ノ有効限界ニ關シ簡明ナル解釋ヲ與フルモノナリ

水雷ノ有効限界ヲ劃定スル曲線ハ二箇ノ半圓ヨリ成リ右兩半圓ノ中心間ヲ連結セル一線ハ則チ兩艦ノ方位線ナリ又一見瞭然タラシメンカ爲メ圓形ニ沿ヒテ射擊ヲ行フ艦ニ併行ノ針路ヲ保ツ諸艦ヲ示セリ此等ノ諸艦ハ水雷ノ有效區域ノ限界ニ在ルモノトス又射擊ヲ行フ艦ノ位置ハ其速力ニ應シテ之ヲ示セリ即チ射擊ヲ行フノ際ニ於テ艦ハ圓形ノ中心ニ在リ水雷カ其極端距離ニ達スルノ時間ニ於テ艦ハ圖中示ス所ノ位置ニ進メルナリ水雷ハ此時曲線中其向ヒタル點ニ達スヘシ故ニ圓形ハ即チ豫定ノ條件ニ於テ有効限界ヲ示スモノトス若シ夫レ該圖中彼我ノ艦ノ速力ヲ變更セント欲セハ其増減如何ニ依リ唯其ノ水雷ノ有効限界ノ圈ニ達スルノ時ニ對スル射擊ヲ行フ艦ノ最終ノ位置ヲ定レハ足レリ

第八回ヲ熟視シ吾人ハ識認ス彼我俱ニ併行ノ針路ニ據ルトキハ艦首ニ對スルヨリ艦尾ニ對スル水雷ノ效用限界ノ廣大ナルコトヲ是ヲ以テ敵ノ正横ヨリ前方ニ在ル艦ハ水雷ヲ發射スルニ優等ノ位置ニ在ルモノトス斯ノ如キ事情アルカ爲メ追跡ヲ受クル艦ハ著大ナル利益ヲ有スルモノナリ今假ニ追跡ヲ受クル艦ノ速力ヲ二十二海里ト爲ストキハ追跡スル艦ハ七千八百碼ノ距離ニテ既ニ追跡ヲ受クル艦ノ水雷有效區域内ニ入ルヘシ然ルニ同一ノ速力ヲ以テシテ追跡ヲ受クル艦ハ敵味方ノ距離僅カニ百碼ト爲ルニ至リ始メテ追跡スル艦ノ水雷有効限界内ニ入ルヘシ

第二百二十一 水雷發射

水雷發射ニ對シ正確ノ見解ヲ定ムルハ極メテ重要ナルヘシ即チ百發百中誤ナキ發射ヲ期スル歟將タ

砲術ニ於ケルカ如ク總發射ニ對スル百分比例ヲ以テ其度ヲ算シテ發射ヲ行フヘキ歟ヲ決セサルヘラス
砲術ト水雷術トノ間ニ存スル差違ヲ案スルニ砲ノ射擊ノ際ニハ地平的(左右)照準ニ於テモ亦直垂的俯
仰照準ニ於テ誤謬ヲ來スノ虞アルニ拘ラス水雷發射ノ際ニハ直垂的俯仰照準ハ自働的ニ之ヲ行フガ故
ニ發射管ニ相當ノ地平的(左右)照準ヲ整フヲ以テ足レリトス唯水雷ハ其方向ヲ誤ラシメ易キ物質中
ヲ進行スルヲ以テ命中ヲ妨害スル不利アルヲ認メサルヘカラス其他魚形水雷發射ノ際ニハ發射管ヨリ
水雷ノ脱出スル迄ニ要スル時間ノ比較的永ク且其時間ノ不同ナルコトモ亦一ノ不利ト謂ハサルヘカ
ス

近距離ニ在リテ水雷ノ進行ハ極メテ正確ナリ故ニ標的ノ大サ三百呎距離四百碼ニシテ停止間ニ於テス
ルトキハ如何ナル水雷手ト雖モ百發百中ヲ保證スルヲ躊躇セサルヘシ然レトモ艦ノ進行中ニ發射ヲ行
ヒ且ツ大サ三百呎ノ標的モ亦我レト併行ノ針路ニ於テ移動スルトキハ前ノ如キ命中ハ期スヘカラサル
ナリ又標的ハ前ト同一ノ距離ニ在ルモ反對ノ方向ニ移動スルトキハ發射ノ命中ヲ得ル爲メ自艦及敵艦
ノ速力ニ對シ修正ヲ加ヘタル後豫定ノ方位ニ發射管ヲ整理シ且ツ之ニ相當ノ時機ノ至ルヲ待チテ水
雷ヲ發射セサルヘカラス若シ又此際自艦ノ針路ヲ變更スルニ會セハ事態ハ尙ホ一層錯綜ヲ來スヘキナ
リ
前述ノ條件ヲ以テスルトキハ百發百中ヲ誤ラサルハ容易ニ期スヘカラス寧ロ命中ノ程度ニ割五分ヲ以

テ満足スルヲ穩當ト爲スヘシ若シ同一ノ状態ニ於テ再三再四發射ヲ試ムルヲ得ハ遂ニハ命中ノ程度昇
騰スルコトアルヘシト雖モ實戰ニ當リテハ自艦及敵艦ノ位置千變萬化極マリナキニ依リ毎回ノ發射ハ
個々相關聯スルコトナシ故ニ一回ノ發射成績ヲ以テ次回ノ修正ニ供スルコト能ス其他前ニ擧ケタル如
キ戰時ノ状態ニ於テハ吾人ハ更ニ當時敵ノ神經上ノ情態ヲ表示スル或ル係數ヲ加減セサルヘラス夫レ
小銃射擊ノ如キ單純ナル行動ニ於テスラ尙ホ且ツ執銃者ノ神經ハ大ニ命中程度ニ影響ヲ及ホスニアラ
スヤ或ル說ニ據ルニ戰闘中一人ヲ殪ス爲メニ消費スル銃丸ノ重量ハ一人ノ重量ニ匹敵スト謂ヘリ若シ
實戰中演習ニ於ケル如キ命中ノ程度ヲ以テ射擊シタランニハ築城術上極メテ脆弱ノ堡壘ト雖モ奇襲ヲ
用キス之ヲ陷落スルコトハ到底爲シ能ハサルコトナルヘシ況ンヤ水雷術ニ在リテハ小銃射擊ニ比スレ
ハ一層錯雜ナル修正ヲ要スルモノアリ當局士官カ速力ニ適合セサル修正ヲ爲シ若クハ之ヲ適宜ノ方向
ニ取ラス若クハ照準ヲ司ル水雷手命令ノ執行ヲ誤リ例ヘハ四十五度ト爲スヘキ命令ヲ下シタルニ拘ハ
ラス誤テ三十五度ニ發射管ヲ据ヘルカ如キ錯誤ハ之ナシト謂フヘカラス又或ハ誤テ安全針ヲ取り外サ
ル歟若クハ距離器ヲ誤テ近小ニ失スル様ニ調整スル等ノ錯誤モアルヘシ砲火ノ下ニ在リテ行動スル
トキハ不慮ノ事件百出スルハ實ニ免レ難キニ依リ實戰中命中ノ程度ハ演習時ノ半數ヲ得ハ之ヲ以テ滿
足セサルヘカラサルハ吾人ノ信スル所ナリトス此條件ヲ以テスルトキハ反對針路ニ於テ進行中命中ノ
程度ハ一割二分五厘ニ減少スヘク其他慨シテ大速力ニ於テスル實戰命中ノ程度ハ近距離ニ於テスルモ

尙ホ且ツ之ヨリ以上ニ昇ラスト思ハサルヘカラス
 遠距離ニ在リテハ命中度近距離ニ於ケルヨリ一層減少スヘキニ依リ發射ハ近距離ニ於テ行フコトヲ務
 メサルヘカラス是ニ於テ一ノ疑問起ル即チ敵ニ接近スルノ機到ル迄水雷發射ヲ控ユヘキ歟將タ遠距離
 ヲリ發射スヘキ歟之ニ對シ賛否ノ二説アリ遠距離ニ於テ發射ヲ開始スルトキハ徒ラニ水雷ヲ消費スル
 コトアルヘシト雖モ然レトモ亦敵ニ損害ヲ加フルノ機會之ナキニアラス若シ又敵ニ接近スルマテ發射
 ヲ見合ストキハ僥倖ヲ期スルカ如キ發射ハナサ、ルヲ以テ戰團中始終一回タニ水雷ヲ發射セサルコト
 アルヘシ此時ニ當リ敵若シ我艦ニ向ヒテ水雷ヲ發射セハ戰勝ノ機會ハ我ニアラスシテ彼レノ掌握スル
 所トナルヘシ故ニ吾人ハ寧ロ遠距離ヨリ射撃ヲ開始スルノ説ニ贊同スル者ナリ且ツ遠距離發射ニ習熟
 シ後近距離發射ヲ行フ時ハ既ニ多少ノ經驗ヲ有スルヲ以テ從テ其結果比較的良好ナルノ利アリ又遠距
 離ニ於テ水雷ヲ發射セサルトキハ敵ニ接近シタル時ニ於テ折角貯蓄シ置キタル水雷及發射管ハ早ク既
 ニ敵彈ノ爲ニ破壊セララル、ノ場合之ナキヲ保シ難シ
 今吾人ノ見ル所ニ依ルニ單獨ノ戰團ニ於テ水雷ハ砲ニ齊シク徐ロニ遠距離ヨリ發射ヲ開始シ敵ニ接近
 スルノ度ニ應シ漸次發射ヲ敏活ニスルヲ要ス現今艦ニ搭載スル水雷ノ數ハ前記ノ如ク發射ヲ行フニハ
 不充分ナルコト論ヲ俟タサルヲ以テ其數ヲ増加セサルヘカラス是單ニ重量問題ニ屬スルモノニシテ水
 雷一箇ノ重量ハ十二「インチ」砲彈ノ重量ニ超過セサレハ水雷ノ搭載數ヲ増加スルハ容易ナリトス

又單獨戰團ヨリ艦隊戰團ノ場合ニ移ラン歟遠距離ヨリ水雷發射ヲ開始スルノ利ハ尙ホ一層増大スヘク
 此時ニ方リ遠距離發射ハ戰勝ニ尠カラサル影響ヲ及ホスヘキモノトス吾人茲ニ左ノ如キ最モ有り得ヘ
 キ場合ヲ假定セン各十隻ヨリ成レル兩交戰國ノ艦隊ハ各艦ノ間隙ニ二箇鎖ツ、ヲ保テ爾單縱陣ヲ作りテ
 海上ニ出會シ八箇鎖ノ距離ヲ保チツ、反對針路ニ進行センニ此時ニ方リ一方ノ艦隊ニ於テハ六百碼以
 上ニ於ケル發射ヲ禁止シ且該距離以上ニ於テ曾テ發射ヲ演習シタルコトナシ然ルニ他ノ艦隊ニ於テハ
 距離二千六百碼ニ至ルマテ發射ヲ行ヘルモノト見做シ且此距離ニ於ケル偏差角度ハ三十度ニ達スルモ
 ノト假定セン即チ極メテ巨大ナル角度ナリトス此兩艦隊カ相併列シタルトキ乙ノ艦隊ハ砲戰ヲ開始ス
 ルト同時ニ舷側水雷ヲ正横ニ發射セリ而シテ今假リニ各艦一舷毎ニ二箇ツ、ノ發射管ヲ備フルモノト
 爲シ且ツ甲ノ艦隊ニ相對シテ通過スル時間ニ於テ每發射管ハ唯一回ツ、發射スルトスルモ甲ノ艦隊ニ
 向ヒテ二十箇ノ水雷ヲ發スルヲ得ヘク延長ニ海里ニ互ル全艦隊ニ對シ照準ヲ誤ルカ如キハ決シテ有リ
 得ヘカラサルナリ又各艦ノ距離ニ二箇鎖ハ即チ一艦ノ延長ヨリ長キコト二三倍ニ過キサレハ三四個ノ水
 雷中一箇ハ必ラス命中スヘキニ仍リ總數二十箇ノ中五箇乃至七箇ノ水雷ハ命中ヲ誤ラサル割合ナリ換
 言スレハ二艦ニ對シ一箇以上ノ水雷命中スル割合ナリ戰團ノ初期ニ於テ此良成績ヲ得ハ二十箇ノ水雷
 ハ惜ムニ足ラサルナリ
 前記ノ理由ノ外之ニ類スルモノ鮮カラス故ニ艦隊戰團ニ於テハ單獨ノ戰團ニ於ケルヨリ一層水雷發射

ト砲ノ射撃ヲ同一視スルノ必用アルヲ以テ拳銃彈著距離ニ至ルヲ待タス水雷ノ到達シ得ヘキ有ラユル距離ニ於テ之カ發射ヲ努メサルヘカラス知ラス水雷ヲ以テ砲彈ト看做スノ時機尙ホ熟セサル歟水雷一箇ノ價額三千留ナルハ吾人素ヨリ之ヲ知レリ然レトモ十二「インチ」砲彈モ亦各附屬物ト共ニ一箇ノ價額千留内外ナルニアラスヤ而カモ十二「インチ」砲ハ射撃ノ正確ヲ期スヘキ距離ニ接近スルヲ待タスシテ射撃ヲ開始スルニアラスヤ若シ夫レ果シテ各距離ニ於テ水雷ヲ發射スルコト、ナサハ水雷ノ速力變更ヲ簡便ニスル方法ヲ案出セサルヘカラス願フニ技藝ノ方ヨリハ之ヲ爲スニ毫モ困難ヲ生セサルヘシ要ハ唯戰術先ツ之カ必要ヲ唱フニ在リ然ルトキハ技藝ハ必ス總テ所要ノ事ヲ遂行セン

第二百二十一 有效的偏差角度ノ大サニ及ホス速力及方向

ノ影響

命中度ニ影響ヲ及スヘキ事情ニシテ從來注意セサリシモノアリ他ナシ即チ敵カ我レニ對シ或ル方位ニ在リテ其ノ針路我カ針路ニ接近スル場合ヨリモ寧ロ我レト離隔スル場合ニ於テ彼ニ命中ノ機會多キコト是ナリ即チ敵ノ針路我カ針路ト相離隔スル場合ニ於テハ彼レハ恰モ水雷ヲ追尾セントスルカ如ク我カ針路ト相接近スルノ場合ニ於テハ彼レハ水雷ヨリ回避スルモノ、如シ(第九圖參看)吾人ハ曾テブレステン大佐ニ向ヒ此問題ニ對シ解釋ヲ與ヘンコトヲ以テシタルニ幸ヒニ同大佐ハ前記兩場合ノ差違ヲ一目瞭然タラシムヘキ一ノ圖表ヲ調製セリ(第十圖參看)即チ標的ノ長ヲ三百呎ト爲シ敵ノ針路

ト水雷ノ進路トヨリ成レル角度ヲ四十五度ト爲シ距離ヲ二「ケーブル」ト爲シ水雷ノ速力ヲ二十四海里ト爲シ敵ノ速力ヲ二十海里ト爲ストキハ針路同方位ノ場合ニ於ケル有效偏差角度ハ六度ナルヘク反對方位ノ場合ニ於ケル同角度ハ二十五度ナルヘシ而シテ敵不動ナルトキハ有效偏差角度八十度ト爲ルヘシ

前記ノ事情ハ我レヨリ水雷ヲ發射スルトキモ亦敵ノ水雷ヲ回避セントスルトキモ齊シク之ニ注意セサルヘカラス而シテ發射ヲ蒙ムル艦ノ爲メニハ普通ノ速力ニテ進航中ナルトキハ發射ヲ爲ス敵艦ヲ己レノ艦尾ノ方面ニ在ラシムルヲ最モ利アリトス然レトモ全然斯ノ如クスルノ違ナク敵ヲ自艦ノ艦首ノ方位ニ望ムニ方テ水雷我カ艦ニ接近スルトキハ前記ノ運轉ハ我艦ヨリ敵ノ水雷ヲ迎接スルモノニシテ却テ其命中ヲ促スモノナリ若シ然ラサリセハ近傍ヲ通過スヘキ水雷ヲ故ラニ迎合スルノ觀ヲ呈スルモノトス

第二百二十三 水雷ハ何度ノ角度ヲ以テ觸撃セバ有效ナルヤ

最近式ノ水雷ハ極メテ鈍キ頭端ヲ有スルカ故ニ斜ニ標的ニ命中スルトキハ舷面ヨリ跳躍シテ爆發セサルヘシ是レ大ニ注意スヘキ事ナリトス願フニ一直線ニ艦首ニ向ヘル水雷ハ爆發セスシテ舷面ヲ滑走スヘク針路ニ對シ或ル鈍角ヲ以テ命中シタルモノモ亦爆發ヲ來サ、ルヘシ是ヲ以テ水雷射撃ノ奏功スヘキ最小角度ハ幾許ナルヤ試驗ヲ舉行シテ之ヲ明ニセンコト吾人ノ切望スル所ナリ其他此關係ニ於テ水

雷ニ改良ヲ加ヘラレンコト亦希望セサルヲ得ス此點ニ關シテハ新式ノ水雷ハ舊式ノ水雷ニ如カス寧ロ退步セリト謂ハサルヘカラス

第二百二十四 魚形水雷ハ回避シ得ヘキモノナルヤ

魚形水雷ヲ回避シ得ルト否トハ之ヲ發射シタル距離ノ遠近ニ依リテ定マルモノトス今假リニ千碼ノ距離ニ於テ水雷ヲ發射スルトセン速力二十海里ヲ有スル水雷ハ一分三十秒間ニシテ此距離ヲ通過スヘシ吾人ハ茲ニ艦ニ進行ヲ停止シテ以テ我レニ向ヒテ放タレタル水雷ヲ回避シ得ヘキヤ否ヤヲ觀察セン哥爾威艦「ウキチャーチ」ハ汽機ヲ全速力前進（十二海里）ヨリ全速力後進ニ移スニ當リ一分三十秒ヲ經テ速力三海里ヲ有セリ然レトモ十五秒ハ汽機變轉ノ爲メニ消費スレハ通信器ノ傳達ヨリ一分三十秒後ノ速力ハ四海里ト認メサルヘカラス此一分十五秒間ニ於ケル平均速力ハ八海里ニシテ此間通過シタル距離ハ三百四十碼ナリトス然ルニ速力十二海里ナルトキハ此距離ハ正ニ五百碼ト爲ルヘシ以上ノ推論ニ依テ見ルトキハ三千噸ノ艦ハ其汽機ヲ全速力後進ニ移シ一分三十秒間ニシテ約百六十碼航程ヲ減シ以テ水雷ヲ通過セシムルヲ得ヘシト雖モ之ヲ爲スニハ先ツ水雷ハ如何ナル方向ニ依リテ進行スルヲ確知シ且ツ自艦ノ後方ニ同一針路ニ依リテ進行スルモノナキ場合ニ限ルト知ルヘシ
舵ノ作用ニ依リテ水雷ヲ回避スルハ前記ノ方法ニ比スレハ頗ル簡便ナリトス水雷ノ發射ヲ受クルニ最モ適宜ナル位置ハ正縦ノ位置即チ一直線ニ艦首ヲ以テ之ニ對スルニ在リ是レ正縦ノ位置ヲ以テスルト

キハ敵ニ對スル面積ノ著シク減少スルト水雷ノ頭端鈍キカ爲メ多少滑走シ假令爆發スルモ隔壁ノ多キ艦ノ部分ヲ損害スルニ止ムヘキニ由ル而シテ千碼ノ距離ニ於テ發射シタリトスレハ回轉容易ナル艦ハ其間ニ九十度ノ回轉ヲ行フハ難キニアラサルヘシ

以上論シ來リタル所ニ基キ一ノ規則ヲ設定スルヲ得ヘシ即チ單獨ノ戰鬥ニ在リテ正横前ニ在ル敵カ水雷ヲ放チタルヲ認ムルヤ否ヤ直チニ舵ヲ一抔ニ取り以テ艦首ヲ該水雷ノ方向ニ對セシムヘシ而シテ該水雷ヲ避ケ得タルヲ認メタルトキハ更ニ速ニ針路ヲ變更スルヲ要ス

水上發射管ヲ以テスルトキハ水雷發射ノ際ニ之ヲ見ルヲ得ヘク且ツ多少ノ音響ヲ聽取スルヲ得ヘキニ依リ注意周到ナルトキハ敵艦ヨリ水雷ヲ發見スルヲ見逃スコトナカルヘシト雖モ水中發射管ニ至テハ唯僅少ノ場合ニ於テ瞬間艦外ニ吐出セラレタル水ノ凸騰スルコトアルモ之ヲ認ムルハ頗ル困難ナリトス是レ畢竟水中發射管ノ長所ノ一タラスンハアラス

各艦ノ信號手ハ水雷ノ發射ヲ監視スルコトニ熟練セサルヘカラス且ツ一名ノ信號手ハ戰鬥中必ス此監視ノ爲メニ特ニ配置セサルヘカラス

第二百二十五 淺所ニ於ケル水雷射撃

發射後水雷海底ニ接觸スル場合ニ於テハ成功ヲ告ケサルヘシ此關係ニ於テ水雷發射管ノ持實區々ニシテ一定セス即チ甲ノ發射管ヨリスルトキハ乙ノ發射管ヨリスルヨリ一層甚シク水底ニ潜入ス又或ル場

合ニ於テハ發射ヲ行フ艦ノ速力ニ依リテ潛入ノ程度ヲ増減スルモノナリ斯ノ如キ情勢ナルニ依リ水雷ノ沈入ヲ最モ微少ナラシムヘキ發射法ヲ講究シ且ツ有效發射ノ最小深度幾何ニ止ルヤ又發射ヲ行フニハ如何ナル條件ヲ附シテ可ナルヤヲ規定シ之ヲ發表スルハ刻下ノ急務トス

第二百二十六 冷水ノ水雷ニ及ボス效果

魚形水雷ハ攝氏ノ四度(華氏三十九度)以下ノ冷水中ニ於テ正確ニ行働スルヲ得スト謂フモノアリ凡ソ水雷ノ冷水中ニ於ケル行働不正確ナリトスレハ是レ素ヨリ水雷一種ノ特質トモ謂フヘク戰術ハ之ニ處スルノ方ヲ研究セサルヘカラス然レトモ甲ノ水雷ハ正確ナルモ乙ノ水雷ハ否ラストセハ此缺點タル必ラス之ヲ除却スルノ途アルヘシ且ツ夫レ水雷カ冷水中ニ在リテ其機關ノ運轉機能ヲ失フコトアル事實ハ大ニ戰鬪上影響ヲ及スモノナリ尙ホ本件ニ關シテハ試驗及改良ヲ遂ケラレンコトヲ要ス我カ西伯利ノ沿岸ニ於テハ獨リ冬季ノミナラス初夏ニ在リテモ深サ十五呎ニ於ケル水ノ溫度極メテ低キ箇所多シ而シテ是等ノ地方ニ於テ我レハ水雷ヲ應用シ能ハストセハ戰時ニ於テ望マシカラサル椿事ノ發生セサルヲ期シ難シ故ニ事前ニ之ヲ慮リ以テ技術上之レカ除却ノ途ヲ圖ルヘキナリ

第八章

衝角

第二百二十七 衝角ノミナ以テスル戰鬪ノ條件

茲ニ兩敵手アリ共ニ砲或ハ水雷ヲ有セス唯衝角ノミヲ備フルトスレハ各自ノ希望ハ敵手カ描出スル圈内ニ入ル歟否ラサレハ近距離ニ於テ一直線ニ敵手ノ艦尾ノ後方ニ出ツルニアルヘシ又速力ノ優等ナル艦ハ宜シク敵手ノ艦尾ノ後方ニ位置シ之ヲ衝破スルカ若クハ之カ舵及推進器ヲ破壊スルコトヲ努ムヘシ兩艦速力同等ナルトキハ廣濶ナル場所ニ於テ衝突ハ到底行フヘカラス何トナレハ斯クスルニハ一艦ハ他艦ニ追及スルノ必要アレハナリ尤モ陸岸若クハ他ノ事故アリテ遁逃ヲ試ムル艦カ其針路ヲ變更スル場合ニ於テハ素ヨリ事態一變スヘク此時ニ於テ攻撃艦ハ敵ノ航路ヲ遮斷スヘキ針路ヲ取り以テ兩者ノ距離ヲ減少スヘク此方針ヲ以テ進行ヲ繼續スルトキハ衝突ヲ行フノ機會ニ際會スヘシ狹隘ナル場所ニ於テ運動スルノ際例ヘハトランズント港ニ於テ特程衝角艦ヲ以テ演習ヲ行フトキハ敵ノ後方ニ位置ヲ占メタル艦ハ早晚衝角打撃ヲ之ニ加フルコトヲ得ルナリ

前上(第二百二十項)吾人カ説キタル所ニ據ルニ衝角打撃ヲ加フルノ戰術ハ水雷戰鬪ノ戰術トハ絶對的反對ノ觀ヲ呈スルモノナリ即チ衝角打撃ノ場合ニ在リテハ敵ノ後方ニ在ルヲ利トシ水雷戰鬪ノ場合ニ在リテハ其前方ニ在ルヲ利トス衝角打撃ヲ加フルニハ概シテ海員タルノ本質ヲ具有セサルヘカラス何トナレハ打撃ヲ加ヘント欲シテ却テ打撃ヲ蒙ムルコト容易ナレハナリ本件ニ於テ最モ困難ト爲ス所ハ互ニ相接近シタル際敵ノ針路我針路ト正角ナルヤヲ正確ニ測定スルコトニシテ此際ニ在リテハ一意専心

敵ノ一舉一動ニ注目セサルヘカラス敵ニ對スル方位角度變更セサル以上ハ兩艦ハ必ラス出會スヘク且ツ打撃ヲ加フル代リニ自ラ打撃ヲ被ムルカ如キ災厄ナキヲ保シ難シ故ニ我ハ方位角度ヲ減スルヲ以テ利トス若シ敵ニ對スル我カ方位角度稍々減少シツ、アルトキハ我レノ針路ハ適當ナルモ否ラサルトキハ舵ヲ操リ以テ敵ニ對スル方位角度ヲ減少セサルヘカラス而シテ敵モ亦恐ラク同一ノ舉動ニ出ツヘキニ依リ敵ノ艦首急ニ我カ方面ニ向ヒテ轉向スルヲ認ムルヤ否ヤ我モ亦タ直ニ適應ニ操舵スルノ用意ナカルヘカラス且ツ舵ノ外尙ホ二箇ノ汽機ノ在ルアリテ艦長ノ一令ノ下ニ行動スヘキモノアルコトヲ忘却スヘカラス斯クテ敵若シ從前ノ針路ヲ以テ進行シ敵ト我レトノ方位角度ヲ減少スルコトヲ妨ケサル時ハ夫ノ方位角度ハ成ルヘク徐々ニ減少スル様ニ注意セサルヘカラス否ラサルトキハ敵ノ艦尾ノ後方ヲ通過スルノ虞アルモノナリ

敵ノ衝角我カ衝角ノ前方ヲ通過スヘキコト愈々明確ト爲ルトキハ敵ニ衝角打撃ヲ加フルニ先タチ敵ノ進路ノ方向ニ我カ艦首ヲ向カシムル爲メニ舵ヲ操ルヲ利アリトス是レ打撃ノ際ニ我カ衝角ノ撞突ヲ緩和シ我衝角ヲ損スルコト少ナクシテ抽出シ得ルノ機會ヲ與フルモノナリ

第二百二十八 衝突用意

衝角打撃ヲ行フニ先タチ艦内漏レナク達スル様衝突用意ノ號令ヲ發スヘシ此號令ニ依リ艦員ハ總テ及フ限り種々ノ不動物體ニ取り絶リ以テ衝突激動ノ爲メ墜落セサルコトヲ圖ルヘキモノトス此號令ハ特

ニ機關部ニ達セシメサルヘカラス何トナレハ同部ニ於テ床板極メテ滑ニシテ一度立脚地ヲ失ヘハ運轉中ノ機關内ニ陥落スルノ虞アレハナリ又衝角打撃ヲ行フニ先チ一度機關ノ運轉ヲ停止スルヲ可トス即之ヲ行フ法ハ通信器ヲ以テ機關停止ノ命令ヲ傳達スル前ニ其指針ヲ全速力後進ニ轉シ亞テ全速力前進ニ變シ後直チニ停止ノ位置ニ轉スルコトニ定メ以テ機關ノ運轉ヲ停止スルヤ否直ニ汽罐室ニ衝突用意ノ號令ヲ傳フル機ヲ示スヲ可トス艦員ハ不動物體ニ取り附クヘキ意義ナレハ其旨ヲ汽罐室ニモ傳達スヘキコトヲ一ノ規則トシテ豫テ定メ置クヲ要ス我カ艦ニ於テハ火災警報ノ爲メ鐘ヲ採用セリ是等ノ鐘ヲ備フルヲ以テ之ヲ利用シテ衝突用意ノ命令ヲ下サハ頗ル便宜ナルヘク吾人ハ此信號方法ノ採用セラレンコトヲ茲ニ勸告スルモノナリ

第二百二十九 衝角打撃ヲ加ヘタル後如何ナル處置ヲ施スベ

キ歟

脆弱ナル隔壁ヲ有スル艦ハ早晚其跡ヲ絶ツヘク又縦行隔壁ニシテ外舷ヨリ十呎許ヲ離隔シ且ツ堅牢ニ構造シタランニハ(今日ト雖トモ偶々斯ノ如キ隔壁ヲ有スルモノアリ)衝角打撃ハ如何ニ劇烈ナルモ到底一回ニシテ艦ヲ沈沒セシムルヲ得サルヘク從テ一回打撃ヲ加ヘタル後後進ヲ行ヒ衝角ヲ拔取り更ラニ第二回及第三回ノ打撃ヲ加ヘサルヘカラス是等ノ打撃ハ假令微弱ナルモ艦ノ外壁ヲ貫キ其方面ノ縦行隔壁内ニ浸水スルヲ以テ敵艦ニ著大ナル傾斜ヲ醸シ若クハ全ク之ヲ顛覆セシムルニ至ルヘシ

敵若シ打撃ヲ蒙リタル後尙ホ機關ヲ運轉シテ前進ヲ繼續スルニ於テハ我レハ衝角ヲ抜き取りタル後外側ノ汽機ヲシテ全速力前進ヲ行ハシメ内側ノ汽機ヲシテ微速力後進ヲ行ハシムレハ充分ナリトス斯ノ如クスルトキハ我カ衝角ハ敵カ前進スルノ時ニ於テ其外壁ヲ壓迫スヘキナリ(第十一圖參看)此時ニ方リ敵ノ水面以下ノ部分ニ被包材^{シシッ}ヲ有セサルトキハ我カ衝角ハ敵ノ全延長ニ互リ其外壁ヲ割破スヘク之カ爲メ一方ノ隔壁内ハ水ヲ以テ充滿スヘク敵若シ艦ノ傾斜ヲ回復スル爲メ相當ノ處置ヲ施サ、ルニ於テハ彼レハ暫時ニシテ顛覆ヲ免レサルヘシ

第四百十 衝角打撃ヲ被リタル後如何ナル處置ヲ施スヘキ

歟

凡ソ衝角打撃ヲ加ヘント欲スル艦ハ自ラ敵ノ爲メニ打撃セラル、コトヲ覺悟セサルヘカラス而シテ如何ナル艦長ト雖モ戰鬥中衝角打撃ヲ被ラサルコトヲ保證シ得ルモノニアラス既ニ打撃ヲ受クルヤ沈没防避ニ關スル諸規定ノ命スル有ラユル方法手段ヲ盡サ、ルヘカラス即チ水ノ浸入ヲ一局部ニ防止スルコト穿孔ヲ填塞スルコト就中艦ノ傾斜ヲ回復スルコトニ全力ヲ盡サ、ルヘカラス本件ノ細目ニ至リテハ事防水操練ニ涉ルニ依リ茲ニ之ヲ贅セス

一旦衝角打撃ヲ受ケタル後第二回ノ打撃ヲ被ラサル爲メ若クハ外壁ノ全部ヲ割破セラレサル爲メニハ艦ハ如何ニ運用スヘキ歟之ヲ指導スルハ素ヨリ戰術ノ本領ナリトス願フニ衝角打撃ヲ受ケタル艦長

ノ第一ノ處置ハ自艦ノ艦首ヲ敵ノ方面ニ回轉スルニ在リ是第二回ノ打撃ヲ被ラサラシメンカ爲ナリ然レトモ這般ノ運用ハ打撃ヲ加ヘタル艦ノ運轉拙劣ナル場合ニ限り之ヲ遂行スルヲ得ヘシ敵ノ打撃我艦尾ノ近傍ニ在リタルトキハ全速力前進ヲ爲シ以テ攻撃艦カ穿孔ヨリ己レノ衝角ヲ抜き取ル爲メ後退スル時間ヲ利用シテ前方遙ニ逸走センコトヲ努ムヘシ既ニシテ三四箇鎖ノ距離ヲ離去スルヲ得且ツ防漏蕭ノ應用若クハ爾他ノ手段ヲ施ス爲メニ艦ノ停止ヲ要スルトキハ一箇ノ汽機ニ全速力後進ヲ行ハシメ以テ敵ヲ艦首ノ方向ニ見ル様ニ自艦ヲ回轉シ後艦ノ運轉ニ依テ敵ヲ此方位ニ持續セシムヘシ敵若シ更ニ衝角打撃ヲ加ヘンコトヲ圖ルニ際シ自艦ノ廻轉シ能ハサルトキハ兩汽機ヲ運轉シツ、我カ衝角ヲ敵ニ向ハシメ之ヲ以テ其衝ニ當ルヘキモノトス

又左ノ如キ處置ヲ施スモ可ナリ即チ右舷ヨリ艦尾ヲ打撃セラレタル時ニ於テ我カ艦尾ハ左舷ニ偏倚スヘシ此時ニ方リ右舷汽機ヲシテ全速力後進ヲ行ハシメハ回轉ノ速力増加シ艦尾ハ右舷ニ移動スヘク從テ敵ノ衝角ヨリ離去スルヲ得ヘシ敵若シ其衝角ヲ抜き取りタル後汽機ヲ前進ニ移スニ假令十秒程後クシメタルニ係ラス艦ハ尙ホ且ツ前進ヲ繼續スレハナリ又敵ノ衝角既ニ抜き取ラレ我カ艦尾ハ劇シク傾斜スルヲ認ムルハ直チニ右舷機ニ亦全速力前進運轉ヲ行ハシメ舵柄ヲ面揖一抔ニ取り以テ舵ノ作用ニ依リ艦尾ヲ敵ヨリ離去セシムヘキナリ斯ノ如キ場合ニ於テ汽機ヲ立トコロニ甲ノ運轉ヨリ乙ノ運轉ニ

移スコトハ極メテ重要ナリ衝角打撃ヲ艦首ニ加ヘラレ且ツ打撃後兩艦ハ依然其ノ位置ヲ存續スルトキハ(第十二圖參看)右舷機ニ全速力後進運轉ヲ行ハシメ左舷機ニハ微速力前進ヲ行ハシメ以テ自艦ノ衝角力敵艦ニ對スルマテ回轉ヲ爲サシムルヲ可トス而シテ後自艦若シ尙ホ進行スルヲ得ハ自ラ敵ニ打撃ヲ加フル歟否ラサレハ敵ノ我レニ打撃ヲ加ヘントスルトキ艦首ヲ以テ之ニ向ヒ且ツ彼レト距離充分ナルトキハ砲及水雷ヲ以テ之ヲ射撃スル爲メ敵ヲ艦首ノ方面ニ保ツヘシ

艦首部ニ於テ衝角打撃ヲ受ケタル後敵若シ第十一圖ニ示セルカ如キ位置ヲ取ラハ被害艦ハ其兩汽機ニ全速力後進運轉ヲ行ハシムルヲ可トス若シ又敵ニ於テ前進運轉ヲ行ヒ其艦首我カ衝角ニ觸レサルトキハ直チニ全速力前進運轉ヲ行ヒ其我艦首前ヲ通過セサル以前ニ於テ之ニ打撃ヲ加ヘサルヘカラス此ノ時ニ方リ敵若シ後進運轉ヲ行ヒテ我レヨリ離去セントスルトキハ一汽機ノ運轉ヲ停止シ且ツ舵ヲ操リツ、迅速ニ艦首ヲ以テ之ニ對スヘシ是レ敵ノ未タ我カ附近ニ在ル間ニ於テ取ルヘキ最モ利便ナル處置ナリトス

第四百四十一 兩艦對首ノ衝突

敵ニ接近スル問題ヲ講究スルニ當リ敵ニ於テ兩艦對首ノ衝突ヲ避ケントスル場合ニ於テ如何ナル處置ヲ施スヘキヤハ吾人既ニ陳述スル所アリキ之ニ反シ敵若シ艦首ノ衝突ヲ避ケス同シク艦首ヲ我レニ向クルトキ即チ我レト同一ノ舉ニ出ツルトキハ兩艦首ノ衝突ハ必ラス避クヘカラサルナリ夫レ然リ而シ

テ目下多數人士ノ信用スル說ニ據ルトキハ二隻ノ大艦カ互ニ其艦首ヲ以テ衝突スルトキハ兩者共ニ沈没ヲ免カレサルヘク仍テ艦首衝突ヲ避クルハ兩者ノ利益ナリト爲セリ然リト雖モ兩艦長ノ一人能ク輕舉ヲ慎ミ兩艦首ノ衝突ヲ避ケントシテ己レノ針路ヲ傾斜セシムルトキハ敵ヲシテ衝角打撃ヲ爲サシムルニ便宜ナル位置ニ立タシムルモノナリ何トナレハ敵カ其ノ衝角ヲ以テ我レノ舷側ヲ擊破スルニハ唯其針路ヲ依然繼續スルヲ以テ足レトスレハナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ此場合ニ於テ輕舉ヲ慎ムハ寧ロ不利ナリト謂フヘク針路ハ依然一直線ニ敵ノ方向ニ向ケサルヘカラス且ツ夫レ艦首ノ衝突ハ兩艦ノ滅亡ヲ招クヘシトノ危懼ハ那邊マテ確定ナルヤ吾人茲ニ少シク觀察スル所アラン抑々打撃ノ勢力ハ速力ノ二乗數ニ比例シテ増加スルモノナリ例ヘハ十海里ノ速力ニ於ケル打撃ハ五海里ノ速力ニ於ケルヨリ四倍ノ活力ヲ與フルモノトス吾人若シ此活力ヲ呖噸ヲ以テ顯スニ於テハ容易ニ想像スヘカラサル程巨大ナル數ヲ得ヘシ假リニ或ル速力ノ時ニ於ケル艦ノ打撃ノ活力ヲ以テ物體ノ墜落力ト相當スルトスレハ無氣界ニ於テ自由ニ墜落スル物體ニ五海里ノ速力ヲ與ヘントスル時ハ一呎ニ墜下シ十海里トスルトキハ四呎四ノ高サヨリスルト同シク十五海里トスルトキハ十呎五、二十海里トスルトキハ十七呎三、二十五海里トスルトキハ二十七呎五、三十海里トスルトキハ三十九呎七ヲ墜下スルヲ要ス是ヲ以テ速力三十海里ヲ有スル水雷艇「ソーコル」ハ高サ三十九呎七即チ家屋ノ第四階ノ窓ヨリ落ツルニ齊シキ速力ヲ有スルナリ而シテ斯ノ如キ高所ヨリ數石ノ上ニ墜落シタル人ノ即死ヲ免カレサルハ吾人能ク之ヲ

知レリ今若シ水雷艇「ソーコル」ヲ右ノ高サヨリ敷石ノ上ニ投シタランニハ同艇ハ其後暫クモ水上ニ保チ能ハサルハ論ヲ俟タサルナリ何トナレハ其各部ノ結合全然破壊セラルヘケレハナリ然リト雖モ街上ニ綱ヲ張り之ヲ以テ四階ヨリ落來ル者ヲ受留タランニハ其人毫モ害ヲ蒙ラサルヘキコトモ亦吾人ノ知ル所ナリ右ノ水雷艇「ソーコル」ナルモノ尖頭ヲ有セス機關車ニ均シキ平坦ノ壁ヲ以テ其頭端ヲ作り且ツ岩石ヲ打撃シタランニハ其破壊ノ状態ハ汽車ノ衝突ニ於ケルト敢テ軒輊ナカルヘシ然レトモ水雷艇「ソーコル」ノ首部ハ銳角ヲ作シ從テ其縱向堪持力ハ其橫向ノ同力ニ比シ無論脆弱ナルニ依リ若シ岩石ニ衝突スルモ動力ノ爲ニ艇體ノ全部一時ニ停止スルヲ得ヘク必スヤ其艇首部先ツ揉潰シ爲ニ此力ヲ吸消セラルヘシ則チ「ソーコル」ノ艇首部ノ揉潰スルハ上階ヨリ人ノ墜落スルトキニ用フル網ト同一ノ任務ヲ盡スモノナリ此事ハ衝角打撃ヲ加ヘントスル孰レノ艦ニモ之ヲ適用スルヲ得ヘシ茲ニ相互ニ艦首ト艦首衝角ト衝角トヲ以テ打撃セントスルニ二隻ノ大艦アリト假定セン此兩甲鐵艦ハ兩衝角ノ相接觸スルトキニ於テ其進行ヲ停止スヘク從テ兩者共ニ宛然極メテ堅硬ナル表面ヲ有セル岩石ヲ突キタルトキニ齊シキ打撃ヲ感スヘシ而シテ衝角及概シテ艦首部ニ於ケル反抗力ハ之ヲ全艦體ニ比スレハ微弱ナルヲ以テ先ツ壓縮セラルヘシ第一ニ鉸釘毀損シ「ステム」内部ニ壓伏セラレ艦首全體ハ恐ラク甚タシク揉潰セラルヘシト雖モ艦體ノ全部ハ尙ホ充分堅牢ニシテ浸水ノ虞ナカルヘシ何トナレハ艦ノ各甲板ハ其激動ヲ受クレハナリ又艦ノ内部ニ於テハ汽罐復水器及其他ノ重器ハ其位置ヲ脱出スル

コトアルヘシト雖モ是レ其緊結不充分ナルトキニ限ルモノトス衝角附近ノ鉸釘ノ破壊始マル前ニハ必ラス「ステム」ノ極端ニ異狀ヲ呈シ金屬ノ壓伏生スヘク而シテ外部ヨリノ壓力増加スルニ從テ鉸釘ノ破壊生スルモノナリ兩衝角ノ接觸シタル時ヨリ鉸釘ノ破壊ヲ來スマテノ時間ハ頗ル短小ナリト雖モ其存在スルノ點ニ於テハ疑ヲ容レス且ツ「クロノグラフ」ハ必ラス其長短ヲ示スヲ得ヘシ今假ニ艦ハ十五海里ノ速力ヲ以テ進行シ鉸釘揉潰及壓伏ヲ以テ艦ノ運動三「インチ」ニ匹儔スルトセハ該時間ハ一秒ノ百分ノ一ナリト是レ「クロノグラフ」ヲ以テ充分測定シ得ヘキ時間ナリトス又假リニ兩艦ノ内甲ハ其金屬ノ彈質及艦體ノ構造脆弱ニシテ「ステム」ノ壓伏一秒ノ百分ノ一時ヨリ稍々早ク乙ハ稍々晚シトスレハ甲者ノ衝角ノ破壊ハ乙者ノ前ニ始マルヘキニ依リ乙者ノ衝角ハ全然破壊ヲ免カル、ヲ得ヘシ是レ恰モ一ノ鷄卵ヲ以テ他ノ鷄卵ヲ打ツトキ一ハ破壊シ他ハ完存スル場合ト趣ヲ同フスルモノナリ夫レ然リ然リト雖モ互ニ相滑走セサル様ニ衝角ト衝角ノ衝突スル場合ハ容易ニアリ得ヘキモノニアラス衝角ハ艦ニ依リテ其高サヲ異ニスルカ故ニ其互ニ接觸スルニ當リ直垂對合ノ關係ニ於テ必ス滑行スヘク（第十三圖參看）其他衝角ヲ以テ其極端トスル「ステム」ノ曲狀同シカラサルヲ以テ一ノ衝角力他ノ衝角ニ沿ヒテ滑行スルハ全ク期シ得ヘキコトナレハ二艦カ其衝角ノ極端ヲ以テ衝突シ而カモ衝角カ滑行セサル場合ノ如キハアリ得ヘカラスト云フモ敢テ不可ナカルヘシ

兩衝角カ互ニ滑走スルトキハ兩艦共ニ滅亡ヲ來スヘキ劇動ヲ感セサルヘシ又兩艦ノ「ステム」相滑行スルトキハ兩艦ヲ互ニ反對ノ方面ニ傾斜セシムルコトアルヘシ之ニ亞キテ兩艦ハ其艦首ノ圓形部ヲ以テ接觸スルコトアルヘク而シテ兩者共唯其艦首ニ於ケル舷面ヲ揉潰スルノミニシテ互ニ通過シ去ルコトモアルヘシ若シ又一ノ衝角若クハ兩衝角トモ對手ノ外壁ヲ破碎シ始ムルニ於テハ艦ハ互ニ滑行スルコトナク外壁及艦首部ニ於ケル艦體爾他ノ部分ヲ破壞スル爲メニ其全力ヲ盡スヘシ吾人ハ二艦互ニ艦首ヲ以テ對向シ衝突スルハ其總テノ場合ニ於テ大危害ニ陷ルモノト思惟スル者ニ非ス吾人ハ斯ノ如キ兩艦ノ衝突ハ決シテ恐ル、ニ足ラサルコトヲ艦長ニ諭告セント欲スルモノナリ

第四百十一 衝角ノ改良ニ就キテ

衝角打擊ヲ加ヘントスル一艦ハ尖頭ヲ有シ他ノ一艦ハ比較的鈍頭ヲ有スル場合アルヘシ此時ニ方リ尖頭ヲ有スル艦ハ敵ノ爲メニ害セラル、コトナクシテ敵ヲ害スルノ機會ヲ有スルモノトス(第十四圖參看)然レトモ衝角ノ頭部尖锐ナルトキハ其側方ニ堅強ナル擔保乏シキヲ以テ不利ナリトス斯ノ如キ衝角力進行中ノ艦ヲ打擊スルトキハ打擊ノ刹那ニ於テ自ラ敵ノ側面打擊ヲ受ケ爲メニ該衝角ヲ揉潰セラル、コトアルヘシ從來ノ實例ニ徴スルニ衝角ヲ以テ進行中ノ艦ヲ突クトキハ其都度必ラス前述ノ結果ヲ來セリ而シテ此關係ニ於テハ獨リ尖頭ノ衝角ノミナラス通常甲鐵艦ノ鈍頭衝角モ亦脆弱ナリト云ハサルヘカラス此缺點ヲ補フ爲メ今ヤ衝角ニ橫肋骨線ヲ附スルニ至レリ吾人ハ更ラニ勸告セント欲ス

是等ノ橫肋骨ヲシテ現今ノモノヨリ一層堅牢ナラシメ且其端ヲ鋸狀ニ作ランコトヲ(第十五圖參看)斯ノ如クスルトキハ艦首ト艦首ト衝突スルニ方リ是等鋸狀ノ齒ハ敵ノ外壁ヲ剝キ之ヲ割破スヘク其他鋸狀ノ齒ハ敵ノ方面ニ向ヒ自艦ノ回轉ヲ促シ以テ之ニ利便ナル位置ヲ附與シ且ツ我カ艦尾及舷側ノ敵ノ衝角ヨリ離隔セシムルノ利アルモノトス是等ノ鋸狀ノ齒ヲ附セサルトキハ打擊ヲ加フル艦ニ於テ回轉力ヲ惹起シ打擊ヲ被ムル艦ニ於テハ然ラサル數ヲ以テ進行停止ノ後兩艦ハ優劣ノ地位ヲ顛倒シ打擊ヲ加ヘタル艦力自ラ他ノ打擊ヲ受クル場合ナキヲ保セス

第九章

戰鬪準備

第四百十二 戰鬪準備

凡ソ就役中ノ軍艦ハ何レノ時ニ於テモ戰爭ノ用意ナカルヘカラス而シテ我カ海軍條例ハ平時外國ノ港灣及ヒ船艦ニ接近スルニ當リ尙且ツ戰鬪ヲ開始スルノ用意ヲ整頓スヘキヲ規定セリ方今開戰宣言ノ發布實ニ迅速ナルヲ以テ海軍條例ニ規定シタル法則ヲ嚴守スルコト極メテ必要ナリ特ニ久シク電信交通ノ便ヲ缺ケル地ニ在ル艦ニ於テ最モ然リトス然ルニ之ヲ實際ニ徴スルニ軍艦ハ外國ノ港灣ニ接近スルニ當リ水雷ニ壓搾空氣ヲ裝スルコト並ニ其他ノ戰鬪準備ヲ爲スヨリハ寧ロ外部ノ清潔法及整頓ヲ圖ル

ニ汲々タルモノ多シ

戰爭用意ニ關スル法律ノ規定如何ニ嚴格ナルニ拘ハラス平和的ノ事物ハ我カ精神ヲ驅リ盡シテ殆ント餘裕ヲ存セサルヨリ一朝戰爭ノ開始近キニ在ルノ報ニ接スレハ諸艦ニ於テ俄然其ノ準備ニ著手スルヲ恒例トス且ツ夫レ規則ニ制セラレテ豫メ局部毎ニ戰爭ノ用意ヲ爲スカ如キハ我國民ノ氣風ニアラサルハ吾人茲ニ自白セサルヲ得ス然レトモ又一タヒ形勢ノ之ヲ促スアラハ露國人タルモノハ己レヲ忘レテ執務ニ熱中スルノ癖アリ吾人ハ久シカラサル前ニ於テエス、ペー、チールトフ中將ノ指揮ノ下ニ二箇艦隊カ戰時ニ對スル準備ニ從事セル夫ノ多忙ノ時ヲ追懷スルニ當リ今尙ホ怡悅ノ情ニ堪ヘサルモノアリ當時眞ニ上下ノ區別ナク皆其擔任ノ事務ニ熱中シ諸艦ハ準備ノ迅速及完全ノ點ニ於テ互ニ相競争シタルナリ是等ノ準備ハ之ヲ二種ニ別ツテ得ヘシ即チ左ノ如シ

(イ) 戰爭ノ準備

(ロ) 合戰ノ準備

戰爭ノ準備ハ平時航海用ノミノ爲メニ設備シタルモノヲ悉ク排除シ可及丈ケ艦ヲシテ戰闘ノ具タラシムルコトニ努力セサル可ラス但シ艦員ノ生活及健康上必要ナルモノハ此ノ限ニアラズ抑モ艦隊ナルモノハ戰爭ノ爲メニ存在スルト云フ基本的主義ヨリ推論スルトキハ艦内ニ贅物一品タニアルヘキノ理由ナシト雖モ實際ハ否ラサルモノアリ畢竟人ハ永久人タルカ故ニ其ノ有リノ儘ニ之レヲ遇セサルヘカラ

ス是レヲ以テ吾人ハ茲ニ明白ニ公言ス諸艦ハ平時ニ在リテハ戰爭ノ用意ナシト乞フ之レヨリ注意ヲ要スヘキ事項ニ付逐一陳述スル所アラン平時ニ於テ時々戰爭準備ヲ練習スルハ正ニ有益ノ事業ナリ戰爭ハ一ノ試験ナリ其ノ舉行時ノ如キハ吾人ノ與リ知ラサル所ナリトス而シテ戰爭ノ準備ハ此ノ試験ノ準備ナルカ故ニ吾人ニシテ曾テ此ノ準備ヲ爲サ、ルニ於テハ試験ノ成績不良ナルモ別ニ怪ムニ足ラサルナリ

第四百四十四 火災消防準備

鐵艦ノ創建以來艦内ニ起ル火災ハ大事ニ至ラサルヘシトノ説ハ吾人ノ屢々聞ク所ナリ然ルニ實際大ニ然ラスシテ火災ノ怖ルヘキモノタルハ今尙ホ依然タリ凡ソ火災ハ其初メニ於テハ數樽ノ水ヲ以テ消止ムルヲ得ヘキモノナレハ戰闘中ハ水ヲ盛リタル桶類ヲ所々ニ配置スルノ策ヲ取ルヘシ其他必要ノ時機ニ於テ一般ノ火災警報ヲ發セスシテ發火ノ場所ニ居合セタル人員ノミニテ消防ノ任務ヲ盡シ得セシムル爲メ消防唧筒ハ始終充分ノ壓力ヲ維持セシムルコト亦頗ル緊要ナルヘシ若シ消防唧筒ハ始終相當ノ壓力ヲ維持スルノ裝置ヲ有セサレハ或ル方法ヲ以テ之ヲ達スルヲ得ヘシ即チ「ホーズ」ヲ一ノ橋ノ半位ノ高サニ致シ其一端ヲ舷外ニ出シ消防唧筒ヲシテ始終之ヲ經テ水ヲ排出セシムルトキハ唧筒ノ管内ニ水ノ流通絶ユルコトナカルヘシ

第四百四十五 戰闘ニ不必要ナル物件ヲ投棄スヘシ

各艦ニハ戰時及ヒ戰鬪中不必要ニシテ動モスレハ有害ナル物件尠カラス假令ハ多數ノ艦ニ於テ木造甲板ノ下ニ裏板アリテ其目的タル外觀ヲ裝フニ過キス是等ハ皆取放チテ投棄スヘシ保存スルニ足ラス何ントナレハ戰争ハ其無益ナルコトヲ明示スヘク又戰争後ハ之ヲ裝付セサルヘケレハナリ總テ斯ノ如キ無用物ヲ除却スルニ大ニ注意ヲ要ス戰争後十五年モ經過シタランニハ夫レ或ハ這般ノ物件ノ更ニ又タ設備セラル、カ如キ事モアルヘシト雖モ之カ爲メニ戰鬪前無用ナル廢物ヲ保存スルノ必要ナシ又現今ニ至リ砲臺及各甲板ニ藥囊等ノ保管ノ爲メ戸棚及物置様ノモノヲ備フルモ是レ亦贅物ニシテ火災ノ好材料ニ外ナラサレハ吾人ノ見ル所ヲ以テスレハ戰鬪上有害ノ物件トシテ之ヲ取り放チ投棄スヘキモノナリトス佛國ノ或ル有爲ナル將官曾テ謂テ曰ク艦内ニ於テ第一ノ奢侈ハ空所ナリト眞ニ空所ハ戰鬪上ノ關係ニ於テ奢侈ナルニ疑ナシ故ニ百方努力シテ此ノ奢侈ヲ索メサルヘカラス商船ニ於テハ此ノ空所ヲ索メテ能ク其目的ヲ達セリ貨物運搬ニ從事スル商船ノ甲板ニ登リタルトキ空所ノ多キト同時ニ少數ノ船員ヲ以テ一切ノ船務ヲ處辨スルニ必用ノモノ一トシテ備ハラサルナキニ驚ラ喫セサルモノナカクヘシ予曾テ艦長トシテ哥爾威艦「ウヰーチャジ」ニ乗込メルトキ重量合シテ六千磅ニ相當スル二箇ノ「フ・シ、ブーム」ヲ陸上ニ卸シ爾來三年間「フ・シブーム」及「フ・シテークル」ヲ用ヒサルモ別ニ差支ヲ感セサリキ然ルニ新艦長ハ更ニ之ヲ其舊位置ニ据付ケタリ是レ蓋シ舊艦長カ空所ハ奢侈ナルノ格言ノ與義ヲ是認セサリシニ職由スルモノナルヘシ

第四百四十六 艦ノ塗色

軍事上艦ノ最良ノ塗色ニ付明解ヲ得ント欲シ本問題ニ關シテハ曾テ許多ノ試験ヲ舉行シタリ然ルニ海軍社會ニ於テ一時諸説百出殆ント底止スルナキノ觀ヲ呈シ最良ノ色取ヲ得ン爲メニ種々ノ色合ニ塗附シタル例ハ吾人親シク之ヲ目撃セシカ結局左ノ斷案ニ歸着セルモノ、如シ即チ晝間海上ニ於テ白色ハ之レヲ黑色ニ比スレハ一層不判明ナリ背後ニ綠色ノ遮蔽物アルトキハ黑色却テ白色ヨリ不判明ナリト雖モ綠色ヲ帶ヒサル岩石背後ニ在ルトキハ白色ハ最モ見分ケ難キモノナリ又夜間電燈ヲ用ヒサルトキハ黑色ヨリ白色ノ方見分ケ易カラスト雖モ電燈ヲ用フルトキハ之ト反對ノ結果ヲ來ス光澤アル塗色ハ之ヲ無光澤ノ塗色ニ比スレハ必ラス目立ツモノナリ

前述ノ理由ニ依リ無光澤灰色ヲ以テ最良ノ塗色ト認定スルヲ得ヘシ若シ夫レ青色綠色若クハ黃色ノ副色ニ至リテハ黃色ヲ以テ適當ト爲サルヘカラス何トナレハ該色ハ岩石及暗黒ナル地平線ノ色ニ髣髴タルモノアレハナリ

艦ノ塗色撰擇セラレタル以上ハ喫水線上旗竿ノ匾球及煙筒ニ至ルマテ悉ク該色ニ塗換エサルヘカラス艦ノ外部ニハ他色ノ線若クハ研上ケタル銅部ヲ存置スヘカラス又艦首及艦尾ノ鍍金部ノ如キハ戰時中(若シ之ヲ塗抹スルヲ欲セサレハ)寧ロ一般ノ塗色ニ染塗サレタル帆布ヲ裁合セテ之レヲ掩蔽スルヲ可トス

第四百四十七 防水隔壁ノ検査

當局者ニ於テ防水隔壁ノ良否ニ相當ノ注意ヲ爲スハ今尙ホ吾人ノ見聞セサル所ナリ而シテ吾人ノ觀察シタル艦ノ多數ニ於テハ防水隔壁ハ其構造ニ於テモ亦保存方ニ於テモ大ニ不完全ナルモノナリ軍艦カ彈孔ヲ受ケタル後沈没スルヲ見ルモ敢テ怪ムモノナシ否此ノ如キ状態ニ在ル艦カ沈没ヲ免カル、アラハ是レ寧ロ驚カサルヲ得サルモノナリ平時ニ於テ防水隔壁ノ整頓ハ極メテ緊要ナリ而シテ戰時ニ於テハ須臾モ缺クヘカラサルモノニシテ平時自艦ノ防水隔壁ノ整頓ニ注意セサル艦長輩ハ戰爭ニ於テ大ニ後悔スル所アルヘシ艦カ將ニ沈没セントスルニ當リ己レノ非ヲ悟ルモ既ニ晚シ

艦内數箇所ニ閉塞辨ヲ有セサルモ密閉スルコトヲ得ル通風管ノ防水隔壁ヲ貫通セルモノアリ平時、此等ノ管ヲ取除クニハ種々ノ官廳ノ許可ヲ得サル可ラスト雖モ開戰目前ニ在リテハ宜シク責任ヲ以テ己レノ所信ヲ決行スヘク何レヨリモ許可ヲ請ハスシテ此等ノ管ヲ取除キ其孔穴ニハ尖木ヲ以テ之ヲ充填スヘシ斯クスルトキハ木ハ水ヲ吸込ミテ膨脹シ水ノ浸入ヲ許サ、ルナリ

吾人ハ既ニ種々ノ論文就中艦ノ戰鬪力ヲ組成スル原素ト題スル論文中陳述スル所アリタルヲ以テ茲ニハ悉ク之ヲ再ヒセサルヘシ然レトモ茲ニ簡單ニ一言セント欲スルモノアリ防水隔壁ハ戰爭前ニ検査ヲ要スルコト即チ實際ニ水密ナルヤ否ヲ檢定スルニ在リ隔壁ノ各區域ニシテ爲シ能フ所ニ於テハ水ヲ満たシ充分ノ壓力ニ至ラシメ其良否ヲ試験スルコト是ナリ

第四百四十八 排水方法

艦ニ備フル唧筒ハ悉ク試験セサルヘカラス此試験ノ爲メニハ數區隔ニ水ヲ滿タシ每箇ノ唧筒ヲ以テシ并ニ各唧筒ヲ合セテ以テ此水ヲ排出セシムヘシ尤モ平常ニ在テハ斯ノ如ク區隔中ニ水ヲ滿タヌヲ欲セサル事由ハ素ヨリ鮮カラサルヘシト雖モ這般ノ故障ハ一切之レヲ排除シテ決行シ唧筒ヲ以テ之ヲ排出スルコトヲ試ミサルヘカラス又此試験ヲ行フニ先チ幹管并ニ旋動汽機、送水唧筒及復水器等ニ通スル支管ニ接合セル吸水管サクションパイプノ濾器ヲ検査スルヲ可トス此場合ニ於テハ何レモ士官ノ臨檢ヲ要ス何ントナレハ假令船艙長カ濾器ノ存在ヲ確言スルモ是レ決シテ吸水管ノ適切ニ裝備シアルノ謂ニアラスシテ或ハ唯少許ノ網片ノアルアルモ網目ハ自然ニ破壊セラレ爲メニ是レヨリ種々ノ固形體ヲ吸收シ終ニ排水路ヲ閉塞スル憂アレハナリ多クノ場所（倉庫、火酒室、石炭庫等）ニ於テ吸水管ハ區隔ノ底下ニ在リ若シ木床アリテ水ノ流通ヲ沮止スル場合ニハ木床ニ孔穴ヲ穿テ水ヲ排除セリ而シテ通例油布ヲ以テ之ヲ包被スルモノナルヲ以テ是等ノ包被ニハ必ス孔穴ヲ穿ツヘク且ツ動モスレハ浮游物ノ來リテ之ヲ填塞セントスルヲ以テ全網ヲ以テ之レヲ防止シ且ツ唧筒ニテ汲出ノ際油布ノ移動セサル様之レヲ緊着セシムヘシ

若シ又艦ノ傾斜ヲ回復スルノ目的ヲ以テ縱行隔壁内ニ滿水スルノ設備アルトキハ之ヲ試験シ水ハ充分ノ速度ヲ以テ區隔ニ流入スルコトヲ確メサルヘカラス此試験ハ各區隔ニ於テ行フヘキモノトス何ント

ナレハ管ヲ取附クルニ方リ赤鉛管ノ内部ニ搾出サレ其半以上ヲ閉塞スルコトアリテ之レカ爲メニ管内ニ於ケル水ノ通過極メテ遲緩ナルモノアレハナリ

第四百四十九 假掩護物ニ就キテ

凡ソ需給品ハ平時ニ在リテハ之ヲ使用スルノ便ヲ圖リテ格納スルモノナリ然レトモ戰爭ノ開始ニ先チ戰鬪上ノ便宜ヲ圖リテ之ヲ改正スルノ必要アリ即チ物件ノ性質ニ從ヒ或ハ之ヲ假掩護ノ具ニ宛テ或ハ「コップワードラム」ノ充填用ニ供スヘキモノトス蓋シ重品ヲ下部ヨリ上部ニ移ストキハ重力ノ中心ヲ昇騰セシムルモノニシテ甚タ好マシカラサル事ナルヲ以テ注意セサルヘカラス

從前ハ衣箱帆布等ヲ掩護ノ爲メニ用ヒタリト雖モ現今ニ至リ銃丸及砲彈ノ初速甚タシク増加シタルカ爲メ衣箱、マツト及木材等ハ砲彈ノ掩護タルコトヲ得ス尤モ爆裂ノ場所ニ殆ント密接スルニ於テハ素ヨリ完全ナル材木ト雖モ碎片ノ爲メニ破壊セラルヘシト雖モ少シク該所ヲ遠サカルトキハ前記ノ物件モ亦幾許カ碎片ノ害ヲ防遏スルノ效力ナキニシモアラス又一方ヨリ論スルトキハ衣箱、マツトノ類ハ確固タル掩護物タルニ足ラサルト同時ニ火災ノ媒介タルヲ得ヘキモノナルハ自然茲ニ一ノ疑問起ルヘシ曰ク軟質ノ物件ハ之ヲ掩護トシテ使用スヘキ歟將タ之ニ反シ彈丸破裂ノ爲メ火災ノ起ルヘキ懸念ナキ場所ニ收納スル爲メ之ヲ艦ノ下層ニ送致スヘキ歟吾人ハ寧ロ斷定セントス行李、衣箱等ノ如キ軟質ノ物件(救命具タル效力ナキモノ)戰時之ヲ喫水線以下ノ部ニ收藏スヘク若シ又之ヲ收藏スヘキ餘地ナ

キニ於テハ戰鬪ノ開始ニ先チ餘暇ヲ以テ之ヲ空虚ナル石炭庫若クハ發火ノ憂ナキ爾他ノ部分ニ投入スルヲ要ス但シ「コーク」製ノ救命具ヲ入レタル箱ハ艦ノ沈没ノ際ニ利用スル爲メ戰鬪中ノヲ手許ニ置クヘキモノトス

第四百五十 衝角打撃ノ場合ニ備フル爲メ諸物件ヲ緊着ス

ルコト

凡ソ軍艦ハ衝角打撃ノ際ニ於テ艦内ノ物件一トシテ其位置ヲ脱出セサルヘキ構造ナラサルヘカラスト雖モ宣戰ノ報ニ接セハ尙ホ汽罐、復水器并ニ需給品例ヘハ彈丸、水雷、豫備錨等ノ如キモノ、緊着充分ナルヤ否ヤヲ點檢スルヲ可トス是レ畢竟衝角打撃ヲ行フニ方リ激動ノ爲メ毫モ毀損物ノ生セザランコトヲ期スルニハ極メテ緊要ナレハナリ這般ノ點檢ノ結果堅固不充分ナリト認定セル物件ヲ發見シタルトキハ木材ヲ以テ之ヲ緊着セサルヘカラス重要ナラサル物件ノ如キハ假令其位置ヲ脱出スルモ別ニ介意スルニ足ラサルヘシト雖トモ若シ汽罐ニシテ脱スルコトアラハ是レ容易ナラサル椿事ナリ而カモ之ヲ避クルニハ唯僅ニ二三ノ豫防策ヲ施サハ足レリトス是等ノ事ニ就キテハ別ニ記載スル所アルヘシ

第四百五十一 機關室「ハツチ」ノ構造

現今多ク玻璃ヲ用フ是レ平時ハ極メテ便利ナリト雖モ戰鬪中玻璃器ハ管ニ敵ノ彈丸ノミナラス自艦

ニ於テ發砲シタルトキ其激動ノ爲ニ破裂ヲ來スモノナリ機關室「ハッチ」等ノ玻璃ノ碎片ハ大災厄ノ原因タルノ虞アリ何ントナレハ玻璃粉ノ一タヒ「曲肱」ニ陥ルトキハ機關ハ行動ノ機能ヲ失フニ至ルヘク從テ戰闘中艦ヲ危急存亡ノ域ニ陥ラシムルモノトス是ヲ以テ獨リ機關室上ノ「ハッチ」ノミナラス尙ホ機關ニ接シタル爾他ノ窓及明リ取りノ戸モ均シク之ヲ取放チ何レヘ歟運致スヘク且ツ之ヲ取放チタル間ハ油布若シクハ爾他ノ方法ヲ以テ之カ代用ヲ爲サシムヘキモノトス

第二百五十二 一般ノ準備

一朝戰時ト爲ルヤ砲ニ裝填シ彈丸及ヒ裝藥ヲ用意シ攔干其他射撃ヲ妨クルモノハ悉ク取放チ魚形水雷ニ裝氣シ藥莖及炸藥等ヲ充實スヘシ其他錨鎖ハ容易ニ離脱スル用意アリヤ且ツ碇泊中ハ拔鉸用ノ器械ヲ準備シ置クヲ以テ一ノ規則ト爲スヘシ本汽罐、補助汽罐及汽罐ノ汽罐内ノ水ハ特設ノ管ニ依リテ以テ常ニ之ヲ温メ置キ以テ該汽罐内ニ或ル汽壓ヲ維持セサルヘカラス汽罐ノ灰局及燒局戸ハ能ク密閉シ汽罐ハ温氣ヲ失却セシメサル様之ヲ包蔽シ置クヲ要ス汽艇及水雷艇ニ在ル水雷ハ之ヲ裝填シ且ツ裝氣シ置クヘシ某々ノ扉等ハ戰時中閉鎖シ置キ必要ノ場合ニ於テ暫時之ヲ開扉スヘキコトヲ命シ置クヘキモノトス

第二百五十三 乘組員ノ勞力ヲ節スルコト

一朝開戰ノ報ニ接セハ夜間看視ノ爲メ多大ノ勞働ヲ要スルモノナリ故ニ此勞働ニ加フルニ乘組員カ平

素從事スル勤務ヲ以テセハ彼等ハ暫時ニシテ大ニ疲勞ヲ感スルニ至ラン凡ソ乘組員ノ疲勞極度ニ至ルコトハ演習ニ於テハ避クヘキ事ナリトス然ルニ演習時ノ勞働ハ之ヲ戰時ニ比スレハ尙ホ極メテ輕易ナルカ故ニ清潔ニ關スル勞働其他ノ業務ヲ減少シ且ツ夜間ニ疲勞シタルモノハ晝間ニ充分睡眠シ能フ様ニ繰合セサルヘカラス願フニ朝餐後ノ時間ヲ以テ之ニ充テ一直ハ掃除ニ從事シ一直ハ此際就眠スルト最モ利便ナリトス即チ此方法ニ據ルトキハ九時ヨリ十一時マテヲ一般ノ勞働及教練ニ充ツルヲ得ヘク晝餐後休憩ノ時間ヲ一時間増加シ即チ午前十一時ヨリ午後三時迄ハ全然休養セシムルヲ良トス

第二百五十四 警報

砲員ヲ迅速ニ其位置ニ就カシムル爲メ喇叭手ヲ準備シ置クヲ可トス尤モ號笛ヲ吹キテ警報ニ馴致セシムルハ尙一層適宜ナルヘシ何ントナレハ斯ノ如キ警報ハ喇叭ヲ以テスルヨリハ一層迅速ニ之ヲ發スルヲ得レハナリ

第二百五十五 戰闘ノ準備

各艦ニハ配置表ヲ調製シ戰闘準備ノ際各員ノ爲スヘキ分擔任務ヲ定メ置クモノトス吾人ハ左ニ若干ノ一般ノ事項ヲ列舉セントス是レ素ヨリ事ノ全斑ヲ示スニ足ラスト雖モ或ル重大ノ事項ヲ示スモノナリ遂行スヘキ事項ハ左ノ如シ

(イ) 晝夜ノ別ナク各橋ニ國旗ヲ掲揚スルコト本項ハ水雷艇及汽艇ニモ均シク適用スルモノトス

(ロ) 戦闘中開放ノ必要ナキ明リ取り及舷窓ハ總テ之ヲ閉鎖シ艦ノ傾斜スルモ水ノ浸入スルコトナカラシムヘシ

(ハ) 密閉ノ目的ヲ有セサル各隔壁ノ扉ハ總テ之ヲ開放シ以テ各室及各部ヘノ出入ヲ便ニスルコト但シ火酒類貯蓄所ハ此ノ限ニアラス拘禁者ハ解放スルヲ要ス

(ニ) 帆布「マツト」ノ類ハ悉ク水ニ濕スコト是レ畢竟其發火ヲ豫防スルノ效力アルト之ヲ以テ火災消防ノ具タラシムルヲ得ルニ依ルナリ

ネルソンハ會テ「アルシード」及「オリヤン」ノ災害ノ目撃者タリシ故ヲ以テ火災ヲ以テ戦闘中ノ最大危険ノ一ト認メタリトラフアルガル戦闘前チルソンハ「ウキトリ」ニ備フル釣床格納所ヲ充分ニ濕潤セシメ且端艇ハ「ダビツト」ヨリ之ヲ水際ニ下スカ如キ一言以テ之ヲ謂ヘハ火災豫防ニ必要ナル一切ノ手段ヲ施スコトヲ命シタリ當時「ウキトリ」ノ戦闘檣樓上ニ狙撃兵ノ無カリシハ此注意ニ職由スルモノナリ乃チチルソンハ不注意ナル射撃若シクハ破裂ニ依リ帆布ニ傳火シ以テ怖ルヘキ災危ノ原因ヲ醸サンコトヲ危惧シタルナリトラフアルガルノ戦闘中佛ノ戦闘艦「アシール」ニ於テ起リタル不幸ハ全ク之ニ基因セルモノトス

(ホ) 砲員其他發射線ノ傍ニ在ル兵員ニハ綿ヲ以テ其耳ヲ填塞セシムヘキコト錨鎖ハ其第一「シヤクル」ニ於テ之ヲ離脱セシメ其端ハ緊著シ置クコト是レ衝角打撃ノ際ニ於テ錨其位置ヲ脱ス

ルニ當リ錨鎖ノ悉ク脱出シテ大破損ヲ來サシメサラシカ爲メナリ

第二百五十六 戦闘開始前ニ汽艇及端艇ハ如何ニ處分スベキ歟

茲ニ大ニ吾人カ著目スヘキ疑問アリ曰ク戦闘中端艇ハ引揚ケ置クヘキ歟將タ往々爲スカ如ク之レヲ下シ置クヘキ歟清國艦隊ハ旅順口ヲ拔錨スルニ先チ端艇ヲ同港ニ留置キタレハ鴨綠江外ノ海戦時ニハ一モ之ヲ有セサリシナリ該海戦ハ清國艦隊ノ敗北ニ歸シタリト雖モ單ニ此事實アルノ故ヲ以テ戦闘前ニハ端艇ヲ艇材ニ揚ケ置クヘシトノ斷案ヲ下スヲ得サルナリ夫ノ米國內亂ノ際ニハ諸艦ハ往々一ノ端艇ヲ携ヘス若クハ極メテ少數ノ端艇ヲ携ヘテ闘ヘリ若シ夫レ端艇ヲ艦内ニ置クトキハ命中面積ヲ増大スヘキニ依リ故障ナク飛越シ得ヘキ彈丸モ往々端艇ニ中リテ爆裂シ碎片ヲ以テ上甲板ニ於ケル艦員ヲ瘡スニ至ルナリ然ラハ則チ戦闘ヲ開始スルニ先チ端艇ヲ水上ニ投棄センカ是レ自艦ノ沈没ニ際シ之ヲ利用スルノ途ヲ失フモノナレトモ亦砲戦久シキニ彌ルトキハ端艇ハ概チ使用ニ耐ヘサル迄ニ損傷セラルヘキヲ思ハサルヘカラス

端艇ハ携フヘク總テ艦カ平素航海ニ從事スル現狀ニ於テ戦闘ヲ開始スヘシトノ説大ニ根據アリト雖モ一方ニ於テハ亦端艇携帯ニ反對スル説モ均シク確固ナル根據ヲ有スルモノナリ況ヤ戦闘中沈没ノ場合ニ於テハ端艇ヨリ寧ロ救命浮子ニ依頼スルノ確實ナルニ於テオヤ前記ノ兩説利害得失相等シキヲ以テ端艇ヲ携フルト否トハ艦長ノ所見ニ任スヲ可トス但シ端艇ノ降下ハ風浪ノ故ヲ以テ往々實行シ能ハサ

ルコトアルヘシ

汽艇及水雷艇ニ至リテハ端艇ヨリ尙一層降下スヘキ理由アリ仍テ事情ノ之ヲ許ストキハ充分武装シ之ニ砲及水雷ヲ搭載シテ降下スヘキモノトス是等ノ諸艇ハ始終戦闘ニ與カル諸艦ノ附近ニ在テ運動シ自己ノ兵器ヲ利用シテ敵艦ニ害ヲ加フルコトヲ努メサルヘカラス而シテ回轉ノ際航路ヲ短縮セシ爲ニ本艦ノ艦尾ニ追隨スルヲ以テ其最良ノ位置トスヘシ又敵ヨリ我汽艇及水雷艇ニ向テ放ツ砲火ハ其主トスル目的ヨリ之ヲ牽制スルモノナレハ此一事ヲ以テスルモ既ニ一利アルコトヲ思ハサルヘカラス況ンヤ這般受働的利益ノ外諸艇ハ自働的利益ヲ現ハシ得ルニ於テオヤ即チ水雷ハ大敵ニ對シテモ尙且ツ其滅亡ヲ來スヘキ一大打撃ヲ加フルヲ得ルモノニシテ就中諸艦カ他ノ艦ト相對シテ圈ヲ描キテ運動スル時ニ於テハ汽艇ノ如キハ格別其注意ヲ惹カサルニ依リ此機ニ乘シ奇捷ヲ制スルノ期アルヘク若シクハ延テ全局ノ勝利ヲ制スルノ偉勳ヲ樹ツルコトナシト云フ可カラス

第十章

種々ノ行動

第五百五十七 碇泊中艦隊ノ防禦

開戦ノ布告發セラレタル時ヨリ敵ノ水雷艇ニ對シ艦隊ノ護衛ヲ開始セサルヘカラス而シテ之カ最良ノ

方法ハ港口ニ防材ヲ敷キ岬角ヲ爲セル陸上地點ニ探照燈ヲ据附ケ之レヲ以テ該防材ノ所在ヲ照シ且探照燈ノ側面ニ据附ケタル砲ヲ以テ之ヲ防禦スルニ在リ吾人ハ假令一時ナリトモ陸上ニ探照燈及砲ヲ据附ルコトヲ主張スルモノナリ何ントナレハ陸上ニ据附クルトキハ動搖ノ虞ナキヲ以テ兩者ノ行動一層正確ヲ期シ得ヘケレハナリ

防禦ヲ要スル港口ノ幅員巨大ニシテ陸上ヨリ能ク之ヲ照シ且ツ射撃シ能ハサルトキ若クハ陸上ニ於テ探照燈及砲ヲ据附ケ能ハサルトキハ浮游的防禦ニ據ラサル可カラス此目的ヲ達スル爲メニハ軍艦ノ端艇ヲ使用シ又ハ土地ノ船艇ヲ徵發スルヲ得ヘシ但シ自艦ノ端艇ヲ用フルトキハ其輕快ナルト隨意故障ナク所要ノ所ニ派遣シ又ハ呼還スノ便アリ而シテ土地ノ徵發船艇ヲ用フルトキハ其廣濶ニシテ人員ヲ乗組マシメ易キト動搖少ナキノ利アリ其他徵發ノ船艇ヲ利用スルトキハ能ク其ノ防禦ノ全部ヲ一點ニ集中シ得ルノ便アルヘシ又假製防禦ヲ編成スルモ可ナリ假令ハ港口ノ中央ニ一艘ノ大艇ヲ置キ之ニ二基ノ探照燈ト四門ノ砲ヲ据附ケ又兩岸ノ附近ニ砲ヲ搭載スル二艘ノ大艇ヲ置クヘシ但シ右ノ探照燈ハ假リニ同船内ニ据附ケタル發電機ヨリ電流ヲ受クル歟否ラサレハ曳綱ヲ以テ同船尾ニ結着シタル汽艇(若干)ニ据附ケタル發電機ヨリスルヲ得ヘシ防材ヲ敷設シタルトキハ護衛ノ任務ハ敵ヲシテ之ヲ破壊セシメサルニ在リ防材ナキトキハ其目的ハ敵ノ水雷艇ノ襲來ヲ發見シ之ヲ滅却スルニ在リ

第五百五十八 軍艦ノ探照燈ヲ以テ港ヲ照スコト

防材ヲ以テ堅牢ニ港口ヲ遮斷シ敵ノ侵入ヲ防止スルノ方法ナキニ於テハ勢ヒ艦ノ探照燈ヲ以テ港ヲ照明セサル可ラス然レトモ此ノ時ニ方リ該照明ノ組織宜シキヲ待テ始メテ奏功ヲ期スヘキナリ吾人ハ茲ニ千八百九十一年ノ艦隊演習ノ時カズナコーフ中將ヨリ發シタル命令中本件ニ關スル訓示ヲ引用シテ參考ニ資セント欲ス

諸艦ハ其碇泊位置ノ順次ニ從ヒ各自受持ノ區劃ノ地平線ヲ照シ光線ノ至ラサル限ナキヲ期スヘシ光線ヲ地平線ニ致シタル後適宜ニ燈ノ上下整理機直垂照準ヲ確定固着シ徐々々ヲ地平ニ平行ニ回轉シテ探照スヘシ

敵艦ニ照ラシ中テタル探照燈ハ始終之ヲ自己ノ光線内ニ維持スルコトヲ努メ他ヲ顧ルヘカラス此時ニ方リ爾他ノ探照燈ハ依然地平ヲ照シ決シテ其光線ヲ既ニ他燈ノ光線内ニ陥リタル艦ニ向ハシム可カラス

味方ノ水雷艇哨艇及諸艦ノ光線ヲ航過スルニ方リ決シテ之ヲ照明スヘカラス此場合ニ於テハ燈ノ既定ノ位置ヲ變動セス單ニ燈蓋ヲ利用スヘキモノトス

第二百五十九 港口防禦ヲ設ケタル港内ニ碇泊中ノ艦隊ハ

燈ヲ點ズベキカ將タ點ズベカラザル歟

本問題ハ一概ニ決スヘキモノニアラス艦ノ探照燈ノ照明ヲ要セサルトキハ點燈ヲ用ヒサルヲ安全トス

且ツ敵ヲシテ判定ニ困マシムル爲メニ港内ノ他所ニ數艘ノ沿岸航通船ヲ置キ之ニ點火セシムルモ可ナルヘシ然レトモ港内ノ防禦完全ナルニ於テハ旗將ハ或ハ艦隊ニ點火ヲ隱蔽セシメ其不便ヲ感セシムルノ必要ヲ見サルコトアルヘシ況ヤ此事タル暑中特大不便ヲ感セシムルモノナルニ於テオヤ

第一百六十 諸艦碇泊所ノ撰定

一港内ニ於テ諸艦碇泊所ノ撰定ハ種々ノ事情ニ依リテ素ヨリ一定スヘカラスト雖モ茲ニ始終注目スヘキ一事アリ即チ他ニ非ラス艦カ如何ニ堅牢ナル防禦網ヲ有スルモ水雷艇ノ爲メ沈没ノ虞アルハ免カレ能ハサル所ナリ而シテ艦ノ龍骨下ニ於ケル深サ著大ナルトキハ艦ハ全然沈没スヘク之ヲ引揚クルハ極メテ困難ナルヘシ若シ又龍骨下ノ水少ナキトキハ艦内水ヲ以テ滿サル、ニ過キササルヘク此場合ニ於テハ艦隊ノ資力ヲ以テ短期ニ於テ引揚クルヲ得ヘシ之ヲ以テ諸艦ハ港内中其龍骨下ノ水量最モ寡キ所ニ碇泊スルヲ利トス

第一百六十一 防材ノ製造

水雷艇ノ襲撃ヨリ艦隊ヲ防禦スルノ任務アル防材ノ敷設方法ハ二三例ノ外何レノ海軍ニ於テモ全ク之カ練習ヲ舉行セス而カモ戰時ニハ之カ應用ヲ見ルヘシ顧フニ平時ニ在リテ曾テ練習セサリシ事業ノ戰時ニ忽チ成功ヲ告ケタランニハ是レ實ニ驚クヘキナリ而シテ此事業タル決シテ等閑ニ附シ去ルヘキモノニアラス又單ニ外見ノ爲メ防材ヲ敷設スルハ極メテ容易ナルヘシト雖トモ眞ニ堅牢ナル防材ヲ作ル

ニハ相應ノ伎倆ナカルヘカラス要スルニ本件ハ尙研究ト實踐ヲ要スルモノナレハ航海ニ著手スルニ當リ艦隊ハ此目的ヲ以テ必要ノ材料ヲ携帶スヘキナリ

第六六十二 戰時艦隊ニ近接スル艦艇ニ就キテ

夜間我レニ近接スル艦艇ノ味方ナルヤ將タ敵ナルヤヲ識別シテ毫モ疑心ヲ遺サ、ル程ノ識別信號制度ヲ設定スルハ頗ル困難ナル事業ナリトス此識別信號ナルモノハ秘密ヲ要スルモノニシテ吾人ハ茲ニ唯一般ノ訓示ヲ爲スニ止メント欲ス

軍艦若シクハ端艇ニ乗込ミテ所屬艦隊ニ接近スルトキハ成ルヘク遠距離ヨリ信號ヲ以テ己レノ近接スルヲ示シ許可ヲ得サル間ハ必ス近接スルヲ見合スヘキモノトス衛艇線ヲ敷カレタルトキハ線内ノ一艇ハ之ニ近カツキ艇中ノ先任者ハ其何官タルヲ問ハス必ス甲板上ニ出テ、該艦ノ味方ナルヤヲ檢知スヘキモノトス前述ノ手續ヲ了シタル後護衛艇ハ入港艦若シクハ近接艇ニ對シ當夜當該時間ノ識別信號ヲ授與スルナリ其他概シテ軍艦ノ附近ニ於テハ私有船ノ通行ヲ差止ムヘシ即チ味方ノ艇ナルトキハ衛艇ノ檢査ヲ經タル後通過ヲ許シ海軍ニ屬セサル諸艇ハ如何ナル場合ニ於テモ諸艦ニ近接セシメサルヘシ若シ是等ノ諸艇ニ於テ貨物ヲ運搬スルトキハ之ヲ官艇ニ轉載シ官艇ヲ以テ本艦ノ許ニ送致スヘキモノトス

第六六十三 問語應語及自由通行語

或ル場合ニ於テハ陸軍ニ於ケルカ如ク問語應語及自由通行語ヲ撰定スルヲ適宜トスルコトアルヘシ曩ニ千八百八十四年ニ於テチハチョーフ中將カ練習艦隊ニ司令官タリシトキニ發シタル命令ハ本件ノ好訓示タルヲ得ヘキニ依リ左ニ之ヲ掲載セリ

問語ニハ市町名若クハ地名ヲ用ヒ應語ニハ聖人ノ名ヲ用ヒ自由通行語ニハ海軍常用ノ物名若シクハ想像ノ名稱ヲ用フ是等ノ名稱ハ總テ同一ノ文字ヲ以テ始マルモノヲ用フ例ヘハセワストボリヲ問語ト爲シ聖^{セント}シメオンヲ應語ト爲シ「サーブリア」(劔)ヲ自由通語ト爲スカ如シ

問語應語及自由通行ハ封筒ニ封入シテ艦隊司令官ヨリ艦長ニ傳達シ所管艦員ニ於テ之カ秘密ヲ守ルハ艦長ノ責任トス

問語ハ將校及將校ノ職務ヲ行フ下士ニ限り之ヲ傳授ス應語ハ衛艇及巡邏艇ノ艇長并ニ衛艇線及巡邏境域以外ニ派遣セラル、者ニ傳授ス又自由通行語ハ衛兵勤務ニ就ク者及命令若クハ其他ノ事由ニ依リ一艦ヨリ他艦ニ派遣セラル、艇ニ傳授セラル、モノトス自由通行語ハ味方ナルヤ否ヤヲ檢知スル爲メニ用フルモノナンハ通過セントスル艦艇ニ向ヒ「行ク名ハ誰」トノ問ニ其返答ヲ得タル後衛兵ハ更ニ自由通行語ヲ尋問スヘキモノトス

近接スル艦艇ハ衛艇若クハ碇泊艦ヲ距ルコト凡ソ一「ケーブル」半ノ所ニ於テ其機關ノ運轉ヲ停止シ若クハ燒ヲ上ケ誰何セラル、ヲ待ツヘク若シ先方ヨリ誰何セサルトキハ自ラ之ヲ誰何スヘキモノ

トス
 當直士官若クハ衛艇長ニ於テ近接スル艦艇ヨリ正當ノ自由通行語ヲ得タルトキハ己レノ艦艇ニ近接スルノ許可ヲ與フヘキモノトス
 若シ又近接スル艦艇ニ於テ自由通行語ニ應答セス依然進行ヲ繼續スルトキハ衛兵ハ其銃ヲ發射シ當直士官ハ警報ヲ打タシムヘキモノトス
 附近ヲ通行スル艦艇モ亦前記ノ手續ヲ以テ誰何セラル、モノトス
 艦艇ヨリ應答シタル自由通行語ノ正當ナルニ拘ラス其味方ナルヤ否ヤ尙疑ヲ存スルトキハ本艦ニ密接スルコトヲ許サス檢査ヲ行フ爲メ之ニ端艇ヲ派遣スヘキモノトス
 應語ハ巡邏艇長カ衛艇線ヲ通過スルトキニ之ヲ用フ兩艇ノ互ニ出逢ヒタルトキハ「行ク者ハ誰」ト誰何シタル後互ニ相近接シ最初ニ誰何シタル艇ハ微聲ヲ以テ「自由通行語ハ如何」ト尋問スヘク此誰何ニ應答シタル艇モ亦始メ誰何シタル艇ハ果シテ味方ナルヤ否ヤヲ檢知スル爲メ「應語ハ如何」ト尋問スヘキモノトス
 問語ハ各種ノ衛艇長ニ於テ各長官ヨリ命令委托ヲ帶ヒテ來ル者巡邏監視ノ爲メニ來ルモノ等ヲ檢知スル爲メニ用フルモノトス

第六百六十四 海上ニ於テ艦隊ノ護衛

敵ノ水雷艇ヲシテ探知シ且ツ攻撃シ難カラシムル爲メ敵岸附近ノ海上ニ在ル艦隊ハ夜間燈ヲ點セス且ツ全速力ヲ保有スヘキコトヲ勸告スル者アリト雖モ吾人ハ之ヲ以テ寧ロ不便ナリト認ムルモノナリ

天候ハ變更スヘク亦種々ノ事情ハ信號ニ依リテ談スルノ必要ヲ惹起スルモノナリ而カモ是レ燈火ヲ暴露スルト何ンソ擇ハン吾人ノ意見ニ據レハ夜間ハ進行ヲ停止シ防禦網ヲ垂下スルノ優レルニ如カサルヘシ其他吃水淺クシテ魚形水雷ノ攻撃ヲ怖レサル輕艦ヲ周圍ニ配置シテ監視ノ任ニ當ラシムヘシ但シ艦隊ト該輕艦トノ距離ハ稍ヤ遠大ニ取り小口徑砲ノ射擊區域ヲ去ラシメ以テ其砲火ヲ防カサル様ニ配置スヘキナリ若シ衛艦ニシテ艦隊ニ近接セントスルトキハ當夜識別信號ヲ發スヘキモノトス斯ノ如クスルトキハ之ニ燈ヲ點セスシテ進行スルニ比スレハ一層安然ニ夜間ヲ經過スルヲ得ヘキナリ

戰時海上ニ在ル艦ハ常ニ其砲ニ裝彈シ置クヘキナルモ天候ニ依リテハ水沫ノ其砲口ニ浸入スルコトアルヘシ然リ而シテ砲ノ位置ニシテ砲口栓ヲ取捨ルニ利便ナルトキハ之ニ定式ノ砲口栓ヲ挿入スルヲ得ヘシト雖モ砲口ノ舷外ニ突出スル場合ニ於テハ輕量ノ塞栓ト短小ノ砲口袋ヲ備フルヲ可トス何ントナレハ此兩者ヲ以テスルトキハ砲口栓及ヒ砲口袋ヲ取放タスシテ有形ノ儘射擊スルヲ得ヘケレハナリ尋常ノ銃砲砲口栓ナルトキハ彈丸ノ爆裂ヲ來スノ虞アリト雖モ厚サ僅ニ四分ノ一口徑ノ輕量木製ノ塞栓ヲ用フルニ於テハ決シテ爆裂ノ虞ナカルヘシ何トナレハ該塞栓ハ彈丸カ其頭部ヲ以テ之ヲ打撃ス

スル前ニ於テ既ニ空氣ノ壓迫ノ爲メニ其位置ヲ去ルヘキヲ以テナリ
砲口ヨリ侵入スル水ノ火藥ヲ潤サ、ル様又彈丸ノ前方ニ水ノ多量ニ掩留セサル様計畫スル所ナカルヘ
カラズ否ラサルトキハ砲ノ爲メニ危險ヲ醸スコトアルヘシ而シテ此危險ノ程度果シテ幾許ナルヤ専門
家ノ評定ヲ請ハント欲スル所ナリ

第六十五 開放シタル碇泊所ニ於ケル艦隊ノ護衛

此ノ護衛ハ海上ニ於ケル艦隊ノ護衛ト別ニ異ナル所ナシ即チ護衛ノ艦艇ヲ配置シ防禦網ノ垂下ヲ要ス
ル等ノ如シ

第六十六 軍艦ニ防禦網ハ必要缺クベカラサルモノ

ナルカ

防禦網ハ數年前マテハ甚タ手弘ク設置セラレタリ元來防禦網ナルモノハ海軍將校間ニ曾テ好評ヲ得タ
ルコトナシト雖モ避ケ難キ一ノ弊害トシテ之ヲ耐ヘ忍ヒタルナリ各艦ノ艦首及艦尾ノ部ニハ曾テ之
ヲ布カサリキ而シテ何故ニ然ルカト謂ヘハ通常艦ノ兩端ニ設ケルカ如キ小區劃ハ防禦スルニ足ラスト
ノ辭柄ヲ以テセリ然レトモ之レ全ク遁辭ニ外ナラサルナリ何ントナレハ戰鬪艦「ヅキクトリア」ハ即
チ是等ノ小區劃ノ一ニ於テ衝角打擊ヲ受ケタルカ爲メニ沈没シタレハナリ而シテ艦尾ニ至リテハ推進
器及舵器ノ存在スルアリテ之カ掩護ハ今一層強固ナラサルヘカラス之ヲ施スハ素ヨリ容易ナラサルヘ

シト雖モ亦決シテ爲ス能ハサルニアラサルナリ

目下ニ至リ防禦網ニ反對ノ風潮勃興シ聞クカ如クハ獨國ノ海軍ニ於テハ既ニ防禦網ノ廢止ニ著手セ
ルカ如ク佛國海軍モ亦之ニ倣ハントスト謂フ又此變更ヲ促シタル事由ナリトシテ説クトコロニ依レハ
頃者防禦網ヲ切斷スル利器ヲ發明シタル者アルニ由ルト云フ而シテ吾人ハ刀ヲ裝ヘル水雷ハ尋常ノ防
禦網ヲ切斷スルコトヲ確知ス然レトモ又タ著シク該刀ノ作用ヲ滅殺スヘキ方法ノアルコトモ亦之ヲ知
レリ此利器ハ既ニ發見セラレタル方法ノ外未タ發達セサルモノ多クナルコト亦疑ヲ容レス吾人ハ宜シ
ク之カ研究ニ努力セサルヘカラス

今ヤ水雷ト防禦網ノ間ニ競争ノ將ニ起ラントスルモノアリ而シテ此時ニ方リ防禦網ヲシテ眞ニ有效ナ
ラシメントスルニハ宜シク發明家ノ力ニ倚ラサル可ラス防禦網ナキニ於テハ吾人ハ何ヲ以テ艦ノ水雷
攻撃ヲ防止スルヲ得ン勿論防水隔壁ハ尙ホ屬望スルニ足ラン然レトモ水雷爆裂ノ際全然沈没ヲ免カレ
得セシムヘキ構造ノ艦ハ今尙ホ何レニ於テモ之カ建造ニ著手セス何レノ國ニ歎斯ノ如キ構造ヲ有スル
艦ノ現有スルアラハ此試験ヲ行フハ誠ニ容易ナルヘシ而シテ該試験ノ結果大ニ世人ノ迷夢ヲ散スルコ
トアルヘシ即チ水雷爆裂ノ作用トシテ雷ニ喫水線下ニ大損所ヲ生スルノミナラス尙一平方吋ニ二百斤
ニ達スル大氣壓ヲ支フル氣管モ亦之カ爲メ破壊セラル、場合ナキヲ期スヘカラス蒸氣ノ壓力斯ク巨大
ナルトキニ於テ氣管ノ破壊ヲ來ストキハ爲メニ一大慘劇ヲ演スヘク時機ニ依リテハ艦カ再ヒ先列ニ加

ハルコト能ハサルニ至ルモ未タ知ルヘカラサルナリ是ヲ以テ艦ハ其不沈没ノ點ヨリ毫モ間然スル所ナシトスルモ尙水雷爆裂ノ防禦具ヲ有セサルヘカラス何トナレハ右ニ陳述セル如ク汽管破壊ノ虞アルノミナラス機關及砲塔ノ基礎并ニ汽管ニ均シク大壓力ノ下ニ在ル各種水壓器械モ亦破損スル虞ヲ免レサレハナリ

昨年ノ夏予カ練習艦隊ノ司令長官タリシトキ水雷艇ハ殆ト發見セラレシテ艦隊ニ近接シ得ヘキヤ否ヤヲ確ムル爲メ數多ノ試験ヲ舉行セリ又艦隊ノ進行中尖塔形ノ移動標的ヲ以テ水雷艇ニ擬シ輕速射砲射撃ヲ行ハシメ其命中ノ程度ヲ明確ニスヘキ試験ヲモ舉行セリ此時ニ於テ命中程度ヲ高ムル爲メ種々ノ計畫ヲ盡シ或ル時夜間射撃ヲ目撃シテ予ハ其射撃ニ満足スルヲ得タリ然ルニ何ソ料ラン射撃ヲ行ヒタル後四箇ノ標的ヲ引上ケシメ之ヲ檢スルニ一彈ノ之ニ命中シタルモノナカリキ

夜間水雷攻撃ノ成績ハ往々無事ニ敵ニ接近スルヲ得ルコトヲ示セリ果シテ然リトセハ防禦網ヲ携ヘサル艦隊ノ旗將ハ水雷艇來襲ノ憂アル場所ニ於テ夜間如何ニシテ其艦隊ヲ守護スヘキカ顧フニ己レノ速力ニ依頼シ終夜全速力ヲ以テ而モ燈ヲ點セスシテ巡行スルノ外他ニ良策ナカルヘシ然リト雖モ是非常ニ艦員ノ疲勞ヲ來シ戰時ニ於テ最モ貴重トスル原料即チ石炭ノ費用莫大ナル額ニ達スルノミナラス天候宜シキノ時ニ於テ始メテ實行スルコトヲ得ヘシ暴風曇天降雨若シクハ雲霧ノ時ニ於テ燈ヲ點セス全速力ヲ以テ終夜巡行ヲ繼續シ尙且ツ互ニ離散セサラント欲スルモ是レ殆ト爲ス能ハサルコトニ屬ス

然ルニ防禦網ハ前段ニモ既ニ陳述セル如キ旗將ニ便宜ヲ與フルモノナリ即チ旗將ハ防禦網ヲ垂下シテ現在ノ場所ニ止マリ石炭ヲ徒費スルコトナク一夜ヲ經過シ拂曉ヲ待テテ其行動ノ場所ニ到ルヲ得ヘシ艦隊カ港灣ノ封鎖ニ從事スルトキハ夜間ト雖モ此狀態ニ於テ其任務ノ遂行ヲ繼續スヘク砲臺ヲ砲撃スルトキハ其電燈及砲ノ作用ニ依リ夜間ト雖モ敵ノ其壘ヲ修繕スルコトヲ妨害シ得ヘク又運送船ノ護衛ニ從事スルトキハ夜間ト雖モ依然其任務ヲ繼續スルヲ得ヘキナリ

以上列擧シタル利便ハ防禦網ヲ廢棄スル前ニ於テ反覆熟考スルノ價值アルモノトス艦カ防禦網ヲ有セサルトキハ沿岸航通船ノ現ハル、毎ニ警報ヲ發シ混雜ヲ醸スニ至ルヘク又誤テ味方ノ水雷艇ヲ敵艇ト認ムルコトアルヘク其都度虚偽ノ警報ヲ發シ動モスレハ味方ノ人員ヲ射殺スルコトモアルヘシ

第六十七 襲撃隊

或ル海軍々人ニ向ヒテ卿ハ襲撃隊ギレギンヲ以テ碇泊中ノ敵艦ヲ捕獲シ得ルヤト問ハ、彼レハ其殆ント爲シ能ハサル事ナルヲ以テ之ニ答ヘン然レトモ問ヲ一轉シテ更ニ卿ノ艦ハ遂ニ襲撃隊ノ爲メニ捕獲セラル、ノ虞ナキヤト問ハ、敵ニシテ優勢ナルトキハ之レ無シト斷言スルコト能ハサルヘシトノ答ヲ得ン抑モ上甲板ニ於ケル接戦ハ往時ニ在リテハ極メテ通常ノ觀ヲ呈シタルニ拘ラス今ヤ這般ノ光景ハ海軍々人ノ念頭ヲ離去シタル、モノ、如シ今吾人ノ見ル所ヲ以テスレハ接艦手闘ニ依リ碇泊中ノ敵艦ヲ捕獲スルハ全然爲シ得ヘキ事ナリ故ニ本件ハ攻守ノ關係ニ於テ俱ニ與ニ教練ヲ積マサルヘカラサルナリ

第六十八 蒸汽ハ用意シ置クヘキカ

既ニ開戦ノ布告アリ且ツ戰略的觀察ヲ以テスルトキハ我カ陸岸ノ附近ニ於テ時々刻々敵ノ現出ヲ期スヘシト假定セン

各國ノ海軍ニ於テ現行ノ規定ニ據ルトキハ圓筒式及汽車式汽罐ノ蒸汽ノ發生ハ半晝夜ヲ要スルコト、セリ此時間ハ頗ル長大ニ失シ艦隊司令長官ハ之カ爲メ往々自己ノ運動ヲ牽束セラル、ノ不便ヲ感スヘシ而テ之ヲ解釋スルハ左記ニ途ノ内孰レヲ歟採用セサルヘカラス即艦隊司令長官ニ於テ該規定ヲ適宜ト認メサルトキハ之ニ拘泥セス必要ニ應シテ蒸汽ノ發生ヲ命スヘシ若シ否ラサルトキハ不慮ニ備フル爲メ不斷瀋力ヲ維持スヘシト雖モ之ニハ二様ノ不便アリ第一ハ高價ナル材料即チ石炭ノ消費第二ハ瀋罐ノ朽損及湯垢ノ堆積是レナリ將又司令長官ノ果斷ニ依リ規定ニ拘泥セス迅速ニ蒸汽ノ發生ヲ命シタリトスルモ尙ホ且ツ充分ノ壓力ヲ得ルニハ二時間ヲ下ラサルヘシ此時間ト雖モ尙長大ニ失スルモノナレハ未タ以テ満足スヘカラサルナリ一ノ瀋罐ニ依リテ各瀋罐ノ瀋力ヲ維持スヘキ裝置ヲ案出シ且ツ迅速點火ノ方法ヲ得ルハ目下ノ急務ナリトス戰術ノ點ヨリ見ルトキハ此計畫ハ艦ノ瀋罐ニ取リテモ亦水雷艇及瀋艇ノ瀋罐ニ取リテモ極メテ緊要ノ事ナリトス

第六十九 偵察勤務

開戦ト共ニ偵察ノ勤務始マラサルヘカラス而シテ該勤務ヲシテ能ク其任務ヲ盡サシムルニハ如何ニ之

ヲ執行スヘキ歟當局旗將ニシテ敵ノ所在ヲ知ラス又其期望ヲ知ラサルトキハ如何ニ自己ノ勢力ヲ配置スヘキヤ明瞭ナラストハ吾人カ往々耳ニスルトコロナリ斯ノ如キ說ハ固ヨリ據ル所ナキニアラスト雖モ然レトモ自ラ境界アリテ此ヨリ以外ニ及フヲ要セサルナリ先ツ第一著手トシテ自己ノ眼界ヲ擴大スルコトニ努メサルベカラス而シテ此目的ヲ達スルニハ橋ノ頂上ニ昇降ノ便ナル一ノ信號巢ヲ設置スルヲ可トス其他繫留汽球ヲ試用シ戰時ニ於ケル其效驗ノ程度ヲ試験スルモ亦得策ナルヘシ現ニ佛國ノ海軍ニ於テハ之ニ就キテ大ニ研究スル所アリタリ

第七十 望樓

我陸地ノ數多突出セル岬ニ於テ電線ノ聯絡ヲ有スル若干ノ望樓ヲ設置シ以テ我海岸ニ近ク敵ノ現出スルヲ認メタルトキハ直チニ其旨ヲ鎮守府ニ通報シ鎮守府ヨリハ更ニ艦隊司令長官ニ傳達セシメサルヘカラス

是等ノ望樓ニ於テハ附近ヲ通過スル諸艦ヨリ信號ヲ以テ報知ヲ受領シ并ニ之ニ必要ノ命令ヲ傳フル爲メ相當ノ裝置ヲ設備スルノ必要アリ

第七十一 軍艦及水雷艇ノ派遣ヲ以テスル偵察

敵ニ關スル必要ノ事項ヲ知悉セント欲セハ未タ望樓偵察ヲ以テ満足スヘカラス必スヤ味方ノ諸艦及水雷艇ヲ派遣シテ偵察ヲ遂ケシムルノ必要アルモノトス凡ソ偵察ハ近距離及遠距離偵察ノ二種ニ分ツ近

距離偵察トハ偵察ニ從事スル諸艦カ旗將ノ信號ヲ見得ヘキ區域ヲ出テサルトキノ謂ニシテ之ヲ細別シテ普通偵察及遞傳偵察ト爲スヲ得ヘシ而テ遞傳偵察ニ在ル艦ハ互ニ信號ヲ見得ヘキ距離ヲ保チ以テ旗將ヲシテ其自艦ヨリ直チニ見能ハサル艦ニ就キテ報告ヲ徵收シ得セシムルコトヲ圖ルヘキモノトス遠距離偵察ハ比較的多數ノ重要報知ヲ得テ之ヲ旗將ニ傳ヘ得ベシト雖トモ偵察艦ヲ失フノ危険鮮シトセス敵ニモ我レニ劣ラサル速力ノ艦アリト假定セサルヘカラス果シテ然ラハ我偵察艦ハ偶々敵全艦隊ニ出會シ優勢ヲ以テ撃破セラル、コトナキヲ保セス而シテ偵察ノ利益タル素ト偵察艦亡失ノ危険ヲ冒スニ足ルヤ否ヤ吾人ハ寧ロ遠距離偵察ニ於テハ偵察艦ヲ亡失スルノ危険アレハ成ルヘク之ヲ避クルヲ可トスルノ意見ヲ懷抱スル者ナリ又遠距離偵察ニハ敵艦中最モ快走艦ノ聞ヘアルモノヨリ一層速力ノ秀テタルモノヲ撰拔シテ派遣スルヲ可トス此場合ニ於テハ強勢ナル偵察隊ヲ派遣スルヨリ寧ロ機關及航洋質ノ堅牢ナル一隻ノ快走艦ヲ派遣スルノ優レルニ如カス是レ二隻ナルトキハ敵ニ捕獲セラル、ノ危険恰モ二倍増加スルニ均ケレハナリ

第七十二 遠距離偵察

凡ソ偵察ノ爲メニ派遣セラレタル艦ハ自ラ巨細ニ敵ノ情狀ヲ觀察スルコトニ努ムルト同時ニ敵ノ爲メニ發見セラレサランコトヲ努メサルヘカス即チ偵察艦ニ於テハ注意周到ナランコトヲ要シ且ツ石炭ノ燃燒ヨリ煤烟ノ生セサル様相當ノ處置ヲ施サバルヘカラス而シテ煤烟ヲ排除スルノ最良方法ハ「アン

スラサイト」若クハ良質「カルヂフ」炭ヲ用ヒ且ツ其燒燼ヲ遂クル爲メ燃燒ノ秩序正整タランコトヲ要ス強壓通風ニ依ルトキハ未燃了ノ炭粉ヲ吐出スルノミナラス或ル水雷艇ニ在リテハ烟筒ヨリ火煙ヲ吹出スコトアリ是ヲ以テ偵察中ハ敵ニ發見セラル、コトヲ介意スルニ足ラサル場合ニ限り大速力ヲ利用スルコト、爲スヘシ煤煙ハ大距離ニ於テ艦ヲ暴露スルモノナレハ煤煙ヲ燒燼スヘキ裝置ヲ研究シ之ヲ軍艦ニ据附クルハ最モ重大ナル事項ナリトス陸地ヲ背ニスル所ノ艦ハ之ヲ識別スルコトノ比較的困難ナルコトヲ記セサルヘカラス是故ニ我カ艦カ陸岸ニ接シ在ルトキ他艦ヲ見ルモ是レ未タ以テ他艦ヨリモ亦我レヲ見得タリト謂フヘカラス之ニ反シテ我カ艦ヨリ陸地ヲ背後ニシタル他艦ヲ見タルトキハ我カ艦ハ既ニ他艦ノ認ムル所ト爲レリトスルモ恐クハ過チナカルヘシ

晴朗ナル地平ト曇リタル地平ニ關シテハ左ノ如シ即チ清明ナル方ニ向ヒテハ暗黒ナル方ニ向フヨリ遠距離ヲ見ルヲ得ヘシ地平ノ清明ナルト暗黒ナルトハ太陽ノ位置高カラサルトキニ生スルモノナルモ太陽ノ位置高キト雖トモ氣象ノ狀況如何ニ依リテ明暗ヲ異ニスルコトアリ即チ晴朗ナル空ノ下ニハ地平清明ニシテ雲ヲ帶ヘル空ノ下ニハ地平暗黒ナルベシ

他艦ヲ認メタルトキハ之ヲ熟視シ其如何ナル艦ナルカ又何レノ方向ニ進行スル歟ヲ査定セサルヘカラス敵ヲシテ我カ艦ヲ見易カラサラシムル爲メ且ツハ他艦ノ進路ヲ確知スル爲メ艦首若クハ艦尾ヲ以テ之ニ對シ且ツ進行ヲ停止スルヲ可トス既ニ出來得ル丈他ハ何艦ナルヤヲ明確シタル後臨機ノ處分ヲ爲

サ、ルカヘラス即チ發見シタル艦カ我ヨリ微力ナル軍艦ナル歟若クハ商船ニシテ捕獲或ハ尋問ヲ要スルトキハ其針路ヲ横斷スル様ニ進行スヘキモノトス而シテ我カ艦ノ或ル速力ヲ以テシテ最モ迅速ニ之ニ接近スルニハ如何ニ我カ進路ヲ定ムヘキヤ之ニ就テハ歷然タル學說アリト雖モ要スルニ該艦ニ至ル距離ハ漸次遞減シ兩者ノ方位ハ依然トシテ變更セサル針路ヲ採ルヲ以テ最良ト爲スヘシ今ニ我カ艦長カ追跡セントスル艦ノ前方例ヘハ三十度ニ針路ヲ取りタリト假定シ然ル後彼ニ對スル我カ方位角度ノ増大スル歟若クハ減少スル歟ヲ觀察スルニ該角度ニシテ若シ増大スルヲ認メハ之ヲ減少シテ變更ナキ角度ニ來サ、ルヘカラス今當初追跡ヲ受クル艦ノ方位北四十五度東ナリトシ我北十五度東ニ航行セシト假定セン若干時ノ後同艦ハ我ニ近接シ彼ニ對スル我方位北四十八度東ト爲ルトキハ針路ヲ右方ヘ十度變更シ若シ又北四十二度東ト爲ルトキハ左方ヘ十度回轉シ乃チ北五度東ニ航路ヲ取ルヘシ斯ノ如ク針路ハ終始變更スルモ方位ハ變更スルヲ得サルモノナリ商船ヲ追跡シ之ニ達シタルトキハ國際公法ノ規定ニ基キ之ヲ尋問シ且ツ已ニ接受セル訓令ニ依リ若クハ自己ノ意見ヲ以テ之ヲ處分スヘキモノトス捕獲シタル船舶ニ兵員ヲ搭載シ居タルトキハ兵員ノ武器ヲ取上ケ之ヲ我カ艦ニ致スヘキ時間ナキトキハ海中ヘ投棄スヘキモノトス

第七十三 偵察艦ハ戰鬪スベキ歟

偵察艦ノ艦長ナル者ハ敵ノ軍艦ニ出會シタル場合ニ於テハ如何ナル處置ニ出ツヘキ歟豫メ所屬旗將ノ

意見ヲ了承セサルヘカラス本問題ハ種々ニ解釋スルヲ得ヘシ一般ノ說ニ據レハ偵察艦ナルモノハ素ト敵情ニ關スル報知ヲ蒐集スルヲ以テ任務トスルモノナレハ如何ナル場合ニ於テモ決シテ開戦スヘカラスト云ヒ他ノ一派モ亦偵察艦ハ開戦スヘカラサルコトヲ是認スト雖トモ敵ニ大損害ヲ加ヘ得ヘキ場合ニ際會スルアラハ必ス其好機ヲ失フヘカラト爲セリ今茲ニ左ノ如キ場合ヲ假定セン即チ偵察艦ハ夜間港口ニ來リ港内ニ敵艦隊ノ有無ヲ確知センカ爲メ其汽艇ヲ派遣セリ港内ニ侵入セハ汽艇ハ水雷攻撃ヲ行フニ便ナルコトアルヘシト雖モ攻撃ヲ行ハス又敵ニ認メラレスシテ港内ヲ去ルヘシ若シ其水雷ヲ發射スルトキハ假令敵ニ損害ヲ加フルコトアルヘシト雖モ之ト同時ニ己レノ侵入シタルヲ表示シ敵ハ一艦ヲ失フヘシト雖モ後我カ巡洋艦ヲ追撃シテ之ヲ擊破スルコトナキニアラス此場合ニ於テ敵ノ艦隊ニ關スル報告ハ我カ旗將ノ許ニ達スルヲ得サルヘシ

尙左ニ一ノ場合ヲ假定セン偵察艦ハ微弱ナル護衛ヲ附シタル運兵船隊ニ出會セリト此時ニ方リ偵察艦若シ直チニ同所ヨリ引返シテ成ルヘク迅速ニ旗將ニ其旨ヲ報告シタランニハ偵察ノ本務ヨリ論スルトキハ無論其任務ヲ全クシタルモノト謂フヘシ若シ然ラスシテ偵察艦ハ運兵船ノ中央ニ闖入シ砲及水雷ヲ以テ之ヲ擊沈シタランニハ敵ニ損害ヲ加フルコト實ニ莫大ナルベシト雖モ自ラ滅亡シテ該運兵船隊ニ關スル報告ヲ爲シ能ハサルノ虞アルヘシ學理的ニ論議スルトキハ偵察艦ニ對シ開戦ヲ許可セサル方正當ナルベシト雖モ今吾人ノ見ル所ヲ以テスレハチルソン、スウオーロフ若クハナボレオンノ如キ人

物ハ必ラス敵ト開戦シ自ラ滅亡シタルニ依リ必要ノ報告ヲ爲シ能ハサリシ偵察艦ヲ賞賛セシナラン

第七十四偵察ニ關スルスウオーロフノ意見

スウオーロフハ偵察ノ尊崇家ナリシト謂フヘカラス「スウオーロフ」ト題スルオルローフ大佐ノ著書中
(第五十一頁)吾人ハ左ノ數言ヲ見ル

澳國ノ將官等ハ事ヲ決行スルノ勇ニハ乏シキト同時ニ己レノ精勵ヲ表示センコトニ汲々タル者ニヤ或
ル時シユルテルハ偵察ヲ行ハンコトヲスウオーロフニ勸告シタルニスウオーロフハ痛ク之ヲ懲セルコ
トアリ即チスウオーロフハ怒氣ヲ帶ヒ彼レニ答ヘテ謂ヘラク偵察ヲ行フヘシト謂フ乎予ハ之ヲ望マス
夫レ偵察ナルモノハ敵ニ味方ノ期望ヲ豫告センカ爲メ憶病者流ノ用フヘキモノナリ眞ニ敵ノ所在ヲ知
ラント欲スルモノハ偵察ニ依ラサルモ常ニ之ヲ得ルナリ集中銃鎗、白刃、吶喊、攻撃打撃是レ則チ予カ
偵察ニ代用スルモノナリ云々

第七十五 秘密ニ得ル報知

公報ノ外秘密報告ヲ得ルノ組織ナカルヘカラス而シテ間諜ヲ放ツヲ以テ之カ最良ノ手段トス此組織ノ
廣大ニシテ且ツ整頓セル艦隊ハ敵ニ對シ莫大ナル戰術的及戰術的優勢ヲ享有スヘシ過キシ絶東ノ戰争
ニ於テ對手ノ一方ハ弘ク此手段ヲ行ヒ同國ノ間諜ハ到ル所ノ港灣ニ散在セシニ依リ同國ノ政府ハ戰時
禁制品ノ運搬ニ從事スル船舶ヲ知悉セルノミナラス該品ハ船舶ノ何レノ部分ニ搭載シ有ルコトヲ明知

スルニ至レリ是レ同國ノ巡洋艦カ當時成功ヲ收メタル所以ナリトス

秘密探偵ノ組織ハ其幾分歟ハ之ヲ平時ニ於テ創設セサルヘカラス平時ニ於テ相當ノ處置ヲ施シ置カサ
ルトキハ戰時ニ至リ俄ニ適宜ニ之ヲ組織セントスルモ極メテ困難ヲ感スヘシ而シテ其組織宜シキニ協
ハサルニ於テハ敏捷ナル敵手カ弘ク利用スル所ノ利益ヲ收得シ能ハサルニ至ルヘシ

第七十六 敵ノ海底電線ノ破壊

敵手トシテ戰争スル國若クハ殖民地ノ島嶼ナルトキハ其諸外國トノ電線ノ聯絡ハ必ス海底線ヲ以テス
ヘシ是等海底電線ノ切斷ハ敵ノ爲メ一大不便ヲ來スヘキヲ以テ若干ノ艦ニハ海底線切斷用ノ裝置ヲ備
ヘ置クヲ可トス本問題ハ早晚海事練習ノ一科目タラサルヘカラス然レモ海事練習力之ヲ自己ノ所管ト
認メサル間ハ海軍戰術自ラ之ヲ管理スルノ外ナカルヘキナリ

海底電線ニ對スル事業ハ特製ノ汽船ヲ以テ之ヲ行ハシムルモノトス此種ノ汽船ニハ船首及船尾ニ各二
箇乃至三箇ノ輪^{シブ}ト強力ノ起重器^{ウイシテ}ヲ備フルナリ(第十六圖參看)而シテ海底ヨリ電線ヲ引揚クルノ必要ア
ルトキハ船首ヨリ鋼索ニ結著シタル堅牢ナル五爪錨ヲ海底ニ垂下シ(第十七圖參看)此錨ハ電線ヲ引掛
クヘク又船中ニ於テ鋼索ノ弛張ニ注目スルトキハ必ス錨ノ電線ヲ掛ケタル時ヲ鑑定シ得ヘシ錨ノ一
タヒ海底線ニ掛リタルトキハ勿論機關ノ運轉ヲ停止シ慎重ニ之ヲ引揚クヘシ海ノ深サ大ナラサルトキ
ハ一回ニシテ之ヲ水面ニ引揚クルヲ得ヘク深サ大ナルトキハ電線ノ有スル弛ミハ水面ニ引揚クルニハ

不充分ナルヘキニ依リ先ツ之ヲ若干ノ高サニ致シ是ニ於テ錨索ニ浮標ヲ結著シテ電線ヲ支持セシムヘシ之ヲ結了シタルトキハ更ニ多少前者ニ隔離セル他ノ場所ニ於テ電線ヲ捕ヘ成ルヘク之ヲ引揚ケテ復タ浮標ヲ結著ス(第十八圖參看)此時ニ方リ兩浮標ノ間ニ於テ電線ヲ全ク引揚ケテ之ヲ船首ニ取入レ損所ニ達スルマテ之ヲ手操クリ行クナリ又電線ヲ引揚ケタルトキハ二ヶ所ニ於テ之ヲ船體ニ緊著シ其中央ヲ切斷シテ損所ノ所在ヲ知ランカ爲メ兩方面ニ電報ヲ送附スルコトアリ或ハ又切斷セス單ニ之ヲ刺シ透シテ電報スルモ可ナルカ如シ

該事業ハ素ヨリ大ニ熟練ヲ要スヘシト雖モ今吾人カ聞ク所ニ據レハ深サ千五百尋ノ所ニ於ケル海底線ノ引揚ハ天候良好ナルトキハ實ニ無難作ニ爲シ得ヘキモノ、如シ既ニ電線沈設ニ從事スル汽船ハ毎年幾回モ之ヲ遂行スルコトアリ何ントナレハ或ル場所ニ於テハ海底ニ岩石多ク電線ヲ磨滅スルコト甚シケレハナリ

海底線ノ切斷ノ爲メニハ其修繕ノ時ニ於ケルカ如キ熟練ヲ要セサルナリ錨及鋼索アレハ足レリ若シ所要ノ長サノ鋼索ヲ携帯セサルトキハ下方ニ長サ百尋許リノ鋼索ヲ付シ夫レヨリ麻索ヲ以テ補足スルヲ得ヘシ而シテ吾人ノ意見ニ據レハ錨ヲ附シタル索ハ船首ヨリ垂下スルヲ利トス錨ヲ以テ電線ヲ捕獲スルノ一事ハ本事業中最モ困難トスル所ナリ何ントナレハ電線ノ存在ハ確知シ能ハサル場合アレハナリ電線ヲ引掛ケタルキハ索ヲ取り之ヲ引寄スヘク電線ノ水面上ニ引揚ケラレタルトキハ之ヲ捕ヘ且ツ之

ヲ切斷シテ其一端ヲ海底ニ投シ又他ノ一端ヲ手繰リ行キツ、若干ノ個所ニ於テ切斷シ前ノ如ク之ヲ舷外ニ投棄スヘシ斯ノ如クスルコト若干哩ニ涉リタル後電線ヲ船體ニ緊著シテ尙一回後進ヲ行ヒツ、之ヲ切斷シ暫時進行シタル後之ヲ海中ニ投棄スヘシ若又前上陳述スル如ク處分スルノ違ナキトキハ海底線ヲ水上ニ引揚ケ之ヲ堅牢ニ緊著シタル後船體ヲ以テ一方ヘ引キテ之ヲ切斷シ續テ他ノ方向ヘ引キ行キテ更ニ他ノ箇所ヲ切斷スヘシ(第十九圖參看)而シテ船内ニ取り入レタル電線ハ之ヲ遠隔セル場所ニ致シテ之ヲ海中ニ投棄スヘキモノトス此事業ハ深サ二百尋以內ノ所ニ於テハ各軍艦ニ於テ爲シ得ヘシト雖モ深サ更ニ大ナル時ハ特別ノ裝置ヲ有スル船ニアラサレハ困難ヲ感スヘシ又海底線ハ二線ヲ沈設スルモノナレハ假令其一線ヲ切斷スルモ毫モ效果ヲ見サルコトヲ念ハサルヘカラス即チ必ス他ノ一線ヲ搜索シテ之ヲ切斷スル必要アルモノト知ルヘシ

何レノ場所ニ於テ如何ナル事ヲ結了シタルヤヲ知悉スル爲メ工事中ハ一時毎ニ自己ノ所在地點ヲ測定シ以テ同一場所ニ於テ再ヒ搜索ヲ爲サス且ツ第一線ヲ發見シタル附近ノ場所ニ於テ第二線ヲ搜索スル爲メニ便スヘキモノトス其他海底電線ノ搜索ニ從事スル艦ニハ電信技手ヲ乘込マシメ又電信機械ヲ備ヘ置ヲ便宜トス

吾人ハ茲ニ海軍雜誌(千八百九十五年第六號第五百七十九頁)ニ掲載セル海底電線引揚錨ニ關スル記事ヲ引用セントス願フニ該錨ハ岩石ノ地盤ニ於テハ尋常ノ錨ニ比シ効驗顯著ナルヘシト雖モ軟質ノ粘土

ニ於テハ或ハ尋常ノ錨ニ劣ルコトアルベシ
 海底電線捕獲用ノ錨、該錨ハ(發明者クロード、ジョン)五爪(第二十圖ニ於テ見ユル如ク)ヨリ成ル
 モノニシテ其各爪ハ少シク廻搖シ得ル様其中心ニ環著セリ而シテ通常ノ位置ニ於テハ是等ノ錨爪ハ彈
 機ヲ以テ下方ニ壓迫セラレ該錨ヲ岩石質ノ地盤上ニ牽行クトキハ下方ノ二筒ノ錨爪ハ錨ノ周邊ヨリ成
 レル爪蓋ノ内ニ潛入スト雖モ彈機アルヲ以テ毫モ電線ヲ引掛ケルコトヲ妨ケサルヘシ而シテ彈機ノ彈
 力ハ一定ニ整理スルコト容易ナリ
 固著爪ヲ有スル錨ハ牽行ノ際地盤ニ掛リ以テ大ニ不便ヲ來スモノナリ前記ノ錨ヲ粘土上ニ牽行トキハ
 錨ハ二爪ヲ以テ電線ヲ捕フルナリ而シテ今日マテ舉行セル試験ノ成績ニ依レハ此錨ハ岩石質ノ地盤ニ
 於テ成功ヲ告クルノミナラス何レノ場合ニ於テモ亦然ラサルコトナシ

第十一章

單艦戰法

第七百七十七 術語解

簡明ニ意思ヲ表示シ易カラン爲メ左ノ定語ヲ用フ

「艦首ノ方」トハ我カ舷側砲ノ旋回シ得ヘキ限りニ於テ最モ艦首ニ近邇スルノ方向ヲ意味ス

「艦尾ノ方」トハ艦尾ニ向ヒテ右ト同一ノ意義ヲ有ス

「追跡」トハ敵カ我カ正横ノ前方ニ位置ヲ占ムルトキヲ謂フ

「追跡ヲ受クル」トハ敵カ我カ正横ノ後方ニ位置ヲ占ムルトキヲ謂フ

「攻撃者」トハ兩對手中戰鬪ヲ挑ミタル者ヲ謂フ

「防守者」トハ同シク戰鬪ヲ挑マレタル者ヲ謂フ

第七百七十八 何レノ點ニ於テモ我レハ有利ノ位置ニ立ツコ

トニ務メサルヘカラス

海戰ナルモノハ個人間ノ果シ合ニアラス即チ名譽ノ格闘ニアラス隨テ兩敵手ハ諸般ノ條件悉ク同一ナ
 ルヲ要セサルナリ否之トハ全然反對ニテ我カ爲ニハ可及ノ利便ヲ占メ敵ヲシテ成ルヘク不便ノ位置
 ニ立タシメサル可カラス是則チ戰術ノ本務ニ屬シ其成功愈々完全ニシテ我カ損失愈々寡少ナルヲ得ヘ
 シ即チ曾テ伯德大帝カ謂ヒタル如ク「瑣少ノ流血」ヲ以テ奏功ヲ告クヘキナリ

是ヲ以テ何事カ我カ爲メニ有利ニシテ敵ノ爲メニ不利ナルヤハ慎重ニ查覈セサルヘカラサルモノトス

第七百七十九 戰鬪ノ挑發

戰鬪ノ挑發ハ風及海上ノ現況ニ於テ優勢ノ速力ヲ有スル艦ニ屬スルヲ常トス戰鬪ヲ開始スルト否トハ
 戰鬪ノ挑發ヲ有スル艦ニ依テ決セラル、モノナリ且ツ戰鬪ヲ開始スルヤ否ヤヲ決スルニ方リ樞要ノ畫

策ハ必ス戰略的一般方略ニ協ヒ又司令長官ヨリ各艦長ニ交付スル訓令中ニ包含スヘキモノナリ吾人ハ之ヨリ一般ノ規定ニ關シ聊カ開陳スル所アラントス

第一百八十 戰鬪ヲ避クヘカラサル場合

凡ソ任務ヲ遂行スルニ方リ之ヲ妨過スル者アルトキハ戰鬪ハ必ス開始スヘキモノトス今茲ニ左ノ如キ場合ヲ假定セン即チ多數ノ商船ヲ有スル貿易國ノ巡洋艦アリ該商船ノ殄滅ヲ目的トスル敵ノ巡洋艦ニ出會セン歟此場合ニ於テ甲ノ巡洋艦ハ假令敵ヨリ微力ニシテ勝算ナキモ必ス戰鬪ヲ開始スヘキモノトス斯ノ如クスルトキハ幾分敵ノ戰鬪力ヲ殺滅シ以テ少シク其破壞的行動ヲ妨過スルニ於テ奏功スルナルヘシ

又運兵船ヲ護衛スル一艦若クハ數艦ニ關スル一例ヲ舉示セン若シ護衛艦敵ニ出會セハ敵ヲシテ我運兵船ヲ殄滅セシムヘカラス故ニ戰鬪ハ假令不利ナルニ拘ラズ必ス開始セサルヘカラサルナリ

敷設水雷面ヲ守護スル諸艦ハ敵來リテ其水雷ヲ破却セントスルトキハ假令味方ヨリ優勢ノ戰鬪力ヲ以テスルモ必ス戰鬪ヲ開始シ以テ敵ノ行動ヲ防止スヘキモノトス

第一百八十一 軍艦ノ比較的勢力

概言スレハ強力艦ハ微力艦ト戰鬪スルヲ利トス何トナレハ此場合ニ於テハ戰鬪ノ初期ニ於テハ戰鬪ノ初期ニ於テ早く既ニ優勢ヲ占メ敵ノ火力ノ減退スルニ乘シテ或ハ之ヲ滅却シ或ハ降參セシムルヲ得ヘ

ケレハナリ

然レトモ如何ナル艦ヲ以テ強力者ト爲シ又如何ナル艦ヲ以テ微力者ト爲スカ是レ極メテ困難ナル問題ナリトス往昔風帆艦時代ニ在リテハ諸艦ノ實力ハ正比例ヲ以テ其排水量ニ應シタルヲ以テ排水量ノ大ナルモノハ其少ナルモノヨリ常ニ強力ナリシナリ而シテ概言スレハ今日ト雖モ尙排水量ヲ以テ艦ノ實力ヲ算定スルヲ得ヘシ同一ノ排水量ニ於テ甲ハ優等ノ速力ヲ有スルモ甲艦薄ク乙ハ速力少キモ厚キ甲艦ヲ有スルコトアリ即チ甲艦ノ速力ノ優等ナレハ乙艦ノ堅牢ナルヲ以テ相償フヲ得レハ結局艦隊ノ實力モ一般ニ其排水量ヲ以テ算定スルヲ得ヘシ是マテ艦ノ各特質ヲ數字ヲ以テ表示シ此數字ノ合計ニ依テ艦ノ全力ヲ言顯ハスコトヲ試ミタルコトアリ斯ノ如キ意思ハ良好ナルニ疑ナシト雖モ元來使用スル所ノ係數任意ニ係ルニ依リ此計算法ヲ以テ得ル所ノ成績モ亦多少任意ナルヲ免レス隨テ此問題ニ向テ他ノ論難ヲ容ル、ノ餘地アルモノナリ

有テユル狀況ヲ斟酌シ一艦ノ實力ヲ詳細ニ計算スルハ事頗ル錯雜ヲ極ム現ニ艦隊ノ戰鬪ニ於テ快走巡洋艦ハ諸艦ト陣列ヲ作ス間其著大ナル遠力ヲ利用スルヲ得スシテ自ラ其卓質ヲ失ヒ其排水量ニ相當スル實力ヲ開發シ能ハサル可シ戰鬪艦モ亦或場合ニ於テハ速力不足ナルカ爲メ其所期ヲ貫徹シ能サルコトアルヘシ何トナレハ其敵手タル快走艦ハ戰鬪ヲ回避スルコト隨意ナレハナリ

或場合ニ於テハ小艦却テ大戰鬪艦ヲ凌クコトアリ諸艦ノ實力ハ情狀ノ如何ニ依リテ大ニ變動スルモノ

ナリ今茲ニ一例トシテ戰闘艦「レヅリユーシヨン」及水雷巡洋艦「グリーナー」ノ相携エテ航行スル場合ヲ取ラン戰闘艦ハ動搖甚クシテ爲メニ殆ト運用ノ自由ヲ失ヒタリ此狀況ニ於テハ其巨砲ハ全然使用スルコト能ス小砲ハ之ヲ使用スルモ命中ノ望ナシ此時ニ於テ「グリーナー」號ノ動搖大艦ノ如ク甚クシカラスシテ尙其水雷ヲ發射スルヲ得タリ是ヲ以テ右ノ情況ニ在リテ戰闘力ノ關係ニ於テ「グリーナー」號ハ「レヅリユーシヨン」號ヨリ強力ナリシナリ前記ノ兩艦ニシテ若シ互ニ敵手ナラシメタラシニハ「グリーナー」號ハ無論戰闘ヲ開始スヘキ地位ニ在リシナリ之ヲ要スルニ波動猛烈緩長ナルトキハ大艦ハ動搖劇甚ニシテ水雷ヲ裝ヘル小艦却テ大艦ヲ凌駕スルニ足ルコトアルモノナリ又前ニモ既ニ述ヘタル如ク喫水淺キ艦ハ水雷戰闘ニ於テ敵ノ水雷自艦ノ底下ヲ通過スルコトアルモノナレハ茲ニ謂フ所ノ勢力ノ條件ハ特ニ喫水淺キ諸艦ニ關スルモノトス

以上論シタル所ニ依リ一ノ戰術的規則ヲ制定スルヲ得ヘシ即チ大艦ハ其動搖劇甚ナル所ニ在ルヲ不利ト爲スコト是ナリ是等ノ狀況ニ在リテハ甚シキ動搖ヲ避クル爲メ陸地ニ接近スル歟否ラサレハ敵ニ屬スル小艦ノ襲來ノ虞ナカシムル爲メ陸地ヨリ巨大ノ距離ニ退去スルヲ利トス霧及概シテ險惡ナル天候ハ水雷ヲ裝ヘル小艦ニ便宜ヲ與フルモノトス何トナレハ大艦カ小艦ヲ認ムルノ瞬時ニ於テ大艦ハ早ク既ニ敵ノ水雷ノ有効限界内ニ在ルヘク敵ハ暫時ニシテ自己ノ悉皆ノ水雷ヲ發射シ然ル後敵彈ノ爲メ格別損害ヲ被ムルコトナク現場ヨリ退去スルヲ得ヘケレハナリ暗夜モ又霧ニ齊

シク小艦ニ利アリ何トナレハ假令探海燈ヲ使用スルモ小艦ハ距離二哩以上ニ於テ發見セラルノ虞ナケレハナリ平均計算ニ於テ小艦ハ唯距離五「ケーブル」以内即チ自己ノ水雷ヲ發射スルニ適當ナル距離ニ於テ發見セラルヘキモノトス是ヲ以テ左ノ斷案ヲ下スコトヲ得ヘシ

(イ) 普通ノ水雷裝置アル小艦ハ夜間霧中若クハ險惡ナル天候ニシテ艦ノ動搖スルトキハ其實力大艦ニ優ルコト

(ロ) 戰闘ハ天候ノ或狀況ヲ除キテハ實力ノ大ナル艦ニ有利ナルコト

多數ノ場合ニ於テ晝間ハ排水量ノ大ナル艦強力者タルヘク夜間若クハ霧アルトキ及大艦ノ動搖甚シキトキハ著大ナル水雷ノ設備アル小艦強力者タルヘキヲ以テ小艦ノ爲メニハ此ノ如キトキニ戰闘ヲ開始スルヲ利トス故ニ凡ソ小艦ハ是等己レニ便宜ナル狀況ニ於テ巧ニ行動シ得ンカ爲メ前記ノ場合ノ如キハ平素能ク研究シ熟練ヲ圖ラサルヘカラサルナリ

第百八十二 戰闘ノ爲メ有利若クハ不利ナル情況

敵ノ爲メ水雷攻撃ヲ受クルノ虞アリトスル艦ニシテ若シ爾他ノ事情ノ之ヲ妨害スルコトナクンハ成ルヘク淺所若クハ淺瀬ノ附近ニ在リテ沈没ノ場合ニ於テ自ラ水中ニ沈ムコト甲板以下ニ止ムルコトヲ圖ルヘシ之ニ反シテ水雷ヲ裝ヘル諸艦ハ深所ニ在ル諸艦ヲ攻撃スルヲ利トス則チ斯クスルトキハ沈没ノ場合ニ於テ敵艦ノ損失完全ナレハナリ又爾餘ノ狀況同一ナルトキハ我港灣ニ隔離シタル場所ニ於テ開

戦スルヨリハ之カ附近ニ於テ開戦スルヲ利トス何トナレハ損傷ノ場合ニ於テ修繕ヲ加フヘキ安然ノ停繫所ニ到達スルコトノ容易ナレハナリ又敵艦ニ應援ヲ與ヘキ敵ノ艦隊ノ附近ニ於テスルヨリハ必要ノ際ニ我ニ援助ヲ與ヘ得ヘキ我艦隊ノ附近ニ於テ開戦スルヲ利トス

第百八十三 戦闘ノ種類ノ撰擇

敵ヲ發見スルヤ前ニ述ヘタル所ニ基キ直ニ戦闘ヲ開始スヘキヤ暫時猶豫スヘキヤ將タ全然之ヲ回避スヘキヤヲ決斷セサルヘカラス若シ果シテ戦闘開始ニ決セハ或ル作戦方略ヲ定メサルヘカラス開戦後ノ事ハ多クハ敵ノ行動自他ノ損失等ニ應シテ變更スヘシト雖モ戦闘開始以前ニ於テ自己ノ運動ニ關シ豫メ明確ナル計畫ヲ有スルハ極メテ有益ナルヘシ即チ遠距離ニ於テ闘フヲ利トスル歟近距離ヲ以テ利トスルカ水雷及衝角戦闘ヲ爲スヲ利トスル歟然ラサルカ等ニ關シ豫メ定メ置クコト是ナリ

第百八十四 單獨戦闘ノ細別

前ニ衝角ノ用法ニ就キテ論スルニ當リ吾人ハ一ニ衝角ノミヲ以テ戦闘スルノ場合ヲ假定セリ然レトモ實際ニ於テハ衝角ノミノ戦闘モ亦水雷ノミノ戦闘モアルヘキモノニアラス各艦ハ必ス砲水雷ヲ併セテ搭載スルモノナレハ二艦カ衝角打撃ヲ行フ爲メニ相近接スルトキハ勢ヒ水雷ノ有效区域内ニ入ルモノナリ而シテ砲ニ至リテハ何レノ場合ニ於テモ必ス相當ノ任務ヲ盡スモノトス又或ル時ハ戦闘ハ一ニ砲戦ヲ以テ終局スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ各艦ハ相互ノ水雷ノ有效区域内ニ入ラサルナリ

是ニ由リテ之ヲ觀レハ戦闘中對手艦ニシテ水雷ノ有效限界以外ニ在ルトキハ兩者ノ間ニハ砲戦起ルヘク對手艦カ水雷ノ有效限界内ニ入ルニ及ヒテ砲戦水雷戦併ヒ起ルヘシ又拳銃彈着距離ニ接近シタルトキハ戦闘ハ砲戦、水雷戦衝角戦ト爲ル可シ

左記ノ觀察ハ戦闘ノ種類ニ關スル問題ノ決解上大勢力ヲ有スヘキモノトス我艦ニシテ強力ノ水雷ヲ有シ砲力微弱ナルモ魚形水雷命中シ能ハサル程喫水淺キトキハ成ルヘク速ニ水雷ノ有效限界内ニ接近スルヲ利トス之ニ反シ我カ艦ノ砲力強大ニシテ敵ノ砲力微弱ナルトキハ水雷距離以外ニ在テ以テ我砲力ヲ利用シ敵ヲ殲滅スル歟或ハ接近スルニ先チ敵ノ水雷發射管ヲ破壊スヘキナリ

強大ナル砲力ハ概チ大艦ニ在リテ強力ノ水雷ハ小艦ニ在リ是ヲ以テ水雷發射距離内ニ接近スルハ大艦ヨリ小艦ニ有利ナルモノナリ又水雷ヲ有セサル艦ニシテ快疾且回轉ノ自在ナルモノハ衝角戦闘ヲ有利ト爲サン然レトモ最近式ノ艦ハ孰レモ水雷發射管ヲ搭載スレハ衝角戦闘ヲ開始スルコトニ決シタル艦ハ水雷ノ點ニ於テ非常ニ不利ナル狀勢ニ陥リ自己ノ衝角ヲ應用スル前早ク既ニ著大ナル損害ヲ被ルコトアルヘシ

第百八十五 艦ノ接近

戦闘ノ種類ヲ斷決シタル以上ハ敵ニ接近スルヲ要ス或ル外國ノ海軍ニ於テハ自艦ノ艦首ヲ以テ敵ニ向テ一直線ニ接近スヘキコトヲ規定セリ然レトモ尙ホ他ノ方法ヲ以テ之ニ接近スルヲ得ヘシ但シ本件ニ

關シテハ後ニ第百八十八項及ヒ第百八十九項中詳細陳述スル所アルヘシ然リ而シテ敵亦我ニ近接スルノ意アリトセハ近接ハ極メテ迅速ナルヘク戰鬪開始ト決シタル瞬間以後ノ事ハ悉ク疾風ノ勢ヲ以テ經過スルモノナレハ時間ヲ以テ計算セス則チ秒數ヲ以テ計算スヘキナリ

此項クロンシユタツト海軍軍法會議ノ公判ニ附セラレタル巡洋艦

「ラズボイニツク」ト「バーク」船「ドロード」號トノ衝突事件ハ本件ニ關シ右所見ノ正鵠ヲ證スルニ足ラン即チ第二十一圖ニ示シタル實線ハ「ラズボイニツク」號カ「バーク」ノ舷首ヲ衝キ其裝素ノ一部ヲ破壊シタル航路ヲ示セリ若シ五秒後レテ舵ヲ取リタランニハ兩者ハ殆ト艦首ヲ以テ互ニ相衝突スヘク若シ十秒前ニ舵ヲ取リタランニハ兩者ハ無事ニ通過セシナラン則チ七節ノ微速力ヲ以テスルモ尙ホ且ツ五秒乃至十秒ノ行違ヨリ此椿事ヲ醸成セルナリ

尙ホ茲ニ他ノ場合ヲ取ラン互ニ交叉セントスル航路ヲ以テ進行スル二艦アリA艦ハ其衝角ヲ以テ第二十二圖ニ示スカ如クB艦ノ中央ヲ打撃スヘシト雖トモA艦ニシテ其運轉ノ初期ニ於テ以前ノ位置ヨリ自艦ノ長サ程前進シタランニハ自ラB艦ノ爲ニ打撃セラル、ナラン
互ニ近接スル諸艦ノ速力如何ハ左表ニ就キテ之ヲ見ル可シ

兩艦ノ距離

兩航ノ速力

	十節	十五節	二十節	二十五節
四〇 <small>ケイブル</small>	一一、五〇 <small>分秒</small>	八、五二 <small>分秒</small>	五、五五 <small>分秒</small>	五、五 <small>分秒</small>
三〇	八、五二	六、三九	四、二六	三、四九
二〇	五、五五	四、二六	二、五七	二、三二
一〇	二、五七	二、一三	一、二九	一、一七

前表ニ就キテ見ルトキハ速力二十節ヲ有スル二隻ノ軍艦カ互ニ相接近スルトキハ五分五十五秒ニシテ四十「ケイブル」ノ距離ヲ通過スヘシ若シ夫レ四十「ケイブル」ヲ以テ兩者カ砲戰ヲ開始スルノ距離トスレハ射撃ノ開始ヨリ兩者カ其艦首ヲ以テ互ニ相衝突スルマテニ六分マテハ經過セサルヘシ

兩艦ハ距離十五哩ニ於テ即チ極メテ遠大ノ距離ニ於テ互ニ發見シ兩艦共速力二十節ヲ以テ互ニ相接近セントスルトキハ之ヲ遂行スルニ僅ニ二十二分間ヲ要スヘシ兩艦ハ斯ノ如ク迅速ニ近接スルノ故ヲ以テ戰鬪ノ準備ニ供用スヘキ時間極メテ僅少ナリトス舊式戰鬪艦ノ時代ニハ準備ヲ要スル事項少クシテ敵手ノ相接近スル時間永カリシモ今ヤ準備ヲ要スルモノ多クシテ近接ノ時間頗ル短少ナリトス是ヲ以テ迅速ニ艦ノ戰鬪準備ヲ整頓スルノ伎倆ハ極メテ重大ノ關係ヲ有スルモノナリ

第百八十七 戰鬪中艦ハ運動シ得ヘキ歟

或論者ノ意見ニ依ルトキハ戰鬪中艦ハ運動ハ極メテ困難ニ涉リ且之ヲ顧ミルノ違ナキモノ、如シト然

レトモ吾人ノ説ハ之ト全然反對セリ吾人ハ幾多ノ單獨戦闘ニ於テ諸艦カ巧妙ニ帆ヲ以テ運用セラレタルヲ熟知ス「ネルソン」ノ戦闘方略ハ其艦隊ノ諸艦ヲシテ敵線ヲ切斷セシムルニ外ナラサリシナリ斯ノ如キ運用ハ困難ニハアラサルヘシ唯之ヲ行フ時機ノ如何即チ敵ヲ距ル僅ニ拳銃彈着距離ニ於テ操縱スル必要アルノ差アルナリ

千七百九十五年三月十四日ジエノワ灣ノ戦闘ニ於テネルソンハ始終敵ニ向ヒ一舷打方ヲ行フ爲メニ乗艦「アガメノン」ヲ操縱シ又更ニ近接スル爲メ艦首ヲ反ヘシテハ敵ニ向ハシメタリ

シノーブ、ナワール、アブキール及コペンハーゲン等ノ戦闘ニ於テ諸艦カ彈丸雨注ノ下ニ停繫シテ艦尾ヨリ「スプリング」ヲ掛ケテ艦ヲ操縱セルハ吾人カ知悉スル所ニアラスヤ

往時數百ノ綱具ヲ操縱スルノ必要アリタル風帆艦ノ場合ニ於テスラ尙ホ且艦ハ自在ニ運用スルヲ得タリ然ルニ今ヤ舵器ノ操縱ハ二個ノ把柄ヲ左右スルニ止マレハ何ソ砲火ノ下ト雖モ艦ヲ運用シ能サルノ理アランヤ吾人ハ確信ス艦ハ戦闘中宛モ平時ノ演習ニ於ケルカ如ク巧妙ニ運用シ能フコトヲ之ニ就キテハ吾人茲ニ一ノ實例ヲ示スヲ得ヘシ即チ汽船「ウラヂミール」號ト「ベルワーズ、バチリー」號トノ戰鬥ヲ目撃シタル海軍將官カルニローフハ汽船「ウラヂミール」號ノ船長ゲー、イー、ブタコーフノ行動ヲ評シテ曰ヘラク彼レカ迅速ニ而カモ泰然トシテ砲火ヲ保持シ且其船ヲ操縱シタル態度ハ毫モ演習ノ時ニ異ナル所ナカリシト

第百八十八 二隻ノ同勢力戰鬥艦ノ出會

吾人ハ茲ニ兵器及甲板ノ關係ニ於テ同勢力ノ戰鬥艦二隻ノ出會ノ場合ヲ觀察セン即チ兩者ノ砲ハ通常ノ如ク艦首艦尾ニ一箇ツ、ノ砲塔ヲ備ヘ之ニ各二門ツ、ノ巨砲ヲ据附ケ且ツ兩者ノ間ニハ六インチ砲若干門ヲ据附ケタリ兩艦ノ戰鬥力ハ素ヨリ同一ナレハ先ツ砲戰ヲ開始スルヲ可トス之ヲ遂行センカ爲メ互ニ射擊距離マテ近接シテ敵艦ヲ舷首ノ一方ニ望見スヘシ此時ニ當リ敵若シ我ニ反對ノ針路ヲ以テ進行セハ面舵トスルモ取舵トスルモ風向天候其他ノ關係ニ於テハ利害ヲ異ニスルコトナカルヘシ何トナレハ兩對手共ニ砲戰ノ開始ヲ希望スル以上ハ必スヤ兩艦ハ旋轉ヲ行フヘク故ニ風及太陽ニ關スル利害ハ兩艦交々變換ヲ來スヘケレハナリ敵若シ我レヨリ離去スルノ方向ヲ取ラハ我艦之ニ追隨スヘシ又互ニ併行針路ニ於テ將ニ砲戰ヲ行ントスル際ニ當リテハ風及太陽ノ關係上優等ノ位置ヲ占ムルコトヲ圖ルヘカラス

右ニ述ヘタル二様ノ砲戰ニ於テ始終敵ヲ我舷首ノ方位ニ維持シ以テ砲塔及舷側砲ヲ利用シ傍ラ我甲板ヲシテ鈍角ヲ以テ之ニ向ハシムルコトヲ努メサル可ラス敵若シ我ヲ彼ノ舷首ノ方位ニ維持センコトヲ圖ル時ハ兩艦自然第二十三圖ニ示スカ如キ曲線ヲ描出スヘク兩艦ハ迅速ニ近接シテ水雷發射距離ニ達スヘキナリ此時ニ當リ敵ノ損害我レヨリ著大ニシテ其砲ノ一部既ニ沈黙シタルトキハ之ヲシテ水雷發射距離以內ニ近ケサルヲ可トスヘク即六「ケイブル」以上ノ距離ヨリ之ヲ艦尾ノ方ニ致シテ尙ホ砲戰ヲ

繼續スヘシ之ニ反シ我艦ノ損害敵艦ヨリ著大ナルトキハ我水雷ノ效用限界ニ入ルマテ近接シ敵艦ノ該限界ニ入ルヲ待テ艦首ヲ一轉シテ以テ之ニ向ハシメ艦首水雷ヲ發射シ且ツ爲シ得ヘクンハ舷側發射管ヲモ使用スヘキモノトス

第百八十九 敵カ艦首ヲ以テ相對シ我ニ向フノ場合

砲戰ノ初期ハ此場合ニ於テモ亦前者ト毫モ異ナルコトナシ敵ハ我ヲ其艦首ニ維持シ其悉皆ノ艦首砲ヲ以テ我レヲ射擊シ我ハ敵ヲ艦首ノ方位ニ維持シ悉皆ノ舷側砲ヲ以テ之ヲ砲擊ス(第二十四圖參看)既ニシテ我レハ尙一直線ニ正艦首方位ヲ以テ向フヨリ寧ロ艦首方位ノ位置ヲ有利ト認ムルトキハ成ルヘク永ク敵ヲ此ノ位置ニ維持スヘシト雖モ一タヒ水雷發射距離ニ近接スルトキハ敵ニ比シ我レハ一層著大ナル標的ト爲ルノ不利ニ陥ルコトヲ忘却スヘカラス故ニ水雷ノ有效限界内ニ入ルヤ我カ艦首ヲ一直線ニ敵ニ向ケ爾後ハ此位置ヲ支持スヘキナリ此時ニ當リ反對舷ノ舷首砲ニシテ未タ使用セサルモノハ艦首ヲ一轉シ敵ニ向ヒタルトキニ於テ直ニ發射スルニ差支ナキ様用意シ置ヘシ又時宜ヲ計リテ艦首水雷ヲ發射スヘク且ツ衝突ノ場合ニ於テ成ルヘク有利ノ位置ニ在ル様始終敵ニ對シ我カ艦ヲ運轉スルコトヲ努メサルヘカラス

敵若シ一直線ニ我ニ向ハスシテ恰モ我カ側方ヲ通過スルノ意ヲ示シタルトキハ我モ亦彼ノ側方ヲ通過スルノ意ヲ示スヘシト雖モ最後ノ瞬間ニ於テ艦首ヲ彼レニ向ケ以テ其舷ニ衝角打撃ヲ加フ歎然ラサル

ハ少クモ其螺旋ノ一ヲ破壞スヘシ斯ノ如クスルトキハ雷ニ衝角打撃ヲ加ヘ得ルノミナラス一ハ以テ敵カ同一ノ擧ニ出テントスルニ際シ我カ艦體及螺旋ヲ防禦スルノ效アルヘシ若シ又敵カ一直線ニ我ニ向ヒ最後ノ時ニ於テ艦首ト艦首ノ衝突ヲ回避スルノ意ヲ示シタルトキハ我ハ之ニ乘シ時機ヲ計リテ舵ヲ操リ以テ其舷側ニ衝角打撃ヲ加フヘキモノトス

若シ我レニ於テ艦首ノ近接ヲ回避センコトヲ欲セハ豫メ充分ノ距離ニ於テ回轉ヲ開始セサル可カラス例ヘハ速力十二節ナルトキハ敵ハ一分間ニ二「ケーブル」ヲ通過スヘク十八節ナルトキハ三「ケーブル」ヲ通過スヘキニ依リ我カ艦ニシテ二分間ニ於テ半回旋ヲ描出スルモノトセハ十八節ノ速力ヲ以テ進行スル敵ヲ距ルコト六「ケーブル」ノ所ニ於テ回轉ヲ開始セハ其回轉ノ末期ニ於テ敵ハ我カ舷側ニ迫接スヘシ是ヲ以テ艦ノ回轉ハ少クモ九「ケーブル」ノ所ニ於テ開始スルヲ要ス若シ夫レ回轉開始ノ時機ヲ逸センカ決シテ回轉スヘカラサルナリ何トナレハ此時ニ於テ我カ艦ハ必ス敵ヨリ衝角打撃ヲ受クヘケレハナリ我カ艦ノ速力敵ヲ凌駕スルノ場合ニ於テハ我ハ回轉ヲ行ヒタル後敵ヲ正艦尾ノ方位ニ見ルコトナク彼レヲ半艦尾ノ方向ニ保持シ機ヲ見テ砲及水雷ノ射撃ヲ開始スルヲ可トス

第百九十 水雷艇若クハ爾他ノ小艦トノ出會

近接セントスル小排水量ノ艦ト出會シタル場合ニ於テハ或ハ二隻ノ戰鬪艦ノ出會ノ場合ニ齊シキ舉動ニ出ツル(即チ始メ敵ヲ艦首方位ニ維持シ後チ乍チ正艦首ヲ以テ一直線ニ之ニ向フ)歟或ハ兩者ノ速力

伯仲ノ間ニ在ルトキハ敵ヲ半艦尾ニ致スヘシ敵ヲ半艦尾ニ致スノ場合ニ於テハ大ニ時間ヲ遷延スルヲ得ヘク隨テ彼レカ水雷ヲ應用スル以前ニ於テ我カ砲力ヲ以テ敵ノ戰鬪力ヲ滅殺スルノ利アルヘシ既ニ水雷ノ有效限界内ニ入りタル時ハ直ニ艦尾ヲ以テ之ニ對スルヲ可トス

或事情ノ爲メ水雷艦ヲ半艦尾ニ致スヲ得サルトキハ先ツ彼ヲ艦首方位ニ致シ十「ケイブル」ノ距離ニ於テ之ニ舷側砲ノ射撃ヲ行ヒ而シテ後艦首ヲ以テ之ニ對シ近接セントスル間始終此位置ヲ維持スルコトヲ努ムヘキモノトス蓋シ此位置ハ水雷射撃ニ對スルニ最モ有利ナルモノトス此時ニ當リ水雷巡洋艦モ亦舵ヲ操ラサルニ於テハ必スヤ兩艦首ノ衝突生スヘク彼レ若シ舵ヲ轉回セハ我ハ直ニ追跡ス可シ

第百九十一 要職ニ在ル艦員ニ訓令書ヲ交付スルノ必要

各艦ニハ戰鬪中必ス考察ヲ要スル特質ノ存在スルモノナリ故ニ艦長ナルモノハ訓令書ヲ以テ各將校ニ特別ノ訓示ヲ爲シ且各將校カ專行シ得ヘキ事項他ヨリ指令ヲ受クヘキ事項報告ヲ要スル事項及許可ヲ受クヘキ事項ヲ規定スルヲ要ス各將校ハ該訓令ノ外尙チユレニスノ勸告ヲ服膺スヘキモノトス即チ曰ク

此ノ外ニ至リテハ余ハ諸君ニ勸告ス諸君カ自己ノ胸中ノ常識ニ聞カンコトヲト

凡ソ將校タルモノハ戰鬪中其本務ニ執掌シ本務ノ外他ノ事柄ニ關係スヘカラスト云フ單純ナル眞理ヲ記憶スヘキナリ茲ニハ各艦員ニ就キテ詳細陳述セサルヘシ唯砲臺士官ニ對スル訓示ノ一斑ヲ掲クルニ

止メン凡ソ現今ノ砲ハ發射ノ正確ナルコト最高度ニ達シタレハ照準ノ正シカラサル砲ヲ以テ發射セハ彈丸ハ無論命中セサルコトヲ各砲臺士官自身ニ記憶シ且ツ砲手ヲシテ之ヲ記憶セシメサル可ラス是ヲ以テ砲手ヲシテ照準ヲ正サ、ル砲ヨリ發射スルヲ差止ムヘシ斯等ノ射撃ハ敵ニ無害ニシテ却テ味方ニ有害ナルモノナリ何トナレハ其砲烟ハ他砲ノ照準ヲ妨害シ砲手及彈藥運搬ニ從事スルモノヲシテ徒ニ疲勞セシムレハナリ敗北ヲ來スノ最良ノ手段ハ即チ狙ハスシテ射撃ヲ行フニ在リ而シテ平素演習ニ於テ斯ノ如キ射撃ヲ默許スル者ハ是レ自艦ノ益ヲ圖ル者ニ非ラスシテ敵ヲ益スル者ナリ砲臺ヲ指揮スル士官ハ砲員ノ士氣ヲ振興スル爲メ始終之ヲ獎勵スルヲ以テ其重ナル任務ト爲スヘシ負傷者ハ綑帶場ヘ運搬シ戰死者ハ側方ニ致シテ之ヲ掩蔽スヘシ血痕等ハ悉ク甲板ヨリ排除シ且ツ甲板ニハ砂ヲ散布シ滑倒ノ虞ナカラシムヘシ之カ爲ニハ常ニ手許ニ砂ヲ有セサル可ラス此規則ハ舊時ノ遺物ニ屬スレハ今ヤ之ヲ念頭ニ置カサル者多シ砲臺士官ハ砲員ヲ獎勵シ其勇氣ヲ鼓舞シ味方ノ死傷ハ見ルヲ得キモ敵ノ死傷ハ見ルニ由ナキヲ以テ時々敵ノ死傷ニ就キテ實地若ハ假定ノ報告ヲ爲サシムヘシ艦長ハ此等ノ報告ヲ各砲台毎ニ高聲ニ傳達セシムヘシ此時ニ方リ至甲板ニハ萬歲ノ歡聲起リ命中ヲ誤ラサル砲聲萬歲ノ聲ニ傳フテ連續スヘキナリ射撃ヲ行ハサル一舷ノ砲手及其他事ニ與ラサル者ハ戰鬪中悉皆横臥スヘシ砲臺士官ハ一舷ノ砲手疲勞シタルトキハ之ヲ他舷ノ砲手ト交替セシメ且ツ必要ノ場合ニ於テ死傷者ノ補充ヲ行フコトニ注意スヘキモノトス砲ノ傍ニハ桶若シクハ樽ニ飲料水ヲ蓄ヘ置クヘシ負傷者ハ特

ニ屢々水ヲ希望スルモノナリ縋帶場ニハ充分ニ清水ヲ蓄ヘ置カサルヘカラス

第十二章

艦隊戰鬪

第百九十二 艦隊戰鬪ノ重要ナルコト

敵ノ艦隊ノ殲滅ハ戰略上及政略上巨大ナル影響ヲ及シ得ヘシ是ヲ以テ一朝二艦隊ノ出會スルニ方リ我カ艦隊ヲシテ戰勝者タラシメンカ爲メ有ラユル方法手段ヲ盡サ、ルヘカラス凡ソ海戰ノ主眼ハ敵ヲ挫キ之ヲシテ我カ要求ヲ容レシムルニ外ナラサルナリ而シテ個々別々ニ數艦ヲ破却スルモ敵ノ士氣ノ上ニ影響スル所ハ大ナリト雖モ而カモ十回ノ戰鬪ニ敵ノ十隻ヲ亡失セシメシニ依リ假令全艦隊ノ艦數ハ之ニ及ハストスルモ其之ヲ一時ニ破却スルニ生スル感動ハ決シテ前者ノ比ニアラサルナリ故ニ苟モ艦隊ノ戰鬪ニ關スルモノハ細大ノ別ナク頗ル精寄ノ講究ヲ要スヘク且ツ可及的ノ方法ヲ盡シテ平時ノ航海ト戰鬪中トヲ論セス艦隊ノ操縱ハ整然トシテ些ノ間然スル所ナキ程度ニ達セシメサルヘカラス

第百九十三 戰鬪方法ノ教訓ニ對スルナポレオン及ロイドノ意見

海戰ヲ督スル爲メ正確ナル規則ヲ設ケントスルハ極メテ困難ナルモノナリ假令之ヲ附與スルコトヲ得

ルトスルモ戰鬪ヲ指導シテ成功ヲ期スルニハ未タ以テ充分ナリト謂フヘカラス本件ニ關シナポレオン曾テ左ノ如ク謂ヘリ

ホーメルノ「イリアド」若クハコルチーリノ悲劇ノ一ニ値ヒスル傑作ヲ著ハサント欲シテ之カ規則ヲ制定セント欲スルモ是レ爲シ得ヘキ事ニアラサルナリ此種ノ著作ハ素ヨリ詩想ノ熟シタル時ニ於テ始メテ爲ルモノナリ吾人ノ技術即チ戰事ノ計畫（作戰）ニ關シテモ亦前ト異ナルコトナシ又ロイドノ曰ク

戰術ナルモノハ大ニ詩歌及能辨ニ髣髴タルモノアリ多數ノ人ハ能ク之ニ關スル規則ヲ知レリ然リト雖モ之ヲ運用スル機能ヲ有スル者極メテ尠シ良シ偶々是等ノ人士カ一物ヲ作爲スル事アルモ單ニ這般ノ諸規則ヲ嚴守セル著作タルニ過キスシテ元來大天才ノ特有物タル神聖ノ熱情ニ乏シク乾燥無味讀ムニ耐ヘサルモノトス吾人ノ技術モ亦全然之ト探ラ一ニス吾人ノ技術ニ關スル規則ヲ知悉スル者極メテ多シト雖モ之ヲ實地ニ應用スルニ方リ周章狼狽自ラ處スル所ヲ知ラサルナリ是ニ於テ歎倉皇教科書ヲ繙キテ獲ル所アラントスルモ森林山谷河川ハ彼等ノ想像的（即論理的）計畫ノ如ク自在ナラスシテ却テ彼等ノ計畫ハ森林等ノ現狀ニ應シ變化スルノ必要アルヲ如何セン

前記ノ二評論ハ巧ニ戰鬪ヲ爲スニハ天賦ノ才能ヲ要スルヲ證明シテ餘リアルモノトス即チ凡ソ戰鬪ニ關スル諸規則ハ悉ク之ヲ研究シタル人ト雖モ戰鬪ノ指導ニ於テハ頗ル不適任ナルコトアルヘク又

將帥ノ任務ニ關シ曾テ何等ノ研究ヲ爲サ、ル才能アル人モ亦均シク其任ニ適セサルヘシ之ヲ要スルニ氣力識力伎倆ト相須チテ始メテ戰爭ニ必要ナル性質悉ク具備スルハ論ヲ俟タサルナリ

第百九十四 戰時諸問題ニ係ル決斷ノ價值

海軍ニ上將タル者ハ作戰方略ヲ作り之ヲ決行スル方法ヲ案出セサルヘカラス之ヲ以テ戰時問題ノ決斷ニ對シ諸大家カ如何ニ解釋シタル歟ヲ紹介スルニハ無益ノ勞ニアラサルヘシ
ナヒーモフ曾テ左ノ如ク謂ヘリ(メニユーフ雜記但シ寫本)

一名ノ智者アル可ナリ二名ノ智者アル更ニ可ナリ併シ一時ニ百名モ集合スレハ囂々囂々愚論百出ノ後俱ニ飲食シ會合ノ目的スラ忘却シテ散會スルヲ常トス軍議アル場合ニハ予ハ何時モ所勞ナリト知ルヘシト

アドミラルナヒーモフノ言ハ意義極メテ深重ナリ現ニ多數ノ集會ハ有益ナルコト甚タ稀ニシテ一名ノ人オト會談スルハ常ニ有益ナルモノナリ何トナレハ斯ノ如ク自己ノ考案自然ニ増シ判明スルコトアレハナリ其他ノ方面ヨリ公平ニ事ヲ觀察スル人ノ意見ヲ聽キ取ルハ決シテ無益ニアラザルヘシ然レトモ人材ハ皆其所説ヲ以テ他ヲ補益スルモノニアラス現ニ某ノ事件ニ通曉スル者數名相集リ同伴ニ付キ協議スルニ方リ意見ノ合同スル場合ハ實ニ多カラサルナリ又學識該博ナル人ニシテ自ラ他人ノ所説ヲ咀嚼スルノ勞ヲ取ラス故ニ假令其説ハ卓越ナルモ全然問題外ニ渉ル意見ヲ吐露スルノ如キハ實例ニ乏シ

カラス茲ニ一個ノ人物アリ相當ノ知識ヲ有シ果シテ問題ノ解決ニ熱心ナルニ於テハ斯ノ如キ人物ノ協議ハ必ス良成績ヲ與フルニ疑ナカルヘシ然ルニ多數人ノ參與スル協議ニ於テハ非凡ノ卓越名案ハ却テ採用セラル、コト尠ナシ斯ノ如キ協議會ニ於テ若シ議長ニ其人ヲ得サレハドラゴミローフ將軍カ所謂十二賢人ノ評議ト同一轍ニ歸スヘシ

ジヨミニーハ本件ニ關シ左ノ如ク謂ヘリ

ナポレオンノアルスーラニ對スル運動リウオリーノ戰鬪ノ計畫サンベルナル越ノ運動若クハゲーラ及イエーナニ於テ實行シタル運動ヲ以テ軍議ニ出シタランニハ該會議ハ如何ニ之ヲ議決シタルヘキヤ會員中ノ臆病ナル者ハ斯ノ如キ行動ノ大膽ニ失シ殆ト狂氣ノ沙汰ナリト稱スヘク他ハ之カ實行ヲ妨クヘキ障礙ヲ列舉シテ底止スル所ナカルヘク畢竟皆廢案ニ歸シタルナラン

ケラウゼウキツ(戰爭學第六頁)ハ左ノ如ク論セリ之ヲ咀嚼セハ其意義ノ深重ナルヲ知ルヘシ

凡ソ平凡ノ事ニアラサレハ決行シ能ハサル人ハ非凡ニ涉ル事ハ唯其實行セラレタル後ニ於テ始メテ其爲スヘキヲ知ルナリ大企業ニシテ未タ實行セラレサル前ニ在ツテハ之ヲ決行シ得ルノ器アル人ノ外ハ之ヲ爲シ能ハサルモノト思惟スルモノナリ要スルニ大企業ヲ實行シ得ヘキヲ事前ニ知ルノ明ハ則チ大器ト凡人ト相異ナル所以ナリトス

ナポレオンハ左ノ如ク説ケリ(戰則第六十七頁)

彌久ノ考慮乃至軍議ナルモノハ之ヲ數世紀ノ歴史ニ徵スルニ皆不良ノ決議ヲ以テ終局スルモノナリ是レ戰フニ當リ小膽即チ臆病ナル所爲アルヲ以テ明瞭ナリ眞個ノ才能ハ斷然タル所決ヲ行フ知識ニ外ナラサルナリト

勝敗ノ岐カル、場合ニ於ケルクラウゼウキツノ訓誡ニ曰ク

戰爭ノ成功ハ最良ノ方法ヲ議決スルニ由ルモノニアラス議決ノ如何ニ拘ハラス一タヒ議決シタル以上ハ斷々乎トシテ之ヲ實行スルニ在リト

ロツカンクール謂ヘラク戰爭ニ於テ凡ソ爲シ得ヘキ最惡ノ決斷ハ如何ナル事ヲモ決斷セサルニ在リト又アルシヤルチイノ曰ク戰爭中司令官ノ罪惡ハ不決斷ニ若クモノナカルヘク特ニ敵軍ト接近ノ場合ニ於テ最モ然リトス議論ノ爲メニ時間ヲ徒費スルコトナク速ニ決裁スル所ナカルヘカラスト

レール將軍（戰畧本論第十一頁）記シテ曰ク

作戰方畧ノ基礎ト爲ルヘキ事項ノ研究ハ堅忍永時ノ勞動、精密ノ觀察、分析及多數人ノ協議ヲ要スヘシト雖モ既知ノ事項ヲ基礎ト爲シ方畧其モノ、制定即チ或ル決斷ノ採用ハ立トコロニ一人ノ腦裡ニ之ヲ爲サ、ルヘカラサルモノトスト

ナポレオンハ左ノ如ク謂ヘリ

茲ニ一事ヲ設計スルニ其三分ノ二ヲ豫謀シ残り三分ノ一ヲ臨機ノ所置ニ委スルハ是レ其當ヲ得タル

モノナリ凡ソ戰爭ニ於テ一事モ臨機ノ處分ニ出テサランコトヲ期望スル者ニ對シテハ初メヨリ何事モ企畫セサランコトヲ忠告スルニ如カスト

之ト同一ノ問題ニ付テフレデリツキ大王ハ左ノ斷案ヲ下セリ

戰爭ニ於テ必要ナルモノニアリ曰ク伎倆曰ク好運是ナリ凡ソ爲シ得ヘキ慎重ヲ守リ充分精密ニ計畫スル所アルモ皆不成功ニ歸シ去ルカ如キ不幸ニ際會スルコトアリ故ニ戰爭ナルモノハ嚴格ナル數理的ノ企業ニアラスシテ多少賭博ノ性質ヲ帶フルモノナリ故ニ其勝敗ノ數ハ當事者ノ巧拙如何ニ在テ存スルモノナリト

グラウゼウキツ（第八頁）ハ左ノ如ク謂ヘリ

或ル場合ニ對シテ作戰ノ方法ヲ撰定スルニ方リ常ニ最モ大膽ニ渉ルモノヲ採用スルカ或ハ慎重ナルモノヲ採用スル歟二者其一ヲ取ラサルヘカラスト學理ハ常ニ最モ慎重ナル決斷ヲ採ルコトヲ勸告スルカ如ク想像スル者アリト雖モ是レ無根ノ見解ナリトス學理ニシテ勸告スルコトアリトセハ無論最モ斷乎タル決斷即チ戰爭ナルモノ、天性ニ適合セル最モ大膽ノ決斷ヲ以テスルナラン然レトモ學理ハ各將軍ニ要スルニ自己ノ勇氣自己ノ企業心及自信ノ程度ニ應シ行動スルコトヲ以テスルモノナリ故ニ己レノ氣力ニ應シテ處決スヘシ然レトモ名將ノ名ヲ博シタル者ハ勇往敢爲ノ士ノミナリシコトヲ忘却スヘカラスト

以上ノ拔文ニ由リテ之ヲ觀ルニ長官タルモノハ常ニ大膽ニ事ヲ決シ後斷々乎トシテ之ヲ實行セサルヘカラスクラウゼウキツノ言ニ曰ク薄志弱行ノ者カ現在ノ事ニ付キテ惹起スル劇烈ナル感動ハ之ヲ未來ノ事ニ比スレハ其所謂未來ハ最近ノ時ニ屬スルモ必ラス非常ニ大ナルモノナルコトヲ記憶セサルヘカラス凡ソ人事ノ錯誤ノ淵源ハ大概人カ現在ヲ恐怖スルノ過度ナルト未來ヲ恐怖スルノ寡キニ座スルモノナリト

一問題ヲ決スルニ方リ專心其事件ニ注意シ己レノ行動ニ對シテハ自ラ其責任ノ衝ニ當リ時ノ狀況ヲ酌量シツ、自己ノ判斷ニ依頼スヘキヲ記憶スヘキモノトスナポレオン曾テ謂ヘルアリ戰爭ニ於テハ主トシテ時ノ狀況如何ヲ顧ミ常識ヲ以テ決斷セハ成功ヲ庶幾スヘシト

第百九十五 海上ニ出航スルトキ若クハ戰鬪前ニ於テ旗

將ハ各艦長ヲ召集スヘキコト

各艦長ヲ召集スルノ必要ハ雷タニ之ト協議ヲ遂クルカ爲メノミアラス會談シテ以テ其勇氣ヲ鼓舞シ成功ノ所信ヲ厚カラシメンカ爲メナリ艦隊ニ於ケル夫ノ相互ノ應援ハ戰場ノ何レノ方面ニ於テモ各員共ニ憤戰シ孰レモ敵ヲ殄滅セサレハ止マサルノ決心ヲ抱懷スルノ所信ヲ各自ノ心中ニ厚カラシムルノ外ナカルヘシ

第百九十六 勝利ヲ獲ンカ爲メ全力ノ集中

勝利ヲ得ンカ爲メニハ味方ノ全力ヲ集中スルノ必要アルハ諸大家ノ俱ニ是認スル所ナリ凡ソ成功ノ程度ヲ増進スルニ足ルヘキモノハ如何ナル方法ト雖モ決シテ蔑視スルコトナク必ス味方ノ現在資力ヲシテ必要ト認ムル所ヨリ大ニ超過センコトヲ努メサルヘカラス但シ此勸告ヲ以テ小資力ヲ以テ事ヲ開始スヘカラストノ意義ニ了解スヘカラス然レトモ一ト度ヒ事ヲ開始セハ如何ナル手段ニ依ルモ味方ノ勢力ヲ増加スルノ途アラハ無論之ヲ増加スルヲ可トスクラウゼウキツ(戰則第三十七頁)ハ左ノ如ク謂ヘリ

我目的ヲ達セントシテ必ス遵奉スヘキ最重要ノ手段トシテ其有ラユル全力ヲ集中スルノ一事ニ外ナラサルナリ此努力ノ極度輕減スルトキハ則チ目的ノ達貫ハ自然遠サカルナリ假令戰鬪ハ我カ勝利ニ歸スルノ狀況ナルモ尙一層努メテ必勝ヲ期セサルハ失策ノ極ミト謂ハサルヘカラストナポレオン(戰則第三十七頁)ハ左ノ如ク謂ヘリ

戰鬪ヲ開始セントスル者ハ自己ノ軍隊ヲ悉ク集中シ如何ナル分隊ト雖モ決シテ蔑視セサルヲ以テ犯スヘカラサルノ原則ト爲スヘシ戰鬪ノ勝敗ハ僅ニ一箇大隊ノ爲メニ決スルコトアリトナポレオン亦謂ヘラク戰鬪ヲ開始スルニ先チ曾テ兵數ノ過多ナルヲ感シタルコトナク常ニ其可及限リ之ヲ集中シタリト

給養ノ爲メニハ軍隊ヲ散在セシメ戰鬪ノ爲メニハ之ヲ集合セシムルヲ以テ將軍ノ秘訣ト爲ストノ原則

モ亦ナボレオンノ唱道シタル所ナリ

第九十七 艦隊ノ編制

本問題ニ關シテハ意見區々ニ涉リ一定スル所ナシ多數大家ノ所見ニ依レハ戰豫艦隊ナルモノハ盡ク戰艦ノミヲ以テ編制スヘシト往時戰列ナルモノハ所謂戰艦ヲ以テ組成シタルカ故ニ前記ノ意見ノ如キモ夫ノ弗列^{フレガット}戛形以下ノ諸艦ヲ戰列ニ入ラシメス列外ニ保タシメタル當時代ノ規則ニ胚胎スト云フモ敢テ過言ニアラサルヘシ往時行レタル意見即チ容積ノ大小ヲ以テ艦ノ實力ヲ定ムルコトハ今日ニ於テモ尙ホ正鵠ヲ得タルモノナリ即チ戰艦ハ常ニ弗列戛ヨリ強力ナルヘク故ニ戰列ノ中央ニ弗列戛ヲ挿入シ以テ其一部ノ勢力ヲ減殺スルノ事由ナカリシナリ夫ノ水雷巡洋艦及水雷艇ノ如キ小艦ニ關シテハ今日尙同論鋒ヲ用フヘシト雖モ獨リ大巡洋艦ニ至リテハ如何ニシテ之ヲ艦隊戰團ニ應用スヘキヤ是レ一ノ問題ナリトス從前ニ在リテハ弗列戛及爾他ノ小艦ヲ巡洋艦ト看做シタルモ今ヤ多數ノ巡洋艦ハ其排水量ヨリ見ルモ寧ロ戰團艦ニ近似スルモノナリ

抑々巡洋艦ナル名稱ハ吾人之ヲ狹義ニ失スル嫌アリト認ム何トナレハ巡洋艦ナル語ハ巡邏勤務ニ專任スル軍艦ノ意義ニ了解スト雖モ吾人ノ見ル所ニ據レハ是等ノ諸艦ハ砲戰ニ加ハリテ又能ク成功ヲ期シ得ヘキモノトス吾人ハ諸艦ヲ種別シテ裝甲艦半裝甲艦及非裝甲艦ノ三種ト爲スノ正鵠ナルヲ確信スル者ナリ即チ直垂甲板ヲ以テ吃水線及砲臺ノ一部ヲ掩護セルモノハ第一種ニ屬シ砲臺防護ナキ諸艦ハ第

二種ニ屬シ直垂甲板ヲ有セサルモ防護甲板アリテ機關及喫水線下ニ於ケル爾他ノ致命部ヲ掩護スルモノハ第三種ニ屬スヘシ吾人ハ斯ノ如キ類別ヲ以テ適宜ト看做シ以下之ニ據ルヘシ

非裝甲艦ノミヲ以テ別ニ艦隊ヲ編成シタランニハ其大速力ヲ利用スルノ便宜ヲ得ヘシト雖モ是ト同時ニ其全勢力ノ綜纜上錯雜ヲ免カルヘカラス茲ニ艦隊司令長官カ自ラ裝甲艦隊ヲ率ヒテ敵ニ當リ次席ノ旗將ヲシテ巡洋艦ヲ引率セシムト假定セン此場合ニ於テ司令長官ハ次席ノ旗將ニ充分行動ノ自由ヲ付與スル歟若クハ一般方略ノミヲ訓令シ其細目ニ至リテハ次席旗將ニ一任スル歟或ハ又始終信號ヲ以テ巡洋艦隊ノ行動ヲ指導スル歟三者孰レヲ歟擇ハサルヘカラス願フニ砲烟及爾他ノ事由ノ在ルアリテ戰團中信號ノ受授頗ル困難ヲ感スルコトアルヘシ甚シキニ至リテハ司令長官ハ相當ノ時機ニ於テ司令官ニ自己ノ命令ヲ傳達シ能ハサル場合ナキヲ保シ難シ是ヲ以テ巡洋艦ヲ以テ別ニ艦隊ヲ編成スル場合ニ於テハ其司令官ニハ充分行動ノ自由ヲ付與セサルヘカラス而シテ巡洋艦隊司令官ナルモノハ艦隊司令長官ノ行動ニ注意シ其目的ヲ推察シ自己ノ艦隊ヲシテ裝甲艦隊ノ行動ヲ妨害セスシテ能ク之レト同一ノ目的ヲ達貫スヘキ行動ニ出テシメサルヘカラス

分艦隊司令官タル者如何ニ其技ニ巧妙ナリトスルモ而カモ或ル場合ニ於テハ本艦隊ノ行動ヲ妨害スルコトナキヲ保セス故ニ艦隊司令長官ハ衝突ノ虞アリト思惟スル運動ハ司令官ニ令シテ行ハサラシムヘシ現ニ他艦カ自由ニ運動シツ、アル區域ニ於テハ假令一艦ヲ以テスルモ之ト同一ノ場所ニ於テ運用ス

ルハ元ヨリ至難ノ事業ナリトス若シ之ヲ疑フ者アラハ宜シク近距離ニ於テ二箇ノ浮游標的ヲ設置シ二艦ヲシテ此標的ノ周圍ヲ運轉セシムヘシ標的ノ周圍ヲ運轉スルニ艦ノ艦長ハ其本來ノ目的ヲ顧ルノ違ナク一ニ唯相互ノ衝突ヲ回避スルコトヲ惟レ努ムルニ至ルモノナレハ其困難實ニ大ナリト謂フヘキナリ既ニ這般ノ不便アリトセハ非装甲艦ハ悉皆之ヲ縱陣ノ尾端ニ排列セシメ以テ此不便ヲ避クルニ如カサルナリ斯ノ如クスルトキハ是等ノ諸艦ハ毫モ全體ノ運動ヲ妨ケサルノミナラス逃走ヲ謀ル敵艦ノ追跡若クハ爾他ノ所要ノ爲メ之ヲ分離スルノ必要アルトキハ信號ニ依リテ容易ニ之ヲ遂行スルコトヲ得ヘシ吾人ハ戰鬪開始ノ當時ニ於テ非装甲艦ヲ總テ陣形内ニ排列セシムルヲ以テ寧ロ利便ト爲スモノナリ

第百九十八 陣形ノ撰擇

本題ニ關シテハ古來意見百出シ所謂時勢ト俱ニ變遷ヲ來セルモノナリ則チ主トシテ衝角ヲ應用シタル古代ノ戰術ハ橫陣ヲ作りテ敵ヲ攻撃スルヲ適宜ト認メタリ然レトモ衝角廢棄セラレ海戰ハ一ニ砲戰ヲ以テ終始スルニ至ルヤ戰鬪ニ與カル諸艦ハ之ヲ單縱陣ニ作ルコト、爲レルナリ蒸氣ノ採用ハ戰鬪陣形ニ關スル解釋ヲ變更セサリシト雖モ曩ニ「メリマツク」ニ依テ遂行セラレタル衝角ノ成功ハ更ニ復々橫陣ヲ尊重スルノ傾向ヲ惹起セリ降テ梯陣ナルモノ現出シリツサノ戰鬪ニ於テアドミラルテゲトーフハ其艦隊ヲ梯陣ニ作りテ敵ニ當リタルカ此梯陣ナルモノハ其實兩翼ヲ後方ニ傾ケタル橫陣ニ髣髴タル

モノナリテゲトーフノ對手タルアドミフルバルサノ一ノ採レル陣形ハ單縱陣ナリキ此海戰ニ於テハ戰鬪ノ初期ニ於テ既ニ兩陣形共ニ錯亂ヲ來シ亂戰ノ状態ヲ呈シタリ當時伊國艦隊ノ敗北ヲ以テ單ニ陣形ノ撰擇宜シキニ適セサリシ一事ニ歸スルノ論者鮮カラス雖トモ是レ原ヨリ取ルニ足ラサル迷説ナリト謂ハサルヘカラス

鴨綠江ノ海戰ニ於テ伊東中將ハ自己ノ艦隊ヲ二箇ニ分割シ俱ニ單縱陣ヲ作レリ伊東中將カ第二艦隊ニ其行動ヲ指令セントシテ發シタル信號ハ遂ニ誤解セラレタリ是レ戰鬪中信號ノ依賴シ難キヲ主張スル吾人ノ見解ノ誤ラサルヲ幾許歎證明スルモノト謂フヘシ然リ而シテ伊東中將カ單縱陣ヲ採用シタル理由那邊ニ存スルヤ素ヨリ吾人ノ知ル所ニアラスト雖モ恐ラクハ中將カ信號ノ深ク依賴スルニ足ラサルヲ看破シタルノ結果此ニ至リシモノナラン而シテ單縱陣形ハ信號ニ依ラスシテ能ク運用シ得ヘキ唯一ノ陣形ナリトス此理由ハ極メテ重大ニシテ爾他ノ陣形カ如何ナル長所ヲ有スルモ單縱陣ヲ以テ最利最便ノ戰鬪陣形ト認メサルヘカラス若シ夫レ艦隊カ單縱陣以外ノ陣形ニ排列シタルトキ旗將タル者如何ニシテ戰鬪ヲ指導シ得ヘキヤ吾人ノ始ト判斷ニ困ム所ナリ陣形ノ改作ハ信號ニ依リテ之ヲ行フヲ得ヘシト雖モ之レ戰鬪ノ開始前ノコトナリ又戰鬪中ト雖モ複雜ナラサル信號ニ限リテ之ヲ爲スヲ得ヘシ一般ノ尋常信號ハ假令諸艦ノ内ニテ解セサル者アルモ災厄ヲ醸成スルノ虞ナカルヘク且ツ各艦悉ク之ヲ了解セサルトキニ之ヲ降下スルモ格別差支ナカルヘシ獨リ運動ニ係ル信號ハ之ト異ナリ各艦ノ應答ヲ

見サル間ハ降下スヘカラサルモノトス否ラサルトキハ諸艦ノ衝突ヲ來シ怖ルヘキノ不幸ヲ招クコトアルヘシ

以上列擧シタル事由アルヲ以テ吾人ハ左ノ斷案ヲ下スニ躊躇セス即チ戰鬪中艦隊ヲ操縦シ得ヘキ唯一ノ陣形ハ則チ單縱陣ナリトス此陣形ハ上記ノ主タル長所ノ外猶ホ他ニ輕視スヘカラサル特質ヲ有スルモノトス

(イ) 諸艦ニ於ケル砲ノ排列法ヲ案スルニ其最大火力ハ兩舷側ニ在リテ最小火力ハ艦首及艦尾ニ在リ故ニ單縱陣ニ據ルトキハ味方ノ諸艦ハ舳艫ヲ以テ相連繫スルヲ以テ最大火力ヲ備フル舷面ハ敵ニ砲撃ヲ加フルニ全然自由ヲ有スルモノナリ

(ロ) 單縱陣ニ據ルトキハ味方ヲ射撃スル虞最モ少キモノナリ之レ戰鬪中重大ナル長所ト謂ハサルヘカラス

(ハ) 單縱陣ニ據リテ進行スルトキハ陣列ノ整備ヲ守ルニ至便ニシテ艦長ハ本件ニ就キテ意ヲ奪ハル、コト寡シ是ヲ以テ艦長ハ比較的専心ニ自艦ノ砲及水雷ノ行動ヲ指導スルコトヲ得ヘシ

(ニ) 單縱陣ニ於テ後續艦ハ前續艦ノ爲メニ衝角打撃ノ防衛ト爲ルヘシ何トナレハ其前續艦ヲ打撃シタル敵艦ニ對シ自ラ衝角打撃ヲ加フルヲ得ヘケレハナリ此論ハ自ラ明瞭ニシテ夫ノ衝角打撃ヲ行フタル艦ハ一時進行方ヲ失却シ彼ノ後續艦方十二節ノ速力ヲ以テ四百碼ノ距離ヲ馳行

スルニハ唯僅ニ一分時間ヲ要スルニ過キサルモノナリ是ヲ以テ己レノ前續艦カ衝角打撃ヲ被リタルヲ目撃シタル各艦ハ須臾モ躊躇スルコトナク倏忽其針路ヲ變更シ互ニ接合シタル二艦ノ内敵ヲ打撃セサルヘカラス

艦ト艦トノ距離ヲ四百碼(艦ノ中央ヨリ計算シテ)ト定メテ進行スル單縱陣ヲ横斷スルハ極メテ危険ナル運動ニ屬スルモノトス譬ハ横過セント圖ル敵艦ニシテ味方諸艦中ノ一隻ニ衝角打撃ヲ加ヘタリトセンカ同艦ハ縱陣ヲ横斷スルヲ得スシテ却テ衝角打撃ヲ被リタリ被害艦ノ次キニ進行スル味方ノ艦ノ爲メニ自ラ打撃ヲ被ラサルヲ得ス若シ假リニ横斷ヲ企圖シタル艦カ兩艦ノ中間ニ突入シ得タリトスルモ亦大ニ衝角打撃ヲ受タルノ危険ヲ冒サルヘカラス抑モ二「ケーブル」ナル艦ト艦トノ距離タル二艦ノ延長ニ過キサレハ己レノ艦首前ヲ通過セラレントスル艦ニシテ全速力ヲ出シ少シク其針路ヲ變更スルニ於テハ該艦ニ衝角打撃ヲ行ヒ其目的ヲ果サ、ルコト殆ト之レナカルヘシ

第百九十九 艦隊司令長官旗艦ノ位置

風帆艦時代ノ儀式ニ據レハ司令長官ハ其旗將ヲ必ラス三層甲板艦ニ掲ケタリ當時上將ハ概テ三層甲板艦ヲ以テ自己ノ乘艦ニ充ルヲ例トセリ而シテ旗將ハ通常戰列ノ先頭ニ其位置ヲ占メ或ハ戰列ノ中央ニ在リシコトモ亦其例ニ乏シカラス然ルニ現時ノ海軍ニ於テ旗將若シ單縱陣ノ素質ヲ利用シ信號ヲ使用セスシテ己レノ艦隊ノ行動ヲ指導センコトヲ欲セハ必スヤ自ラ其陣頭ニ立タサルヘカラス又多數論者

ノ意見ニ據レハ敵ノ砲撃ヲ最モ容易ニ耐ヘ得ヘキ最堅牢ノ装甲艦ヲ以テ旗艦ニ充テサルヘカラサルモノ、如シ敵カ旗艦ヲ砲撃スルノ劇烈ナルハ他艦ノ比ニアラサルハ毫モ疑ヲ存セス故ニ装甲ノ最モ堅牢ナルモノヲ以テ旗艦ニ充ツヘシトノ意見ハ素ヨリ正鵠ヲ得タリト謂フト雖モ本件ニ對シテハ更ニ復タ他ノ方面ヨリ觀察ヲ下スコトヲ得ヘシ

快走水雷艇若クハ水雷巡洋艦ヲ以テ旗將ノ乘艦ニ充テ旗將ハ此小艦ニ搭シテ己レノ陣頭ニ立ツモ亦好策ニアラスヤ斯ノ如キ艦カ具備スヘキ必要ナルモノハ大旗ヲ以テ信號スルニ足ル高サノ檣ヲ有スレハ足レリトス旗將ノ生命ノ安全ノ點ニ於テハ何レニ據ルモ別ニ大差アルヲ見サルナリ何トナレハ旗將カ四方ヲ望見スルノ便ヲ缺ケル司令塔内ニ在ルハ不便是ヨリ大ナルハナシ故ニ装甲艦ノ甲板ハ旗將ノ爲メニハ毫モ掩護トナルモノニアラサルナリ

輕艦ヲ以テ旗艦ニ充ツルヨリ生スル利益左ノ如シ

(イ) 旗將ハ何レノ時ニ於テモ豫メ信號旗ヲ掲揚シテ隊列ヲ脱去シ戰列ヲ檢閲スルコトヲ得ヘシ

(ロ) 旗艦ハ其容積ノ小ナルカ爲メ大艦ノ如ク多數ノ彈丸ヲ被ラサルヘク隨テ旗將ハ大艦ニ在ルヨリ小艦ニ在リテ其心ヲ勞スルコト比較的少カルヘシ

(ハ) 旗將ノ撰定シタル艦喫水淺キトキハ水雷ノ爲メニ轟沈セラル、ノ虞ナカルヘシ

(ニ) 小艦ニハ搭載砲ノ數少シ故ニ發砲ノ爲メ旗將ノ妨害トナルコト大艦ニ於ケルカ如ク甚シカラ

サルヘシ

(ホ) 敵若シ遠距離ノ砲戰ニ於テハ殆ト無害ニ屬スル小形旗艦ニ向ヒ其火力ヲ集中スルニ於テハ我カ先頭装甲艦ニ對スル火力ヲ薄弱ナラシムルヲ得ヘシ是レ少カラサル利益ヲ味方ニ付與スルモノナリ

(ヘ) 敵若シ旗艦ヲ蔑視シテ先頭装甲艦ニ向テ全火力ヲ聚注シタルノ結果先頭装甲艦ハ戰列ヲ脱スルニ至ルトスルモ之カ爲メ些ノ混雜ヲ來スコトナカルヘシ何トナレハ旗將ハ依然陣頭ニ在ルヲ以テナリ

(ト) 旗將若シ艦隊ノ針路ヲ十六點交換セント欲スル場合即チ殿艦カ先頭艦ト變更スル場合ニ於テハ其乘艦ノ大速力ヲ利用シ暫時ニシテ新陣頭ニ立チ再ヒ全隊ヲ引率スルヲ得ヘシ此場合ニ於テ旗將ハ信號ヲ掲揚スルト同時ニ己レノ新位置ニ向フテ疾行スルコトヲ得ヘシ斯クスルトキハ諸艦ニ於テ該信號ヲ解釋スルニ便ニシテ且ツ旗將ハ諸艦カ回轉ヲ終了シタル時恰モ陣頭ニ於ル其新位置ヲ占ムル如ク自己ノ速力ヲ増減スルヲ得ヘシ

(チ) 旗艦若シ甚シク撃破セラル、トキハ旗將ハ其將旗ヲ他艦ニ移サ、ルヘカラス此場合ニ於テモ亦之ヲ大艦ヨリ大艦ニ移スニ比スレハ其小艦ナルトキ頗ル便利ヲ感スヘシ

以上列舉シタル事由ニ依リ或ル場合ニ於テ戰鬥開始ニ先チ旗將カ其將旗ヲ小快走艦ニ移スモ吾人ハ其

擧ノ決シテ拙劣ナラサルヲ確信スル者ナリ旗將ニシテ若シ戰闘中斯ノ如キ擧ニ出テント欲セハ平素ト雖モ之ヲ練習セサルヘカラサルナリ

第二百 緊急ナル信號ヲ爲ス爲メニハ信號機ヲ用フヘシ

旗將ノ位置如何ヲ問ハス重大ナル信號ヲ最モ神速ニ且ツ如何ナル場合ニ於テモ正確ニ容易ニ了解シ得ヘキ様傳達スル方法ヲ有セサルヘカラス

橋頭信號機セマホールハ此點ニ於テ有益ナルヲ得ヘシ該信號機ハ通常ノ「アルファベット」ニ依リ語句ヲ傳フルノ外尙種々所定ノ符號ヲ最モ迅速ニ傳ヘ得ヘキモノナリ信號旗ヲ以テ信號ヲ爲スニハ信號機ノ翼ヲ或位置ニ致スヨリハ余程數多ノ時間ヲ要スルノミナラス信號旗ヲ綴ルニ要スル時間ハ信號機ヲ運用スルヨリ多數ヲ要スルナリ是ヲ以テ先ツ最モ重大ナル戰闘の信號ノミヲ撰定シ信號機ヲ以テ通信スルコトニ定ムルコト極メテ緊急ナリ例ヘハ指標ノ横一字ナルトキハ普通ノ信號機符號ト爲シ其上方若クハ下方ニ傾斜スルトキハ所定ノ戰闘的符號ト爲スヲ得ヘシ而シテ信號機ニ於テ斯ノ如キ符合ハ五十六個ヲ定ムヲ得ヘク且該符合ヲ以テスル信號ハ最モ重大ナルモノ、ミヲ撰拔シ且ツ各符合ニハ最モ明晰ナル訓示ヲ附シ以テ艦ノ如何ナル行動ヲ規スルヤヲ明瞭ナラシムルヲ最モ緊要トス

第二百一 艦隊ノ戰闘陣形

左ノ如キヲ以テ吾人ハ艦隊ノ適當ナル戰闘的序列ト認ム

大艦ハ總テ艦隊區分ニ排列シ速力ノ大ナルモノヲ以テ第一小隊ト爲シ中速力ノ諸艦ヲ以テ第二小隊ト爲スヘシ吾人ノ意見ヲ以テセハ諸艦ハ其砲力及甲板ノ厚薄ニ依ルヨリ寧ロ其速力ニ依リテ區別スルヲ可トス又排水量千噸以內ノ諸艦ハ信號傳達レビトレンクシツプスノ任務ニ當リ本艦隊ノ側方即チ敵ニ面セサル側面ニ於テ其位置ヲ占ムヘシ是等ノ諸艦ニハ本艦隊ノ線列ヲ横斷スルコトヲ許可シ且ツ線列ニ紛亂ヲ生セス又些ノ故障ナク此任務ヲ行フ方法ヲ訓誡スル所ナカル可ラス又水雷艇ハ別ニ一隊ヲ爲シ是レ亦敵ニ面セサル方面ニ於テ其位置ヲ占メ其本務ニ關シ豫テ旗將ヨリ受領セル訓令ニ基キテ敵ヲ攻撃スヘキモノトス戰線内ニ於ケル自己ノ位置ヲ維持スルニ必要ナル速力ヲ持續シ能ハサルマテ擊破セラレタル艦ハ線列ヲ脱去スヘク二隻ノ水雷艇ハ該艦ノ傍ラニ止マリテ之カ防衛ノ任ニ當ルヘキモノトス

第二百一 亂戰

或ル論者ノ說ニ曰ク艦隊カ其陣形ヲ守ルハ唯僅ニ戰闘開始ノ當時ノ事タルヘク既ニ兩艦隊一タヒ互ニ接觸スルヤ忽チ亂雜ヲ極メテ一般ノ方略一般ノ指導モ之ヲ用フルニ由ナク則チ艦ト艦トニ於ケル雜然タル單獨戰闘ト爲ルモノトス今吾人ノ意見ニ依ルトキハ這般ノ斷定ハ不當ナリト謂ハサルヘカラス何トナレハ各艦ノ運動ハ味方ニ屬スル爾他諸艦ノ行動ニ依テ大ニ妨害セラルレハナリ既ニ前說ニモ云フ如ク吾人ニ於テ其目的ヲ審ニセサル他艦ノ行動圈内ニ於テ運動スルコトハ頗ル困難ナリ此點ニ於テノ艦ノ爲メニ被ムル妨害ハ敵艦ノ爲メニ被ムル所ヨリ一層甚シキモノナリ

願フニ單縱陣ヲ脫去シタル一艦若クハ數艦カ其從前ノ順次番號ニ介意スルコトナク迅速ニ列内ニ達スルニ當リ必ス遵奉スヘキノ規則ナカルヘカラス今兩艦隊カ互ニ會合シタル後諸艦ハ衝角打撃若クハ水雷攻撃ヲ避ケントシテ其定位置ヲ離レ陣形錯亂シタリト假定セン此場合ニ於テ各艦ノ艦長ニシテ運動上妨ケナキコトヲ認メタルトキハ直チニ旗艦ニ向ヒ旗艦若クハ既ニ之ニ後續セル艦後ニ單縱陣ヲ作ルコトヲ努メサルヘカラス斯ノ如クスルトキハ再ヒ艦隊ノ陣形ヲ作り得ルノミナラス諸艦ハ始メテ互ニ其運動ヲ妨ケス且ツ砲撃ヲ掩遮セス又特ニ最モ緊要ナルハ旗將カ更ニ艦隊ノ司令ヲ其掌裡ニ回復シ敵軍ノ適宜ノ部分ヲ攻撃スルヲ得ルナリトラフアルガ爾海戰前ニ發セラレタル訓令中ニ包含セルチルソノ規則ハ則チ自己ノ旗艦ハ即チ集合點タルコトハ常ニ記憶セサルヘカラス

第二百三 砲撃ノ目的物ノ撰定

砲撃ノ目的物ヲ撰定スルニ方リ最重最要ノ事トシテ第一、ニ著目スヘキハ敵ニ命中スルコト是ナリ故ニ最モ命中シ易キ敵艦即チ最近ノ艦ニ向ヒテ射撃スルヲ要ス吾人若シ此規則ヲ蔑視スルニ於テハ或ハ我カ射撃ヲシテ無效ニ歸セシムルノ虞ナキヲ得ス況ヤ砲ノ穿貫力ハ近距離ニ於テ著大ナルニ於テヲヤ敵ノ諸艦ニシテ若シ何故ニ歟互ニ相近接スル場合ニ於テハ必ス此群集ニ向ヒテ砲火ヲ開發スヘシ近距離ニ於テ一艦ヲ撃ツハ遠距離ニ於テ艦ノ群集ヲ撃ツヨリ優レルハ蓋シ疑ヲ容レサル所ナリ砲撃ノ目的物ニ關シテハ右ニ述ヘタル主ナル理由ノ外尙ホ第二等ノ理由ノ存スルアリ例ヘハ先頭艦即

旗艦ニ向ヒテ砲火ヲ集中スルヲ有益トス茲ニ破壞力ノ點ヨリ謂ヘハ舷側面若クハ艦首ヲ以テ我レニ對スル艦ヲ撃ツヲ利トス我ニ斜ニ向ヒタル裝甲艦ヲ撃ツハ格別有利ナラサルヘシ然レトモ標的物ノ撰定ニ方リ主トシテ吾人ノ注意スヘキ要點ハ其最モ命中ノ容易ナルモノニ向テ注射スルニ在リ

第二百四 敵ヲ挾撃スルコトハ爲シ得ヘキ事ナルヤ

從前ハ敵ヲ挾撃スルハ殆ント慣例ト爲リ味方ノ諸艦ニ向ヒテ射撃ヲ行フコトハ往々免カレサリシナリチルソノハトラフアルガ爾海戰前ノ訓令中ニ謂テ曰ク彈丸ハ敵艦ニ齊シク味方ニ屬スル艦ノ檣及帆桁ヲモ撃倒シ得ルナリト是レニ由リテ之ヲ觀レハ斯ノ如キノ顯象ハ當時普通ニシテ多ク恠マサリシモノ、如シ是ニ於テ一ノ疑問生ス即チ艦隊ノ戰鬪ニ在リテハ彈丸ノ一部ハ味方ノ艦ニ命中スルノ虞アルニ拘ハラズ今日ト雖モ尙ホ敵ヲ挾撃スヘキヤ否ヤ爾來技術ハ進歩シテ現時ノ彈丸ハ長圓形ト爲リタルノミナラス飛行中回旋スルニ由リ其跳撃極メテ不規則ニシテ昔日ノ圓形彈丸ノ如ク正鵠ナラス是レ現時ニ於テ敵ヲ挾撃スルヲ不利ト爲ス所以ナリ右ノ外尙ホ一ノ變遷ノ注意スヘキモノアリ即チ破裂彈ノ採用是ナリ若シ軍艦ニ於テ吾人榴彈ノミヲ使用シ且ツ水面ニ接觸スルトキ彈丸ノ炸裂ヲ來スヘキ信管ヲ有シタランニハ跳撃ハ素ヨリ全然生セサルニ至ラン此條件ヲ以テスルトキハ敵ヲ十字砲火ノ間ニ挾ミ十「ケーブル」ヲ距ルトキハ殆ト味方ノ艦ニ命中スルノ虞ナキニ至ラン

若シ夫レ一隻ノ敵艦ニ對シテ發砲スル味方ノ二艦ニ關シテハ敵艦ノ一方ニ位置ヲ占ムルヲ可トス敵ノ狹擊ニ付前般陳述シタル所ハ何レモ艦隊ノ運動ニ關係スルモノナリ

第二百五 艦ト艦トノ距離ニ就キテ

砲戰ヲ爲ス爲メニハ艦ト艦トノ距離短少ナルハ頗ル便宜ナリトス是レ全戰線ノ火力ヲ強大ニシ艦ト艦トノ距離ヲ長大ニセル敵ニ對シ大ニ有利ナルモノトス然レトモ該距離ノ過短ナルモ亦不利トスル點ナキニアラス即チ味方諸艦間相互ノ衝突ノ虞ヲ増加スルモノナリ而シテ現今艦ノ中央ヨリ起算シテ二「ケーブル」ノ距離ヲ守ルヲ以テ通常ト爲セリ吾人ハ思ヘラクスノ如キ距離ハ戰闘中ニ於テモ亦之ヲ確守シテ可ナリト何トナレハ該距離ハ常ニ便宜ナルノミナラス我カ乘組員等ハ業ニ已ニ之ニ馴致シタレハナリ

第二百六 單縱陣ハ嚴格ニ之ヲ守ルヘキ歟

通常後續艦ハ必ス先頭艦ノ艦跡ヲ進ムコトト規定シタレトモ斯ノ如クスルトキハ先頭艦ヨリ發スル信號ハ既ニ第三ノ艦ニ於テ解釋ニ困ミ第五ノ艦ニ於テハ全ク解釋シ能ハサルナリ嚴格ニ單縱陣ヲ守ルトキハ陣形變換ノ場合ニ於テ新陣形ノ整然タルヲ覺フト雖モ寧ロ各艦ハ時々故ラニ單縱陣ヲ脱出シ砲等ノ使用ノ機會ヲ索ムルヲ可トス斯ノ如ク隊列ヲ脱出スルヲ適宜ト認ムルトキハ或ル定限ヲ規定シ各艦ニ何レノ方向ニ脱出スヘキヤヲ指定セサルヘカラス今茲ニ一艦隊アリ敵ノ艦隊ト相會センカ爲メ之ニ

向ヒテ一直線ニ針路ヲ取ルト假定セン此時ニ方リ先頭艦ヨリ第二ノ艦ハ己レノ艦長程右方ヘ偏倚シ第三ノ艦ハ同シク左方ヘ第四ノ艦ハ二「ケーブル」程右方ヘ第五ノ艦ハ同シク左方ヘ第六ノ艦ハ先頭艦ノ航跡ヲ進ミ第七ノ艦ハ第二ノ艦ト同一ノ位置ヲ取ル等ノ如ク諸艦ヲ配置スルトキハ最初ノ五艦ニ於テ敵ヲ明視シ之ニ向ヒテ砲擊ヲ行フヲ得セシムルノミナラス敵彈ノ命中度ヲ減殺スルモノトス此場合ニ於テ一艦若シ他艦ニ後ル、トキハ其排列ノ如何ニ係ラス捷路ヲ取り以テ成ルヘク迅速ニ己レノ位置ニ就カサルヘカラス

二百七 敵ノ單縱陣ノ一端ノ攻撃

砲戰ニ於ケル艦隊ノ運動ハ敵艦隊ノ或部分ニ對シ我ノ優勢ヲ占ムル如クスルヲ主眼トセサルヘカラス則チ此目的ヲ達センカ爲メニハ或ハ敵艦隊ノ先頭ニ向ヒ或ハ其殿隊ニ向ヒ或ハ又敵軍橫陣ニアル場合ニ於テハ其兩翼ノ一ニ向ヒ我カ勢力ヲ集中スルヲ可トス以上記スル所ノモノハ我カ隊列ノ逐次ノ回轉ニ依テ之ヲ遂行スルコトヲ得ヘシト雖モ或ル場合ニ於テ勢力ノ集中ハ尙ホ一層著大ナラシムルヲ得ヘシ即チ味方ノ各艦ハ或ル時機ニ於テ敵ノ殿艦ヲ或ル方位ニ維持スルノ法ニ依ルコト是ナリ此運動ニ關シ以下少シク陣述スル所アラントス但シ右ノ運動ハ吾人カ平時練習ニ於テ數回實檢セル所ノモノナリ

互ニ反對ノ航路ヲ取レル二箇ノ對抗艦隊アリト假定セン(第二十五圖參看)我カ艦隊ノ先頭艦ハ其針

路ヨリ四十五度ニ於テ敵ノ殿艦ヲ認め而シテ之ヲ始終前記ノ方位ニ維持センカ爲メ少シク針路ヲ敵ノ方向ニ偏倚セリ我カ第二ノ艦モ亦先頭艦ト同一ノ舉ニ出テタルニ依リ已ニ其通跡ヲ進マヌシテ稍々半徑ヲ減少シタル弧狀ヲ描テ進行シ第三ノ艦ハ第二ノ艦ヨリ一層小徑ノ弧狀ヲ描テ進行スルカ如ク其他皆之ニ倣ヘリ

此運動ヲ爲スニ方リ各艦ノ針路ハ要スル方位ニ依リテ定マリ各艦ノ航行距離ハ各同シカラス例ヘハ兩艦隊ノ最初ノ距離十「ケープル」艦ト艦トノ距離二「ケープル」兩艦隊ノ最初ノ速度十節ナリトセハ先頭艦ニシテ若シ其回轉ノ際十二節ト爲ストキハ第二艦ハ十一節第三艦ハ十節第四艦ハ九節二五第五艦ハ八節半、第六艦ハ七節七五第七艦ハ七節第八艦ハ六節半、第九艦ハ六節ト爲サ、ルヘカラス

以上ノ速度ハ先頭艦カ回轉ヲ開始スル瞬時ニ於テ之ニ改メサルヘカラス且ツ回轉ノ際各艦ノ距離ハ二「ケープル」ヨリ減シテ二「ケープル」半トナルナリ是レ蓋シ敵ノ殿軍ニ對スル我カ火力ヲ強大ニスル點ニ於テ有利ト爲ス所ナリ

速度ニ關シテハ左ノ規則ヲ遵守セサルヘカラス即チ先頭艦ノ回轉ノ開始ト共ニ諸艦ハ左ノ如ク其速度ヲ加減スベシ

- | | | |
|----------------|---|---|
| 先頭艦ハ其速度ヲ増加スルコト | 二 | 割 |
| 第二艦ハ其速度ヲ増加スルコト | 一 | 割 |

第三艦ハ從前ノ速度ヲ維持ス

第四艦ハ其速度ヲ減少スルコト

七 分

第五艦ハ其速度ヲ減少スルコト

一 割 五分

第六艦ハ其速度ヲ減少スルコト

二 割 三分

回轉ヲ行フノ際ニ於テ各艦カ失フ所ノ速度ハ相均シカラス且ツ兩艦ノ距離減少スルニ及ヒ速度ノ差増加スヘキヲ以テ各艦ハ方位角三十五度ニ於テ前續艦トノ間一「ケープル」半内ニ至ラサランコトニ注意セサルヘカラス各艦ハ始終其前續艦ニ注目シ自ラ衝突ノ責ニ任スヘキモノトス而シテ諸艦ハ前記運動ノ開始セラレト共ニ敵ノ殿艦及之ニ接近セル諸艦ニ向ヒテ其火力ヲ集注スヘキモノトス

敵艦隊ノ先頭或ハ海軍全線ヲ包圍シタル時ヲ待チテ先頭艦ハ舵ヲ操リ以テ砲戰ニ最モ便宜ナル距離ニ於テ敵ニ對スヘク爾餘ノ諸艦ハ漸次先頭艦ニ續キ單縱陣ヲ作ルヘシ若シ各艦ニ於テ前續艦トノ間隔増大スルヲ認めタルトキハ直チニ己レノ速度ヲ増スモノトス

若シ夫レ一層近距離ニ於テ敵ノ背後ヲ通過センコトヲ希望セハ總テ前ノ如クニ行動スヘシ唯前ト異ナル所ハ此場合ニ於テ方位角ヲ保ツニ敵ノ殿艦ヲ目的トセス之レヨリ第二ノ艦ヲ目的ト爲スノ差アルニ此時ニ方リ敵ノ殿艦若シ我カ側砲ノ射角内ニ入ラスンハ敵艦ノ線列ヲ通過シタル後艦尾砲ヲ以テ之ヲ射撃スヘシ而シテ敵軍ヲ包圍シタル時ハ其殿隊ハ我カ全砲火ヲ受クルニ至ルヘシ

敵ノ殿軍カ前記ノ如ク攻撃セラレタル場合ニ於テ該艦隊ハ如何ニ處シテ可ナルヤ彼レ亦之ト同一ノ運動ヲ爲シ攻撃艦隊ノ殿軍ヲ攻撃スルヲ以テ最良ノ手段トス或ハ彼ハ亦或ル羅盤方位ニ至艦隊ノ全時回轉ヲ行ヒ以テ攻勢ニ移ル歟否ラサレハ他ノ利便ナル位置ヲ占ムヘシ一般ニ艦隊ニ於テ敵ヨリ十二點轉向シタル後ハ先頭艦ハ時機ヲ計リテ其舵ヲ操リ敵ノ殿艦ト併行ノ針路ヲ取ルヘク爾餘ノ諸艦ハ此場合ニ於テ運動中單縱陣ヲ脱出シタルモノト認メ順次新陣形ノ位置ニ單縱陣ヲ作ルコトヲ務ムヘシ

第二百八 敵ノ一翼ノ攻撃

單縱陣ニテ進行スル我カ艦隊ハ横陣ヲ作レル敵ノ艦隊ヲ發見シ(第二十六圖參看)且ツ此際我カ先頭艦ハ敵ヲ距ルコト四十「ケーブル」ノ所ニ在リト假定セン此時ニ方リ先頭艦ハ敵ノ右翼艦ヲ五十五度ノ方位ニ支持スルトセハ同艦及之ニ繼續スル數艦ハ兩艦隊互ニ近接スルノ間始終該右翼艦及其附近ノ諸艦ニ向ヒ舷側砲ノ全火力ヲ集注スルヲ得ヘシ既ニシテ十二分ヲ經過スルトキハ先頭艦ハ敵ノ横陣ヲ通過スヘク此際兩艦隊ノ位置ハ第二十六圖ニ示シタル形狀ト爲ルヘシ

此運動中我カ諸艦ハ始終敵ノ諸艦ヨリ有利ナル位置ニ在ルモノトス何トナレハ我レハ全側砲ヲ利用シ得ルモ敵ノ我レヲ近距離ヨリ撃ツモノハ唯僅ニ其右翼ノ數艦ノミニシテ我レハ敵ノ艦隊ノ一部ヲ近距離ニ有スレハナリ特ニ射撃ノ爲メ最モ利便ナル時機ハ各艦カ敵ノ線列ヲ通過スルトキニ在リトス又跳撃彈ハ必ラス右方ニ偏倚スヘキニ依リ少シク敵艦ノ線列ヲ通過スル前ニ射撃ヲ行フヲ以テ最モ時機ヲ

得タルモノトス

各艦ハ敵ノ側面ニ近接スルニ從ヒ遠距離水雷射撃ノ好機會ニ接スヘシ但シ水雷ハ敵艦ノ線列ニ併行セシメントトヲ要ス此場合ニ於テ發射シタル水雷ハ假令一艦ヲ逸スルモ他艦ニ命中スルコトアルヘシ又假令敵ニ於テ我カ艦隊ヨリ水雷ヲ發射シタルコトヲ認ムルモ諸艦ヲ回轉センニハ必ラス信號ニ由ラサルヘカラス之ヲ爲スニハ多クノ時間ヲ要スルモノトス敵モ亦自ラ水雷ヲ發射シ得ヘキハ論ヲ俟タスト雖モ彼レ若シ其水雷ノ遠距離ニ達センコトヲ希望セハ必スヤ水雷ノ速力ヲ減少セサルヘカラス此ノ如キ條件ヲ以テ味方ノ諸艦ノ艦首前ニ於テ而カモ横陣ニ併行シテ水雷ノ射撃ヲ行フハ決シテ爲シ能ハサル事トス概言セハ横陣ニ在リテ艦ノ正横ノ前面ニ向テ舷側發射管ヨリ水雷ヲ發スルハ味方諸艦ノ爲メ危険ト認メサルヘカラス

艦隊カ第十二分ノ終了ニ於ケル位置ニ來リタルトキハ右方十六點ニ回轉スル歟(第二十七圖參看)若クハ針路ヲ變更セスシテ進行ヲ繼續シ以テ艦隊ヨリ離去スル歟二者其一ヲ取ラサルヘカラス而シテ吾人ノ所見ニ據レハ右方十六點ニ回轉シ漸次敵ニ併行スヘキ針路ヲ取り且ツ我レニ接近セル諸艦ニ向ヒ火力ヲ集中シ始終單縱陣ヲ維持スルヲ以テ其當ヲ得タルモノトス

艦隊カ圈形ノ弧狀ニ排列シタル時ニ於テ倏忽十六點ノ回轉ヲ行フトキハ諸艦ハ必ス互ニ相近接スルヲ以テ各艦長ノ注意極メテ周到ナランコトヲ要ス此危険ヲ避クルニハ各艦ニ於テ其後續艦カ既ニ舵ヲ轉

シタルヲ認メタル後始メテ自ラ回轉ヲ開始スヘキモノトス且ツ各艦ハ其後續艦トノ衝突ノ責ニ任スル覺悟ナカラサルヘカラス吾人ハ茲ニ我艦隊ノ前記運動中敵ハ始終其陣形ヲ變更セスト假定セン彼レ若シ針路ヲ俄カニ左方八點ニ回轉セハ我レハ前記敵艦隊ノ殿艦ヲ攻撃スルノ運動ニ着手スヘク彼レ若シ右方八點ニ回轉セハ我レハ之ニ併行ノ針路ヲ取り且ツ我カ線列ノ一部ハ敵ノ先頭艦ノ前方ニ出テシムルコトヲ努ムヘキナリ此場合ニ於テ我カ位置ハ敵ニ對シ敢テ利益アルニアラスト雖モ亦不利ノ位置ニ在リト謂フヘカラス而シテ先頭艦ニシテ其針路ヲ偏倚スルトキハ我レハ先頭艦ヲ環狀ニ包圍シ之ニ向ヒテ火力ヲ集中スルコトヲ得ルナリ

第二百九 敵ノ艦隊一部ノ切斷

前項ト同一ノ場合即チ我カ艦隊ハ單縱陣ニ據リ敵ハ橫陣ニ據リ且ツ我レハ敵ノ艦隊ノ一部ヲ切斷センコトヲ希望スルモノト假定セン此運動ニ際シ我カ先頭艦ハ敵ヨリ劇甚ナル火方ヲ被ムラン同艦ハ敵ノ右翼ヨリ第三ノ艦ヲ艦首ニ保ツヘシスノ如クニシテ同艦ハ概テ第五第六艦ノ間ヲ通過スルコト、爲ルヘシ(第二十八圖參看)切斷セラレタル敵ノ諸艦ハ從前ノ針路ヲ繼續シ能ハサルヘシ何トナレハ橫陣ノ諸艦ハ單縱陣ニ於ケル如ク互ニ衝角打擊ヲ以テ掩護スルコト能ハサレハナリ切斷セラレタル諸艦ニシテ若シ我單縱陣ト會スルヲ避ケンカ爲メ右方十八點ニ回轉スルトキハ我艦隊ハ切斷セラレタル部分ノ殿軍諸艦ノ攻撃ヲ開始スヘキナリ

前記ノ運動中我カ諸艦ハ前ニモ陣述セル如ク敵ヨリ劇甚ナル砲撃ヲ受クヘク概シテ此運動ハ餘リ有利ナルモノニアラサルナリ

第二百十 敵ノ環狀包圍

我カ單縱陣長大ニシテ敵軍微力ナル歟若クハ艦ノ損失或ハ其他ノ原因ニ依リ敵カ其速力ヲ減少シ其諸艦互ニ相近接スルニ於テハ之ニ向ヒ環狀包圍ヲ行ヒ且ツ彼レカ逸シ得ヘキ大間隙ヲ存セサルコトヲ務ムルヲ有利トス吾人一タヒ前記ノ位置ヲ占ムレハ砲戰ノ爲メ大ニ利便ヲ得ヘシ此場合ニ於テ敵ノ諸艦ハ迅速ニ陣形ヲ作ルヘキ餘地ヲ有セサルヘク我レハ此機會ニ乘シテ頻リニ火力ヲ増加スヘシ敵ノ不正鵠ノ射撃ハ空シク亡失シ我カ不正鵠ノ射撃中幾分ハ幸ニシテ他ノ敵艦ニ命中スルコトアルヘシ其他一箇所ニ群集セル敵艦ハ必ス互ニ其運動ヲ妨害スヘキナリ

敵ヲ包圍スル戰術ハ序列ノ如何ヲ願ミス敵ノ外部ニ環狀ヲ作爲スルニ在リ各艦ハ此目的ヲ達スル爲メ成ルヘク速ニ敵ト併行ノ針路ヲ取ルヘシ而シテ敵ハ單縱陣ヲ作りタル後線列ヲ切斷シ環狀ノ内部ヨリ脱出スルコトヲ努メサルヘカラス

是ヲ以テ包圍セラレタル諸艦ノ内敵ノ環狀中間隙ノ最モ大ナル所ニ對シタル艦ハ所定ノ信號ヲ掲揚シテ此間隙ニ向ヒテ突進シ爾餘ノ諸艦ハ單縱陣ニテ之ニ續行スヘシ外部ノ環狀ハ近距離ニテ閉列ノ單縱陣ニ接スルヲ以テ途ヲ開カサルヲ得サルニ至ルヘシ

第二百一十一 艦隊戦闘ニ於ケル水雷艇ノ任務

艦隊戦闘ニ於ケル水雷艇任務ハ二種アリ即チ敵艦ノ攻撃及敵ノ水雷艇撃退是ナリ

水雷艇隊ハ艇隊司令ヲ有シ其指揮下ニ屬スルモノナリ水雷艇多數ナルトキハ八隻ヲ以テ一箇ノ艇隊ヲ編成シ斯ノ如キ艇隊二箇乃至三箇ト爲スヘシ

水雷艇ハ遠距離ノ砲戦ニ參與セス敵ノ彈著距離以外ノ所ニ止マルヘシト雖モ其必要ヲ見ルニ方リ倏忽急ニ應シ得ヘキ近距離ニ在ラサルヘラス

或ル論者ノ説ニ據レハ戦闘中水雷艇ハ味方諸艦ノ舷ヲ以テ己レノ掩護ト爲シ背後ニ在ルヲ有利ト爲セリ此説果シテ正鵠ヲ得タルヤ否ヤ諸艦ノ背後ニ位置ヲ占メタル水雷艇ハ展望ノ少キ點ニ於テハ遮蔽セラレタルモノナルヘシト雖モ敵ノ火力ニ關シテハ果シテ掩蔽ノ效力アルヤ否ヤ敵ノ彈丸中艦ノ上部ノ建造物ニ中リテ爆裂スルモノハ水雷艇ノ位置ニ向ヒテ其碎片ヲ散布スヘシ是レ吾人ノ所見ニ據レハ全ク開放シタル場所ニ在ルヨリ寧ロ一層危険ナリト謂ハサルヘカラス其他艦艇ノ群集ハ之ヲ避ケサルヘカラス而シテ前後ニ相併列シタル諸艦ハ其實群集ニ外ナラサルナリ故ニ吾人ハ茲ニ大艦ノ背後ニ水雷艇ヲ配置スルニ全然反對ノ意見ヲ表スルモノナリ

凡ソ水雷艇ハ容易ニ單縦陣ヲ横斷シ能フモノナレハ水雷艇攻撃以前ニ在リテハ味方諸艦ノ線列以外ニ置キ機ヲ見テ放ツヘシ攻撃信號ヲ揚ケタルトキ水雷艇ハ悉皆横陣ヲ作りテ敵艦隊一部ノ攻撃ニ向フヘ

キモノトス但シ成ルヘク速力ヲ快大ニシ司令ノ乘艇ト齊列センコトヲ努ムヘシ水雷攻撃ノ時機ハ所定ノ信號機信號ヲ以テ之ヲ報スヘク其他水雷艇ハ水雷發射後何レノ方向ニ回轉スヘキヤ豫メ約束シ置カサルヘカラス凡ソ水雷艇ニ於テ記憶スヘキモノ三アリ曰ク其艇體ノ小ナルハ敵彈ニ對シ最良ノ防禦タル事曰ク之ニ命中スルハ極メテ困難ナル事曰ク以上ノ理由ニ依リ一箇ノ水雷ヲ放チタル後悠然第二發射管ヨリ更ニ發射スルヲ得ル事はナリ則チ水雷艇ハ悉皆ノ發射管ヨリ水雷ヲ放チタル後始メテ我事了レリト認メ敵彈ノ爲メニ害セラル、ノ虞ナキ所ヘ去ルヲ得ヘシ

夫レ然リ然リト雖モ水雷艇ノ任務ニ就キテハ他ノ視點ヨリ之ヲ論スルヲ得ヘク則チ彼等ハ我カ未タ敵ノ艦隊ト砲戦ヲ交ヘサルニ先チ敵ノ戦闘力ヲ減殺スヘキモノト認ムルヲ得ン此場合ニ於テ水雷艇攻撃ハ無論前者ヨリ一層困難ナルヘク水雷艇ヲ失フコトモ恐ラク一層多數ナルヘシト雖モ攻撃ノ結果トシテ實際敵艦隊ノ戦闘力ヲ減殺スルヲ得ン歟這般ノ戦術ハ波濤ノ爲メ敵ノ諸艦大ニ動搖スル歟霧若シクハ降雨ノ爲メ明視ヲ妨クル時ニ於テ其效驗特ニ顯著ナルヲ得ヘシ

茲ニ敵カ實際此戦術ヲ撰擇シ其水雷艇隊ハ本艦隊ノ前方ニ進行シ我カ艦隊ノ攻撃ニ向フト假定セン此時ニ方リ敵ノ水雷艇ニ對シ我レモ亦水雷艇ヲ向ハシムヘキ歟將タ砲火ヲ以テ之ヲ防遏スヘキ歟此疑問ハ下ノ如ク解釋スルヲ得ヘシ

即チ本艦隊ヨリ著大ナル距離ニ於テ敵ノ水雷艇ヲ攻撃スルヲ得ヘクンハ之ニ向テ我カ水雷艇ヲ向ハシ

ムルト否トハ隨意タルヘシト雖モ遠距離ニ於テ之ヲ迎撃スルノ違ナキトキハ我カ諸艦ノ砲撃ヲ避ケサラシカ爲メ速ニ其戦列ノ後方ニ離去セシムルヲ以テ利アリトス此種ノ運動ハ信號機ノ符號ヲ以テ之ヲ報セサルヘカラス

敵ヨリ水雷艇攻撃ヲ行フヲ發見シタルトキ我艦隊ノ諸艦ハ孰レモ同時ニ艦尾ヲ以テ水雷艇隊ニ向フ歟依然從前ノ針路ヲ保持スル歟或ハ又艦首ヲ以テ之ニ向フヘキ歟何レカ其一ヲ擇フヘシ而シテ若シ暇アラハ充分ニ之ヲ撃破センカ爲メ艦尾ヲ以テ該艇隊ニ向フヲ最良ノ策ト爲ス又該艇隊ノ距離短少ニシテ艦首ヲ以テ之ニ向フヲ便宜ト爲サハ然カク爲スヲ得ヘシト雖モ此運動ハ前者ニ比スレハ頗ル拙劣ナルモノトス又單獨ニ艦ト水雷艇ト相對スルトキ艦首ヲ以テ之ニ向ハ、艦ノ頭端ハ銳角ヲ爲スヨリ水雷ノ現今ノ構造ニテハ殆ト爆裂ノ虞ナシト謂テ可ナリ若シ又同時ニ數隻ノ水雷艇ヲ以テ攻撃ヲ行フトキハ假令其中ノ一隻ニ對シ艦首ヲ以テ向フトスルモ他ノ艦ヨリ時機ヲ窺ヒ水雷射撃ヲ行フヲ防遏シ能ハサルヘシ數隻ノ水雷艇カ全艦隊ヲ襲撃スル場合ニ於テモ亦然リトス即チ水雷艇ハ艦首ヲ以テ向ハサル艦ヲ擇ヒテ其水雷ヲ發射スヘキナリ又依然從前ノ進路ヲ保持スルトキハ或ハ己レノ速力ヲ變更シ只專ラ自己ノ砲力ニ依頼スル歟否ラサレハ、全速力前進ヨリ直チニ全速力後進ニ移リ防禦網ヲ垂下スルヲ得ヘシ

若シ充分ノ時間アリテ艦隊ハ大速力ヲ以テ進行スルヲ得ハ以上列舉シタル運動中吾人ハ艦尾ヲ以テ水

雷艇ニ向フノ策ヲ取ラントスル者ナリ忽然水雷艇隊ノ襲フ所トナリタルトキハ機關ヲ後進ニ移シ防禦網ヲ垂下スルヲ最良策ト爲ス但シ此運動ハ唯僅ニ二分時ヲ要スヘク二分時經過ノ後ハ各艦共ニ靜止シ防禦網ハ充分狹延スルヲ得ヘシ此運動モ亦信號機セマホアノ符號ヲ以テ報スキヘモノトス

第二百十二 豫備艦隊ヲ設クルノ必要アリヤ

吾人ノ所見ニ據ルトキハ艦隊戰鬪ニ於テ豫備隊ナルモノハ決シテ之ヲ設クルヲ要セス豫備隊ハ我カ實力ヲ減殺シ敵ニ我カ艦隊ヲ別々ニ破ルノ利便ヲ與フルニ外ナラス是ヲ以テ寧ロ單縱陣ヲ増加スルヲ可トス然ルトキハ前ニモ陳述セル如ク殿軍ニ列スル諸艦ハ夫ノ主トシテ戰鬪ニ參與スヘキ中堅艦隊ノ爲メ宛モ豫備隊ノ觀ヲ呈スヘキナリ

第二百十三 艦隊戰鬪ニ關スル總結論

艦隊戰鬪ヲ爲ス爲メ明確ノ指導ヲ與フヘカラサルハ既ニ第九十三項中陳述セル所ノ如シ我カ行動ハ敵ノ舉動如何ニ依テ變更スルコト多シト雖モ要ハ全力ヲ盡シテ敵ノ一部ニ迫リ之ヲ破リタル後更ニ他ノ一部ヲ攻撃スルニ在リ

第二百十四 戰鬪ハ如何ニ終了スヘキヤ

敵ニ屬スル諸艦ノ全滅シタル場合ニ於テ始メテ艦隊戰鬪ノ結果充分ナリト謂フヲ得ヘシフリードリヒ大王曾テ追撃ニ關シ謂テ曰ク尙爲スヘキノ事アラハ是レ未タ何事ヲモ爲シ遂ケタルニアラサルナリト

ブリユーヘルノ謂フ所ニ依レハ敵ヲ追撃スルニハ全旅團若クハ全大隊ヲ以テスルノ必要ナシ逃走スル敗兵ハ些ノ戰鬥力モ構成セサルコト明ナリト又チルソン曾テ謂ヘラク佛ノ艦隊ヲ滅却スル爲メ予カ艦隊ノ一半ヲ犠牲ニ供スルモ予ハ敢テ之ヲ辭セスト又セノア灣ノ海戰後其夫人ニ送レル信書中記シテ曰ク逃去ヲ企テタル敵艦十一隻中十隻ヲ捕獲シ一隻ハ捕獲スルコトヲ得タルモ逸セシメタリトセハ予ハ尙ホ且ツ善良ナル結果ヲ收メタルモノト謂フ能サルナリト

以上陳述シタル所ヨリ一ノ争フヘカラサル原則生ス即チ曰ク敗兵ハ之ヲ追撃シ之ヲ滅却セサルヘカラスルコト是レナリ則チ敵カ全然滅亡シ若クハ艦旗ヲ下サ、ル間ハ味方ノ損失ヲ顧ミス尙ホ攻撃ヲ繼續スルヲ要ス敗敵ヲ逸スルハ戰勝ノ結果ヲ無効ニ歸セシムルモノナリ何トナレハ軍器若クハ人員ニ於ケル敵ノ損失如何ニ巨大ナルモ諸艦ハ自國ノ港灣ニ至リ修繕ヲ加ヘタランニハ敵ノ損失ハ唯一時ニ止マルヲ以テナリ

第十三章

夜間ノ水雷攻撃

第二百十五 歴史的調査

初期ノ水雷艇ハ速力頗ル微弱ニシテ如何ナル軍艦ニ向フモ到底之ニ追及スルヲ得サルノミナラス其裝

置スル所モ亦外裝水雷ニアラサレハ牽曳水雷ナリシニ依リ之ヲ用ント欲セハ必スヤ敵艦ニ密接セサルヲ得サリキ故ニ當時水雷攻撃ハ夜間ニ限り米國內亂中(千八百六十一年乃至千八百六十四年)水雷攻撃ノ成功ヲ告ケタルモノ數回ニ渡レルニ拘ラス之ヲ偶然ノ事柄トシテ看過シタル觀アリ何トナレハ之ニ促サレテ大艦ノ汽艇ニ水雷ヲ裝置シ并ニ水雷艇ノ創設ヲ見ルニ至ラサリシヲ以テナリ

千八百七十年ヨリ千八百七十一年ニ跨レル佛獨ノ戰役ハ本事業ニ對シテ毫モ裨益スル所ナカリキ抑モ水雷ノ事業タル千八百七十七年露土ノ戰役ニ於テ我汽艇カ成功ヲ收メタルヨリ漸ク發達ノ時運ニ際會シタルナリ當時多腦河ニ在リタル露國ノ海軍々人ハ戰艦ノ現在セサリシニ拘ハラズ戰術上ノ進歩ニ關スル所ノモノ一トシテ遂行セサル者ナカリキ即チ彼等ハ敷設水雷ニ據リテ以テ必要ニ應シ土耳其軍艦ノ行動區域ヲ縮少シ汽艇ニ據リテ以テ敷設水雷ノ所在ヲ防衛シ併セテ敵ノ艦隊ノ行動ヲ阻害セリ

黒海ニ在リテハ予ノ考案ニ依リ一切ノ水雷攻撃要具ヲ裝載セル汽艇ノ揚卸器ヲ作り且ツ其汽艇ニ用フルニ簡便ナル水雷ノ裝置ヲモ案出セリ當時汽艇「コンスタンチン大公」號ハ四隻ノ汽艇ヲ揚クル準備ヲ爲シ之ヲ携ヘテ所望ノ敵國港灣ニ航行シ夜間之ヲ於テ水雷攻撃ヲ行ハシメ拂曉迄ニ本船ニ歸航セシメタリ而シテ其汽艇引揚器ノ構造ハ單純ニシテ且ツ極メテ便利ナルヨリ水雷其他一切ノ要品ヲ搭載シ汽罐ニ蒸氣ヲ醸生シアル時ト雖モ尙ホ且ツ直チニ汽艇ヲ水上ニ卸スヲ得タリ練習ノ時此汽艇ハ六節ノ速力ヲ以テ進行シタリ汽艇引揚ハ順次ニ一隻ツ、行ヒ又引揚機ノ脆弱ナルヲ以テ汽艇中石炭ノ全量ヲ搭

載シテ引揚ルヲ得サリキ水雷攻撃ヲ終リタル後汽艇ヲ本汽船ニ引揚クルニ先チ石炭ハ舷外ニ投棄セサルヘカラサリシニ依リ此關係ニ於テハ充分用ニ應シタリト謂ヒ難シ四隻ノ汽艇ノ引揚ハ「總員汽艇揚ケ方」ノ號令ヲ發シタル時ヨリ之ヲ終リテ「開ケ」ノ號令迄七分時ヲ要セリ而カモ其際ハ著大ナル波濤ヲ冒シテ之ヲ了シタルナリ

黒海及ビ多腦河ニ於ケル水雷汽艇ノ成功ハ本事業ニ活氣ヲ與ヘ千八百七十七年中始メテ水雷艇ノ製式ヲ創設スルニ至レリ尙ホ之ト同時ニ汽艇ノ揚卸ヲ輕便ニスル裝置ヲ大艦ニ設クルノ希望ヲ惹起セリ其他二三ノ海軍ニ於テハ汽船「コンスタンチン大公」號ノ例ニ倣ヒ之レヨリモ規模ヲ宏大ニシテ水雷艇運搬用ノ特別汽船ヲ設備セリ

第二百十六 水雷戰爭ハ露國人ノ氣風ニ協ヘリ

水雷戰爭ハ夫ノ出沒自在ナル遊撃隊戰爭ニ髣髴タルモノアリ而シテ斯ノ如キ戰爭ハ我露國人ノ氣風ニ協ヘリ紀律等ノ點ニ至リテハ夫レ或ハ亞歐諸國民ニ一步ヲ讓ルコトアルヘシト雖モ一朝戰端ヲ開クニ於テハ各部隊ノ氣慨ハ能ク組織上ノ欠點ヲ償補シテ尙ホ餘リアルコトヲ表示スルハ露國人タル者ノ敢テ躊躇セサル所ナリ斯クノ如キ國民ノ氣風ハ水雷艇ヲ以テスル戰爭ニ於テ無上ノ特質タルヘク此特質ヲ益々誘導セント欲セハ水雷事業ノ發達ヲ圖ラサル可ラス

而シテ此個人的氣慨ハ夫ノセワストボリノ役ニ於テ炳然光彩ヲ放テリ開戰前ニ於テ些防禦ヲ有セザ

リシ同時ニシテ同盟軍ノ進入ヲ免レ得タルハ單ニ此氣慨ニ依リテ然リシナリ佛獨戰爭ノ時佛國ノ艦隊ハ久シク獨逸領諸港灣ノ附近ニ在リタルニ拘ラス水雷攻撃ノ如キハ遂ニ之ヲ念頭ニ止ムル者スラナカリシナリ或ハ謂フ當時獨逸ノ艦隊ニハ水雷ヲ有セサリシハ夫レ或ハ然ラン然レトモ土耳其國ニ向ヒテ開戰ノ布告ヲ發セラレタル當時我カ國ニ於テモ亦水雷ハナカリシナリ即チ開戰後ニ至リ之カ發明ニ努力シ而カモ最初ニ製造シタル水雷ハ鹽肉等ノ樽ニ火藥ヲ填充シ浮標ヲ附シ沈没ヲ防キタルニ過キサリキ又獨逸ニ於テハ汽艇及小汽船ニ缺乏ヲ感セサリシモ吾人露國人ハ露土戰爭中何艇タリトモ手當リ次第之ヲ應用スルノ止ムヲ得サル境界ニ在リタリ例ヘハ當時各海戰ニ參與シタル一汽艇ハ其稱號ヲ「ナワミリン」ト謂ヒ堅牢ナル艇ノ如クナルモ其實八艇立ノ端艇ノ容積ニテ小形ノ別汽笛一個ヲ備ヘタルニ過キサリキ

前記事實ノ解釋ハ我カ隣國人ト吾人ト國民的性質ノ相同シカラサルニ求メサル可カラス而シテ我カ隣國人ハ規律ノ整然タルコト秩序の戰爭準備ヲ以テ夙ニ名聲ヲ轟カシタル者ナリ然ルニ露國人ハ未タ此境遇ニ至ラス臨時組織ニシテ苟モ戰時ニ便益ヲ與フヘキモノハ皆忽諸ニ附スヘカラス夫ノ夙ニ各部隊長間ニ磅礴セル勇往敢爲ノ氣慨ハ此點ニ於テ補益スル所少ナカラサルナリ

第二百十七 水雷艇ノ稱號

總司令官タル者ノ性格ニ對スルナポレオンノ意見ハ吾人既ニ之ヲ第五十七項中ニ掲載シタリ即チナポ

レオン謂ヘラク「ゴール」ヲ征服シタルハ羅馬軍ニアラスシテシーザルナリ羅馬ヲ震慄セシメタルモノハカルセージ軍ニアラス即チハンニバルナリ云々ト凡ソ事ノ成否ハ長官タル者ノ人物及其伎倆如何ニ依リテ決スルハ論ヲ埃タス曩日セワストーポリニ於テ各砲壘ニ附スルニ司令官ノ名ヲ以テセラレタルハ蓋シ是等ノ考案ニ據レルモノナラン而シテセワストーポリ防禦ノ空前ノ舉ナルハ一人ノ之ヲ爭フ者ナシ然ラハ即チ砲臺ニ附スルニ各長官ノ名ヲ以テスルノ意匠モ亦適宜ナリト謂フヘシ伯德大帝ハ或ハ聯隊ニ附スルニ聯隊長ノ名ヲ以テシタルコトアリ帝ハ後ニ至リ此命名法ヲ廢止シタルモパウエル第一世皇帝ハ千七百九十八年十月三十一日ノ勅令ヲ以テ各聯隊ノ名稱ハ聯隊長及名譽聯隊長ノ名ヲ以テ之ニ充用スルコト、爲セリ然レトモ此命名法ハ大ニ不便ヲ感スルニ至レリ何トナレハ即チ聯隊ナルモノハ一定セル軍隊單位ニシテ自ら自己ノ戰鬪歴史ヲ有スルモノナレハ聯隊長ヲ換フル毎ニ其隊名ヲ變更スルハ策ノ得タルモノニアラサレハナリ艦長ノ名ヲ以テ各艦ニ命名スルモ亦之レト同一ノ理由ニ依リテ不得策ナルハ吾人ノ確信スル所ナリ

然レトモ水雷艇ニ至リテハ大ニ然ラサルモノアリ今吾人ノ意見ニ依レハ物件上ノ報告用トシテハ現今ノ番號名ヲ保存シ戰術上其他ノ練習用トシテハ艇長ノ姓ヲ以テ之カ名稱ト爲スヲ適宜トス抑モ水雷艇ナルモノハ艇長其人ノ性格ヲ享ケテ其風采ヲ爲スモノナレハ或ル特別任務ヲ爲スノ必要起ルニ當リテハ必スヤ第一着ニ艇長ノ人物ニ著目シ決シテ艇ノ性質ヲ顧ミサルナリ對艇ヲ撰定スルトキモ亦兩艇ヲ

其性質ニ於テ伯中スルハ緊要ナルニ疑ナシト雖モ兩艇長ノ性行相似タルハ之ヨリ一層重要ナリト謂ハサルヘカラス故ニ吾人ハ艇長ノ名ヲ以テ水雷艇ノ名稱ト爲スヲ可トスルモノナリ現ニ目下旗將カ水雷艇ニ對スル信號ヲ命スルニ當リ其番號ヲ用ヒスシテ艇長ノ名ヲ用フル例寧ロ多數ナルニ非ラスヤ假令ハヤーコウレフニ出港用意若クハシールマンニ命令ヲ傳達セヨ等信號スルカ如シ

第二百十八 水雷艇ノ容積ノ増加

近年普通一般ノ顯象トナリタル各種軍艦ノ排水量ノ増加ハ水雷艇ニ波及スルニ至レリ始メ六噸ノ汽艇ヨリ二十噸ノ水雷艇ニ移リ後六十噸ノ「バヅーム」式水雷艇ヲ建造シ前ノ小艇ト區別スル爲メ之ヲ大水雷艇ト稱スルコト、ナレリ而シテ現今大水雷艇ノ排水量ハ約百噸ヲ以テ通例ト爲ス

水雷艇ノ排水量ヲ増加スル所以ノモノハ主トシテ之ニ比較的著大ナル速力ト廣大ナル行動區域ヲ得セシメンカ爲メナリ而シテ兩種水雷艇ノ價格ヲシテ同一ナラシムルヲ得タランニハ斯ノ如キ變更ハ全然適宜ナリト謂フヲ得ヘシト雖モ大水雷艇一隻ノ建造費ヲ投スレハ五隻ノ小水雷艇ヲ建造シ得ヘキ割合ナレハ排水量ヲ増加セントセハ勢ヒ艇數ヲ減セサル可ラス其他容積ノ寡少ナレハ水雷艇ニ取リテ最良ノ敵彈防禦ト認メラレタルモ今ヤ水雷艇ハ大ニ其排水量ヲ増加シ爲メニ著シク此特質ヲ減殺シタルナリ

若シ夫レ兩種水雷艇ノ利便如何ト謂フニ海上夜間攻撃ノ爲メニハ大水雷艇モ亦能ク其任務ニ適シ毫モ

小水雷艇ニ劣ラサルヘシト雖モ敵ノ港灣内ニ於テ夜間水雷攻撃ヲ行フニハ艇ノ回轉自在ナラサルヘカラサルニ由リ通常ノ漁艇ハ水雷艇ニ劣ルコトナカルヘシ其他著目ヲ要スル一事アリ即チ漁艇ハ艇内ニ引揚ケルニ毫モ母艦ノ運動ヲ妨ケサルモ水雷艇ハ天候ノ如何ニ依リテハ母艦ノ進行ヲ遅緩ナラシムルノミナラス或ル場合ニ於テ全ク之ヲ停止スルノ止ムヲ得サルコトアリ

以上ノ事由ニ基キ吾人ハ推定ス遠洋航海ニ充ツヘキ百噸水雷艇ハ以テ敵ノ港灣ノ附近ニ於テ行動スルニ便利ナル二十噸ノ小水雷艇ヲ廢棄セシムヘカラス而シテ現ニ此種ノ小水雷艇ハ又艦内ニ取入レ得ル漁艇ヲ廢棄セシムヘカラス而シテ此漁艇ハ波濤ノ時ニ於テ出入ヲ便ニスル爲メ一切ノ武裝及必要物件ト共ニ七噸ヲ超過セシム可ラス

第二百十九 水雷艇ノ準備運動

水雷艇ノ準備運動トハ即チ敵ニ對シ有利ノ位置ヲ占ムルノ謂ニシテ有利ノ位置トハ迅速敵ニ近接シ實際發射ヲ行フニ利便ナル位置ヲ謂フナリ而シテ敵若シ始終同一ノ針路ヲ取ラハ其前方ヲ以テ利便ナル位置ト爲スヘシト雖モ敵モ亦水雷攻撃ノ虞アルヲ發見セハ恐クハ其針路ヲ變更スヘキニ依リ若シ我レニ充分ノ水雷艇アラハ攻撃ヲ行フ際ニ於テ四方ヨリ水雷艇ヲ以テ敵ヲ包圍スル如ク運轉スルコトヲ要ス艇隊數個アルトキハ必ス前記ノ運動ヲ爲スヘシト雖モ一個艇隊ナルトキハ唯一方ヨリ攻撃ヲ行フモ妨ナカルヘシ

水雷攻撃ノ命令ヲ下スニ方リ各艇ノ位置ヲ示スニ敵ノ現在ノ針路ニ依ラスシテ方位ヲ示スヲ可トス例ヘハ某艇隊ハ攻撃ノ際敵ノ右舷ヨリスヘシト命セスシテ之ニ遵守スヘキ羅盤ノ方位角度ヲ授ク可シ吾人ノ擧是ニ出スシテ彼ニ出テ敵若シ其針路ヲ變更シタランニハ大ニ錯雜ヲ來シ命令ヲ施行スルニ由ナキニ至ラン

燈火ヲ用ヒスシテ夜間水雷艇ノ合同航海ハ極メテ困難ノ事業ニ屬シ或場合ニ於テハ諸艇ノ分離セサルコト保シ難キヲ覺悟セサル可ラス而シテ小漁艇ハ水雷艇ニ比スレハ互ニ一層近接シテ維持シ得ヘク且ツ合同航海ヲ遂行スルニ容易ナリネルソン曾テ勸告スラク夜間端艇ノ企業ニ赴クトキハ諸艇互ニ引綱ヲ以テ連接スヘシト願フニ敵ノ港灣ニ赴ク漁艇モ亦之レニ倣フテ可ナルカ如シ諸艇ノ分離ハ全然我カ畫策ヲ破壞スルモノナレハチルソンノ訓誡ノ如キハ此點ニ關シテハ頗ル有益ナルモノナリ

第二百二十 小隊若クハ對艇ヲ作レル水雷艇

夜間ハ相互分離シ易キヲ以テ多數ノ水雷艇ヲ運用スルハ極メテ不便ナリ依テ左ノ疑問ニ對シ吾人ノ熟慮ヲ促スモノナリ即チ夜間攻撃ノ爲メニハ多數ノ小隊ト爲シ水雷艇ヲ派遣スヘキカ將タ又對艇ニテ派遣スルヲ可トスルカ對艇ニテ派遣スル場合ニ於テ若シ兩艇長間ニ熟議整フトキハ敵ニ於テ何事モ心附カサル程隱密ニ行動スルコト決シテ難キニアラス又艇隊ヲ以テスル場合ニ於テハ吾人思フニ完全ナル隱密ハ到底期ス可ラス若干ノ燈火信號ハ使用セサルヘカラサル可シ艇隊ニテノ行動ハ吾人之ヲ歡迎ス

ト雖モ對艇ニテ放チタル水雷艇モ亦能ク成功ヲ收メ得ヘキハ吾人ノ信憑スル所ナリ而シテ艇隊ニ於ケル水雷艇ノ數ハ八隻ヲ以テ定限トスルヲ可トス

艇隊運動ノ際ニハ成ル可ク寡小ノ間隙ヲ取り單縱陣ヲ作りテ進行スヘク且第二艇ハ先頭艇ヨリ少シク右方ニ偏倚シ第三艇ハ左方へ第四艇ハ先頭艇ノ航跡ヲ進ミ其他之ニ準シテ進行スルヲ可トス

第二百二十一 夜間攻撃ノ際ノ隱密

凡ソ出來得ヘキ丈ノ隱密ヲ守リ準備的運用ヲ行フニ當リ注意ヲ要スル事アリ他ニアラス即チ敵カ其探照燈ヲ以テ我艇中ノ一ヲ照シ得タリトスルモ之ヲ以テ直ニ敵カ同艇ヲ發見シタリト爲スノ早計タルコト是レナリ之ヲ實地ニ徵スルニ未タ何人モ水雷艇ノ所在ヲ發見セサルニ自ラ認メテ以テ早ク既ニ發見セラレタリト爲スハ最モ有リ勝チノ現象ナリトス

海上地平線ノ一方面他ノ方面ヨリ晴明ナルトキハ闇冥ナル方面ヨリ近接スルヲ利トス月夜ナルトキハ月ヲ負フテ進行シ其光輝ヲ受ケサル端艇ノ面ヲ敵ニ對セシムルヲ利トス何レノ場合ニ於テモ敵艦ヨリ月若クハ光輝著シキ星ニ向ヘル方向ヲ横斷スヘカラス

闇黒ナル陸地ノ附近ニ在リテハ陸地ノ方面ヨリ近接スルヲ利トス陸地若クハ漁舟ニ於ケル燈火ヲ遮斷スヘカラス老練ナル信號手ハ艦上ノ低處ニ在テ燈火ノ掩蔽ニ依リ水雷艇ノ通過シタルコト并ニ其幾隻ナルヤヲ立ロニ發見シ能フモノナリ風アル日ニハ風下ヨリ接近スルヲ利トス敵若シ探照燈ヲ使用セハ

艇隊ハ黒キヲ利トスレトモ若シ之ヲ使用セサルトキハ寧ロ淡灰色ヲ用フルニ如カス又何ノ場合ニ於テモ光澤ナク艶ノナキ塗色ヲ可トス

水雷艇ヲシテ全ク他ヨリ見ルコト能サラシメント欲セハ之ヲ無光澤黑色ニ塗り久シク使用シテ汚レタル「ターポリン」若クハ古帆布ヲ以テ其外面ヲ掩フヘシ敵ノ探照燈帆布ノ色ヲ照サ、ル間ハ古帆布最モ能ク之ヲ隱掩ス探照燈ノ光輝能ク帆布ヲ照スニ至ラハ之ヲ除却スヘシ此場合ニ於テ黑色ハ電燈ノ光照ニ對シテ最モ識別シ難キモノナリ

第二百二十二 防材ノ破壊

水雷艇隊敵ノ港灣ニ進行スルトキハ防材ニ遭會スルコトヲ豫期セサルヘカラス而シテ時ニ或ハ無事防材ヲ乗越スヲ得ヘシト雖モ其際推進器及舵器ヲ破損スルノ虞アリ故ニ浸入スルニ先チ防材ヲ除却スルヲ以テ得策トス防材除却ノ方法ニアリ即チ爆發藥ヲ以テ之ヲ破壊スルカ或ハ重量物件ヲ附シテ之ヲ沈降セシムルニ在リ右兩者ノ内沈降ノ方法ハ尤モ適切ナルモノ、如シ而シテ防材沈降用ニ充ツル爲メニハ二個ツ、ヲ連結シタル「バラスト」若クハ袋入ノ石炭ヲ以テ滿載シタル端艇ヲ攜帶スルヲ要ス此等ノ重量品ハ防材カ水中ニ沈降スルニ至ル迄之ニ重疊ス可シ既ニシテ相當ノ間隙生スルヲ待テ水雷艇若クハ汽艇ハ同所ヲ通過シ歸航ノ際ハ亦前ノ端艇ノ目標トシテ航過スヘシ

第二百二十二 水雷攻撃ノ最後ノ瞬間

水雷艇隊カ豫期ノ距離迄敵ニ近接シタルトキハ所定ノ信號ヲ發スルヲ要ス例ヘハ信號燈ヲ稍々長ク照ス可シ此信號ニ依リ悉皆ノ水雷艇ハ立ロニ舵ヲ取り充分速力ヲ開發シ以テ敵前ニ向テ進撃スヘシ一タヒ攻撃ヲ開始スルヤ如何ナル事變ノ發生スルモ決シテ躊躇スヘカラス此時敵カ劇烈ナル火力ヲ開發シ或ハ其水雷艇ヲ以テ我艇隊ニ當ラントシ或ハ敵艦ハ針路ヲ轉シテ我水雷艇ヨリ遁逃ヲ圖ルコト有ルヘキモ這般ノ敵ノ行動ハ唯益々攻撃軍ノ士氣ヲ熾ナラシムルニ足ルヘク攻撃軍ハ其攻撃ノ成功ヲ告クルニアラサレハ決シテ之ヲ中止スヘカラスナルリ水雷發射距離内ニ近接セハ既ニ裝填セル發射管ヨリ悉皆ノ水雷ヲ放タサル間ハ必ス其位置ニ止マルヘキモノトス水雷發射ノ時機ヲ定ムルハ極メテ困難ナリトス通常夜間ハ彼我ノ距離其實際ヨリ短少ナルノ感アリ故ニ單獨艦ヲ攻撃スルトキハ成ルヘク之ニ近接スルヲ要ス然レトモ全艦隊ニ向ヒテ攻撃ヲ行フトキハ水雷艇カ未タ敵ノ爲メニ發見セラレサルニ先チ遠距離例ヘハ六「ケーブル」ノ所ニ於テ進行ヲ停止シ此距離ニ於テ悉ク水雷ヲ發射スルヲ以テ寧ロ利アリト爲スヘシ

第二百二十四 夜間水雷攻撃ノ際ニ於ケル精神的原素

精神的原素ハ夜間水雷攻撃ノ際巨大ノ勢力ヲ及ホスヘキモノニシテ若シ剛氣ノ人ヲ以テ水雷艇ニ乗込マシムルヲ得ハ其夜間攻撃ハ充分ノ成功ヲ收ムルコト毫モ疑ヲ存セス夷然トシテ危キニ臨ム大膽力ノ士ハ不思議ノ偉功ヲ奏シ小膽ト決斷力ノ缺乏ハ大ニ功果ヲ減殺スルモノナリ

夜間水雷ノ苦境ハ實ニ名狀スヘカラサルモノアリ吾人茲ニ對照ノ方ニ依リ此苦境ノ如何ニ慘憺ナルヤヲ明ニセント欲ス夫レ野砲兵ナルモノハ之ヲ歩兵ニ比スレハ一層膽力ヲ要スルハ人ノ能ク知ル所ナリ兩々相接シ一列ヲ作ス所ノ歩兵カ例令堅忍ノ特質ヲ表彰スルモ之ヲ砲ノ傍ラニ立タシメハ未タ以テ此ノ如クナルヲ得サルナリ凡ソ砲兵ナルモノハ平素其屍ヲ砲側ニ曝スノ覺悟ヲ以テ養成シ屢々之ヲ其念頭ニ喚起セシムルヲ要スルモノトス是レ知名ノ長官カ砲兵ニ訓示スルニ其守所ヲ死守スヘキヲ以テセルニ依テ之ヲ知ル可シ夫ノボロビノーノ戰鬪ニ先チクタイソフノ發シタル訓令ハ此關係ニ於テ特ニ顯著ナルモノトス曰ク

余カ命トシテ各砲隊ニ告ケヨ各砲隊ハ敵ノ來リテ其砲ヲ跳過スルニ至ラサル間ハ決シテ其砲列ヲ撤去スヘカラス又砲隊長及各將校ニ告ケヨ敵ノ散彈ヲ恐ル、コトナク最近距離ニ於テ夷然トシテ發砲シ敵ヲシテ一步タニ足ヲ我カ陣地ニ入レシムヘカラス元來砲兵ナルモノハ身ヲ以テ犠牲ニ供スル覺悟ナカラサルヘカラス敵ハ我砲ヲ捕獲セントスヘシ我ハ唯敵ニ肉薄シテ最後ノ散彈ヲ放ツコトヲ忘却スヘカラス而シテ斯ノ如キ情況ニ臨ミテ數門ノ砲ヲ捕獲セラル、モ敵ニ加フル損害ハ其損失ヲ償フニ足ルヘシト

而シテ大艦ノ砲手ト水雷艇乘組員トノ間ニ存スル境遇ノ差異ハ陸軍ノ歩兵ト砲兵間ニ存スル者ヨリ一層顯著ナルモノナリ艦内ニ在リテハ衆員ノ一舉一動ハ皆海員ノ目前ニ於テ生ス而シテ我カ露國ノ俚諺

ニ曰ク衆目ノ前ニ於テ死スルハ晴レノ事ナリト實ニ不磨ノ格言ナリ然ルニ水雷艇ニ於テハ人員寡ク加フルニ各部署ニ分配セラルレハ其一部ノ行動ハ他ノ窺知スルヲ許サス殊ニ艇長カ心裡ニ孤獨ナルヲ感スル何人モ及ハサル所ナリ就中隱密ニ敵ニ近接セントシテ費ス所ノ苦心慘憺タルハ一人ノ能ク之ヲ否認スルモノナシ

這般ノ現象ハ一顧ヲ煩スノ價值アリ仍テ茲ニ一ノ疑問ヲ提議セント欲ス即チ隱密近接ニ依リテ以テ獲得セラルヘキ利益ハ此際ニ免カレ難キ精神的不振ヨリ生スル不利益ヲ償ヒ得ルヤ否ヤ夜間攻撃ハ寧ロ公然之ヲ行ヒ水雷艇ノ互ニ之ヲ明視シ得ルノ優レルニ如カサルナキ乎斯ク水雷艇ニ於テハ攻撃ノ時機ヲ謀リ一聲萬歲ヲ唱ヘ此相互ノ應援ニ由リ總攻撃ノ齊一ヲ期スルノ優レルニ如カサルナキ乎今吾人ノ意見ニ依ルトキハ隱密ノ方法公然ノ方法共ニ得失アリ然レトモ吾人ハ寧ロ後者ヲ取ラント欲スル者ナリ

茲ニ四個ノ水雷艇隊アリ港ヲ出テ、敵ノ艦隊ヲ攻撃セント假定セン右ノ内一個艇隊ニハ某ノ時ニ於テ敵ノ北方ニ第二ノ艇隊ニハ其東方ニ第三ノ艇隊ニハ其南方ニ第四ノ艇隊ニハ其西方ニ來ルヘキ命令アリ所定ノ時到レハ火箭ヲ發シテ信號シ斯ク水雷艇ニ於テモ亦之ニ倣ヒテ同信號ヲ放チ而シテ艇備燈ヲ顯ハシ同時ニ攻撃ニ著手スヘシ但シ其際普通ノ燈火ハ點セスト雖トモ水雷發射ニ必用ナルモノハ之ヲ點用スルヲ妨ケス

攻撃ニ着手スルヤ敵ノ砲火ヲ牽掣スルノ方畧トシテ浮子ニ燈火ヲ附シ水上ニ放ツヲ可トス

攻撃信號ヲ發シタル瞬時ヨリ各艇ニ於テハ高聲ニ命令ヲ下シ相互ニ呼應シ若クハ呼笛ヲ以テ或ル命令ヲ下シ其他提燈ヲ以テ各種ノ信號ヲ發スルヲ妨ケス吾人ノ所見ニ依レハ這般ノ舉動ハ艇員ノ士氣ヲ熾ナラシメ且ツ過大ノ隱密ヲ守ルニ依リテ惹起サル、精神的不振ヲ排除スルニ足ルモノナリトス

曾テスウオーロフ謂エラク汝ノ火繩ニ點火セヨ汝ノ體ヲ砲上ニ投ケ懸ヨ敵彈ハ汝ノ頭上ヲ超飛スヘシ云々此等ノ數言ハ水雷攻撃ニ應用シテ當ニ適切ナリト謂フヘシ榴霰彈及速射砲ノ彈丸ハ大概頭上ヲ超飛スルモノナリ敵ノ射手ハ鬼神ニアラス吾人ト同一ノ人ナリ其心中殊ニ平然タル能ハサル所アルヘシ良シ又假リニ平然タルヲ得ヘシトスルモ夜間襲來スル水雷艇ニ對スル射撃ハ成功ヲ收メ得ヘキモノニアラス何トナレハ一部ノ水雷艇ハ假令探照燈ノ照ス所トナルモ爾餘ノ諸艇ハ暗黒裏ニ在レハナリ又照明セラレタル諸艇ト暗黒裏ニ在ルモノトニ別ナク之ニ達スル距離ハ知悉スヘカラス且彈着ニ依リテ射程ヲ正整セントスルモ決シテ成シ能ハサルナリ何トナレハ砲手ハ自他ノ彈丸ノ互ニ混合シテ墜落スル場合ニ於テ我彈丸ヲ識別シ能ハサルハ極メテ明瞭ナレハナリ

前述ノ事由ニ就キテ見ルトキハ隱密ハ遠距離ニ在ル間特ニ敵ノ水雷破壞艇ノ爲メニ防遏セラレサラシカ爲メ姑ク之ヲ遵守スルノ必要アルモ時期熟スル時ハ直前邁往之ヲ攻撃スルヲ要ス蓋シ天ハ猛者ヲ擁護ストハ千古ノ金言ナリトス

第十四章

各種海軍々事ニ關スル教導

第二百二十五 爾他海軍々事學ニ對スル海軍戰術ノ任務

前上既ニ陳述シタル如ク海軍戰術ナルモノハ海軍々事學科ノ首斑ニ立ツモノナレハ自ラ爾他ノ諸科學ニ對シ其追究スヘキ目的及或ル場合ニ於テハ此目的ヲ達スルニ必要ナル方法ヲ指示スルノ責務ヲ荷フモノナリ海軍戰術ニシテ追究スヘキ目的ヲ指示セザランカ各専門ノ海軍軍事學科ハ各獨特ノ發達ヲ爲スヘク時ニ或ハ進路ヲ誤ルコトナキニアラサルノミナラス諸科學ノ間ニ一般ノ連絡ヲ缺クニ至ルヘシ其他海軍戰術ナルモノハ有ラユル海軍ノ分科ヲ規定シテ以テ凡ソ海戰ニ要スルモノヲ網羅シ一モ漏スコトナキヲ期セサル可カラス而シテ其斯ノ如キヲ要スル所以ノモノハ何レノ分科ハ何々ヲ擔任シ之カ發達ニ努ムルカヲ明瞭ナラシメンカ爲メナリ徒ラニ科程ノ擴張ヲ圖ルカ爲メニアラス否科程ヲ擴張スルノ非ナルハ吾人既ニ之ヲ述ヘタリ

海軍ノ各事項ヲ各科ニ分配スルニ方リ修得ノ便ヲ以テ其主眼ト爲サ、ル可カラス本編ノ著者ハ素ト本事業ニ通曉セス敢テ分配ノ適否ヲ論セスト雖モ吾人ノ職務ニ屬スル諸般ノ事項ニシテ未タ何レノ分科ニ編入スヘキヤ判明セサルモノアリ之ヲ現行ノ科程ヲ知悉スルノ士ニ質スハ極メテ緊切ナリト認ムル

モノナリ例ヘハ不沈沒質、信號、防禦網、漏洩填塞、自艦特質ノ研究、防材敷設、海底電線ノ敷沈及其切斷等ノ如キ是レナリ是等ハ舉ケテ之ヲ海軍運用術ニ一任スヘキヤ將タ他ノ科ニ擔任セシムヘキヤ

第二百二十六 運動術ニ對スル教導

吾人ノ所見ニ據レハ軍艦ノ艦隊ニ於ケル運動ハ所以運動術ナル名稱ノ下ニ一ノ獨立科學ト作スヘキモノナリ此科學ハ艦ノ運動ヲ支配スル原理及各艦特質ノ研究方法ヲ講究スルヲ以テ其本領ト爲シ艦隊運動ノ規則ヲ講究シ陣形及其變更ニ關スル教訓ヲ與フルヲ以テ職分トスヘシ夫ノ運動術ナルモノハ今日ニ至ルモ尙ホ獨立ノ科學トナラスアドミラルブタコーフハ汽船戰術ノ新基礎ト題スル著書ニ於テ

專ラ此科學ヲ論究シ其原理ヲ論スト雖モ而カモ之ニ汽船戰術ノ名稱ヲ降セリ夫レ戰術ハ戰鬪ニ就キテノ科學ナリ故ニ凡ソ戰勝ニ導クモノハ悉ク戰術ノ科目タラサルヘカラス果シテ然ラハ獨リ運動術ノミナラス砲術ノ如キモ亦齊シク之ヲ戰術ニ編入セサル可カラスト雖モ开ハ唯徒ラニ其範圍ヲ擴張スルニ過キササルヘシ吾人願フニ艦及艦隊ノ運動ヲ支配スル原理ハ運動術ナル一ノ獨立科學トシテ講究セシムルヲ以テ正鵠ヲ得タルモノト謂フヘシ

陣形ノ變更 陣形變更ノ時ニ當リ艦ヲ圈狀若クハ一直線ニ運動スルコトヲ始メテ提議シタル者ハブタコーフナリ而シテ此運動法ニ據ルトキハ頗ル整然トシテ變更ヲ行フヘシト雖モ亦自ラ其短所ナキニアラス是レ變更ノ爲メ多クノ時間ヲ要シ且ツ變更ニ從事スル艦隊ハ其運動ヲ完了スルニ至ル迄ハ他ノ運

動ヲ開始スルコト能ハサルコト是ナリ現ニ或ル海軍ニ在リテハ此短所ヲ重視スルノ餘リ斜線ニ據レル運動法ヲ採用スルニ至レリ此方法ニ據ルトキハ速度ノ比例的減少ヲ要スヘキニ由リ信號書中各艦ニ於テ増減スヘキ程度ヲ示セリ其他兩方法ヲ併用スル海軍モアルナリ

陣形變更ノ方法ハ孰レヲ完全ノモノトシテ之ヲ採用スヘキヤト謂フ主要問題ノ外尙ホ茲ニ一ノ重要問題アリ即チ運動ノ際諸艦ハ番號順序ヲ守ルヘキカ將タ之ヲ要セサルカ若夫レ艦ノ番號順序ヲ守ルノ必要ナシトセンカ圈狀若シクハ一直線ニ據レル運動ハ爲メニ大ニ單純トナルヘシ秩序整然タル夫ノアドミラルプタコーフノ正式ニ據ルモ尙ホ且ツ往々順序著シク變更シテ先頭艦ノ殿艦トナリ右翼艦ノ左翼艦ト爲ルコトアリ是ヲ以テ吾人按スルニ諸艦ノ順序ハ之ヲ介意スルヲ要セス斜線の運動并ニ圈狀の運動ニ適スル運動程式ヲ具備スレハ運動ヲ簡便ニシ大ニ便宜ナルヘシ

陣形變更ノ間長時間ヲ要シ而シテ此間旗將ハ諸艦ノ錯雜ヲ來スノ覺悟ヲ以テスルニアラサレハ決シテ他ニ手ヲ下シ難キコト前上既ニ吾人カ陳述セル所ノ如シ斯ノ如キ時ニ於テハ最モ重要ナル一齊ノ針路變換ニ關スル信號ヲ發スルコト能ハス然レトモ水雷攻撃ヲ回避スル爲メ諸艦ヲシテ同時ノ回轉ヲ行ハシメントシテ陣形變更ノ停止ヲ要スル場合之ナキニアラス此場合ニ處スル爲メ簡短ナル信號ヲ設定セサル可カラス而シテ吾人ノ意見ニ據レハS(宜候)ノ信號旗ヲ掲揚シタルトキ諸艦ハ成ルヘク迅速ニ旗艦ト併行ノ針路ニ移リ以テ旗將ヲシテ艦隊運動ノ機能ヲ得易カラシムヘシ

第二百二十七 陣形ノ改作

或海軍ニ於テハ今尙ホ任意ノ方法ヲ許シ各艦ハ衝突豫防ニ關スル諸規程ヲ遵奉シ隨意ノ針路ニ依リテ新陣形ニ於ケル自己ノ位置ニ就クヲ許セリ茲ニ一ノ艦隊アリ二列縱陣ヲ以テ進行中或點(羅盤ノ)ニ向ヘル突梯陣ニ變更スルノ必要起レリト假定セン此時ニ於テ「梯陣作レ」ノ信號掲揚セラル該信號ノ降ルヤ旗艦ハ新針路ヲ取り爾餘ノ諸艦ハ成ルヘク迅速ニ各自ノ新位置ニ就クコトヲ勉ムヘシ此種ノ運動ヲ稱シテ陣形ノ改作ト云フ則チ前記ノ方法即チ陣形變更ト之ヲ區別スルナリ

陣形改作ノ方法ニ依ルトキハ比較的迅速ニ一ノ陣形ヨリ他ノ陣形ニ移ルヲ得ヘシ而シテ此場合ニ於テハ諸艦衝突ノ虞多大ナルヘシト雖モ戰闘中ハ陣形變更ヨリ此方法ヲ用フルコト一層頻繁ナルヘシ夫レ陣形ハ戰闘中破滅セラルヘク陣形一タヒ破滅セラルレハ改作法ハ艦隊ノ秩序ヲ整フルニ特ニ有利ナリトス又總シテ陣形錯亂ニ諸艦其爲ス所ヲ知ラサル場合ニ際シ最モ簡便ナル法ハ旗艦ト併行ノ針路ニ就キ其通跡ニ入り位置ヲ占ムルニ在リ

第二百二十八 水雷艇ノ運動

水雷艇ノ運動ハ極メテ單純ナラサルヘカラス水雷艇隊ニ在テハ運動旗掲揚若クハ圈狀運動等ノ如キ悉皆ノ運用ハ到底遂行シ能ハサルナリ而シテ水雷艇ヲシテ主トシテ熟練セシムヘキハ橫陣ニ據リテ進行スルコト及右方若クハ左方ニ方向變換ヲ行フコトアリ乃チ橫陣ヲ以テ方向變換ノ際ニ於テ回轉ノ中心

タル翼ノ艇ハ進行ヲ中止シ反對翼ノ艇ハ全速力ヲ開發シ爾餘ノ諸艇ハ各自ノ位置相當ノ速力ヲ維持シツ、整列ヲ亂サ、ランコトヲ努ムヘシ

凧笛信號ニ依リ方向變換ヲ行フコトモ亦諸水雷艇ヲシテ練習セシメサル可カラス長キ一回ノ凧笛ヲ「宜候」ノ信號ト定メ二回ヲ「右方回轉」三回ヲ「左方回轉」ノ信號ト定ムヘシ而シテ回轉ヲ行フノ際ニハ司令艇ニ注目シ同艇回轉ノ程度ニ倣ヒテ自艇ヲ回轉スヘシ而シテ司令艇既ニ回轉ヲ了リタルトキハ之ニ依リテ整列スヘキ意義ノ信號ヲ發スヘシ前記ノ方法ハ予曾テ實驗シタルコトアリ予ハ之ヲ便宜ト認ム

第二百二十九 速力及回轉質ノ二原素ニ關スル幕僚機關士

アフオメーシエフノ斷案

運動整然タルト否トハ大ニ艦ノ性質ニ依リテ消長スルモハナリ吾人ハ第九十九項ニ於テ諸般ノ關係上自艦ノ研究ヲ遂クルコトノ如何ニ緊要ナルカヲ說ケリ又艦ハ各特有ノ性質ヲ具備スト雖モ亦多少各艦ニ應用シ得ヘキ共通ノ原理必ス存在スルモノナリ顧フニ此事ニ關シ科學ヲ裨益スルコトウエー、イ、アフオメーシエフ氏ノ如ク顯著ナルハ未ダ曾テ見聞セサル所ナリ實ニ氏ハ力ヲ盡シテ材料ヲ蒐集シ遂ニ一般ノ斷案ヲ索ムルノ勞ヲ辭セサリシナリ此事ニ關シテ吾人カ示教ヲ乞ヒタルニ氏ハ欣然之ヲ應諾シテ自己ノ著書中ヨリ所要ノ事項ヲ授ケラレタリ氏ハ研究ノ成績ヲ各公式ヲ以テ舉示セラレタリ

實踐家中ニハ往々公式ヲ悅ハサルモノアリテ其閱覽スル書中公式ヲ掲載セル箇所ハ悉ク之ヲ看過シ自ラ求メテ事ノ淵源ヲ知ルノ機會ヲ逸スル者ナリ本編ノ如キハ元來實踐家ノ爲メニ供スル者ナレハ吾人ハ此アフオメーシエフ氏ノ斷案ヲ一層平易ニ述フルヲ便宜ト爲ス是亦氏ノ自ラ援助ノ勞ヲ惜マサリキ所ナリ而シテ此尊敬スヘキ學者ノ斷案ノ要ハ左ノ如シ

艦ノ排水量ヲ五分若クハ一割増シ若クハ減スルトキハ同一ノ實馬力ヲ以テシテ直航ノ場合ニ於ケル速力ハ一分若クハ二分ヲ減シ若クハ増スモノトス
排水量ヲ五分若クハ一割増シ若クハ減スルトキハ直航ニテ從前ト同速力ヲ保タントスルニ必要ナル實馬力ハ三分若クハ七分ヲ増シ若クハ減スルモノトス
艦底ニ於ケル附着物ノ爲メ速力等ノ減却ヲ生スルハ左ノ割合ヲ以テス

速力 八 分

回轉數 一 割

實馬力 一割二分

大速力ヲ以テ進行シ防禦網ノ水面ヲ浮行スルトキハ防禦網ノ爲メ艦ノ速力ヲ減少スルコト二割五分ナルヘキモ比較的微速力ニテ進行ノ際防禦網ノ垂沈スルトキハ五割マテ減却スルコトアルヘシ排水量ヲ五分若クハ一割増減スルトキハ艦ノ一回轉ヲ行フ時間ハ一分若クハ二分増減シ艦ノ回轉圈

ノ直徑ハ殆ト變更セス

第二百三十 速力、實馬力、回轉數、及費消石炭量ノ關係

速力、實馬力、回轉數、及費消石炭量ノ間ニ存スル相互ノ關係ハ左表ノ如シ但シ全速力ノ數ヲ百ト爲シ以下百分比例ヲ以テ之ヲ示ス

速力	實馬力	回轉數	一馬力ニ對スル石炭費消費量	一時間ノ石炭費消費量
一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%
九〇	七〇、八	八九、一	一一三	八〇、〇
八〇	四八、七	七八、七	一三一	六三、七
七〇	三二、四	六八、七	一五四	五〇、〇
六〇	二〇、六	五九、一	一八四	三八、〇
五〇	一二、四	四九、九	二二七	二八、一
四〇	六、八	四〇、八	三〇五	二〇、七
三五	四、八	三六、三	三六一	一七、三

本表ノ使用方ハ極メテ容易ナリ例ヘハ第六行ノ數字ヲ見ルニ艦カ若シ其全速力ノ九割ヲ出サントスル

時ハ全速力ノ際ニ於ケル實馬力ノ一割二分四厘ヲ開發シ回轉數四割九分九厘ヲ出シ每一馬力ニ對シ全速力ノ際ニ費消スル石炭量ノ二十二割七分ヲ費消シ一時間ニ二割八分一厘ヲ費消スルモノト知ルヘシ

第二百三十一 回轉圈ノ直徑

回轉圈ノ原素ニ關シウエー、イー、アフオナーシエフ氏ハ左ノ二表ヲ案出セリ但シ該表モ亦便覽ヲ期スル爲メ吾人之ヲ百分比例數ニ改造セリ

回轉圈直徑ノ比例表

回轉前ノ速力	回轉前ノ回轉數	舵器ノ位置			
		一杯	九〇%	八〇%	七〇%
一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一一%	一二五%	一四三%
九〇	八九	九七	一〇八	一二一	一三九
八〇	七八	九三	一〇三	一一八	一三三
七〇	六七	八九	九九	一〇一	一二七
六〇	五七	八四	九二	一〇五	一二〇
五〇	四六	七九	八八	九九	一一三

本表ニ就キテ之ヲ見ルニ速力全速力ノ五割ナルトキハ回轉數ハ全速力時ノ四割六分ニ當リ而シテ舵一杯ニ取リタル時ノ回轉數ノ直徑ハ全速力ノ場合ニ於ケル直徑ノ七割九分ナルヘク又舵器ヲ一杯ノ五割ニ取リタルトキ回轉數ノ直徑ハ全速力ニテ舵器ヲ一杯ニ取リタルトキノ直徑ニ對シ十五割八分ト爲ルヘシ

第二百三十二 旋回時間表

旋回前ノ速力	旋回前ノ回轉數	舵器ノ位置					
		一杯	九〇%	八〇%	七〇%	六〇%	五〇%
一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇三%	一〇七%	一一一%	一一七%	一二三%
九〇	八九	一一一	一一四	一二八	一二三	一三〇	一三七
八〇	七八	一二五	一二九	一三四	一三八	一四六	一五四
七〇	六七	一四三	一四七	一五三	一五八	一六七	一七六
六〇	五七	一六七	一七一	一七八	一八五	一九五	二〇五
五〇	四六	二〇〇	二〇六	二一四	二二二	二三四	二四六

本表ノ使用法モ亦前表ト毫モ異ナルコトナシ例ヘハ全速力ノ五割ノ速力ニテ舵器ノ位置ハ一杯ノ八

割ト爲ストキハ一回轉ノ時間ハ全速力ニテ舵器ヲ一杯ニ取リタルトキノ直徑ニ對シ二十一割四分トナルヘシ

以上ノ二表ハウエー、イー、アフオナーシエフ氏自ラ之ヲ充分ナリト認メスト雖モ今尙ホ之ニ優リタルモノナキヲ以テ姑ラク前表ニテ満足スルノ外ナシ

第二百三十二 速力ノ均整

運動ノ正確ナルハ線列ノ均整ヲ待チテ始メテ之ヲ期スルヲ得ヘシ此條件タル頗ル重要ナルニ拘ラス吾人カ往々實見スル所ノモノハ常ニ線列ノ散逸ニ在リ各艦長ハ己レノ前續艦ニ近接スルヲ欲セサルヨリ自然緩行スルノ傾アリアドミラルブタコーフハ始終此弊習ヲ排除スルコトニ努力シタリ獨ブタコーフノミナラス艦隊司令長官ノ職ニ就キタルモノハ何人ノ別ナク必ス配下ノ各艦長ヲシテ其位置ヲ確守スルコトニ注意セシメサルヘカラス

艦隊ニ於テ各艦ノ位置ヲ確守スルコトハ特ニ速力ノ均整ヲ得ルト否トニ依リテ消長スルモノナリ故ニ艦ノ速力ヲ測ルニ節數ヲ以テセス則チ標準艦ノ回轉數ヲ以テ之ヲ測ルヘキナリ速力ヲ均整シテ毫厘ノ差違ナカラシメント欲スルモ決シテ能ハサルナリ何トナレハ速力ハ風力ニ變動ヲ生スル毎ニ増減スレハナリ然リト雖モ正確ニ回轉數ヲ整理スルノ方法アリ現ニ佛國ノ海軍ニ於テハワレスー整理器ヲ使用セリ該器ハ時計器械ノ作用ニ依リ所要回轉數ニ相當スル速力ヲ以テ運轉スルモノナリ是ヲ以テ該器ニ

所要回轉數ニ相當スル速力ヲ賦與シタル後ハ機關及該器ノ示針カ同一ノ數字ヲ示スヤ否ヤヲ觀察スレハ足レリ此整理器ヲ應用スルトキハ己レノ前續艦後續艦ニ對シ幾何ナリトモ隨意ニ前後ニ進退スルコトヲ得ヘシ此種ノ器械アリテ始メテ距離ヲ確守スルヲ得ルナリ

第二百三十四 晝間及夜間ノ信號

顧フニ晝間及夜間ノ信號ハ海軍實踐科ノ一科目ト爲シ營ニ帆走術ニ劣ラサル研究ヲ要スルノミナラス尙ホ進ミテ一層之カ開發ヲ圖ラサルヘカラサルモノトス

各國ノ海軍中ニハ目下既ニ檣頭信號器セマフォールヲ採用セシモノアリ又之ヲ採用セントスルモノアリ該信號器ハ信號ノ識別距離ヲ増大シ且ツ信號書ニ據ラスシテ隨意ノ音信ヲ傳ヘ得ルナリ尙ホ該器ハ戰時大ニ利用スルニ足ル長所アリ即チ該器ニ依リテ極メテ速ニ所定ノ戰鬪信號ヲ發シ得ルコト是レナリ該器ニ依ルトキハ此種ノ信號五十六種ヲ爲スヲ得殊ニ重大ノ關係ヲ及ホスモノハ別ニ信號旗ヲ撰出シ之ヲ綴着シテ掲揚スルノ煩ヲ省キ僅々數秒間ニ信號ヲ傳ヘ得ルノミナラス尙該信號ヲ解釋シ迅速ニ之カ答報ヲ爲スヲ得ルニ在ルナリ

夜間信號ニ關シテハ電信用「アルファベツト」ニ依リテ對話シ得ル如ク改良ヲ加フルコト頗ル緊切ナリトス幸ニ適當ノ提燈ランタレン現存スレハ今ハ唯之ヲ應用スルノ方法ヲ發見スルヲ要ス

第二百三十五 航海術ニ對スル教導

凡ソ海軍々人カ航海術ニ依リテ得ル所ハ毫モ商船員ト軒輊アルコトナシ夫レ然リ然ルニ商船カ航海ノ途中遲延スルコトアルモ之カ爲メ釀成シ得ヘキ損害ハ些々タル物件上ノ損失ニ止マルヘキモ軍艦若クハ艦隊ノ遲延ハ敗北ノ基因トナルベシ而シテ天氣果シテ晴明ナランカ晝間夜間ノ別ナク進行ヲ妨クヘキ障碍ヲ排除スルノ方法既ニ完備セリ若シ夫レ航路ノ何レニ於テカ夜間交通ニ便ナラサル箇所アランカ數隻ノ端艇ニ燈火ヲ配置シ以テ如何ナル航路ト雖モ之ヲ通過スルヲ得ヘキナリ

第二百三十六 霧中自艦ノ位置ノ識別

艦ノ所在ヲ識別スルニ於テ最モ困難ヲ感セシムルモノ之ヲ霧ト爲ス波羅的海及黑海ニ於テ霧ニ逢會スルコト左マテ頻繁ナラスト雖モ日本海及オコーツク海ニ於テハ降霧多ク浦潮斯德附近ニハ晚春及夏期ニ於テ晴明ナル天ヲ見ルヨリ濛々タル降霧ニ接スルコト一層頻繁ナリト謂フモ敢テ過言ニ非ラサル可シ同地方ノ霧ハ通常太陽ヲ隱蔽スル迄濃厚ナラスト雖モ地線ハ明視スルヲ得サルナリ故ニ航海者ハ天躰ノ高度ニ依リ己レノ所在ヲ測知シ能ハス是ニ於テ歟霧中天躰ノ高度ヲ測定スルノ方法ヲ索メ實驗ト學理ノ研究ニ依リ本問題ノ解釋ヲ圖ルハ吾人ノ切望ニ堪エサル所ナリ霧ノ太陽ヲ隱蔽セサルヲ以テ之ヲ見レハ霧層ノ高サハ格別大ナラサルニ似タリ予曾テ霧中進行中試ミニ空樽若クハ爾他ノ物件ヲ投棄シ其明視界ヲ脫スルマテノ時間ニ依リ霧ノ濃厚ノ程度ヲ測知センコトヲ圖リタルニ太陽ヲ明視シ得ルノ天候ニ在リテハ二「ケーブル」ノ距離ニ於テ物件ヲ見失フコトヲ確知セリ蓋シ太陽ノ明視程度ハ光

輝ナキ他ノ普通物件ノ明視程度ト相匹敵スヘキモノニアラスト雖モ初等ノ星ハ同シク視ルヲ得ルヲ以テ他ヲ推及スルヲ得ヘシ

霧層ノ高サ甚タ大ナラサルヨリ推測スレハ繫留輕氣球ノ如キハ或場合ニ於テ陸地ノ識別上裨益スル所アラン現ニ甲板上ヨリハ一物ヲ辨知シ難キ時ニ於テ橋頭ニ登レハ高山ノ方位等ヲ得爲メニ艦ノ所在ヲ測定シ得ルコト往々之レアリ此目的ヲ以テ又タ概シテ他艦及陸地ヲ識別セン爲メ橋上ニ信號手ノ入ルニ足ル小樓ヲ設置シ之ニ昇降ヲ便ニスル爲メ相當ノ設備ヲ爲スハ有益ノ事ト云フヘシ

陸地ヲ識別シ霧中自己ノ所在ヲ測定スル設備ヲ爲スコトニ於テ先鞭ヲ著ケタル艦隊ハ大ニ戰術的優勢ヲ得ヘシ最近時ノ發見ニ屬スル夫ノ「レシトゲン光線」ハ從來不透過體ト認定セラレタルモノヲ透過ス何ソ將來ニ於テ濃霧ヲ透過スルノ光線ノ發見セラル、コトナシト謂フヲ得ンヤ若シ夫レ之ニ必要ナル光線ノ實際發見セラル、コトアラン歟是レ防守者ノ爲メニ一利ヲ益スモノト謂フヘシ何トナレハ彼レハ有利トスルトキニ於テノミ其燈火ニ該光線ヲ使用スヘケレハナリ是ヲ以テ戰術ノ點ヨリ論スルトキハ本問題ハ當然研究ヲ要スルモノナリ何トナレハ闇霧ヲ透過スヘキ燈火ヲ設置シタル後ハ現今夜間ニ限り應用シ得ヘキ戰術的利益ヲ尙ホ晝間降霧ノ時ニ享有シ得ヘケレハナリ

第二百三十七 砲臺ノ圖取リ

尙ホ航海術上著目ヲ要スル一問題アリ即チ敵ノ砲臺ノ略圖ヲ製スルコト是レナリ凡ソ此事業ニ必要ナ

ル物件就中特製寫眞器械ノ如キハ必ス各艦ニ之ヲ供給セサルヘカラス此事ニ關シ諸般ノ練習ヲ爲スハ頗ル有益ナルヘク吾人亦去夏中此業ニ就キ實驗ヲ試ミ少シク獲ル所アリ此事業ノ如キハ艦隊ト陸上砲臺トノ戰鬥ニ於テ大關係ヲ有スルモノナレハ盛ニ之カ開發ヲ圖ルハ吾人ノ切望シテ止マサル所ナリトス

第二百三十八 造船術

吾人ハ所以戰術ナルモノ、主眼トスル所ハ即チ艦隊ノ戰鬥準備ヲ完全ナラシムルニ在ルコトヲ忘却スヘカラス事ニ望ムニ當リ苟モ此視點ヨリスルトキハ吾人曾テ誤謬ニ陥ルノ虞ナシ若シ夫レ平時ノ便利ニ重キヲ置クトキハ艦ハ必ス戰鬥用ニ不適當トナルヘシ則チ凡ソ軍艦ナルモノハ明日戰鬥ニ當ラシムルモ差支ナキ様ニ建造セサルヘカラス吾人苟モ此主義ヲ以テ自ラ奉スルコトナクンハ永キ平和ノ間ニ所謂存在權ヲ獲得シタルモノニシテ改造セサルヘカラスナルモノ多々ナルニ至ラン吾人カ前ニ引用シタル佛國某將官ノ言即チ空所ハ艦内ノ最大奢侈ナリ之レハ極メテ深重ノ意義ヲ含蓄スルモノナリ

第二百三十九 軍艦ノ大サ及其製式

軍艦ノ大サハ幾何ニシテ可ナルカ是レ製艦業ニ於ケル最大問題ナリトス本件ニ關スル吾人ノ意見ハ「軍艦戰鬥力ノ要素」ト題スル論文中既ニ之ヲ陳述セリ尙ホ吾人ハ茲ニジュリエント、ド、ラ、グラウイエールノ著書中ノ一節ヲ附記セント欲ス(第二編第六頁)

英國ニ於テハ當時將旗ハ必ス三層甲板艦ニ掲揚スルコト、爲セリ此慣例ハ英人カ何レノ時ニ於テモ遵奉ヲ怠ラサリシ公式ノ一ナリキ是ニ由リテ之ヲ觀レハ將官ニ對シ其官職相當ノ軍艦ヲ供給セントスル希望ハ遂ニ此種ノ重量ナル大艦ヲシテ久シク其跡ヲ英國ノ海軍ニ留メシムルノ原因トナリ其回轉ノ自在ナラサル速力ノ遲鈍ナルハネルソンカ飽クマテモ罵倒シタル所ナリト

顧フニ將來ニ於テモ戰爭ニ際シテハ海軍將官ハ現今ノ重大ナル艦式ニ對シ恐ラク好評ヲ下サ、ルヘシ破裂彈ノ發明前ハ二層甲板艦ハ概シテ満足ナル結果ヲ表シタリ

フリゲイト
弗利曼艦及大形哥爾威艦ノ採用ハ速力ヲ増進セシムルト彈丸破裂スルモ比較的著大ノ損害ヲ被ラサルヘキ開放砲臺ニ多數ノ砲ヲ備ヘントスル希望ニ依リテ誘致セラレタルモノナリ後年ニ及ヒ各國ノ海軍ニ於テ孜孜トシテ破裂彈ノ改良ニ努メ且ツ乘組員ヲシテ彈片ノ被害ヲ避ケシムル爲メ頃口或海軍ニ於テハ上甲板ニ備フル砲ノ周圍ニ楯ヲ設クルモノアリ爰ニ於テカ砲手ハ薄弱ナル包圍物内ニ在ラシムルヨリ寧ろ開放セル上甲板ニ置クノ安全ナルニ如カサルヘキ歟ノ問題起ルヘシ此問題ニシテ果シテ可決セラレンカ吾人カ希望スヘキ艦ノ製式ハ機關及爾他ノ致命部ヲ掩護スル防甲板ヲ有スル小艦ニシテ砲及水雷ノ武装ハ悉ク上甲板ニ配置シタルモノナリトス

物件ニ比スレハ平面ニハ彈丸命中シ易キハ黃海ノ海戰ノ後予カ親シク戰艦鎮遠ヲ實見シテ確信スル所ナリ同艦ノ舷面ハ到ル所彈孔ヲ以テ散布セラル、モ該戰團中使用セラレタル物件ニシテ而カモ些ノ

掩護物ナキモノ何レモ全キヲ得タリ例ヘハ艦首及艦尾ニ据附ケタル二門ノ六「インチ」砲ハ砲架ト共ニ完存シ上甲板ニ配置セラレタル速射砲六門艦首ニ据付ケタル起重器ケルブス及附屬瀆管「ホースホール」「チエーン、ストツバー」及唧筒等亦然リ即孤立シタル物件ハ悉ク完存シ而シテ艦ハ其彈丸ヲ用ヒ盡クスマテ發砲ヲ繼續シタリ

第二百四十 鳴綠江海戰ノ解釋ハ正鵠ヲ失ス

戰艦鎮遠及其姊妹艦定遠カ無事鳴綠江ノ戰場ヲ退去シタル事實ニ基キ直ニ甲板ヲ以テ大砲ニ勝リタリト斷案ヲ下シタルモノアリ予ハ親シク鎮遠ヲ見此問題ハ甲板ニ在ラスシテ彈丸ニ在ルコトヲ認メタリ當時日本軍カ使用シタル彈丸ハ其質粗惡ナリキ而シテ鳴綠江ノ海戰ハ從來世人ノ識リタル如ク粗惡ノ彈丸ヲ以テシテハ如何ナル甲板ヲモ穿貫シ能サルコトヲ證明シタルモノナリ同海戰ニ於テ巡洋艦ハ若干ノ甲鐵艦ヲ滅亡セシメルモ速力優逸ナル二隻ノ戰艦ハ日本艦隊カ他ノ諸艦ト鬪争スル間隙ヲ窺ヒ遂ニ戰場ヨリ退去スルヲ得タリ而シテ此事實ハ大ニ其解釋ヲ誤リ傳ヘタリト謂フヘシ即チ鳴綠江ノ海戰ニ於テハ甲板ヲ以テ砲彈ニ勝チタルモノト見做スト雖モ是レ斷シテ正鵠ヲ得タルノ見解ニアラス要スルニ戰艦ハ一ニ砲力ニ依リテ之ヲ期スヘク甲板ハ唯敗北ノ時期ヲ遲延スルニ止マルコトヲ忘却スヘカラス軍艦ノ製式ニ關スル吾人ノ意見ハ依然變更セス即チ艦ハ皆同一ノ排水量同一ノ形狀ナラサル可カラス且ツ曩ニ「軍艦戰力ノ原素」中ニ述ヘタル事由ニ基キ吾人ハ三千噸ノ防護甲鐵艦ヲ以テ艦

隊ヲ編成スルヲ適切ト認ムル者ナリ但シ砲ハ上甲板ニ限り之ヲ据付クルヲ要ス
論者或ハ謂ハン小艦ナルトキハ其行動區域自ラ甚シク縮少スヘシト然レトモ行動區域ハ決シテ排水量
ニ於テ求ムヘキモノニアラス宜シク補助推進汽關ノ具備并ニ艦ヲ沈降セシムル所ノ甲板重量ノ排除ニ
於テ之ヲ求ムヘキナリ甲板ヲ排除シ補助推進汽關ヲ設備シ電氣燈機關ヲ廢シ去ラハ三千噸ノ艦ヲシテ
途中石炭ノ積込ヲ要セスシテ五節ノ速力ヲ以テクロンシュタツトヨリ浦潮斯德ヘ直航セシムルコト敢
テ難キニアラサルナリ

第二百四十一 技術的條件一定ノ必要

必然軍艦カ具有スヘキ技術的條件ヲ制定シ製艦ノ際之ニ適合セシムルニ努ムヘキハ吾人既ニ「軍艦戰
鬪力ノ原素」中ニ之ヲ説キ其條件モ亦全書中ニ之ヲ掲載セリ爾來本件ニ關シ吾人ノ意見更ニ變更スル
所ナシ抑技術ノ上ニ於テ見解ノ相齊シカラサル素ヨリ其所ナリ故ニ吾人カ唱道スル見解モ亦其細節ニ
至リテハ世人ノ爭抗スル所ト爲ルモ未タ知ルヘカラスト雖モ然レトモ艦カ必然具有スヘキ技術的條件
ヲ制定スルノ必要ニ關シ吾人カ説ク所ノ主義ハ何人ト雖モ恐ラク之ヲ否認スルモノナカルヘシ斯ノ如
キ秩序ヲ缺クトキハ造船術ノ基礎鞏固ナラス隨テ亦艦ノ製式ノ如キモ依然區々タルヲ免カレサル可シ
事態斯ノ如クンハ番ニ艦ノ製式及裝甲式ノ區々ニ涉ルノミナラス總テノ事皆然ラサルハナシ例ヘハ大
艦ハ水雷艇ヲ携帶スルノ必要アルヤ防禦網ヲ具有スル必要アリヤ否ヤニ關スル問題等ノ如シ水雷艇携

帶問題ニ付キテハ異論起リ現今之ヲ携フル艦アリ又携ヘサルモノアリ形勢既ニ此ノ如シ故ニ海軍々人
タルモノ苟モ其職務ノ基礎ト爲ルヘキ事項ニ於テ右顧左眄セサラント欲セハ須ラク先ツ艦カ必然具有
スヘキ技術的條件ヲ制定セサル可ラス

第二百四十二 不沈沒質ニ就キテ

軍艦ニ求ムヘキ技術的要件ハ特ニ不沈沒質ニ係ル適宜ノ手段ヲ施スニ於テ一層其重視スヘキヲ感セシ
ムルモノナリ本問題ニ關スル細目ハ既ニ「軍艦戰鬪力ノ原素」中ニ陳述シタレハ茲ニハ艦ノ製造事業
終了セハ必ス其不沈沒質ヲ確ムル爲メ完全ナル試驗ヲ施サ、ルヘカラスト謂フノ梗概ヲ説クニ止メン
則チ各區劃ハ隔壁ノ上端ニ至ル迄水ヲ注入セサルヘカラスト這般ノ試驗ヲ經タル後チ艦ハ始メテ其不沈
沒質ニ於テ安全ト認ムルヲ得ヘキモノトス

不沈沒質ハ各國ノ海軍ニ於テ現今等閑ニ附スルノ狀アリ戰鬪艦「ヴィクトリア」號ノ沈沒ノ如キ場合
アリト雖モ尚ホ且相當ノ施設ヲ喚起スルニ足ラサリキ相當ノ水量ノ艦内ニ注入シ並ニ之ヲ排除スルハ
今尙ホ衆ノ恐怖心ヲ惹起スルモノニシテ其責ハ一ニ海軍々人ニ歸セサル可カラス彼等今ニシテ蹶然立
チテ事ニ從フニアラサレハ一度戰鬪ノ起ルアラシカ必スヤ其酷罰ヲ被ラサルヘカラサルナリ

第二百四十三 軍艦製式ノ一定

軍艦機關ノ製式等ヲ同一ニスルヲ要スルノ切ナルコト現今ノ如キハ從來曾テ見サル所ナリ今ヤ機關ノ

重量ヲ輕減シ重量ノ單位ニ對シテ成ルヘク多數ノ實馬力ヲ得ルニ熱中スルノ結果最良質ノ金屬ヲ以テ製シタル機關ヲ備フルコトト爲リタレハ一朝之ヲ破損スルニ於テハ特種ノ工場ニアラサレハ製出シ能サルモノアリ既ニ千八百九十五年中米國ノ新巡洋艦某號ノ如キハ其吸鏢ヲ破損シ之ヲ製造スルハ某工場ニ限ルノ故ヲ以テ半年以上空シク長崎港ニ碇泊セルコトアリタリ斯ノ如キ精工ノ部分ヲ有スル艦ニシテ一朝隔離セル海上ノ戰鬪ニ於テ破損ヲ被リタル場合ニハ如何ニシテ之ニ修繕ヲ加フヘキヤ艦ノ製式並ニ本機關、補助機關ノ形狀同一ナランカ弘ク豫備品ヲ利用スルノ便利ヲ得ヘク又ハ一機關ヲ解離シテ其所要ノ部分ヲ取り以テ他ノ機關ノ破損部ト交換スルヲ得ヘシト雖モ機關其他各種艦用品ノ形狀區々ニ涉ルトキハ如何ナル交換モ得テ企ツヘカラス各艦ハ必ス單獨ニ修繕ヲ加ヘサルヘケレハ自然數多ノ時日ヲ要スルノミナラス或場合ニ於テハ専門工場ノ手ヲ煩スノ必要アルヲ以テ鎖細ノ修繕ヲ終了スルニ先キタツテ戰爭ハ業ニ己ニ終局ヲ告グルコトナキヲ保スヘカラス仍テ茲ニ吾人ハ斷言ス軍艦及各種機關ノ同式ヲ採用ハ目下焦眉ノ急務ナリト

第二百四十四 衝角ヲ堅牢ニスルコト

衝角ハ一層堅牢ニスルヲ要ス現今ノ構造ニ於テハ進行スル艦ノ打撃ニ耐ヘス戰鬪ノ用ニ耐ヘサルナリ衝角ノ破損ヲ來ス毎ニ技師ハ從前ニ比シ幾分力之ヲ堅牢ニ製スト雖モ素ト進行艦ノ打撃ニ耐フヘキコトヲ以テ之カ條件トスルニ非ラサルヲ以テ此點ニ付キテ彼等ヲ責ムルヲ得ス吾人若シ彼等ニ向ヒ此條

件ノ要求ヲ爲サハ彼等ハ必然之カ遂行ヲ怠ラサルヘシ

吾人ノ所見ニ依レハ衝角ハ其直徑斷面ヲ菱形トナシタランニハ一層堅牢ナルヲ得シ菱形ヲ付スルトキハ外部ノ側稜ハ及ノ形ヲ爲シ敵ノ外壁ニ接觸スルトキハ之ヲ切斷スヘシ故ニ斜方形ノ頭端比較的鈍厚ナルモ艦首攻撃ノ場合ニ於テハ毫モ銳頭衝角ニ讓ルコトナカルヘシ而シテ其稜形ノ側骨ハ第十五圖ニ示スカ如ク齒狀ヲ爲サシムルヲ要ス

第二百四十五 衝角打撃ノ震動ニ堪ユル爲メ汽罐及爾他

物件ヲ強固ナラシムル

艦内ニ在ル各種ノ物件ハ艦ノ動搖ノ際ニ移動セサラシメンカ爲メ充分堅固ニ之ヲ緊着スルヲ要ス或者ハ謂フ技師等ハ衝角打撃ノ場合ニ應スル爲メ周到ノ注意ヲ加ヘタリト是レ果シテ然ル乎實際戰鬪艦カ十八節ノ速力ニ於テ敵艦ヲ打撃スル場合ニ於テ汽罐ハ能ク其位置ヲ脱出セサル程ニ堅牢ナルヤ否ヤ技師ニ對シ曾テ斯ノ如キ要求ヲ爲シタルコトナシ吾人思エラクスノ如キ要求ハ當然提出スルノ必要アリト何トナレハ則チ戰鬪中汽罐ノ脱出ハ大椿事ノ基因タルヘケレハナリ此件ヲ研究スルニハ打撃ヲ加フル艦カ其衝角ノ接觸ノ瞬間ヨリ若干呎ヲ行動シタル後全ク停止スルコトヲ記憶セサルヘカラス今此行動ノ距離ヲ六呎ト看做シ又敵艦々側ノ呈スル抵抗力ハ此六呎ノ間ヲ行動スル間ニ吸收セラル、モノト假定センニ此條件ヲ以テシテ汽罐ノ堅着ハ充分ナルヤ否ヤ技師等ニ於テ宜シク算定スヘキナリ汽罐ハ

假令其位置ヲ脫出セストスルモ金屬ノ彈力ニ依リテ多分前進スヘシ此場合ニ於テ汽管破裂ノ虞アラサルカ

艦長タルモノハ須ラク自艦ハ如何ナル勢力ノ衝角打撃ニ耐ヘ得ヘキ設計ナルヤヲ知悉セサルヘカラス故ニ機關及其他ニ關スル艦ノ原簿中此事ヲ記載シ責任アルモノノ署名ヲ以テ之ヲ證明スヘキモノトス

第二百四十六 戰闘中艦ノ沈没ノ際ニ於テ乗組員ノ救助方法

戰闘準備ト題スル章ニ於テ吾人ハ既ニ端艇ニ關シ評論スル所アリタリ吾人ノ意見ニ依レハ艦カ携フル所ノ端艇ノ數ハ過多ニ失スルノ嫌ヒアリ且ツ端艇ハ戰闘中多クハ破壊ヲ免レサレハ到底之ヲ救助用ノ具ト看做スヲ得サルナリ之ニ比スレハ一人ヲ水上ニ支フルニ足ルヘキ「コーク」製若クハ空虚ナル金屬性ノ浮子ヲ備フルヲ以テ寧ロ適切ト爲スヘシ則チ各自一個ノ浮子ヲ投入シテ之ニ據リ數個相連結シテ生命救助用ノ浮筏ト爲スヲ得ヘシ此說ハ吾人茲ニ一個ノ意匠トシテ掲載スルモノニシテ詳細ニ涉リテ講究スルニ方リ若シ其不便ヲ感スルニ於テハ他ニ考案セサルヘカラス吾人ハ唯今日ノ如ク多數ノ端艇ヲ携帶スルハ得策ニアラサルコトヲ謂ハント欲スルノミ商船ニ在リテハ今日既ニ浮游椅子ノ設備アリ軍艦ニハ必要ノ場合ニ於テ或ル單純ナル挺桿ノ作用ニ依リ水上ニ投入スルヲ得ル浮游艦橋ノ類ヲ備ヘ附ケテハ如何

衝角打撃ヲ防禦スルニ木材ヲ以テスヘキハ吾人既ニ「軍艦戰闘力ノ原素」中之ヲ述ヘタルカ英國ノ海

軍ニ於テ適例ノ生シタルコトアリ嘗テ水雷艇カ戰闘力ヲ打撃シテ其外壁ヲ破リタルニ英國海軍ノ技師ハ木板ヲ以テ此艦ノ喫水線ニ沿ヘル外舷ヲ包藏シタルコトアリ此豫防方法ハ今一層之ヲ擴張シテ木材ヲ舷外喫水線以上ニ吊シ平素衝突ノ際舷面ノ破損ヲ防カシメ且必要ノ場合ニ於テノ單純ナル手段ニ依リ之ヲ舷外ニ墜落セシメ以テ戰闘中艦ノ亡滅ノ際ニ於テ之ヲ乗組員ノ救助用ニ充ツルコト能ハサル歟

第二百四十七 機關學ニ對スル教導 橫置機關

吾人ハ前項ニ於テ戰闘艦ハ戰爭ノ爲メニ建造セラル、モノナルコトヲ說キ而シテ此視點ヨリ諸般ノ觀察ヲ下シタリ夫ノ縱置機關ノ橫置機關ニ優レルハ衆機關士ノ是認スル所ニシテ亦實ニ正鵠ヲ得タルモノナリ故ニ如何ナル論者ト雖モ異論ヲ唱ヘサルヘシト雖モ橫置機關ハ喫水線下ニ位シ敵ノ彈丸ニ侵害セラル、ノ虞ナケレハ戰闘上ノ關係ニ於テハ寧ロ縱置機關ニ優ルモノナリ若シ夫レ造船工場ニシテ依然橫置機關ノ製造ニ苦心シ尙ホ且ツ良成績ヲ收メ得サリシトセハ素ヨリ之ヲ詰難スルヲ得サルヘシト雖モ當時ハ殆ント之カ製造ヲ斷絶シタリ之ヲ詰責スルハ當然ノ事ナリ或ハ言フ海軍々人タル者之ヲ要求シ且ツ之ヲ督促セサリシハ自ラ其責ヲ免レサル可シト抑橫置機關ノ應用ヲ不便ナラシムルモノハ主トシテ其吸鏢ノ重量過大ナルニ在リ然ルニ今ヤ「アルミニウム」ノ用途驚クヘキ程度ニ達シタレハ之ヲ利用シテ各種ノ橫置的移動部分ニ於テ大ニ其重量ヲ減却スルハ敢テ難キニアラサルヘシ其方法ノ如何ハ吾人素ヨリ指導ノ任ニ當ラスト雖モ軍艦ニ適スヘキ新式橫置機關ノ更ニ製出セラレタランニハ其

及ホス所ノ影響實ニ偉大ナルヘシ

第二百四十八 蒸汽ノ發釀ヲ速ニスルヲ

機關製造者ハ現今攻々トシテ一實馬力ニ對スル機關ノ重量ヲ減少スルコトヲ維レ努ム然リト雖モ艦ヲシテ速ニ所要ノ蒸汽ヲ開發セシムルノ一事ハ最近年ニ至ルマテ全然忘却セラレタルモノ、如シ各國ノ海軍ニ於テ鋼製圓筒式汽罐ヲ有スル諸艦ハ十二時間以内ニ於テ蒸汽ヲ發釀スルコトヲ許サス斯ノ如キ事態ナレハ戰時軍艦ハ間斷ナク蒸汽ヲ維持セサル可カラス隨テ戰時最モ貴重ナル材料ニシテ且ツ一旦其缺乏ヲ見レハ艦ノ活動ノ機能ヲ失フヘキ貴重品即チ石炭ヲ毎日多量ニ費消セサル可ラス是ヲ以テ迅速ニ蒸汽ヲ發釀スル途ヲ開クコト必要缺ク可ラサル所ナリ

第二百四十九 海陸行政ノ任務

我露國ニ於テ既ニ一定セル解釋ニ依レハ一ノ學問ニシテ陸軍行政ハ軍隊ノ組織及其存在ニ關スル原理ヲ請求スル者ナリ陸軍行政學ハ左ノ問題ヲ包有ス

- 第一 軍隊ノ性質
- 第二 全 編成
- 第三 行政組織
- 第四 軍隊ノ勤務

第五 軍紀及其維持法

第六 軍事經濟學

海軍行政學モ亦海軍ノ事ニ關シ之ト同一ノ事項ヲ講究スルモノトス

第二百五十 現在ノ參考書

本編中吾人ハ我國ニ現行スル行政ノ主義ニ論及スルコトナカルヘシ本問題ニ關シテハ故海軍中將イエーニシエ氏ノ著書アリ同書ハ砲術科將校參考書ニ充ツル爲メ氏カ編纂セルモノトス顧フニ一ノ學問トシテ本問題ヲ解釋シタルモノ恐ラクハ氏ヲ以テ嚆矢トスヘシ

千八百九十六年中陸軍大佐ドルゴーフ氏カ著シタル海軍行政一班ハ良書ニシテ各將校ノ爲メ適當ノ參考書タルヲ得ヘシ

戰術ハ行政ノ細目ニ論及セス戰術ノ本領ハ戰爭ニ適スヘキ艦隊ヲ作ルノ途ヲ指摘スルニ足ルヘキ原理ノ研究ニ止マルモノトス吾人ハ始終艦隊ハ戰爭ノ爲メニ存在スト謂フ原則ヲ體シ重要ナル行政ノ主意ヲ講究スルニ方リ常ニ此義ヲ念頭ニ戴カサル可ラス

第二百五十一 進級

凡ソ行政ノ事業中正當ノ進級制度ヲ設定スルヨリ困難ナルハナシ戰術ノ命、所、ハ、戰、時、ニ、望、ミ、ヲ、屬、ス、ヘ、キ、將、校、ハ、戰、争、ニ、不、適、任、ナ、ル、將、校、ニ、比、シ、一、層、迅、速、ニ、進、級、セ、シ、ム、ル、ニ、在、リ、此、目、的、ヲ、達、ス、ル、爲、メ、伎、倆、ニ、依

リ擧進級ヲ行ヒ以テ他ヨリ其昇進ヲ速ナラシムルカ或ハ進級順序ヲ守リ戰時ニ適セサル者ヲ該順序ヨリ除カサルヘカラス

何レノ海軍ニ於テモ若干名ノ將校ヲ擧進級セシムルノ特權ヲ付與ス然レトモ戰爭ニ適任ナル者ト否トハ如何ニシテ之ヲ識別スルヤ同僚間ニ於テ不平等ヲ醸成セサラシムルニハ如何ナル方法ニ依リテ此擧拔ヲ行フヘキ歟是レ最モ困難ナル問題ナリトス吾人ハ既ニ後年頗ル名將ト爲リタルモノニシテ其壯年ノ時ニ在リテハ往々戰時ノ勤務ニ適切ナラス太平ノ世ニ在リタランニハ到底頭角ヲ顯スノ機ナカリシ例ヲ擧ケタリ是ニ於テ將校ノ能否ヲ識別スヘキ標準ノ必要ヲ感スルコト特ニ切ナリ現時長官カ部下將校ノ伎倆ヲ判斷スルニ動モスレハ皮相ノ鑑識ニ由ルト雖モ其際ニ於テ準據スヘキ規矩ヲ索ムルハ必要ナリ若シ第九十八項ニ述ヘタルカ如キ運用ノ課目ヲ設置シ該科程ノ練習ヲ利用シ艦ヲ運用スル伎倆ヲ有セサルモノト善良ナル海員的伎倆ヲ具備スル者ヲ識別セハ以テ一ヲ遠ケ一ヲ昇進セシムルノ途ヲ開達スヘシ無能ヲ斥ケ有爲ノ士ヲ昇進セシムル正確ナル方法ヲ設クルコトハ頗ル重大ノ關係ヲ有スルモノナリ然レトモ事極メテ困難ナルヲ以テ吾人ハ敢テ茲ニ最終ノ意見ヲ發表セス唯一般ノ議論ニ止メント欲ス

凡ソ長官タル者ノ職務中將來良艦長タルノ望ナキ者ニ對シ進級順序除外ノ處分ヲ決行スル程不愉快ナルモノハ之ナカルヘシ長官ニシテ如此處分ヲ行フコトニ躊躇セサル者ハ必然進級ヲ妨止セラレタル者

ノ爲メニ敵視セラルヘシ然レトモ敢テ之ヲ決行セサルニ於テハ自ラ奉職スル所ノ海軍ニ對シ忠實ナラサルモノナリ陸軍大佐オルローフハ自著ノ戰術中謂テ曰ク戰時ニ於テ若シ小膽ノ長官アラハ爲メニ蒙ル所ノ影響ハ幾許ナランカ之ヲ滅殺スルノ手段ナシト而シテインケルコレノ戰鬪ニ際シ戰鬪的伎倆ナキ者ト認メラレタル某軍團長ヲ排斥センコトヲ試ミタリト雖モ遂ニ能ハサリシ事實ハ前說ノ例證タルヲ得ルモノトシテ同大佐ハ之ヲ引用セリ(第五十九頁)

伎倆ナキ艦長ハ速ニ之ヲ退職セシムルニ若カス不適任ノ長官ハ歸宅セシムルスラ寧ロ寬典ト看做スヲ得ン然レトモ是謂フヘクシテ容易ニ行ハレサル事ナリ故ニ平時ニ於テ昇進セシムヘキ者ノ人選ヲ慎重ニスルニ非ラサレハ其結果艦長ノ位置ハ不適任者ノ占有スル所ト爲ルヘク之ヨリ生スル不利ハ特ニ戰時ニ於テ著大ナルヘク此時ニ至リテ之カ回復ヲ圖ルモ時機既ニ晩カルヘシ戰術ノ點ヨリ見ルトキハ戰時ニ選拔セラル、人物ハ平時ヨリ指定セラルヘキ規程ヲ設ケ置クヲ可トスルモノナリ

第二百五十一 従前勤務ノ狀況

舊時ノ勤務ノ順序ハ幾許歟將校ノ能否ヲ識別スルノ便ヲ與ヘタリ之ヲ識別スルノ方法ハ一般ノ不滿ヲ來スノ虞ナクシテ進級順序ヨリ不能者ヲ斥ケタルモノナリ

舊時ノ將校ハ其勤務ノ初期ニ於テ早ク既ニ海上勤務ヲ繼續スルニ適スルヤ否ヲ識認セサル可ラサル狀態ニ陥リタリ既ニ當直士官ト爲レハ熟練ノ伎倆ヲ有セサル可ラス例ヘハ艦隊ニ在ルトキ成ル可ク速ニ

自己ノ舊位置ニ復スル如キ是ナリ當直士官ニシテ適應ノ伎倆ヲ表明セサルニ於テハ他ニ如何ナル長所アルニ拘ラス孰レノ艦長ト雖モ之ヲ自艦ニ就職セシムルヲ欲セサルヘシ何トナレハ不適任ノ當直士官ヲ信任スルトキハ艦ヲシテ衝突セシムルノ虞アリ從テ亦衝突ノ際ニ避クヘカラサル破壊ヲ招クノ虞アレハナリ是レ則チ海員の伎倆ヲ具有セサル將校ニ進級セシメサル一ノ良法タリシナリ

是ヲ以テ自ラ此伎倆ニ乏シト認識セル將校ハ其海上勤務ニ不適任ナルヲ覺リ索メテ水路官教官若クハ陸上ノ勤務ニ就キ以テ適任者ノ爲メ進級ノ途ヲ開キタルハ其實例ニ乏シカラス此種ノ人物モ往々依然トシテ海軍現役者トシテ勤績スルコトアリト雖モ一朝其海上勤務ヲ脱スルヤ何人モ未來ノ艦長トシテ之ヲ待望スルモノナシ

副長ニ補職スル事柄ハ尙更ニ其職ニ稱フ伎倆アル將校ヲ確得スル上ニ一段ノ勢力ヲ及ホシタルモノナリ其故如何ト云フニ從前副長ノ職ニハ艦長自ラ其信任スル所ノ人物ヲ選拔シテ之ニ就カシメタルモノナリ而シテ副長ノ伎倆如何ハ艦長其者ノ職責ニ影響スレハ何人ト雖モ不適任者ヲ選拔スルコトナク從テ不適任者ハ自然昇進ノ途ヲ失フニ至ルナリ又一方ニ於テハ時機熟スレハ副長ニ選拔セラレントスルノ希望ハ少壯士官ヲシテ競ヒテ其上長者ノ爲メニ良士官ト認定セラレントヲ維レ努メシメ爲メニ勤務全體ニ及セル利益尠少ニアラス前述ノ如キ進級法ハ戰術上誠ニ其當ヲ得タルモノト謂フヘシ斯ノ如ク從前ニ在リテハ海軍士官ハ終生其職ニ於テ海員タル伎倆ニ對シ嚴格ナル實地試験ヲ受ケ又副長補職

後ハ自己ノ職務上尙ホ一層嚴格ナル試験ヲ經過シタルモノナリ

夫ヨリ勤務ヲ經テ愈々昇進シテ「テンダル」「ブリグ形」若クハ弗列曼ノ艦長ト爲ルモ依然トシテ前ニ劣ラサル嚴格ノ試験ヲ受ケタルナリ是等ノ諸艦ハ艦隊ニ附屬シテ種々ノ重大ナラサル任務ヲ盡シタルヲ以テ此際長官タルモノハ孰レノ士官カ能ク戰艦ニ長タルノ伎倆ヲ具フルヤヲ鑑識スルノ機會ヲ有シタルナリ這般ノ試験ハ全艦隊ノ目前ニ於テ舉行セラル、ヲ以テ艦ノ運用拙劣ナルモノハ假令進級ノ途ヲ得サルモ其伎倆ヲ具有セサルコトハ全艦隊ノ認識スル所ナレハ亦誰ヲ恨ルニ由ナカリシナリ斯ノ如キ士官ハ概チ自ラ海上勤務ニ不適任ナルコトヲ認メ陸上勤務ニ轉シテ任意他ノ適任者ニ自己ノ位置ヲ讓リタルモノナリ但シ如是人物ノ陸上勤務ニ在リテ極メテ有益ナリシコト亦其例ニ乏シカラス以上ノ試験ヲ悉皆無事ニ經過シタル將校ニシテ始メテ戰艦ニ長タルコトヲ得ヘク且ツ艦長ノ職ヲ帶ヒテ數月間航海ニ從事セハ凡ソ戰闘中ニ要スルモノ一トシテ實踐セサルコトナカルヘシ何トナレハ艦隊ノ航海中風位自ラ一定セサルヘケレハ艦ノ運用ノ點ニ於テハ全然戰時ニ類似スル廣大ノ實歷ヲ有スヘケレハナリ

第二百五十三 現時勤務ノ狀況

然ルニ現今ノ海上勤務ハ從前トハ全然其趣ヲ異ニス現ニ當直士官ハ艦隊航海ノ時ト雖モ尙其實驗スル所極メテ寡シ現今通常ノ艦隊航行陣形單縱陣ニテ進行スルトキト雖モ殆ント舵器ノ線縦ヲ要セス艦隊

ニ於ケル位置ノ如キハ距離測量器及機關部トノ通信器アリテ之ヲ匡正スルヲ以テ將校ニ於テ假令毫モ其事ヲ會得セサルモ苟モ慎重ニ其職務ヲ執行スルニ於テハ自ラ其線列内ニ己レノ位置ヲ保ツコト正ニ容易ノ事ニシテ特ニ之カ爲メニハ高尚ナル質ヲ具フルヲ要スルコトナシ

水雷艇長ノ職ニ在ル將校ハ艦ノ運用ニ熟達スルヲ得ヘシ然レトモ第一ニ將校ハ悉ク此科程ヲ經過スルニアラス第二ニ水雷艇ハ戰闘艦ニ比フレハ殆ント小艦ト看做スヲ得ヘク第三ニ若シ水雷艇ノ運用ヲ以テ將校ノ能ヲ開發スルノ方法ト爲サハ其覺悟ヲ以テ之ヲ觀察セサル可ガラス現今ハ未タ然カ爲サ、ルナリ一朝戰闘艦ノ艦長ト爲ルモ戰闘ノ際實踐スル如キ事ヲ練習スルコトナシ何トナレハ今ヤ艦ノ衝突ハ名狀スヘカラサル慘狀ヲ呈スルモノナレハ之ヲ恐怖スルノ餘リ各國ノ海軍ニ於ケル平時ノ演習ハ毫モ戰時ノ状態ニ類似セサレハナリ若シ夫レ斯ル弊習ヲ除却スルノ方法ノ如キハ茲ニ之ヲ細説スル違ナシ正當ナル進級制度ニ關スル問題ニテ未タ之カ解決ヲ得ヌ而テ他ニ先シテ本問題ノ解釋ヲ得タル海軍ハ著大ナル戰闘の優勢ヲ得ルハ疑ヲ容レサルナリ

第二百五十四 軍港

人員ニ關スル問題ハ行政上特ニ重要ノ關係ヲ及ホスヘシト雖モ戰備及軍需ノ保存供給ハ又以テ行政上極メテ重要ナリト謂ハサルヘカラス即チ軍艦及軍港ハ整頓セサルヘカラス凡ソ軍港ハ常時所屬諸艦ノ戰備ヲ整頓シ一令ノ下ニ之ヲ出港スルニ差支ナキヲ期セサルヘカラス

其他我諸軍港ハ戰爭中艦船ニ供給スヘキ諸物件及彈藥ヲ備ヘ耗品糧食等ノ補足手續ヲ講究セサルヘカラス又戰闘中ニ被リタル損所ヲ迅速ニ修繕スル爲メ相當ノ設備ヲ爲サ、ル可カラス是等ノ説ハ從來因襲スル所ニシテ別ニ新設ニアラサルノミナラス其大部分ハ特ニ法規ノ存スルモノアリ然レトモ其軍港ニ望ムモノハ其平時ノ所要ニ應ズルト同時ニ戰時戰術上ノ考慮ヲ以テ其主要ト爲スニ在リ

第二百五十五 軍艦

軍艦ハ戰爭ヲ目的トシテ製造セサルヘカラス又航海中ハ成ルヘク短少ノ時間ヲ以テ戰闘ヲ開始シ得ル様之ヲ維持セサルヘカラス此目的ニ副ハンカ爲メ諸材料ハ秩序的ニ之ヲ維持シ艦員ハ教練及演習ノ方法ニ依リテ戰闘中及戰時ニ出會シ得ヘキ一切ノ出來事ニ馴致セシメサル可カラス航海中艦内ノ生活ハ總テ此二大目的ニ協ハシメ又直接間接ニ此目的ニ副ハサルモノハ無用有害ノモノトシテ之ヲ排斥セサルヘカラス

第二百五十六 結論

今此戰術論ヲ終結スルニ方リ一言セントス今日ニ至ルマテノ海軍ノ進歩ハ各種ノ海軍々事學ノ改良タルニ過キス爰ニ於テカ或ル意味ニ於テ此書ハ舊來ノ荒屋ヲ修繕スル方法ヲ注告スルニ過キサナル感アリ殊ニ其細目ニ熱中スルノ餘リ本來ノ目的ヲ度外視スルコトナキニアラス吾人ハ茲ニ至テ戰術ノ點ヨリハ敢テ問ハントス曰之ヲ修繕センヨリハ寧ロ全ク之ヲ新築スルニ如カサルヘシト

吾人ハ戰術ニ於テ其主ナル目的ヲ指摘スルト同時ニ亦士卒ヲシテ戰時最大ノ勇氣ト伎倆トヲ表彰セシムルハ如何ニ之ヲ訓練スルハ最モ有利ナルヤ軍艦ニ備フル攻守兩様ノ資力ハ如何ニ之ヲ利用スヘキヤヲ講究セリ其士卒ヲ訓練スルノ方法ニ關シテハ吾人カ堅ク倚賴スルヲ得ヘキ適例古今ノ史上ニ乏シカラス蓋シ人ノ情性ハ古今ヲ通シテ同一ナレハナリ然レトモ物質的資力ニ至リテハ夫ノ昔時ノ海戰時代ニ應用シタルモノト今日トハ素ヨリ同日ノ論ニアラス故ニ二三ノ小合戰ヲ除キテハ此關係ニ於テ戰鬪上ノ實驗ハ皆無ト云フヘク乃チ戰鬪ノ技術ニ在リテハ不完全ナル前例ニ於テ之ヲ求ムルヨリ寧ロ吾人ノ常識ニ依信スルノ勝レルニ如カス

リツサノ海戰後世論一定ニ歸シ梯陣ヲ以テ最良ノ戰鬪陣形ト爲シアトミラル、ベルサイカ其部下ノ諸艦ヲ單縱陣ニ作りタルハ失策ト爲シ其敗軍ノ主因ヲ此陣形ニ歸シタリ然ルニ鴨綠江ノ海戰ニ於テ伊東中將ハ單縱陣ニ依リ清國ノ水師提督ハ其兩翼ヲ垂レタル橫陣ニ據リタレハ其ノ狀殆ント梯陣ト異ナルナシ而シテ此海戰ハ陣形ノ關係ニ於テハ反對ニ結果ヲ來シタルナリ即チ單縱陣勝ヲ制シ橫陣若シクハ梯陣ハ敗レタルナリ

之ヲ要スルニ前記ノ兩海戰ニ於テ勝敗ヲ決シタルモノハ採用セラレタル陣形ノ如何ニアラスシテ必ス他ニ原因ノ存シタルナラン吾人ハ此兩海戰ニ基キ陣形ニ關シ戰術的論結ヲ爲シ能ハサルナリ蓋シ右海戰ハ勇敢ナラサル者必ス敗ルヘシト謂フ古來ノ格言ヲ證明スルニ過キササルナリ

海軍戰術論補遺

曩ニ海軍戰術論ヲ本誌ニ掲載セシ以來既ニ少カラサル日子ヲ經過シ予カ解釋ヲ下サントシタル諸問題ニ關シ幾多ノ駁論ニ接セリ是レ予ヲシテ更ニ茲ニ本問題ニ關シ或ル説明ヲ爲スノ止ムヲ得サルニ至ラシムルモノナリ

是レマテ予カ耳朶ニ達シタル駁論中最モ重大ナルモノヲ舉クレハ乃チ戰爭中特ニ重大視スヘキモノハ主義ニアラスシテ形勢ヲ識別スル眼測ト適宜ノ處決ヲ誘導スル常識ニ在リト云フ所ノ予ノ見解ニ反對スルモノナリ予ハ更ニ予カ宿論ヲ主張シテ謂ハントス海軍戰術ニ關スル諸問題ノ解釋ハ獨リ史上ノ先例ニ於テ之ヲ索ムヘカラス宜シク兵器ノ研究ニ於テ之ヲ索ムヘシト

凡ソ相互應援ノ主義ニ則ラントセハ宜シク慎重ナルヘシトハ予ノ勸誘スル所ナリ夫ノ相互應援主義ナルモノハ職ノ貴賤ヲ問ハス相互ニ補弼ノ義務ヲ負擔セシムルモノナレハ一見之ニ優リテ人ノ同情ヲ惹キ得ヘキモノハ他ニ求ムヘカラサルナリ陸軍ニ在リテハ此主義ハ徹頭徹尾正實ナルカ故ニ司令官ニ於テ命令ヲ作り若クハ軍隊ノ有ラユル移動ヲ行フニ方リ必ラス之ヲ標準ト爲サ、ルヘカラス現ニ敵若シ右翼ニ現出セハ如何ニ行動スヘキ歟若シ又左翼ニ現出セハ如何ニ行動スヘキ歟等ノ疑問ヲ毎日幾回トナク自ラ提起シ之カ解釋ヲ試ムヘシトハ曾テナポレオンカ部下ノ諸將ニ勸告シタル所ナリ畢竟此勸告ノ目的タル軍隊ノ配置法ノ相互應援主義ニ協ヘルヤ否ヤヲ監視スルニ外ナラサルナリ此主義ハ獨リ司

令官ニ於テノミ遵由スル所ナカルヘカラス武門ノ格言ニ曰ク自ラ死シテ他ノ同僚ヲ救助セヨト是レ亦個々ノ兵卒ニ對スル相互應援主義ノ表語ニ外ナラサルヘシ斯ノ如キ此主義ハ陸軍ニ在リテハ上司令官ヨリ下兵卒ニ至ルマテ衆員及各員ニ對シ必ス正鵠ヲ得タルモノナリ

一箇所若クハ數ヶ所ニ於テ敵軍ヲ攻撃スル場合ニ攻撃ノ一齊ナラサルヘカラサルモ亦此主義ノ主張スル所タルヲ認メサルヘカラス此點ニ於テハ相互應援ノ主義ハ海軍ニ於テモ亦陸軍ニ均シク弘ク應用スルヲ得ヘシト雖モ爾他ノ關係ニ於テハ之ヲ海軍ニ應用スルノ程度斯ク廣大ナルヲ得サルナリ何トナレハ大海ニ在リテハ敵味方共ニ據ルヘキノ所在物件ナルモノアルナク又彼此ノ應援ヲ豫定スヘキ配軍令ナルモノ存セサレハナリ(本件ニ關シテハ第二百五十三項中詳論スル所アリ)如何ナル戰鬪ニ於テモ相互應援ヲ要スルハ論ヲ俟タスト雖モ之ヲ一般ノ規則ト爲シ遵由ノ義務ヲ帶ハシムルハ予カ危險ト認ムル所ナリ蓋シ充分相互ノ應援ヲ期スルノ成算ナカリシヲ事由ト爲シ小膽者ヲシテ自己ノ怠慢逃避ノ辭柄タラシムルノ虞アレハナリ又相互ノ應援トハ乃チ一艦カ他艦ヲ援助スルノ義ナリト解釋スル者モアルヘシト雖モ斯ノ如キ援助ハ戰鬪中格別有益ナルモノニアラサレハ味方ノ諸艦ニ關シテ戰鬪中相互ノ援助ハ敵ヲ一齊ニ攻撃スルコトニ歸セサルヘカラス

之ヲ要スルニ相互應援ノ主義ハ原ヨリ緊要ナルコト疑ナシト雖モ海軍々人タル者之ヲ應用スル極メテ慎重ナラサルヘカラス且我レノ所謂相互應援ナルモノハ敵ヲ擊破シ若クハ降伏セシムルノ目的ヲ以テ

主トシテ一齊ニ敵ヲ攻撃スルニ在ルコトヲ飽マテ了解セサルヘカラサルナリ

現時海軍戰術ニ於テ大主義ト爲スモノ四アリ即チ左ノ如シ

第一 大勢力ヲ以テスル敵艦隊ノ一部ノ攻撃

第二 敵ノ弱點ノ攻撃

第三 味方ノ強勢ノ方ヲ以テ敵ニ面スルコト

第四 相互ノ應援

以上ノ主義ハ正確ナルモノナレハ決シテ抗爭スヘカラサルモノナリ是レ恰モAハ露西亞「アルファベツト」ノ第一ノ文字タルヲ抗爭スヘカラサルト同一ナリト雖モ然レトモ予ニ於テ若シ學術ノ蘊奧ハ一ニ文字ノ順序ヲ知ルニ在リト主唱セハ修學者ハ學術ニ關シ不正ノ觀察ヲ獲得スルナラン是ト同シク予ニシテ若シ前記ノ四大主義ヲ知悉スルハ軍事ノ蘊奧ヲ極ムト終始主唱スルトキハ予ハ乃チ學術ニ對シ不正ノ觀察ヲ授クル者ナリ蓋シ此四大主義モ亦其實一ノ規則タルニ過キサレハナリ

茲ニ人アリ是等ノ主義ノ重大ナルコトヲ證明セント欲シテ浩瀚ノ書ヲ著シ該書中是等ノ主義ヲ遵守シタル者ハ必ス戰勝ノ功ヲ奏シ然ラサル者ハ奏功ヲ收メサリシコトノ例證ヲ舉ケン爲メニ古今ノ戰爭ヲ評論スル者アリト假定セン歟斯ノ如キ著書ハ論旨一方ニ偏シ一個ノ學者的論文トシテハ良好ナルヘシト雖モ教科書トシテハ不可ナリ成功ヲ收メシムヘキ爾他ノ原素ニモ亦夫々相當ノ價值ヲ附セサルヘカ

ラサレハナリ即チ勇膽、海事知識、艦及砲ノ操縦ノ巧拙、艦長ノ眼識ノ如キ原素是ナリ以上ノ理由ニ依リ主義ノ效力ヲ過大ニスルハ餘リ有益ト看做スヘカラサルナリ

今戰術的主義ニ就キテ陳述シタルヲ好機トシ茲ニ戰略的主義ニ關シ一言シ置カサルヘカラサルモノアリ此關係ニ於テコロム及マハンノ著述ハ海軍文學上裨益スル所最モ多シ前記ノ兩著書ハ同時ニ刊行セラレ孰レモ歷史上ノ事實ニ基キ同一ノ論ヲ主張スルモノナリ即チ海ノ制御ヲ期シ敵ノ艦隊ノ擊破ハ艦隊ノ主ナル目的ナリト謂フニ在リ此兩著者ハ歷史上ノ例證ニ基キ此規則ニ違背スル者ハ必ラス戰ヒ敗ル、ニアラサレハ豫期ノ成績ヲ收メ能ハサルコト竝ニ此基本的主義ハ猥リニ犯スヘカラサルコトヲ主張スルノミナラス之ヲ犯ス者ハ必然責罰ヲ被ムルヘキヲ確言セリ是等ノ見解ハ今ヤ世上之ヲ確定シタルモノト認定シ一人ノ公然反對ノ意見ヲ唱フル者アルヲ聞カス兩氏ノ效勞ニ依リ海軍ノ戰略ハ今ヤ既ニ基本の原理ヲ得タレハ爾來海軍ノ作戰行動ハ從來ノ茫漠タル範圍ヲ脱出シ確固不拔ノ性質ヲ帶フルニ至ラン

時恰モ日清間ノ戰爭起リ日本ノ伊東中將ハ其作戰ノ方略ヲ決スルノ機ニ迫レリ中將原ヨリマハン及コロムノ主義ヲ知悉スルノミナラス第一着手トシテ清國艦隊ヲ擊破スルノ必要ヲ認ムルト雖モ如何ニセシテ清國艦隊ノ一部ハ北方ノ二港ニ碇繋シ他ノ一部ハ南方ノ諸港内ニ在ルヲ是等ノ諸港ヲ悉ク封鎖セン歟中將ノ部下ニ在ル艦隊ノ勢力不完全ナルト右ノ諸港ノ遠隔セルヲ如何セン或ハ又北方ノ諸港ノミヲ

封鎖セン歟其陸軍ニ對スル糧食援兵及彈藥ノ輸送路ハ忽チ其護衛ヲ失フニ至ラン此時ニ方リ清軍ハ敵ノ輸送路ノ開放セラレタルヲ探知シ封鎖ニ罹ラサル其南方ノ諸港ヨリ微力ノ分艦隊ヲ派遣シ大ニ害ヲ運送船ニ加フルヲ得ヘシ加之旅順口及威海衛ノミヲ封鎖セントスルモ怖ルヘキ損害ヲ被ムルノ虞ナキニアラス何トナレハ封鎖ヲ行フ艦隊ニ向ヒ夜間水雷艇攻撃ヲ行フハ極メテ容易ナレハナリ則チ被鎖艦隊ニ屬スル水雷艇ハ夜間ノ封鎖ヲ密實ナラシムルヲ得レハナリ封鎖ニシテ密實ナラサラン歟被鎖艦隊ハ隱密ニ之ヲ脱出シ其後方ニ出テ大害ヲ加フルヲ得ルナリ當時伊東中將ノ腦裏ニ斯ノ如キ考慮ノ存セシヤ否ヤ予ノ與リ知ル所ニアラスト雖モ兎ニ角中將ノ行動ハマハン及コロムノ主意ニ協ヒタルモノニアラサルナリ中將ハ山縣大將ノ率フル陸軍ニ應援スルヲ以テ自己ノ目的ト爲シ朝鮮ヨリ清國ニ向フ陸軍ハ海岸ニ沿フテ進行セシニ依リ伊東中將ハ海路陸軍ノ需要品ヲ其所在地點ニ送達シ陸軍諸隊ノ行進ノ程度ニ從ヒ始終其揚陸地點ヲ變更セリ而シテ清國艦隊カ一朝其碇繋港ヲ出ツルニ方リ中將ハ立ロニ之ヲ擊破シタリト雖モ而カモ敗餘ノ諸艦ヲ其潜伏地ヨリ誘出スル事ヲ努メス依然從來ノ任務ヲ繼續シツ、旅順口カ陸軍ニ依リテ占領セラル、ノ期ニ至レリ旅順口陥落ノ後伊東中將ハ清國ノ艦隊カ楯籠レル威海衛ニ向ヒ全力ヲ集中シ之ヲ滅却セントスルト同時ニ他ノ方略乃チ陸兵ノ護衛ヲ爲シ其上陸ヲ援ケタリ既ニシテ上陸シタル陸軍諸隊カ陸上ヨリ威海衛ヲ包圍スルニ至ルヤ伊東中將ハ海上ヨリ之ヲ砲撃シ水雷攻撃ヲ以テ敵艦隊ノ一部ヲ擊破シ遂ニ艦隊及諸砲臺ヲシテ降伏セシメタルナリ今ヤ予ノ

見ル所ニ依レハ當時ノ狀況（即チ清國艦隊ノ状態不良ナリシト戰爭ノ一般方略ニ關スル戰略的考慮等ヲ酌量シツ）ニ在リテ伊東中將ノ行動ハ正鵠ヲ得タルモノニシテ其畫策ハ孰レモ圖ニ中リ悉ク成功ヲ告ケタレハ中將ヲ否難スルノ事由アルナシ況ンヤ戰勝者ハ批判ヲ受ケスナル格言ハ絕對的ニ正鵠ヲ失ハサルニ於テヲヤ何人ト雖モ局外ニ在ル者ハ悉皆ノ事情ヲ詳ニスルヲ得サレハ隨テ正當ノ判斷ヲ下シ能ハサルナリ事苟モ成功ヲ告ケン歟一般ノ形勢ハ畫策ニ符合シタル事疑ナシ

予ハ個人的ニ主義ノ崇拜者ニアラス予ノ所見ニテハマハン及コロムノ証明セルモノハ唯帆行艦隊ノ時代ニハ第一着手トシテ海ヲ制御セサルヘカラス事並ニ同時代ニ在リテハ海ハ之レニ優勢ヲ備フル者ニ依リテ制御セラレタルコトヲ示スニ過キサリ今之ニ現時ノ物質的資力ヲ應用セハ如何ナル程度マテ適切スルヤ自ラ一ノ問題ニ屬ス從前ニ在リテハ諸艦ハ其需品ノ補足ヲ仰カスシテ半年モ海上ニ保ツヲ得タレハ非常ニ根據地ト隔絶セル水上ニ於テ戰時行動ニ從事スルヲ得タリト雖モ現時ノ艦船ハ頻繁ニ石炭ノ補充ヲ要スルナリ是ヲ以テ貯炭場若クハ第二等根據地ニ關スル問題ハ從前ニ比シ漸ク重大ノ關係ヲ及ホスニ至レリ乃チ從前ニ比スレハ後方ノ爲ニスル行動ノ中止ハ今ヤ大ニ容易ト爲レルナリ今ヤ交戰艦隊ノ一ハ海上ニ出テ敵ヨリ優勢ナルトキハ之ヲシテ港内ニ潜伏セシムルヲ得ヘク該艦隊ハ或ル關係ニ於テ海ノ制御者タルヘシト雖モ敵ノ艦隊ニシテ該海上ニ於テ據ルヘキノ地點ヲ有スルニ於テハ其地位極メテ困難ナルヘシ（第十項中陳述スル所ニ依リ）加フルニ海ヲ制御スルモノノ根據地隔絶

シタルトキハ之トノ聯絡安全ナルヲ得サルナリ以上ノ理由ヲ以テ予ハ勿論ハマハン及コロムノ如キ貴重ノ著述ヲ研究センコトヲ勸告スト雖モ帆行艦隊時代ノ例證ヲ基本トセル其斷案ヲ以テ機械及電氣ノ時代タル現時ニ應用シテ悉ク確實ナリト爲スハ輕舉ト謂ハサルヘカラス

主ナル主義ノ外尙ホ第二等ニ屬スル規則ノ存スルアリ吾人ハ之ヲ戰術的規則ト稱スヘシ予ノ所見ニ依レハ是等ノ規則ハ歴史ニ於テ素ムルヨリ寧ロ兵器ノ特性ノ研究換言スレハ現時ノ艦船ノ研究ニ於テ之ヲ索メサルヘカラス抑モ予ヲシテ茲ニ斯ク世人ノ排斥ヲ受クヘキ議論ヲ主張セシムルモノハ艦隊ノ物質的部分ニ全然變更ヲ來セル一事實ヲ以テ之カ主因トス夫レ戰術ハ兵器ノ研究ヲ本部トス然レトモ吾人カ使用スル兵器ハ全ク從前ノ兵器ニアラス是ヲ以テ歴史ハ戰術ニ對シ殆ト毫末ノ示導ヲ付與シ能ハサルナリ而カモ世ノ壯語ニ戀々タル者ハ動モスレハ之ヲ史ニ徵シ云々ヲ唱道シ往々此語ヲ濫用スルヨリ惹キテ以テ遂ニ戰術的規則ヲ歴史ニ索ムルノ甚シキニ至ルナリ而カシテ事實果シテ然ルヤ否ヤ乞フ茲ニ少シク觀察スル所アラシ

吾人ハ茲ニ海戰ノ爲メニハ靜穩ナル天候ヲ可トスル歟將タ風力強キ時ヲ可トスル歟ト謂フ戰術的問題ノ解釋ヲ得ントスト假定セン先ツ歴史ニ就キテ之カ解釋ヲ索メンネルンハ此艦隊カ永時ノ航海中幾多ノ暴風ヲ經テ操縦ニ老練ナリシニ拘ハラズ戰鬪ノ爲メニハ靜穩ノ天候ヲ可トセル者ナリ是レ蓋シ當時ノ砲ハ照準不確ニシテ且ツ裝藥ニ傳火スルノ方法極メテ不完全ニシテ射撃ヲ行フノ時間區々ニ涉リ

タレハ艦船動搖ノ際ニ行フ射撃ハ命中ヲ期シ難カリシニ由ル其他尙ホ風力ノ強キハ攻撃ヲ行フ艦ヲシテ敵ノ附近ニ在ル困難ヲ感セシハ隨テ遠距離ヨリ射撃ヲ行フノ止ムヲ得サルニ至ラシメタリ是等ノ理由ハチルソソシテ靜穩ノ天候ニ戰フヲ可ト爲サシメ且ツ遂ニ暴風ノ時ニハ決戰ヲ爲スコト能ハス去リ込又區々ノ小戰ハ開始スルニ足ラストノ意見ヲ抱懷スルニ至ラシメタリ

ネルソソノ見解ハ幾多ノ歴史の例證ノ證明スル所ナリ故ニ若シ歴史ノ例證ヲ基本トスルトキハ現今ト雖モ強風時ノ戰鬪ハ不利ナリト斷定セサルヘカラス然ルニ現時ノ艦船ニ於テハ稍々事情ヲ異ニスルモノアリ從テ亦他ノ戰術的規則ノ制定ヲ促セリ砲ハ大ニ改良ヲ遂ケタルニ拘ラス艦ノ動搖ノ際ニハ今尙ホ容易ニ命中シ難シト雖モ機關ノ力ヲ籍ルトキハ所望ノ距離ニ維持スルハ毫モ難シト爲サス又動搖ノ際戰鬪艦ハ其非裝甲部ヲ露出シ爲メニ其卓質ノ幾分ヲ決ス水雷ノ進行ハ風波ノ際ニハ靜穩ノ天候ニ於ケルカ如ク良好ナラスト雖モ而カモ近距離ニ於テハ充分命中ヲ期スルヲ得ヘシ是ヲ以テ戰鬪ハ強風ノ時ト雖モ尙ホ且ツ決然タルヲ得ヘク特ニ強勢ノ水雷ヲ裝ヘル小艦ハ強風ノ時ヲ擇ヒテ大戰鬪艦トノ出會ヲ索メサルヘカラス戰鬪艦ノ動搖スルトキハ同艦ノ彈丸カ水雷艦ニ命中スルカ如キハ殆ント有り得ヘカラス事ニシテ小艦ヨリ放テル水雷ハ却テ大艦ニ命中スルコトアルヘシ是ニ於テ一ノ戰術的規程ヲ得ルナリ即チ強風ノ時ニハ小艦ヲ以テ大艦ヲ攻撃スルニ利アリ又此時ニハ小艦ヲ以テ編成セル艦隊ハ大艦ヨリ成レル艦隊ト戰鬪ヲ索ムルヲ有益トスルコト是ナリ

尙ホ一ノ問題ヲ講究セン曰ク砲火ハ如何ナル距離ニ於テ開始スヘキ歟從前ノ艦隊司令長官ハ拳銃彈着距離マテ諸艦ノ近接スルニアラサレハ砲火ノ開始ヲ許サ、リシナリ伯德大帝ノ制定シタル律令ニハ彈着距離ニ達セサル前ニ砲火ヲ開始シタル艦長ハ死刑ニ處ストアリ是レ取リモ直サス砲火ノ開始ハ決シテ匆卒ニスヘカラスト云フニ外ナラスシテ斯ノ如キ規定ノ必要ヲ感セシメタル理由多々ナリシナランカ就中其主ナルモノハ砲ノ不完全ナリシト水兵ノ一部ヲ砲側ニ在ラシムルトキハ帆ノ操縦ニ不便ヲ感セシメタルニ坐セスンハアラス然ルニ今ヤ艦ノ進行ニ從事スル者ハ砲手トハ全ク別人ナルノミナラス砲モ亦裝彈照準共ニ大ニ改良ヲ經タルモノナリ交戰諸艦ノ距離拳銃彈着距離ニ達スルトキハ戰鬪ハ水雷戰ニ變スルノ時ニシテ大艦ノ不利トナル時ナレハ近距離ノ戰鬪ヲ主張スル從前ノ規則ハ今ヤ無條件ニ遵奉スヘキモノニアラサルナリ則チ或ル場合ニ於テ又或ル種ノ艦ニ取リテハ遠距離ヨリ射撃ヲ開始スルヲ有利トセサルヘカラス

陣形ニ關シテハ衝角ノ採用以來橫陣若クハ梯陣ハ戰術ノ勸誘スル所ト爲レリ是レ恰モ曾テ羅馬ノ衝角艦カ戰鬪セル状態ヲ摸擬スルノ觀ヲ呈スルモ當時ハ砲ナルモノナク今ハ之アリ故ニ唯其外觀ヲ摸スルニ止マリ未タ全キヲ得サルモノナリ

現今ニ至リ單縱陣ヲ以テ最良ノ陣形ト爲スノ意見ハ普通ニ認ムル所ト爲レリ論者或ハ謂ハン吾人ハ歷史的過去ヲ有スル單縱陣ニ復歸シタルモノナリト然リ吾人ハ事實上該陣形ニ復歸シタルニ疑ナシト雖

モ吾人カ復歸シタルハ同陣形カ曾テ大戰争時代ニ於テ獨リ旺盛ヲ極メタルノ故ニアラス乃チ常識ニ基
キ同陣形カ最能ク現時ノ艦ニ適合スルカ故ニ之ニ復歸シタルナリ

歴史ハ勿論研究セサルヘカラス然レトモ歴史ニ於テ吾人カ著目シテ自己ノ訓誡ト爲スヘキモノハ古人
カ堅忍不拔ノ精神ヲ以テ其目的ヲ貫徹シ又時ノ事情ハ情態ニ依リテ變化極マリナキヲ研究スルニ在リ
歴史モ亦海陸軍ノ事業ハ複雑ヲ極ムルモノニシテ假令其主ナル主義ヲ會得セル者ト雖モ未タ以テ學識
該博ナル海軍々人タルニ足ラサルコトヲ説クモノナリ之カ爲メニハ事態ヲ識別スル爲メ自己ノ腦髓ヲ
練磨スルヲ要スルナリ何トナレハ曾テナポレオンノ謂ヘル如ク戦争ニ於テ事態ハ萬事ヲ左右スルモノ
ナレハ歴史ヲ研究スルニ方リ此事態若クハ事態ノ變化ニ著眼セサルヘカラス

陸軍雜誌ノ某論文中予カ一言ノ以テ後方及根據地ニ及ホサ、ルヲ論難スルヲ見タリ仍テ茲ニ聊カ辯解
スル所アラントス抑モ陸軍ノ軍隊ト海軍ノ軍隊即チ艦隊ト根本的ニ相違スルモノハ陸軍々隊ノ短所ハ
其後方ニ在ルモ海軍ニハ後方ナキニ在ルナリ而シテ軍隊ノ後方ハ根據地トノ連絡ニ由リ軍隊ノ糧食ヲ
司ル輜重ヨリ成ルモノナレハ敵若シ一朝軍隊ヲ回行シテ其後背ニ出ツルハ該軍隊ノ困難名狀スヘカラ
サルモノアリ然ルニ艦ノ輜重ハ各其倉庫内ニ在レハ戰團艦隊ニハ元來後方ナルモノアルナシ故ニ何レ
ノ方面ヨリ敵ノ現出スルモ戰團艦隊ナルモノハ齊シク之ヲ迎フルヲ得ルナリ艦隊ト其根據地トノ連絡

ト爲ルヘキ海面ハ夫レ或ハ其後方ト稱スルヲ得ン歟例ヘハ朝鮮海峽ニ於テ行動スル艦隊ノ爲メニハ同
海峽ト浦潮斯徳トノ間ニ在ル日本海ヲ其後方ト認ムルヲ得ン歟是レ併シ乍ラ戰略的後方即チ戰地ノ後
方ニシテ戰場ノ後方ニアラサルナリ然リ而シテ此後方ヲ掩護シ根據地ト艦隊ノ連絡ヲ安全ナラシメン
トセハ必スヤ海ヲ制御セサルヘカラス此問題ハ艦隊ノ給養ニ關スル問題ト共ニ戰畧ニ屬スヘキモノニ
シテ則チ予カ曩ニ海軍戰術論中一言ノ之ニ論及スル所ナカリシ所以ナリ尤モ海軍ノ事ニ曉通セサル讀
者ノ爲メニハ該論文中予カ後方及根據地ニ關シ論及セサルノ事由ヲ特ニ説明スルノ必要アリタルヤ未
タ知ルヘカラサルナリ

戰術ナルモノハ予カ主張スル如ク果シテ戰勝ノ方法ヲ指示スルコトヲ努ムヘキモノナルヤ否ヤ此學理
の問題モ亦或ル論者ノ否認スル所タルカ故ニ之ニ對シ一應ノ説明ナカルヘカラス抑々戰術ナルモノハ
實地之ヲ應用センカ爲メニ編出セラル、コト又戰團ノ唯一ノ目的ハ敵ヲ擊破スルニ在ルコトハ昭々ト
シテ日ヲ見ルカ如ク少ノ疑團ヲ挾マサルナリ戰術ハ之ヲ實行スルノ方法ヲ授クルモノニシテ未タ有ラ
ユル場合ニ對シ正確ノ示教ヲ授クルマテ完全ナルニアラスト雖モ而カモ幾多ノ有益ナル勸告ヲ爲シ能
フモノナリ或ハ又斯ル勸告タニ爲シ能ハサル場合ニ於テハ諸般ノ研究ヲ爲スニ止メ以テ各自ヲシテ臨
機ノ處決ヲ爲スノ資ニ供スルモノナリ詮スル所凡ソ戰術ニ於テ陳述スル事項ハ直接間接ニ戰勝方法ノ

示教ニ外ナラサルナリ

此根本的問題ノ解釋如何ニ由リ其關係ヲ及ホス所頗ル廣大ナリ吾人一タヒ戰術ハ戰鬪ニ就キテノ學問ナルコト并ニ戰術ノ本領ハ鬪ニ勝ツノ方法ヲ示教スルニ在ルコトヲ是認スルニ於テハ凡ソ戰勝ヲ來スヘキモノニシテ今尙ホ他ノ學科中ニ入ラサルモノハ戰術ヲシテ之ヲ擔任セシムヘキコトヲ認メサルヘカラサルナリ例ヘハ精神的原素ニ關スル問題ノ如キ全ク特殊ノ科目タルニ拘ラス今ハ戰術ノ主管ニ屬セルカ如キ是レナリ他日若シ獨立ノ軍事心理學ナルモノ起ルアラハ精神的原素ニ關スル問題ハ該専門學ノ專攻スル所トナルヘク其時ニ至ラハ戰術ハ其詳細ニ涉ルコトヲ爲サス唯軍事心理學ノ斷案ヲ應用スルニ止ムルニ至ラン又特ニ海軍ニ關シテ謂ハ、夫ノ運用術及信號術ノ如キ現ニ戰術ノ擔任スル所ナルハ一ニ該術ノ今尙ホ獨立ノ學科タルニ至ラス若シクハ爾他現存ノ學科ニ入ラサルニ由ルモノナリ曩ニ予カ海底電線切斷ノ方法ヲ戰術中ニ編入シタルモ亦海軍實踐科中未タ同問題ノ講究ヲ擔任スルモノナキニ職由スルモノナリ

海軍戰術論中ニ予ハ軍隊ニ於ケル精神的原素ノ重大ナルコトニ關シ諸名家ノ意見ヲ引用シテ特ニ其海軍ニ於テ最モ重視スヘキヲ論セリ然ルニ斯ノ如キ予ノ見解ハ陸軍記者ノ論難スル所ト爲レリ予ハ茲ニ豫メ一言シ置カサルヘカラサルモノアリ即チ予ハ曾テ陸戰ニ在リテハ精神的原素ノ影響微弱ナルヲ唱

道セントシタルコトナキノ一事是ナリ予ハ從來斯ク兵器ニ屬スル人士間ノ相互ノ尊敬ヲ最モ尊重スル者ニシテ陸戰ハ陸軍士官カ自ラ想像スル如ク困難ナルモノニアラスト謂フカ如キ說ヲ敢テ公然發表スルヲ憚カラサル者ニアラサルナリ之ヲ公言スルハ取モ直サス軍隊ニ對スル尊敬ヲ破毀セントスルニ異ナラスシテ軍隊艦隊若クハ其部隊ニ對スル尊敬ヲ減却セントスルハ予カ認メテ以テ軍事記者タルノ威嚴ヲ汚瀆スルト爲スモノナリ予ハ反復確言ス予ハ決シテ陸地ニ於ケル戰爭ノ困難ノ程度ヲ輕視セント欲シタルニアラサルナリ然レトモ機關ニ進行ヲ與フルハ兩足ニ進行ヲ與フルニ比シ決シテ容易ナルニアラサルコト并ニ自ラ前進スルニ勇氣ヲ要スルトセハ機關ニ進行ヲ與フルニ勇氣ハ欠クヘカラサルノ要素タルコトヲ記憶セサルヘカラス

現時諸艦ノ機關室ハ閉鎖シ又或ル種ノ軍艦ニ於ケル焚火室ハ強壓通風ヲ行フカ爲メニ密閉スルモノアリ又艦ノ下層ニ在ル人員ハ雷ニ何事ノ上層ニ發生スルヤヲ知ラサルノミナラス尙ホ普通ノ人間世界ヲ見サルナリ然カモ轟然タル砲聲ハ彼等ノ耳朶ヲ驚カシ彼等ハ又々歷然水雷ノ爆發スルヲ聞ク水雷ノ爆發ハ假令遠距離ニ於テ生スルモ其都度艦體ノ震動ヲ惹起スルモノナレハ之ヲ識別スルハ敢テ難キニアラサルナリ彼等ハ實ニ彼等ト海水トヲ離隔スル薄キ舷面ノ傍ラニ何レノ時ニカ水雷ノ來リテ爆發シ爲メニ彼等カ職務ニ執掌スル局部ハ忽チ海水ノ充滿スル所ト爲ルヲ始終覺悟セサルヘカラス又現今ノ如キ怖ルヘキ壓力ノ下ニ在ル瀆管及汽罐ノ危險ナルハ尙ホ一層甚シキモノアリ偶々敵彈ノ瀆管ヲ破壊ス

ルアラハ此破壊ノ生シタル局部ニ居合セタル者ニシテ一生ヲ全クシ得ル者恐ラク一人モ之ナカラン既ニ戰鬪艦「ブランデンブルヒ」ノ罹災ノ際ニ三十人中一人ノ生存シタル者ナカリシニアラスヤ機關部員ノ境遇ハ如何ナルモノナルカ又此耐ヘ難キ境遇ニ伴ヒテ始終水中ニ溺死スルニアラサレハ蒸氣ノ爲メニ窒息スルノ危懼ヲ忍耐スル其苦心ノ一斑タリトモ之ヲ知ラント欲スル者ハ須ラク現時ノ軍艦ノ全速力進行中親シク其機關室ニ臨マサルヘカラス境遇ノ慘憺タル夫レ斯ノ如クナルニ拘ハラズ艦ハ戰鬪中ニ要スル全速力ヲ開發シ艦員ハ自若トシテ其職務ニ服セサルヲ得サルナリ例ヘハ各部ニ油ヲ注入スルコトヲ忘却スヘカラス否ラサレハ其一部ニ熱ヲ起シ爲メニ機關ノ運轉ヲ中止スルニ至ラン各汽罐ノ給水ヲ檢視セサルヘカラス而シテ或ル艦ニ在リテハ汽罐ノ員數五十基ニ達スルモノアリ而カモ之ヲ怠慢ニ附シ去ランカ水ハ脱出シ汽罐ハ破裂ヲ免カレサルヘシ石炭ヲ投入シ速力ノ遲速ニ從ヒ通風ノ程度ヲ調整セサルヘカラス否ラサレハ汽壓ノ低落ヲ來スヘシ時々石炭庫ヨリ石炭ヲ運ハサルヘカラス而カモ一時間ニ費消スル石炭ノ量ハ千「ブード」ニ達ス其他尙ホ局部ニ點燈セサルヘカラス而シテ燈油ヲ用フルトキハ遠距離ニシテ無害ナル爆發ノ生スルアルモ之カ爲メ消滅スルノ不便アルニ依リ今ヤ電氣燈ヲ採用シ發電器ヲ運轉シ且ツ之ヲ監視セサルヘカラサルナリ

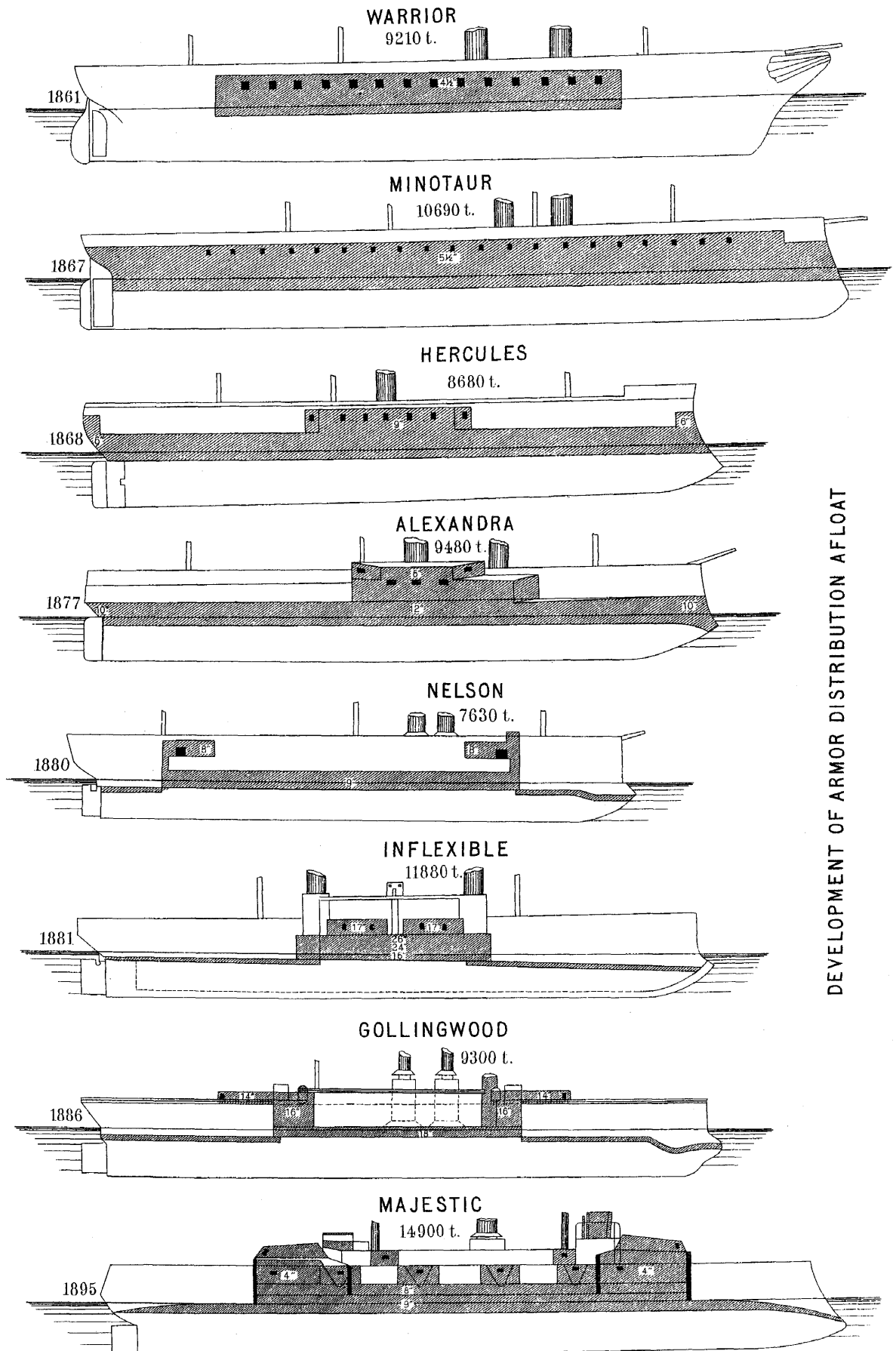
以上ハ機關ヲ運轉スル爲メニ要スル動作ノ概畧ヲ示スニ過キスシテ戰鬪中ハ未タ之ヲ以テ足レリトセス即チ射撃ヲ行フノ必要アリ而シテ之カ爲メニハ電氣起重器ヲ以テスル彈丸ノ送達裝彈等射撃ノ上ニ

複雑ナル動作ヲ要スルモノアリ目的物ニ至ル距離及目的物其モノハ艦隊戰鬪中極メテ速足ニ變更シ射撃ヲシテ正鵠ナラシメンニハ砲架ノ整理、距離ノ測定及其傳達ニ從事スル各機關ノ行動泰然自若タラサルヘカラス否ラサルトキハ射撃ハ敵艦ヲ害スルヨリ味方ノ諸艦ヲ害スルコト一層著大ナルヘシ（味方ノ諸艦ハ近距離ニ在カ故ニ）水雷射撃ニ關スル團體ノ行動モ又前者ト齊シク整然タラサルヘカラス其他尙ホ全艦ノ通風、巨砲ノ水壓器モ整頓セサルヘカラス就中艦ノ運轉ノ際ニハ靜肅ヲ守ルヲ以テ最モ緊要トス

以上陳述シタル所ヲ以テ吾人カ謂ハント欲スルモノハ他ニアラス即チ一言以テ機關ヲ運轉スト謂ハ、極メテ無雜作ニ似タリト雖トモ戰鬪ノ狀態ニ於テ之ヲ爲スハ容易ノ業ニアラス且ツ戰鬪中艦ノ行動ヲシテ効果ヲ收メシムルニハ艦員ノ德性極メテ高尚ナラサルヘカラサルコト是レナリ陸軍ニ於テモ亦高尚ノ德性ヲ要スルハ毫モ疑ヲ容レサルナリ若シ夫レ海陸軍ノ德性優劣問題ノ如キハ無要ノ問題トシテ茲ニ論スルノ價値ナキモノトス

海軍戰術論
終

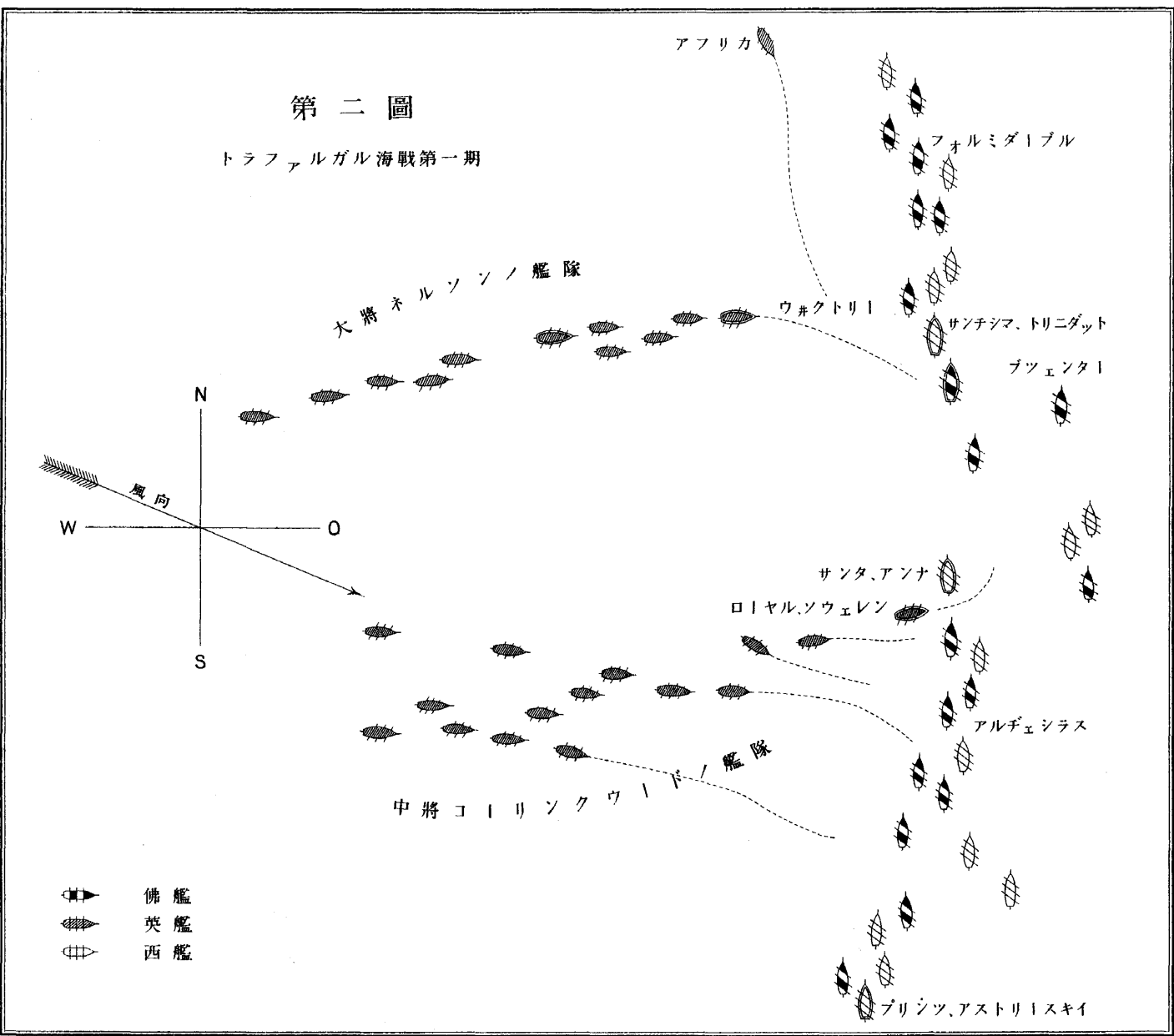
第一圖



DEVELOPMENT OF ARMOR DISTRIBUTION AFLOAT

第二圖

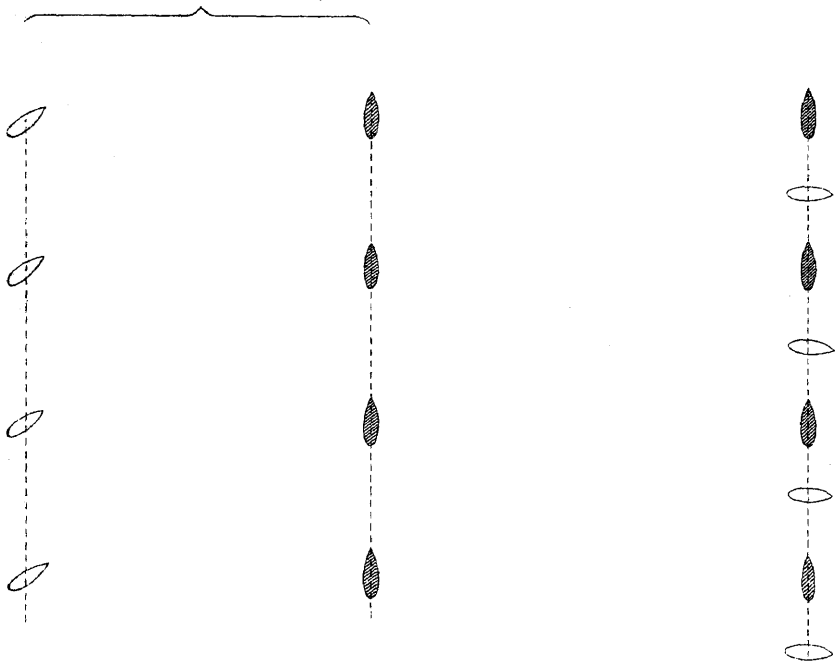
トラファルガル海戦第一期



第三圖

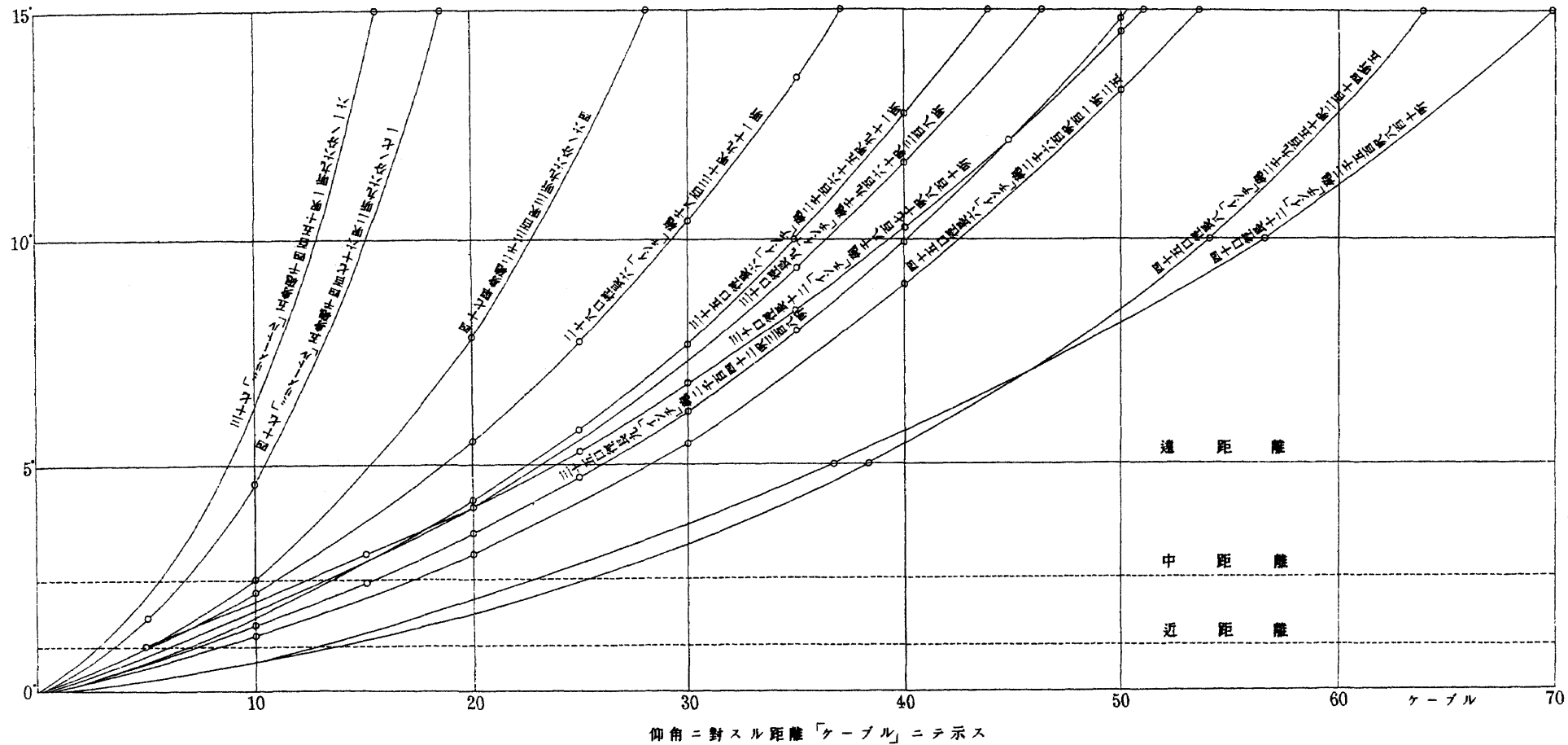
第一期

第二期



第四圖

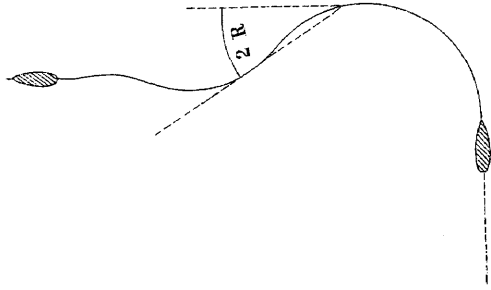
彈丸ノ飛行距離ト仰角トノ關係



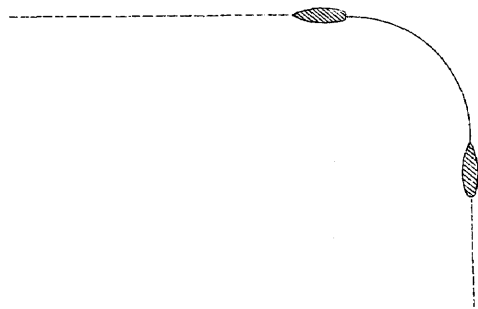
第五圖

艦ヲ一杯ニ取リタル際左ノ號令ヲ發シタル時ノ艦ノ航路

一
ロ
候
宜



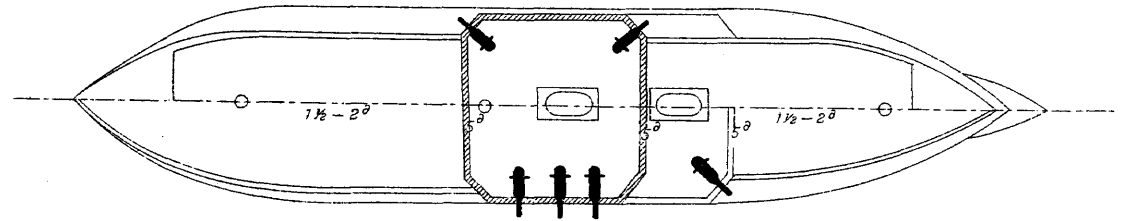
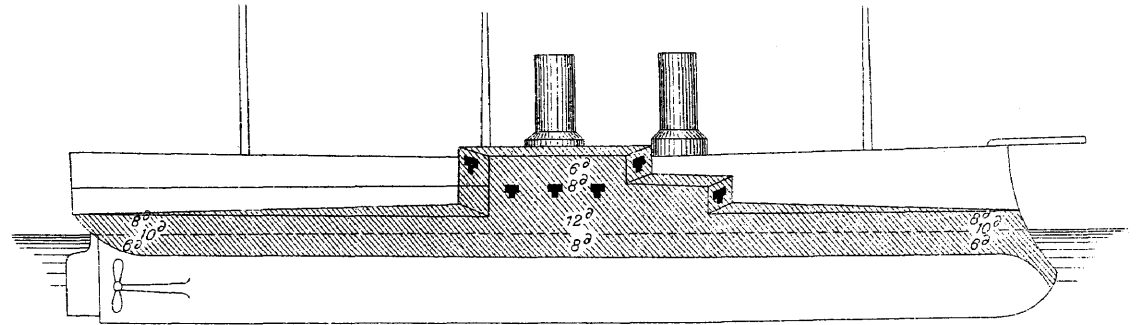
一
セ
戻



第六圖

甲鐵板ニ對シ有利ナル針路ノ説明

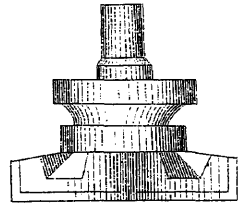
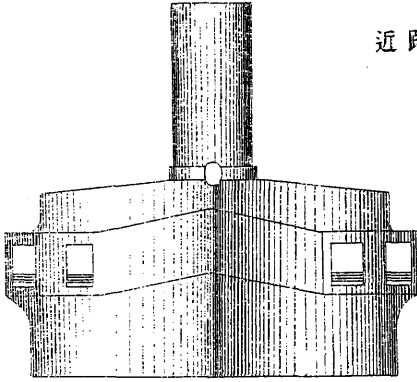
アレクサンドラ



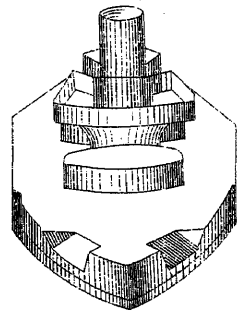
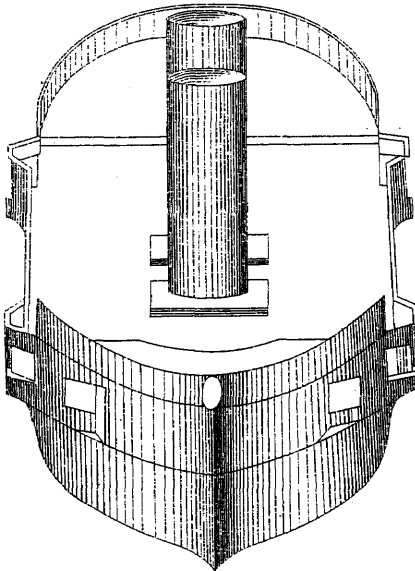
第七圖

彈丸落下角度ニ對スル艦ノ形体

近距離ニ於テ

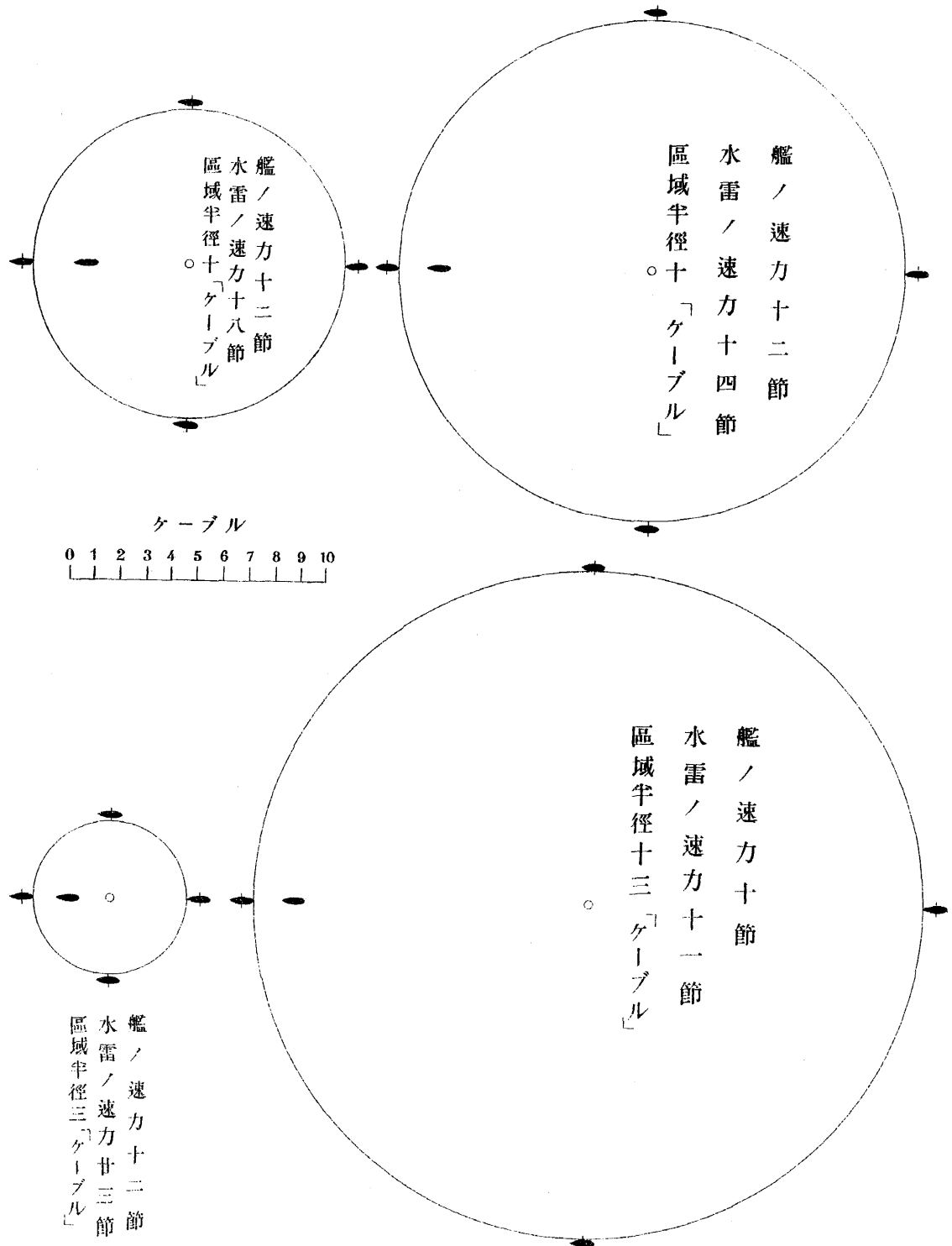


遠距離ニ於テ



第八圖

種々ノ場合ニ於ケル水雷ノ行動區域

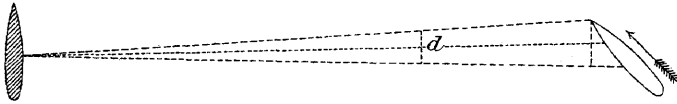


○ 發射ノ瞬間發射スル艦ノ位置

● 水雷ノ行動全區域ヲ通過シタルトキノ同上

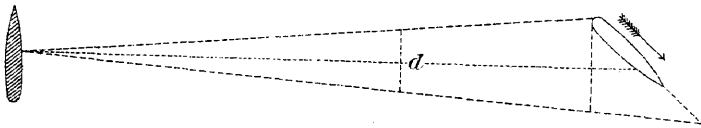
第九圖

有效偏倚角度ニ及ボス敵ノ速力及方向ノ影響



水雷ノ速力二十五節

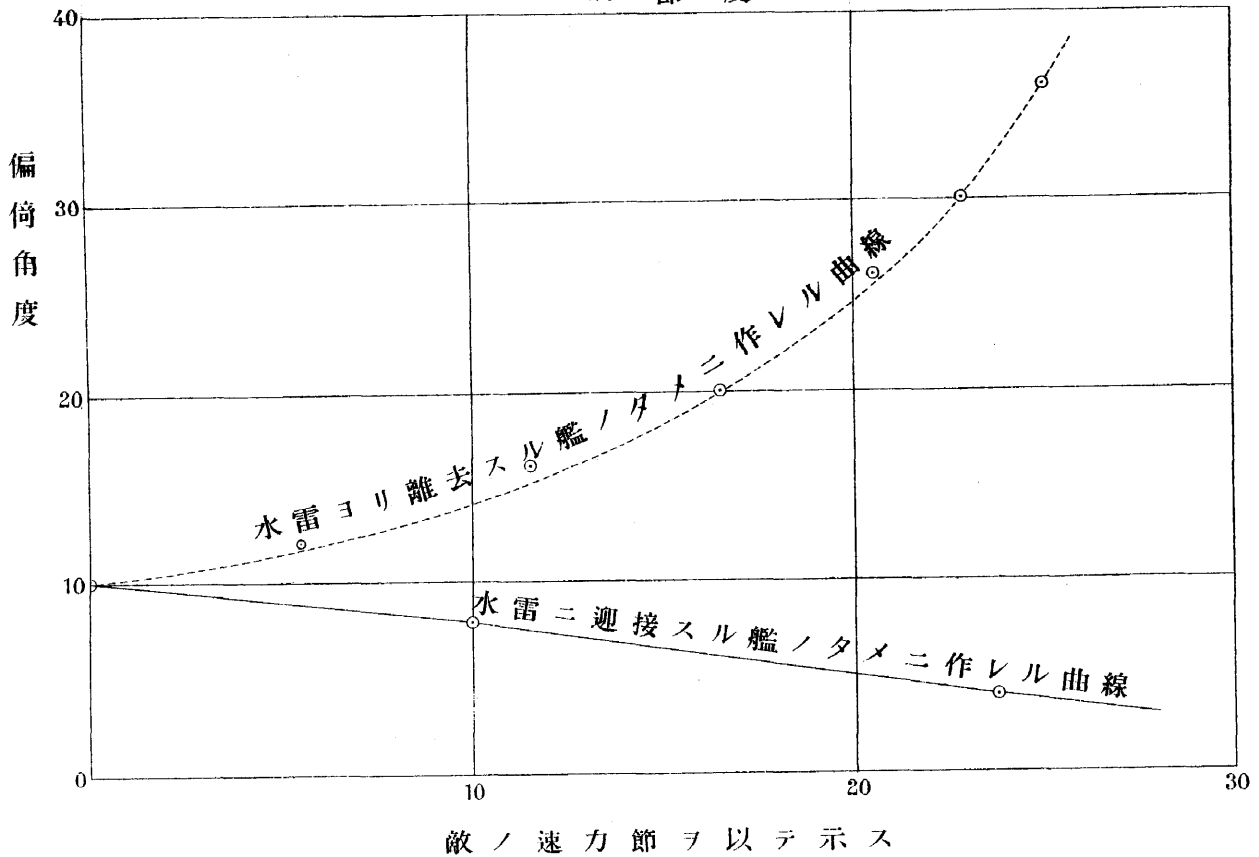
敵ノ速力二十五節



第十圖

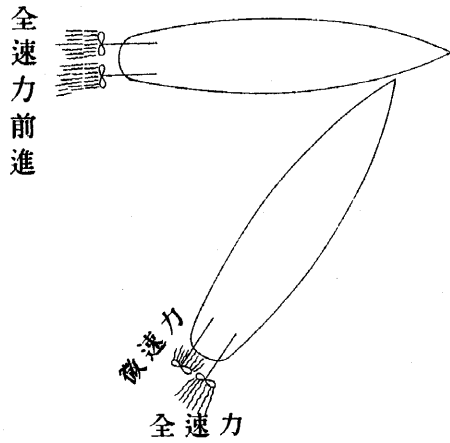
有效偏倚角度ニ及ホス敵ノ速力及方向ノ影響

左ノ條件ヲ以テ作リタル曲線
 艦ノ長サ 三百呎
 水雷マテ艦ニ衝突スル角度 四十五度
 水雷ノ速力 二十四節
 敵マテノ距離 千二百呎

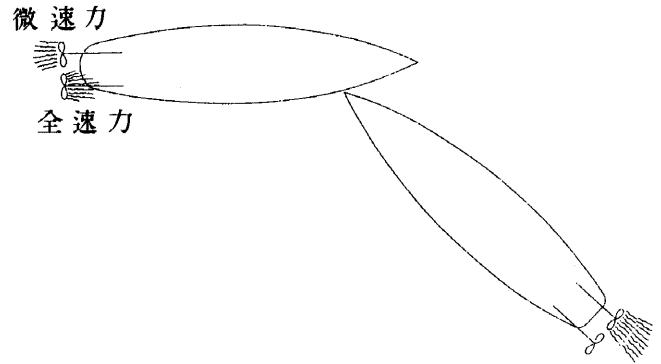


種々ノ場合ニ於ケル衝角打撃ノ際機關ノ作用

第十一圖

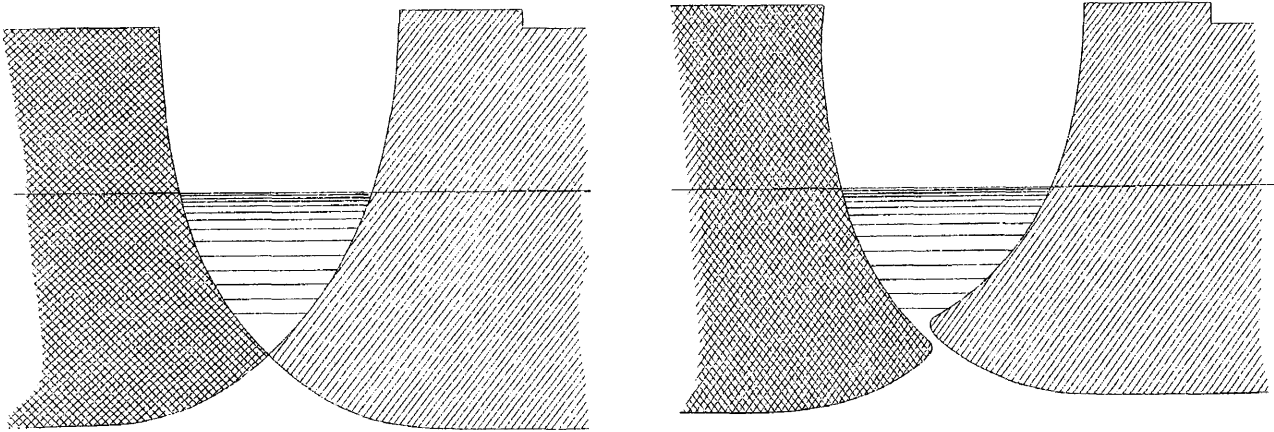


第十二圖



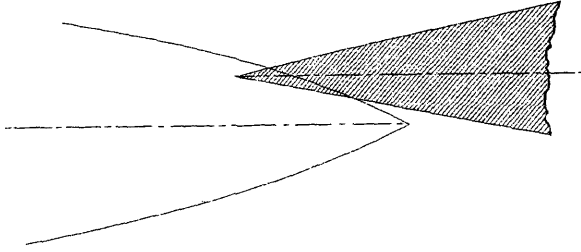
第十三圖

互ニ衝角ヲ以テ衝突スル問題ニ關ス



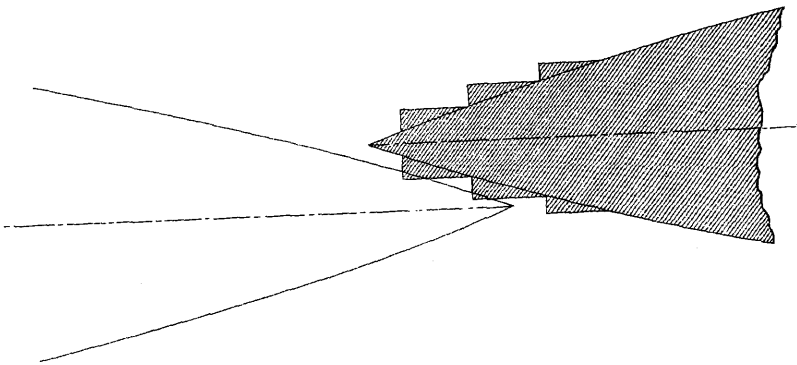
第十四圖

衝角ヲ以テ衝突ノ結果ニ及ホス頭端
銳鈍ノ影響



第十五圖

衝角ノ改良



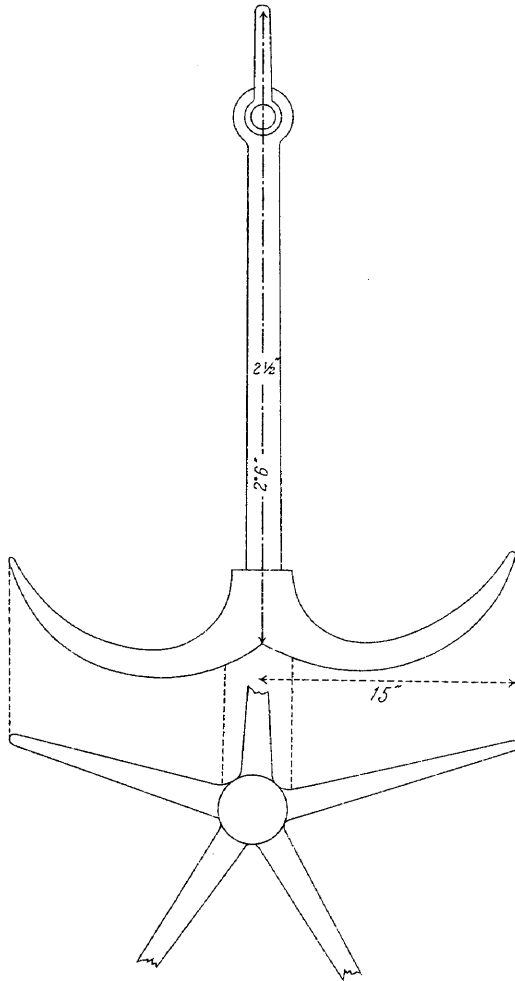
第十六圖

海底電線引揚ノ汽船



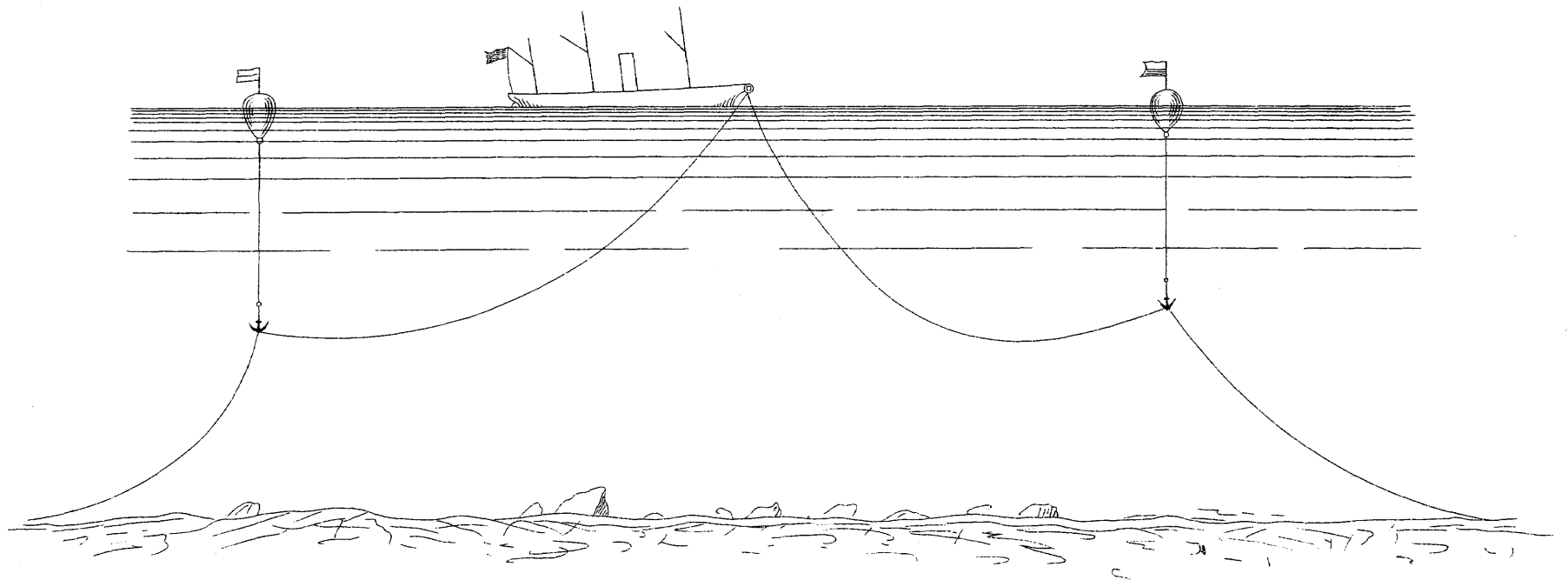
第十七圖

海底電線引揚用ノ錨



第十八圖

深所ニ於ケル海底電線ノ引揚方

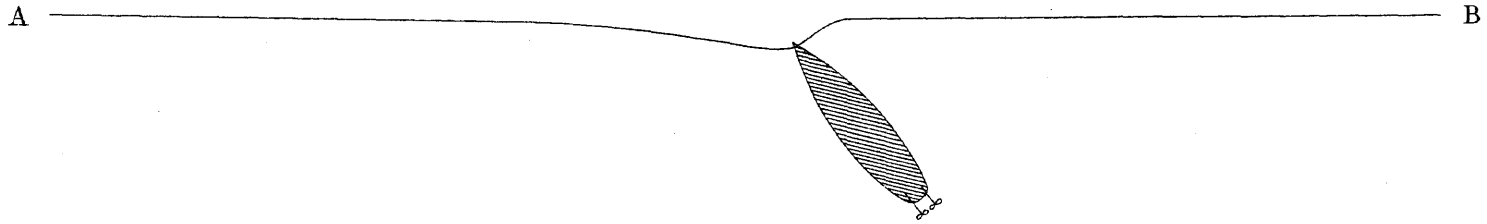


第十九圖

海底電線ノ切断

第一期

電線ヲ甲板上ニ引揚ゲ之ヲ緊着シタル後チ A ノ方向ニ於テ何レノ所ニ於テ欵切断スル爲メ汽船ヲ後進セシム



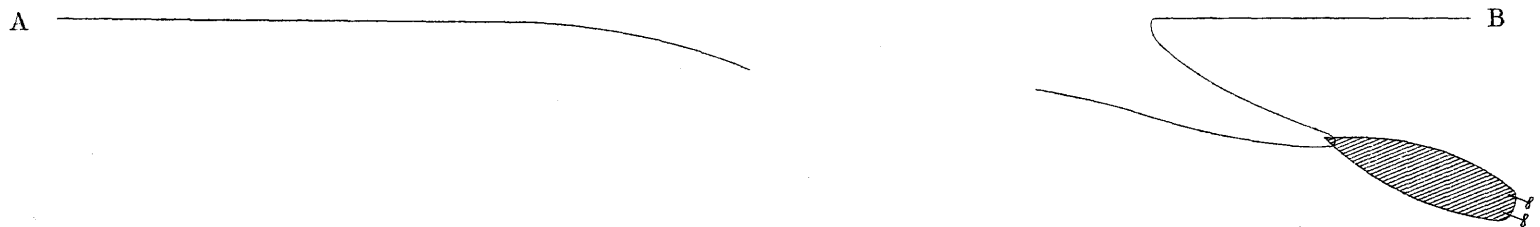
第二期

汽船ハ電線ヲ切断シタル後チ向ホ B ノ方向ニ於テ更ニ之ヲ切断スル爲メ後進ヲ継続ス



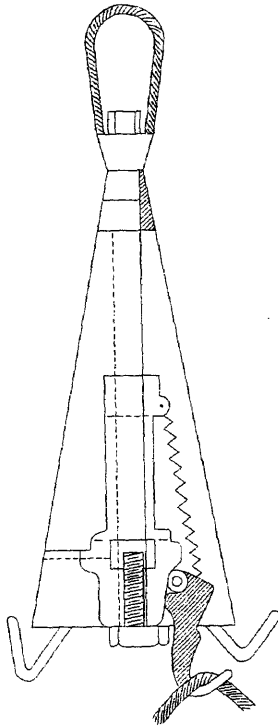
第三期

汽船ハニケ所ニ於テ電線ヲ切断シタル後チ断片ヲ他方ヘ引キ行ク



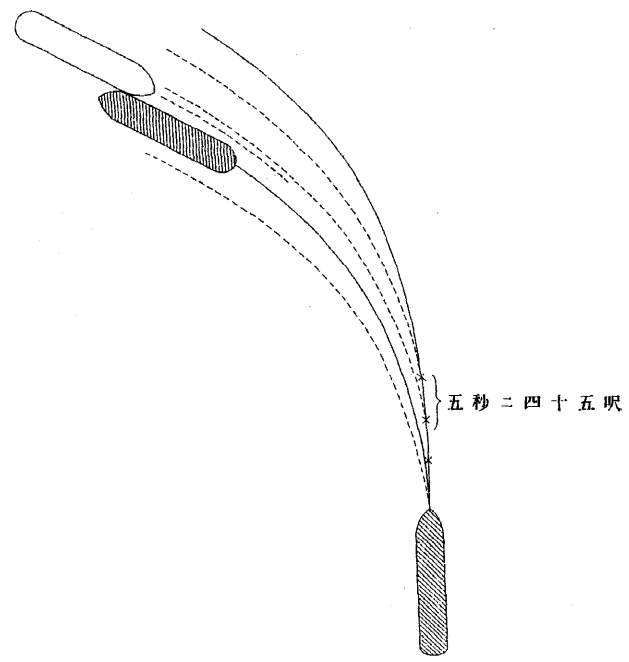
第二十圖

改良引揚錨

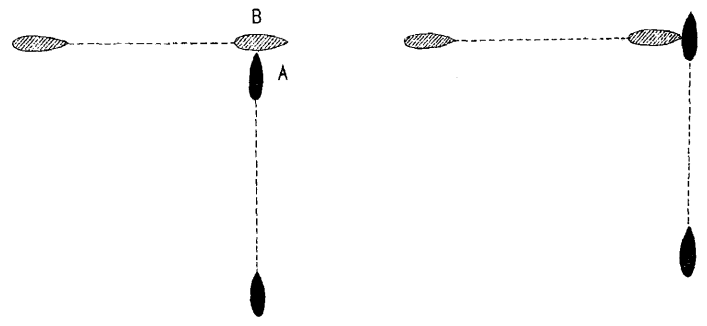


衝角戦闘ニ於テハ一秒ヲ争フヘキ問題ニ關ス

第二十一圖

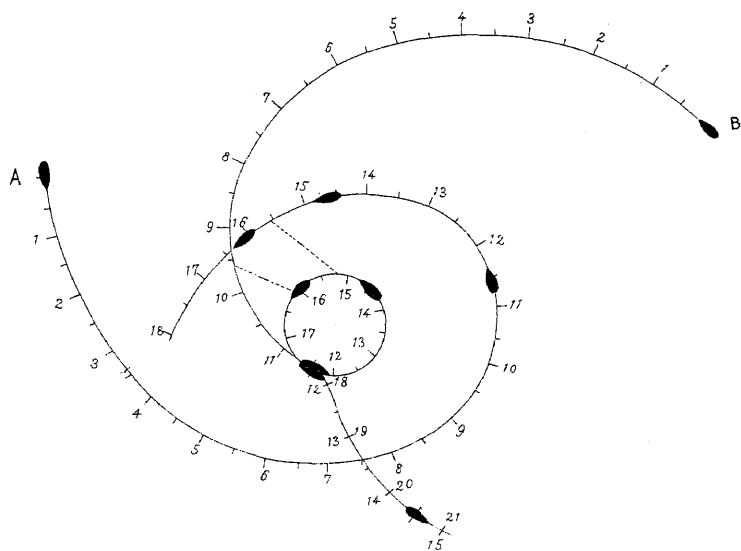


第二十二圖



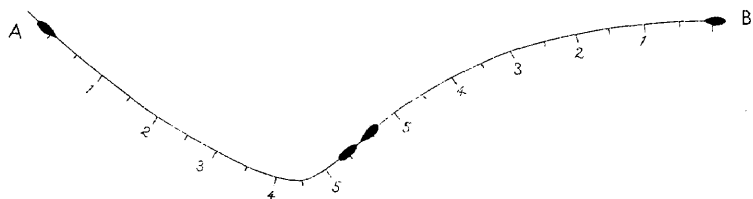
第二十三圖

A 艦ハ 敵ヲ 其正横ニ 有シ B 艦ハ
之ヲ 其艦背ニ 有スル 單獨ノ 戦闘



第二十四圖

A 艦ハ 最初 敵ヲ 其艦首ニ 有シ B 艦ハ
一直線ニ 之ニ 對スル 單獨ノ 戦闘



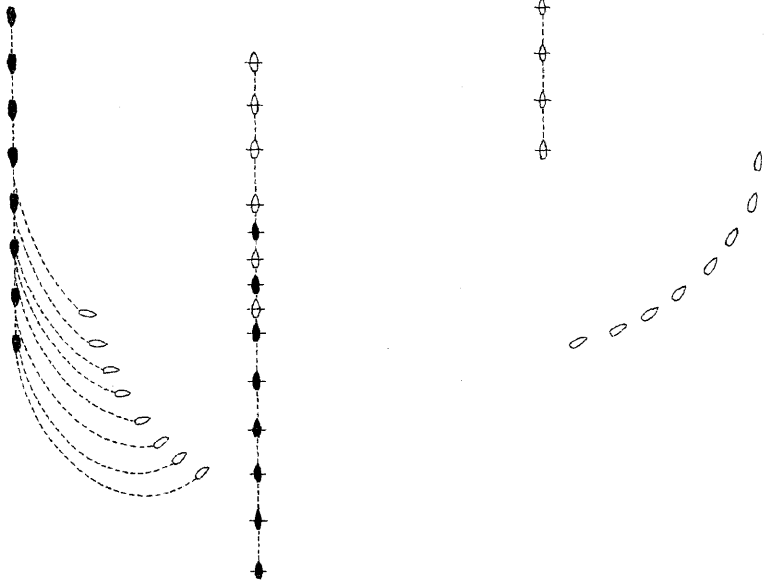
第二十五圖

敵艦隊後尾ノ襲撃

第一分

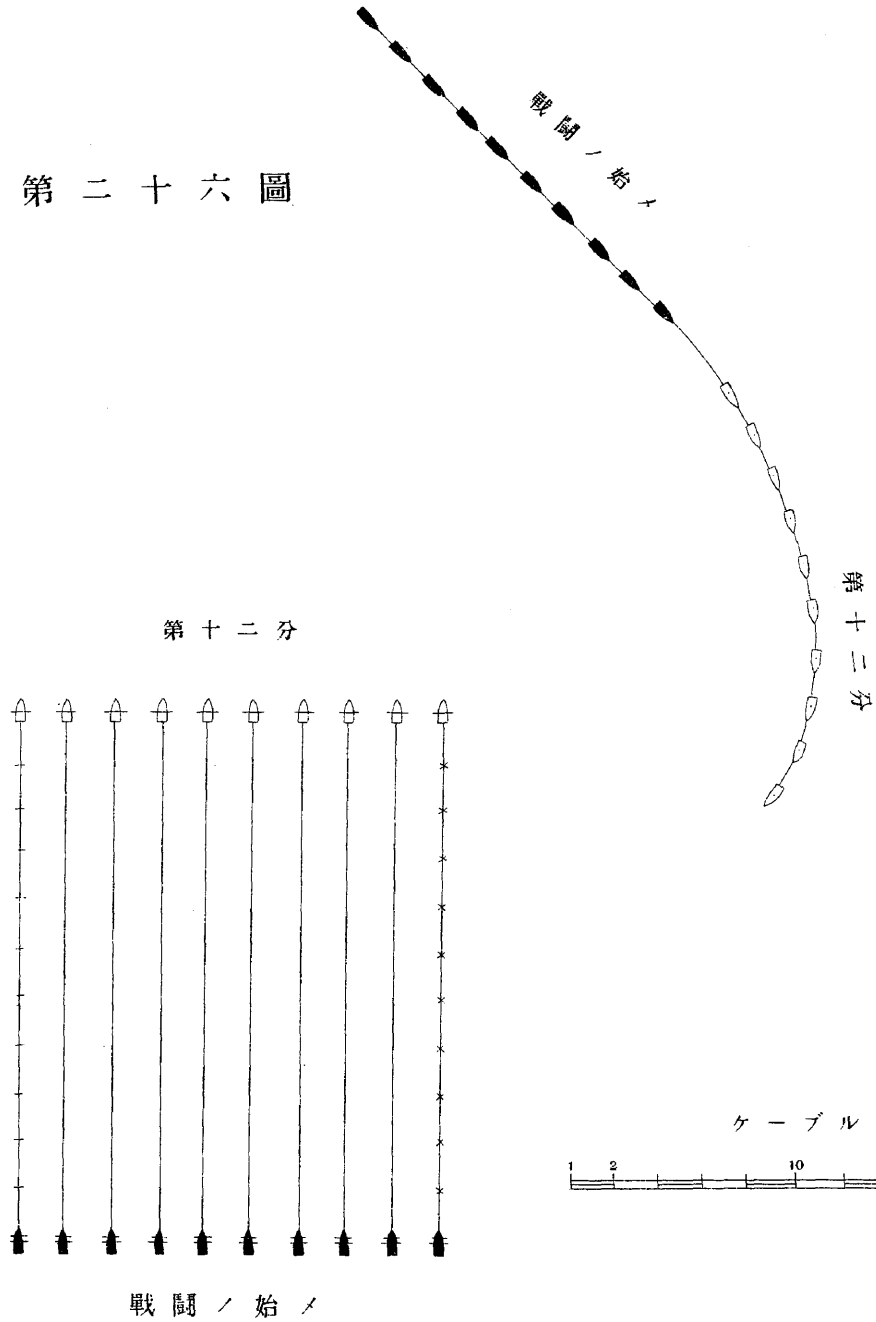
第七分

第十七分

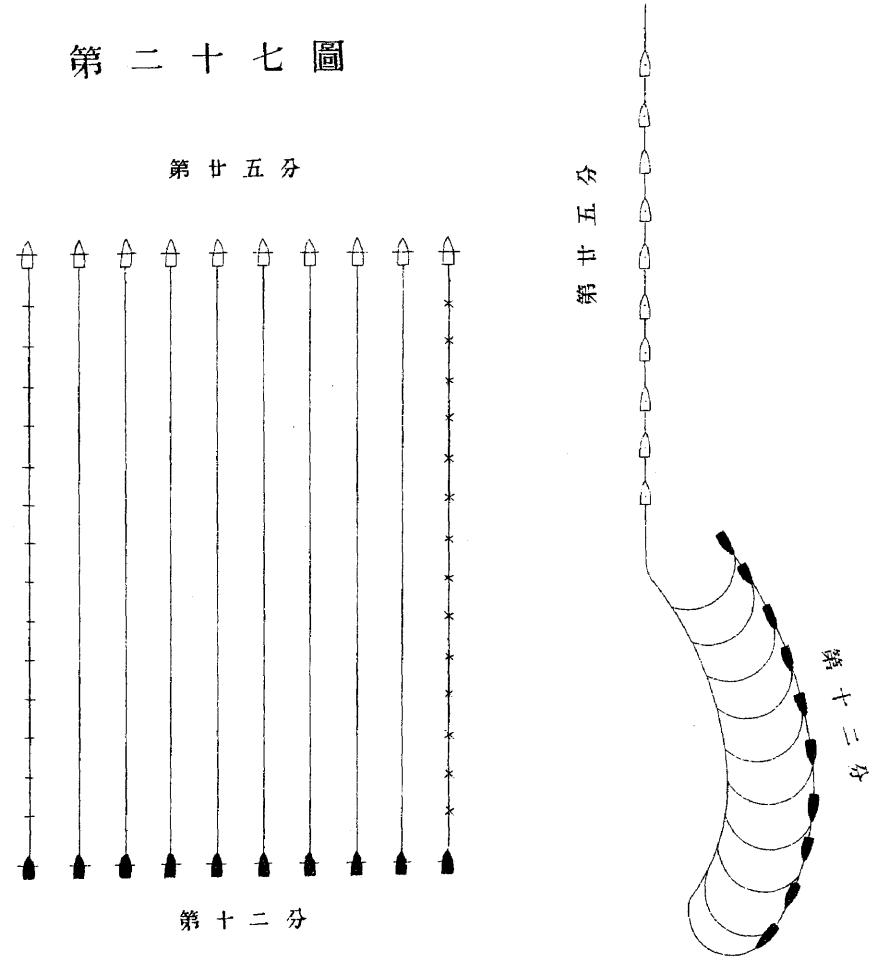


翼ノ包圍

第二十六圖

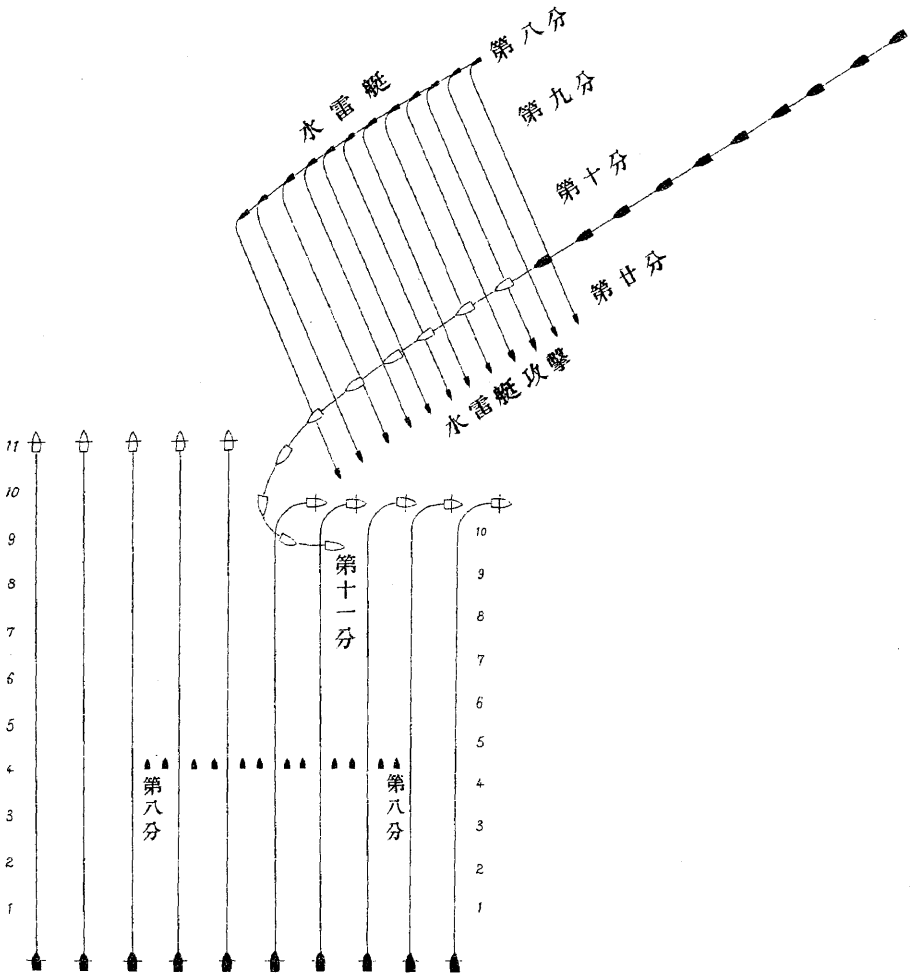


第二十七圖



第二十八圖

敵艦隊一部ノ切断



明治三十二年十二月五日印刷
明治三十二年十二月十五日發行

發行者

海軍省

東京市京橋區築地三丁目十五番地

印刷者 野村宗十郎

東京市京橋區築地二丁目十七番地

印刷所 株式會社東京築地活版製造所